

ア女基 99-4

2000年3月

# 『援助交際』に対する成人男性の 意識と背景要因

研究代表者 福富 譲  
(東京学芸大学教授)

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金

無断転載を禁じます。

(財)女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）  
2000年3月発行

この報告書は、アジア女性基金が東京学芸大学教授、福富 乾先生を代表とする研究グループに委託した調査研究の報告です。

## 目次

### 第Ⅰ部 調査結果の概要

1. 『援助交際』に対する態度や経験 ······	1
2. 売買春に関する意識と経験 ······	9
3. 『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の背景要因 ······	14
〔環境的背景〕 ······	14
〔行動的特徴〕 ······	20
〔心理的背景〕 ······	23
〔意識的側面〕 ······	32
4. 男女平等意識と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験 ······	43

### 第Ⅱ部 調査結果

第1章 研究目的と実施状況 ······	47
第1節 研究の目的 ······	47
第2節 調査の枠組み ······	48
第3節 調査の実施状況 ······	50
1. 調査地域と標本抽出方法 ······	50
(1) 調査地域 ······	50
(2) 調査対象者 ······	50
(3) 標本抽出方法 ······	50
2. 調査方法と期間 ······	50
(1) 調査方法 ······	50
(2) 調査実施期間 ······	50
(3) 調査実施機関 ······	50
3. 調査数と回収数 ······	50
(1) 調査数 ······	50
(2) 有効回収数と未回収票の内訳 ······	50
第4節 回答者の構成 ······	51
1. 回答者の基本属性 ······	51
2. 回収時期別の分析 ······	53
3. 本報告書の表記について ······	54
第2章 『援助交際』に対する態度や経験 ······	55
第1節 『援助交際』に対する抵抗感 ······	55
1. 項目の構成 ······	55
2. 成人男性の『援助交際』に対する抵抗感 ······	56
3. 『援助交際』に対する抵抗感同士の関係 ······	57
4. 『援助交際』に対する抵抗感の尺度化 ······	58
5. 『援助交際』に対する抵抗感のまとめ ······	58
第2節 『援助交際』に対する態度 ······	59
1. 項目の構成 ······	59

2 . 『援助交際』に対する態度について ······	59
3 . 『援助交際』に対する態度のまとめ ······	62
<b>第3節 『援助交際』の経験 ······</b>	<b>63</b>
1 . 『援助交際』経験の実態 ······	63
2 . 『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動の経験 ······	64
3 . 『援助交際』の経験のまとめ ······	65
<b>第4節 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度 ······</b>	<b>66</b>
1 . 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度との関連 ······	66
2 . 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』周辺行動経験との関連 ···	69
3 . 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度の構造的分析 ······	70
4 . 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度のまとめ ······	72
<b>第3章 売買春に関する意識と経験 ······</b>	<b>73</b>
<b>第1節 経験 ······</b>	<b>73</b>
1 . 買春にかかわる経験の実態 ······	73
2 . 年齢別にみた買春関連経験 ······	74
3 . 『援助交際』に対する抵抗感別にみた買春関連経験 ······	74
4 . 買春経験に基づく群分け ······	74
5 . 買春経験有無と『援助交際』に対する抵抗感（お茶・性交） ······	75
<b>第2節 意識 ······</b>	<b>76</b>
1 . 売買春に対する意識の実態 ······	77
2 . 年齢別にみた売買春意識 ······	78
3 . 『援助交際』に対する抵抗感別にみた売買春意識 ······	78
4 . 買春経験別にみた売買春意識 ······	78
5 . 数量化理論第III類の結果 ······	80
6 . 買春許容意識尺度の作成とその分析 ······	81
<b>第3節 売買春に関する意識と経験のまとめ ······</b>	<b>83</b>
<b>第4章 『援助交際』態度や買春経験の背景要因 ······</b>	<b>84</b>
<b>第1節 環境的背景 ······</b>	<b>84</b>
1 . 基本的属性 ······	84
(1) 学歴 ······	84
(2) 階層帰属意識 ······	85
2 . 家庭環境 ······	85
(1) 妻や恋人の有無 ······	85
(2) 妻との同居別・妻の職業 ······	88
(3) 子どもの有無 ······	88
(4) 一人暮らし ······	90
3 . 家族の絆 ······	91
(1) 妻との情緒的絆 ······	91
(2) 家族との情緒的絆 ······	94
(3) 家族との接触 ······	98

4. 職場環境	100
(1) 職業	101
(2) 職場での適応	101
5. 環境的背景のまとめ	102
(1)『援助交際』に対して抵抗感をあまり感じない男性の特徴	102
(2)買春経験者の特徴	102
(3)家庭や職場から男性を買春に駆り立てるもの	103
第2節 行動的特徴	103
1. 関心や情報行動	103
(1)流行関心や情報行動	103
(2)接触情報媒体	104
2. 反規範的行動	109
(1)ギャンブルや些細な違法行為の経験率	109
(2)反規範的行動の構造	110
(3)『援助交際』や買春との関連	112
3. 行動的特徴のまとめ	112
第3節 心理的背景	113
1. 充実感・自己存在感のなさと生きがい	113
(1)質問項目について	113
①充実感・自己存在感のなさ	113
②現代男性が充実感を感じる事柄	114
(2)各項目と年齢、『援助交際』に対する抵抗感の強弱、 および買春経験との関連	116
①各項目と年齢層との関連	116
②各項目と『援助交際』に対する抵抗感との関連	116
③各項目と買春経験との関連	118
(3)尺度の作成過程	119
①尺度作成	119
②尺度得点分布	120
③充実感、自己存在感のなさと『援助交際』に対する 抵抗感、買春経験との関連	121
(4)男性の生きがい	122
(5)充実感・自己存在感のなさのまとめ	124
2. ミーイズム	124
(1)尺度項目	125
(2)尺度の構成の確認	127
(3)尺度の信頼性	128
(4)尺度得点について	128
(5)『援助交際』に対する抵抗感・買春経験とミーイズム	133
(6)ミーイズムのまとめ	135

3. ぬくもり希求	135
(1) ぬくもり希求の実態	136
(2) 年齢層別にみたぬくもり希求	136
(3) 『援助交際』に対する抵抗感別にみたぬくもり希求	137
(4) 買春経験別にみたぬくもり希求	137
(5) ぬくもり希求尺度作成とその分析	138
(6) ぬくもり希求のまとめ	140
4. 対人的スキル	140
(1) 尺度項目	141
(2) 尺度の構成の確認	142
(3) 尺度の信頼性	143
(4) 尺度得点について	143
(5) 『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と対人的スキル	144
(6) 対人的スキルのまとめ	145
5. 精神的健康尺度	146
(1) 尺度項目	146
(2) 尺度の構成の確認	147
(3) 尺度の信頼性	149
(4) 尺度得点について	149
(5) 『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と精神的健康	150
(6) 精神的健康尺度のまとめ	151
第4節 意識的側面	152
1. 性をめぐる意識	152
(1) 性に対する意識	152
①性に対する意識の実態	152
②年齢別にみた性に対する意識	153
③『援助交際』に対する抵抗感別にみた性に対する意識	153
④買春経験別にみた性に対する意識	153
⑤性への興味・関心尺度作成とその分析	154
(2) 男性の性	156
①男性の性に対する意識の実態	156
②年齢層別にみた男性の性に対する意識	157
③『援助交際』に対する抵抗感別にみた男性の性に対する意識	157
④買春経験別にみた男性の性に対する意識	158
(3) 性欲の強さ	159
①性欲を感じる程度の実態	159
②年齢層別にみた性欲の強さ	160
③『援助交際』に対する抵抗感別にみた性欲の強さ	160
④買春経験別にみた性欲の強さ	160
(4) 性をめぐる意識のまとめ	161

2. 女性に対するイメージ	161
(1) 女性に対するイメージの実態	162
(2) 年齢層別にみた女性に対するイメージ	163
(3) 『援助交際』に対する抵抗感別にみた女性に対するイメージ	163
(4) 買春経験別にみた女性に対するイメージ	163
(5) 女性に対するイメージのまとめ	164
3. 女子高校生に対する意識	164
(1) 女子高校生に対する意識の実態	164
(2) 年齢層別にみた女子高校生に対する意識	165
(3) 『援助交際』に対する抵抗感別にみた女子高校生に対する意識	166
(4) 買春経験別にみた女子高校生に対する意識	166
(5) 女子高校生性的魅力尺度作成とその分析	167
(6) 女子高校生に対する意識のまとめ	169
4. 男性性希求	169
(1) 男性性希求の実態	169
(2) 年齢層別にみた男性性希求	170
(3) 『援助交際』に対する抵抗感別・買春経験別にみた男性性希求	170
(4) 男性性希求のまとめ	170
5. 人権意識・偏見	171
(1) 人権意識	171
①人権意識の実態	171
②年齢層別にみた人権意識	172
③『援助交際』に対する抵抗感別・買春経験別にみた人権意識	172
④人権意識尺度作成とその分析	172
(2) 偏見	174
①偏見の実態	174
②年齢層別にみた偏見	175
③『援助交際』に対する抵抗感別にみた偏見	175
④買春経験別にみた偏見	176
(3) 人権意識・偏見のまとめ	176
第5節 男女平等意識	177
1. 性差別認識	178
(1) 尺度項目について	178
(2) 尺度の構成の確認	179
(3) 尺度得点について	180
(4) 『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と性差別認識	180
2. 女性の自立への関心	180
(1) 尺度項目について	180
(2) 『援助交際』に対する抵抗感、買春経験と女性の自立への関心	181
3. 社会生活における男女平等規範	182

(1) 尺度項目について	182
(2) 尺度の構成の確認	183
(3) 尺度得点について	184
4. 個人生活における男女平等規範	185
(1) 尺度項目について	185
(2) 尺度の作成過程	186
(3) 尺度得点について	186
5. 日常生活における家事	187
6. 生物学至上主義	188
(1) 尺度項目について	188
(2)『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と生物学至上主義	188
7. 男女平等と買春経験を媒介するもの	188
8. 男女平等意識のまとめ	190
第6節 母性神話	190
1. 尺度項目について	190
2. 尺度について	192
3. 母性神話のまとめ	193
第5章 総合的考察	194
第1節 『援助交際』に対する抵抗感と態度	194
第2節 売買春に関する意識と経験	195
第3節 『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の背景要因	196
1. 環境的背景	196
2. 行動的特徴	197
3. 心理的背景	197
4. 意識的側面	199
5. 男女平等意識	200
第4節 まとめと今後への提言	200
<b>引用文献</b>	203
<b>付表(調査票と基本集計)</b>	205
<b>執筆分担</b>	
福富 譲 (東京学芸大学教授)	第I部 第II部第1章第1節、第5章
松井 豊 (筑波大学助教授)	第II部第1章第2節、第3節、第4節、 第4章第1節、第2節
成田健一 (東京学芸大学助教授)	第II部第2章、第4章第3節2、4、5
上瀬由美子 (江戸川大学助教授)	第II部第3章、第4章第3節3、第4節
宇井美代子 (筑波大学大学院)	第II部第4章第5節、第6節
八城 薫 (筑波大学研究生)	第II部第4章第3節1

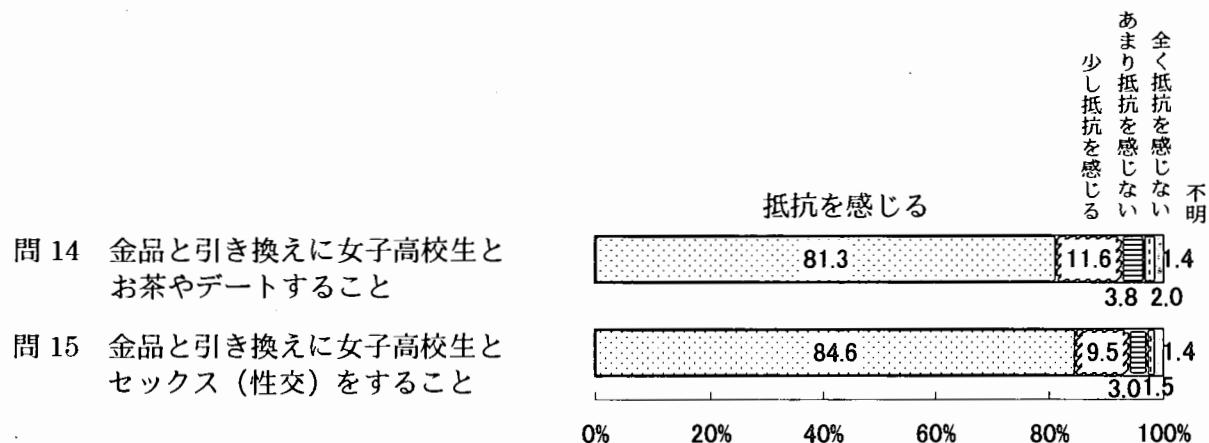
## 第Ⅰ部 調査結果の概要

## 1. 『援助交際』に対する態度や経験

### (1)『援助交際』に対する抵抗感－行為の内容にかかわらず9割が抵抗感を抱く

「抵抗を感じる」と「少し抵抗を感じる」を合わせて「抵抗感あり」とみると、「金品と引き換えに女子高校生とお茶やデートすること」と「金品と引き換えに女子高校生とセックス（性交）すること」に対して、行為の内容による違いが見られず、いずれも約9割が抵抗感を抱いている。

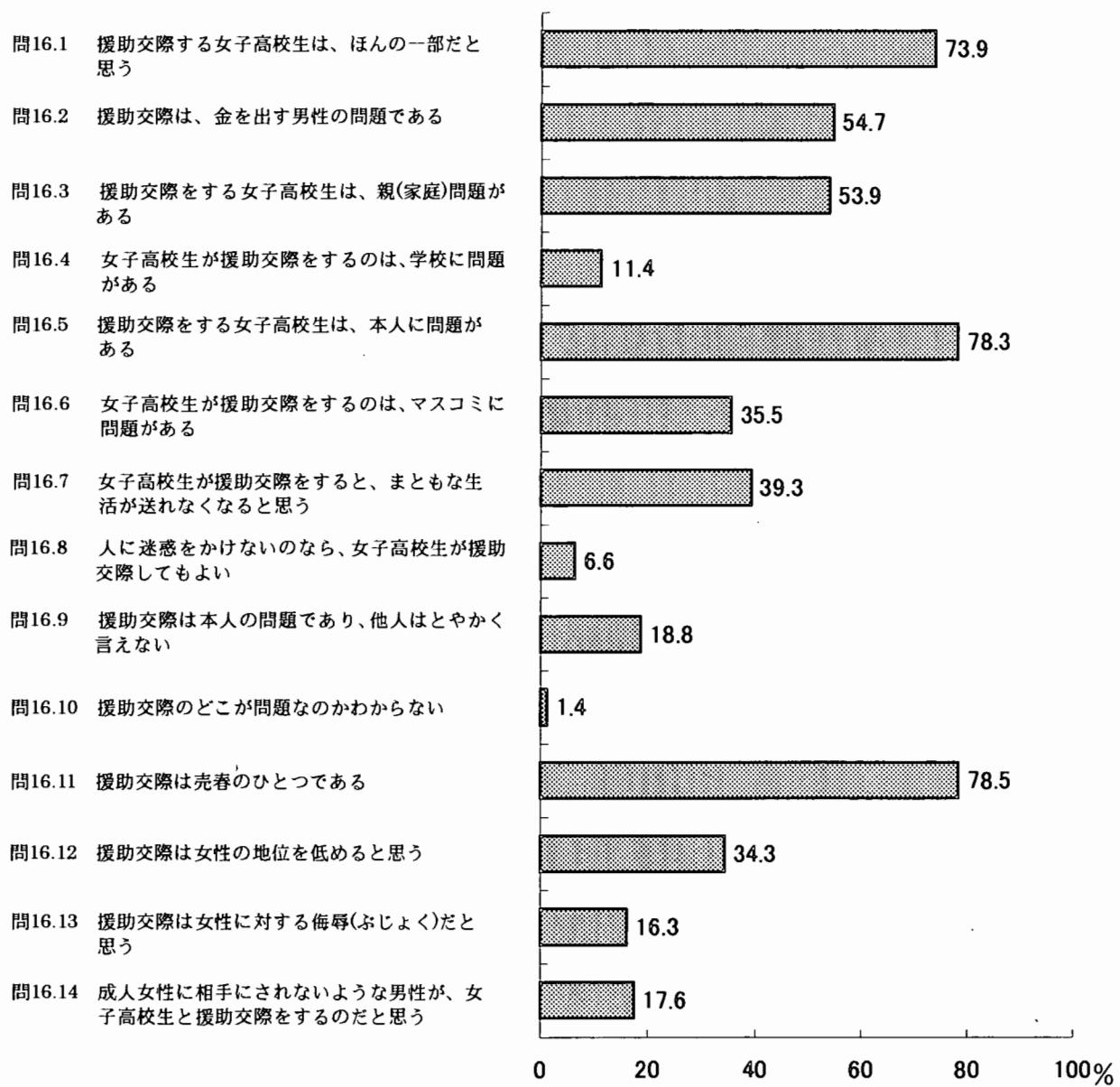
成人男性の『援助交際』に対する抵抗感 (N=664)



(2)『援助交際』は売春のひとつと考えるが、女性の地位低下や女性侮辱という視点はほとんどない。

約8割が『『援助交際』を売春のひとつ』と捉えたり、「一部の女子高校生の問題」と考えている。問題の所在について、8割が本人の問題としており、親や家庭については5割強、マスコミについては4割弱が問題ありとしている。「本人の問題で他人はとやかく言えない」を肯定するものは2割、「人に迷惑かけないなら可」とするものは1割であった。さらに、5割以上が『『援助交際』は男性の問題』であるとするが、「女性の地位を低める」「女性に対する侮辱だ」とするものは3.5割、1.5割と少ない。

『援助交際』に対する態度 (N=664)

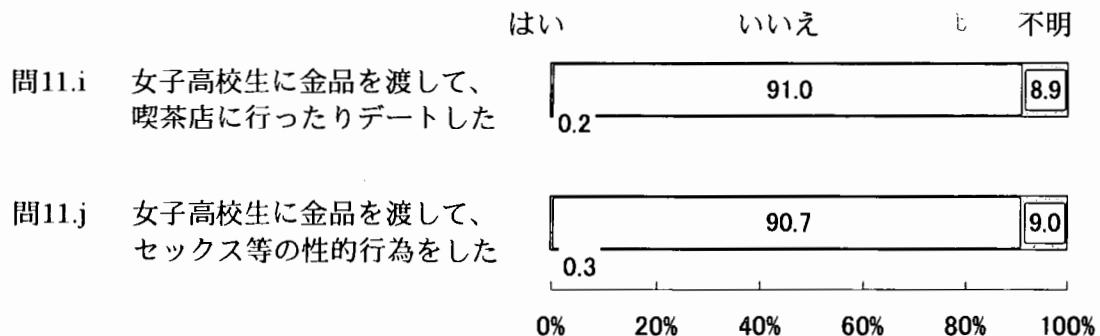


(3)『援助交際』の経験ありと回答したものは極めて少なかったが、この質問項目に対する回答拒否者が非常に多かった。

今回の調査で『援助交際』の経験の有無をたずねる質問項目で、経験ありとしたものは664人中わずかに2人だけであった。しかしこの質問項目に関する不明(無回答、回答拒否、回答ミス等)の数は、他の項目に関する不明数に比べて異常に多い。例えば、『援助交際』に対する抵抗感に関して9名、パチンコの経験の有無では22名に留まっているのに対して、『援助交際』の経験の有無では60名であった。何らかの理由で回答をためらった結果であり、その中には経験あるものも含まれると推測される。

その他、『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動についてみると、成人向けインターネットの閲覧に関して、45歳以上では約1割しか経験していないが、それ以下では2割強～3割強が経験している。年齢層による情報機器のリテラシーの問題や利用環境の利便性の高低などの要因が関連していると思われる。

『援助交際』経験の実態 (N=664)

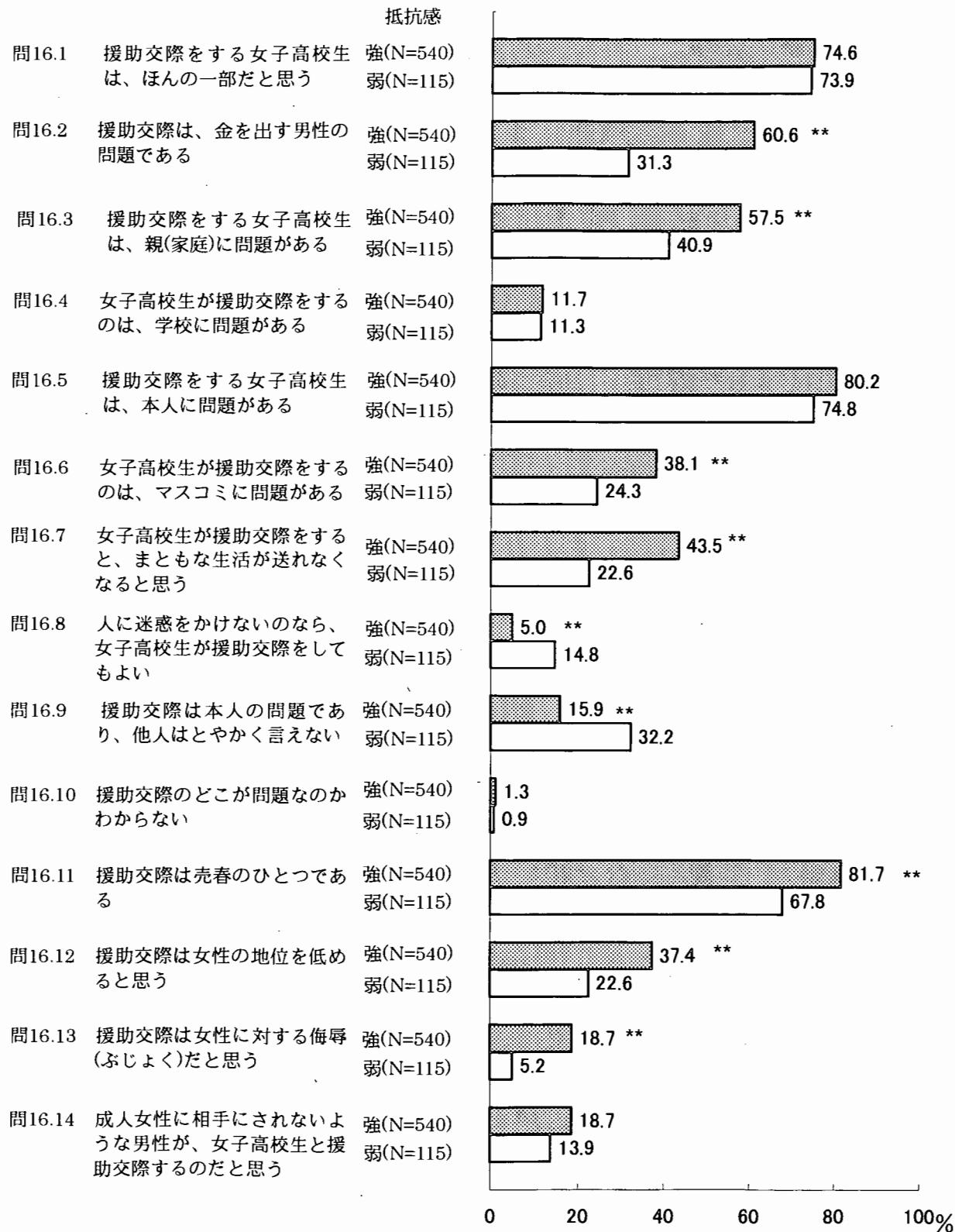


(4)『援助交際』に対する抵抗感の弱さは、否定的態度の弱さや許容的態度と結びつき、社会的问题や男女問題として捉える視点は、抵抗感の強いものに多い。

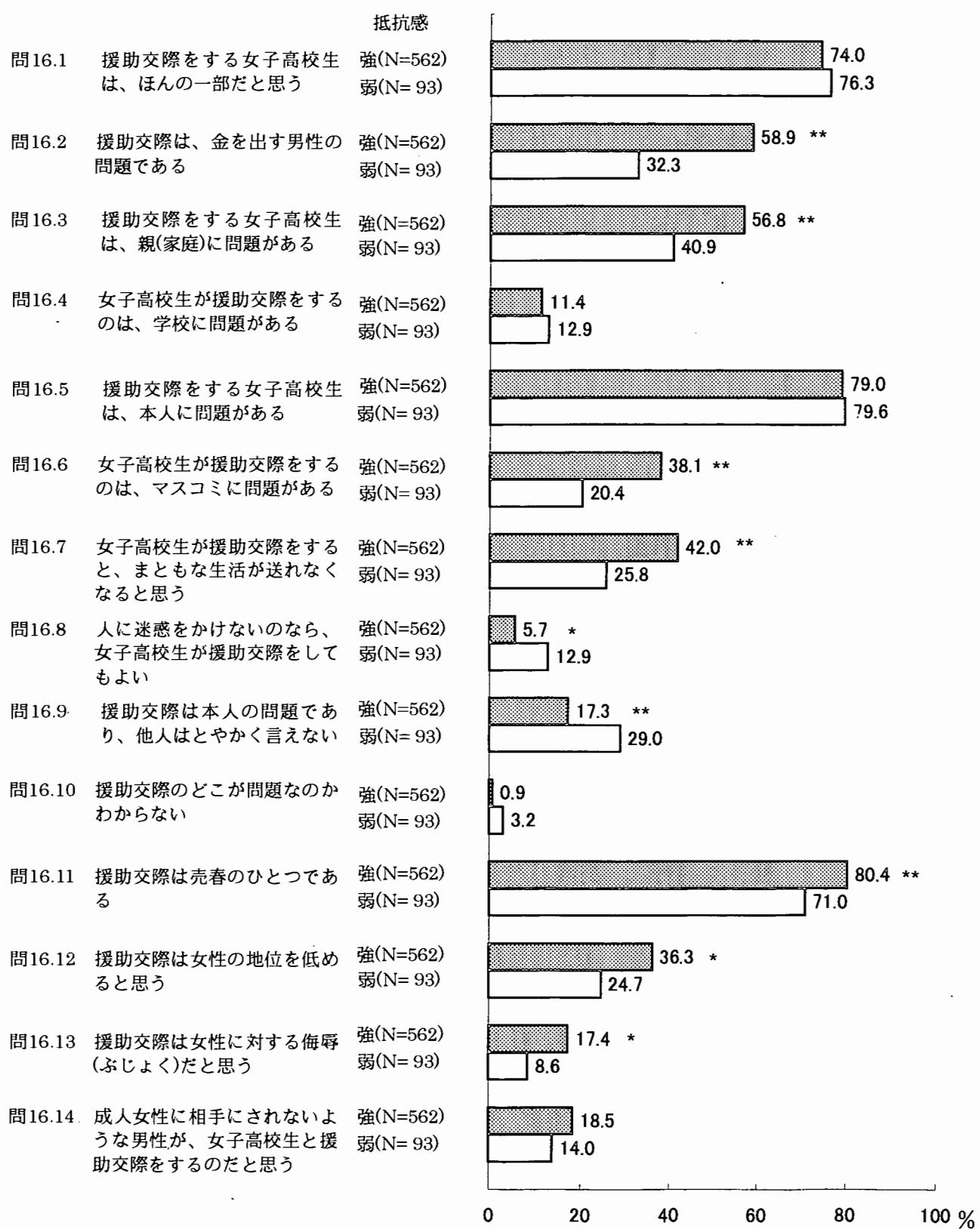
『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、「人に迷惑をかけないなら良い」「他人ととやかく言えない」と許容的に捉え、「売春のひとつ」と考える割合も低い。逆に抵抗感の強い人は、「女性の侮辱」「女性の地位を低める」「男性の問題」として捉える割合が高い。さらに、抵抗感の弱い人は、テレクラ・Q2・伝言ダイヤルの利用が多く、成人向けインターネットの利用率も高い。これらの利用は、実際の『援助交際』行動に結びつく可能性を示唆している。

『援助交際』に対する抵抗感と態度の構造を分析してみると、抵抗感の強弱の軸と原因の捉え方の軸が抽出された。「迷惑をかけなければよい」といった態度が許容的態度を形成し、逆に「男性の問題である」と考えることが抵抗感を形成する可能性が示唆された。さらに、『援助交際』の原因について論じることは、抵抗感に直接影響しないようだ。

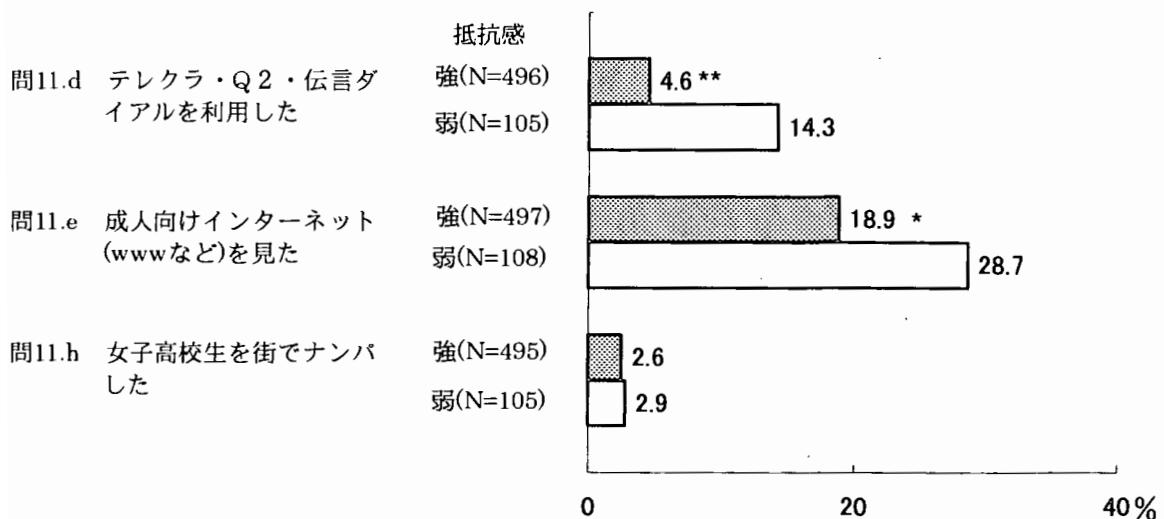
## 『援助交際：お茶』抵抗感と『援助交際』態度



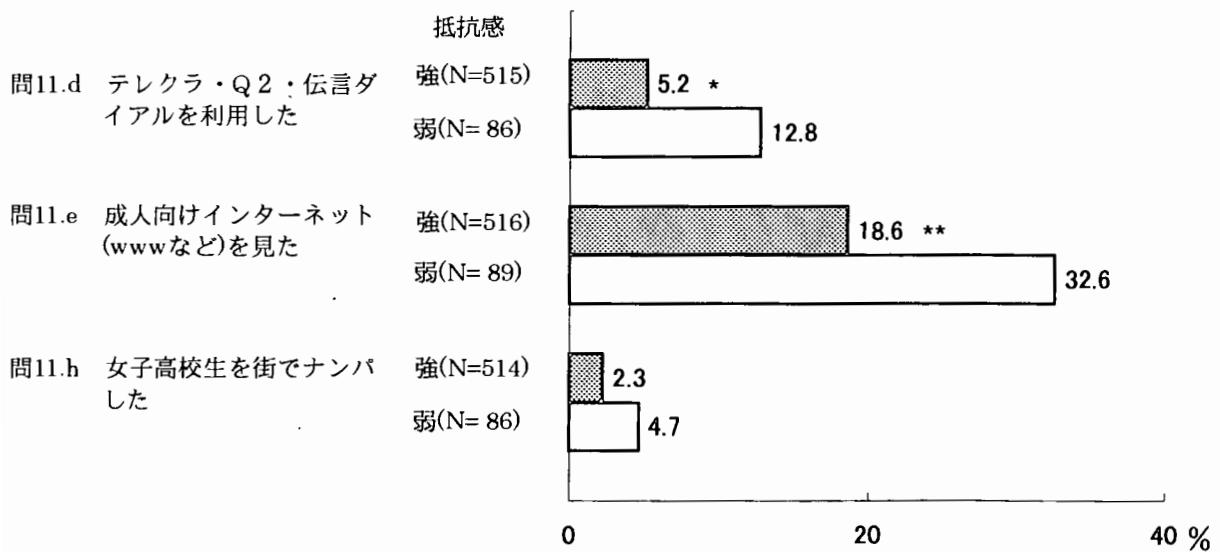
## 『援助交際：性交』抵抗感と『援助交際』態度



### 『援助交際：お茶』抵抗感と『援助交際』周辺行動経験の関連



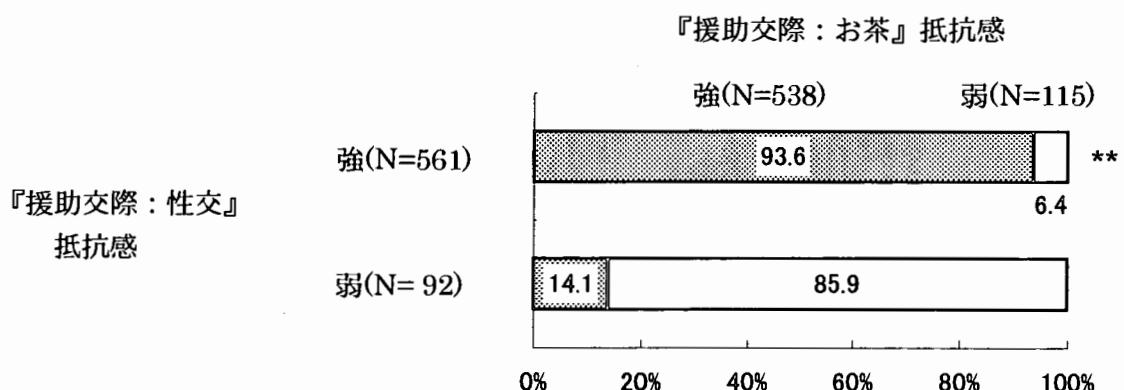
### 『援助交際：性交』抵抗感と『援助交際』周辺行動経験の関連



### (5)『援助交際』に対する抵抗感の尺度化(類型)

『援助交際:お茶』に対する抵抗感と『援助交際:性交』に対する抵抗感の関係は強く、直線的な関係にある。そこで本調査研究では、「(自分自身が)金品と引き換えにセックス(性交)すること」のみに注目して、「抵抗を感じる」と回答したものを抵抗感強群、「少し抵抗を感じる」「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」のいずれかに回答したものを抵抗感弱群とした。

### 『援助交際』に対する抵抗感の関係

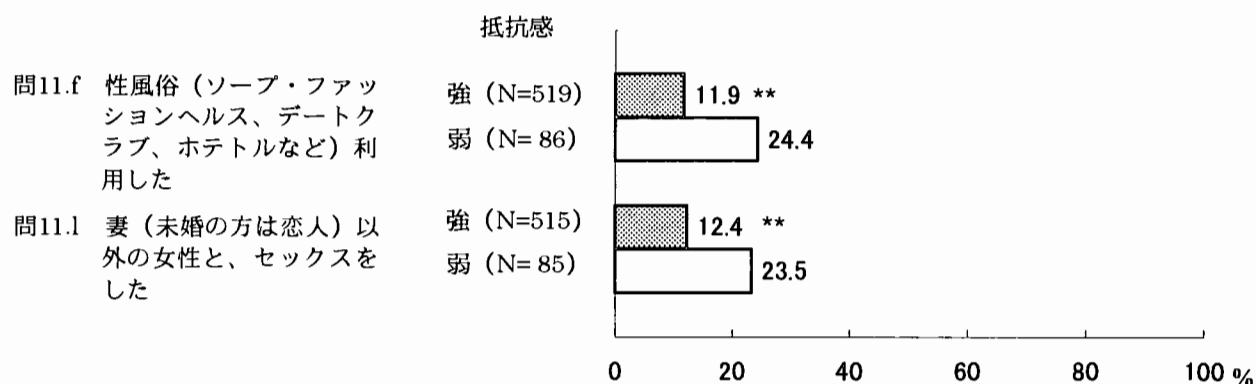


## 2. 売買春に関する意識と経験

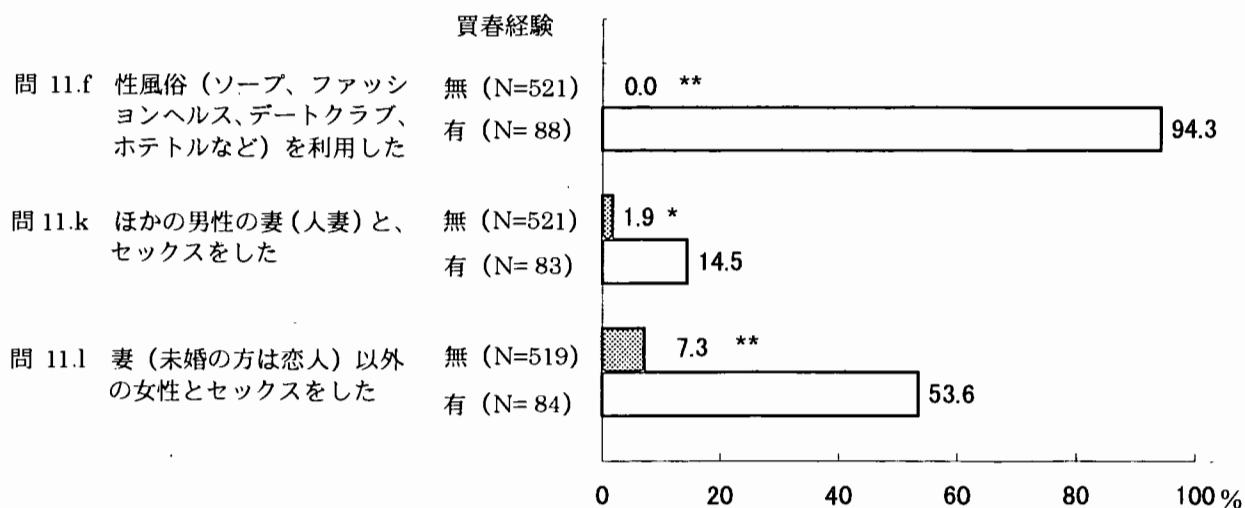
### (1)「性風俗」利用経験者は約1割強だが、『援助交際』に対する抵抗感の弱い人の経験率は4分の1近くになる。

『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、「性風俗」「妻・恋人以外とのセックス」を経験する割合が高く、4分の1近くが性風俗や妻・恋人以外とのセックスを経験している。「性風俗」「援助交際」「海外での買春」のいずれかを経験したものを「買春経験有群」とすれば、買春経験無群」とすると、「買春経験有群」は「ほかの男性の妻とのセックス」「妻・恋人以外とのセックス」のいずれも経験率が高く、後者の場合には5割を超えている。

『援助交際』に対する抵抗感別にみた買春関連の経験



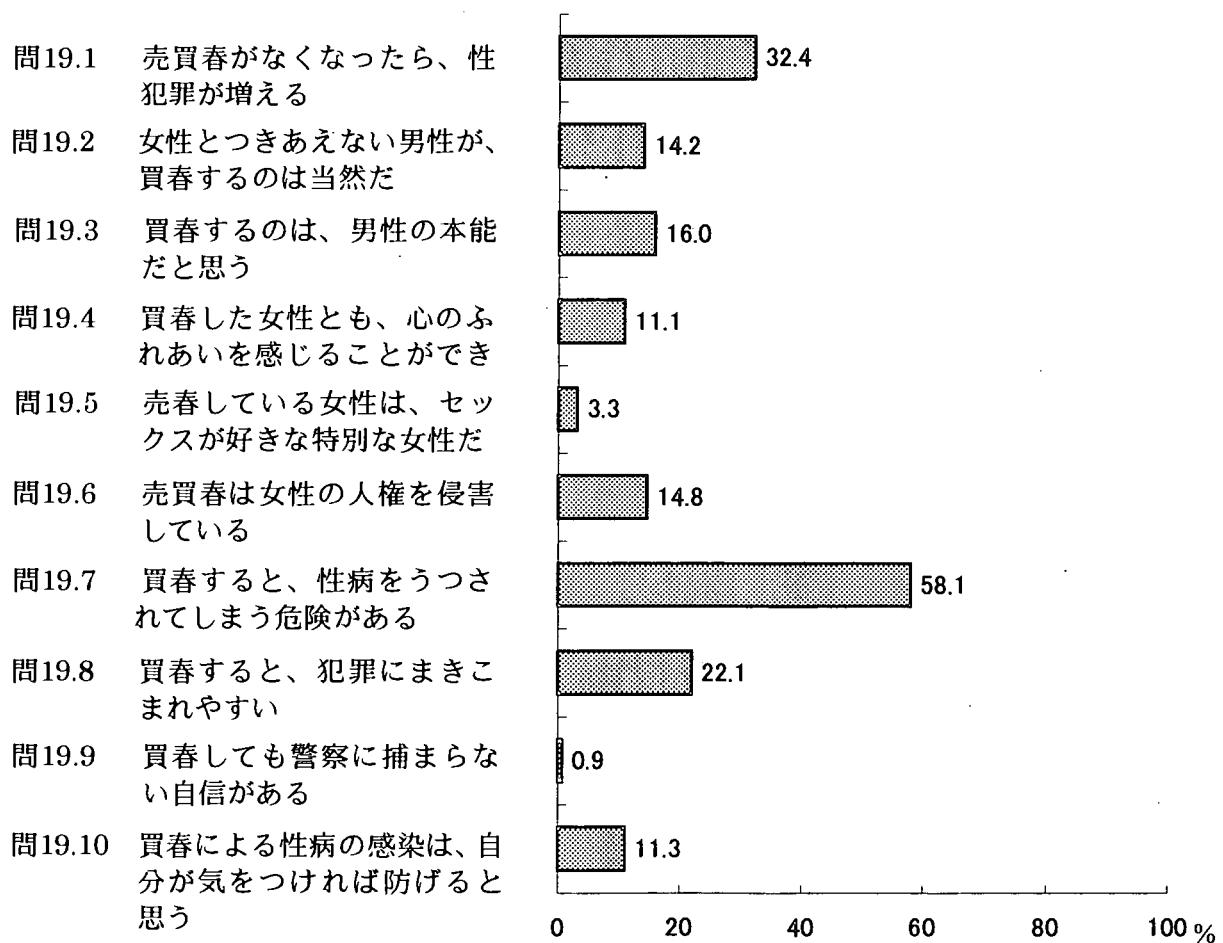
買春経験別にみた買春関連の経験



(2) 売買春はリスクを伴うけれど無くなったら性犯罪が増えると考えるが、売買春を人権問題と結びつけて意識化するものは少ない。

買春をすると「性病の危険がある」(6割弱)「犯罪に巻き込まれやすい」(2割強)等と買春のリスクを認知するけれど、「売買春がなくなったら性犯罪が増える」(3割強)「買春は男性の本能」(2割弱)とリスクはあるが不可欠なものとして売買春を位置づける傾向も見られる。これに対して、「売買春は女性の人権侵害」を肯定するものは1割強で、売買春を人権問題と結びつけて意識化するものは少ない。

### 売買春に対する意識 (N=664)

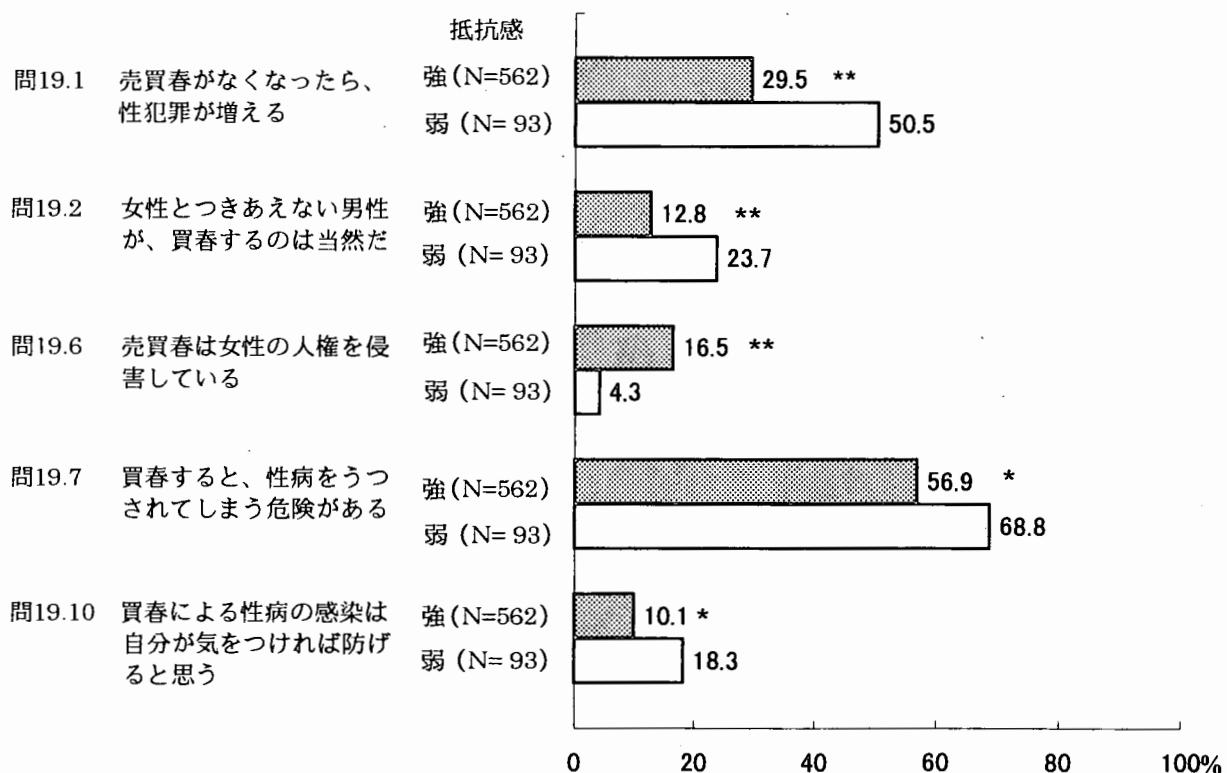


(3)『援助交際』に対する抵抗感の弱さは、ステレオタイプ視に結びつく。

「売買春がなくなったら性犯罪が増える」「女性とつきあえない男性が買春するのは当然」「性病の危険がある」「買春による性病の感染は気をつければ防げる」に関して『援助交際』に対する抵抗感の弱いものの選択率が高く、「売買春は女性の人権侵害」は抵抗感の強いものの選択率が高い。特に「売買春がなくなったら性犯罪が増える」といったステレオタイプ的捉え方に関して、抵抗感の強弱による差は20ポイントに及ぶ。

総じて『援助交際』に対する考えは独立に形成されるというよりも、買春を含めた性風俗全体の肯定視と関連している様子が伺える。

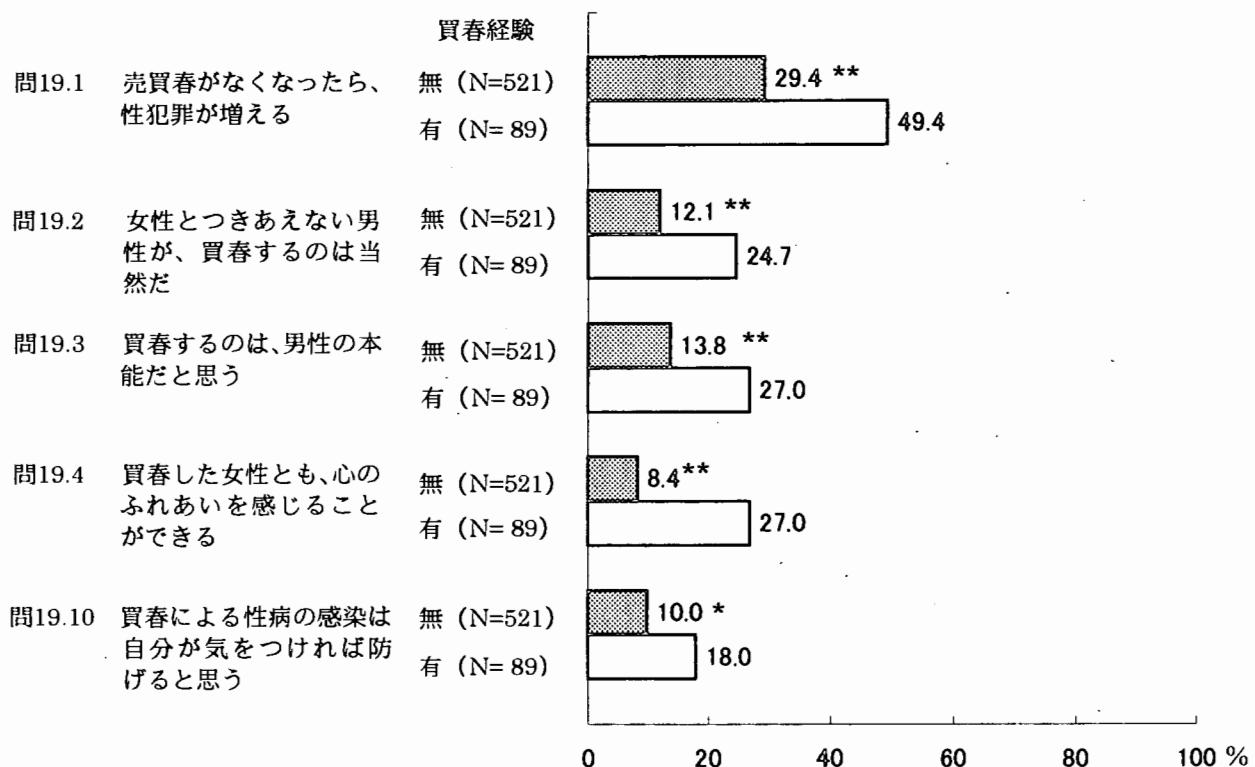
『援助交際』に対する抵抗感別にみた売買春意識



(4)買春に対するステレオタイプ視が買春経験を正当化する心理的支えとなり、特に20代前半の若年層に強く見られる。

「売買春がなくなったら性犯罪が増える」「女性とつきあえない男性が買春するのは当然」「買春は男性の本能」「買春をした女性とも心のふれあいを感じる」「買春による性病の感染は気をつければ防げる」に関していずれも買春経験有群の選択率が高く、買春に対するステレオタイプ視が買春経験を正当化する心理的支えになっており、性病リスクに対しても「自分は大丈夫」といった利己的幻想を抱いている様子が伺える。

買春経験別にみた売買春意識



(5)買春意識の構造…人権侵害意識が買春を許容しない態度に結びつく。

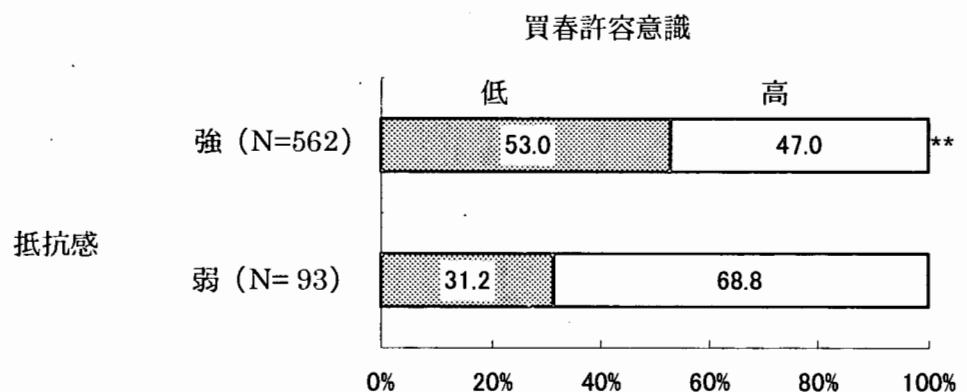
数量化理論第III類によって、次のような三つの群の存在が分析された。

- ① 買春経験の無いものを中心に買春の危険性を敏感に感じ「人権侵害」と考える群
- ② 買春経験の有るものを中心に男性の本能に結びつけて買春を当然としたり、売買春がなくなると性犯罪が増えるといった別の危険性が上がるとして、行為の正当性を積極的に主張する群
- ③ 買春経験の有るものに近いが、買春を消極的な理由で否定しようとする群

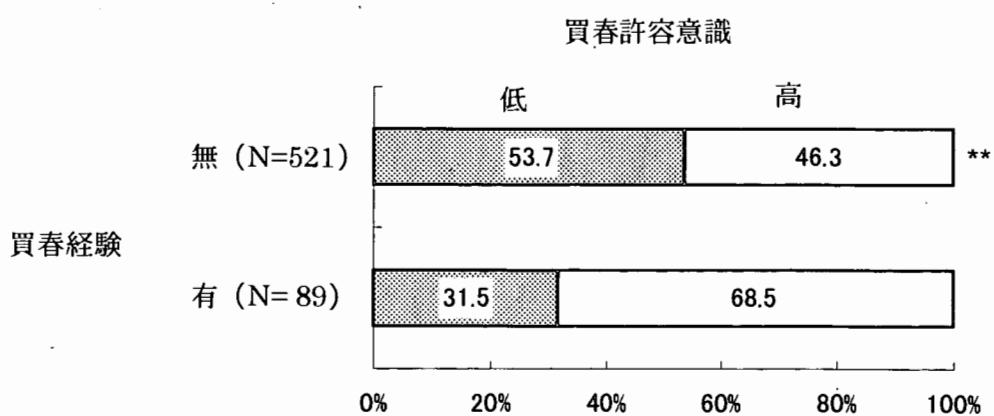
(6)『援助交際』に対する抵抗感と買春許容意識の高低と関連があり、買春を受容する意識は実際の行動と結びつく。

買春に関する意識について、「売買春がなくなったら、性犯罪が増える」「女性とつきあえない男性が、買春するのは当然」「買春するのは、男性の本能」「買春した女性とも、心のふれあいを感じることができる」「買春による性病の感染は、自分が気をつければ防げると思う」の5項目のうち一つでも○をつけたものを「買春許容意識高群」、一つも○をつけなかったものを「買春許容意識低群」として尺度化した。買春許容意識低群と高群別に比較してみると、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と対応していることが明らかにされた。さらに、買春経験の有無と比較してみると、有群の方が買春意識が高く、買春を受容する意識と実際の行動との間に関連性がみられた。

『援助交際』に対する抵抗感と買春許容意識尺度



買春経験と買春許容意識尺度



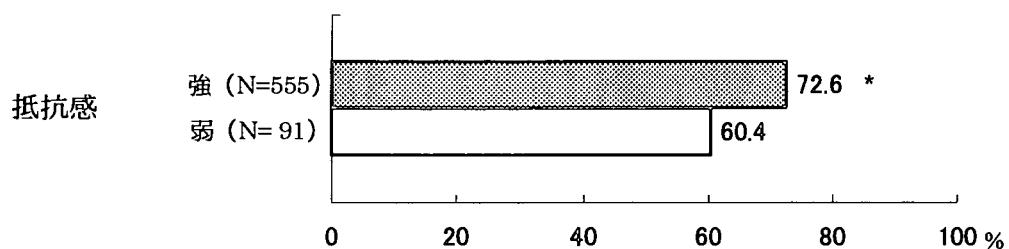
### 3. 『援助交際』に対する抵抗感や貢献経験の背景要因

#### [環境的背景]

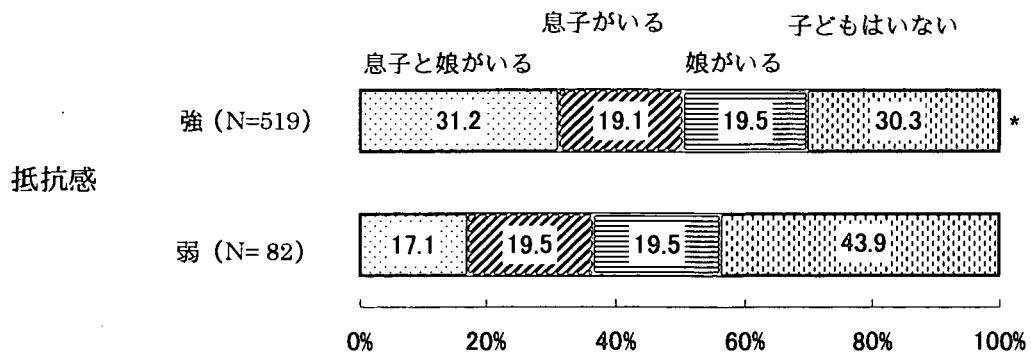
##### (1)『援助交際』に対する抵抗感の弱さと結びつく、家庭・夫婦関係・職場の状況

『援助交際』に対する抵抗感の弱い群は、子どもや配偶者がいないか、いても夫婦仲悪く、家族との情緒的絆が弱く、家族と食事する機会が少なく、職場では「いつも損をしている」と感じている人が多い。

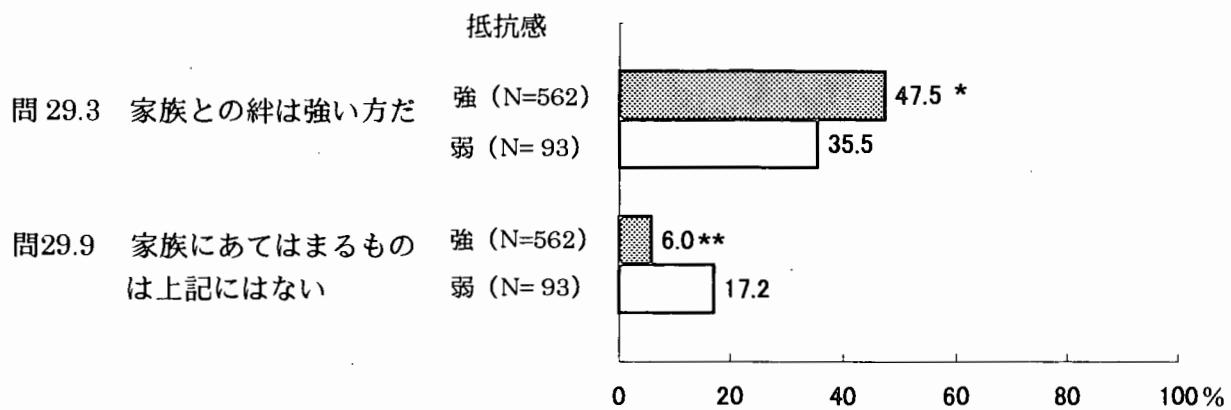
『援助交際』に対する抵抗感別にみた妻帯率



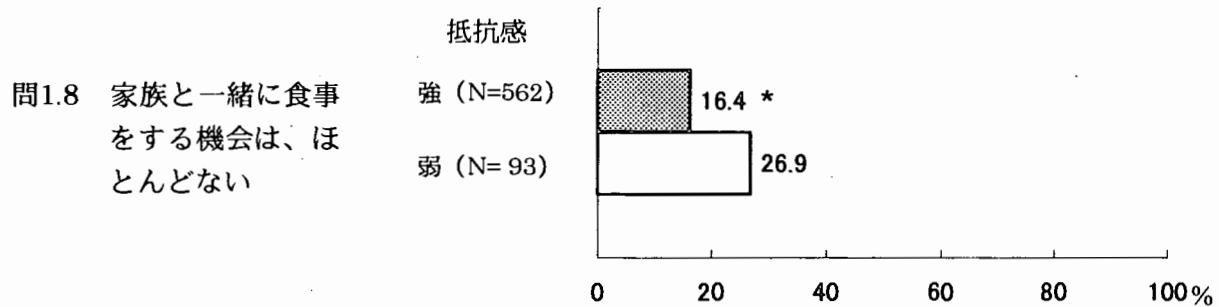
『援助交際』に対する抵抗感別にみた子どもの有無と性別



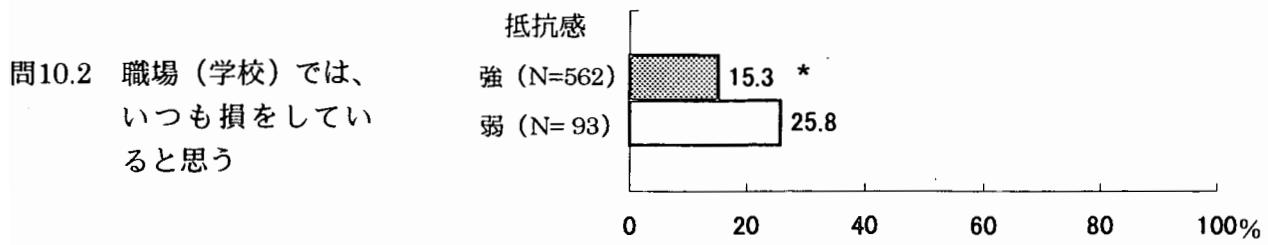
### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた家族との情緒的絆



### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた家族との接触



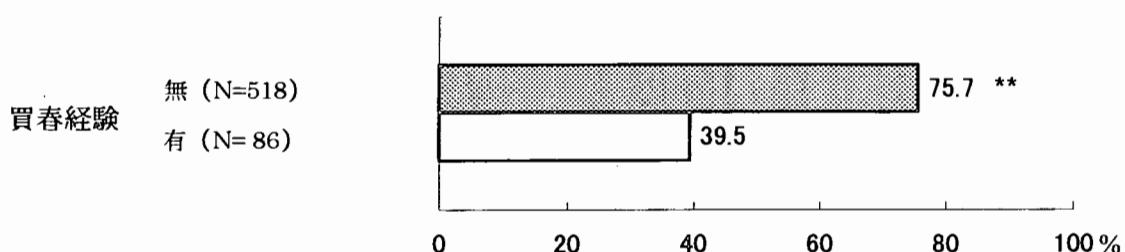
### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた職場での適応



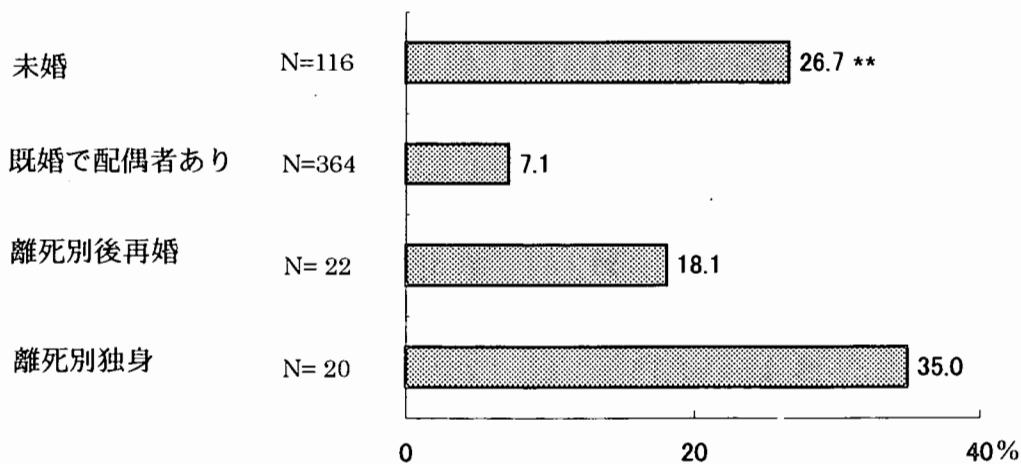
## (2)買春経験者の家族的状況と職場の状況

買春経験率が高い群は、配偶者のいない独身者が多く、特に離死別で妻を失った独身男性が多い。家族状況に関して、子どもがおらず、一人暮らしをしているもののが多かった。配偶者を持つ男性の場合には、妻から「愛されている」「尊敬されている」という実感に乏しく、妻との情緒的な絆を感じていないものが多い。さらに配偶者の有無にかかわらず、家族との交流が少なく、家族から「頼りにされている」「必要とされている」という実感が弱く、家族との情緒的交流が弱い。休日に家族と過ごすことも少なく、家族で食事をする機会もほとんどない様子が伺える。職場では「イライラすること」が多い。

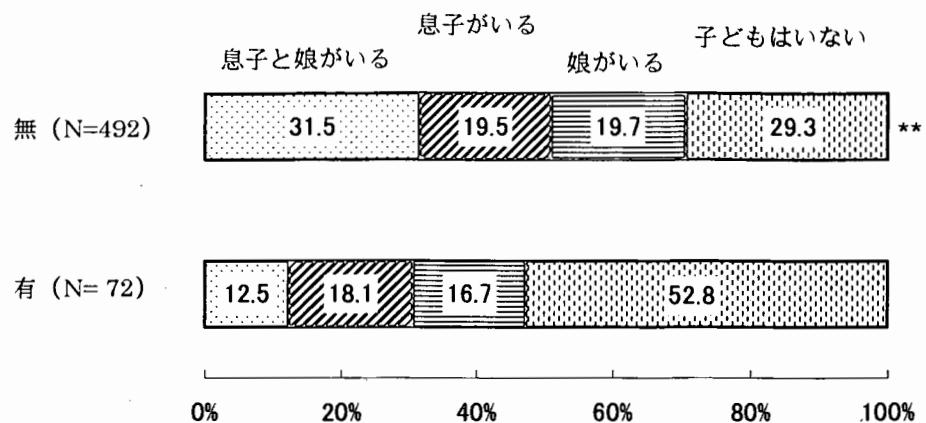
買春経験別にみた妻帯率



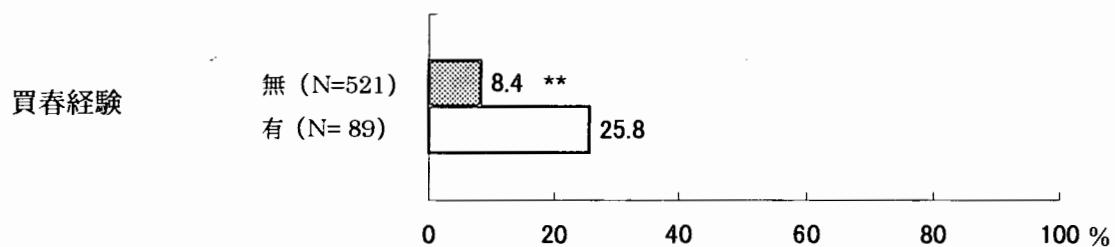
婚姻経験別にみた買春経験率



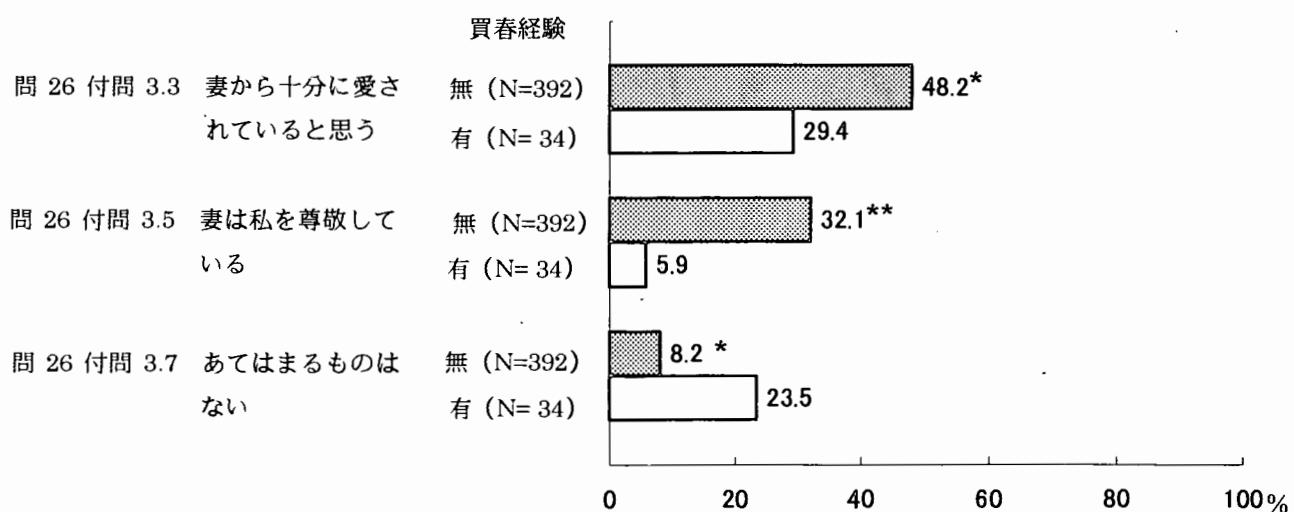
### 買春経験別にみた子どもの有無と性別



### 買春経験別にみた一人暮らしの比率

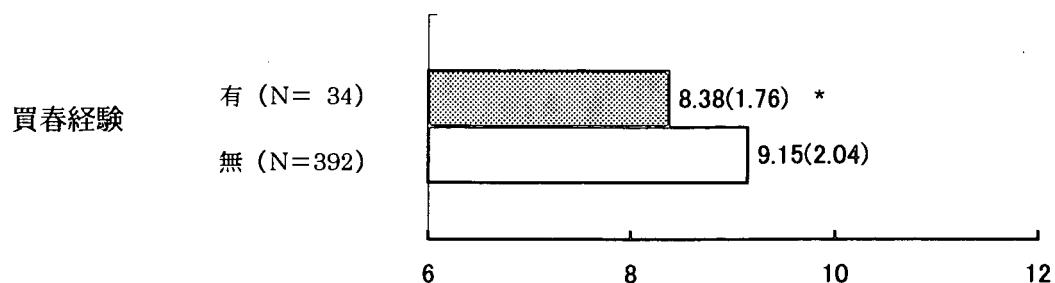


### 買春経験別にみた妻との情緒的な糾

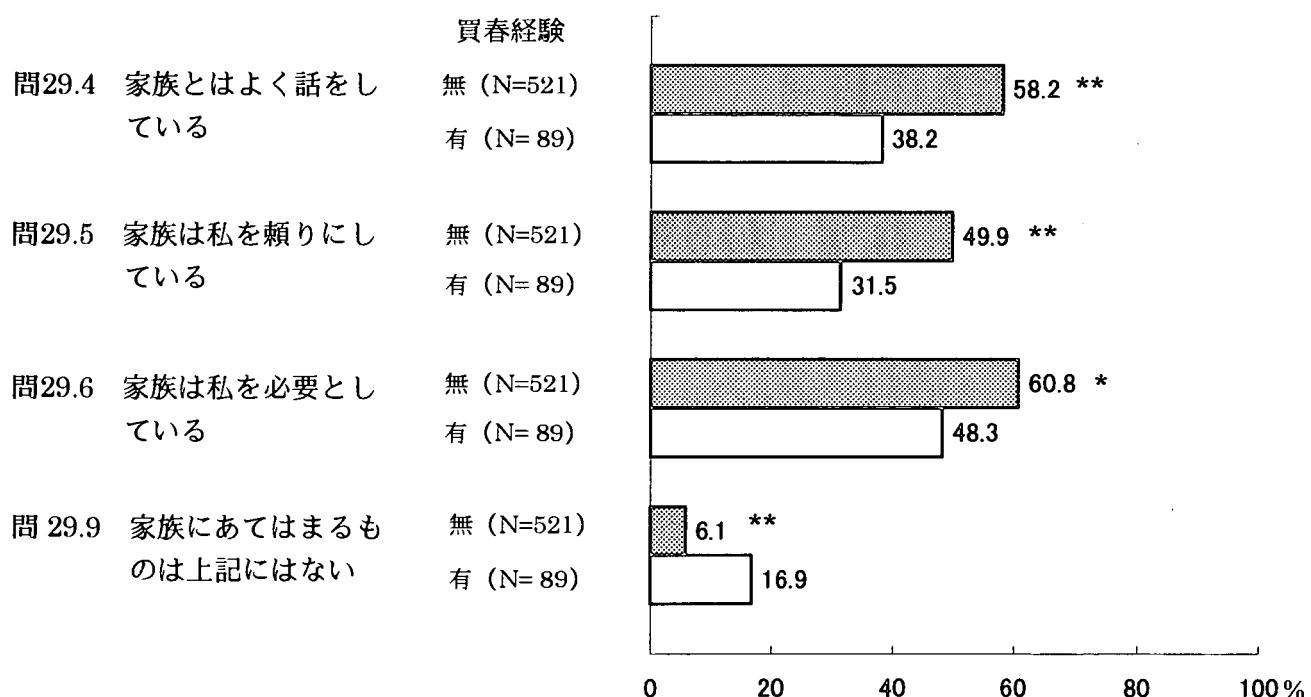


注：妻帯者内のデータ

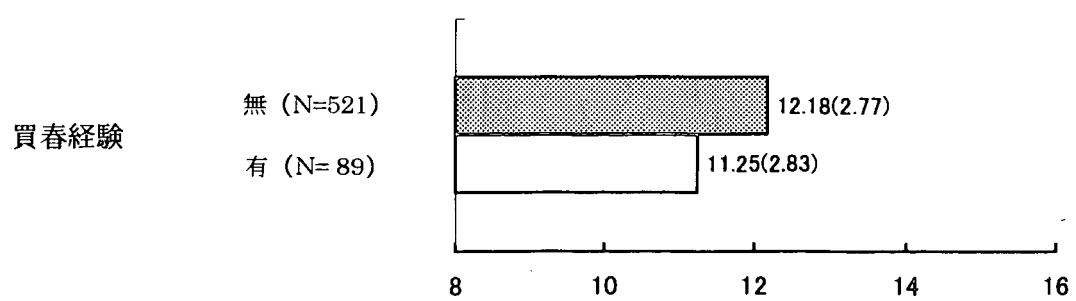
### 買春経験と妻との情緒的紛尺度



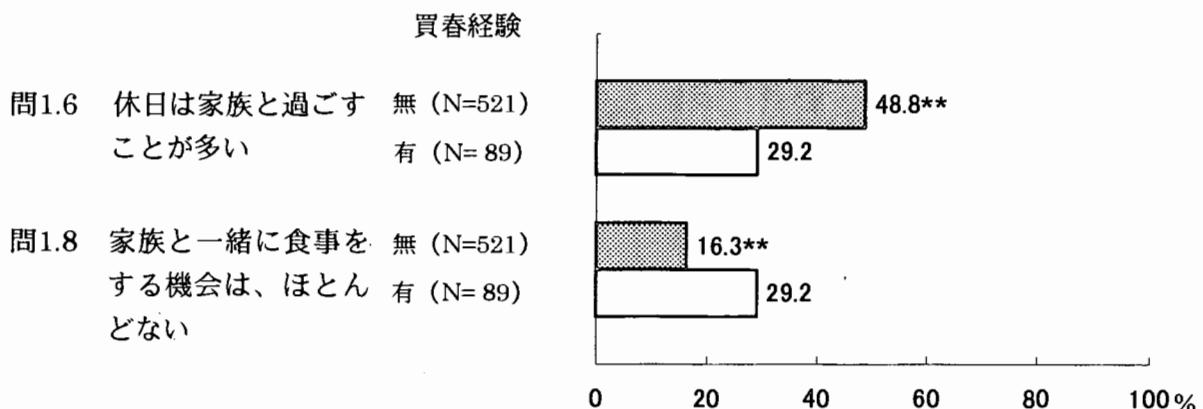
### 買春経験別にみた家族との情緒的紛



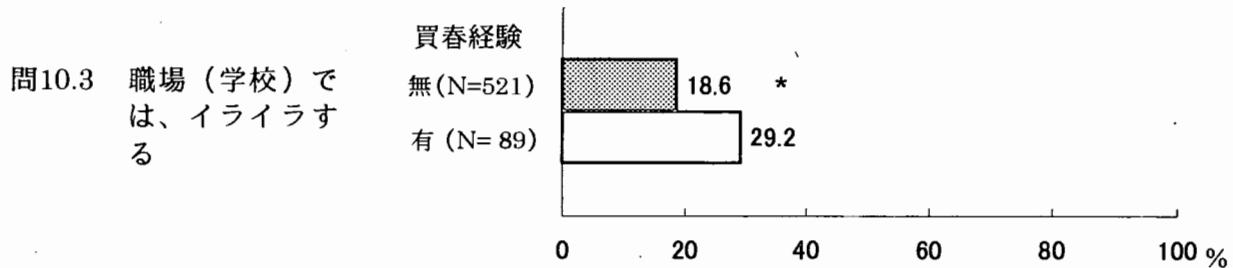
### 買春経験と家族との情緒的紛尺度



### 買春経験別にみた家族との接触



### 買春経験別にみた職場での適応



#### (3)家庭や職場から男性を買春に駆り立てるもの…人間関係の歪みの現れ。

買春経験は、家族とのあり方に密接に結びついていた。独身男性特に妻と離死別により独身生活をしているものに多く、買春が彼らの性欲求の充足の場として機能していることが示唆される。

妻帯者の場合には、妻との情緒的な絆の欠如が顕著であり、全体的に家族との交流や情緒的絆も弱い。妻を中心とする家族との心の交流の乏しさを埋め合わせる「逃げ場」になっているのだろうか。

学歴・職種・階層帰属意識と買春経験には何ら関連が示されなかった。このことは、買春が特定の社会階層や経済層に特有の行動ではないことを示唆している。職場での不適応とも関連していることから、買春は人間関係の歪みの現れであると言えそうだ。

## 【行動的特徴】

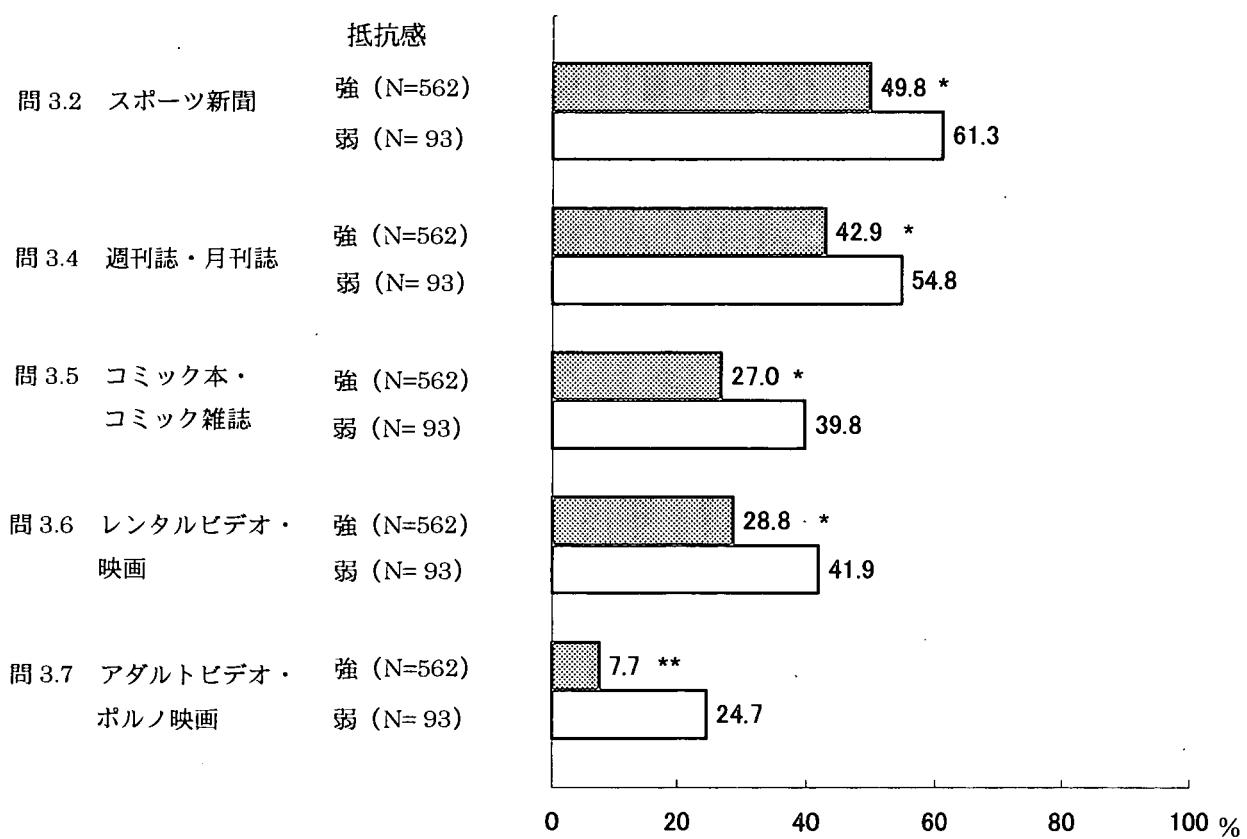
(1)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、風俗的メディアに接することが多い。

『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、「スポーツ新聞」「週刊誌・月刊誌」「コミック本・コミック雑誌」「レンタルビデオ・映画」「アダルトビデオ・ポルノ映画」等の各種メディアに接触することが多い。

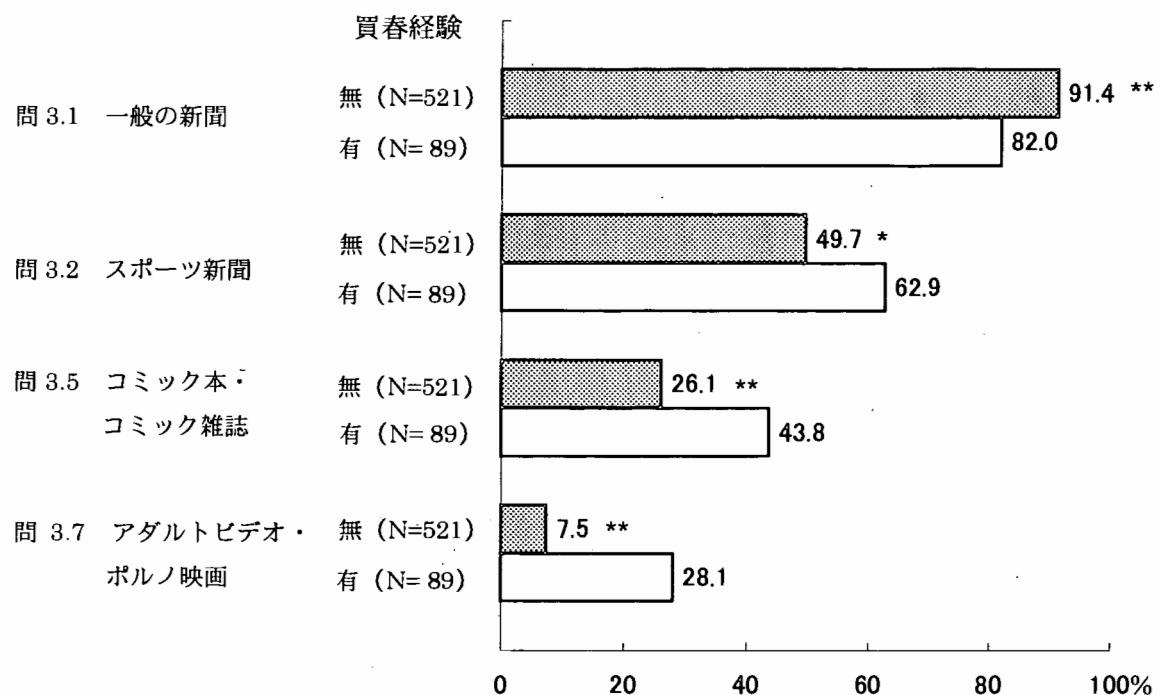
買春経験の有るものは、「スポーツ新聞」「コミック本・コミック雑誌」「アダルトビデオ・ポルノ映画」等の風俗メディアや中間メディアに多く接し、「一般新聞」を読むことが多い。

本調査の結果から、風俗的メディアとの接触と『援助交際』の許容や買春との因果関係を推定することはできないが、両者の間に何らかの関係があることが明らかになった。青少年に対して、情報リテラシー教育の必要性を示唆する結果といえよう。

『援助交際』に対する抵抗感別にみた情報媒体への接触率



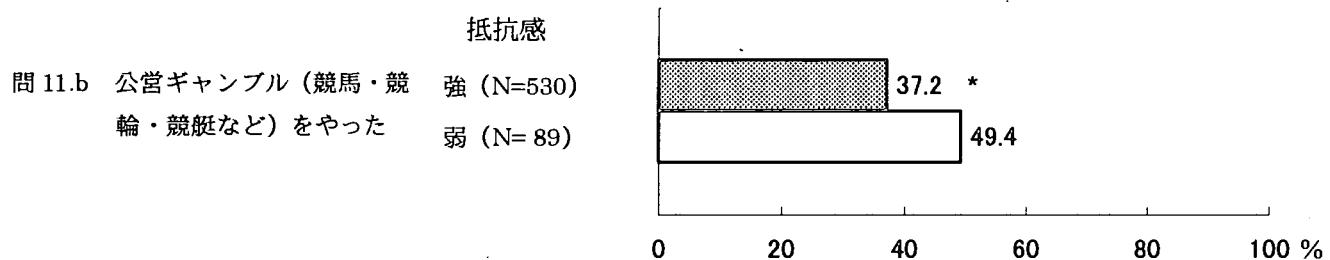
買春経験別にみた情報媒体への接触率



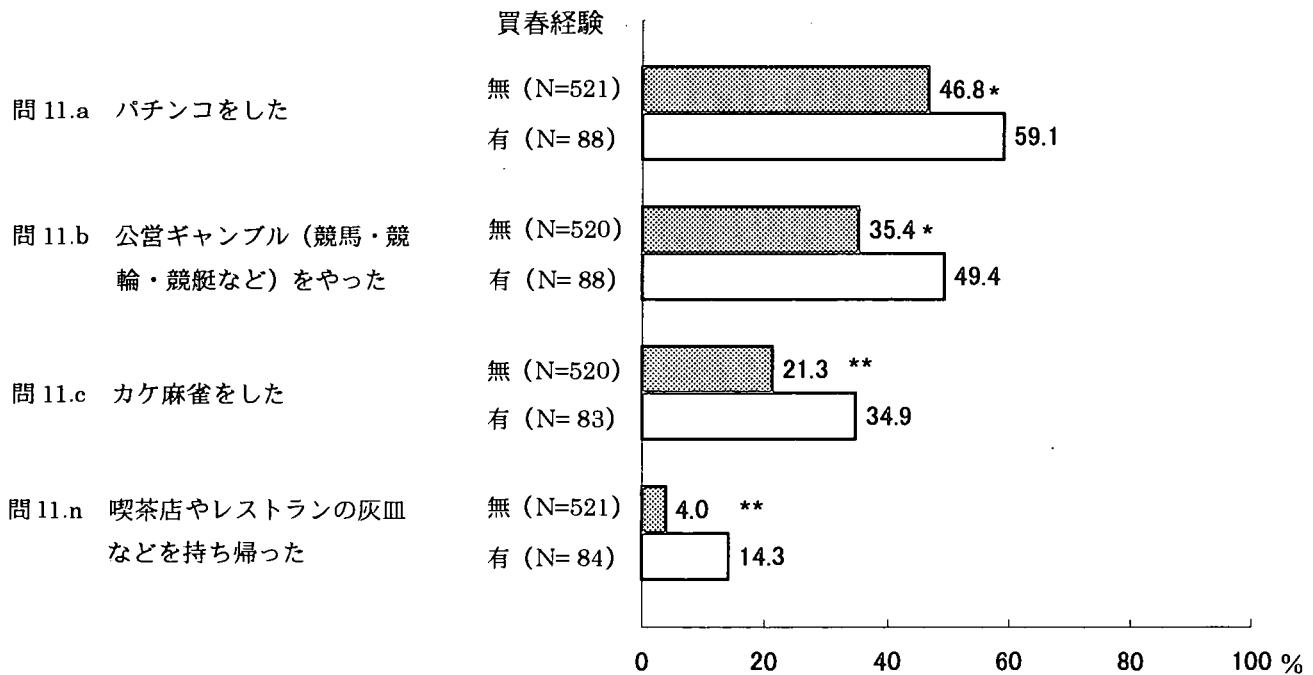
(2)買春経験者は、パチンコ・公営ギャンブル・カケ麻雀の経験も多い。

パチンコ・公営ギャンブル・カケ麻雀・電車のキセル・灰皿の持ち帰り、といった行動と『援助交際』に対する抵抗感の強弱や買春経験の有無との関連をみると、抵抗感の弱いものは公営ギャンブルの経験も多く、買春経験者は電車のキセルを除いて全ての経験率が高い。

『援助交際』に対する抵抗感別にみたギャンブルや些細な違法行為の経験率



買春経験別にみたギャンブルや些細な違法行為の経験率



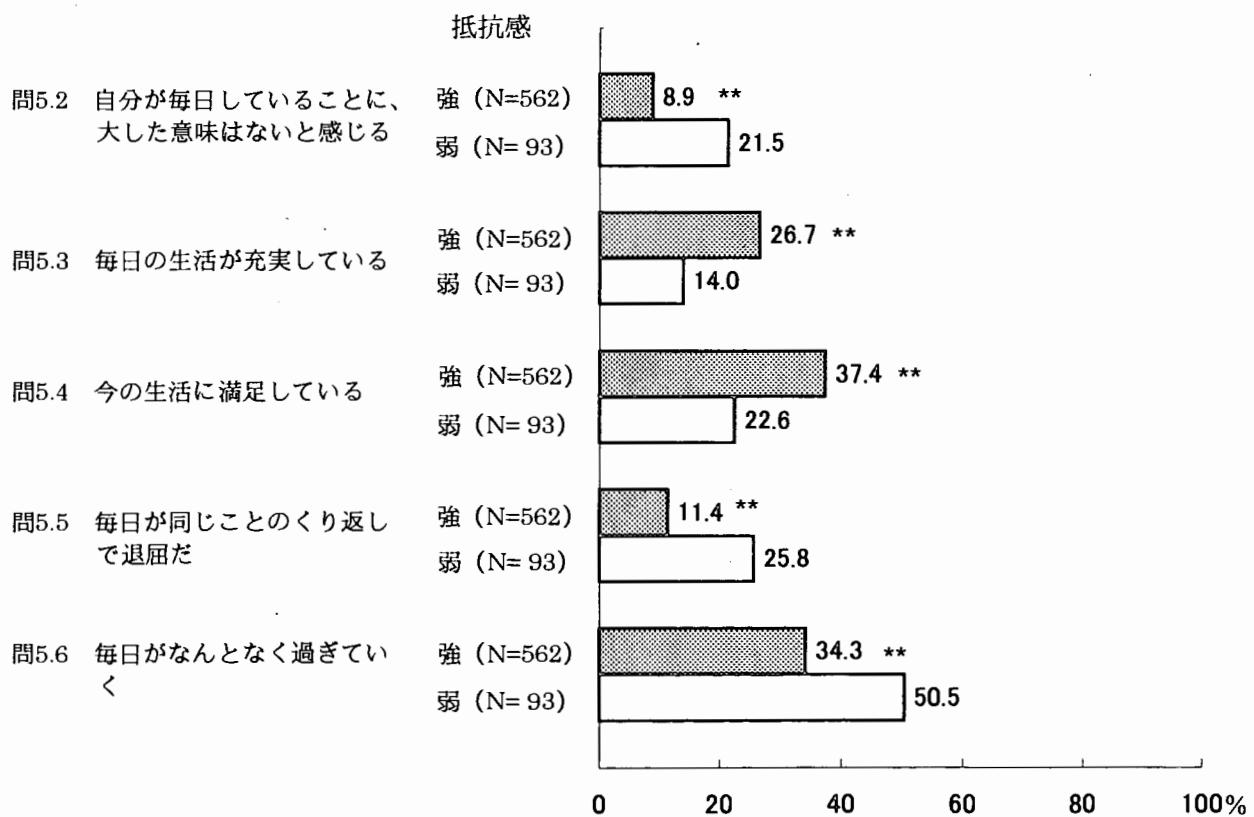
## [心理的背景]

(1)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、充実感や自己存在感も低い。

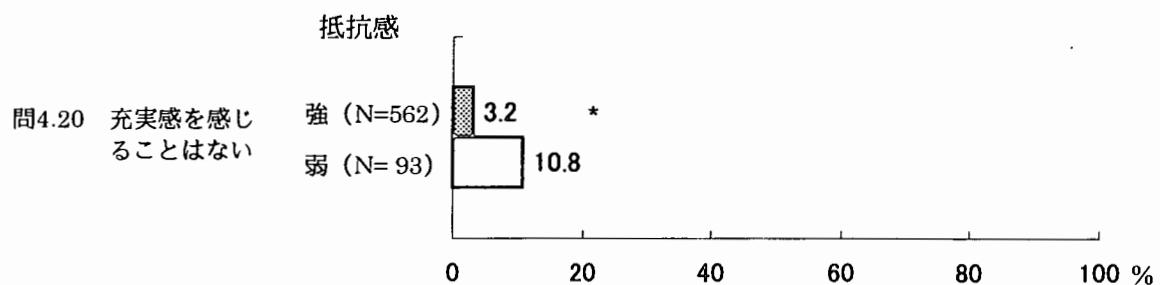
「私がどうなっても悲しむ人はいない」「私がいなくても誰も困らない」等からなる「自己存在感のなさ」尺度、「生きていて楽しいと感ずることがある」「毎日の生活が充実している」等からなる「充実感」尺度として、『援助交際』に対する抵抗感の強弱および買春経験の有無との関連を比較した。『援助交際』に対する抵抗感の弱いもの、買春経験の有るものは、いずれも「自己存在感のなさ」が高く「充実感」が低い。

買春経験者が唯一充実感を感じていたのは「異性や同性との友人関係」であり、家族関係で充実感を感じることはなかった。生活への不満や退屈感が強く、友人づきあいに充実感を感じていた20代の男性の傾向と一致しており、家族との絆が弱く、日常生活の空虚感を埋めるために買春行動へと向かうのだろうか。

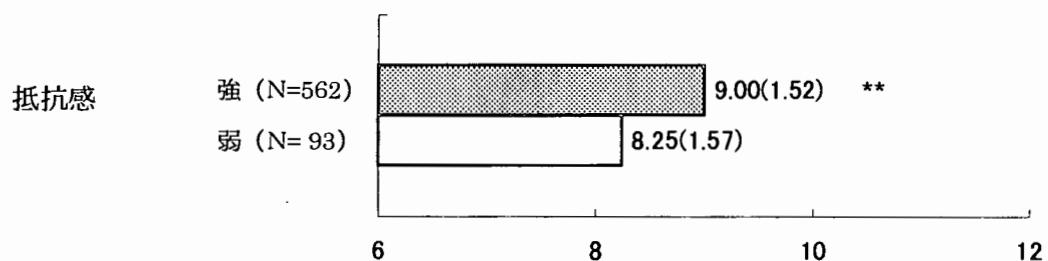
『援助交際』に対する抵抗感別にみた充実感・自己存在感のなさ



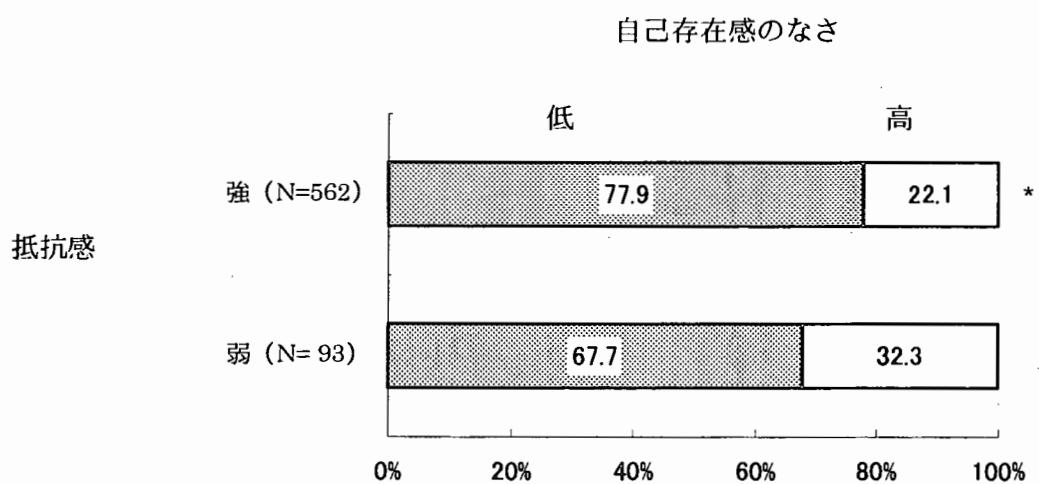
### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた充実感を感じる行動



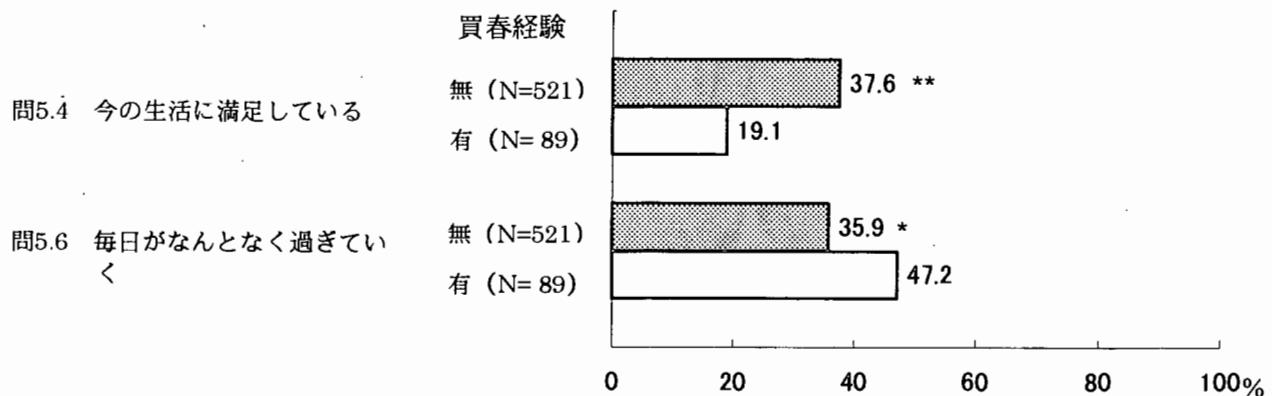
### 『援助交際』に対する抵抗感と充実感尺度



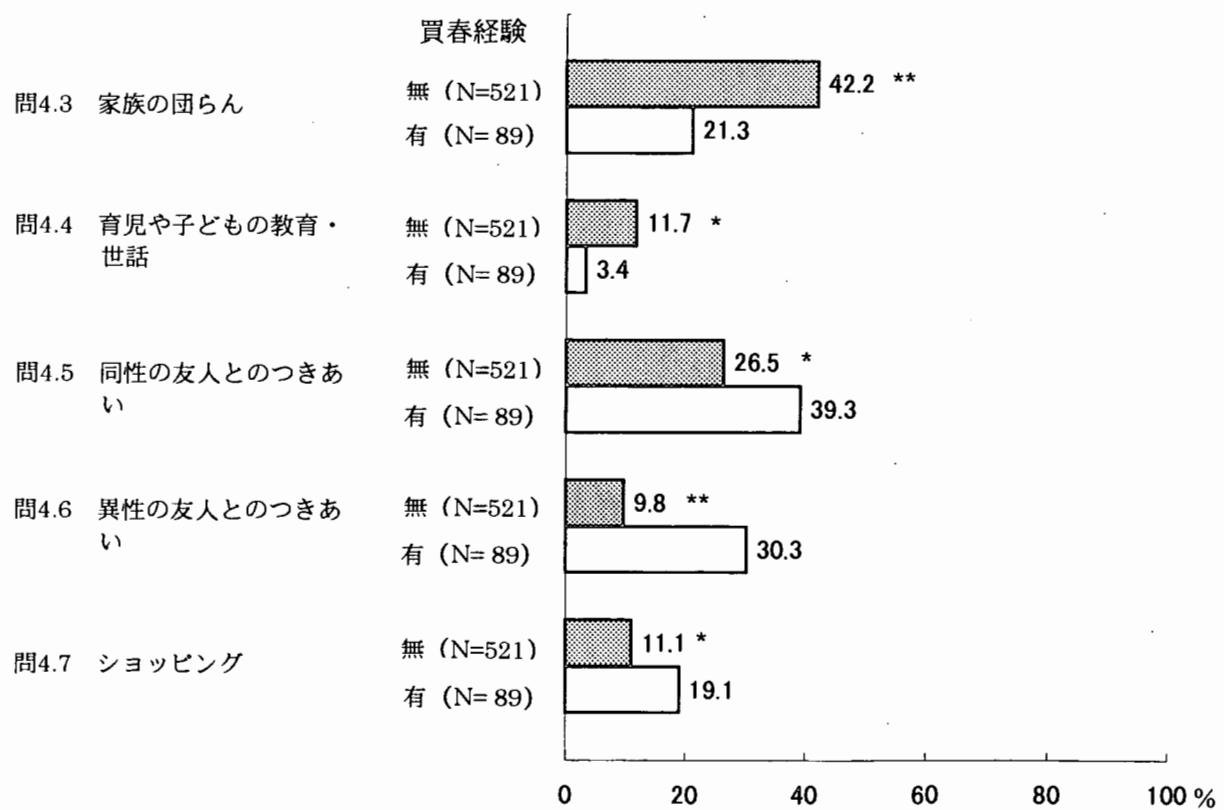
### 『援助交際』に対する抵抗感と自己存在感のなさ尺度



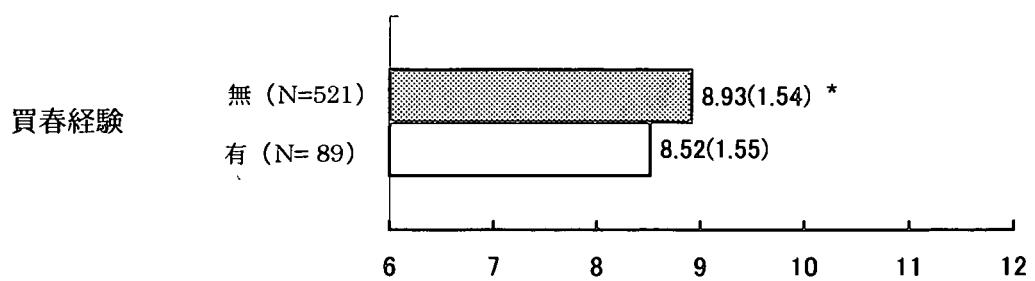
### 買春経験別にみた充実感・自己存在感のなさ



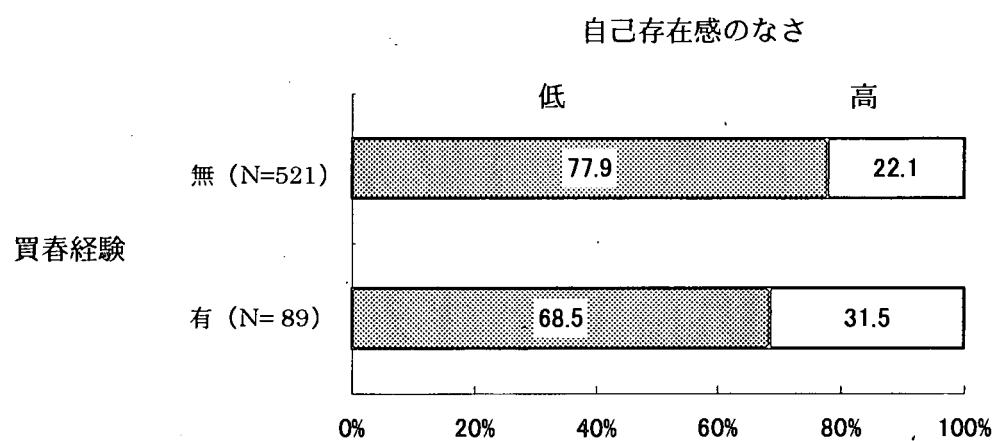
### 買春経験別にみた充実感を感じる行動



### 買春経験と充実感尺度



### 買春経験と自己存在感のなさ尺度

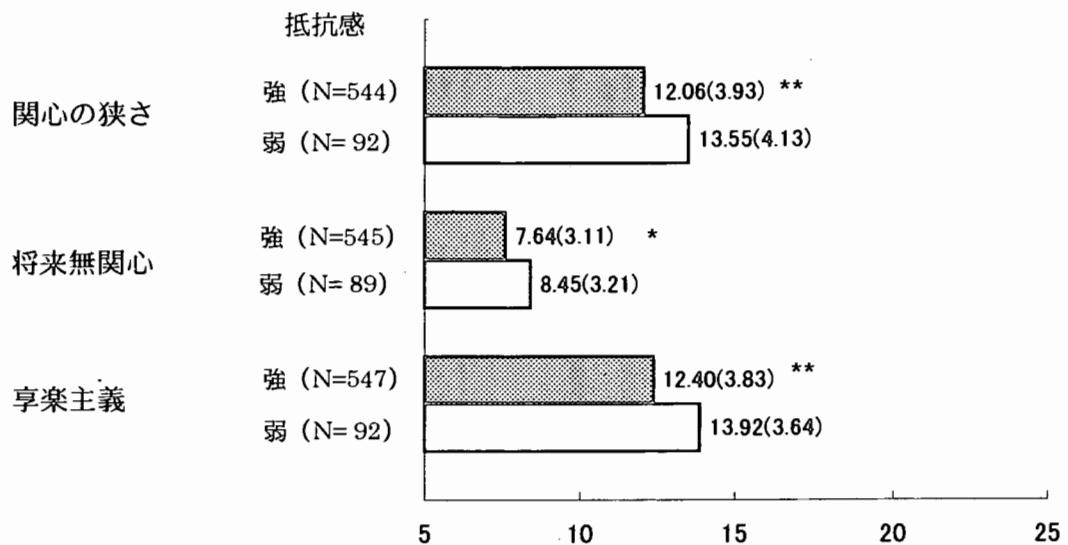


(2)ミーアズムの3側面(関心の狭さ・将来無関心・享楽主義)で、『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は関心が狭く、将来に対して無関心で、享楽的。買春経験有群は、享楽主義的。

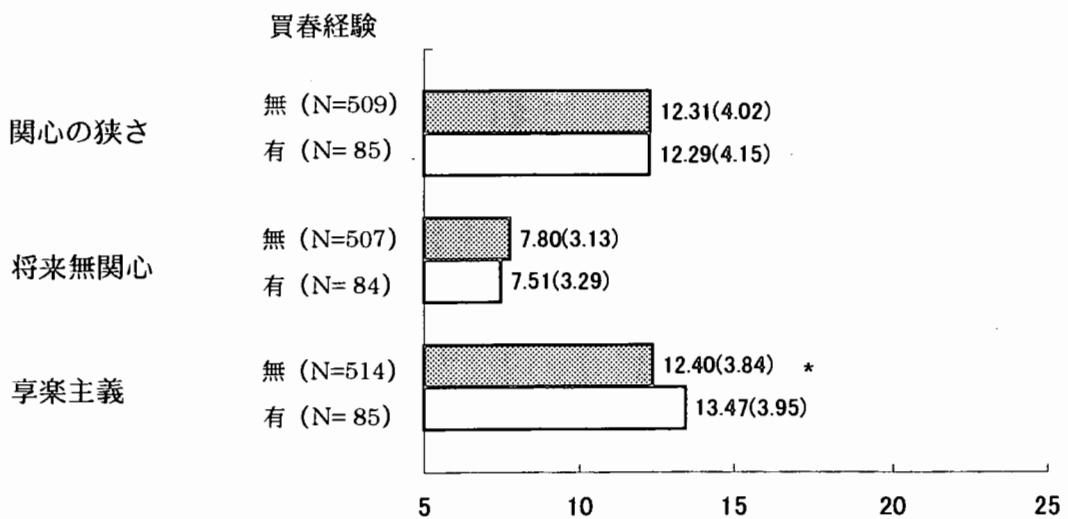
ミーアズムを「関心の狭さ」「将来無関心」「享楽主義」の下位尺度からなる尺度として『援助交際』に対する抵抗感強弱群と比較すると、すべての下位尺度において抵抗感の弱いものが高い得点を示した。自分さえよければそれでいい、今が樂しければそれでいい、樂しいことが重要だ、といった自己中心的で享楽的な態度が『援助交際』への抵抗感の弱さと関連していることを示唆している。こうした傾向は、先に実施された女子高校生についての結果と一致している。

買春経験の有無と比較してみると、享楽主義のみが関連しており、有群の得点が高い。買春行動が、今を楽しむ手段の一つとして捉えられているのだろうか。欲望が過剰に肥大化し、楽しみを追求することの延長上に買春行動があるのかもしれない。他の下位尺度との関連が見られなかったことから、経験有群は社会や他者に対する関心がない訳でもなく、刹那的に楽しみを貪っている訳でもない。しかし、自分の楽しみの追求に執着しすぎると、それが他者や社会にどのような影響を及ぼすのかという視点も失われてしまうのかもしれない。

### 『援助交際』に対する抵抗感とミーアズム



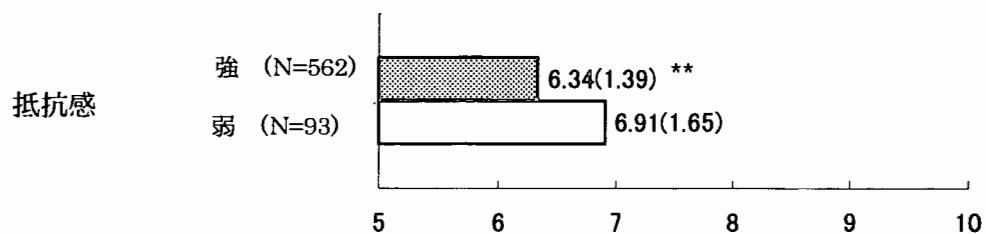
### 買春経験とミーアズム



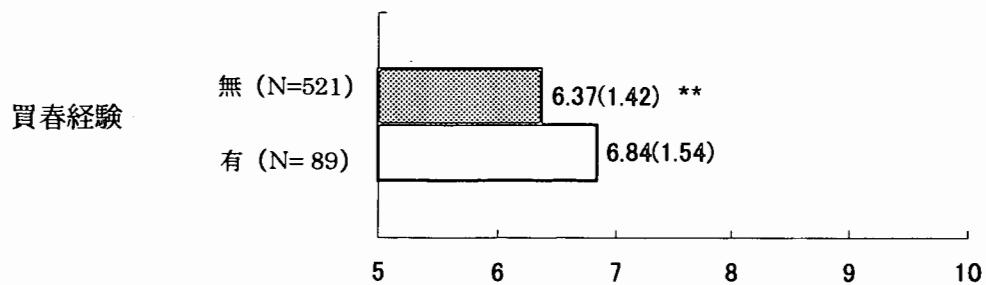
(3)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、「ぬくもり希求」も高い。

他者に優しくして欲しい、そばにいて欲しいといった「ぬくもり」を求める傾向を「ぬくもり希求」尺度として、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の有無と比較した。抵抗感の弱いものや買春経験の有るものは、「ぬくもり希求」得点も有意に高い。この傾向は女子高校生についての結果と一致しており、人間関係に満たされないものが、売買春という形で異性とかかわろうとする構造であり、両者を結びつけていると言えそうだ。

『援助交際』に対する抵抗感とぬくもり希求尺度



買春経験とぬくもり希求尺度

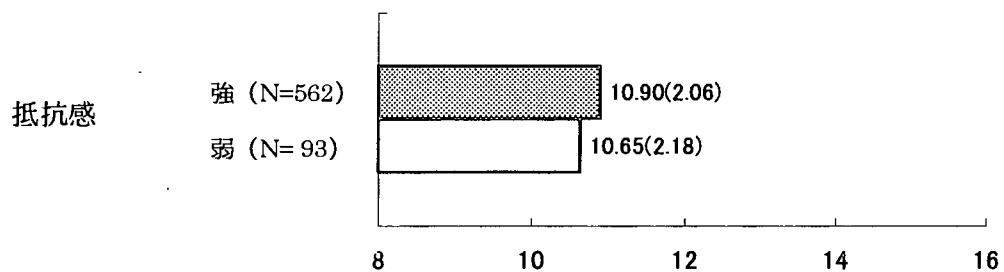


#### (4)買春経験の有るものの方が対人的スキルに富む。

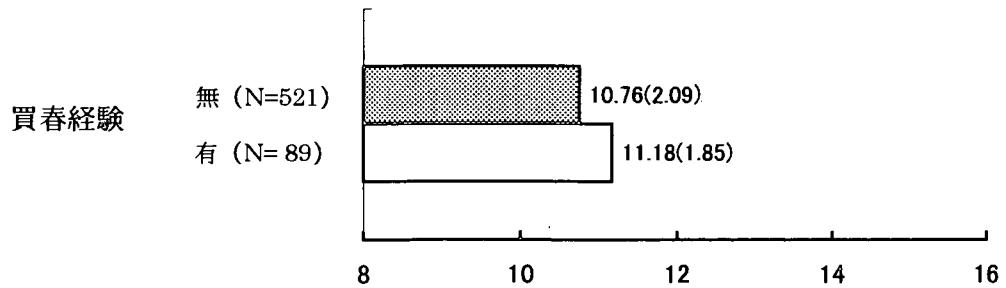
対人関係を円滑にすすめる具体的行動を「対人的スキル」として8項目からなる尺度を構成し、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無について比較した。『援助交際』に対する抵抗感の強弱とは関連がみられなかつたが、買春経験の有無と傾向差がみられ経験者の方が対人的スキル得点が高かつた。

買春経験の有ものは、相対的に社交的で対人的スキルに富んでいると、少なくとも自分では思っているようだ。他者、特に女性、との深く親密な対人的相互作用が苦手であるから、手っとり早く金銭で解決可能な買春をするといった、直線的で単純な理由は当てはまらない。買春するのは人付き合いが下手で対人的スキルがないからだという図式は当てはまらず、むしろ、対人的スキルを持つが故に対人関係を円滑にすすめた結果が買春行動に走らせるという可能性を示唆している。

『援助交際』に対する抵抗感と対人的スキル尺度



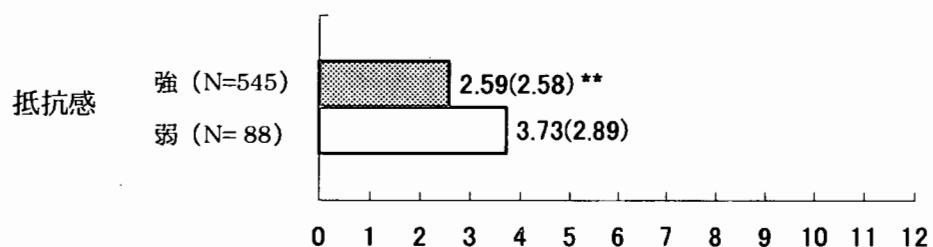
買春経験と対人的スキル尺度



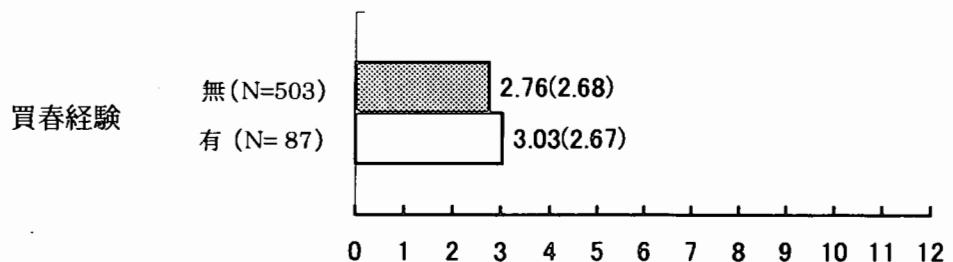
### (5)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは精神的に不健康

成人男性の精神的健康の指標として短縮版 GHQ を用いて、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無との関連を検討してみると、抵抗感の強弱で有意差が見られたが、買春経験の有無では差が見られなかった。抵抗感の弱いものほど精神的に不健康な状態にあるといえる。精神的不健康的表れとして『援助交際』に対する抵抗感の弱さを捉えることができそうだ。一方、買春経験の有無とは関連しておらず、抵抗感と買春経験とは別の次元と考えることができそうだ。

『援助交際』に対する抵抗感と精神的健康 (GHQ12) 尺度



買春経験と精神的健康 (GHQ12) 尺度

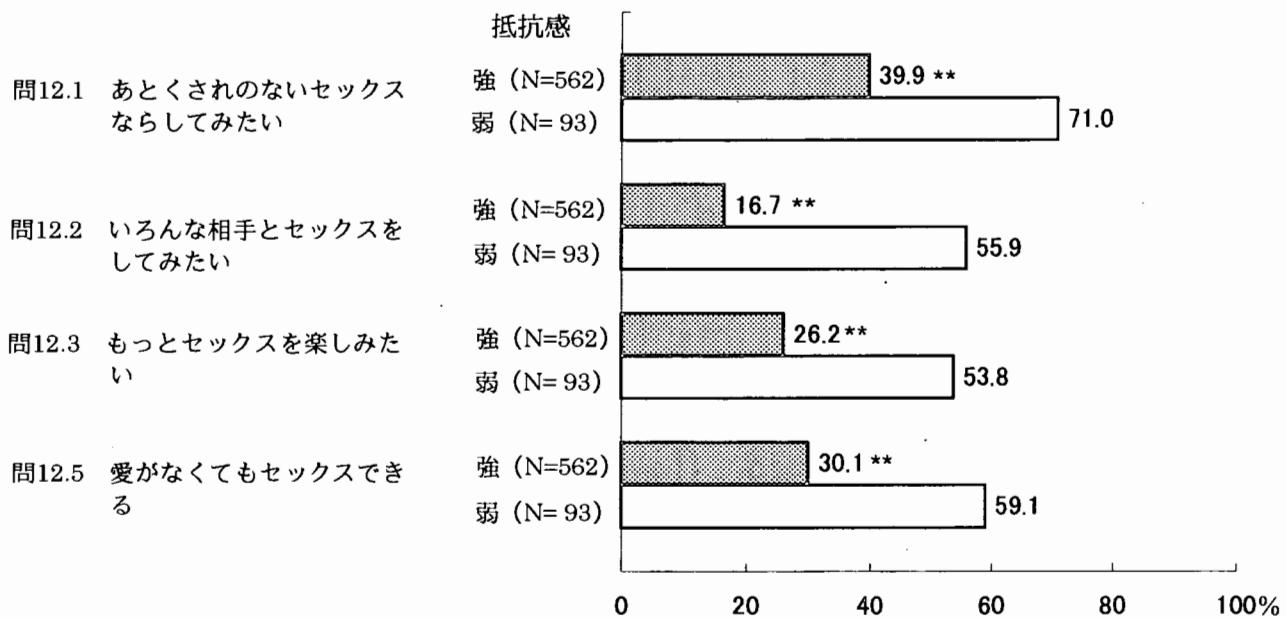


## [意識的側面]

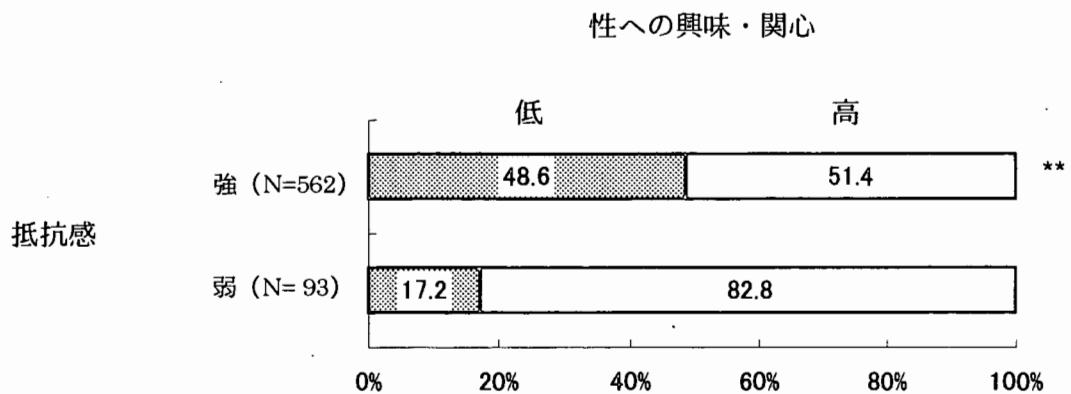
(1)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、性への興味・関心も高い。

「あとくされのないセックスならしてみたい」「いろいろな相手とセックスしてみたい」等から成る「性への興味・関心」尺度を構成し、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無を比較した。抵抗感の弱いものや買春経験者は、いずれも「性への興味・関心」が高い。

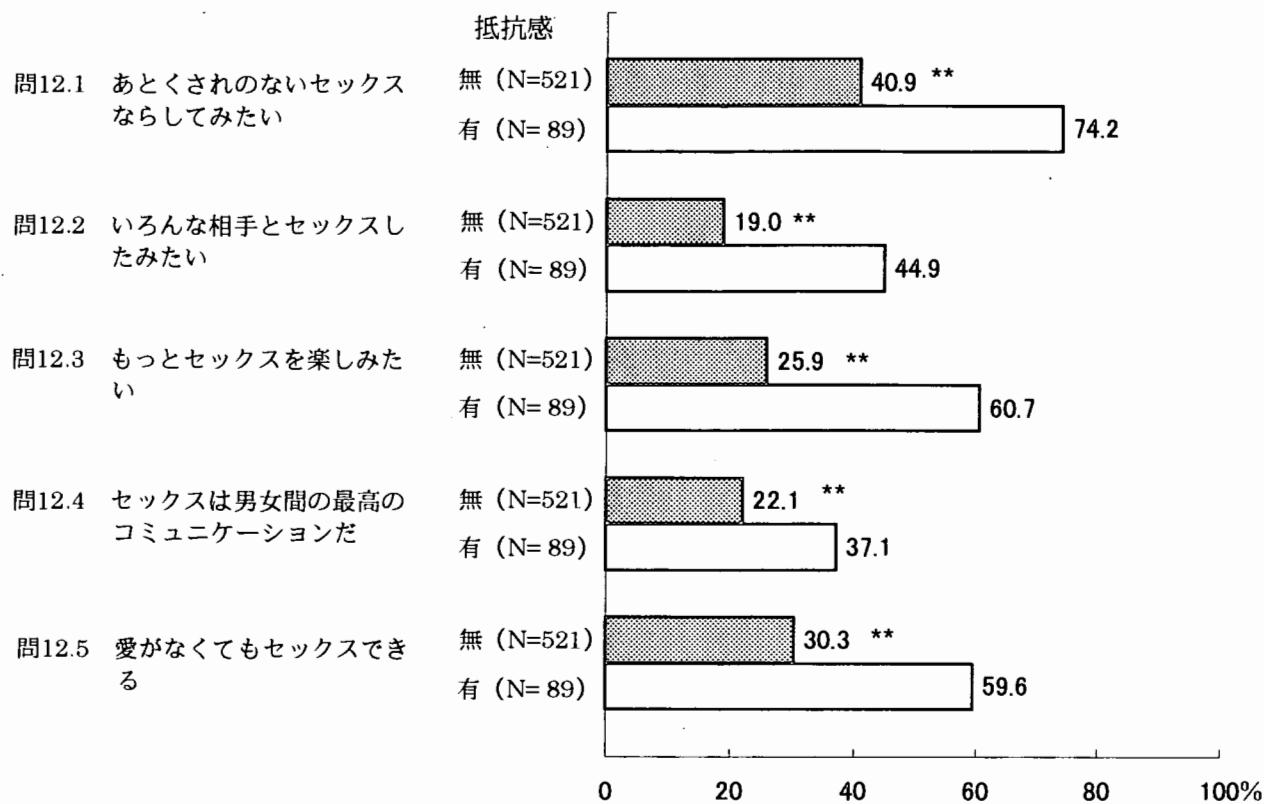
### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた性に対する意識



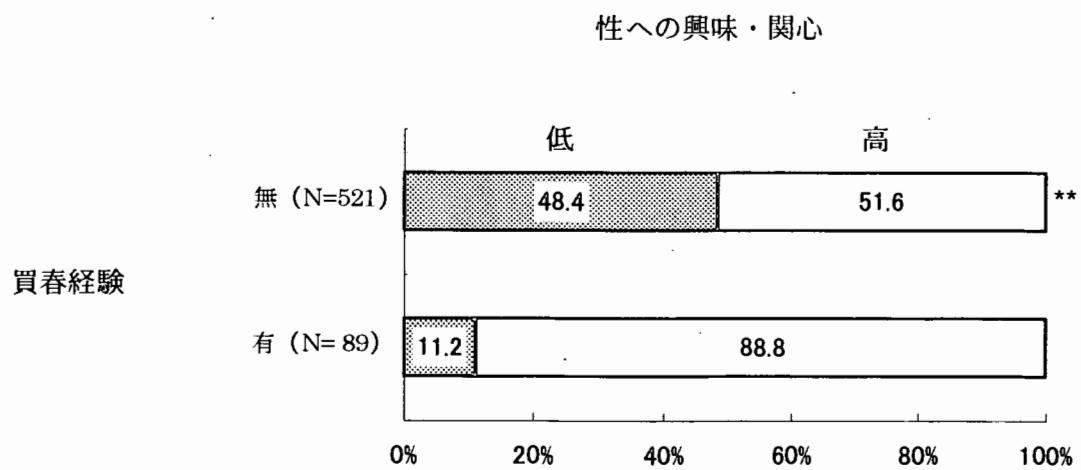
### 『援助交際』に対する抵抗感と性への興味・関心尺度



### 買春経験別にみた性に対する意識



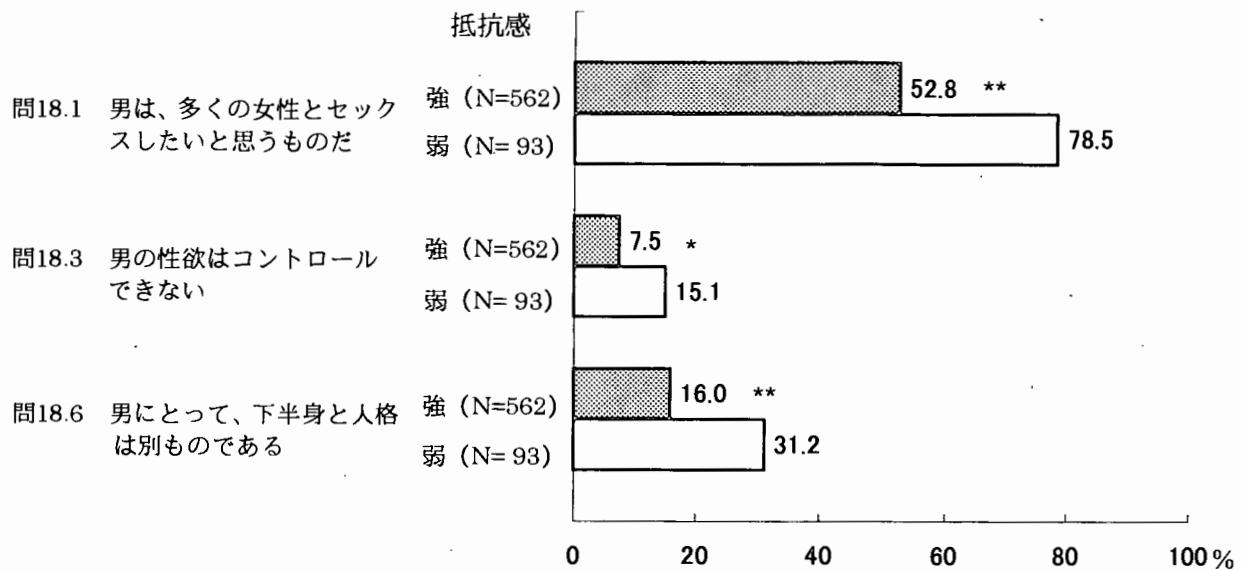
### 買春経験と性への興味・関心尺度



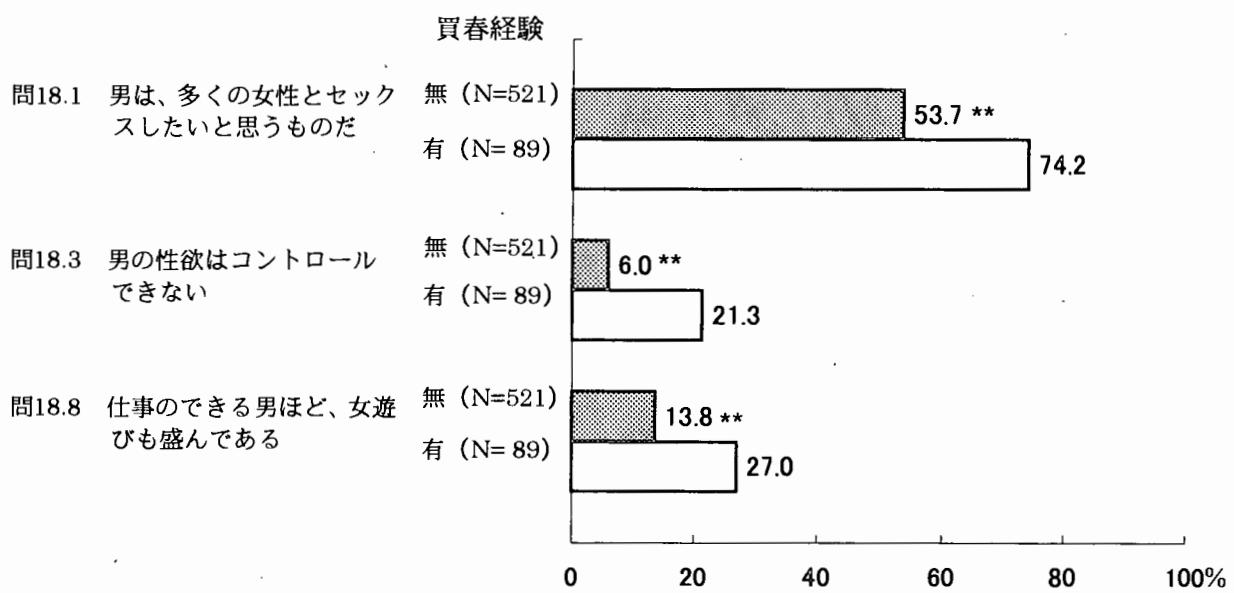
(2)性に対する積極性と男らしさを結びつけて考える。特に『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、この傾向が強い。

「男は、多くの女性とセックスしたいと思うものだ」は6割弱が肯定し、「仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである」も2割弱が肯定する等、性に対する積極性と男らしさが結びつけられて考えられている傾向がある。この傾向は、『援助交際』に対する抵抗感が弱いものや買春経験者に強く見られる。さらに、買春経験者は「男の性欲はコントロールできない」「男は性的にだらしなくても仕事ができればよい」といった項目を選択しやすく、買春経験を正当化させるのに役立っている。

### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた男性の性に対する意識



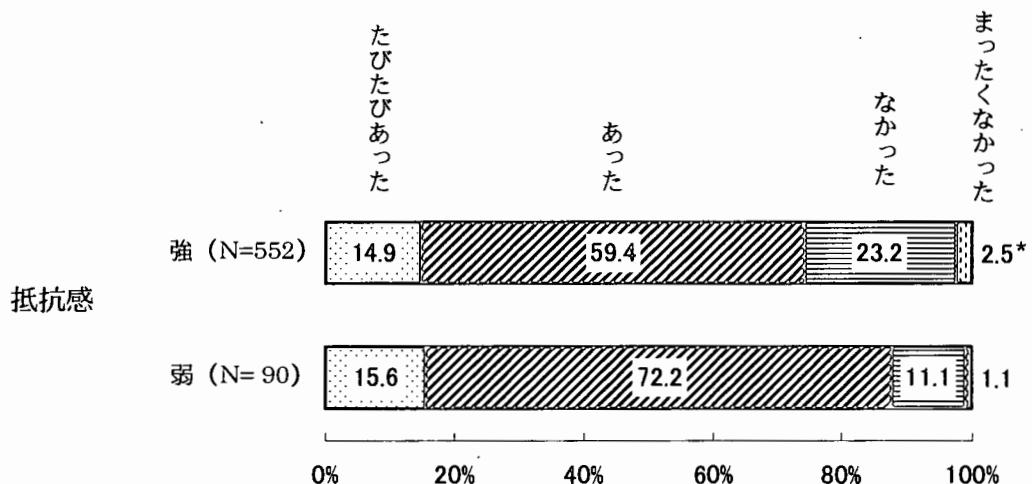
### 買春経験別にみた男性の性に対する意識



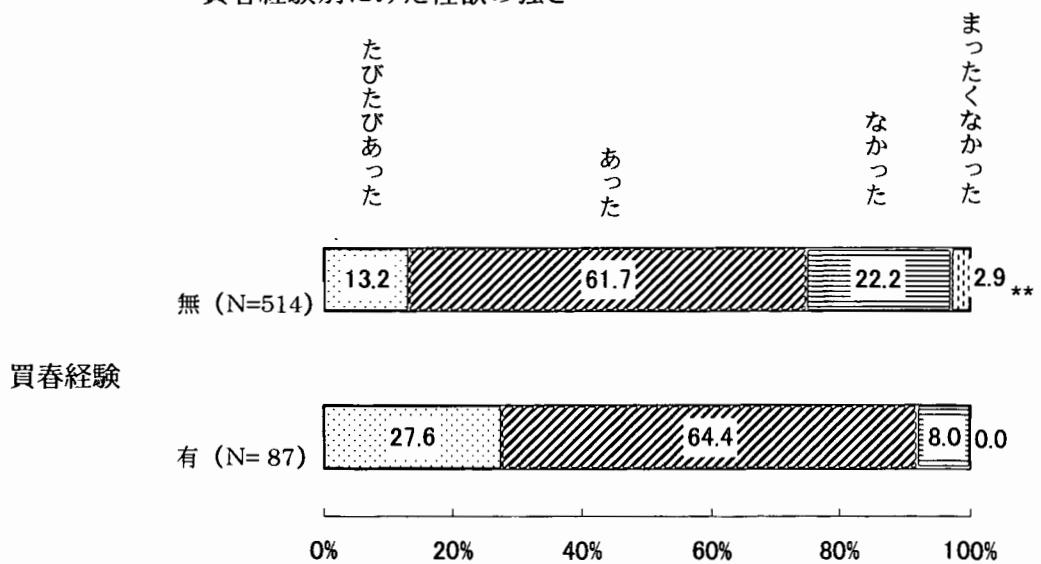
(3)性欲を感じる傾向は年齢とともに減少するが、40代後半～50代後半でも7割弱を感じている。

ここ2～3週間に性的欲求を感じたことがあるものは年齢とともに減少していくが、40代後半～50代後半の層でも、7割弱を感じたことがあるとしている。買春経験者の割合は高く、買春行動の生起に性欲が関連していると言える。さらに『援助交際』に対する抵抗感の弱いものの割合も高く、この欲求が女子高校生と金銭を媒介にして性交することを許容することにもつながっている。

#### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた性欲の強さ



#### 買春経験別にみた性欲の強さ



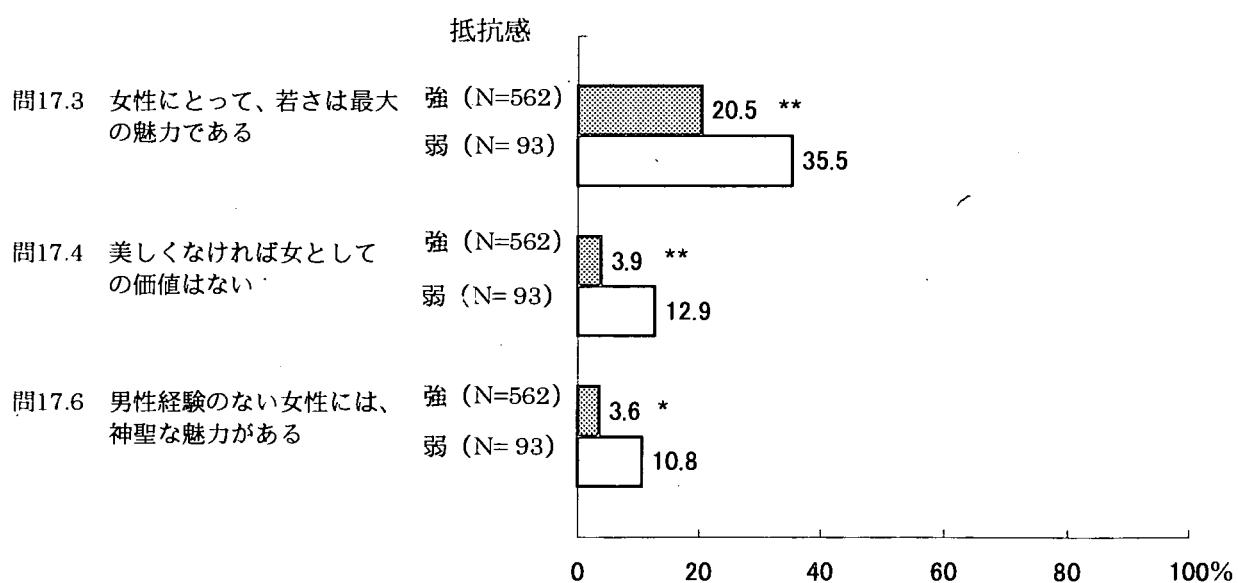
(4)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、女性をステレオタイプ視する傾向も強い。

「女性がいると職場の雰囲気がやわらぐ」に関して全体の8割が選択している。「女性にとって若さは最大の魅力」「美しくなければ女としての価値はない」「男性経験のない女性には神聖な魅力がある」といった女性に対するステレオタイプ的イメージを選択する割合は、『援助交際』に対する抵抗感の弱いものが多い。特に、「女性にとって若さは最大の魅力」の選択率は、抵抗感の強弱で差が大きく、弱いものは4割弱が選択する。

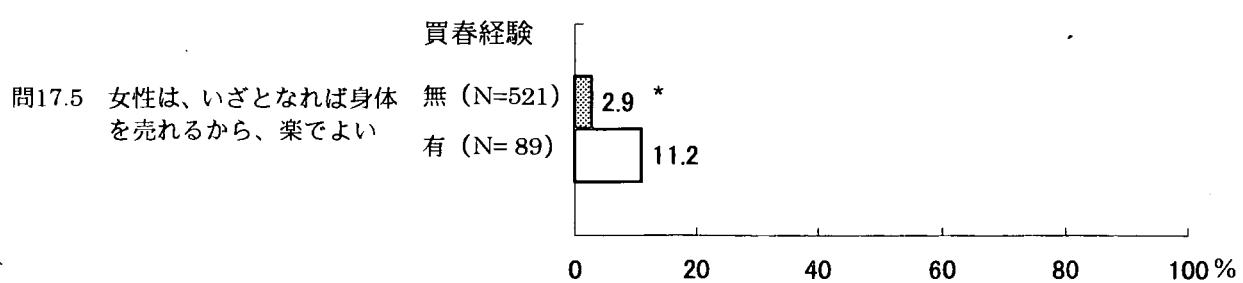
女性を商品化して捉える価値観が、『援助交際』を許容する心理的背景の一つとして機能している。

買春経験の有無で比較すると、「女性は、いざとなれば身体を売れるから、楽でよい」の選択率が経験有群に多く、買春行動の合理化とも考えられる。

『援助交際』に対する抵抗感別にみた女性に対するイメージ



買春経験別にみた女性に対するイメージ

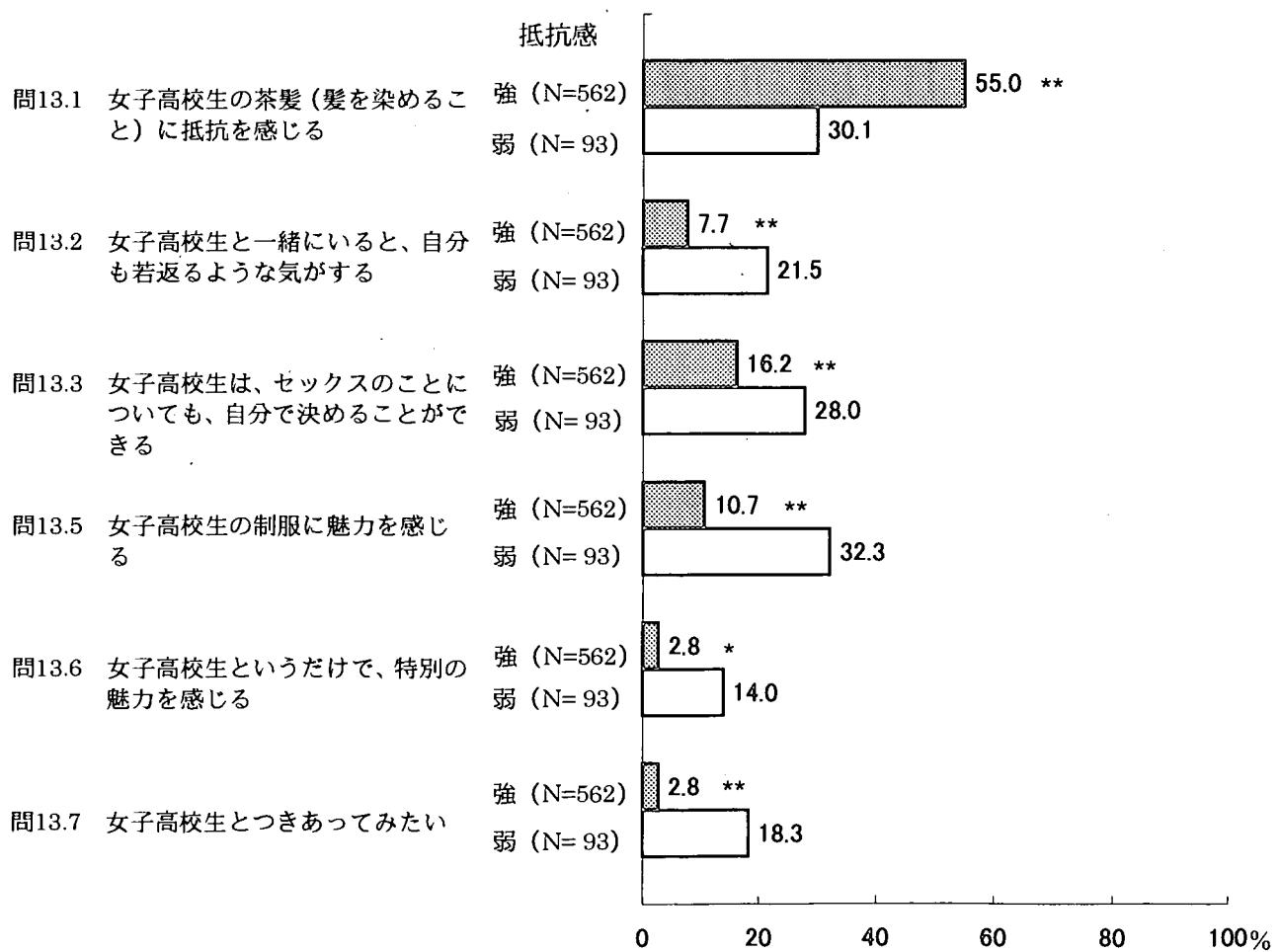


(5)『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、女子高校生を性的対象とみなしている。

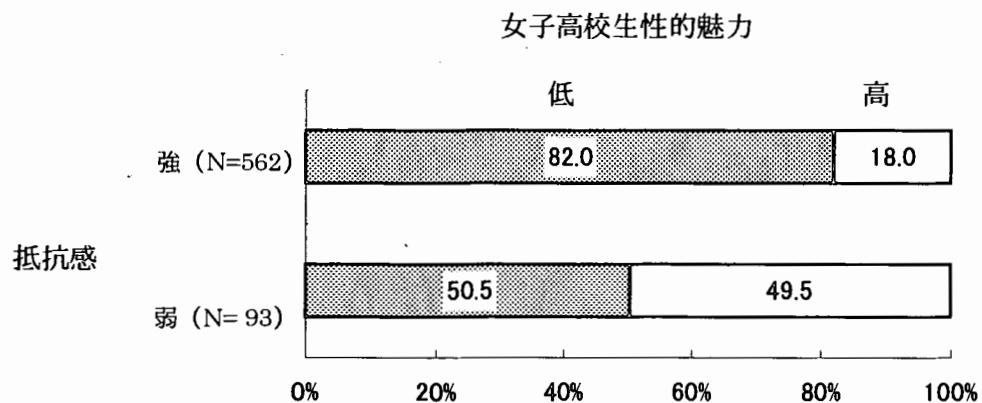
全体として「女子高校生とつきあってみたい」というように、彼女たちを性の対象として捉える意識は少ないが、『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、「制服に魅力を感じる」「セックスも自分で決められる」「一緒にいると自分も若がえる」等ほとんどの項目の選択率が高く、女子高校生を性的対象と見なしている様子が伺える。買春経験者も同様の傾向を示し、若い女性に性的魅力を感じる傾向が買春行動に結びついている。

年齢別に見ると、女子高校生に魅力を感じる程度は 20 代前半層が高く、茶髪などのファッションに対しても受容的である。比較的年齢が近いために身近な交際相手として性的魅力を感じやすいのであろう。

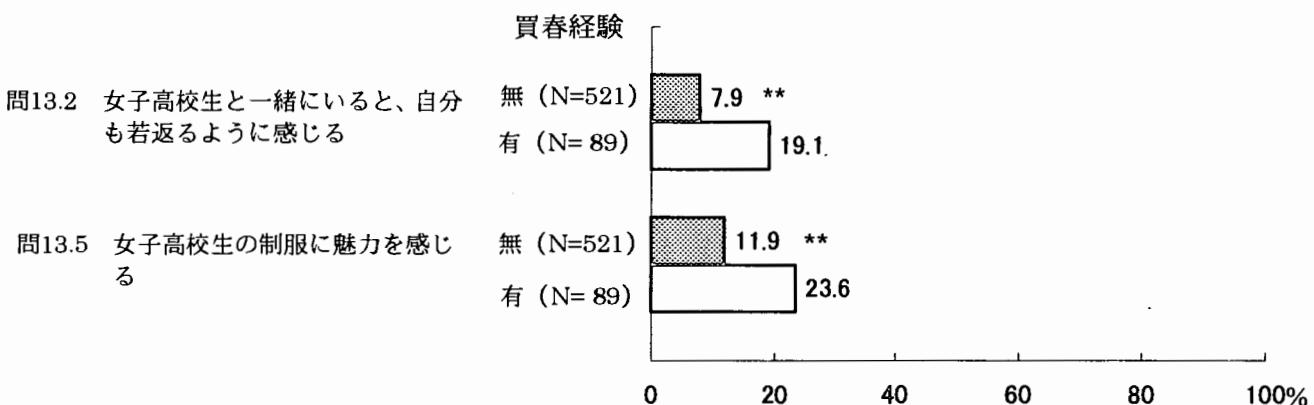
#### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた女子高校生に対する意識



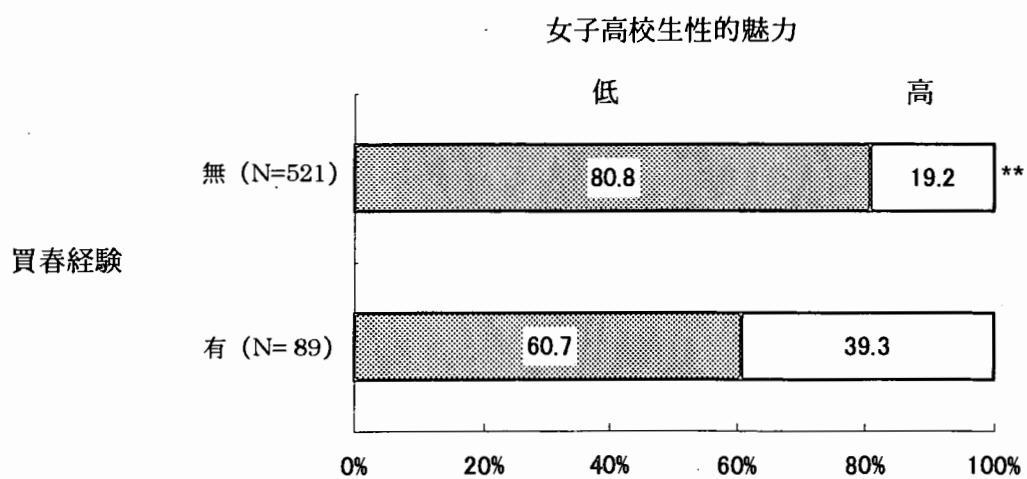
### 『援助交際』に対する抵抗感と女子高校生性的魅力尺度



### 買春経験別にみた女子高校生に対する意識



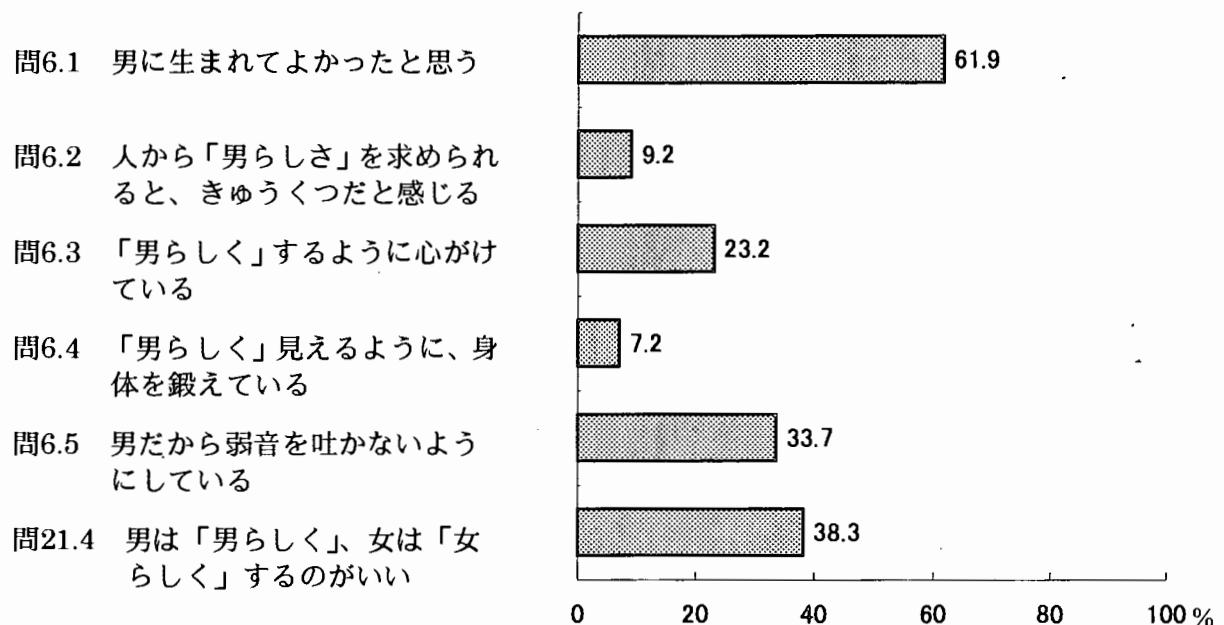
### 買春経験と女子高校生性的魅力尺度



(6)男らしさを肯定的に捉えるが、強い男性性希求を示すものは全体の2～3割程度。

「男に生まれてよかった」「男は男らしく、女は女らしく」の選択率は高く、男らしさが肯定的に捉えられている。しかし、「男らしくするように心がけている」「男だから弱音を吐かないようにしている」等強い男性性希求を示すものは全体の2～3割程度である。『援助交際』に対する抵抗感の強弱や買春経験者の有無では差が見られない。直接的な形で男らしさが買春に影響を及ぼしていないようだ。

男性性希求 (N=664)



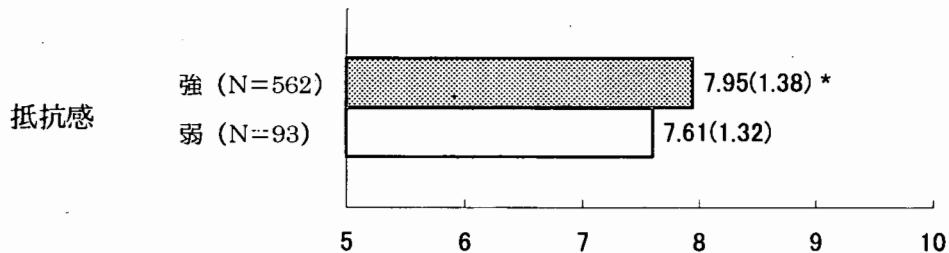
(7)『援助交際』に対する抵抗感の強弱は人権意識や差別意識と関連するが、買春経験の有無との関連性は見られない。

どんな人も平等である」「犯罪者の人権を尊重するのは不愉快だ」等からなる人権意識尺度を構成し、『援助交際』に対する抵抗感の強弱や買春経験の有無と比較した。抵抗感の強いものが人権意識も高いが、経験の有無では差が見られない。

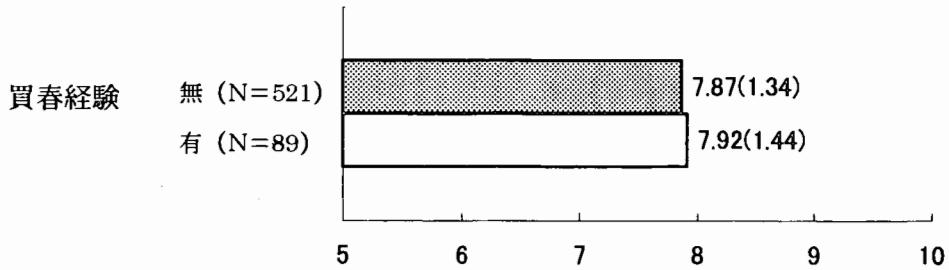
偏見に関して、抵抗感の弱いものほど、「血液型で人を見る」等他者に偏見を抱きやすい傾向が示された。一般に、特定の対象に偏見や差別意識を持つものは他の対象に対しても否定的態度を示しやすいとされているが、『援助交際』を許容的に認めることと、社会一般に流布している偏見やステレオタイプをも無抵抗に受け入れることとは同一の心理として位置づけられるようだ。『援助交際』報道に対しても無批判的に受け入れ、『援助交際』を受容する価値観を形成してしまうのだろうか。

買春経験の有無で差が見られなかったのは、抵抗感が意識的側面で買春経験は行動であるために、意識よりも家族構成や生活スタイルなどの変数が関与したからであろう。

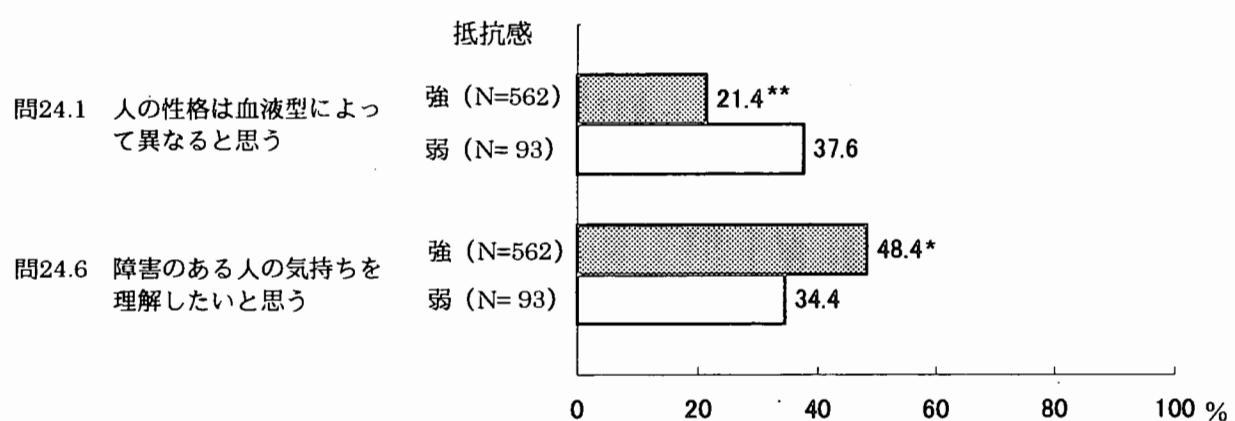
『援助交際』に対する抵抗感と人権意識尺度



買春経験と人権意識尺度



### 『援助交際』に対する抵抗感別にみた偏見



#### 4. 男女平等意識と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験

##### (1)個人生活での男女平等規範意識の高さは買春許容意識の低さと結びつき、買春許容意識の低さは買春経験と結びつく。

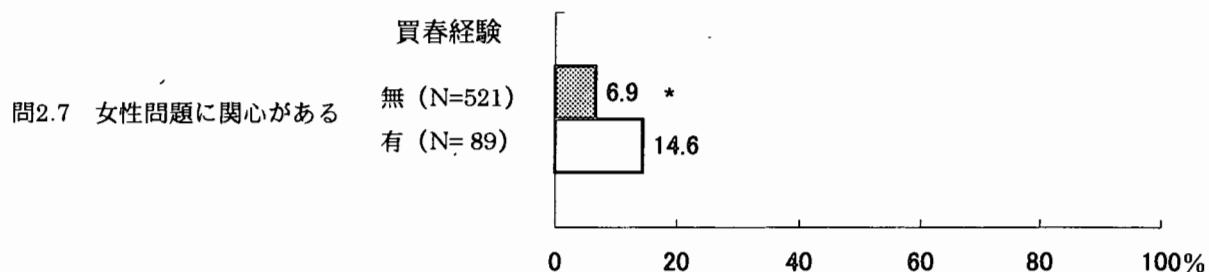
男女平等意識に関わる意識として「性差別認識」「女性の自立への関心」「社会生活における男女平等規範意識」「個人生活における男女平等規範意識」の諸侧面を考え、「女性の自立への関心」を除いて尺度化し、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無を比較した。いずれの尺度においても、抵抗感の強弱や買春経験の有無と直接的な関連を見いだせなかった。「女性の自立への関心」に関して、買春経験者が「女性問題に关心がある」の選択率が高かった。これは、「女性問題」の意味を「政治家の女性問題」といったスキャンダルの意味で受け取ったからとも考えられる。

しかし、「女性に高い学歴は必要ない」に関して、『援助交際』に対する抵抗感が弱いものや買春経験者に選択率が高く、「生理中の女性は情緒的に不安定になるので、仕事にさしわきやすい」に関して、『援助交際』に対する抵抗感の弱いものの選択率が高い。前者は女性に対する学歴不要論であり、後者は女性の能力について男性とは違うものだという考え方を合理化しようとする発想でもある。その意味で、何らかの男女平等意識との関連を示している。

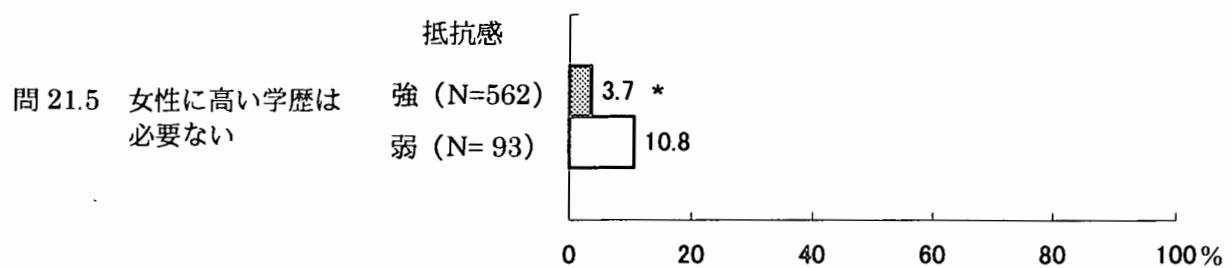
そこで、「社会生活・個人生活での男女平等意識が低いほど買春許容意識が高くなり、結果として買春行動が起こる」という仮説を設定しパス解析を行ってみると、「個人生活での男女平等規範意識が低いほど、買春許容意識は高くなる。次いで、買春許容意識の高さは、買春行為に結びつく」という道筋が分析された。

社会生活での男女平等規範意識については、買春意識との関連性が見いだせなかった。社会生活での男女平等規範意識を、男女のあり方に関する一般論を測定するものと考えれば、一般論としてではなく、男女平等を自分自身に引きつけて捉えられるかどうかが、買春を抑える鍵と言えそうだ。

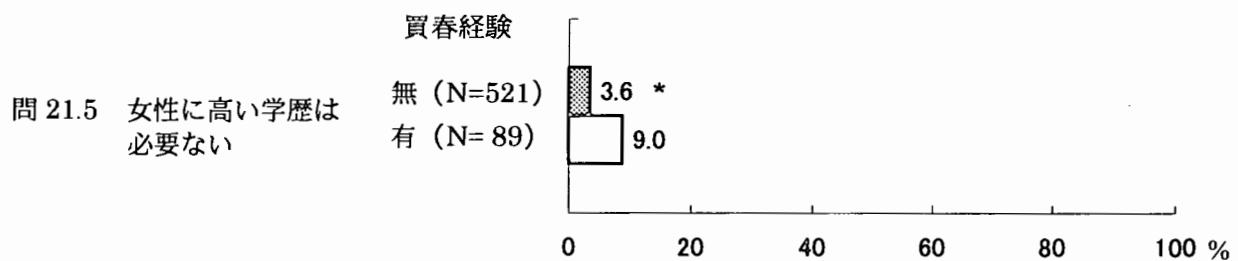
買春経験別にみた女性の自立への関心



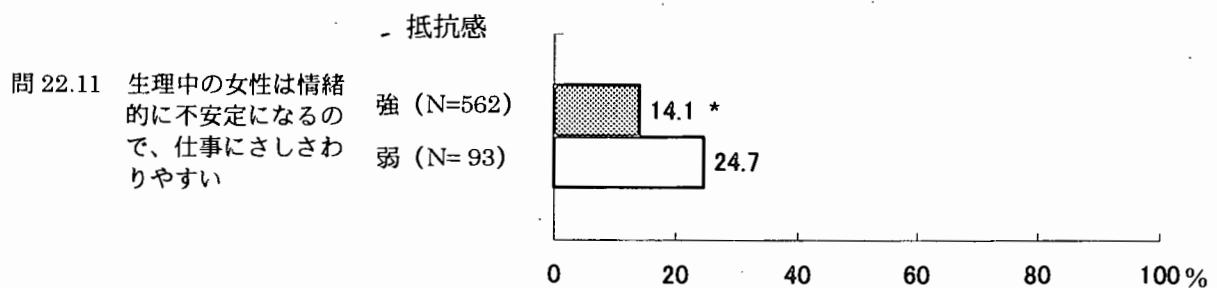
『援助交際』に対する抵抗感別にみた社会生活における男女平等規範



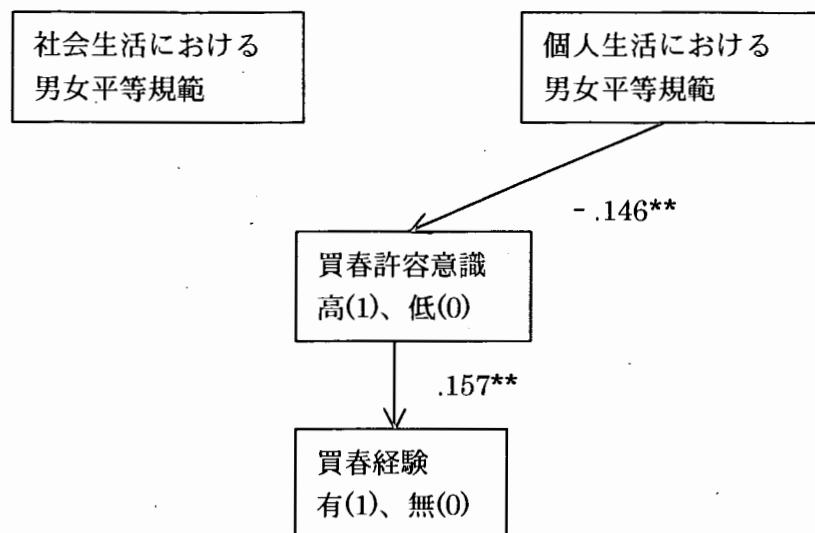
買春経験別にみた社会生活における男女平等規範



『援助交際』に対する抵抗感別にみた生物学至上主義



## 男女平等規範と買春経験に関するパス解析の結果



## 第Ⅱ部 調査結果

## 第1章 研究目的と実施状況

### 第1節 研究の目的

これまでに、女子高校生を対象にして面接調査及び質問紙調査を実施し、女子高校生たちが『援助交際』に対してどのような意識を持っているか、『援助交際』に対する彼女たちの批判的・肯定的態度の背景要因について分析してきた(福富ら, 1997, 1998)。その結果、家庭での親子関係、周囲の友人環境、経済環境としての「相対的貧困観」、ミーイズムといった心理的要因が浮き彫りにされ、さらに男女平等意識の確立が今後の重要な課題となることが指摘された。

ところで、『援助交際』を生み出す背景として、女子高校生たちを取り巻いている社会(大人)の意識を無視するわけにはいかない。彼女たちの問題行動は社会そのものに内包されている問題の反映であり、社会を映し出す鏡として社会の病理の反映でもある。特に『援助交際』という問題行動の分析に際して、一方の当事者である女子高校生だけを分析の対象にするだけでは不十分である。もう一方の当事者である成人男性の分析を欠かすわけにはいかない。しかし、『援助交際』に関するこれまでの議論の大半は、専らその焦点が売る側の女子中高生に当たられ、買う側である成人男性に関するものは極めて少ない。

こうした反省から福富(1999)は、首都圏に在住している30歳以上の成人男性33人を対象にして、『援助交際』について、『援助交際』の相手をする大人について、男女平等について、等を面接により分析した。

『援助交際』については、「お金が欲しいから」という動機を指摘する声が多いが、この理由だけで実際に『援助交際』に走る女子高校生とそうでないものの違いを説明することはできない。恐らく、全ての女子高校生は「お金を欲しい」と思っているはずだから。親の愛情や教育の問題として一般化する傾向も見られたが、それならば同じ物質社会や豊かな社会に生きる大人側の生活態度も解明しなければなるまい。言語的なコミュニケーション能力の欠如も指摘されたが、これは家庭の中で子どもとどのようなコミュニケーションを開拓しているかという問題につながる。

『援助交際』の相手をする大人については、需要があるからと大人側の責任が指摘されるが、果たしてその中に自分自身の問題性が含まれているのだろうか。男の心理や本能として一般化する傾向の中に、自分自身の中にある意識を合理化しようとする姿勢が含まれていないだろうか。その意味で、性に対する男性の意識を明らかにする必要があろう。その際に、人権や性差別との関連性も明らかにする必要がある。

男女平等については、男女差や男女の役割を認めた上で、お互いに尊重しあうという考え方が多い。本人自身は気づいていないが、差別的でステレオタイプ的な男女の違いを前提にしているものも少なくない。平等と考える根拠や不平等と考える根拠も問題になる。『援助交際』と男女平等意識との関連も明らかにする必要があろう。

いずれにせよ『援助交際』は、男女平等社会の実現に抗うものであり、男女の平等な関係に抵触するものである。しかし現実の社会の中には、未だに不必要的われなき性別による束縛が数多く存在している。こうしたいわれなき束縛を一つ一つ明らかにし、そこから解き放たれることができ、男女平等社会の実現を可能にし、ひいては『援助交際』という問

題行動の払拭につながると思われる。

本調査は、以上の視点に立脚しながら、成人男性が『援助交際』や買春に対してどのような意識をもっているのか、『援助交際』に対する抵抗感の強弱や買春経験の有無に結びつく要因の解明を目的とする。

## 第2節 調査の枠組み

本調査では、『援助交際』や売買春に関する既存の評論、内外の研究、女子高校生に対する意識調査や、成人男性に対する面接調査の結果に基づき、図 1-2-0-1 に示す調査枠組みを設定し、調査票を作成した。

調査では、『援助交際』と買春経験を主要な測定項目とし、これらの経験を規定する諸要因を大きく基本的属性と背景的心理に分けて捉えることとした。

基本的属性としては、「回答者の年代」、「職業」、「階層帰属意識」、「家族構成」などを測定した。

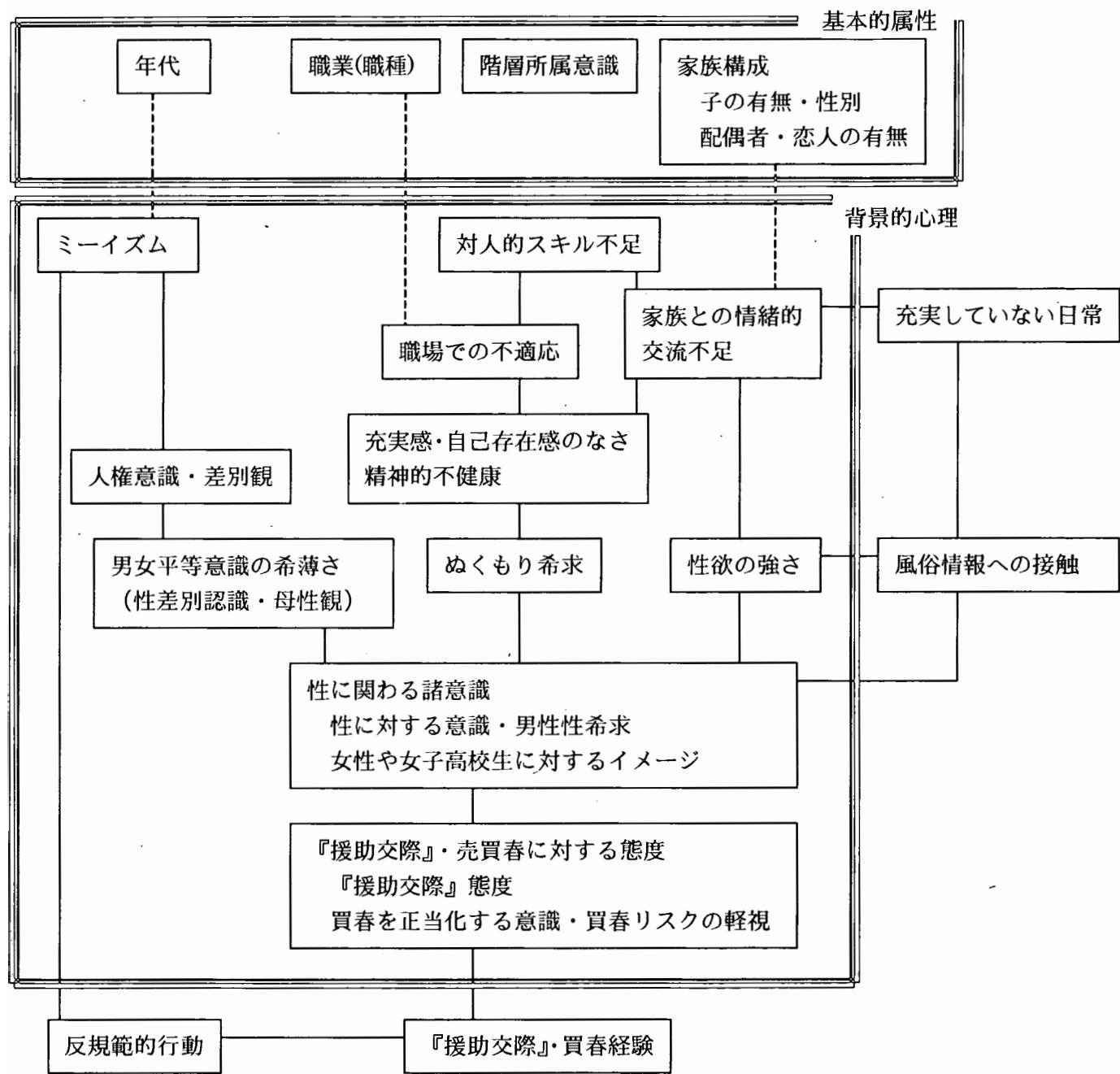
背景的心理としては、自分以外のことには関心を持たない「ミーイズム」から始まり、「人権意識・差別観」等の社会意識を経て、「男女平等意識の希薄さ」に至る側面を想定した。この意識は性差別の認識の薄さや母性の捉え方と密接に関わっている。

一方、対人関係に関する側面として、対人関係のとり方がうまくない「対人的スキルの不足」や「職場での不適応」や「家族との情緒的交流不足」を捉えた。こうした対人関係の問題は、「充実感や自己存在感のなさ」や「精神的不健康」という内面的な問題に広がり、寂しさを紛らわすために人との接触を持とうとする「ぬくもり希求」に繋がると仮定した。

こうした男女平等意識の希薄さやぬくもり希求に加えて、「性欲の強さ」や「風俗情報への接触」経験が、「性に関わる諸意識」に影響を与え、「『援助交際』や売買春に対する態度」を規定し、「『援助交際』・買春経験」をもたらすと仮説している。「性や買春に関わる諸意識に対する態度」としては、性（セックス）に対する意識や男らしさを求める気持ち（男性性希求）、女性に対するイメージや、「女子高校生」に対するイメージを測定した。

「『援助交際』・売買春に対する態度」の中では、『援助交際』をどう受け止めるかという態度や、買春を正当化する意識、買春に伴うリスクを軽視する態度などを取り上げた。

図 1-2-0-1 調査の枠組み



### **第3節 調査の実施状況**

#### **1. 調査地域と標本抽出方法**

##### **(1)調査地域**

首都 40 km 圏 (70 地点)

##### **(2)調査対象者**

20~59 歳の男性

##### **(3)標本抽出方法**

単純無作為 2 段抽出。対象地域を町丁単位に分けて、70 地点を無作為抽出し（第 1 段）各地点の住民基本台帳から該当年齢者男性を 20 名ずつ無作為抽出した（第 2 段）。

#### **2. 調査方法と期間**

##### **(1)調査方法**

無記名の質問紙による郵送調査法。

回収率を高めるために、返送通知葉書と抽選謝礼、3 回のコールバックなどの工夫を行った。

調査票の送付時に、調査票の返送を確認するために、返送通知葉書を同封し、回答後に調査票とは別に投函を求めた。回答謝礼として、全員の方に 500 円の図書券を同封した。また、返送通知葉書が届いた回答者の中から抽選で数名に、回答謝礼を送る旨を伝えており、回収後に、調査実施機関が抽選を行い、当選者に商品券を送った。

コールバックは 3 回行った。3 週間後に、返送通知葉書が届いていない対象者に対して、葉書で督促を行った（第 1 回コールバック）。38 日後に、返送通知がない対象者に調査票を再送し、回答をお願いした（第 2 回コールバック）。最後に、52 日後に返送通知がない対象者に、督促葉書を送った。59 日後に、回収を打ちきった。

この実施方法は、マンジョーニ（1999）などを参考にして決定した。

##### **(2)調査実施期間**

1999 年 8 月 30 日から 10 月 27 日。

##### **(3)調査実施機関**

（株）マーケッティング・サービス。

#### **3. 調査数と回収数**

##### **(1)調査数**

1,400 名。うち、20 名は調査票が未到着。

##### **(2)有効回収数と未回収票の内訳**

回収数は 678 票。うち、対象者違いや回答不備 14 票を除き、664 票を有効回答票とした。有効回収率は 48.1% である。

回収票の回答到着時期別の構成比を、表 1・3・3・1 に示す。

表 1・3・3・1 回収票の回答到着時期別の構成比

時期	到着数	構成比(%)
督促なし (9月20日まで)	410	60.5
第1回督促 (10月7日まで)	132	19.5
第2回督促 (10月20日まで)	119	17.6
第3回督促 (10月27日まで)	17	0.3

未回答者のうち、葉書で回答拒否の意志を伝えられた方が3名あり、調査票を白紙で返送された方が57名あった。調査実施機関に直接、電話で苦情を伝えられた方が30名あった。電話連絡のあった方のうち苦情を伝えられた方には、実施担当者や調査代表者が、調査の目的や調査意図などを説明した。

#### 第4節 回答者の構成

##### 1. 回答者の基本的属性

回答者の基本的属性は以下の通りである。

回答者の年齢（図 1・4・1・1）は、20歳代が19%とやや少なく、50歳代が32%と多かった。全般に高齢層に偏っている。学歴（図 1・4・1・2）は、「大学・大学院卒または在学」が半数弱と多く、「高校卒」3割で続いている。職業（図 1・4・1・3）は、「現業職（製造、建設・土木、運輸、保安などの職業に従事する者、及び勤めている職人）」や「管理職（公共機関、企業・団体で管理的機能を有する者）」が2割前後と共に多かった。

「現在の衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準は、世間一般と比べてみて」とのような水準にあると思うと、階層帰属意識を尋ねた。回答は図 1・4・1・4 の通り、「中の中」が3割と最も多く、「中の上」から「中の下」までの中流階層への帰属意識を持つ人が、75%を占めていた。

配偶者の有無（図 1・4・1・5）をみると、有配偶者が7割を占めていた。

図 1・4・1・1 年齢構成 (N=664)

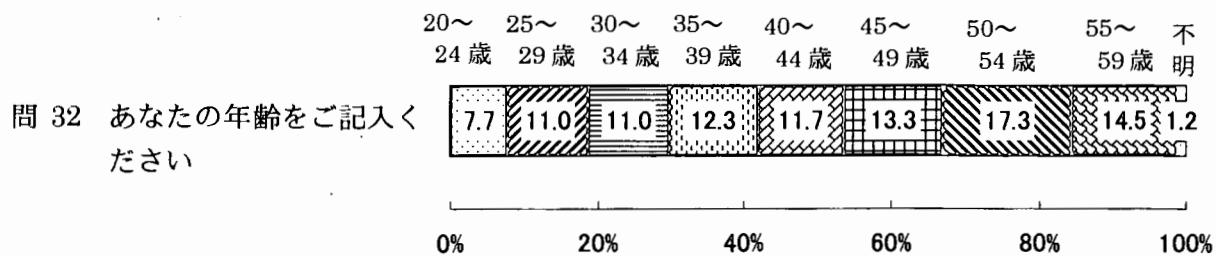
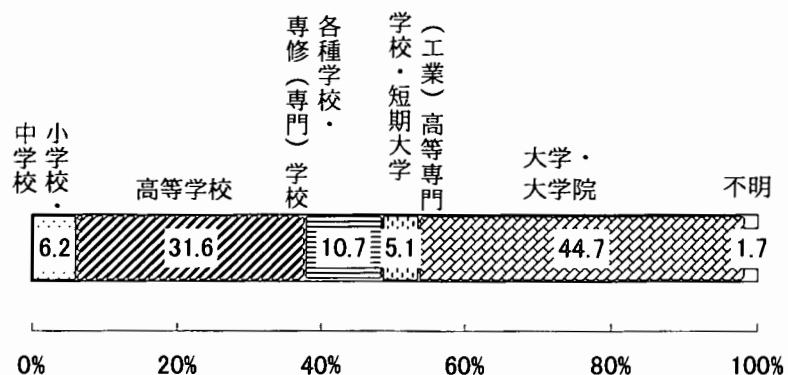
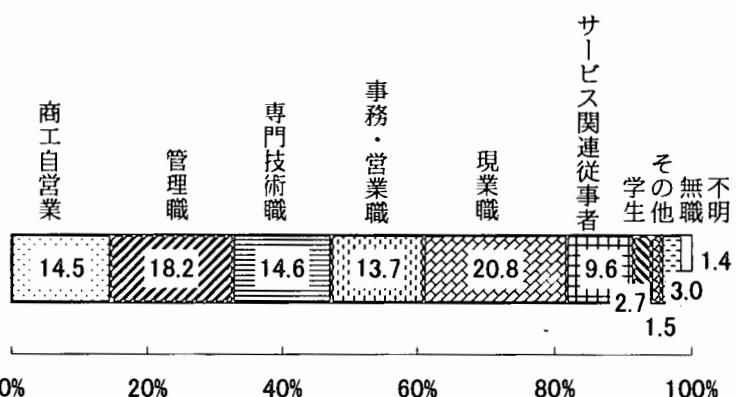


図 1・4・1・2 学歴 (N=664)



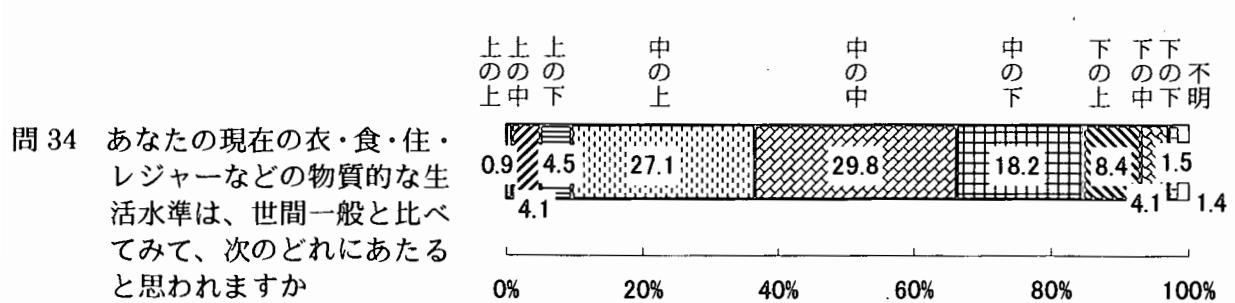
問 33 あなたが最後に卒業（中退を含む）された、あるいは現在在学されている学校はどれですか

図 1・4・1・3 職業 (N=664)



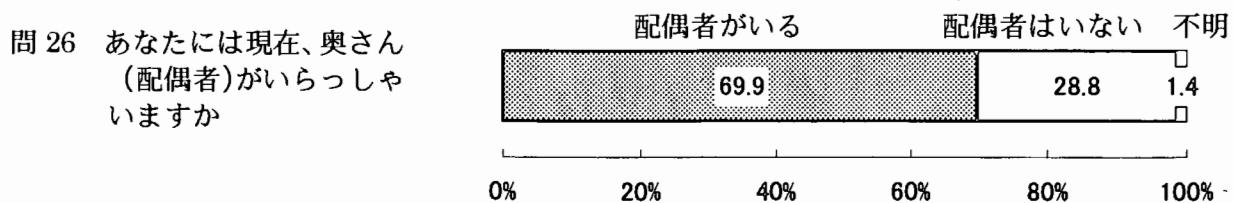
問 31 あなたの職業の業種は以下のどれにあたりますか

図 1・4・1・4 階層帰属意識 (N=664)



問 34 あなたの現在の衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準は、世間一般と比べてみて、次のどれにあたると思われますか

図 1・4・1・5 配偶者の有無 (N=664)



## 2. 回収時期別の分析

前節で述べたように、本調査の有効回収率は5割弱にとどまっていた。調査に回答した人としなかったとの間には、意識や行動の差がある可能性を考えられる。本調査では3回にわたりコールバックを行っており、コールバックの後の方で回答を返送した人は、回答をしなかった人（非回答者）と類似した社会的属性や態度を有していると推定される（Rosenthal & Rosnow, 1974）。

そこで、回答時期別に、回答者の年齢、学歴、職業、階層帰属意識、配偶者の有無などの基本属性と、本調査の主要な測定項目である『援助交際』態度（第2章）や買春経験（第3章）への回答率を比較した。

比較（カイ<sup>2</sup>乗検定）の結果、配偶者の有無に差が見られた。有配偶者の比率を比べると（表1・4・2・1）、督促なし層に比べ、第1回督促以降に回答を寄せた層は、配偶者のいる比率が低くなっていた。

表 1・4・2・1 回答時期別にみた有配偶者

	N	配偶者あり(%)
督促なし	401	74.6
第1回督促まで	125	61.6
第2回督促まで	114	69.3
第3回督促まで	15	60.0

買春経験率は（表1・4・2・2）、有意傾向（6%水準）にとどまるものの、4層間に差の傾向が見られ、最後に回答を寄せた層（第3回督促まで）の経験率が際だって多くなっていた。また、詳細な結果は表示しないが、「他の男性の妻（人妻）とセックスをした」（第3回督促層20%）や「海外で売春婦を買った」（同14%）の回答も、第3回督促層で高くなっていた。

表 1・4・2・2 回答時期別にみた買春経験者

	N	買春経験あり(%)
督促なし	371	13.7
第1回督促まで	116	18.1
第2回督促まで	109	11.0
第3回督促まで	14	35.7

第3回督促層は、他の層に比べて、非回答者層と類似した態度や行動を示すと推定される。したがって、回答しなかった人（非回答者）は回答者に比べ、年齢や学歴などの基本的属性に差はないものの、配偶者のいない人が多く、買春経験が多いものと推定される。非回答者を含めた成人男性全体の買春経験率は、本調査の結果より高いものと考えられる。この点に留意されながら、調査結果を受け止めていただきたい。

### 3. 本報告書の表記について

本報告書の表記は、下記の原則に基づいている。

卷末の単純集計表及び、各項目に対する回答頻度を除いて、本報告書の分析において表記される数値は、原則として無回答（N A）を除外して算出されている。クロス表においてもN Aを除いてあるため、各層の回答者の和は、回答者の総数とは一致しないものもある。

とくに記載していない限り、図表中の数値は%の値を示している。表中の「N」は、回答者の人数を示している。表中の「SD」は不偏標準偏差を示している。

本報告書では、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の有無別の分析を行っている。この分析に当たっては、各種の検定を行い、原則として、有意差のみられた部分のみを紹介している。紹介されていないクロス集計の結果については、卷末の集計表を参照されたい。

統計的検定の結果の記述は、有意水準5%を基準とし、5%水準に\*印を、1%水準に\*\*印を、それぞれ付記した。使用した検定は、原則として、 $2 \times 2$ のクロス表はFisherの直接確率計算、 $2 \times 2$ 以外のクロス表は、 $\chi^2$ 検定、2群の平均値の差はt検定、3群以上の平均値の差は分散分析を使用した。記述が煩雑になるのを避けるために、検定値などは表記していない。

## 第2章 『援助交際』に対する態度や経験

### 第1節 『援助交際』に対する抵抗感

#### 1. 項目の構成

本調査では福富ら（1998）に基づき、『援助交際』に対する態度を多角的に捉えるため、回答者に『援助交際』に対する抵抗感をたずねる一連の設問を用意した。大学生を対象とした予備調査（菊島ら、1999）や福富ら（1998）で既に指摘されている事であるが、『援助交際』がどのような行動を含むかについてのイメージは必ずしも一定していない。そこで、本調査においても設問中には『援助交際』という言葉を直接用いず、以下のような具体的行動を提示し、それに対する心理的な評価（抵抗感）を測定した。

「金品と引き換えに女子高校生とお茶やデートをすること」（『援助交際：お茶』）

「金品と引き換えに女子高校生とセックス（性交）すること」（『援助交際：性交』）

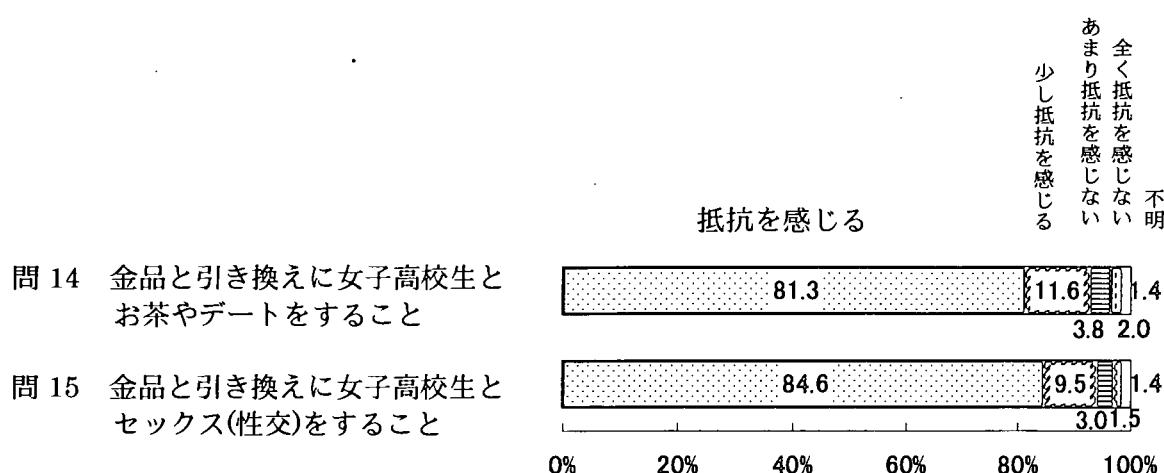
福富ら（1998）は、「セックス（性交）以外の性的行為をすること」についての抵抗感もたずねていたが、本調査では測定していない。また福富ら（1998）は、行為の主体を自分自身と他者の2種類に分けて、それぞれの行為に関する抵抗感もたずねていたが、本調査ではこれも測定していない。

福富ら（1998）によると、女子高校生においてこれらの諸行動への許容感（抵抗感の弱さ）は、段階を経て連続的に関係していることが示されている。すなわち「お茶やデート」を許容することは、「セックス以外の性的行為」を許容することにつながり、「セックス以外の性的行為」の許容が、「セックス」を許容する態度へとつながっているのである。さらにこの各段階において「他者」から「自分」へと順を追って許容する態度へとつながっている。自分以外の他者が『援助交際』を行うことに抵抗感を感じなくなることは、自分がその行動をとることへの抵抗感を失う前段階になっていることも明らかにしている。このように、『援助交際』に対する抵抗感については、一つ一つの行動の許容に関して連続的関係が見てとれる。そこで、本調査では質問項目数の制限もあるために、あえて測定を行わず、本人の「お茶」と「性交」に対する抵抗感のみに限って測定することとした。

したがって、本調査での設問では上記の2種類の行為に対して、回答者が感じる抵抗感を尋ねている。『援助交際：お茶』とは、「金品と引き換えに女子高校生とお茶やデートをすること」を意味し、『援助交際：性交』とは「金品と引き換えに女子高校生とセックス（性交）すること」を意味する。回答は「抵抗を感じる」「少し抵抗を感じる」「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」の4つの選択肢の中から一つを選ぶ单一回答形式で求めた。

## 2. 成人男性の『援助交際』に対する抵抗感

図 2-1-2-1 成人男性の『援助交際』に対する抵抗感 (N=664)



2つの質問に対する全回答者の回答結果を図2-1-2-1に示す。図に示されているように、『援助交際』に対する抵抗感は、行為の内容によって、あまり異なっていない。『援助交際：お茶』も『援助交際：性交』も、全回答者の内8割の人が抵抗を感じると回答している。一方で、約1.5%の人は両方に対して全く抵抗を感じないと回答している。全体を通して厳密にみると、『援助交際：お茶』の方が『援助交際：性交』よりも、総じて抵抗感を感じる人の割合が少ないが、その差は極めてわずかであり、ほぼ同じであると言っても過言ではないだろう。実際、『援助交際：お茶』、『援助交際：性交』とともに、「全く抵抗を感じない」と「あまり抵抗を感じない」を合わせても、1割にも満たない。いずれも全体としては抵抗を感じない人の方が圧倒的に少ない傾向を示している。

これは、福富ら（1998）の示す女子高校生の場合と少し様相が異なる現象である。女子高校生の場合は、『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』でその抵抗感のあり方が大きく異なっていた。女子高校生の場合、『援助交際：お茶』に対する抵抗感が「全く抵抗を感じない」と「あまり抵抗を感じない」を合わせると、14%に達していた。一方で『援助交際：性交』に対する抵抗感は、「全く抵抗を感じない」と「あまり抵抗を感じない」を合わせても4%以下であった。すなわち女子高校生の場合は、『援助交際：性交』に比べて『援助交際：お茶』に対しては相対的には許容的であることが示されていたのである。

それに対して成人男性の場合は、上述したように『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』を抵抗感の水準では、厳密に区別している訳ではなく、どちらも同じように強く抵抗感を持っていることが伺える。逆の意味で、強いて指摘するならば、行動がお茶やデートであれ、セックスであれ、いずれの『援助交際』であっても、抵抗感が弱い人が約5%程度は確実に存在するという事実であろう。

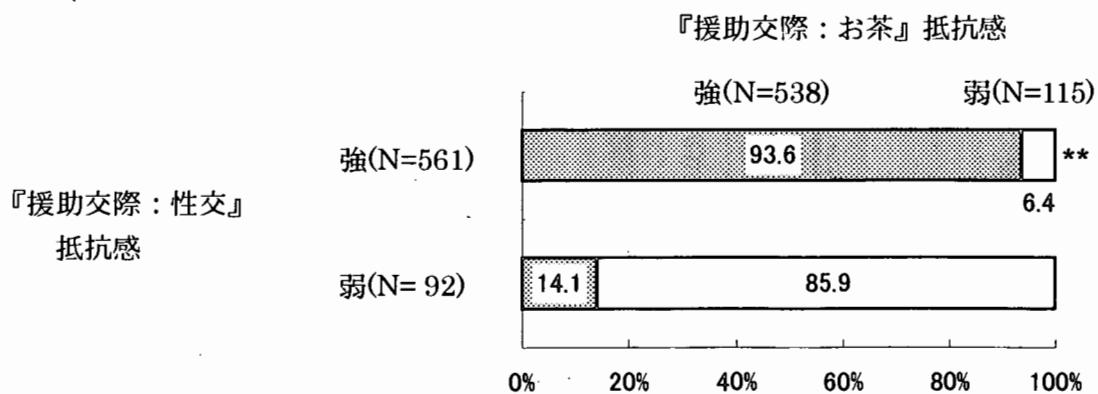
年齢層別に検討してみても、大きくは変わらない。『援助交際：お茶』も『援助交際：性

交』も、各年齢層においても抵抗を感じると回答している人が圧倒的に多く、約8割前後の人人が該当する。ただし詳細に検討してみると、年齢層による多少の差は見られる。『援助交際：お茶』も『援助交際：性交』も、抵抗を感じると回答しているのは、最低が30代後半層、最高は50代前半層で、それぞれ約75%と95%とほぼ20%の差が見られていた。それでも『援助交際：お茶』の場合は統計的に有意な差には至っておらず、『援助交際：性交』の場合のみ統計的に有意な差が見られた。強いて言うと、『援助交際：性交』の場合に、30代後半層が若干抵抗感が弱い傾向が見られるようだ。しかし、他の年齢群と比べて極端な傾向にまでは至っていないのが実状だろう。

### 3. 『援助交際』に対する抵抗感同士の関係

次に、『援助交際：性交』抵抗感と『援助交際：お茶』抵抗感の関係について検討してみよう。この2つの設問に対する回答をそのままにクロス表を作成すると、 $4 \times 4$ のマトリックスが生成され、両者の関係が明確になりにくい。この両者の関係をより単純化して捉えるために、回答を「抵抗を感じる」（抵抗感強）と「少し抵抗を感じる」「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」（抵抗感弱）とに2分し、クロスさせたものを図2-1-3-1に示す。『援助交際：性交』抵抗感に対する回答を基準にして、どの程度の人が『援助交際：お茶』に対する抵抗感を強弱のいずれに回答しているのかを百分率で表示している。

図 2-1-3-1 『援助交際』に対する抵抗感の関係



予想されたことであるが、性交を含む『援助交際』に対する抵抗感の強い人は、お茶やデートに留まる『援助交際』に対しても抵抗感が強く、逆に性交を含む『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、お茶やデートに留まる『援助交際』に対しても抵抗感が弱いことが示された。このように両者に対する抵抗感は、直線的に関係しているといえよう。

ところで、図2-1-2-1に示されているように、『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』は総数で考えるとあまり大きな差はない。詳細にみると若干ではあるが、『援助交際：性交』抵抗感の方が数が多い。この点から考えると、女子高校生と同様に『援助交際』行動への

許容感（抵抗感の弱さ）は、段階を経て連続的に関係しているのかもしれない。すなわち「お茶やデート」を許容することが、「セックス」を許容する態度へとつながっている可能性も考えられる。

しかしながら、繰り返しになるが、そもそも『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』の差はわずかである。したがって、女子高校生に見られた『援助交際』行動の連続性を検討する前にむしろ、成人男性においてこのような抵抗感そのものを作り出す要因を探索することが重要になってくるだろう。

#### 4. 『援助交際』に対する抵抗感の尺度化

本調査では福富ら（1998）と同様、『援助交際』に対する抵抗感を整理して捉えるために、尺度（正確に言えば類型）を用意した。「問15 金品と引き換えに女子高校生とセックス（性交）すること」に抵抗を感じるか否かという尺度である。これを「抵抗を感じる」と「少し抵抗を感じる」「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」との2群に分けている。以下、前者に反応した人を「抵抗感強」群と後者に反応した人を「抵抗感弱」群と呼ぶ。

上記したように反応頻度だけでみると、『援助交際：お茶』抵抗感も『援助交際：性交』抵抗感もそれほど大きな差は見られていない（図2-1-2-1）。また、両者の関係は強く、しかも直線的な関係にあることが図2-1-3-1に示されている。

そこで本調査では、福富ら（1998）の女子高校生のデータにおいては最も抵抗感の強い行為であった「（自分自身が）金品と引き換えにセックス（性交）すること」のみを取り上げ、これに対する反応により2群に分けることとした。『援助交際：性交』に対する抵抗感強群は抵抗感弱群に比べて、実際の『援助交際』経験や買春的行為への結びつきが強いものと予想される。

なお、3章以下の分析において特に断りが無い場合、抵抗感強群、抵抗感弱群という表現はそれぞれ、この『援助交際：性交』に関する抵抗感の強弱の相当する箇所に応答したものとする。

#### 5. 『援助交際』に対する抵抗感のまとめ

本節では、『援助交際』に対する抵抗感について述べている。『援助交際』に対する抵抗感は、「金品と引き換えに女子高校生とお茶やデートをすること」（『援助交際：お茶』）と「金品と引き換えに女子高校生とセックス（性交）すること」（『援助交際：性交』）の2種類それぞれに対して、4件法（抵抗を感じる～全く抵抗を感じない）で測定された。

『援助交際：お茶』、『援助交際：性交』ともに8割以上の人人が「抵抗を感じる」と回答していた。「全く抵抗を感じない」と「あまり抵抗を感じない」を合わせても、1割にも満たない数値であり、全体としては抵抗を感じない人の方が圧倒的に少ない傾向を示していた。『援助交際：お茶』、『援助交際：性交』に対する回答パターンはほとんど同じであり、成人男性にとって行為の種類はほとんど区別されていなかった。

また以下の章においては、『援助交際：性交』に対する選択パターン（「抵抗を感じる」→「少し抵抗を感じる」→「あまり抵抗を感じない」→「全く抵抗を感じない」）で回答者を2群に

分けて分析を行うこととした。

## 第2節 『援助交際』に対する態度

### 1. 項目の構成

成人男性の『援助交際』に対する態度を調べるために、女子高校生に対する質問紙調査（福富ら, 1998）を基礎として、本調査に先立って実施された成人男性に対する面接調査（福富ら, 1999）などを参考に項目を設定した。項目設定にあたっては、『援助交際』の原因、実態などを始めとする『援助交際』に対して成人男性が抱いていると考えられたものを中心に据えた。さらに男女平等意識の視点から『援助交際』を捉えた項目も考慮に加え、最終的な質問項目が設定された。利用した項目について、表 2-2-1-1 に示す。

表 2-2-1-1 『援助交際』に対する態度項目

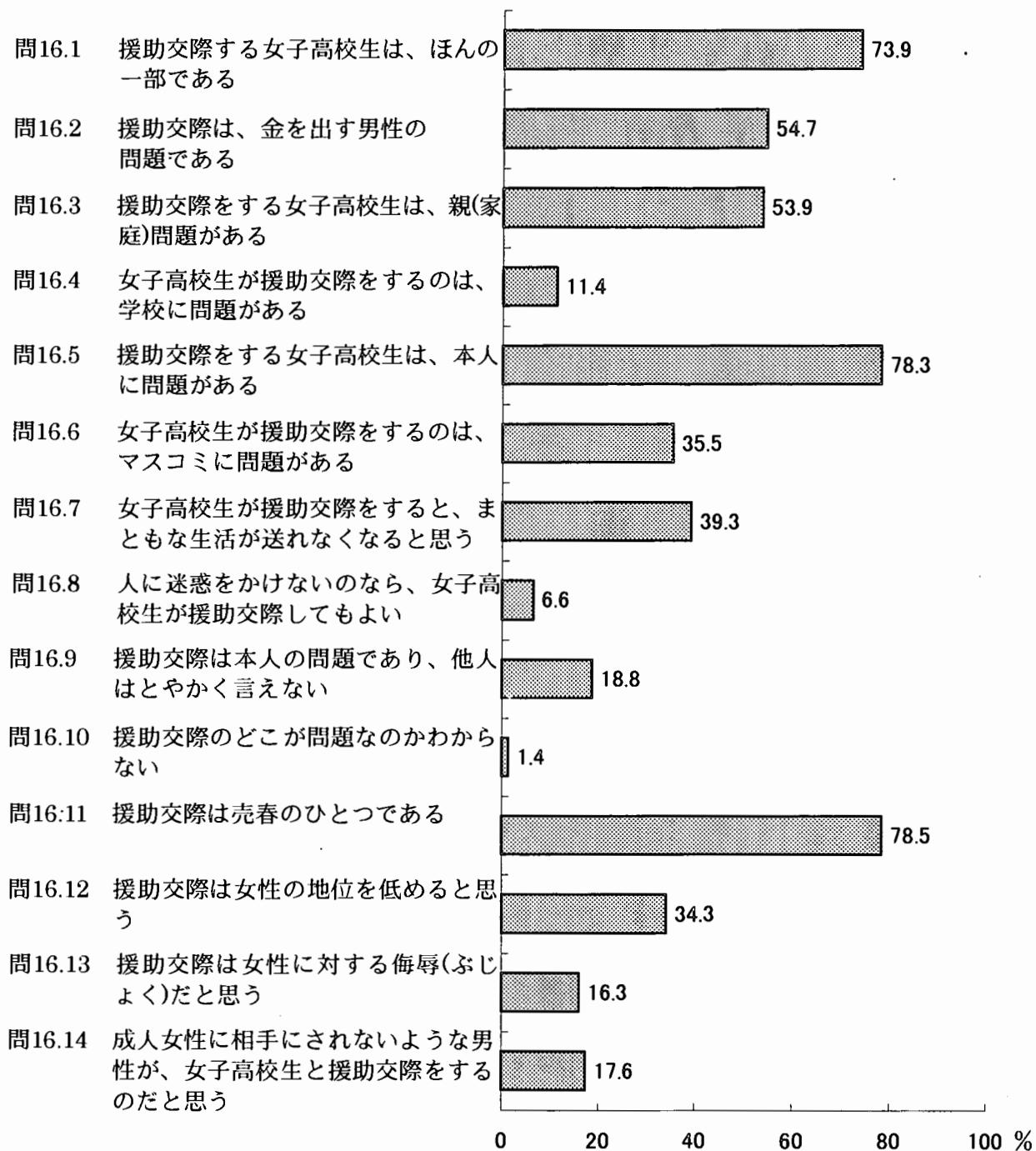
項目内容	
問 16.1	援助交際をする女子高校生は、ほんの一部だと思う
問 16.2	援助交際は、金を出す男性の問題である
問 16.3	援助交際をする女子高校生は、親（家庭）に問題がある
問 16.4	女子高校生が援助交際をするのは、学校に問題がある
問 16.5	援助交際をする女子高校生は、本人に問題がある
問 16.6	女子高校生が援助交際をするのは、マスコミに問題がある
問 16.7	女子高校生が援助交際をすると、まともな生活が送れなくなると思う
問 16.8	人に迷惑をかけないのなら、女子高校生が援助交際をしてもよい
問 16.9	援助交際は本人の問題であり、他人はとやかく言えない
問 16.10	援助交際のどこが問題なのかわからない
問 16.11	援助交際は売春のひとつである
問 16.12	援助交際は女性の地位を低めると思う
問 16.13	援助交際は女性に対する侮辱（ぶじょく）だと思う
問 16.14	成人女性に相手にされないような男性が、女子高校生と援助交際するのだと思う

### 2. 『援助交際』に対する態度について

図 2-2-2-1 は、本調査で設定された項目内容と各項目に対する選択率を示したものである。回答は回答者自身の考えに当てはまるものを、いくつでも選択することを求める多重回答形式によって求めた。

回答結果をみると、約8割の成人男性が『援助交際』を売春のひとつとして捉えていることがわかる。ここ数年来、各都道府県の警察等でも”『援助交際』は売春である”、という趣旨のキャンペーンが張られている。この影響もあるのだろうが、この項目は全項目の中で最も高い選択率を示している。またこのような『援助交際』行動を実際に取る女子高校生はほんの一部の問題だと約3／4程度の人が捉えている。福富ら（1998）の調査で

図 2-2-2-1 『援助交際』に対する態度 (N=664)



は『援助交際』経験者が約 5 %という数値が得られているので、実数としては確かにほんの一部の問題かもしれない。しかし福富ら (1998) の報告にもあるように、その予備軍的な『援助交際』に対する許容感は、女子高校生の間に相当広まっている。実数として 5 %

以上の数字になり得るとも考えることができるだろう。さらに、ほんの一部の問題であると考え、『援助交際』問題を考慮しないで切り捨てることが、この問題のより本質的な問題性（たとえば、男女平等社会の実現の可能性）を隠蔽することにもなり得ることは指摘しておく必要があるだろう。また「成人女性に相手にされないような男性が、女子高校生と援助交際をするのだと思う」という項目には2割弱の人が選択していた。こうした項目に対する反応も『援助交際』を行うのは特殊な人である、というラベリングをすることによって、『援助交際』問題を自分の考えの中から切り離し、社会問題として捉える視点を持たないことにつながるのではないだろうか。

問題の所在については、本人（78%）、親／家庭（54%）、マスコミ（36%）、学校（11%）の順に問題があると考えているようだ。『援助交際』のどこが問題か不明でよくわからないという回答はわずか1.4%程度に留まっていた。このように『援助交際』は主として本人や親の責任である、という考えが成人男性においては主流であるといえるだろう。ただし、この問題の所在に関しても、『援助交際』に代表されるような複雑な様々な原因を含む問題を一つの原因に帰することによって自らの安心感を得て、自分とは関係無い問題である、と捉えること自体の問題性もまた指摘しておきたい。

「援助交際は本人の問題であり、他人はとやかく言えない」という項目に対しては約2割の人が選択していた。総数としては少ないのであるが、確かにそうした心性は理解できる。つまり、自分の持つ倫理観や行動規範に基づき他者の行動を一面的に理解することの問題性という観点の重要性は、言うまでも無いだろう。ところがこのようにして口をつぐむことが他者との関わりを避け、自分の殻に閉じこもり、また他者から干渉されたくないという自分の勝手な論理や都合を振りかざすことにもつながる可能性を忘れてはならない。『援助交際』が社会との関わりにおける問題であるという考えを閉ざしてしまうかもしれない、という点において重要な視点であると言えるだろう。

ところで、全て同じ項目を利用している訳ではないが、成人男性における『援助交際』に対する態度の結果を女子高校生のそれと比較すると大変興味深い結果が得られる。

たとえば、先に述べた「援助交際は壳春のひとつである」という項目に対しては女子高校生の60%しか反応していない。これは測定時期の効果（警察／マスコミ等のキャンペーン、時代背景、流行現象）と年齢／性別の効果を分離することができない問題ではあるが、おもしろい結果の一つだろう。一方で「女子高校生が援助交際をすると、まともな生活が送れなくなると思う」という項目に対しては、女子高校生・成人男性ともに約4割の人が選択していた。ところが「人に迷惑をかけないのなら、女子高校生が援助交際してよい」という項目に対しては、成人男性では7%弱しか選択していないのに対して、女子高校生では14%とほぼ2倍の選択率となっている。これはおそらく、成人男性が『援助交際』をより社会との関わりにおける問題であることを（相対的には多数）、認識しているからであろう。この結果は、成人男性では『援助交際』に対する抵抗感が行為によらず安定的なのに比べ、女子高校生の場合は行為によって、また行為の主体によって、その抵抗感の程度が異なっている事を反映している数値であると読むこともできるだろう。

男女の問題に関連した問い合わせについては比較的違いが見られている。成人男性は「援助交際は、金を出す男性の問題である」という認識を5割以上の人気が持っているのに対して、女子高校生では、3割強程度であった。特に興味深い点は、「援助交際は女性の地位を低め

ると思う」や「援助交際は女性に対する侮辱（ふじょく）だと思う」という項目に対する反応である。これらの項目には成人男性よりも女子高校生の方が高い割合で選択しており、前者に対しては成人男性が34%、女子高校生は45%の選択率で、後者に対しては、成人男性が16%、女子高校生は22%の選択率であった。すなわち、成人男性よりも女子高校生の方が、どこまで意図的に考えているのかはともかくとしても、『援助交際』の問題を男女平等社会に関する問題である、と考えている可能性が高いという点には注目に値するだろう。

次に、年齢層別に選択率を見てみよう。14項目中のちょうど半数の7項目において、年齢層別で統計的に有意な差が見られた。差が見られた項目は大別すると3つのパターンに分類することができるだろう。1つめは年齢層が上がるにつれ、選択率が増加する項目群（問16.1、3）である。2つめはその逆に、年齢層が上がるにつれ、選択率が減少する項目群（問16.8、9、14）である。そして3つめは40歳代に比較的、選択率が高い項目群（問16.4、6）である。

年齢とともに選択率が増加する項目を見ると、『援助交際』をする女子高校生をわずかであると認知することや、『援助交際』の原因を親（家庭）の問題に帰すことなどであった。この内後者の〔『援助交際』＝親の問題〕は、30代前半で特異的に選択率が上がっている点にも注目することができる。

年齢とともに選択率が減少する項目を見ると、総じて比較的選択率の低い項目が目立つ。人に迷惑をかけないのなら『援助交際』も可というような態度や、『援助交際』について他人はとやかく言えないという態度あるいは、成人女性に相手にされない人が『援助交際』を行う、というような項目群であった。ある意味では『援助交際』を容認することにもつながりかねないこのような態度は比較的若い層に選択されることが多いと言えるかもしれない。上述したように、不必要に他者には干渉しない代わりに、他者からも干渉されたくないという個人主義的、極論するならば自己中心的な態度が若い年齢層のこうした選択の背景にあるのかもしれない。

40歳代に比較的、選択率が高い項目群は、『援助交際』の原因を学校もしくはマスコミの問題に帰しているものであった。この内、〔『援助交際』＝学校の問題〕に関しては、20代前半や50代前半でも相対的には高い選択率を示している。

統計的には以上のような有意な差が見られているが、一部を除き極端な反応がある特定の年齢層でのみ現れるという傾向はみられなかった。

なお福富ら（1998）と同様に、『援助交際』に対する態度について尺度化可能性の検討のために探索的因子分析を行った。しかし明快な因子構造を得ることができなかつた。そこで、『援助交際』に対する態度については原則として項目単位で検討することとした。ただし、『援助交際』に対する態度についての構造は、本章第4節において『援助交際』への態度と『援助交際』に対する抵抗感の関係を論じる箇所で、数量化理論第III類によって回答を検討する。この解析により、『援助交際』への態度の構造を推し量ることができるだろう。

### 3. 『援助交際』に対する態度のまとめ

本節では、『援助交際』に対する態度について論じている。『援助交際』を売春のひとつ

として捉えたり、『援助交際』行動を実際に取る女子高校生はほんの一部の問題だと考える成人男性が約8割程度となった。問題の所在については、本人(78%)、親/家庭(54%)、マスコミ(36%)、学校(11%)の順に問題があると考えていた。

『援助交際』をすると「まともな生活が送れなくなる」という項目に対しては、約4割の人が、「援助交際は本人の問題であり、他人はとやかく言えない」という項目に対しては約2割の人がそれぞれ選択していた。人に迷惑をかけないのなら『援助交際』も可という態度に対しては、1割未満の選択率となっていた。

男女の問題に関連した問い合わせについては、5割以上の人気が選択した『援助交際』が男性の問題であるという項目を除いて、それほど多くは選択されなかった。「援助交際は女性の地位を低めると思う」や「援助交際は女性に対する侮辱(ぶじょく)だと思う」という項目に対しては、それぞれ順に、約3.5割、1.5割程度の選択率に留まっていた。

年齢層別にみると、一部の項目を除き極端な反応がある特定の年齢層でのみ現れるという傾向はみられなかつたが年齢とともに選択率が増減する項目もみられた。

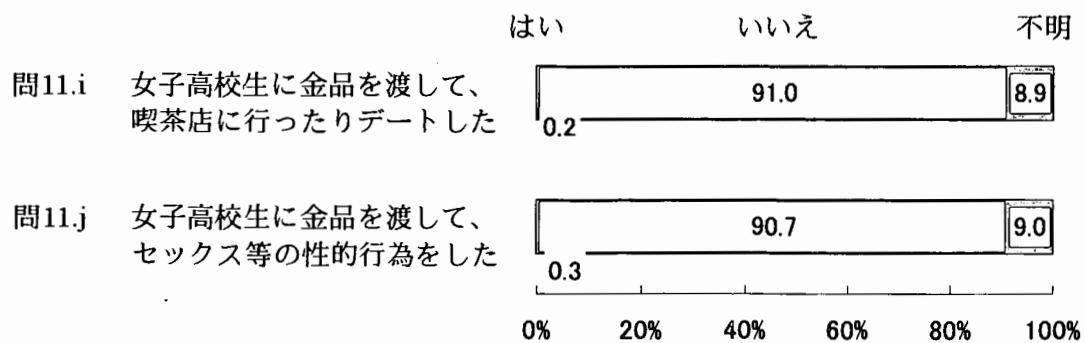
### 第3節 『援助交際』の経験

#### 1. 『援助交際』経験の実態

本調査では、前節で分析してきた『援助交際』に対する抵抗感や『援助交際』に対する態度に加えて、自分自身の『援助交際』経験について、『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動も含め、具体的行動の有無を尋ねることによって測定している。残念ながら、福富ら(1998)の行った、『援助交際』の体験談を友人から聞いたことがあるかどうか、自分自身が経験したことがあるか、あるならば友人に話したか、『援助交際』をする時の気持ちや理由、及び『援助交際』を経験した後の感想はどのようなものだったかなどについては、全体の質問項目数の関係から、設問を用意することができなかつた。

ここではまず、『援助交際』の経験の実際について見てみよう。前述したように、本調査では『援助交際』という言葉を直接用いずに、「お茶やデート」「性交」という2つの具体的行為として質問が設定されている。図2-3-1-1にその経験者数を示す。

図2-3-1-1 『援助交際』経験の実態 (N=664)



『援助交際：お茶』の経験者は 1 名、『援助交際：性交』の経験者は 2 名、と経験者は極めてわずかであった。これら 2 つの行為のいずれかを経験したとするものは 664 人中 2 人（0.3%）であり、『援助交際：性交』の経験者のうちの 1 名が『援助交際：お茶』の経験者でもあった。いずれも統計的処理が不能なほど少数しか『援助交際』経験は無いことが示された。本調査の結果からすると、残念ながらこれだけしか言うことができない。

しかし一点だけ注目しておきたい。それはこの『援助交際』経験に関連した質問に対する不明（無回答／回答拒否／回答ミスなどを含む）の数に関する問題である。たとえば、上述の『援助交際』に対する抵抗感の質問項目に対する不明数は 9 であった。その他の質問項目においても、本調査においては不明数としてせいぜい 10 前後の値を示すことが多い。

不明数を検討してみると、『援助交際』経験を含むこれら一連の質問項目（問 11）では確かに不明数が多い。ただし同じ問の中の質問であっても、「パチンコをした」については 22 の不明数に留まっている。ところがこれらの『援助交際』の経験に関する質問項目については、不明数がパチンコ経験の約 3 倍、一般的な不明数の約 6～7 倍にもあたる 59 もしくは 60 という数に上ったのである。すなわち約 60 名ほどの人がこれら『援助交際』を含む具体的な行動に関する項目についての回答に何らかの問題があったのである。これほど多くの人が回答に際して単純にミスをするという事は考えにくい。

これは推測でしかないが、おそらく報告をためらった結果として、こうした不明が発生したのではないだろうか。したがって、実際の『援助交際』経験の実数については、もう少し増えることが予想される。この実数を推定するためには、ここで不明を持っている人がどのようなパターンで他の変数に対して回答を行っているか、などの分析を行う必要があるかもしれない。もちろんそれとて、実数を確定することはできないので、ここではこの指摘のみにとどめ、今後の課題としたい。

## 2. 『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動の経験

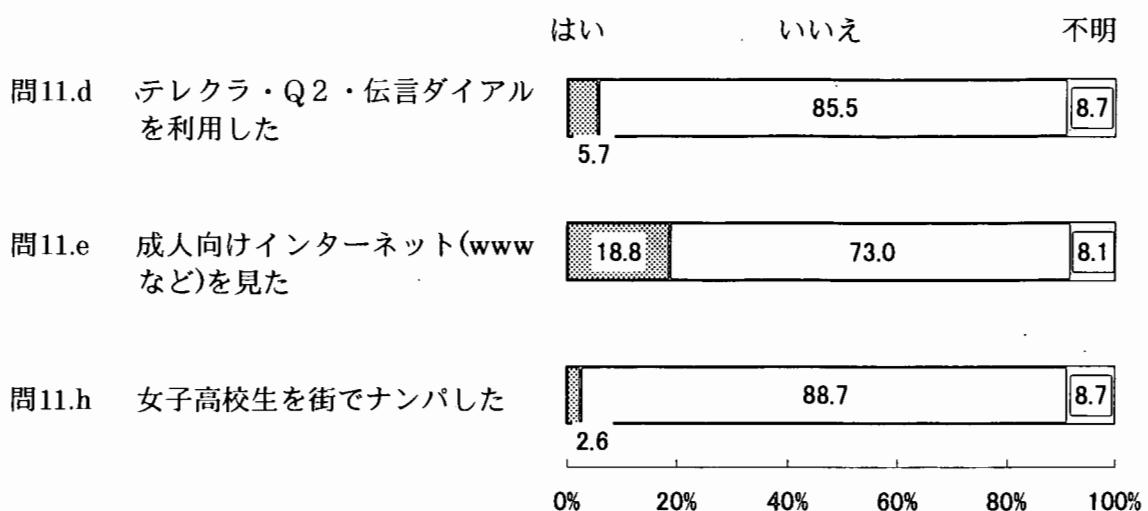
ここでは『援助交際』に関わる可能性を秘めた周辺行動の経験の実際について検討したい。具体的には、テレクラ・Q 2・伝言ダイアルの利用、成人向けインターネット（www など）の閲覧、女子高校生を街でナンパの 3 つの行動である。この 3 つの行動の経験率について、図 2-3-2-1（次頁）に示す。

「成人向けインターネット（www など）の閲覧（問 11.e）」が 2 割の選択率を示したが、それ以外は「テレクラ・Q 2・伝言ダイアルの利用（問 11.d）」「女子高校生を街でナンパ（問 11 h）」ともに 1 割にも満たない値を示すに過ぎなかった。近年のインターネットブームによる Web サイトの閲覧以外には、それほど大きな値には至っていない。しかし、これを年齢層別に検討すると非常に興味深い結果が得られる。この 3 つの行動の全てが年齢層間で有意な差が見られたのである。

テレクラ・Q 2・伝言ダイアルの利用は、20 代前半層では約 3 割の人が経験しており、20 代後半、30 代前半もほぼ 1 割程度の人が経験をしている。一方で、それ以上の年齢層ではほぼ 5 %以下の値に留まっている。年齢層による電話利用の意図の違いや、電話を日常的通話以外の目的に使うためのリテラシーの問題などが関係しているのであろう。

成人向けインターネット（www など）の閲覧においては 44 歳以上と以下に分水嶺があ

図 2・3・2・1 『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動 (N=664)



る。45歳以上では約1割程度の人しか経験していないのに対して、それ以下の年齢層では2割強～3割強の人が経験している。年齢層による情報機器のリテラシーの問題や利用環境の利便性の高低など様々な要因が関わっているのであろう。

女子高校生を街でナンパすることに関しては、20代前半層のみが圧倒的に高い割合を示し、約2割の人が経験している。一方、それ以外の年齢層では、せいぜい20代後半層の5%が最高で、大半がほとんど0に近い値を示していた。この質問項目は、過去4～5年の間の経験を問うものである。したがって20代前半層は過去4～5年前は自らが高校生であった可能性がある。すなわち彼らにとって、同年齢層の人とつきあうために街でナンパ行動をする人が多く、そのためこの年齢層の数値だけが飛び抜けて多くなったのではないだろうか。したがって、ナンパ行動については、このような若い年齢層(20歳代)の行動と、それ以外では行動の意味／意図が異なっており、区別して捉える必要があるだろう。

なお、この経験率についても、先の『援助交際』経験同様に不明数は非常に多かった。「テレクラ・Q2・伝言ダイアルの利用」および「女子高校生を街でナンパ」はそれぞれ58の、「成人向けインターネット(wwwなど)の閲覧」では54の不明数を数えた。『援助交際』経験同様に、報告をためらった結果として、不明が発生した可能性が推測できるだろう。

### 3. 『援助交際』の経験のまとめ

本節では、『援助交際』および『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動の経験について論じている。『援助交際：お茶』もしくは『援助交際：性交』のいずれかの経験者は、本調査ではわずか2名に留まった。ただし回答拒否が非常に多く、実数はこの2名を超える事が予想される。

『援助交際』に関わる可能性を持つ周辺行動については、成人向けインターネットの利用を除き、テレクラやナンパの経験者数は少なかった。ただし、いずれの行動も明確な年齢差が現れており、20歳代を中心に若い層に経験者が比較的多いことが明らかとなった。

#### 第4節 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度

##### 1. 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度との関連

『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』に対する態度との関連をここでは検討する。『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』のそれぞれに対する抵抗感の強弱と『援助交際』に対する態度の各項目の選択をクロスした割合を図2-4-1-1および図2-4-1-2に示す。

『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』は有意差の程度はともかく、全く同じ項目で同じように有意差が見いだされた。したがって、以下の記述は行為に関わらず、『援助交際』全体に共通して言えることを示すものである。

『援助交際』に対する抵抗感の強い人は、『援助交際』を「女性を侮辱」(問16.13)し、「女性の地位を低める」(問16.12)ような「男性」(問16.2)の問題であると捉えている率が高いことが示された。『援助交際』に対する抵抗感が強い人々は、『援助交際』をより社会的な問題、しかも男女平等社会の実現と関わる問題である、というように認識している可能性を示す結果である。加えて抵抗感の強い人は『援助交際』をすると「まともな生活が送れない」等と捉えている。これらの項目は女子高校生を対象とした場合の『援助交際』に対する態度尺度の「否定・不安」因子に含まれるものである。『援助交際』に対する抵抗感の強い成人男性は、『援助交際』に対する抵抗感の強い女子高校生と、同様の反応傾向を示すことが明らかになった。

また、「親」や「マスコミ」の問題として捉える率も、抵抗感の強い人の方が多かった。この事もまた、『援助交際』に対する抵抗感が強い人は、『援助交際』が社会との関わりの中で進展する問題であると認識している可能性の高さを示すものであろう。

一方、性交を含む『援助交際』に対する抵抗感の弱い人の方は、『援助交際』を「人に迷惑をかけないのならよい」、「他人はとやかく言えない」と捉える率が高く、さらに「売春の一つ」として捉える率も低かった。これらは、女子高校生を対象とした場合の『援助交際』に対する態度尺度の「積極的許容」因子に含まれるものである。ここでも抵抗感の強い場合と同様に、『援助交際』に対する抵抗感の弱い成人男性は、『援助交際』に対する抵抗感の弱い女子高校生と同様の傾向を示している。

図 2・4・1・1 『援助交際：お茶』抵抗感と『援助交際』態度

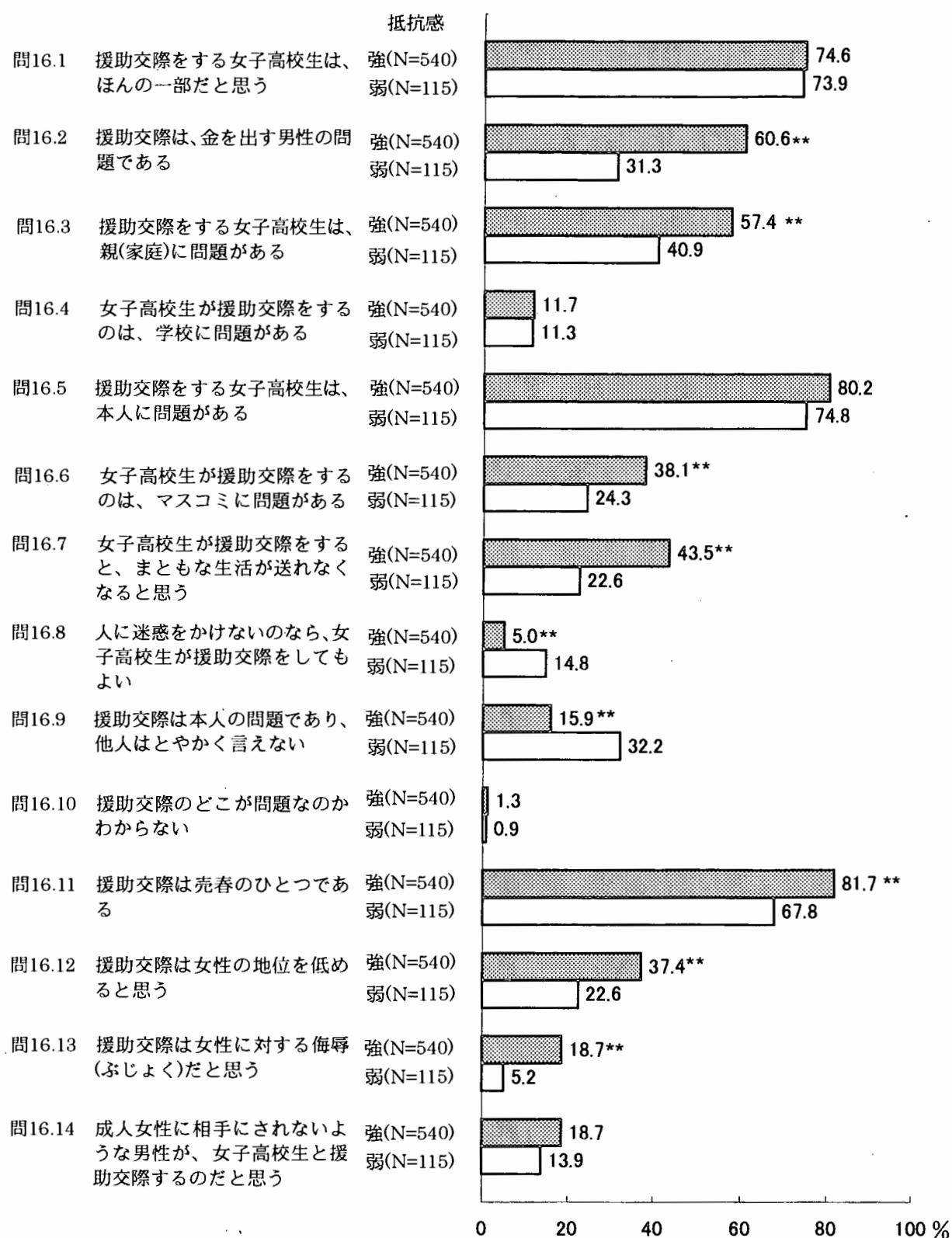
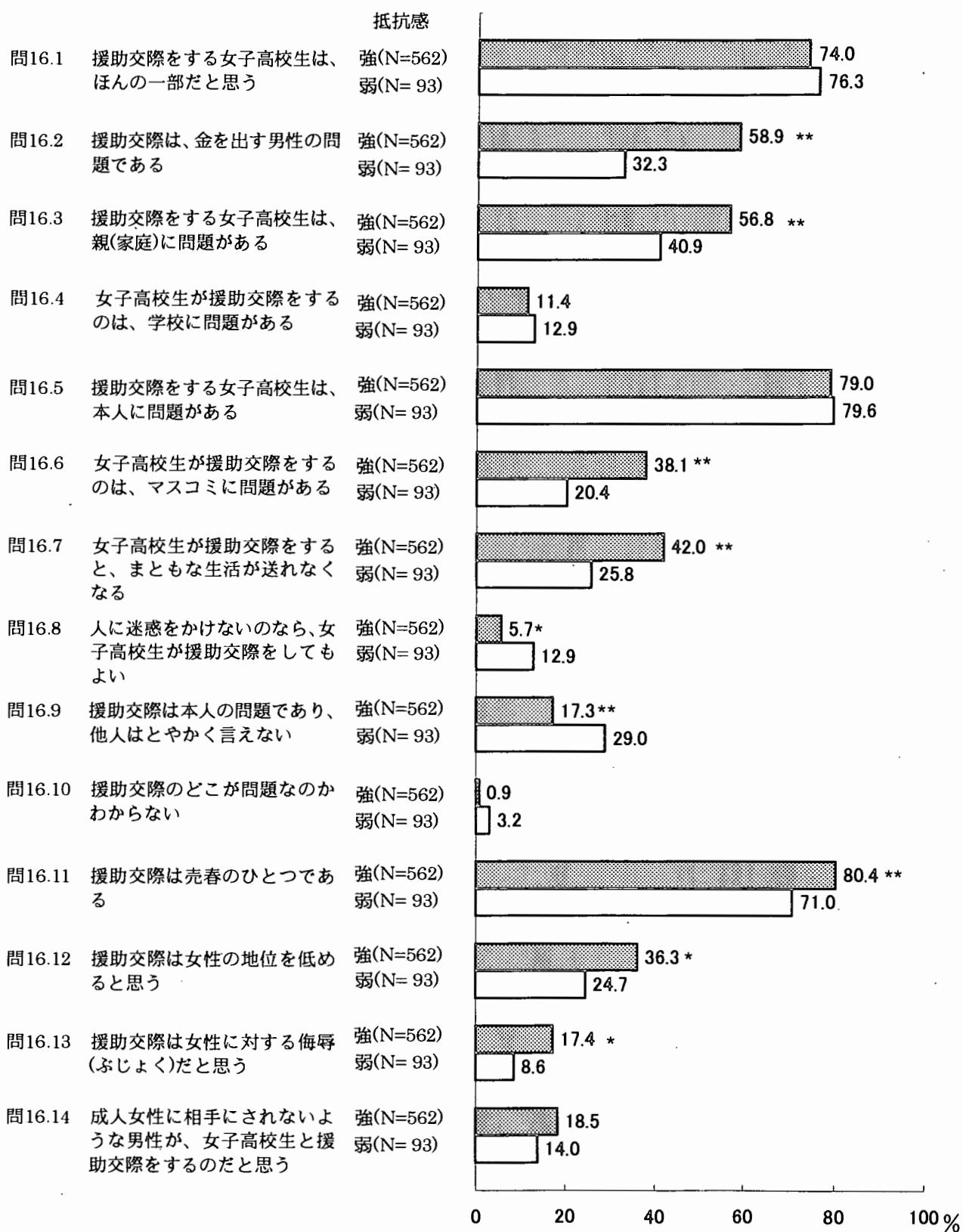


図 2-4-1-2 『援助交際：性交』抵抗感と『援助交際』態度



## 2.『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』周辺行動経験との関連

ここでは、『援助交際』に対する抵抗感と本章の3節2.で取り扱った『援助交際』に関する可能性を持つ周辺行動の経験の関連を検討する。『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』のそれぞれに対する抵抗感の強弱と『援助交際』に関する可能性を持つ3種類の周辺行動（テレクラ、インターネット、ナンパ）の各項目の選択をクロスし、図2-4-2-1、図2-4-2-2に示す。

図2-4-2-1『援助交際：お茶』抵抗感と『援助交際』周辺行動経験の関連

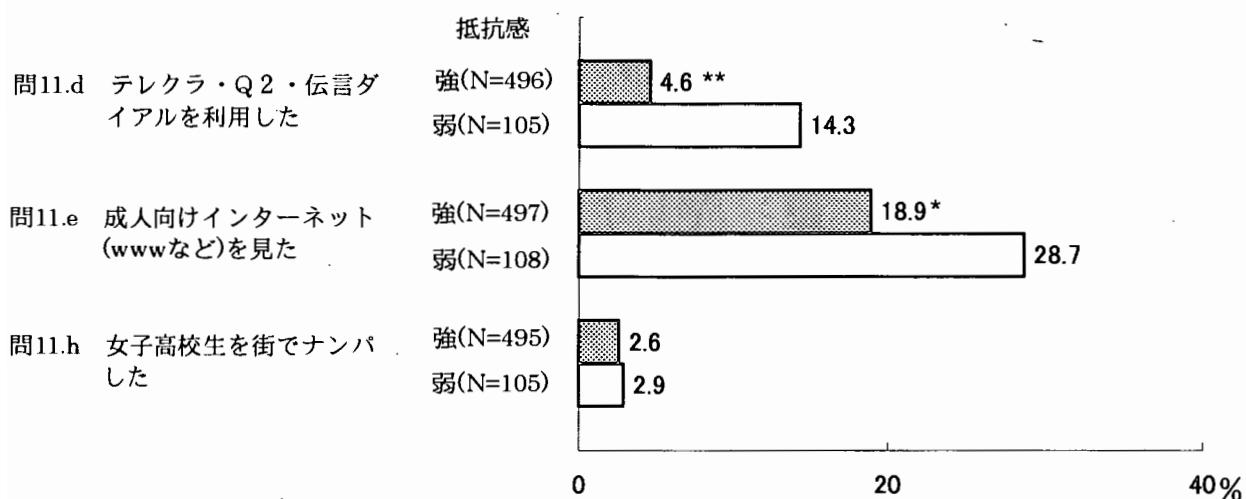
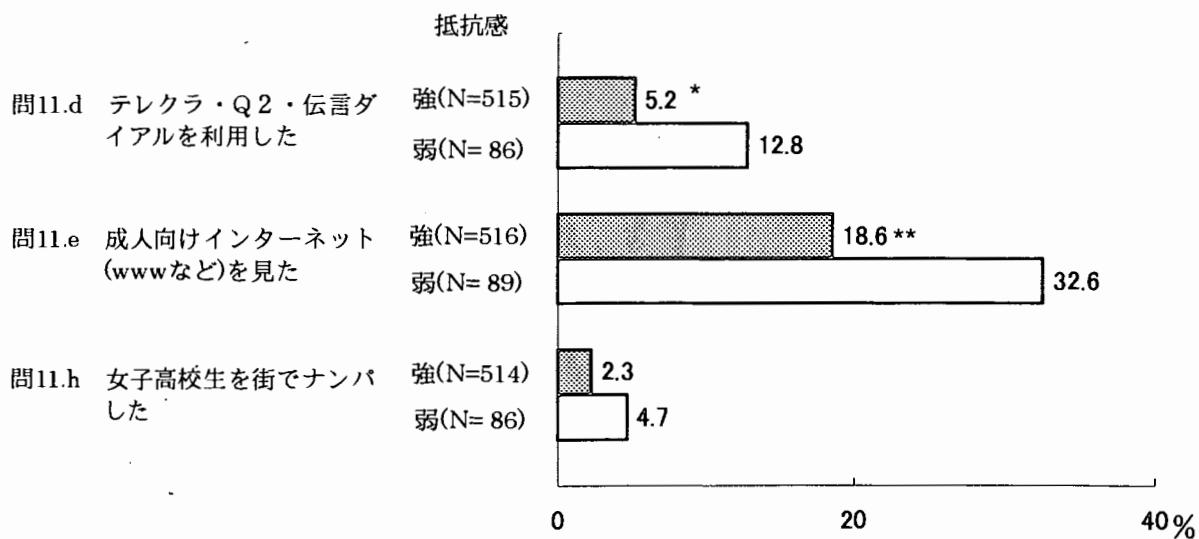


図2-4-2-2『援助交際：性交』抵抗感と『援助交際』周辺行動経験の関連



本章本節前項で示した、「『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度の関係」と同様、『援助交際：お茶』と『援助交際：性交』は、『援助交際』周辺行動経験と全く同じ項目で同じように有意差が見いだされた。したがって、以下の記述は行為に関わらず、『援助交際』全体に共通して言えることを示すものである。

『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、テレクラ・Q2・伝言ダイアルの利用、および成人向けインターネットの利用率がより高い傾向を示していた。『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、これらメディアを利用することにより、実際の『援助交際』行動に直結していく可能性を示唆する結果であろう。

しかし、ナンパ行動には有意な差が認められなかった。本章第3節2.で示したように、女子高校生を街でナンパした行動は20代前半に多く認められた。上述したようにこの層は過去4～5年前に自らが高校生であった可能性があり、同年齢層の人とつきあうために街でナンパ行動をする人が多かったのかもしれない。そのため『援助交際』の予備的行動としてのナンパ行動とは区別して考える必要があるだろう。この事から、この20歳代を除いて分析を行えばテレクラや成人向けインターネットと同じ傾向が見られる可能性がある。しかし20歳代以外の層では、ナンパ行動の頻度 자체が少ないので、統計的な分析を行うことは難しい。ナンパ行動を行っている個別の事例を一つ一つ検討していく必要があるのかもしれない。

### 3.『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度の構造的分析

ここでは、『援助交際』に対する態度項目と『援助交際』に対する抵抗感の項目の両者の回答パターンを構造的に検討することにより、その関係について論じたい。態度に関する14の設問（問16.1～14）と問14および問15の回答について、林知己夫による数量化理論第III類（以下、「III類」と略称する）によって構造の検討を行う。III類は、質問紙への回答などのパターンに基づいて質問項目や選択肢と、回答者に数値を与える統計手法である。解析に当たっては、問14と問15の回答を「抵抗を感じる」と「少し抵抗を感じる」「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」とに2分し、2項目計4カテゴリーを作成した上で、問16の14選択肢への回答を取り上げ、同時に投入した。

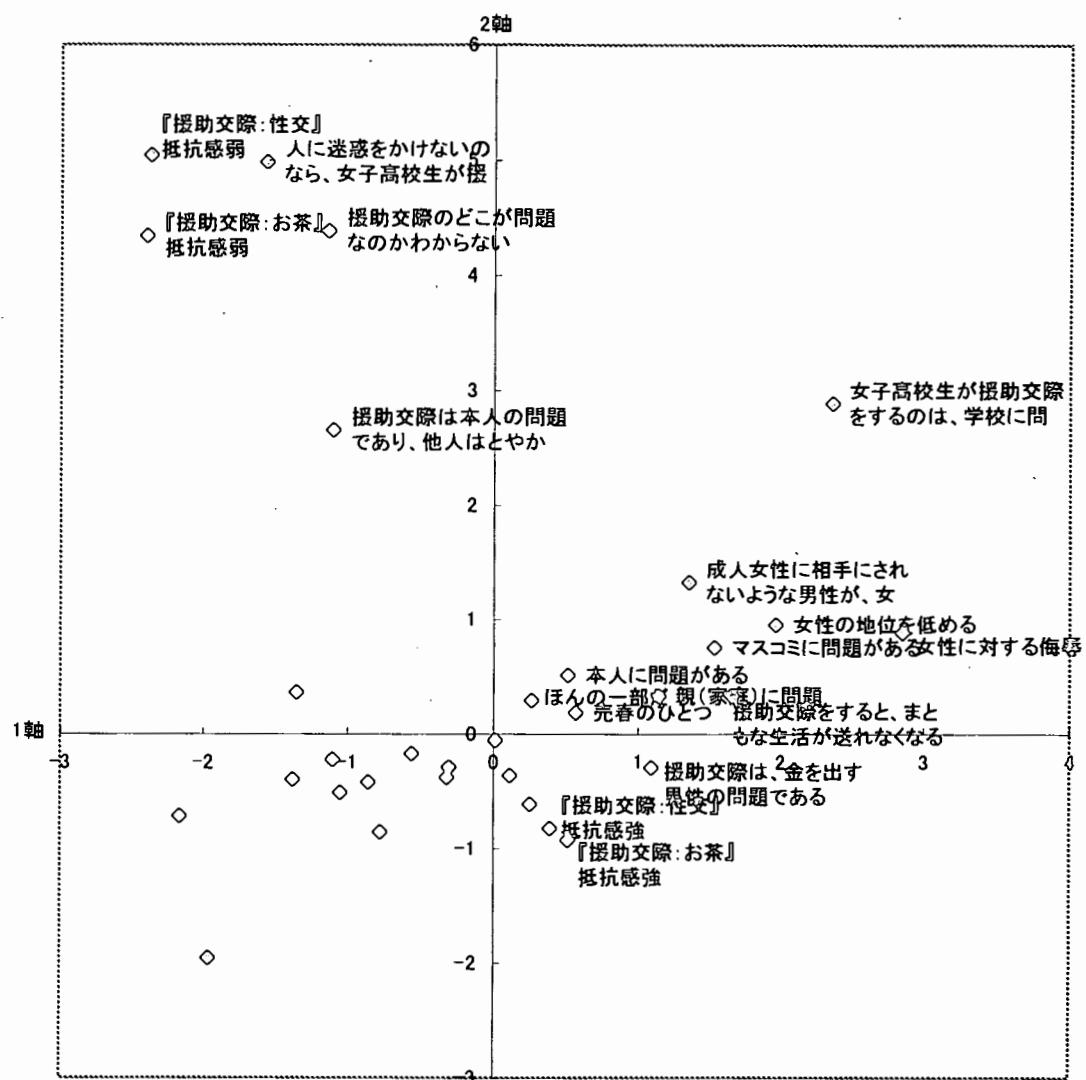
解析の結果、固有値は順に、.19、.11、.08となった。第1軸と第2軸のカテゴリー・スコア（選択肢に与えられた数値）を、図2-4-3-1（次頁）に示す。III類のカテゴリー・スコアの布置により、近辺に位置する選択肢どうしは類似し、遠くに位置する選択肢どうしは似ていないと解釈できる。

まず、第2象限から第4象限に向かって、『援助交際』に対する抵抗感の強弱の軸を、第1象限から第3象限に向かって、『援助交際』に対する抵抗感の原因の軸を想定することができるだろう。そして第1象限、第2象限、第4象限等、各象限でそれぞれ1つのまとまりがあると考えることができる。

この結果から、抵抗感と態度の構造的な関係については、以下のように考えることができるものだろう。

第一に、『援助交際』に対する抵抗感は、成人男性の場合『援助交際』での行為の種類にはほとんど依存しない問題であることがわかる。これは第2象限や第4象限で、[デート：抵抗感（『援助交際：お茶』）]と[セックス：抵抗感（『援助交際：性交』）]の距離がそれ

図 2-4-3-1 『援助交際』に対する抵抗感と態度の構造（III類カテゴリースコア）(N=653)



それ弱は弱どうし、強は強どうしで非常に接近していることから、行為の種類／内容には依存しない問題であると指摘できるだろう。

次に、『援助交際』に対する抵抗感が弱いことに最も近しい関係を持っている態度としては、「人に迷惑をかけないのなら、女子高校生が援助交際してもよい（問 16.8）」および「援助交際のどこが問題なのかわからない（問 16.10）」であった。これらの項目を選択することが、『援助交際』に対する抵抗感を弱める、すなわち『援助交際』への許容的態度を形成しやすいと言うことができるだろう。これら 2 項目は本節の 1（図 2-4-1-1、図 2-4-1-2 参照）の箇所でも抵抗感の強弱で有意差が見られている項目である。

特に興味深い点は、「援助交際は本人の問題であり、他人はとやかく言えない（問 16.9）」という項目である。これは、原点から『援助交際』抵抗感の弱に向かってベクトルを描くとすると、ちょうどその中間地点に位置する項目である。すなわち、『援助交際』を「本人

の問題であり、他人はとやかく言えない」と口をつぐんでしまうような態度が、まさに『援助交際』を許容する態度への第一歩であり、抵抗感を失う前段階にある条件として機能する可能性を持つものであろう。このことは『援助交際』をある個人一人だけの問題に留めるのではなく、より広い社会的な問題として捉えることが、抵抗感の形成には重要な要素となることを示すといえるだろう。

また一方で第1象限に集まっている項目群のように、『援助交際』の原因を本人、親／家庭、マスコミ、学校と何かのせいにしたところで、抵抗感には影響しないという点も非常に興味深い。どこに問題がある、何が悪い、という事をしたり顔で評論したとしても、結果的には『援助交際』を許容／拒否する態度には何の影響も与えないのである。

唯一、『援助交際』に対する抵抗感に関係しそうな項目としてあげられる項目は、第4象限に布置する「援助交際は、金を出す男性の問題である」という態度である。この項目は『援助交際：お茶』抵抗感強、『援助交際：性交』抵抗感強のいずれにも非常に近い位置に布置している。この項目を選択することは、『援助交際』に対する抵抗感が強いことに最も近い態度と言うことができる。回答者である成人男性自身が自らを振り返り、自分自身の問題であり、かつ社会の中での男性の問題なのだ、という事の認識が『援助交際』を許容しない態度を形成するのかもしれない。

#### 4. 『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度のまとめ

本節では『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度の関係を検討した。『援助交際』に対する抵抗感が弱い人は、『援助交際』に対する否定的な態度が弱く、許容的な態度が強く、抵抗感が強い人はその逆の傾向を持つことが明らかになった。また『援助交際』を社会問題、特に男女問題として捉える視点は、『援助交際』に対する抵抗感が強い人が多くもつことも明らかになった。そしてこうした諸特徴は女子高校生の『援助交際』に対する抵抗感の強弱と『援助交際』態度との関係と同じ傾向であったことが確認された。

また、『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、テレクラ・Q2・伝言ダイアルの利用、および成人向けインターネットの利用率がより高い傾向を示しており、これらのメディア利用が、実際の『援助交際』行動に結びついていく可能性を示唆した。

『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度の構造を検討すると、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と『援助交際』の原因に関する2軸が想定された。「迷惑をかけなければよい」に代表される態度が『援助交際』を容認する態度を形成し、逆に「男性の問題である」と考えることが『援助交際』に対する抵抗感を形成する可能性が示唆された。一方で、『援助交際』の原因についての論じることは抵抗感に直接的には影響しないことが示された。

## 第3章 売買春に関する意識と経験

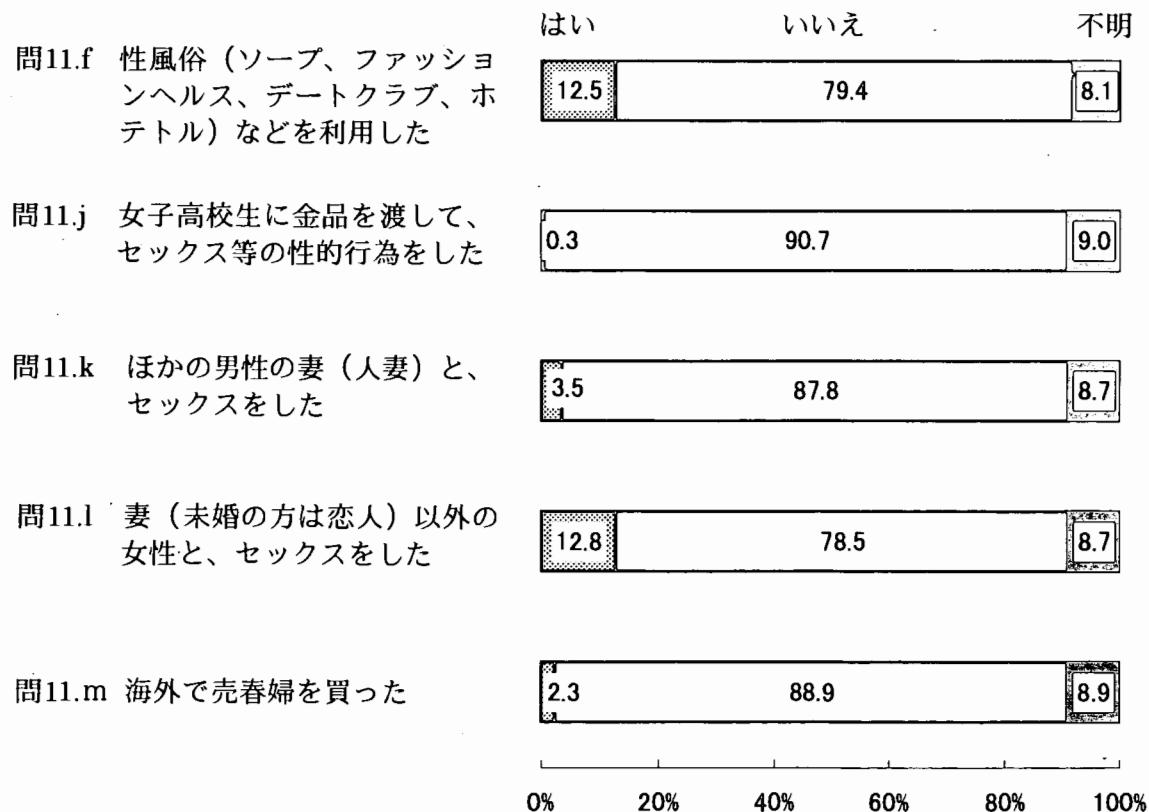
本調査では、成人男性の『援助交際』・買春経験の実態を捉えることを試みている。第3章では、『援助交際』や性風俗など買春に関わる経験を尋ねるとともに、それらに対する態度の測定を行なった部分を報告する。態度の測定に際しては、買春を正当化する意識や買春リスク軽視などにかかわる項目を含め、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験による考え方の違いを検討する。

### 第1節 経験

#### 1. 買春にかかわる経験の実態

買春関連の経験について尋ねた回答結果を以下に記す。「この4～5年の間に、以下の行為を経験したことがありますか」という質問で、「性風俗」など14の項目について、「はい」「いいえ」で回答を求めた。このうち買春や性行為にかかわる項目が、図3-1-1-1に示す5つである。このうち「女子高校生に金品を渡して、セックス等の性的行為をした」は、第2章第3節でも報告した『援助交際』行為である。ここでは性交を含む『援助交際』が買春行為の一形態であることをふまえ、他の買春行為と関連づけて再度考察する。

図3-1-1-1 買春関連の経験 (N=664)



買春行為にあたる「性風俗」「性行為を伴う『援助交際』」「海外で売春婦」の中では「性風俗利用」が最も多く、約1割が経験している。「性行為を伴う『援助交際』」については、経験者は0.3%とわずかで、「海外で売春婦」は2.3%みられた。総じて買春行為の多くは性風俗店で行なわれており、女子高校生相手の『援助交際』や海外での買春は相対的に少ない。ただし、買春行為にかかるこの項目群については、「はい」「いいえ」いずれにも○をつけない「回答不明者」が1割近く存在している。これらの回答者がどのような意図をもって回答拒否をしたのかは不明だが、回答不明者の中に経験者が含まれるならば、実際の経験率は上記の値よりも高いことになる。さらに、第1章4節で述べたように、回答時期別にみたときの第3回督促層は、非回答者に類似した態度や行動を示すことが推定される。この第3回督促層に買春経験比率が高かったことから、本調査に回答しなかった調査対象者の中には買春経験者が多く含まれていたと考えられる。これらの点から、買春にかかるこれらの経験率は本調査で示された値よりも高いものになると推測されるが、その実数は明らかではない。買春の実態把握やその測定の問題は今後ひきつづき検討していくなければならない課題である。

その他、買春行為とは限定されないがいわゆる浮気・不倫行為の「妻・恋人以外の女性とのセックス」「人妻とのセックス」では、1割未満～1割の選択率が示されている。

## 2. 年齢層別にみた買春経験

ここまであげた経験について年齢層別に比較すると、有意差がみられたのは「性風俗の利用」であった。20歳代～30歳代では2割前後の経験者がいるのに対し、それ以降は年齢とともに低下している。性風俗利用は、若年層中心に行なわれていることがわかる。第1章第4節で述べたように、買春経験を全体的にみると、妻のいないものに多い。買春行動の中で、相対的に経験の多い性風俗利用が若年層に多くみられる一因とも考えられる。

## 3. 『援助交際』に対する抵抗感別にみた買春経験

買春にかかる上記5項目について、『援助交際』に対する抵抗感別に経験を検討した。総じて、抵抗感弱群の方で経験した割合が高くなっているが、このうち有意な差がみられたのは、「性風俗」「妻・恋人以外の女性とのセックス」である(図3-1-3-1；次頁)。抵抗感弱群の回答者では、4分の1近くのものが、性風俗や妻・恋人以外とのセックスを経験していることが注目される。

## 4. 買春経験に基づく群分け

本調査では、買春を多角的にとらえるために、様々な背景要因と買春経験を併せて分析することを試みた。この際、買春経験の有無別で回答者を2群に分けることで、背景要因の分析がより明確化すると考えた。そこで買春経験に関する上記項目のうち、「性風俗」「性行為を伴う『援助交際』」「海外で売春婦」のいずれかを経験したものを「買春経験有群」、ひとつも経験していないものを「買春経験無群」と群分けした。分析対象となった回答者のうち、買春経験有群は89名(14%)、買春経験無群は521名(79%)、不明が54名(8%)である。

この2群を年齢層別にみると、最も買春経験有群が多かったのは20代後半層だが、20

図 3-1-3-1 『援助交際』に対する抵抗感別にみた買春関連の経験

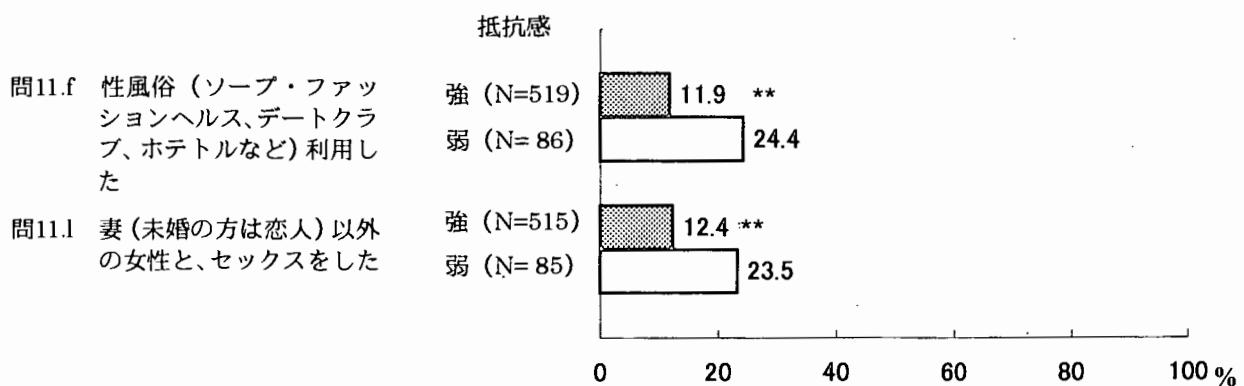
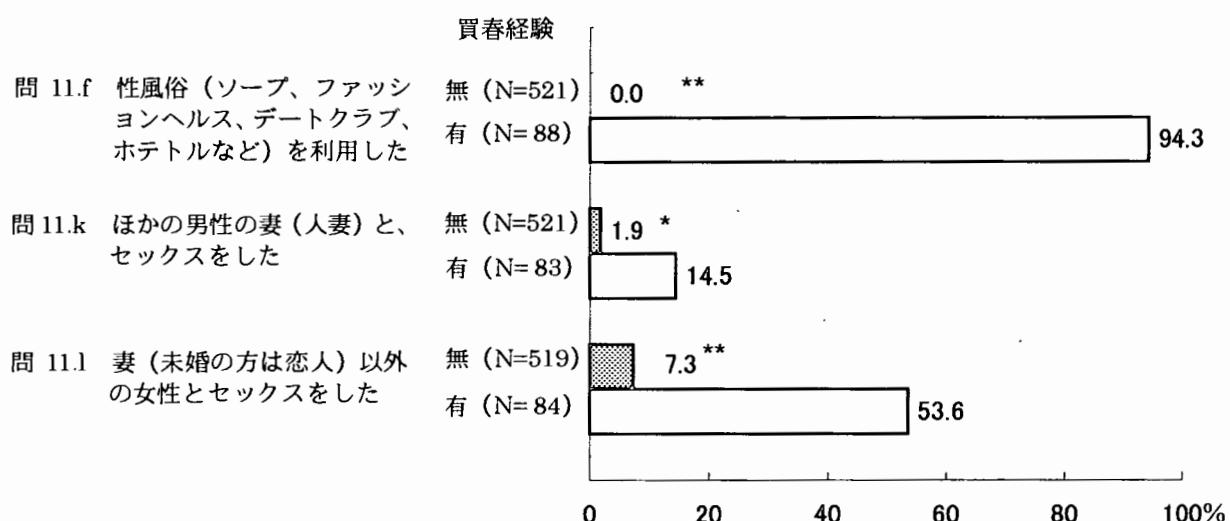


図 3-1-4-1 買春経験別にみた買春関連の経験



代前半層～30代後半層は2割前後で並んでいる。40歳代以降は1割前後に下がる。買春が若い世代を中心に行なわれていることがここでも示されている。

また買春経験別に、「ほかの男性の妻（人妻）と、セックスをした」「妻（未婚の方は恋人）以外の女性と、セックスをした」の選択率に差があるか検討したところ、買春経験有群の方が両項目とも選択率が高かった（図 3-1-4-1）。買春経験有群では、「妻・恋人以外の女性とのセックス」が5割を超えており、これは買春経験そのものが「妻・恋人以外の女性とのセックス」である場合が含まれるためであろう。

##### 5. 買春経験有無と『援助交際』に対する抵抗感（お茶・性交）

買春経験有無で分けた2群の割合が、『援助交際』に対する抵抗感とどのような関係に

あるのかを分析した。『援助交際』に対する抵抗感は、「お茶」「性交」それについて4件法で回答を求める、いずれも回答を「抵抗を感じる」(抵抗感・強)と、「少し抵抗を感じる」「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」(抵抗感・弱)に2分して再カテゴリー化を行なっている(第2章第1節)。本調査の分析では、『援助交際』に対する抵抗感と記述がある場合には、『援助交際・性交』のみを取り上げている。しかしここでは、買春経験との関連を詳しく分析するために、『援助交際・お茶』『援助交際・性交』に対する抵抗感を両方取り上げて、買春経験有無との $2 \times 2$ のマトリックスの形で分析を行なった。その結果を表3-1-5-1および、表3-1-5-2に示す。

買春経験有無にかかわらず、女子高校生と金銭を介してお茶をしたり性交をすることには抵抗を感じるもののが圧倒的に多い。しかし買春経験のないものでは『援助交際・性交』に対して抵抗の強いものが約9割に達するのに対し、買春経験のあるものは8割弱にとどまり差が開いている。『援助交際・お茶』には買春経験の差がないことから、性交には抵抗を感じない心理のみが、買春者の特徴といえるだろう。

表3-1-5-1 買春経験と『援助交際・お茶』抵抗感 (%)

		『援助交際・お茶』抵抗感	
		強 (N=499)	弱 (N=106)
買春経験	無 (N=516)	83.7	16.3
	有 (N=89)	75.3	24.7

表3-1-5-2 買春経験と『援助交際・性交』抵抗感 (%)

		『援助交際・性交』抵抗感	
		強 (N=519)	弱 (N=86)
買春経験	無 (N=516)	87.6	12.4 **
	有 (N=89)	75.3	24.7

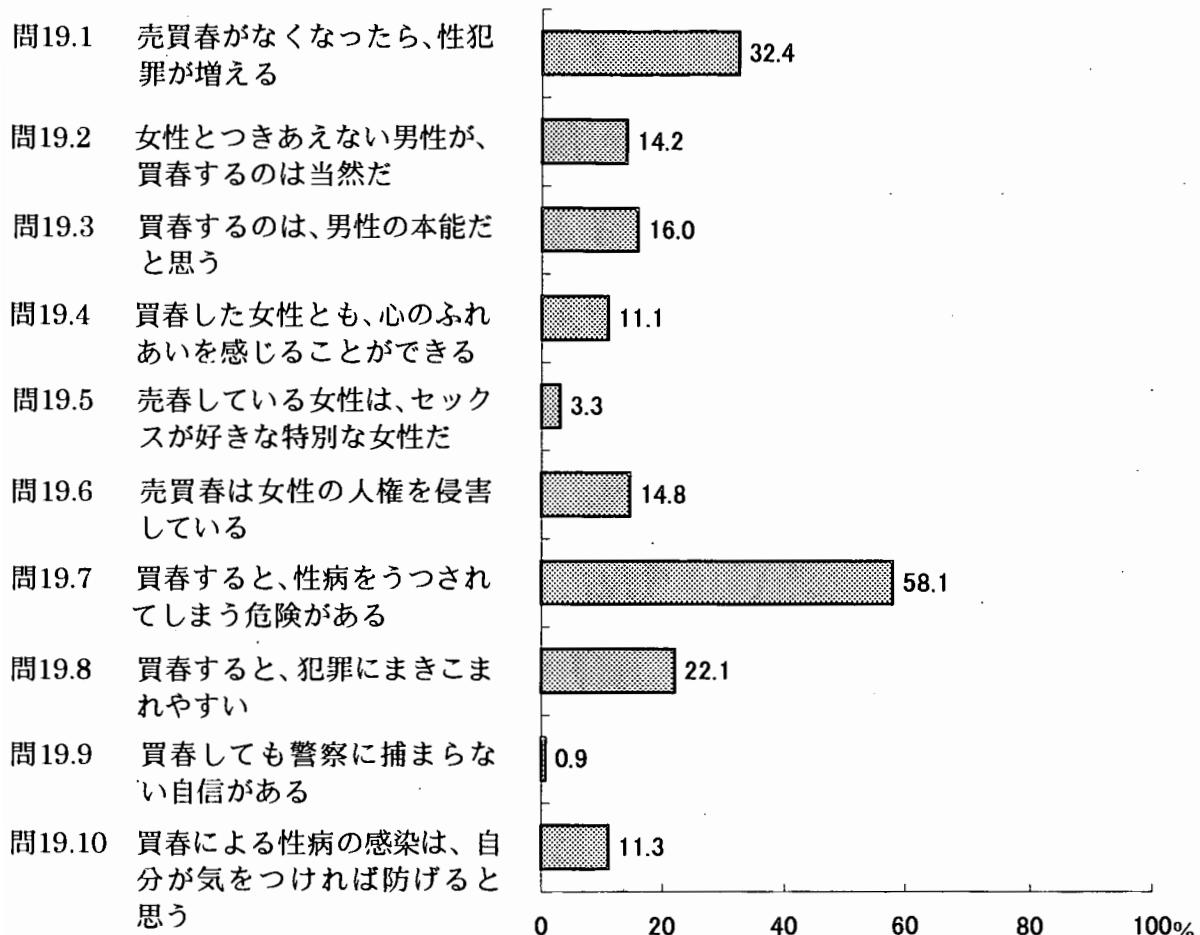
## 第2節 意識

買春経験には、売買春に対するどのような考え方が影響しているのだろうか。売買春を正当化する様々な意見が社会には存在しており、その是非をめぐって様々な論争も行なわれている。その一方で、買春には様々なリスクが伴うのも事実であり、それらを多くの男性がどのように認識しているのかも興味深い。そこで本調査では、「売買春がなくなったら、性犯罪が増える」など、売買春に対する意見を述べた10項目について、自分の考えとしてあてはまるものに○をつけることを求めた。

## 1. 売買春に対する意識の実態

図3-2-1-1は、売買春意識項目の回答結果である。

図3-2-1-1 売買春に対する意識 (N=664)



最も多く選択されたのは「買春をすると、性病をうつされてしまう危険がある」で、6割の人に肯定されている。「買春による性病の感染は、自分が気をつければ防げるとと思う」と回答するものは1割程度にとどまっていることを併せ、性病に関するリスクは広く認知されている。一方、別のリスクである「買春すると、犯罪に巻き込まれやすい」は2割程度の選択率で、“買春リスク＝性病”という意識が定着している様子がうかがえる。

その一方で、「売買春がなくなったら、性犯罪が増える」は、3割以上に支持されていて、リスクはあるが不可欠なものとして買春を位置づけている男性も多いことが示されている。また「女性とつきあえない男性が、買春をするのは当然だ」「買春するのは、男性の本能だと思う」など、買春の存在の正当性を男性の生理におく項目も1割以上支持されている。

なお、本調査に先立って実施された女子高校生意識調査（福富ら, 1988）の結果からは、売買春が女性の地位を低めているとの認識をもつことが、援助交際を抑制する心理的要因に成りうるとの論考が提出されている。このため本調査でも「売買春は女性の人権を侵害している」の項目を設問としてここに加え、選択率を検討した。その結果、人権侵害にあたると考えたものは全体の1割強にとどまり、成人男性にあっても、売買春を人権問題と結びつけて意識化するものは少ないことが明らかとなった。

## 2. 年齢別にみた売買春意識

年齢層別に回答差を検討したところ、有意差がみられたのは「売買春がなくなったら性犯罪が増える」「売春している女性はセックスが好きな特別な女性だ」「売買春は女性の人権を侵害している」「買春すると性病をうつされてしまう危険がある」「買春すると犯罪に巻き込まれやすい」である。上記項目のうちリスクに関する2項目（「買春すると性病をうつされてしまう危険がある」「買春すると犯罪に巻き込まれやすい」）では、20代前半層の選択率が他層よりも1割以上高くなっている。前述のように、買春経験率は若い年代で相対的に多かったが、身近なだけにリスクを意識しやすいのだろうか。また「売買春がなくなったら性犯罪が増える」「売春している女性はセックスが好きな特別な存在だ」も、20代前半層が他層よりも高い。反対に、「売買春は女性の人権を侵害している」は、若い世代の選択率が低めなのに対し、50歳代では2割強と高くなっている。

## 3. 『援助交際』に対する抵抗感別にみた売買春意識

続いて『援助交際』に対する抵抗感別に、売買春に対する意識に違いがみられるか検討した。その結果、半数の項目で有意差がみられ、抵抗感弱群は強群よりも全体として買春の必要性を主張していることが示された。有意差がみられたのは、図3-2-3-1（次頁）に示す項目である。抵抗感の弱いものは、買春を正当化するステレオタイプを支持している。特に「売買春をなくすと性犯罪が増える」は、抵抗感弱群が2割以上高く選択している。さらに性病に関して、抵抗感弱群は性病リスクを強く認識する一方で、「自分は大丈夫」と利己的幻想を抱いている。様々な雑多な意見をそのまま鵜呑みにしている様子が推察される。

## 4. 買春経験別にみた売買春意識

買春経験別の回答差は、『援助交際』に対する抵抗感別の回答差と類似している（図3-2-4-1；次頁）。買春経験有群は、売買春を男性の生理に結び付けて不可欠だと回答する方向にある。例えば「売買春がなくなったら性犯罪が増える」は、買春経験有群では半数が選択しており、買春経験無群の3割と差が開いている。他に「女性とつきあえない男性が買春をするのは当然だ」「買春するのは男性の本能」も有意差がみられている。また、「買春をした女性とも心のふれあいを感じることができる」も、経験有群は3割が選択して経験無群の回答と差がみられている。以上の結果から、これら買春に対するステレオタイプが買春経験を正当化する心理的支えになっていることがうかがえる。

また「買春による性病の感染は、自分が気をつければ防げると思う」については、経験有群の選択率が2割弱で、経験無群（1割）と比べてリスクを低く認知していることが指

摘できる。

図 3・2・3・1 『援助交際』に対する抵抗感別にみた売買春意識

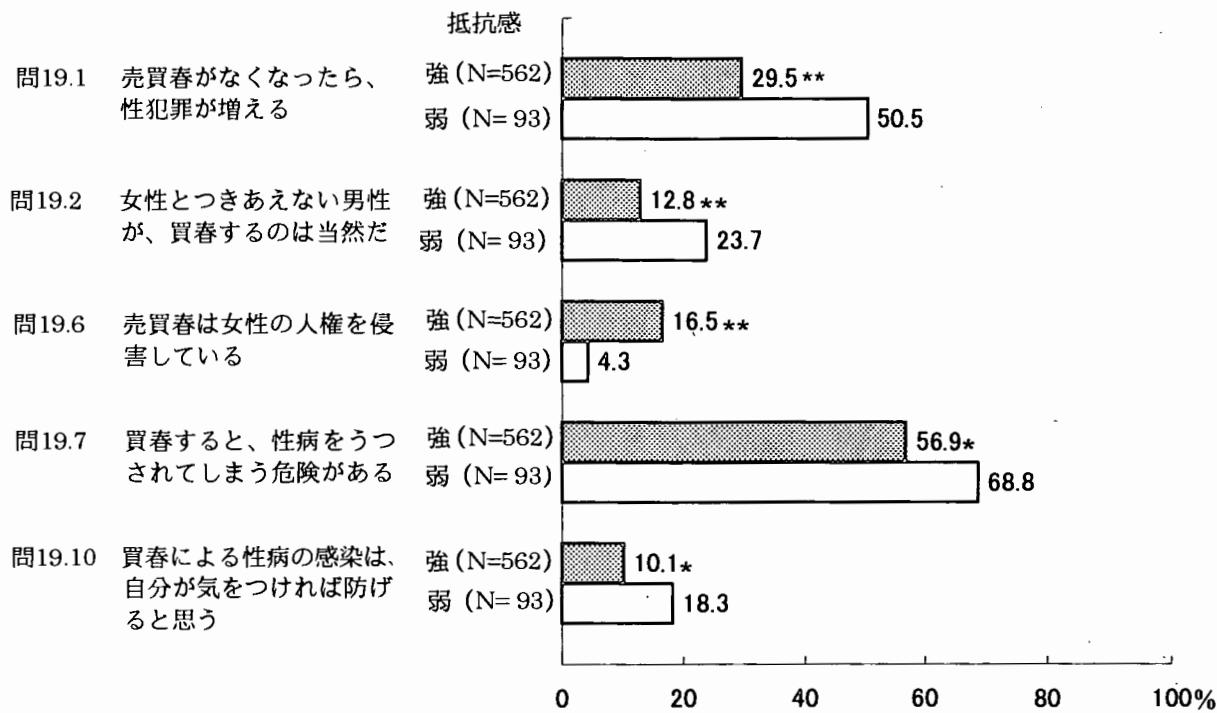
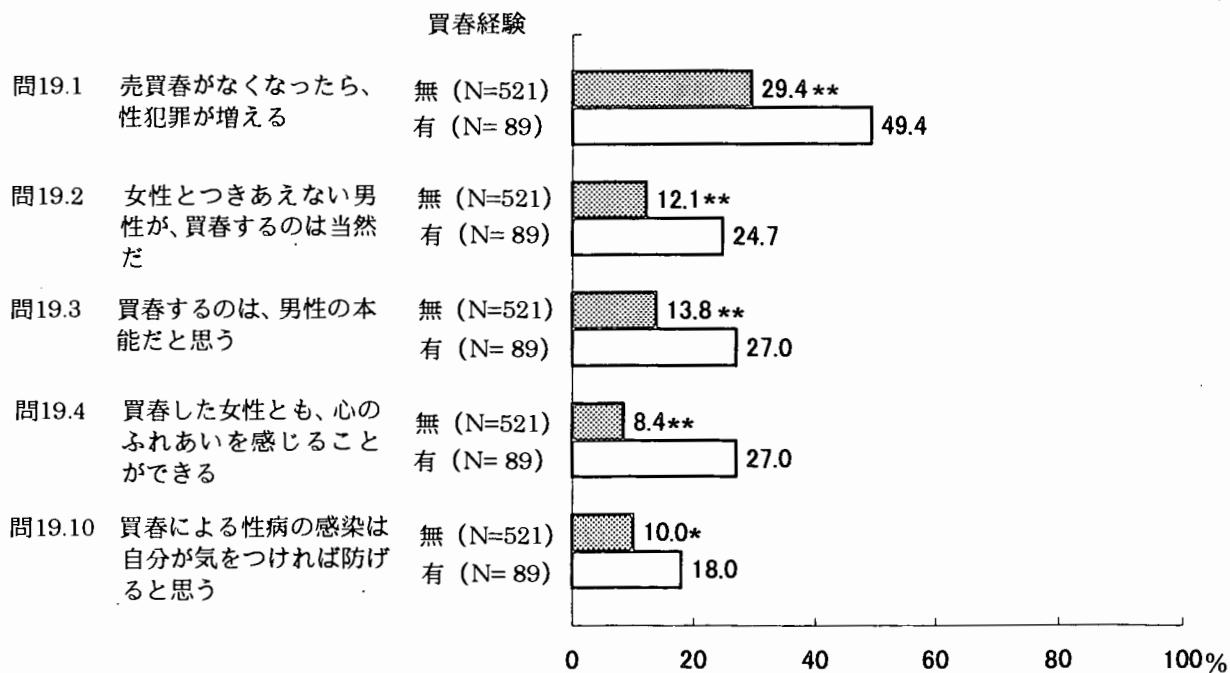


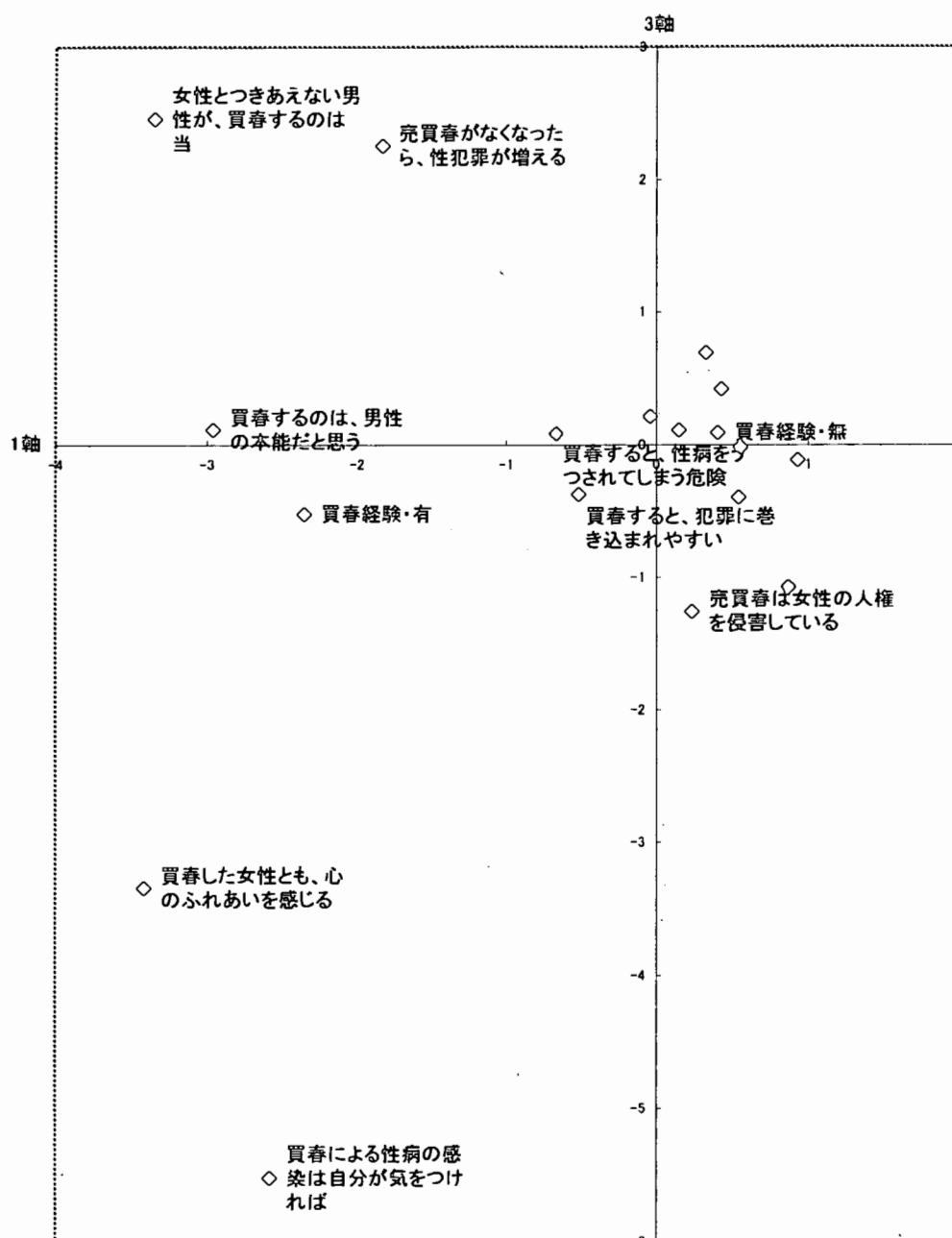
図 3・2・4・1 買春経験別にみた売買春意識



## 5. 數量化理論第III類の結果

買春意識項目のうち、選択率が5%未満だったものを除いた8項目について、数量化理論第III類（以下、III類と略称）を用いて分析し、第3軸までを抽出した。各軸の固有値は、第1軸が.18、第2軸が.14、第3軸が.10である。この中から、意識項目および買春経験有無各群の第1軸と第3軸のスコアを併せて布置したものを図3-2-5-1に示す。

図3-2-5-1 売買春意識の構造（III類カテゴリースコア）



項目は大きく3つのまとまりに分かれており、ひとつは買春経験無群を中心とした「性病をうつされてしまう危険がある」「犯罪に巻き込まれやすい」「女性の人権を侵害している」の3項目を含むまとまりである。買春経験のないものは買春の危険性を敏感に感じているとともに、「人権侵害」という女性寄りの主張にも共鳴している。言いかえれば、人権侵害という意識が買春を許容しない態度に結びついているとも解釈できる。先に、売買春を人権問題と結びつけて意識化するものは全体として少ないことを指摘したが、このIII類の結果からは、売買春が女性の地位を低めているとの認識をもつことが、援助交際を抑制する心理的要因に成りうると考察できる。これは、福富ら（1988）の論考を支持するものである。一方図の左上には、買春経験有群とともに「買春は当然」「なくなったら性犯罪が増える」「男の本能」が布置している。この点からも買春経験者は、男性の本能に結び付けて買春を当然としたり、なくなると性犯罪が増えるといった別の危険性を上げて行為の正当性を積極的に主張する傾向をもっていることが確認できる。図の左下には「買春女性とも心のふれあいを感じられる」「性病は気をつければ防げる」があるが、これは買春を消極的な理由をもって肯定しようとする項目群である。この2項目は相対的にみると買春経験群に近く、経験者にはこれらの理由も意識されていることが示唆される。

## 6. 買春許容意識尺度の作成とその分析

買春意識については、これらの項目を用いた尺度作成を試みた。尺度化にあたり、各項目にあてはまるとした場合を2点、あてはまらない場合を1点として得点化を行なった。そして項目の $\alpha$ 係数を高めるように項目選定を行なった結果、最終的に買春を許容することにかかわる以下の5項目が残された。項目の主成分分析の結果を、表3-2-6-1に示す。

表3-2-6-1 買春許容意識に関する主成分分析結果（N=664）

項目内容	負荷量
問19.1 売買春がなくなったら、性犯罪が増える	.59
問19.2 女性とつきあえない男性が、買春するのは当然だ	.64
問19.3 買春するのは、男性の本能だと思う	.62
問19.4 買春した女性とも、心のふれあいを感じることができる	.59
問19.10 買春による性病の感染は、自分が気をつければ防げると思う	.49
固有値	
寄与率（%）	
	1.72
	34.31

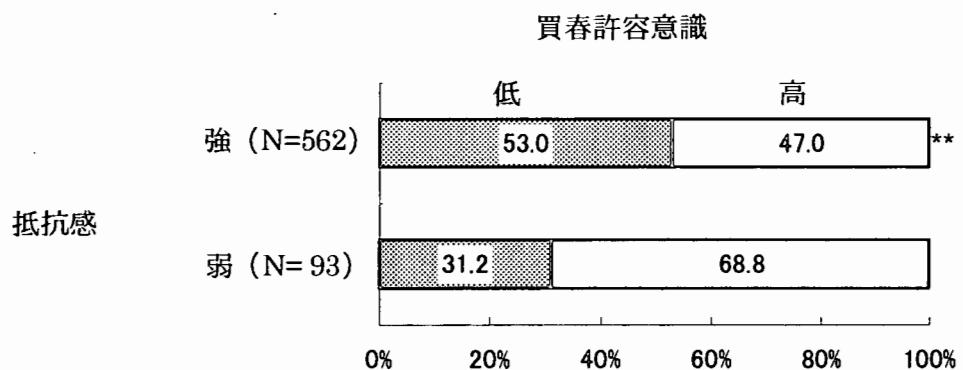
これら5項目の $\alpha$ 係数は.51であった。単純加算し、得点が高い方が買春に許容的であることを意味するよう尺度得点を求めた結果、分布に偏りがみられた。そこで5点（ひとつも○をつけなかった場合）を「買春許容意識低群」、6～10点（ひとつでも○がついた場合）を「買春許容意識高群」と再カテゴリー化を行なった。再カテゴリー後の比率は、

買春許容意識低群が50% (N=333)、買春許容意識高群が50% (N=331)である。

この買春許容意識高低の割合を年齢層で比較すると、20代前半層と50代後半層という両極の年齢層で買春許容意識高群がともに6割と高かった。反対に許容意識が低いのは、20代後半層～30代前半層にかけてである。なぜ20代前半と50代後半層で類似した態度が示されているのか、また、20代前半から後半にかけてなぜ許容意識が低下するのかについては本調査では明らかではないが、今後明らかにしていきたい課題である。

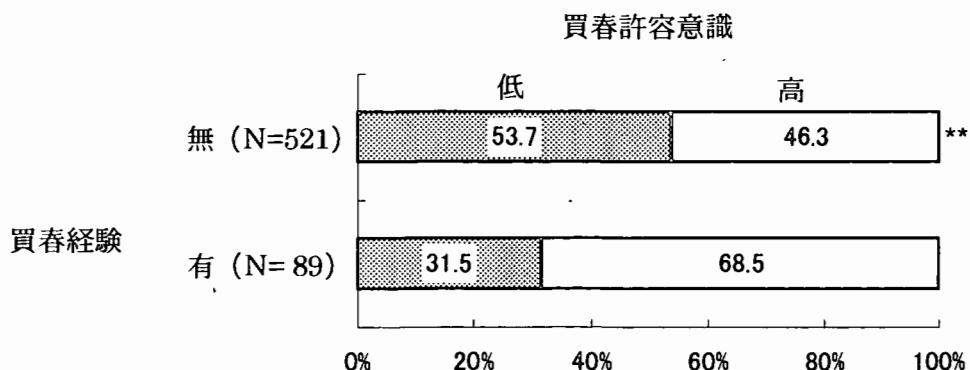
続いて、買春許容意識高低の割合が、『援助交際』に対する抵抗感によって異なるかを検討した(図3-2-6-1)。その結果、抵抗感弱群では買春を許容するものが全体の7割近くに達し、抵抗感強群の5割を大きく上回っている。この点からも、『援助交際』を認める心理と買春を認める心理とは、共通した意味を持っていることが確認される。

図3-2-6-1 『援助交際』に対する抵抗感と買春許容意識尺度



続いて買春経験有無によって、買春許容意識高低が異なるかを検討した。図3-2-6-2に示すとおり、買春経験有群は、無群と比べて買春を許容していることがわかる。この結果は、買春を受容する意識と実際の行動との間には、実際に結びつきがあることを示している。

図3-2-6-2 買春経験と買春許容意識尺度



### 第3節 売買春に関する意識と経験のまとめ

本章では、買春経験と、売買春に対する意識を測定した。

まず買春経験（ここ4～5年）については、「性風俗」が約1割、「性行為を伴う『援助交際』」が0.3%、「海外で売春婦」が2.3%であった。総じて経験率は高いとはいえないが、この問い合わせに限っては回答不明者が回答者全体の約1割を占めていたことや、非回答者（質問票を送ったが返送しなかったもの）の性質が買春経験の多かった第3回督促層と類似した層であると考えられることなどから、買春にかかわるこれらの経験率は本調査で示された値よりも高いものになると推測される。また、性風俗利用は、若年層中心に行なわれていることも示されている。なお、買春をしたことのあるものは、『援助交際』に対する抵抗感の弱いもののが多かった。

続いて売買春に対する意識である。「買春をすると、性病をうつされてしまう危険がある」が6割の人に肯定されているなど、性病に関するリスクは広く認知されている。その一方で、「売買春がなくなったら、性犯罪が増える」は、3割以上に支持されていて、買春には“リスクはあるが不可欠なもの”というイメージがある。

『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者は、買春を正当化するステレオタイプを支持している。特に「売買春をなくすと性犯罪が増える」というステレオタイプ的項目を選択したものは、抵抗感弱群や買春経験者では5割に上る（全体では3割）。また抵抗感の弱いものや買春経験者は、性病に関して「気をつければ防げる」と考えている。一方、買春経験のないものは買春の危険性を敏感に感じているとともに、「人権侵害」という女性寄りの主張にも共鳴しており、人権侵害という意識が買春を許容しない態度に結びついていると解釈された。

さらに、これらの項目を用いて買春許容意識を作成したところ、20代前半層と50代後半層という両極の年齢層で買春許容意識が高く、反対に20代後半層～30代前半層にかけて低かった。またこの買春許容意識は、『援助交際』に対する抵抗感弱群や、買春経験有群で高い。買春を許容する意識が、『援助交際』を許容したり、実際に買春することと結びついている。

## 第4章 『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の背景要因

本章では、第2章、第3章に示された『援助交際』に対する抵抗感や買春経験による群分けに基づいて、他の項目への回答を分析し、これらの態度や経験の背景要因を探索する。

### 第1節 環境的背景

本節では、回答者の環境的背景として、学歴・階層帰属意識などの基本的属性と、家族との関係、職場における人間関係などを分析する。年齢に関しては、第2章、第3章で分析している。

#### 1. 基本的属性

『援助交際』で女子に金品を渡してデートやセックスを行う男性や買春をする男性達に関しては、面接調査（福富ら、1998）や偏った層への意識調査（男性と買春を考える会、1998）しか発表されていない。このため、学歴や階層帰属意識などの男性の基本的属性が、これらの意識や行動とどう関わるかについては明らかになっていない。本節では、まず基本的属性によって、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験が異なるか否かを分析する。

##### (1) 学歴

回答者全体の学歴は第1章の図1-4-1-2に示した。

年齢別に見ると、年代によって学歴に差が見られた（表4-1-1-1）。35歳から54歳の層では、「大学・大学院」卒の人が5割を越えており、高学歴層に偏っていた。

学歴と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を分析したが、いずれも関連は見られなかった。

表4-1-1-1 年齢別に見た学歴（%）

年齢	N	小中学校	高校	専門学校・	
				高専・短大	大学・ 大学院
20-24歳	51	0.0	33.3	25.5	41.2
25-29歳	73	0.0	42.5	24.7	32.9
30-34歳	73	5.5	28.8	28.7	37.0
35-39歳	81	4.9	23.5	14.8	56.8
40-44歳	75	4.0	25.3	16.0	54.7
45-49歳	87	4.6	31.0	12.6	51.7
50-54歳	114	8.8	32.5	6.1	52.6
55-59歳	96	16.7	39.6	11.5	32.3

## (2)階層帰属意識

階層帰属意識の回答結果は、図 1-4-1-4 に示した。階層帰属意識には、年齢による差は見られなかった。

階層帰属意識と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を分析したが、いずれも関連は見られなかった。

## 2.家庭環境

女子高校生の『援助交際』に対する態度は、家庭環境によって明確に異なっていた（福富ら、1998）。『援助交際』に対して抵抗感がある女子高校生や、『援助交際』経験のない女子高校生は、親への愛情や信頼感が強かった。言い換えれば、親との愛情や信頼関係は、『援助交際』を抑制する力を持っているのである。同様の指摘は、1980 年頃の高校生の性行動を分析した松井・堀（1982）によって指摘されていた。

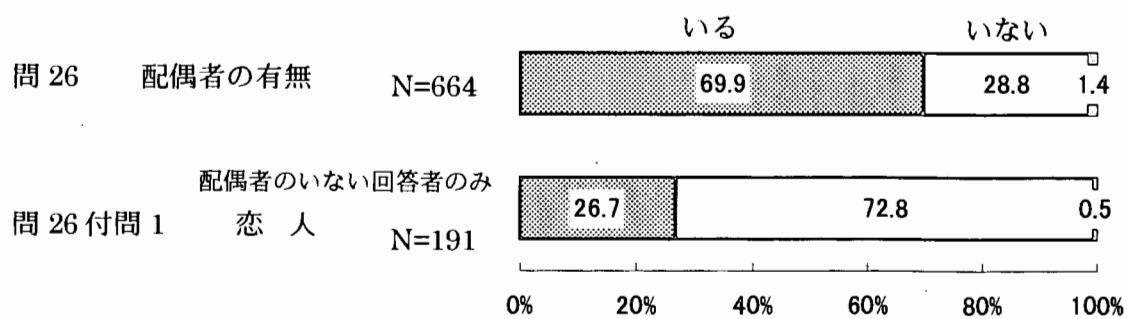
これらの知見からみると、成人男性の『援助交際』に対する意識や買春経験も、家庭のあり方、とくに家族との情緒的なつながりと強い関連を持つものと推定される。本調査では、家族との情緒的交流や、家族の形態（配偶者の有無や、子どもの有無、1人暮らしなど）と、『援助交際』に対する意識や買春経験との関連を分析する。

### (1)妻や恋人の有無

有意抽出した男性に意識調査を行った男性と買春を考える会（1998）によると、買春経験の有無と「特定のパートナー（配偶者や恋人など）」の有無との間には関連が見られなかった。本調査では無作為抽出標本に基づき、配偶者や恋人の有無と、『援助交際』に対する態度や買春経験との関連を検証する。

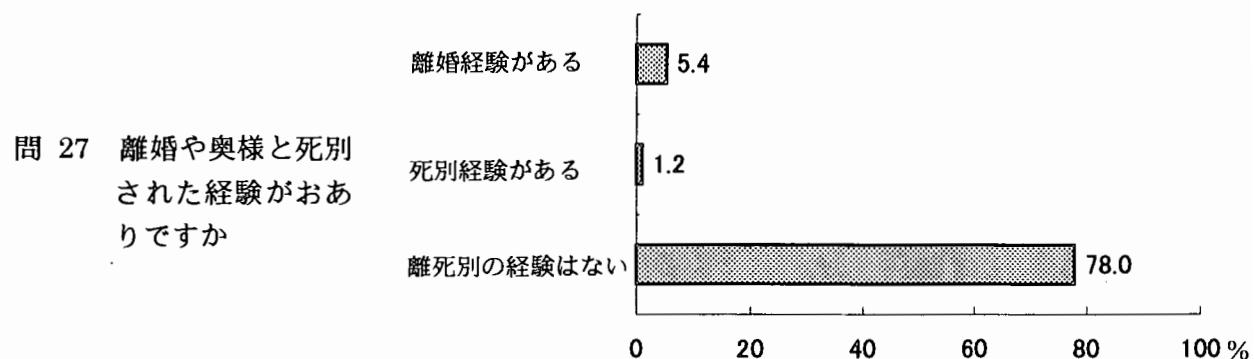
回答者の配偶者（妻）の有無と、配偶者がいない人の「恋人」の有無を、図 4-1-2-1 に示す。妻が「いる」人は 7 割であった。妻が「いない」人（191 人）のうち、恋人が「いる」割合は 27% であった。回答者全体のうち約 8 割（79%）には、妻か恋人がいた。

図 4-1-2-1 配偶者や恋人の有無



配偶者との関係を離死別に分けてみると（図 4-1-2-2）、離婚経験者は 5 %、死別経験者が 1 % あった。

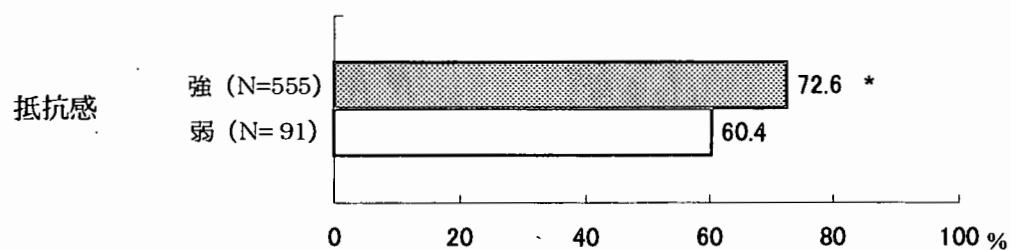
図 4-1-2-2 配偶者との離死別 (N=664)



妻がいる比率（妻帯率）は、年齢層によって異なっていた。20代前半層の妻帯率は10%であるが、年齢が上がるにつれて高くなり、30代後半層は7割（69%）となり、40代後半層以上は9割前後（89～95%）となっていた。

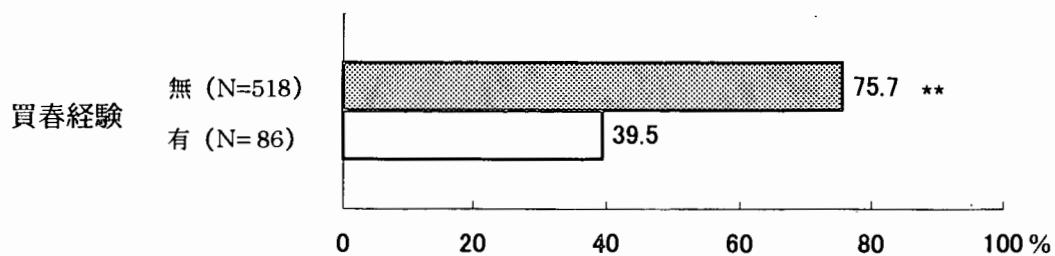
妻帯率は、『援助交際』に対する抵抗感によって異なっており（図4-1-2-3）、『援助交際』に対する抵抗感が弱い群（弱群）は、抵抗感を強く感じている群（強群）より、妻帯率が低かった。

図 4-1-2-3 『援助交際』に対する抵抗感別にみた妻帯率



買春経験は、妻帯率とより明確に関連していた（図4-1-2-4）。買春経験の無い層の妻帯率は76%に対し、買春経験のある層の妻帯率は40%にしか達していなかった。

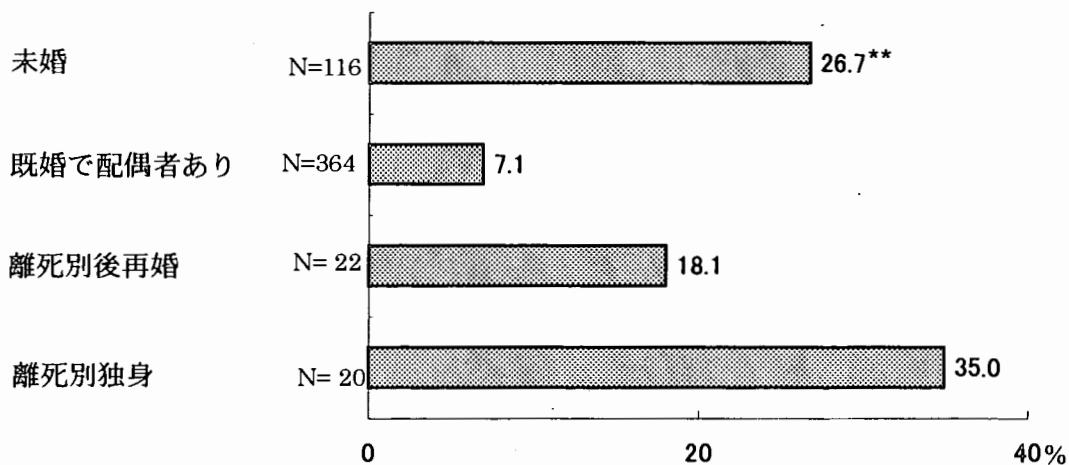
図 4・1・2・4 買春経験別にみた妻帯率



さらに、離死別の経験別に見ると、「離死別の経験はない」との回答が、買春経験者(64%)より、買春無経験者(81%)より少なかった。

そこで、現在配偶者があるか否かと離死別体験とを組み合わせて、「未婚」「既婚で配偶者あり」「離死別の後再婚」「離死別し現在独身」の4層に分け、買春経験率を比べてみたのが、図 4・1・2・5 である。図から分かるように、既婚で現在配偶者のある男性は最も買春経験率が低い。ただし、この層でも 14 人に 1 人 (7%) は買春経験を持っている。買春経験が最も高いのは、離死別して独身でいる男性で、3 人に 1 人 (35%) が買春経験を持っていた。

図 4・1・2・5 婚姻経験別にみた買春経験率



なお、配偶者がいない人の中における「恋人がいる」率は、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験とは関連していなかった。

「配偶者」がいることは買春を抑制していたが、「恋人」の存在は、買春経験には影響していなかった。

## (2)妻との同別居・妻の職業

妻帯者（464人）の中で、妻と同居している人は98%で、別居している人は2%であった（図4-1-2-6）。妻の職業は、「専業主婦」が4割を占め、「フルタイムで勤めに出ていている」（14%）と「パートタイムで勤めに出ていている」（26%）を合わせると4割になっている（図4-1-2-7）。

図4-1-2-6 妻との同別居（N=464）

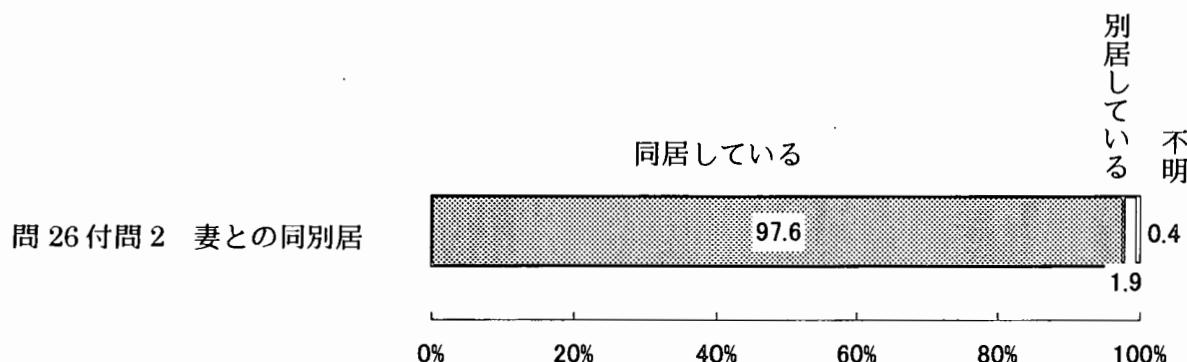
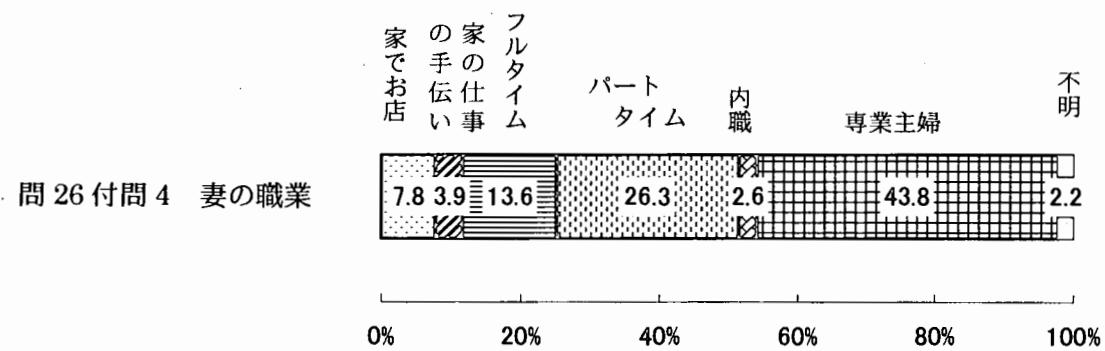


図4-1-2-7 妻の職業（N=464）



妻の職業を年齢別に見ると、20歳代前半層は、「フルタイム」（40%）が多く、20歳代後半以降は減っている（9~21%）。40代以上では「パートタイムで勤めている」（29~39%）が多くなっている。同別居については年齢による差は見られない。

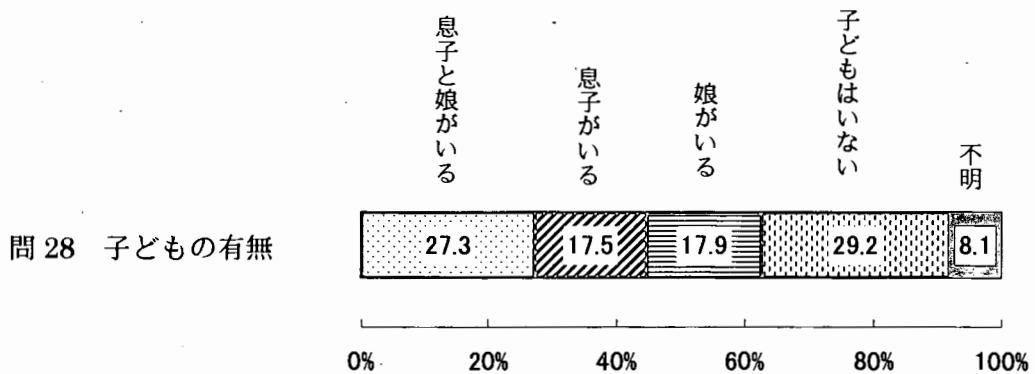
同別居や妻の職業と、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を分析したが、いずれも関連は見られなかった。

## (3)子どもの有無

回答者に子どもがいるか否かとその性別を尋ねた。回答は図4-1-2-8のようになっており、「子どもはない」が約3割で、「息子と娘がいる」が3割弱、「息子がいる」と「娘が

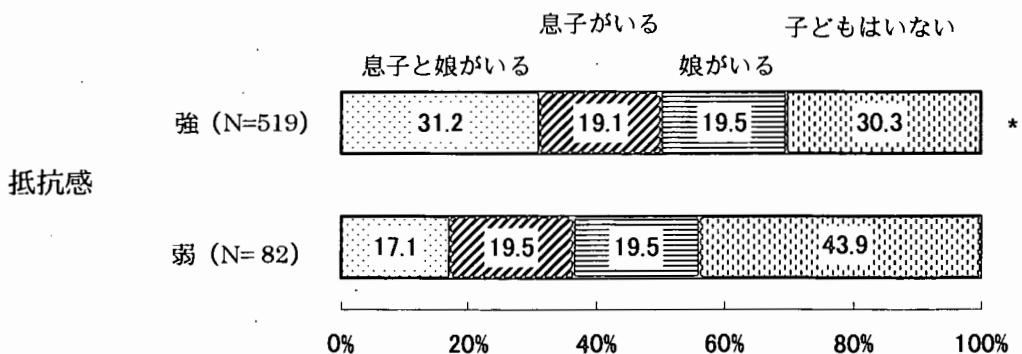
いる」がそれぞれ2割弱となっていた。年齢別に見ると、若い層ほど、「子どもはいない」比率が高く、20歳代では8割前後であるが、30代前半層では5割となり、40歳代では2割、50歳代では1割弱と減っていた。

図4-1-2-8 子どもの有無と性別 (N=664)



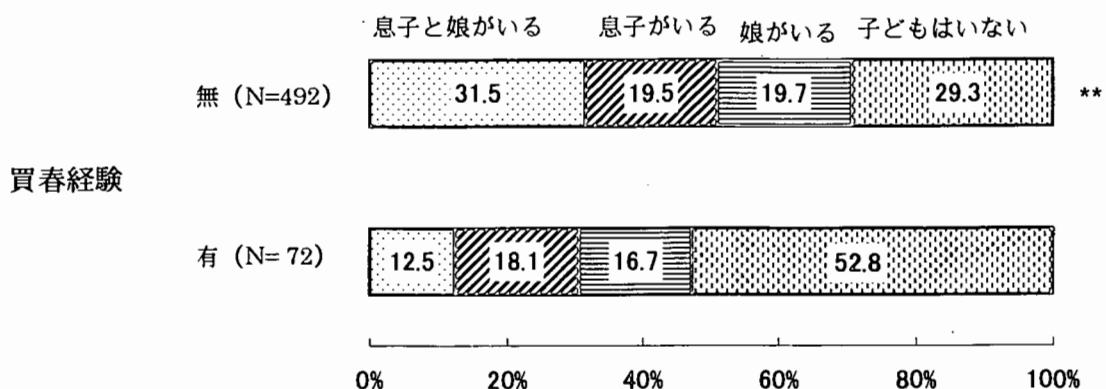
『援助交際』に対する抵抗感別に見ると（図4-1-2-9）、抵抗感の強い群（強群）では、「子どもがいない」比率が高くなっていた。

図4-1-2-9 『援助交際』に対する抵抗感別にみた子どもの有無と性別



買春経験の有無によっても、子どもの有無は異なっており（図4-1-2-10）、買春経験がある群では、「子どもがいない」率が5割を越えて高くなっていた。

図 4-1-2-10 買春経験別にみた子どもの有無と性別



#### (4)一人暮らし

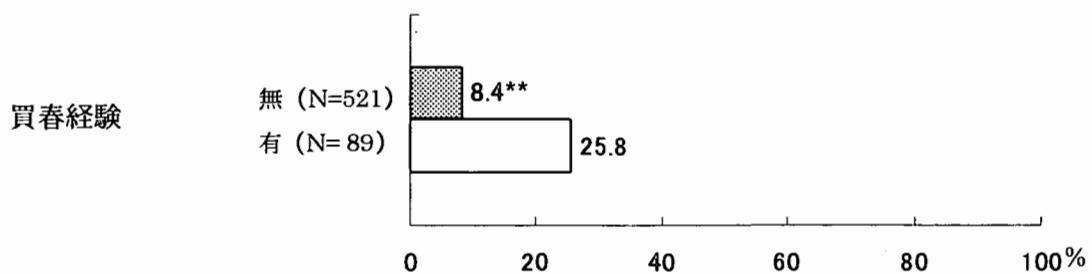
ふだんの生活の中で「一人暮らしをしている」と回答した人は1割（図 4-1-2-11）で、年齢層別にみると20代後半層（25%）や30代前半層（22%）に多かった。

図 4-1-2-11 一人暮らしの比率 (%)



『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を見ると、買春経験との間に関連が見られた。買春経験のある群（有群）はない群（無群）に比べて、「一人暮らし」をしている比率が高かった（図 4-1-2-12）。

図 4-1-2-12 買春経験別にみた一人暮らしの比率



### 3. 家族の絆

上記のように、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験は、家庭の環境や家庭の形態と密接に結びついていたが、家族の心理的なあり方、家庭内の気持ちのつながりとも関連しているものと推定される。本調査では、妻帯者における妻との情緒的な絆と、回答者全員における家族との情緒的な絆をそれぞれ測定し、『援助交際』や買春との関連を分析した。

家族との情緒的絆や妻との情緒的絆の測定項目は、女子高校生調査の「親への愛情尺度」をベースにして、成人男性にふさわしいと考えられる項目を、新たに作成した。

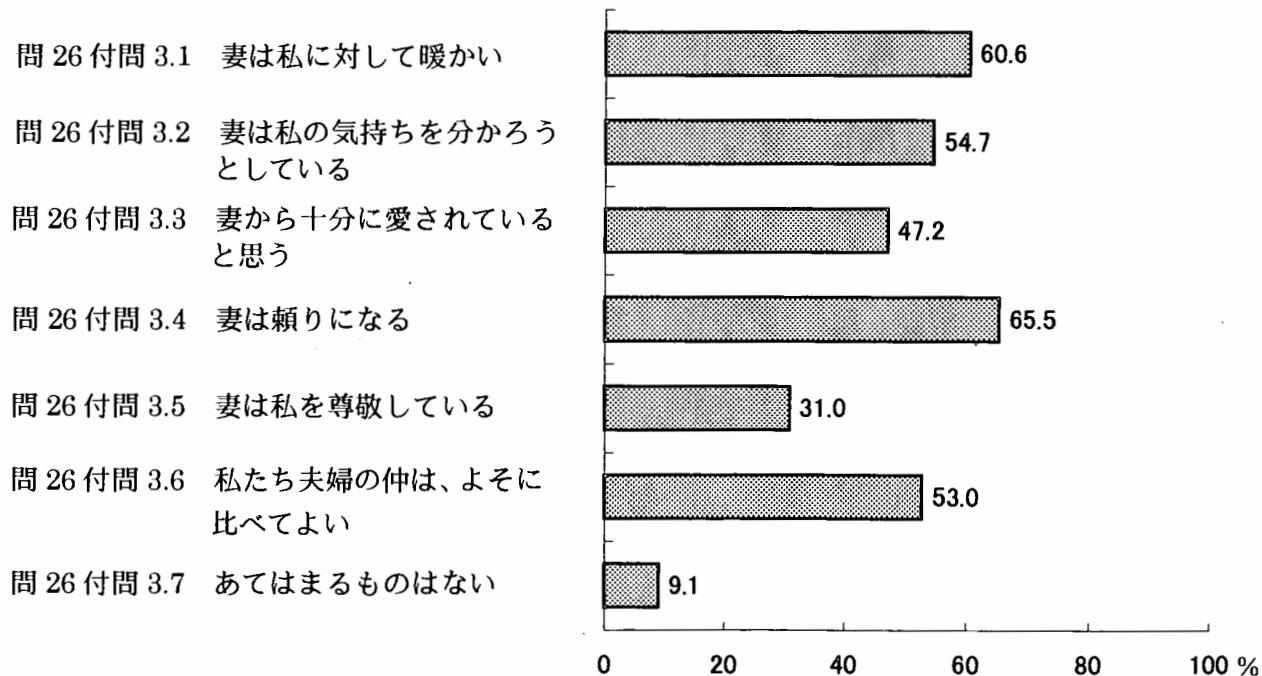
#### (1) 妻との情緒的絆

妻帯者における妻との情緒的なつながりは、図4-1-3-1に示す6項目で測定した。

妻帯者の6割以上が、「妻は頼りになる」や「妻は私に対して暖かい」と感じており、半数以上が、「妻は私の気持ちを分かろうとしている」や「私たち夫婦の仲はよそに比べて良い」と見ており、妻としっかりとした情緒的な結びつき（絆）を持っていた。「妻から十分に愛されていると思う」も半数弱が肯定していた。ただし、「妻は私を尊敬している」という尊敬については、3割にとどまっていた。

逆に、これらの妻との情緒的な絆を感じていない、すなわち全てに「あてはまらない」と回答した妻帯者は、9%もあった。1割弱の成人男性は、妻との情緒的な絆を実感できない夫婦関係を持っているのである。

図4-1-3-1 妻帯者における妻との情緒的な絆 (N=464)

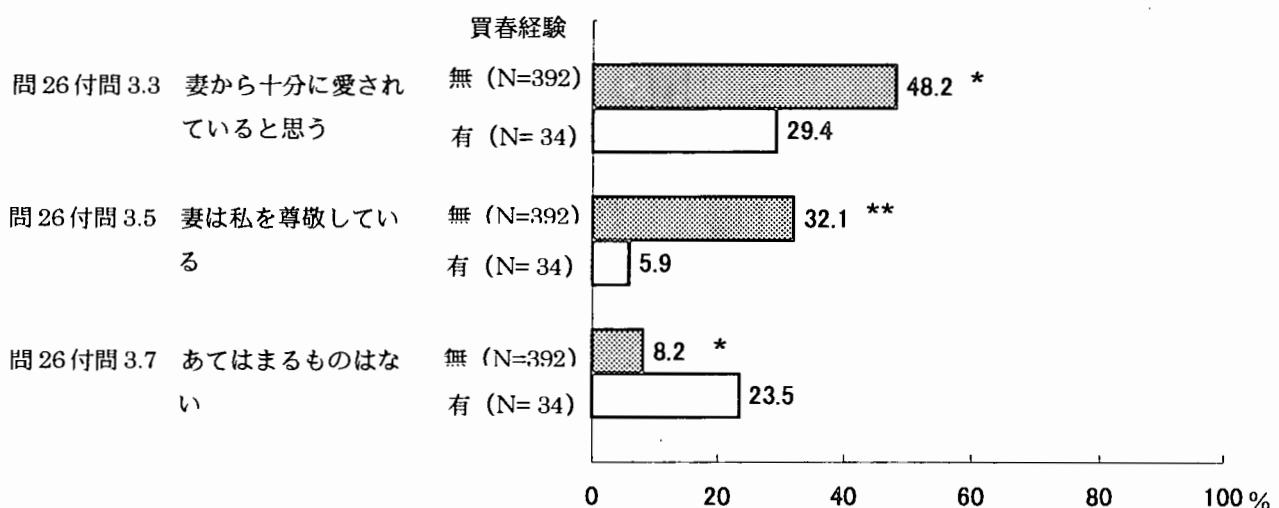


年齢層別に見ると、「妻から充分に愛されていると思う」への肯定率に差がみられた。20歳代から30代前半層までは6割が肯定しているが、30代後半層や40代前半層では5割に低下し、40代後半層や50代前半層では、3割台に陥っている。全体の3分の2にあたる中年男性は妻から「愛されている」という実感をもてないでいるのである。

『援助交際』に対する抵抗感別に見ると、抵抗感の弱い群（弱群）は、抵抗感が強い群（強群）に比べて、「私たち夫婦の仲は、よそに比べて良い」という実感が弱かった（弱群36%、強群55%）。

買春経験別に見ると（図4-1-3-2）、買春経験群は経験のない群に比べて、「妻から充分に愛されていると思う」や「妻は私を尊敬している」と感じる人が少なく、情緒的な絆に「あてはまるものはない」と感じる人が多かった。

図4-1-3-2 買春経験別にみた妻との情緒的な絆



注：妻帯者内のデータ。有意差のあった項目だけを表記している

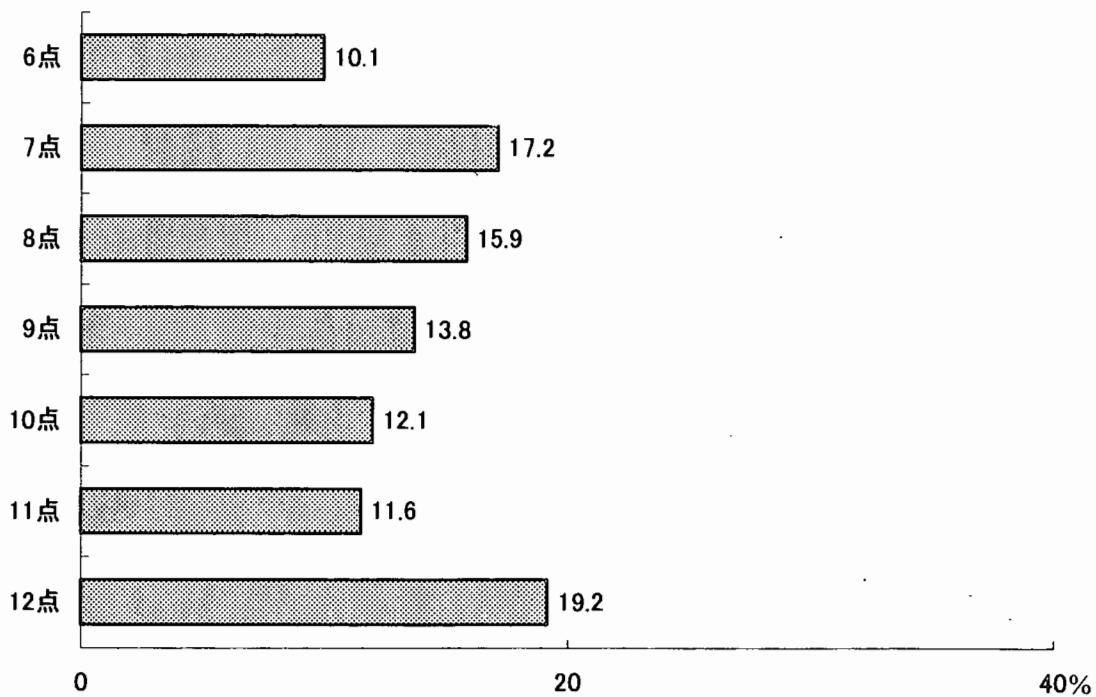
これらの回答をまとめて分析するために、尺度構成を行った。まず、図4-1-3-1に示す6つの選択肢について、選択した場合に2点、選択しなかった場合に1点をそれぞれ与え、この得点を主成分分析によって解析した。分析の結果は表4-1-3-1に示すとおりで、いずれの選択肢も第1主成分に.50以上の高い負荷を示した。そこで、これら6選択肢への回答を単純加算し、尺度得点とした。この尺度の信頼性を示すクロンバッックの $\alpha$ 係数は、.78と高かった。

表 4-1-3-1 妻との情緒的絆に関する主成分分析結果 (N=464)

項目内容	負荷量
問 11 付問 1.1 妻は私に対して暖かい	.71
問 11 付問 1.2 妻は私の気持ちを分かろうとしている	.72
問 11 付問 1.3 妻から十分に愛されていると思う	.82
問 11 付問 1.4 妻は頼りになる	.56
問 11 付問 1.5 妻は私を尊敬している	.72
問 11 付問 1.6 私たち夫婦の仲は、よそに比べてよい	.59
負荷量の 2 乗和	2.88
寄与率 (%)	48.02

この尺度の得点分布を、図 4-1-3-3 に示す。

図 4-1-3-3 妻との情緒的絆尺度得点の分布 (N=464)



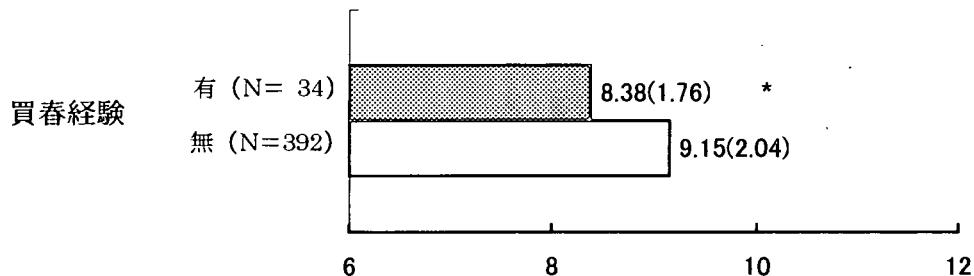
この得点を年齢別に見ると、表 4-1-3-2 のようになり、40 歳代後半から 50 歳代前半層において、得点が下がっている。中年男性は妻との情緒的な絆が弱まっているのである。

表 4・1・3・2 年齢別に見た妻との情緒的絆得点

年齢	N	平均	S D
20・24 歳	5	9.60	2.30
25・29 歳	26	9.85	1.91
30・34 歳	42	9.64	2.15
35・39 歳	56	9.23	1.99
40・44 歳	58	9.19	2.11
45・49 歳	76	8.80	2.13
50・54 歳	104	8.52	1.83
55・59 歳	90	9.44	1.84

『援助交際』に対する抵抗感や買春経験別に、妻との情緒的絆得点を分析した。分析の結果、買春経験で差が見られた(図 4・1・3・4)。買春経験のある妻帯者は、経験のない妻帯者に比べて、妻との情緒的絆が弱かった。

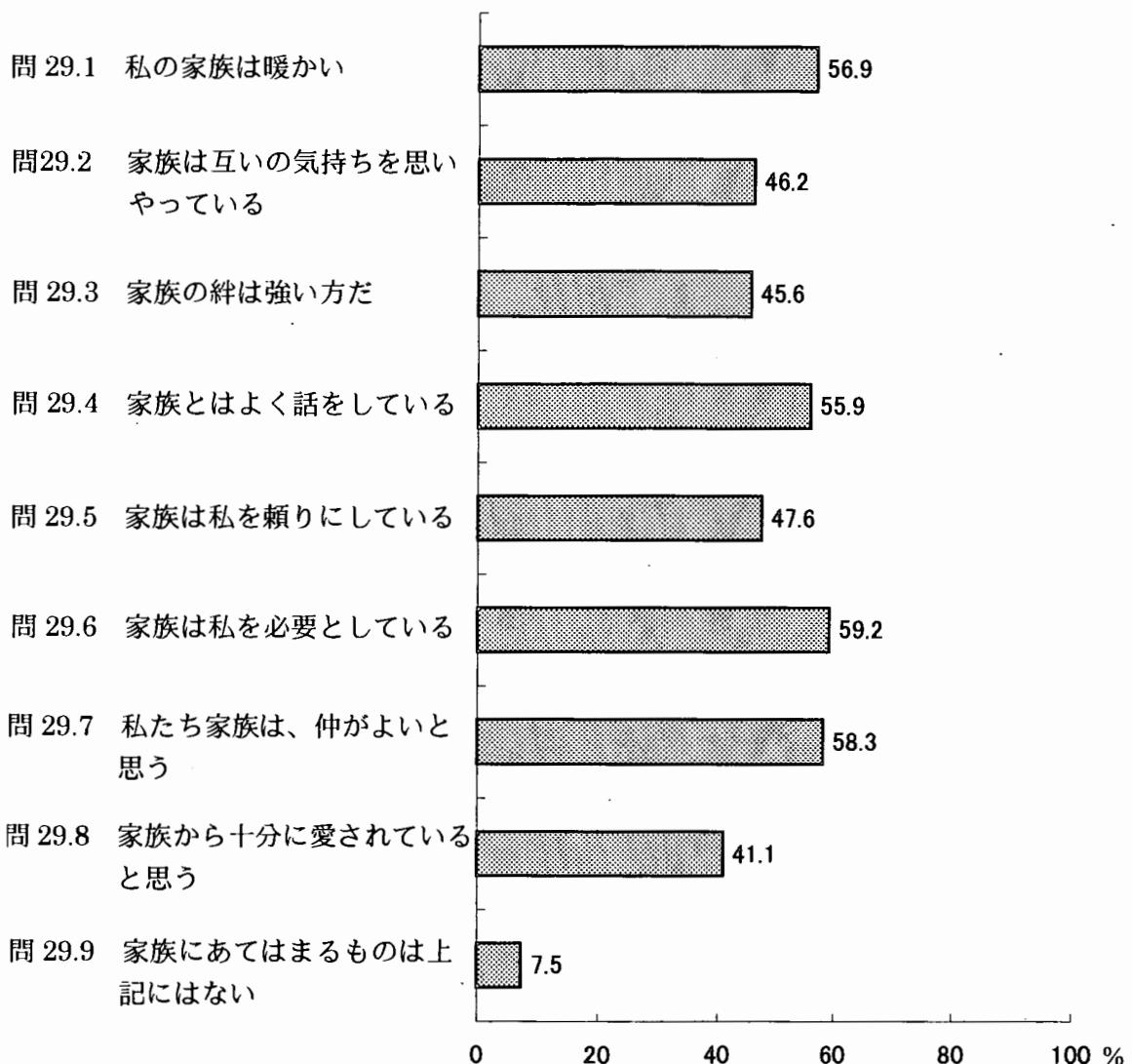
図 4・1・3・4 買春経験と妻との情緒的絆尺度



## (2) 家族との情緒的絆

つぎに、妻を含めた家族との情緒的な絆を、図 4・1・3・5 に示す 9 選択肢について分析した。半数以上の回答者は、「家族は私を必要としている」「私たち家族は仲がよいと思う」「私の家族は暖かい」「家族とはよく話をしている」と、家族とは情緒的に結びついていると感じていた。「家族は私を頼りにしている」「家族の絆は強い方だ」「家族から十分に愛されていると思う」も 4 割以上が肯定していた。一方、これらの情緒的な絆を感じていない「家族にあてはまるものは上記にはない」を肯定した人は 8 % であった。

図 4・1・3・5 家族との情緒的絆 (N=664)

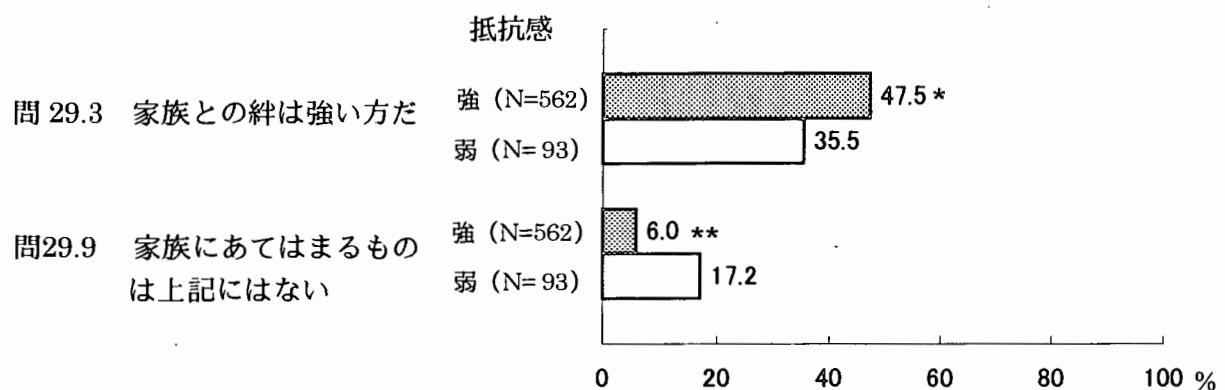


年齢別に見ると、「家族は私を頼りにしている」と「家族から十分に愛されていると思う」「家族にあてはまるものは上記にはない」において、差が見られた。「家族は私を頼りにしている」は20代では2割(24~37%)と少ないが、年齢が高まるにつれて多くなり、40代後半層以降は5割を越えている。「家族から十分に愛されていると思う」は逆に、若い層ほど高く、20代前半層から30代前半層にかけては5割前後(45~53%)であるが、40歳代後半以降は3割(30~38%)にとどまっていた。若いときは親を中心とした家族から愛され、中年以降は子供を中心とする家族から愛されていると実感している発達的な変化を読みとることができる。

家族との情緒的な絆がないことを意味する「家族に当てはまるることは上記にはない」は、20代後半層(15%)、30代前半層(12%)、40代前半層(12%)でやや高くなっていた。『援助交際』に対する抵抗感別に見ると(図4・1・3・6)、抵抗感の弱い群(弱群)は、抵

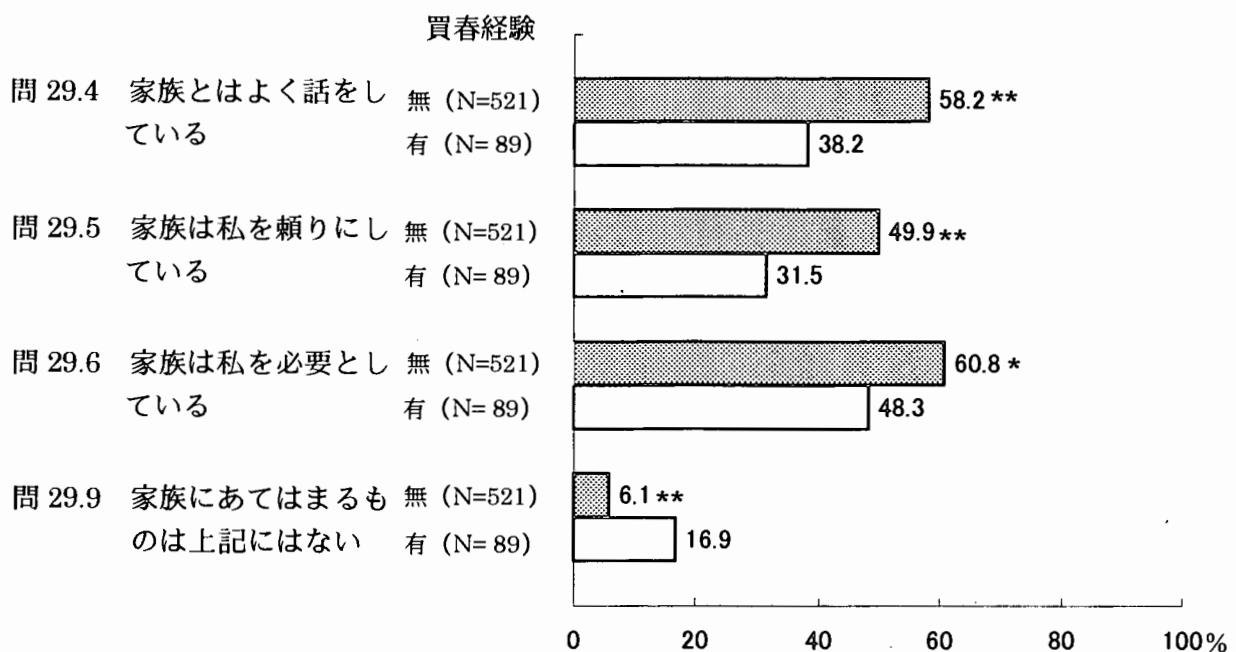
抗感の強い群（強群）に比べて、「家族の絆は強い方だ」を肯定する比率が低く、情緒的絆がないことを意味する「家族にあてはまることは上記にはない」を多く選択していた。

図 4-1-3-6 『援助交際』に対する抵抗感別にみた家族との情緒的絆



買春経験別に見ると多くの選択肢で差が見られている（図 4-1-3-7）。買春経験がない群は、「家族とよく話をしている」「家族は私を頼りにしている」「家族は私を必要としている」を多く感じていた。一方、買春経験のある群にはこうした実感をもつ人が少なく、「家族にあてはまることは上記はない」を多く選択していた。

図 4-1-3-7 買春経験別にみた家族との情緒的絆



これらの回答をまとめて分析するために、妻との情緒的交流得点と同様に、尺度構成を行った。図 4・1・3・5 に示す（「家族にあてはまるものは上記にはない」を除く）8つの選択肢について、選択した場合に2点、選択しなかった場合に1点をそれぞれ与え、この得点を主成分分析によって解析した。分析の結果は表 4・1・3・3 に示すとおりで、いずれの選択肢も第1主成分に .60 以上の高い負荷を示した。そこで、これら8選択肢への回答を単純加算し、尺度得点とした。この尺度の信頼性を示すクロンバッックの $\alpha$ 係数は、.86 と高かった。

表 4・1・3・3 家族との情緒的絆得点 (N=664)

項目内容	負荷量
問 29.1 私の家族は暖かい	.73
問 29.2 家族は互いの気持ちを思いやっている	.70
問 29.3 家族の絆は強い方だ	.77
問 29.4 家族とはよく話をしている	.65
問 29.5 家族は私を頼りにしている	.62
問 29.6 家族は私を必要としている	.69
問 29.7 私たち家族は、仲がよいと思う	.73
問 29.8 家族から十分に愛されていると思う	.77
負荷量の2乗和	4.03
寄与率 (%)	50.34

この尺度の得点分布を、図 4・1・3・8 (次頁) に示す。年齢別の分析では、年齢による差は見られなかった。

『援助交際』に対する抵抗感や買春経験別に、家族との情緒的絆得点を分析した。分析の結果、買春経験で差が見られた (図 4・1・3・9)。買春経験がある群は、経験のない群に比べて、この得点が低く、家族との情緒的絆が弱かった。

図 4・1・3・8 家族との情緒的絆尺度得点の分布 (N=664)

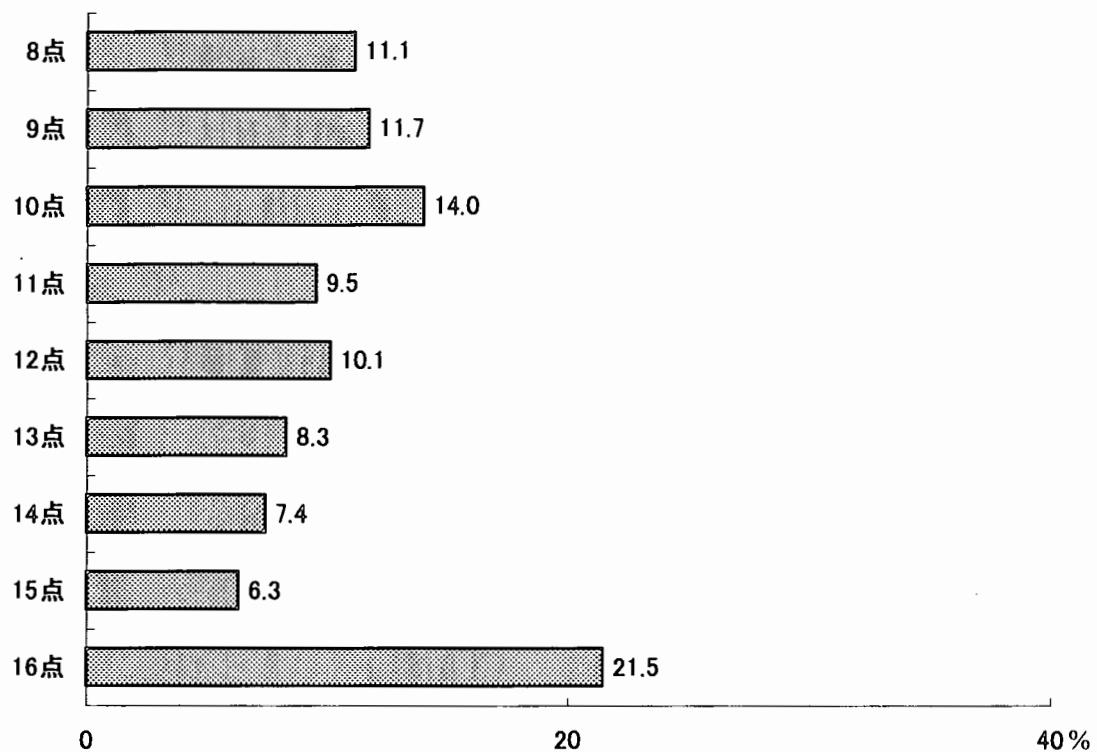
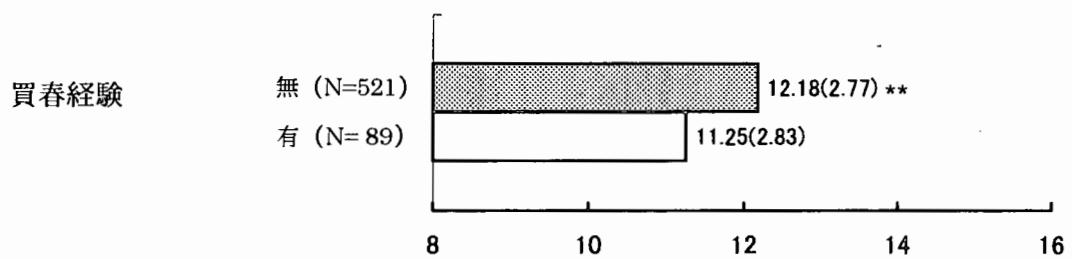


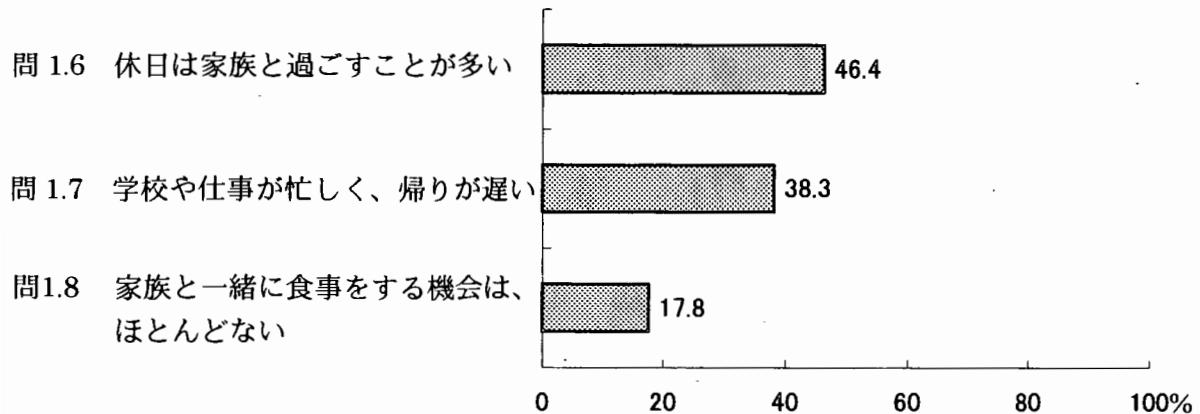
図 4・1・3・9 買春経験と家族との情緒的絆尺度



### (3) 家族との接触

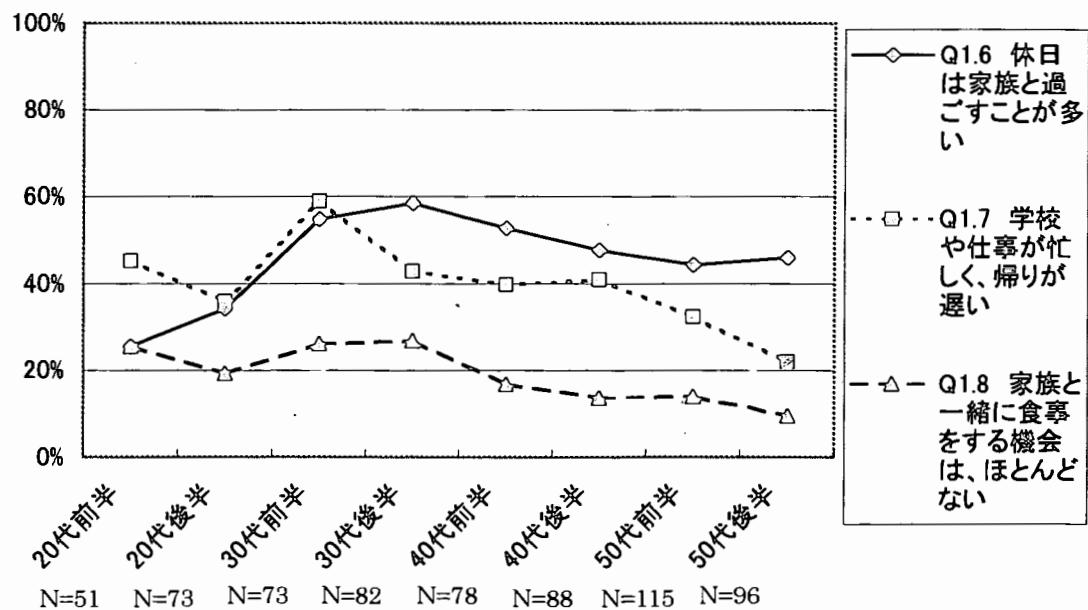
ふだん家族との程度接觸しているかを、図 4・1・3・10 の 3 項目で尋ねた。半数弱の回答者は「休日は家族と過ごすことが多い」が、4割は「学校や仕事が忙しく、帰りが遅い」現状であった。「家族と一緒に食事をする機会は、ほとんどない」と家族と接觸していない回答者も、2割弱に達していた。

図 4-1-3-10 家族との接触 (N=664)



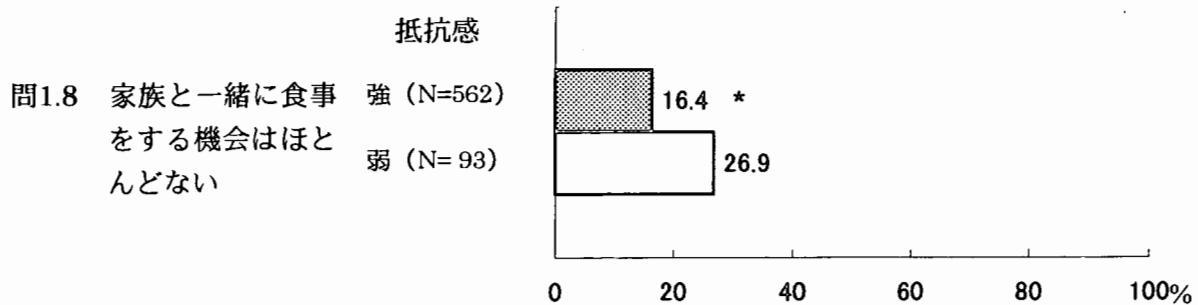
家族との接触状況は、年齢によって大きく異なっていた（図 4-1-3-11）。年齢層毎の特徴をまとめると以下のようなになる。20歳代30歳代は「家族と一緒に食事をする機会はほとんどない」が多かった。30代前半層になると、6割近くが「学校や仕事が忙しく、帰りが遅い」となるため、「休日は家族と一緒に過ごすことが多い」と、平日と休日を仕事と家庭に振り分けている様子がうかがえる。30代後半層や40代前半層は「休日は家族と一緒に過ごすことが多い」が半数を越えて多いが、「学校や仕事が忙しく、帰りが遅い」は4割台と少なくなっていた。50代後半になっても、「休日は家族と一緒に過ごすことが多い」は4割強と多いが、「学校や仕事が忙しく、帰りが遅い」は2割、「家族と一緒に食事をする機会は、ほとんどない」は1割と少なかった。

図 4-1-3-11 年齢別に見た家族との接触



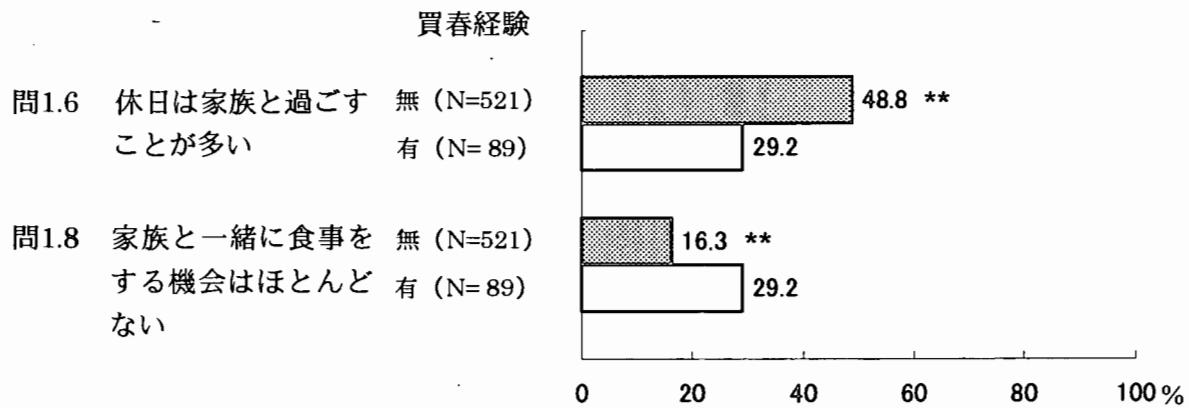
『援助交際』に対する抵抗感別にみると、「家族と一緒に食事をする機会は、ほとんどない」に差が見られた（図 4-1-3-12）。『援助交際』に対して抵抗感の弱い群（弱群）は抵抗感の強い群（強群）に比べ、「食事をする機会がほとんどない」と回答する人が多かった。

図 4-1-3-12 『援助交際』に対する抵抗感別にみた家族との接触



買春経験別に家族との接触状況を見ると（図 4-1-3-13）、買春経験のある群はない群に比べて、「休日は家族と過ごすこと」が少なく、「家族と一緒に食事をする機会は、ほとんどない」人が多かった。

図 4-1-3-13 買春経験別にみた家族との接触



#### 4. 職場環境

有意抽出した男性を対象に買春意識を分析した調査（男性と買春を考える会、1998）によると、「農林水産業」「運輸関連業」「自営業」に従事している男性に、買春経験者が多かった。本調査では業種ではなく、職種と職場での適応状態と『援助交際』意識や買春経験との関連を分析する。

### (1) 職業

回答者の職業は図 1・4・1・3（第 1 章）に示した。

年齢別に見ると、20 代前半層には「学生」が多く（13%）、20 代後半層には「事務・営業職」（23%）や「現業職」（26%）「サービス関連従事者」（19%）が多く、40 代後半層以上の高齢層には「管理職」が多い（28～34%）等の特徴が見られた。

『援助交際』に対する抵抗感や買春経験と職業との関連を分析したが、関連は見られなかった。

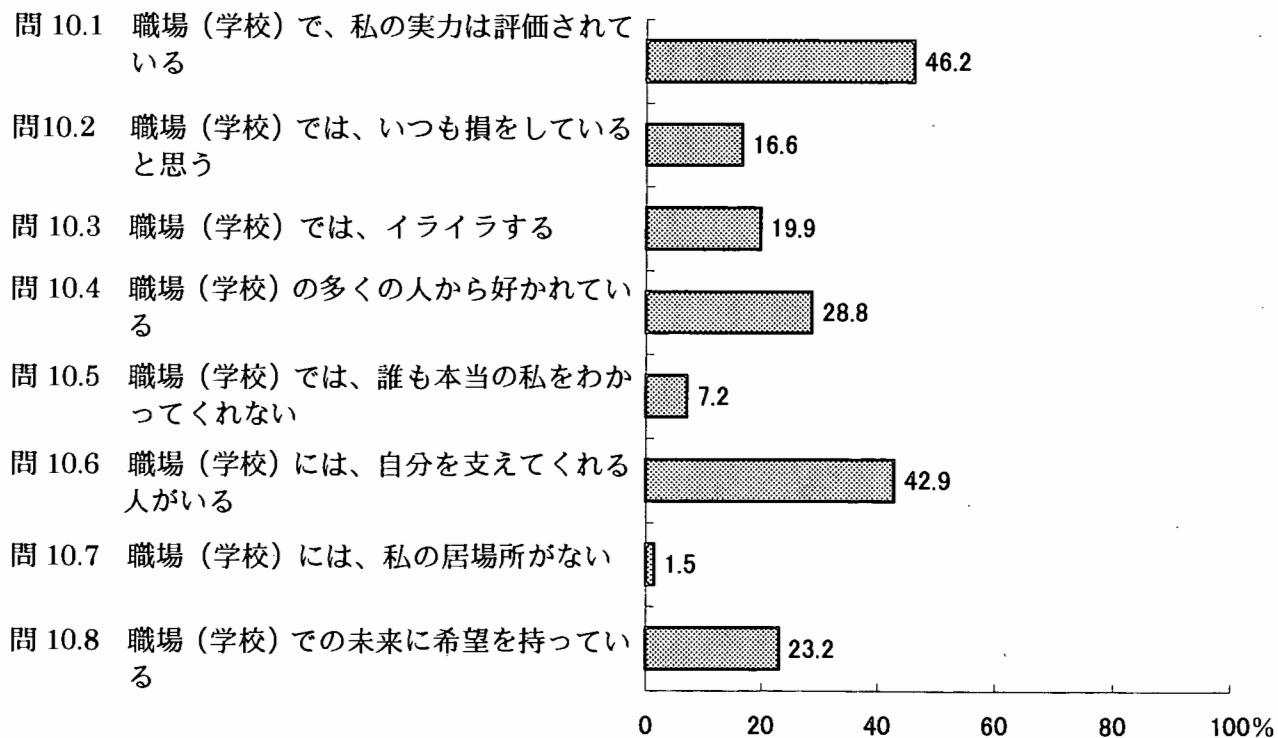
### (2) 職場での適応

職場や通学先で、回答者が適応しているかどうかを把握するために、本調査では図 4・1・4・1 に示す 8 つの選択肢を用意した。4割の回答者は「職場（学校）で、私の実力が評価されている」や「職場（学校）には、自分を支えてくれる人がいる」と実感していた。

「職場（学校）の多くの人から好かれている」や「職場（学校）での未来に希望を持っている」と職場によく適応している人も 2 割以上いた。一方、「職場（学校）では、いつも損をしていると思う」や「職場（学校）では、イライラする」と、職場での不適応を示す人も 1 割台いた。さらに、1 割以下とわずかではあるが「職場（学校）では誰も本当の自分を分かってくれない」や「職場（学校）には、私の居場所がない」と感じている人もいた。

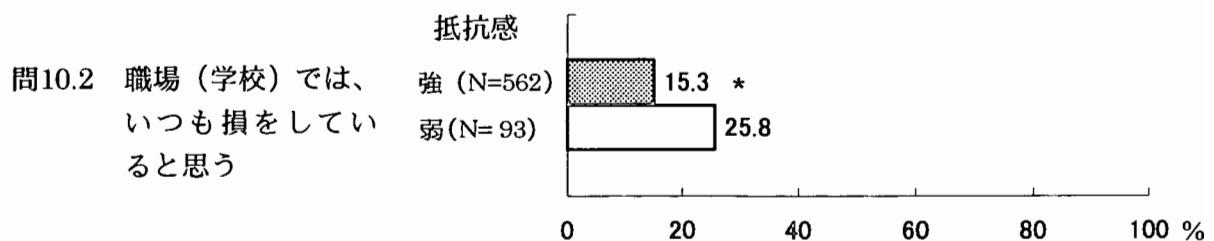
これらの回答には年齢による差は見られなかった。

図 4・1・4・1 職場での適応（N=664）



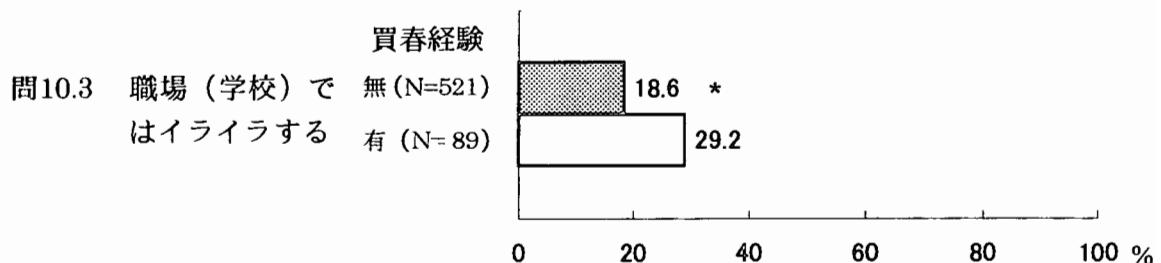
『援助交際』に対する抵抗感別に見ると、「職場（学校）では、いつも損をしていると思う」において差が見られた（図4-1-4-2）。『援助交際』に抵抗感を強く感じる群（強群）に比べ、抵抗感があまり感じない群（弱群）は、この選択肢を多く肯定していた。

図4-1-4-2 『援助交際』に対する抵抗感別にみた職場での適応



買春経験別に見ると、「職場(学校)では、イライラする」において差が見られ（図4-1-4-3）、買春経験のある群はない群に比べ、「イライラ」する人が多かった。

図4-1-4-3 買春経験別にみた職場での適応



## 5. 環境的背景のまとめ

回答者の環境的背景と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連は以下のようにまとめられる。

### (1)『援助交際』に対して抵抗感をあまり感じない男性の特徴

『援助交際』に対する抵抗感が弱い群、言い換えれば『援助交際』に許容的な群の特徴をあげると以下のようになる。子どもや配偶者がいないか、いても夫婦仲が悪い夫婦である。家族との情緒的な絆も弱く、家族と食事をする機会が少ない。職場では「いつも損をしている」と感じている人が多い。

### (2)買春経験者の特徴

買春経験率が高い層の特徴を描くと以下のようになる。配偶者のいない独身者が多く、とくに離死別で妻を失った独身男性が多かった。家族状況をみると、子どもは居ず、一人

暮らしをしている層が多い。

配偶者がある男性に限ってみると、「妻から愛されている」や「妻から尊敬されている」という実感に乏しく、妻との間に情緒的な絆を感じていなかった。さらに、配偶者の有無に関わらず、家族との交流が少なく、家族から「頼りにされている」とか「必要とされている」という実感が弱く、家族との情緒的絆が弱い。休日も家族と過ごすことが少なく、家族で食事をする機会はほとんどない状況である。職場では「イライラすること」が多い。

### (3)家庭や職場から男性を買春に駆り立てるもの

買春経験は、家族のあり方と緊密に結びついていた。独身男性とくに妻との離死別によって独身生活をしている男性には、買春経験者が多い。この結果は、買春が独身男性の性欲求の充足という社会的機能も果たしていることを示唆している。

一方、妻帯者においては、妻との情緒的な絆の欠如が明確にみられた。全体的に家族との交流が少なく、情緒的な絆も弱かった。妻帯者にとっての買春は、妻を中心とする家族との心の交流の乏しさを埋め合わせる「逃げ場」となっているものと考えられる。

先に述べたように、女子高校生を『援助交際』に駆り立てている要因として、親との愛情や信頼関係の欠如が指摘されていた。成人男性の買春も、類似した要因によって起こっているものと推定される。すなわち、気持ちの絆を失った家族のあり方が、男性を買春へ駆り立てているのである。

ここで注意していただきたいのは、本調査では学歴や職種、階層帰属意識が買春経験と関連していなかったという事実である。この事実は、買春が特定の社会階層や経済層に生じる現象でなく、日本の成人男性に広く普及した現象であることを意味する。

買春は家族という基本的な人間関係の問題と結びついて発生し、職場での不適応も関連している。本節の結果からみると、現代日本における買春は、人間関係の歪みの現れであるとまとめられよう。

本節で分析した環境的背景の中からは、『援助交際』に対する抵抗感とは関連する要因を明確に描き出すことは難しい。買春経験者の持つ特徴の一部が、抵抗感の弱い群に反映されているものと考えられる。

## 第2節 行動的特徴

上記のように、買春経験は家族関係と密接な結びつきをもっていた。家庭以外の生活行動にも特徴が見られるものと予想される。本節では、流行などへの関心と情報行動、ギャンブルや些細な違法行為の経験に注目して、『援助交際』や買春との関連を分析する。

### 1. 関心や情報行動

#### (1) 流行関心や情報行動

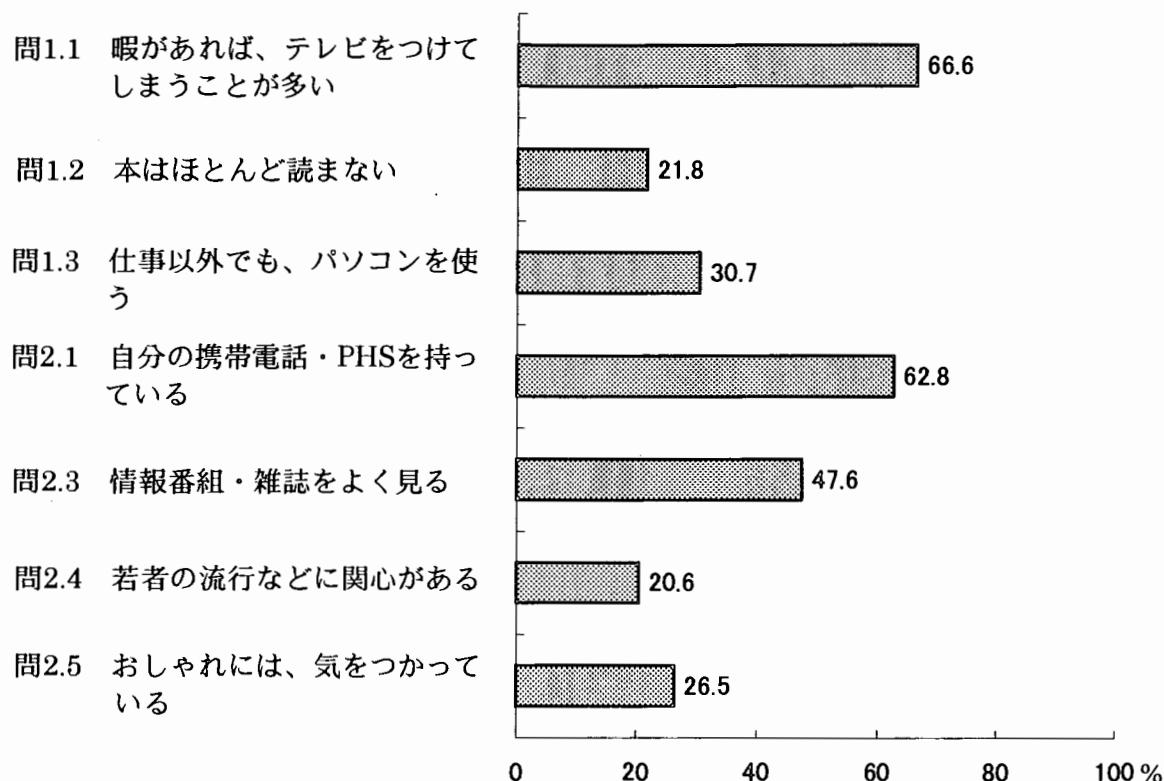
流行に対する関心や、ふだんの情報との接触の仕方について、図4・2・1-1に示す7項目で尋ねている。

情報媒体との接触状況を見ると、6割以上が「暇があれば、テレビをつけてしまうことが多い」と答えており、「情報番組・雑誌をよく見る」も半数弱と多かった。「自分の携帯電話・P H Sを持っている」は6割以上あり、「仕事以外でも、パソコンを使う」人は3割

である。「本はほとんど読まない」人は2割であった。

流行への関心を見ると、「若者の流行などに関心がある」や「おしゃれには、気をつかっている」は共に、2割台にとどまっていた。

図4・2・1・1 流行関心や情報行動 (N=664)



年齢層別に見ると、「自分の携帯電話・P H S を持っている」が年齢によって大きく異なっていた。20代前半層は9割弱（86%）が携帯電話やP H S を所有しているが、高齢になるにつれて所有率は下がり、40歳代は6割（60%）、50代後半層は4割（41%）が所有していた。

「若者の流行などに関心がある」にも年齢差が見られ、20代前半層は約4割（39%）が関心を持ち、20代後半層や30代前半層は約3割（27～30%）関心を持っているが、30代後半以上の層は1割台（13～19%）にとどまっていた。

『援助交際』に対する抵抗感別にみると、「自分の携帯電話・P H S を持っている」に差が見られ、抵抗感の弱い群（弱群）（73%）の方が抵抗感の強い群（強群）（61%）より所有率が高かった。

買春経験の有無による差は、見られなかった。

## (2) 接触情報媒体

『援助交際』や買春は、性風俗の中の現象と捉えることができる。性風俗への関わりは、性風俗情報への接触から始まる部分が大きいと推定される。本調査では性風俗に関する情

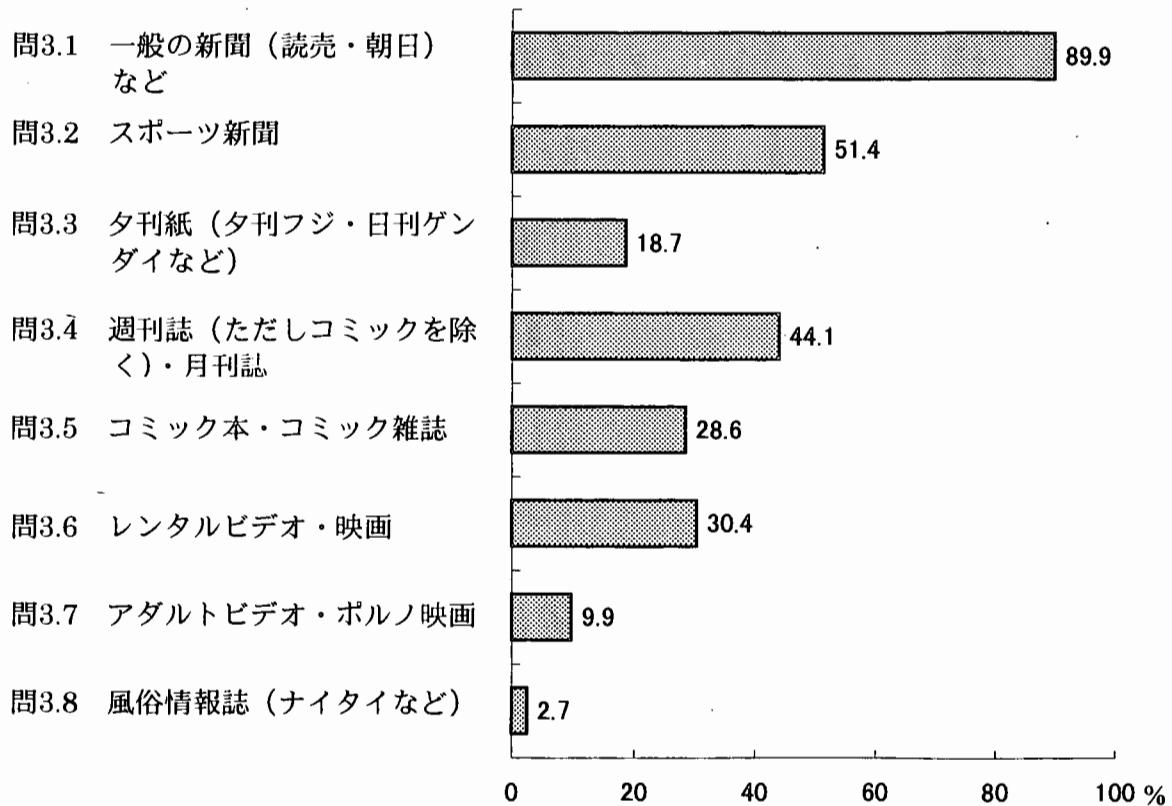
報を中心に、他の一般的な映像や活字メディアとの接触状況を分析した。

回答時点前の「2～3週間のうちに、読んだり見たり」した情報媒体について、図4・2・1・2の8種の媒体をあげて尋ねた。

最もよく接触されていたのは、「一般の新聞（読売・朝日など）」で9割の人が接触していた。次いで「スポーツ新聞」は5割、「週刊誌（但しコミックを除く）・月刊誌」は4割の人が、それぞれ読んでいた。印刷媒体の中では、「コミック本・コミック雑誌」や「夕刊紙（夕刊フジ・日刊ゲンダイ等）」が2割前後読まれており、映像媒体である「レンタルビデオ・映画」は3割ほど観られていた。

一方、性風俗や性に関する情報媒体としては、「アダルトビデオ・ポルノ映画」が10%、「風俗情報誌（ナイタイ等）」が3%、それぞれ観たり読まれたりしていた。

図4・2・1・2 接触している情報媒体 (N=664)



接触媒体は年齢層によって異なっていた。「一般新聞」や「夕刊紙」は、高齢層程多くの人が読んでいた。「一般新聞」は20歳代では8割弱(78～80%)にしか読まれていないが、年齢が上がるにつれて読まれる率が高まっていた。「夕刊紙」は、40代前半層以下は1割台(6～16%)しか読んでいなかったが、40代後半層以上の高齢層では2割台の人(23～28%)が読んでいた。

逆に「コミック本・コミック雑誌」や「レンタルビデオ・映画」や「アダルトビデオ・ポルノ映画」には若い層ほどよく接していた。「コミック本・コミック雑誌」は20代前半層では75%が読んでいるが、20代後半層では55%に減り、30歳代は3割前後(29~33%)、40歳代は2割台(25~28%)に低下していた。ただし、40歳代という中年層でも2割以上の男性がコミックを読んでいるという現状は、日本社会におけるコミック文化の浸透を端的に示しているとも言えよう。

「レンタルビデオ・映画」は、20代前半層では6割(59%)、20代後半層では4割(40%)がそれぞれ観ており、30歳代40歳代も、3割前後(27~39%)観ていた。一方、50歳代は1割台(13~19%)にとどまっていた。

「アダルトビデオ・ポルノ映画」は、20代前半層では3割(31%)、20代後半層では2割(21%)がそれぞれ観ており、20歳代男性がよく観ていた。30歳代は1割(11~14%)、40歳以上は1割以下と少なかった。

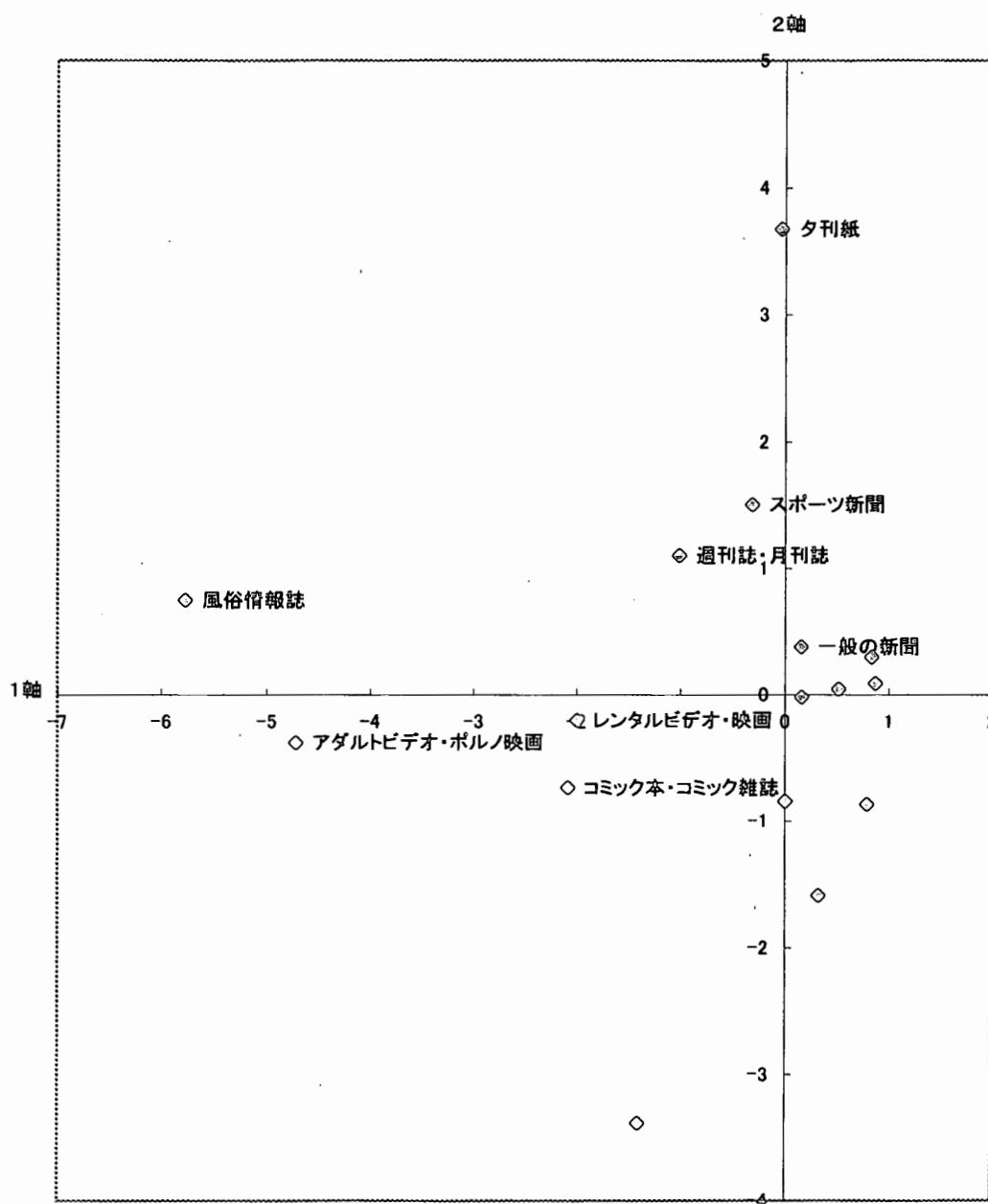
これら接触した情報媒体の相互関係を視覚的に理解するために、数量化理論第III類（以下「III類」と略称する）によって解析を行った。

8種類の情報媒体への接触の有無をIII類で処理した結果が、図4-2-1-3（次頁）である。第1軸の固有値は.20、第2軸の固有値は.17であった。図には第1軸と第2軸の選択肢に与えられた数値（カテゴリースコア）をプロットしてある

III類のカテゴリースコアの布置では、近辺に位置する選択肢どうしは類似し、遠くに位置する選択肢どうしは似ていないと解釈される。図4-2-1-3をみると、図の左（第1軸のマイナス側）に、「風俗情報誌」と「アダルトビデオ・ポルノ映画」が位置し、右側（第1軸のプラスおよび0近辺側）には「一般の新聞」「夕刊紙」「スポーツ新聞」などが位置している。従って、図の左右（第1軸）は、一般メディアと風俗メディアを分ける軸であると解釈される。一方、上下（第2軸）は、上（第2軸プラス）に活字メディア、下（第2軸マイナス）に映像メディアを、それぞれ分けており、活字と映像を区分する軸と解釈される。

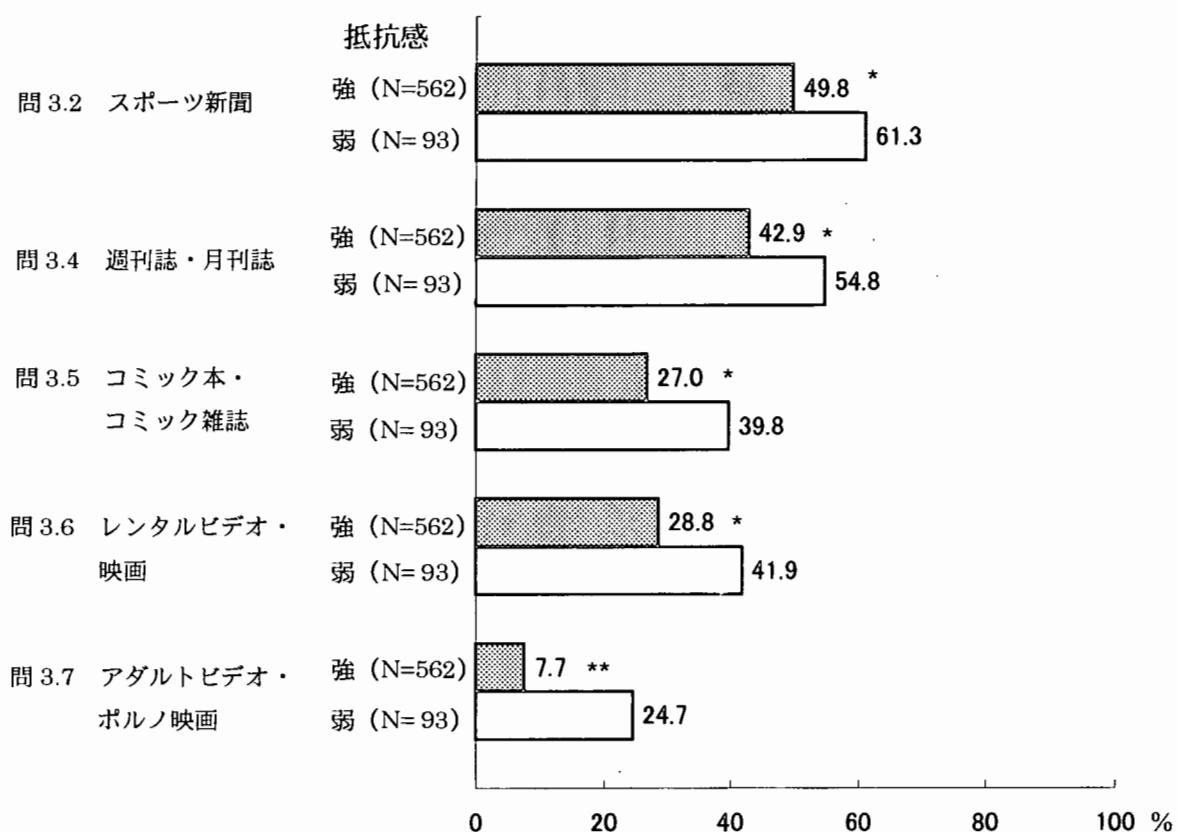
また、「レンタルビデオ・映画」や「コミック本・コミック雑誌」は、一般メディアと風俗メディアの中間に位置している。レンタルビデオやコミックが、若い層によく読まれていることの反映と推定されるが、これらのメディアが風俗メディアと類似した部分を有している可能性も考えられる。

図 4-2-1-3 接触している情報媒体の構造（III類のカテゴリースコア）（N=664）



『援助交際』に対する抵抗感別に、これら情報媒体への接触率を比べると、「スポーツ新聞」「週刊誌・月刊誌」「コミック本・コミック雑誌」「レンタルビデオ・映画」「アダルトビデオ・ポルノ映画」において差が見られた(図4-2-1-4)。いずれのメディアも、『援助交際』に抵抗感が弱い群(弱群)の方が、抵抗感の強い群(強群)より、多く接觸していた。統計的には有意にはならなかったが、「風俗情報誌」でも同じ傾向がみられた(弱群7%、強群2%)。

図4-2-1-4 『援助交際』に対する抵抗感別にみた情報媒体への接觸率

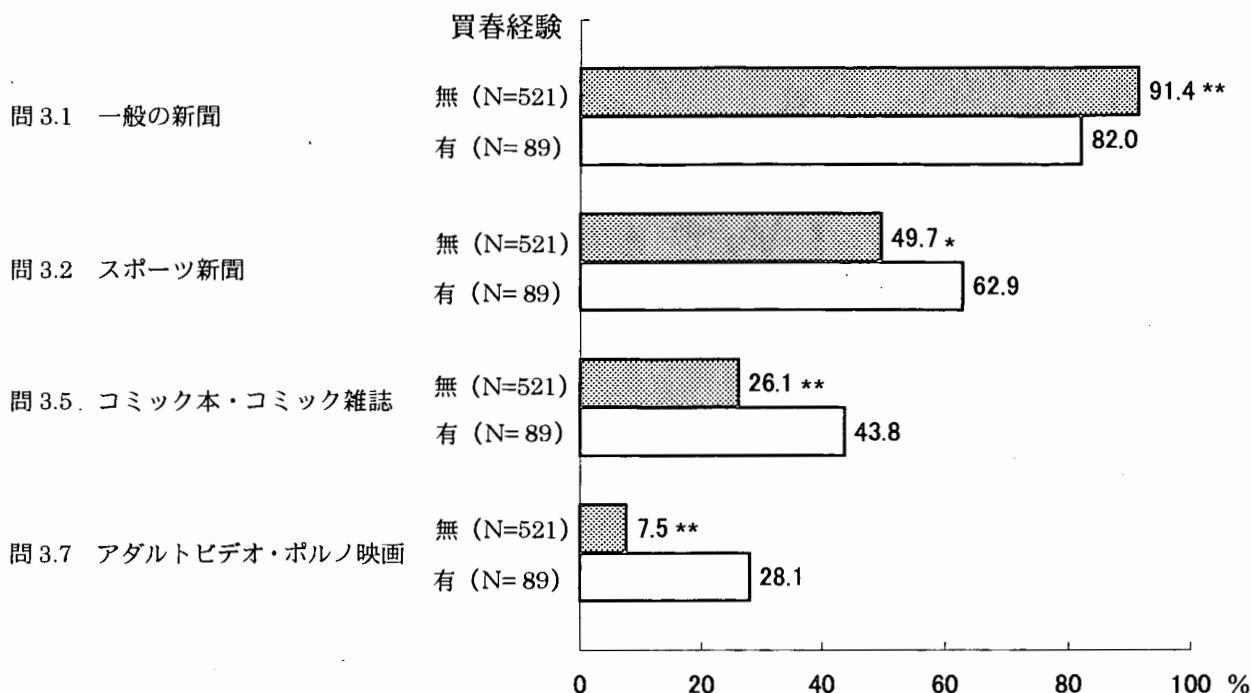


接觸媒体のIII類の結果(図4-2-1-3)と照合すると、風俗メディア側に位置するほとんどのメディアとの接觸が、『援助交際』の許容と結びついていると判断される。

買春経験別にみると(図4-2-1-5; 次頁)、買春経験のある群(有群)は経験のない群(無群)に比べ、「スポーツ新聞」「コミック本・コミック雑誌」「アダルトビデオ・ポルノ映画」と多く接しており、「一般新聞」を読んでいなかった。統計的には有意には至らなかったが、「週刊誌・月刊誌」(有群54%、無群44%)や「風俗情報誌」(有群7%、無群2%)にも、差の傾向がみられた。

買春を経験した男性には、風俗メディアや中間メディアとよく接し、一般新聞を読まない傾向がみられる。

図 4・2・1・5 買春経験別にみた情報媒体への接触率



## 2. 反規範的行動

### (1) ギャンブルや些細な違法行為の経験率

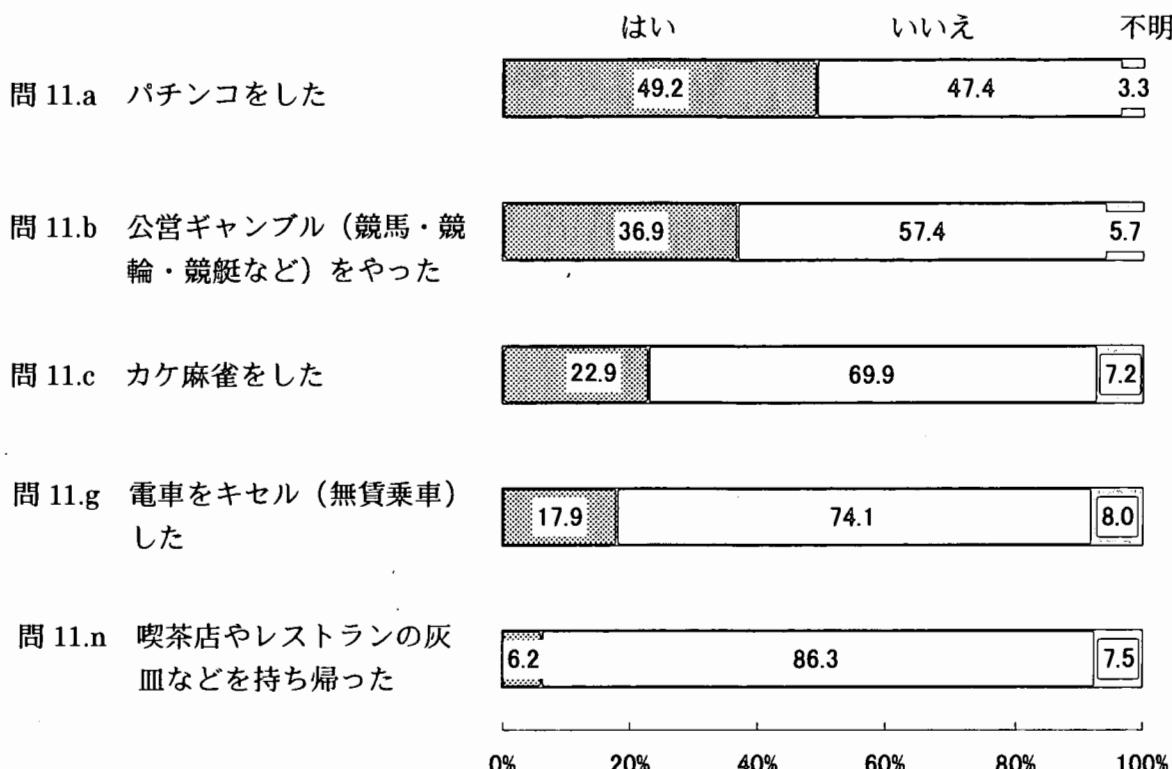
『援助交際』を経験した女子高校生や『援助交際』に対して抵抗感を感じない女子高校生は、「たばこを吸う」や「万引きする」などの性に直接結びつかない非行に対しても、「悪いことである」という意識が薄かった（福富ら，1998）。非行を行ってはいけないと言う規範意識が弱まっていることが、『援助交際』を許容し、経験させる基盤になっていたのである。

本調査では、成人男性においても、こうした規範意識の弱まりが、『援助交際』への許容や買春経験をもたらしているのではないかと考え、2種類の些細な違法行為（無賃乗車、窃盗）を取り上げ、その経験の有無を尋ねた。行為の選定には、詫摩ら（1999）等を参考にした。さらに、関連する行為として3種のギャンブル（パチンコ、公営ギャンブル、カケマ雀）についても、経験の有無を尋ねた。

これらの設問はいずれも「この4～5年間のうちに」と限定して、それぞれの行為の経験を、「はい」「いいえ」のいずれかを選択する形式で、回答を求めている。

3種のギャンブルの経験率をみると、「パチンコ」が約5割、「公営ギャンブル（競馬・競輪・競艇など）」が3割強、「カケマ雀」が2割となっていた。2種の些細な違法行為の経験率は、「電車をキセル（無賃乗車）した」が2割弱、「喫茶店やレストランの灰皿などを持ち帰った」が6%となっていた。

図 4-2-2-1 ギャンブルや些細な違法行為の経験率 (N=664)



年齢層別にみると、全ての行為において明確な年齢差がみられた。

「パチンコ」は若い層において経験率が高く、60代後半層では、3割しか経験していないが、30代前半層から50代前半層では5割前後(47~55%)が経験し、20代後半層は6割(61%)、20代前半層は7割(73%)が経験していた。

「公営ギャンブル」の経験は、40歳代が2割台(26~27%)と低かった。「カケ麻雀」は20代前半層(33%)と20代後半層(40%)で経験率が高く、他の層は2割前後の経験率にとどまっていた(16~26%)。

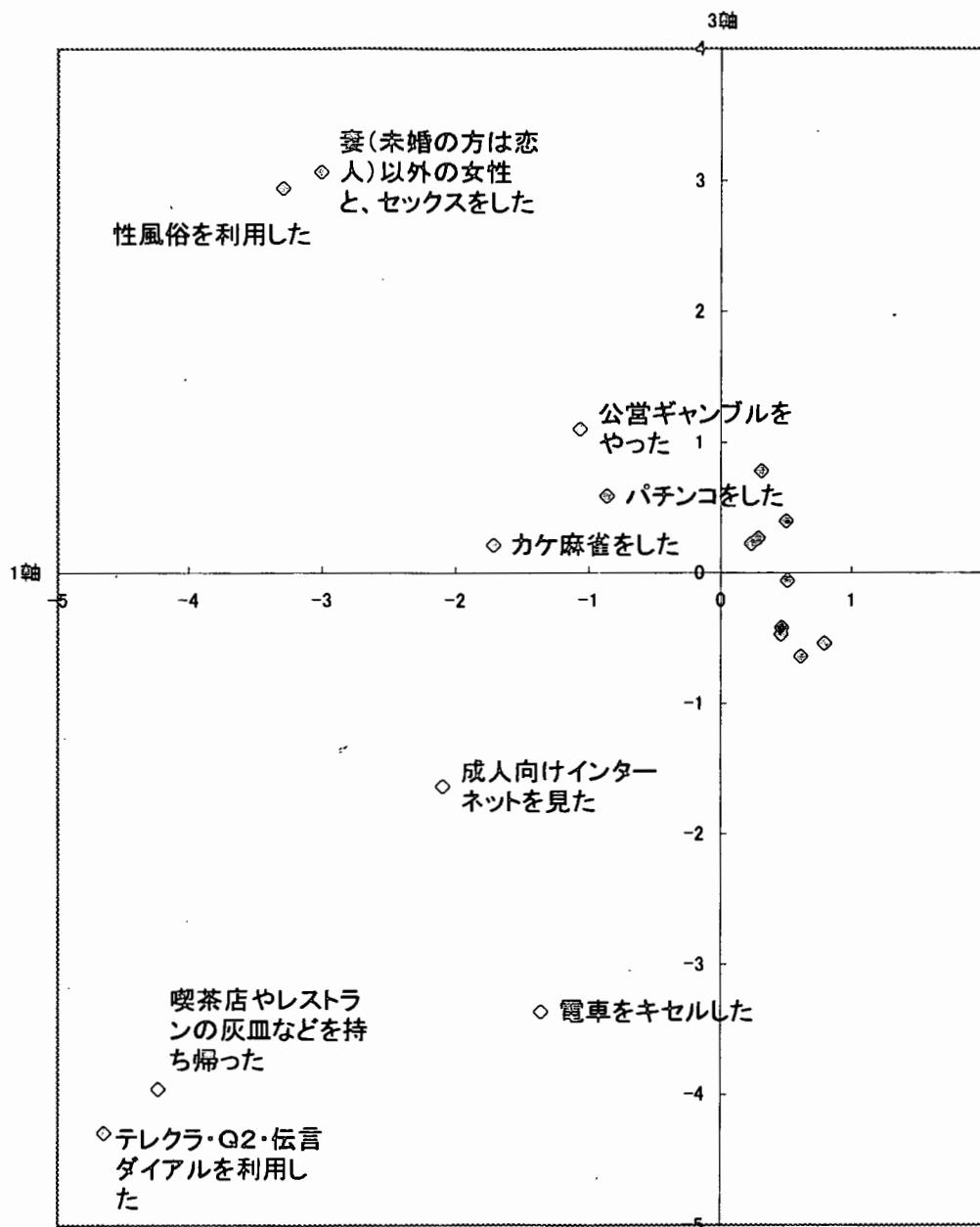
「電車の無賃乗車」は20代前半層が4割弱(39%)と、他層に比べ(13~22%)きわめて多かった。

「喫茶店やレストランの灰皿などを持ち帰った」も20代前半層が2割(22%)、20代後半層が15%と若い層で多くなっていた。

## (2) 反規範的行動の構造

上記5種の行為と、『援助交際』や買春や不倫に関連する9種の行為の中から経験率が5%を越える4種の行為(「妻以外の女性とセックスをした」「性風俗を利用した」「テレクラ・Q2・伝言ダイヤルを利用した」「成人向けインターネットをみた」)を加え、これらの行為の構造を分析した。分析は、接触情報媒体(本節1)で用いたIII類によって行った(図4-2-2-2)。

図 4・2・2・2 反規範的行動経験の構造（III類カテゴリースコア）（N=664）



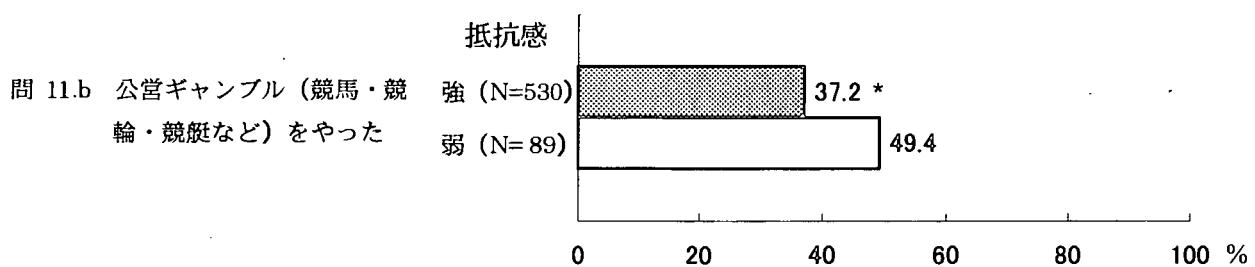
III類の結果得られた、第1軸（固有値.23）と第2軸（固有値.14）のカテゴリースコアをみると、図の左側（第1軸のプラス側）には全行為の経験有りの回答が並び、図の右側（第1軸のマイナス側）には全行為の経験が無いという回答が並んでいる。図の上下（第2軸）をみると、「喫茶店やレストランの灰皿などを持ち帰った」を除いて、性に関わる経験が上側（第2軸プラス側）に、ギャンブルや些細な違法行為が下側（第2軸マイナス側）に布置している。従って、1軸はこれらの行為の経験の有無を分け、第2軸は性に関わる

行為とそれ以外を分けているものと推定される。ただし、「灰皿などの持ち帰り」がなぜ図左上に位置するかについては、明確ではない。

### (3)『援助交際』や買春との関連

『援助交際』に対する抵抗感別に、ギャンブルや些細な違法行為の経験率を比べると、「公営ギャンブル」において差が見られた。『援助交際』に抵抗を感じない群（弱群）は、抵抗を感じる群（強群）に比べ、「公営ギャンブル」の経験率が高かった。

図 4-2-2-3 『援助交際』に対する抵抗感別にみた  
ギャンブルや些細な違法行為の経験率



買春経験別にみると（図 4-2-2-4；次頁）、「電車の無賃乗車」を除く、全ての行為において経験率の差が見られた。買春経験群は、無経験群より、「パチンコ」「公営ギャンブル」「カケマ雀」「灰皿などの持ち帰り」の全ての経験率が高くなっていた。

### 3. 行動的特徴のまとめ

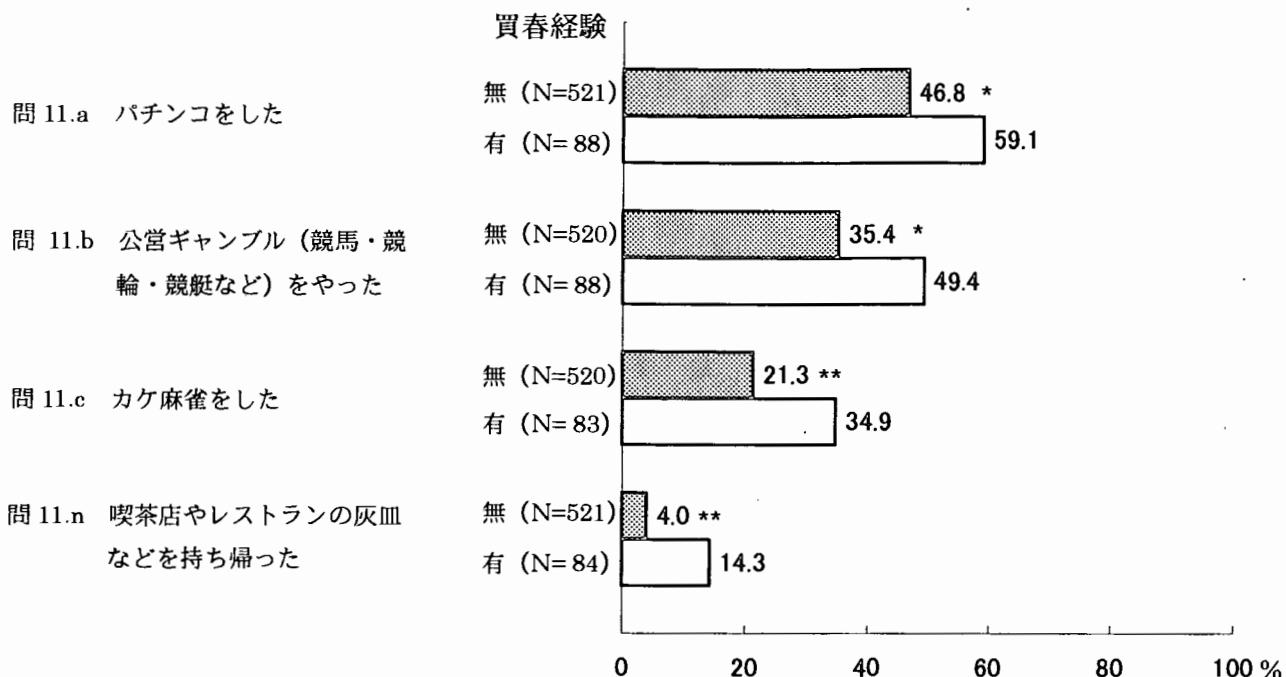
『援助交際』に対する抵抗感が弱く、『援助交際』に許容的な男性は、移動体通信（携帯電話・PHS）を多くもち、性をあつかった風俗的なメディア（風俗情報誌・アダルトビデオ・ポルノ映画）や中間的なメディア（スポーツ新聞・週刊誌・月刊誌・レンタルビデオ・映画）によく接していた。買春経験のある男性も、上記のメディアによく接していた。

移動体通信の所有が『援助交際』への許容と結びついているという関係は、女子高校生においても見られている（福富ら, 1998）。

本調査の結果からは、性をあつかった風俗的なメディアや中間的なメディアと接することと、『援助交際』の許容や買春との間の因果関係を指定することはできない。メディアへの接触が買春などに許容的な態度を育むという因果も考えられる。他方、買春などに許容的な態度をもつ人が好んでこれらのメディアと接し、買春のための情報を得ていると捉えることもできる。

ただし、青少年に限定して考えれば、上記の性をあつかった風俗的なメディアや中間的なメディアとの接触が、買春などを今日する態度を育成するという影響が生起しやすいものと推定される。性に関する情報とどのように接するべきかという、情報リテラシー教育の必要性が、本調査の結果から示唆される。

図 4-2-2-4 買春経験別にみたギャンブルや些細な違法行為の経験率



### 第3節 心理的背景

#### 1. 充実感・自己存在感のなさと生きがい

現代の成人男性は、日常生活において、どの程度の充実感をもち、自己存在感のなさを感じているのであろうか。また、どのようなことに充実感を感じているのであろうか。本調査では現代の成人男性の充実感・自己存在感のなさを測定し、充実感・自己存在感のなさと『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を分析する。

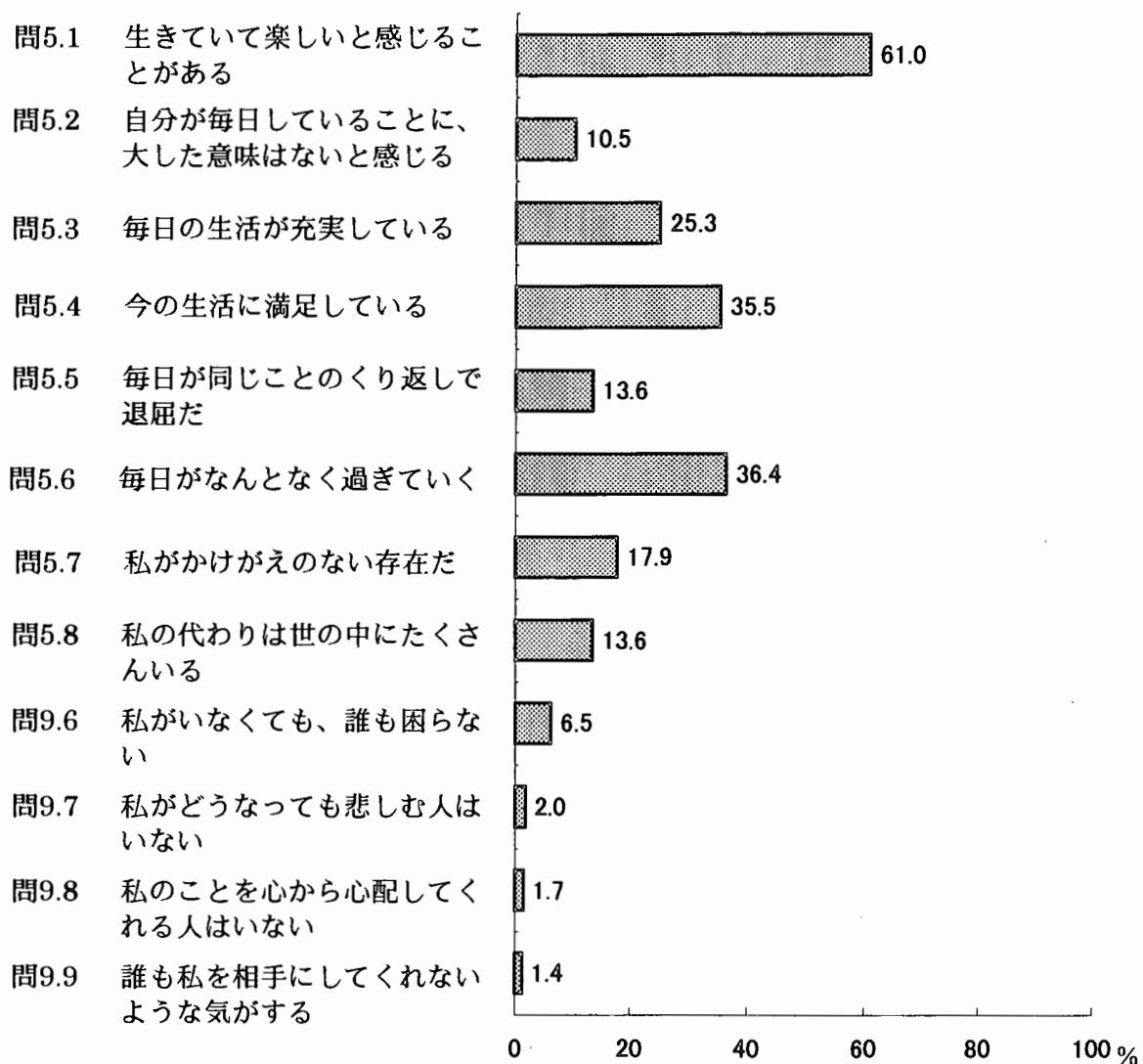
充実感と自己存在感のなさに関する質問項目は、女子高校生調査（福富ら, 1998）で用いた充実感尺度と自己存在感のなさ尺度を用いたが、回答者の負担を考え、選択肢を変更してある。どのようなことに充実感や生きがいを感じているかに関する質問項目は、松井ら（1985）の首都圏30キロ圏在住の18歳から44歳の女性を対象にして行った調査で用いた項目を基に作成した。いずれも多重回答形式で回答を求めた。

#### (1)質問項目について

##### ①充実感・自己存在感のなさ

充実感・自己存在感のなさの項目内容および選択率を、図4-3-1-1に示す。

図 4・3・1・1 充実感・自己存在感のなさ (N=664)

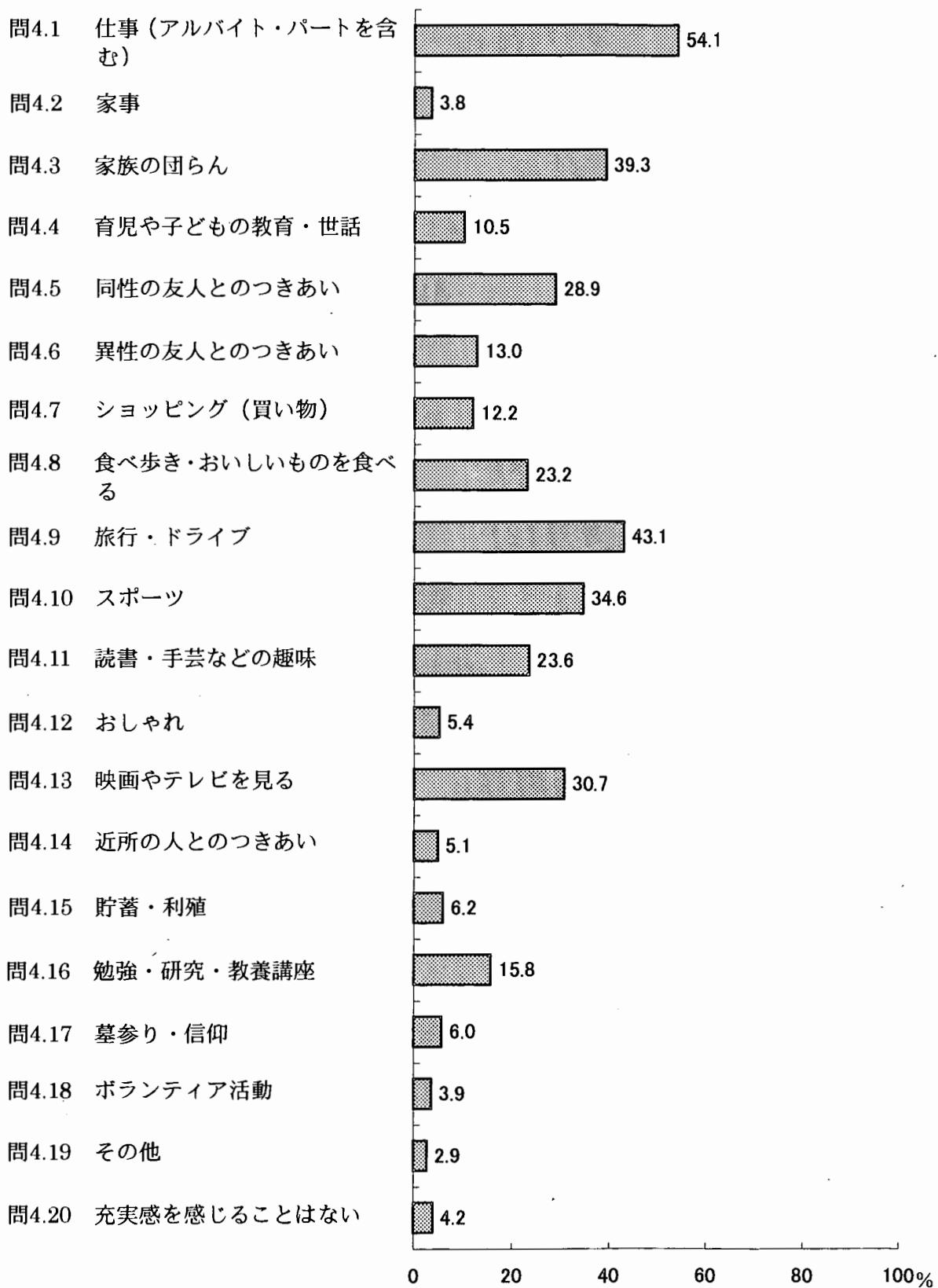


集計の結果、「生きていて楽しいと感じることがある」の選択率は約6割で最も高かった。「毎日が何となく過ぎていく」を選択した者は割から4割と高いが、「今の生活に満足している」も同程度の高率であった。また「私がいなくなても誰も困らない」「私がどうなっても悲しむ人はいない」「私のことを心から心配してくれる人はいない」の選択率は1%~2%と非常に低く、「私はかけがえのない存在だ」と回答する者も、低めであった。このように、現代の成人男性は自己存在感のなさや空虚感を強く感じることがなく、日常の生活を楽しいと感じている様子がうかがえる。

## ②現代男性が充実感を感じる事柄

充実感項目の項目内容および選択率を図 4・3・1・2 に示す。

図 4・3・1・2 充実感を感じる事柄 (N=664)



現代の成人男性が最も充実感を感じていたのは「仕事（アルバイト・パートを含む）」で約半数の回答者が選択していた。続いて「旅行・ドライブ」「家族との団らん」が約4割の、「スポーツ」「映画やテレビを見る」「同性の友人とのつきあい」は約3割の回答者が、それぞれ選択していた。現代の成人男性は、身近な人間関係や家庭的な活動により充実感を感じている。「家事」「おしゃれ」「近所の人とのつきあい」「貯蓄・利殖」「墓参り・信仰」「ボランティア活動」は選択率が1割を切っていた。現代の成人男性は、これまで女性の役割と性別化されて認識されてきた、家庭をしきる、といった活動にはあまり充実感を感じないことがわかる。

松井（1985）は、首都30キロ圏内に居住する18歳から44歳の女性422名を対象に充実感に対する同様の調査を行っている。その結果、現代女性の充実感は「ショッピング」の選択率が5割と最も高かった。また、「同性の友人とのつきあい」「おいしいものを食べる・食べ歩き」「旅行・ドライブ」「読書・手芸などの趣味」は4割から5割近く選択していた。この調査によれば、女性が充実感を感じる事柄は、多岐にわたっている。現代女性が全般に「買い物」や「食べ歩き」「おしゃべり」といった消費的な活動に充実感や生きがいを感じているのに対し、本調査の対象となった現代男性は仕事に生きがいを感じながらも、家庭や身近な対人関係で充実感を得ていることが明らかになった。

## （2）各項目と年齢、『援助交際』に対する抵抗感の強弱、および青春経験との関連

### ①各項目と年齢層との関連

充実感を感じる事柄や充実感・自己存在感のなさが、年齢によって異なるかを検討した。その結果、「家族の団らん」は30代前半層～40代後半層が約5割と高く、「育児や子どもの教育・世話」は30歳代が2割以上と高かった。「同性の友人とのつき合い」は20代前半層が5割以上と高く、「異性の友人とのつき合い」は20歳代が3割以上と高かった。「ショッピング・買い物」は20代前半層のみが3割と高く、30歳代では1割台であった。

充実感・自己存在感のなさでは、「毎日の生活が充実している」「今の生活に満足している」が40代後半層以上で高かった。退屈感を表す「自分が毎日していることに大した意味はない」「毎日が同じことのくり返しで退屈」「毎日が何となく過ぎていく」の3項目は、若者層で高かった。

以上の結果をまとめると、20歳代の男性が生きがいを感じる領域は友人づきあいで、生活に満足する割合は他の年齢層より少ない。30歳代は子どもや仕事に生きがいを感じる程度が多い。40歳代後半以上の場合は、約半数が生活に満足している。

### ②各項目と『援助交際』に対する抵抗感との関連

充実感を感じる事柄や充実感・自己存在感のなさが『援助交際』に対する抵抗感の強さによって異なるかを検討した。その結果を図4-3-1-3、図4-3-1-4に示す。

図 4・3・1・3 『援助交際』に対する抵抗感別にみた充実感・自己存在感のなさ

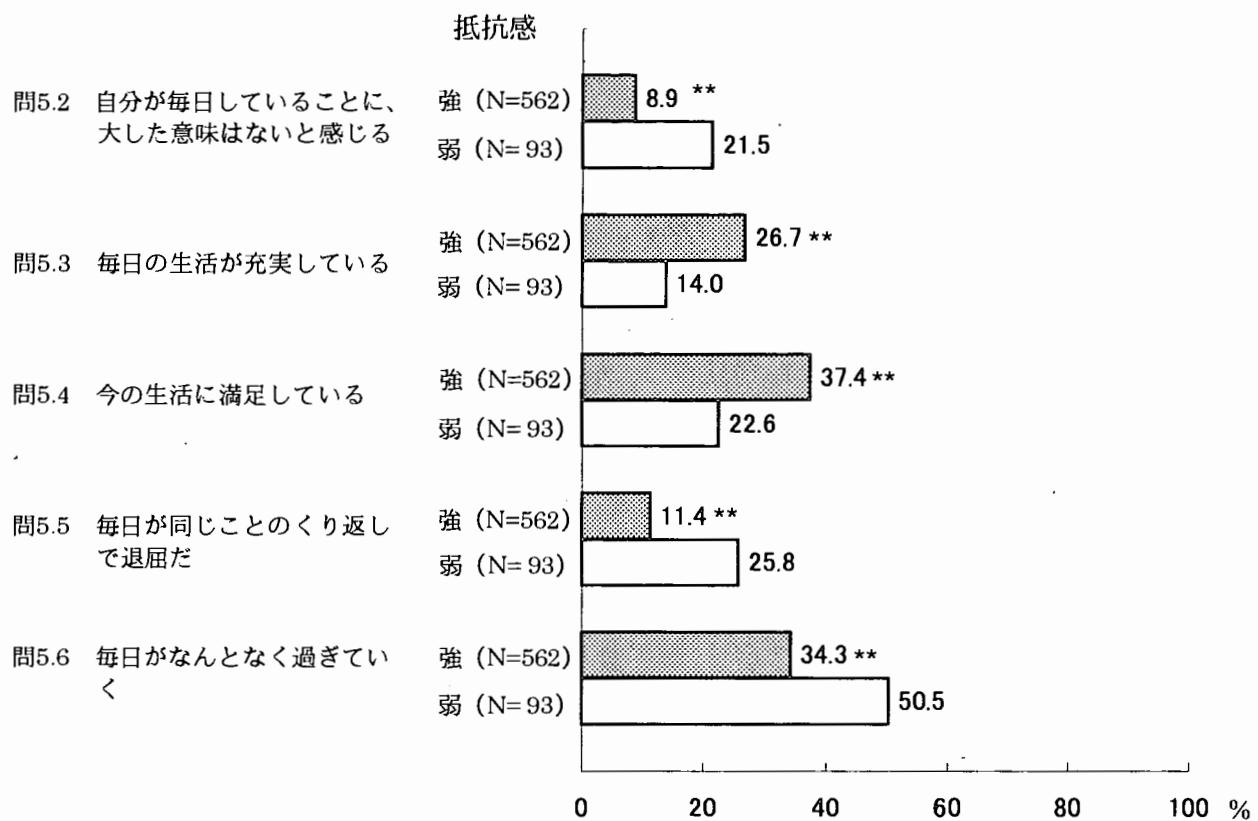
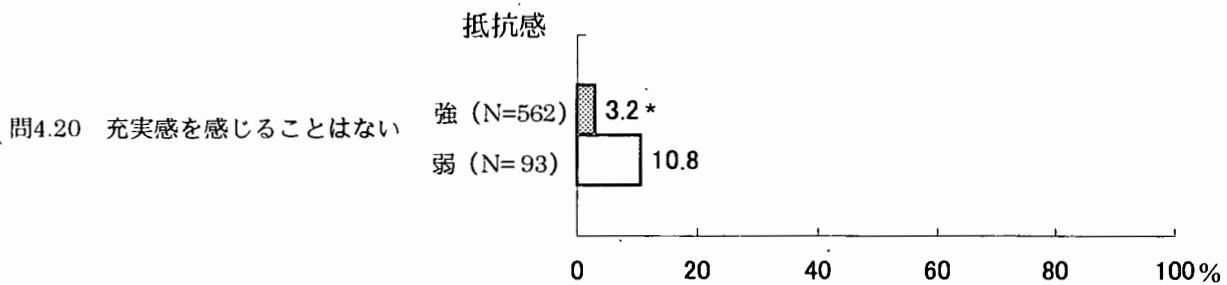


図 4・3・1・4 『援助交際』に対する抵抗感別にみた充実感を感じる行動



抵抗感が弱い群は抵抗感の強い群に比べ「充実感を感じることはない」をより多く選択していた。また、抵抗感が弱い群は充実感を表す項目である「毎日の生活が充実している」や「今の生活に満足している」に対する選択率が約1割～2割で、抵抗感の強い群（約3割～4割）に比べて低かった。一方、空虚感を表す項目をみると、抵抗感の弱い群は「自分が毎日していることに、大した意味はないと感じる」約2割、「毎日が同じことのくり返しで退屈だ」約3割、「毎日が何となく過ぎていく」約5割と、抵抗感の強い群よりもいずれも高かった（抵抗感強群はそれぞれ1割未満、約1割、4割弱）。

援助交際に対し抵抗感を感じていない層は、日常生活において充実感に乏しく、空虚感を抱いていることがわかる。

### ③各項目と買春経験との関連

充実感を感じる事柄や充実感・自己存在感のなさが買春経験の有無によって異なるかを検討した。その結果を図4-3-1-5および図4-3-1-6に示す。

図4-3-1-5 買春経験別にみた充実感・自己存在感のなさ

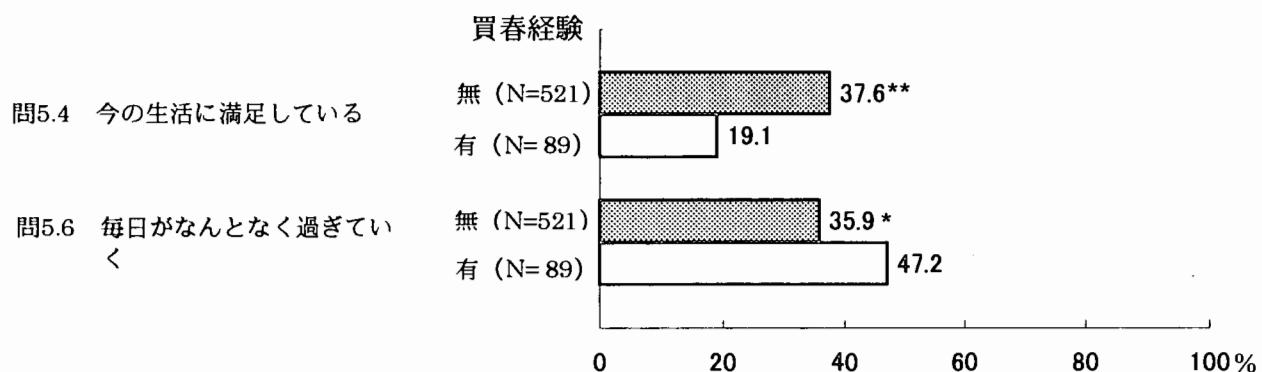
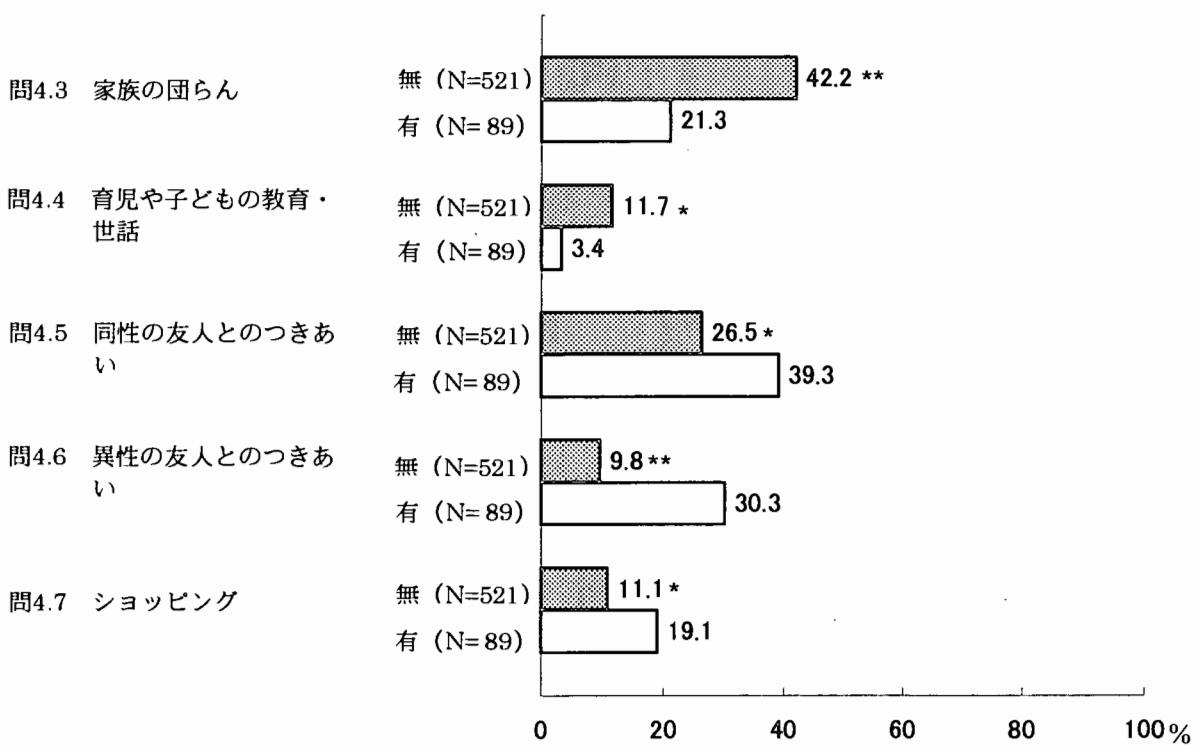


図4-3-1-6 買春経験別にみた充実感を感じる行動



買春経験者は「家族の団らん」や「子どもの教育・世話」といった家族関係に充実感を抱いている人が少なく、「同性の友人とのつきあい」や「異性の友人とのつき合い」「ショッピング（買い物）」に充実感を見出す人が多かった。また、買春経験者は経験のない群よりも「今の生活に満足している」への選択率が低く、「毎日が何となく過ぎていく」への選択率が高かった。買春経験のある群は、全般に充実感を感じることが少なく、家族関係に対するよりも、同性や異性との友人関係といった家庭や家族から離れた活動に充実感を感じていた。

### (3)尺度の作成過程

#### ①尺度作成

本調査で用いた充実感・自己存在感のなさに関する質問項目は、先に述べたとおり、女子高校生調査（福富ら、1998）において用いた項目である。女子高校生調査では、充実感尺度、自己存在感のなさ尺度として用いたが、2つの尺度の中に類似した項目が含まれていると考えられたため、まず全項目を用いて、因子分析（主成分解、VARIMAX回転）を行った（表4-3-1-1）。選択した項目には2点、しなかった項目には1点を与えて得点化している。その結果、2つの因子が抽出された。各因子の寄与率（回転後）は、第1因子18.7%、第2因子18.5%で、この2因子による累積寄与率は、37.2%であった（表4-3-1-1）。

第1因子に負荷量の高い項目は、「私がどうなっても悲しむ人はいない」「私がいなくても誰も困らない」「私のことを心から心配してくれる人はいない」などであった。従ってこの因子は「自己存在感のなさ」を表す因子と解釈される。

第2因子に負荷量の高い項目は、「生きていて楽しいと感じことがある」「毎日の生活が充実している」「今の生活に満足している」などであった。従ってこの因子は「充実感」を表す因子と解釈される。各因子に.40以上負荷する項目を尺度項目として採択し、その単純加算をもって尺度得点とした。得点が高いほど当該の傾向が強いことを示す。信頼性係数は、「自己存在感のなさ」が $\alpha=.58$ 、「充実感」が $\alpha=.62$ であった。

表4-3-1-1 充実感・自己存在感のなさに関する因子分析結果（N=664）

項目内容	因子1	因子2
問5.1 生きていて楽しいと感じことがある	.07	.53
問5.2 自分が毎日していることに、大した意味はないと感じる	.41	.40
問5.3 毎日の生活が充実している	.06	.65
問5.4 今の生活に満足している	.06	.54
問5.5 毎日が同じことのくり返しで退屈だ	.20	.50
問5.6 每日がなんとなく過ぎていく	.17	.71
問5.7 私はかけがえのない存在だ	.18	.51
問5.8 私の代わりは世の中にたくさんいる	.41	.11
問9.6 私がいなくても、誰も困らない	.69	.18
問9.7 私がどうなっても悲しむ人はいない	.76	.01

問 9.8 私のことを心から心配してくれる人はいない	.63	.01
問 9.9 誰も私を相手にしてくれないような気がする	.59	.02
因子負荷量の 2 乗和	2.24	2.22
寄与率 (%)	18.67	18.49

## ②尺度得点分布

充実感尺度の尺度得点の分布を、図 4・3・1・7 に示す。自己存在感のなさ尺度については分布に偏りがみられたため、再カテゴリー化を行った（図 4・3・1・8）。充実感尺度は得点が高いほど充実感が高く、自己存在感のなさ尺度は得点が高いほど自己存在感のなさを感じていることを示す。

図 4・3・1・7 充実感尺度得点の分布 (N=664)

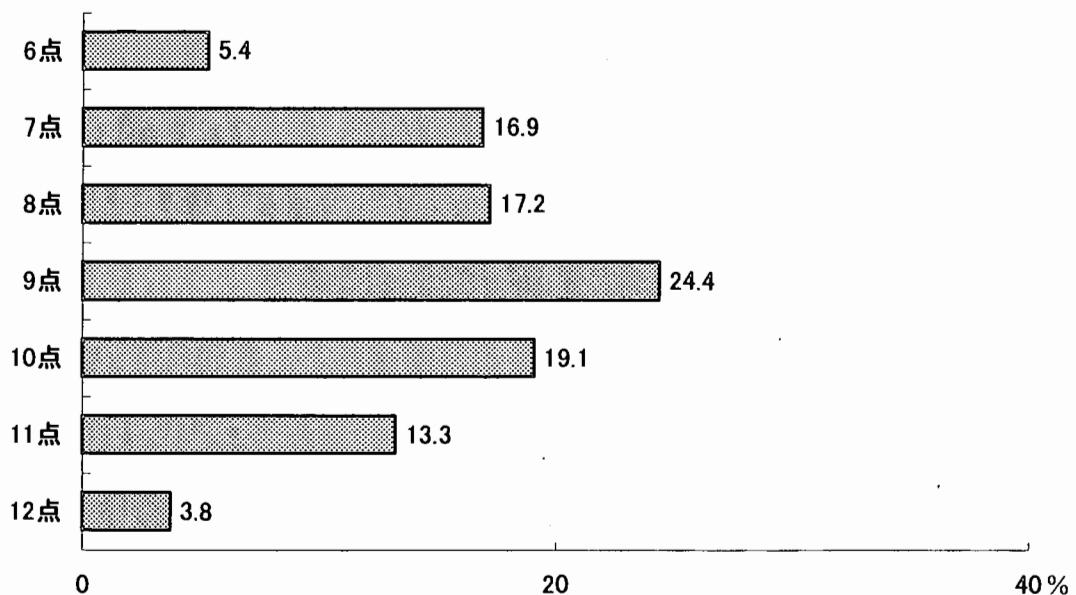
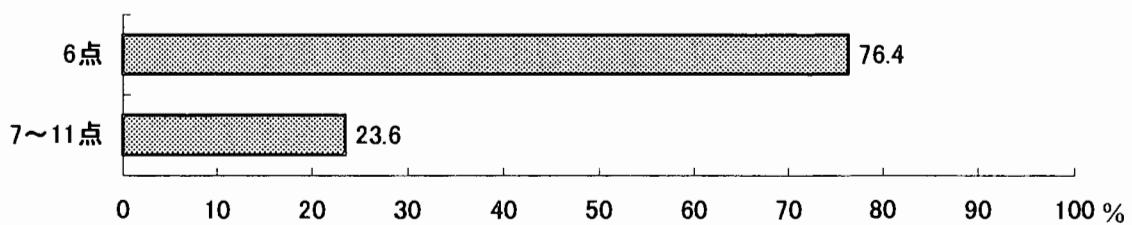


図 4・3・1・8 自己存在感のなさ尺度得点の分布 (N=664)



### ③充実感、自己存在感のなさと『援助交際』に対する抵抗感、買春経験との関連

『援助交際』に対する抵抗感の強弱、買春経験の有無と、充実感尺度および自己存在感のなさ尺度との関連を検討した。その結果、『援助交際』に対する抵抗感の強弱、買春経験の有無どちらにおいても充実感尺度（図4・3・1・9、図4・3・1・11）、自己存在感のなさ尺度（図4・3・1・10、図4・3・1・12）に有意な差がみられた。『援助交際』に対する抵抗感の弱い群は、強い群よりも充実感を感じることがなく、自己存在感のなさが高かった。また買春経験有群は、買春経験無群より充実感が低く、自己存在感のなさが高かった。『援助交際』に対する抵抗感が弱い者や買春経験者は、充実感が低く、自己存在感の低い人たちであることが明らかになった。

図4・3・1・9 『援助交際』に対する抵抗感と充実感尺度

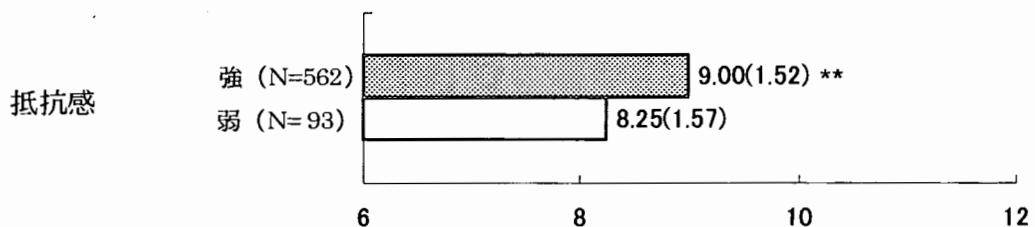


図4・3・1・10 『援助交際』に対する抵抗感と自己存在感のなさ尺度

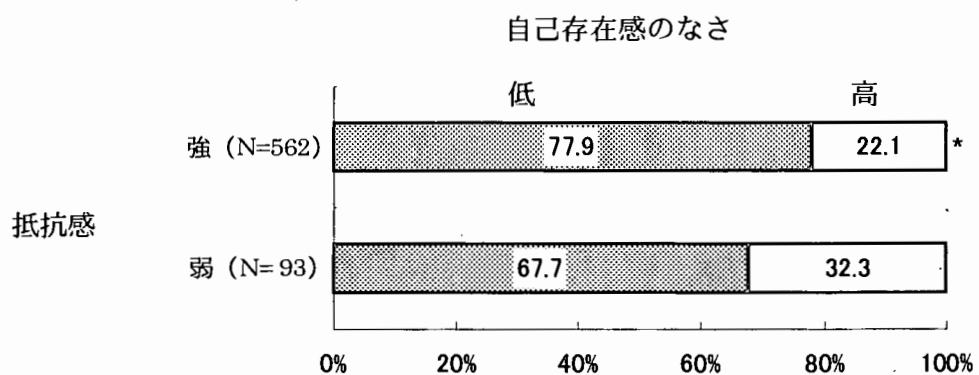


図4・3・1・11 買春経験と充実感尺度

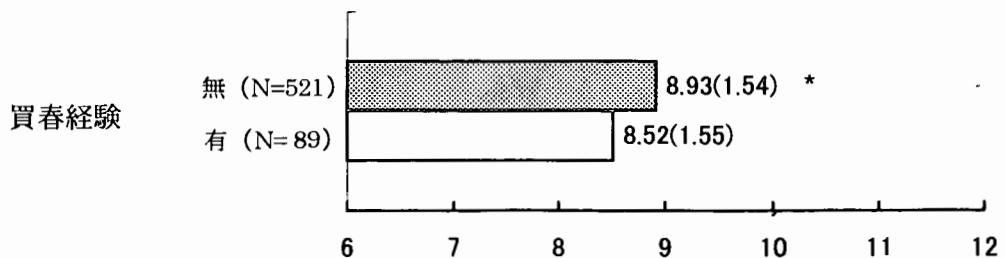
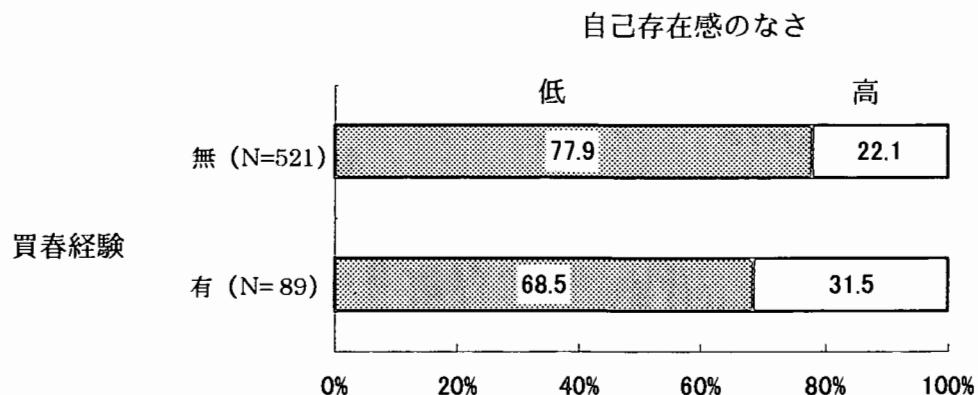


図 4・3・1・12 買春経験と自己存在感のなさ尺度



#### (4)男性の生きがい

現代男性が充実感を感じている事柄について、回答者の個人差を大きく捉えるために、図 4・3・1・2 の回答結果を数量化理論第III類を用いて解析した。その結果を、図 4・3・1・13 に示す。繁雑になることを避けるために、図には肯定反応（「はい」の回答）しか表示していない。

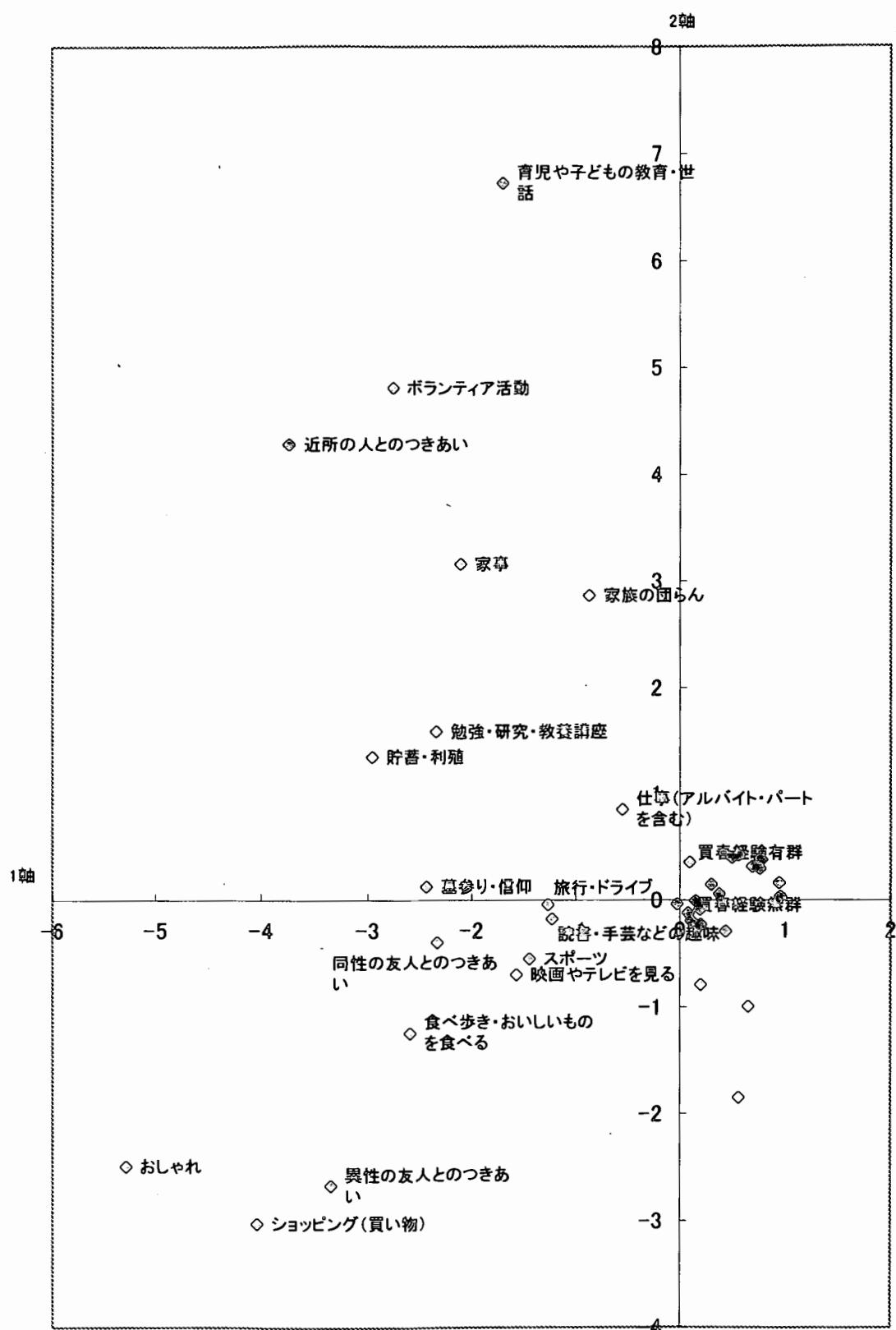
図 4・3・1・13 から分かるように、図の左側（第 1 軸のマイナス側）に充実感項目の肯定反応が集まっており、右側には否定反応が集まっている。この位置からみると、第 1 軸はこれらの活動に充実感を感じている人と充実感を感じていない人に分ける軸と解釈することができる。

一方、図の下方（第 2 軸のマイナス側）には「ショッピング」「おしゃれ」「異性の友人とのつきあい」「食べ歩き」などが位置し、消費的な活動項目が集まっている。これに対し、図の上方（第 2 軸プラス側）は、「育児・子どもの世話」「家事」「家族の団らん」「ボランティア活動」「勉強・教養講座」「貯蓄」が位置しており、これらは家族を育む、教養を身につける、などの活動であり、生産的な活動と考えることができる。従って、第 2 軸は、生産的活動（プラス）と消費的活動（マイナス）を分ける軸と解釈できる。

『援助交際』に対する抵抗感の強さと買春経験の有無に関してサンプルスコア（回答者に与えられた数値）を比較した結果、買春経験の有無で有意差が確認されたため、買春経験の経験有群、経験無群と充実感項目群の関連をみた。図 4・3・1・13 より、買春経験有群は図の右上（第一象限）、買春経験無群は、ほぼ 1 軸上のマイナス方向に位置していた。買春経験有群の布置した第一象限は、充実感項目を選択しなかった群である。よって買春経験者は、これらの充実感項目に対して充実感を感じていないことが分かる。一方、買春経験無群の方向は、これらの充実感項目を選択した者が集まっており、これらの充実感項目に対して充実感を感じている群である。

買春経験者は、経験のない者に比べて「今の生活に満足している」と回答する者が少なく、「毎日が何となく過ぎていく」の選択率が高かった。このことから、買春経験者は、本調査で用いた充実感項目のみに充実感を感じていないということではなく、おそらく日常生活全般にわたって充実感を感じることが少ないと示唆される。

図 4・3・1・13 買春経験と充実感を感じる行動の構造（III類カテゴリースコア）（N=664）



### (5)充実感・自己存在感のなさのまとめ

本調査では、現代男性の充実感、自己存在感のなさを測定した。それらの分析の結果、現代男性の6割程度が「生きていて楽しい」と感じていた。日常の生活の中においては強い自己存在感を感じることはないが、自己存在感のなさや空虚感は切実なものではないことがわかった。

『援助交際』に対する抵抗感と買春経験の有無は、充実感と自己存在感のなさに関連があった。『援助交際』に対して抵抗感の弱い男性は、抵抗感の強い男性に比べて充実感を感じることが少なく、日常生活に空虚感を感じていた。同様に買春経験者は、全般に充実感を感じることが少なかった。充実感が低い買春経験者が、買春経験無群に比べて唯一充実感を感じていた活動は、同性や異性との友人関係であり、家族関係には充実感を感じていなかった。この結果は、他の年齢層に比べて生活への不満や退屈感が強く、友人づきあいに充実感を感じていた20歳代の男性の傾向と一致している。更に、買春経験者や『援助交際』に対する抵抗感の弱い男性は家族との交流が少なく、家族との情緒的絆が弱かった(第4章第1節「環境的背景」)。以上の結果を合わせると、『援助交際』に対する抵抗感の弱い男性や買春経験のある男性は、家族との絆が弱いために家族との関係から充実感を得られず、日常生活の空虚感を埋めるために買春行動へと向かうと考えられる。

## 2. ミーイズム

本調査では、女子高校生を対象に『援助交際』に関して調査した福富ら(1998)と同様の指標をいくつか用いている。ここで挙げる「ミーイズム」もその一つである。刹那的に今の自分のことのみを考え、社会や他者については考慮しない態度をミーイズムと名付け、現代の成人男性にこの傾向がどの程度みられるのか測定しようとした。

福富ら(1998)では、ミーイズムの様々な側面の中から、時間的展望に対する個人の価値体系を測定する3側面のうち(白井, 1997)、将来無関心と現在重視の2側面をミーイズムとかかわっているものと考えている。そして白井(1997)の時間的信念尺度の下位尺度項目から、この2側面を測定する数項目を抜き出して調査項目に含めている。さらに、自分のことのみを考える傾向や、楽しければそれでいいといった自己中心的で享楽的な側面を測定する項目を含み、ミーイズムに関連すると考えられる項目を総計16項目作成した。そして、この尺度項目を因子分析し、「関心の狭さ」、「享楽主義」、「現在重視」、「将来無関心」と名づけられた4つの下位尺度の存在を示している。このように、福富ら(1998)はミーイズム自体の構造を確認した上で、心理尺度の利用を試みていた。

本調査ではこの結果を尊重し原則として同じ尺度を利用することとする。ただし、唯一「現在重視」下位尺度のみは尺度構成から今回は外すこととした。この理由として、第一に、福富ら(1998)において、女子高校生において『援助交際』に対する抵抗感の弱いもののたちが、「現在重視」を除く、関心の狭さ・将来無関心・享楽主義というミーイズムの3側面で特徴的に高いことが示されていたからである。第二に、やはり福富ら(1998)において、「現在重視」下位尺度は、 $\alpha = .56$ と $\alpha$ 係数が相対的に他の3下位尺度よりも低かつたことをあげることができる。

このため、本調査ではミーイズムを関心の狭さ・将来無関心・享楽主義の3つの下位尺度を持つ尺度として利用することとし、その尺度項目は「現在重視」を除き原則的に福富

ら（1998）と同じものとした。

### （1）尺度項目

具体的な尺度項目は別記した質問紙の問7に示されている項目である。具体的項目を項目番号とともに各下位尺度別に表4-3-2-1に示す。各項目に対する回答頻度は各下位尺度別に、図4-3-2-1～図4-3-2-3に示す。

表4-3-2-1 ミーイズムの尺度項目（各下位尺度別）

項目内容	
問7	
＜関心の狭さ＞	
a	自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない
b	人のために時間やエネルギーを使いたくない
c	社会全体のことを考えてもしようがない
d	自分さえよければいいと思う
e	人に迷惑をかけなければ何をしてもよい
＜将来無関心＞	
f	今が楽しければそれでよい
g	どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない
h	将来のことをいちいち考えて、 それにしばられるのは不自由だ
＜享楽主義＞	
i	自分が楽しいかどうかが、 生きていく上で一番大切なことだ
j	いつも楽しいことだけをしてみたい
k	しなくともいい苦労は、ぜったいに避けたい
l	楽しくなければ生きているカイがない

図 4-3-2-1 ミーイズム：関心の狭さ (N=664)

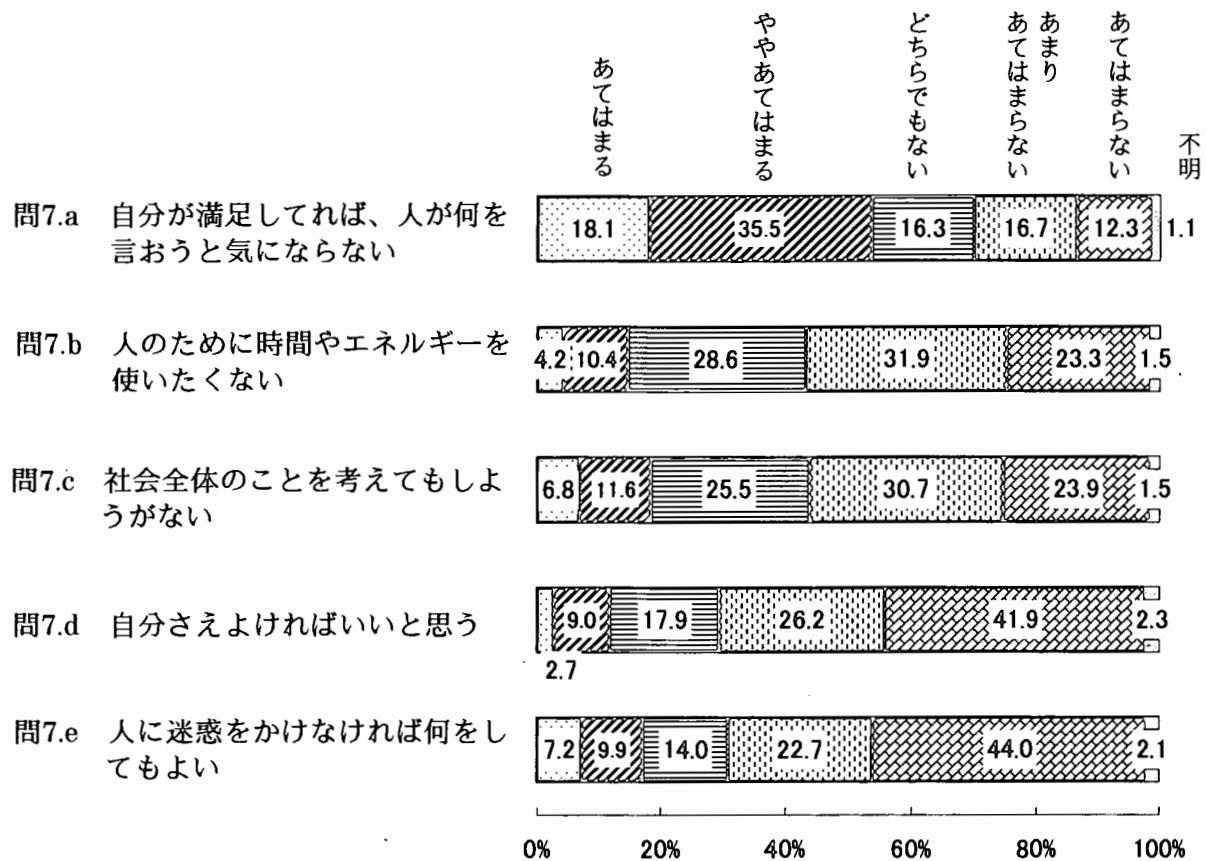


図 4-3-2-2 ミーイズム：将来無関心 (N=664)

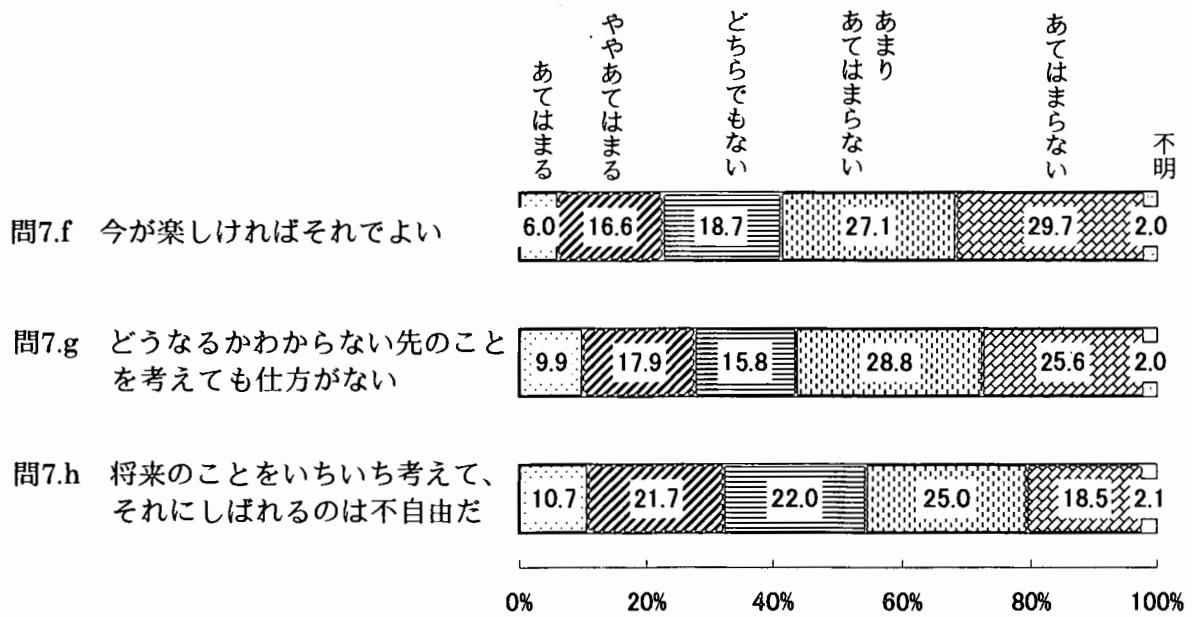
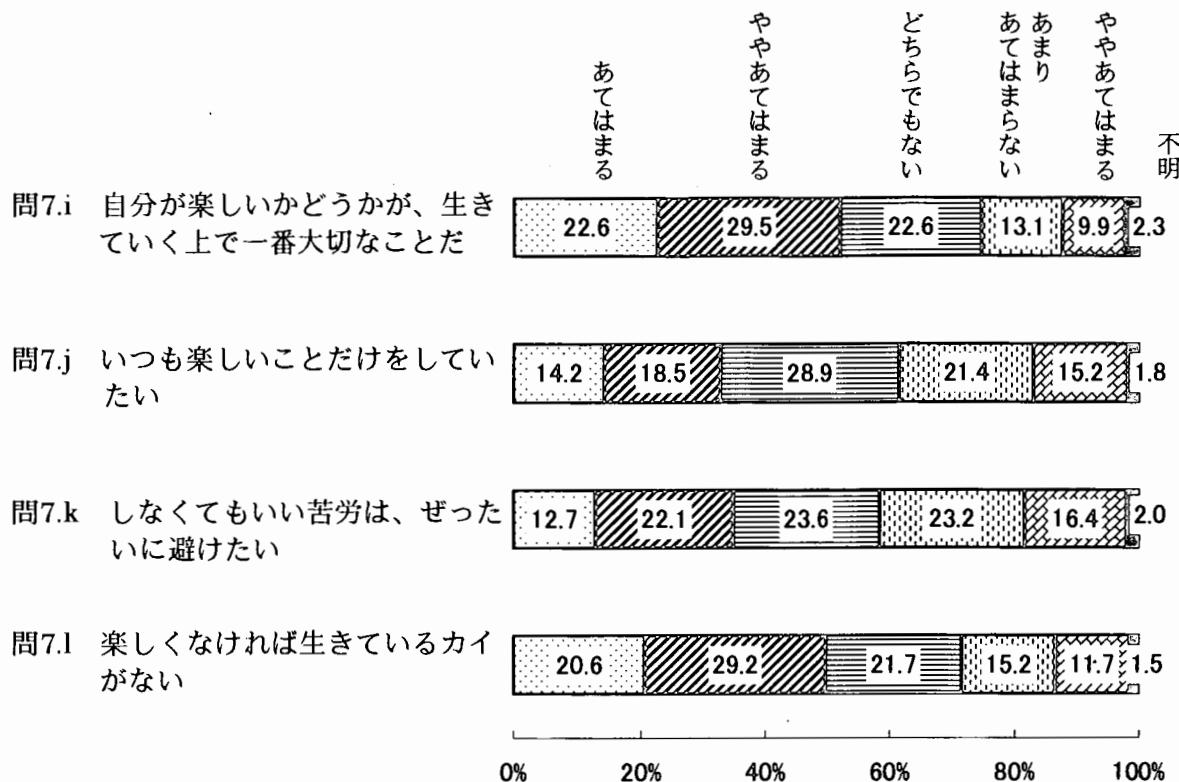


図 4・3・2・3 ミーイズム：享楽主義 (N=664)



## (2)尺度の構成の確認

本調査で使用した尺度項目は、すべて福富ら（1998）の使用したものである。本調査では、この12項目の各下位尺度別に主成分分析により尺度構成の確認を行った上で、信頼性および得点分布を検討することを試みる。

回答方法は、「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の5件法である。いずれの項目も、「あてはまる」を5点～「あてはまらない」を1点として得点化した。

関心の狭さ・将来無関心・享楽主義の3下位尺度それについて、独立に主成分分析を行った結果を表4・3・2・2～表4・3・2・4に示す。いずれの下位尺度項目とも、第一主成分に高い負荷量を示しており、その寄与率もほぼ十分である。そこで各尺度を構成する項目は原版通りの項目を採用することとした。

表 4・3・2・2 関心の狭さに関する主成分分析結果 (N=642)

項目内容	負荷量
問7.a 自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない	.56
問7.b 人のために時間やエネルギーを使いたくない	.63
問7.c 社会全体のことを考えてもしようがない	.65

問 7.d	自分さえよければいいと思う	.81
問 7.e	人に迷惑をかけなければ何をしてもよい	.71
	固有値	2.29
	寄与率(%)	45.84

表 4-3-2-3 将来無関心に関する主成分分析結果 (N=640)

問 7.f	今が楽しければそれでよい	.77
問 7.g	どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない	.86
問 7.h	将来のことをいちいち考えて、それにしばられるのは不自由だ	.81
	固有値	2.00
	寄与率(%)	66.64

表 4-3-2-4 享楽主義に関する主成分分析結果 (N=645)

問 7.i	自分が楽しいかどうかが、生きていく上で一番大切なことだ	.72
問 7.j	いつも楽しいことだけをしてみたい	.80
問 7.k	しなくともいい苦労は、ぜったいに避けたい	.76
問 7.l	楽しくなければ生きているカイがない	.73
	固有値	2.28
	寄与率(%)	57.02

### (3)尺度の信頼性

ミーイズムの各下位尺度別の信頼性を $\alpha$ 係数を用いて検討した。その結果、関心の狭さでは $\alpha = .69$ の、将来無関心では $\alpha = .75$ の、享楽主義では $\alpha = .75$ の値をそれぞれ得た。これらの値は女子高校生を対象にして得られた結果とほぼ同等あるいはそれ以上の比較的高い値を示している。したがって本調査においても、ミーイズムの各下位尺度の信頼性は十分であると言えるだろう。

### (4)尺度得点について

それぞれの下位尺度に含まれる項目に対する回答を上述の得点化法に基づき、単純加算する形式で各傾向を測定する尺度得点とした。各尺度とも得点が高いほど、当該の心理傾向が強いことを示している。

表 4・3・2・5 に回答者全員を対象としたミーイズムの各下位尺度得点の基礎統計量を示す。またその得点分布を図 4・3・2・4～図 4・3・2・6（次頁）に示す。可能な得点範囲は各下位尺度により含まれる項目数が異なるためそれぞれで異なっている。関心の狭さでは下限は 5 点で上限は 25 点、将来無関心では下限は 3 点で上限は 15 点、享楽主義では下限は 4 点で上限は 20 点の値をそれぞれ取ることとなる。

表 4・3・2・5 ミーイズムの各下位尺度得点の基礎統計量

	N	平均	S D
関心の狭さ	642	12.28	4.00
将来無関心	640	7.75	3.13
享楽主義	645	12.61	3.85

各下位尺度得点についてみてみよう。関心の狭さに関しては、1つの項目が特異な動きをみせている。「自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない（問 7.a）」の項目で、他の項目に比べより肯定派（「あてはまる」か「ややあてはまる」のいずれかを選択している人）が多かった。他の項目での肯定派はせいぜい 2 割にも満たないにも関わらず、この項目だけは全体の 5 割以上の人気が肯定派であった。成人男性における、自分自身への信頼感（自尊感情）が、このような評価につながったのかもしれない。この関心の狭さの得点を女子高校生のそれと比較してみると、ほとんど変わらないことが見て取れる。

将来無関心においては、全ての項目において 2～3 割程度しか肯定派がいなかった。この得点を女子高校生と比較してもさほど変わらない。

享楽主義においては、「自分が楽しいかどうかが、生きていく上で一番大切なことだ（問 7.i）」や「楽しくなければ生きているカイがない（問 7.l）」の項目に対して、成人男性の 5 割以上の人気が肯定派であった。これは女子高校生と同様の傾向である。こうした享楽的な態度は何も女子高校生に限ったものではなく、現代の成人男性にも多く見られる傾向であることを示唆する結果であろう。厳密に女子高校生との比較してみると、平均値で約 1.5 点ほどの差がみられる。また肯定派の割合も、享楽主義の全ての項目において女子高校生が若干多い値を示している、したがって、総体としては女子高校生の方が享楽的であることは間違いないだろう。しかし、繰り返すが、こうした享楽的な態度は必ずしも女子高校生に特有というものではなく、現代においてはある意味で性別を問わず、いろいろな世代に蔓延している傾向であると言えるのかもしれない。

図 4・3・2・4 ミーイズム：関心の狭さ得点の分布 (N=642)

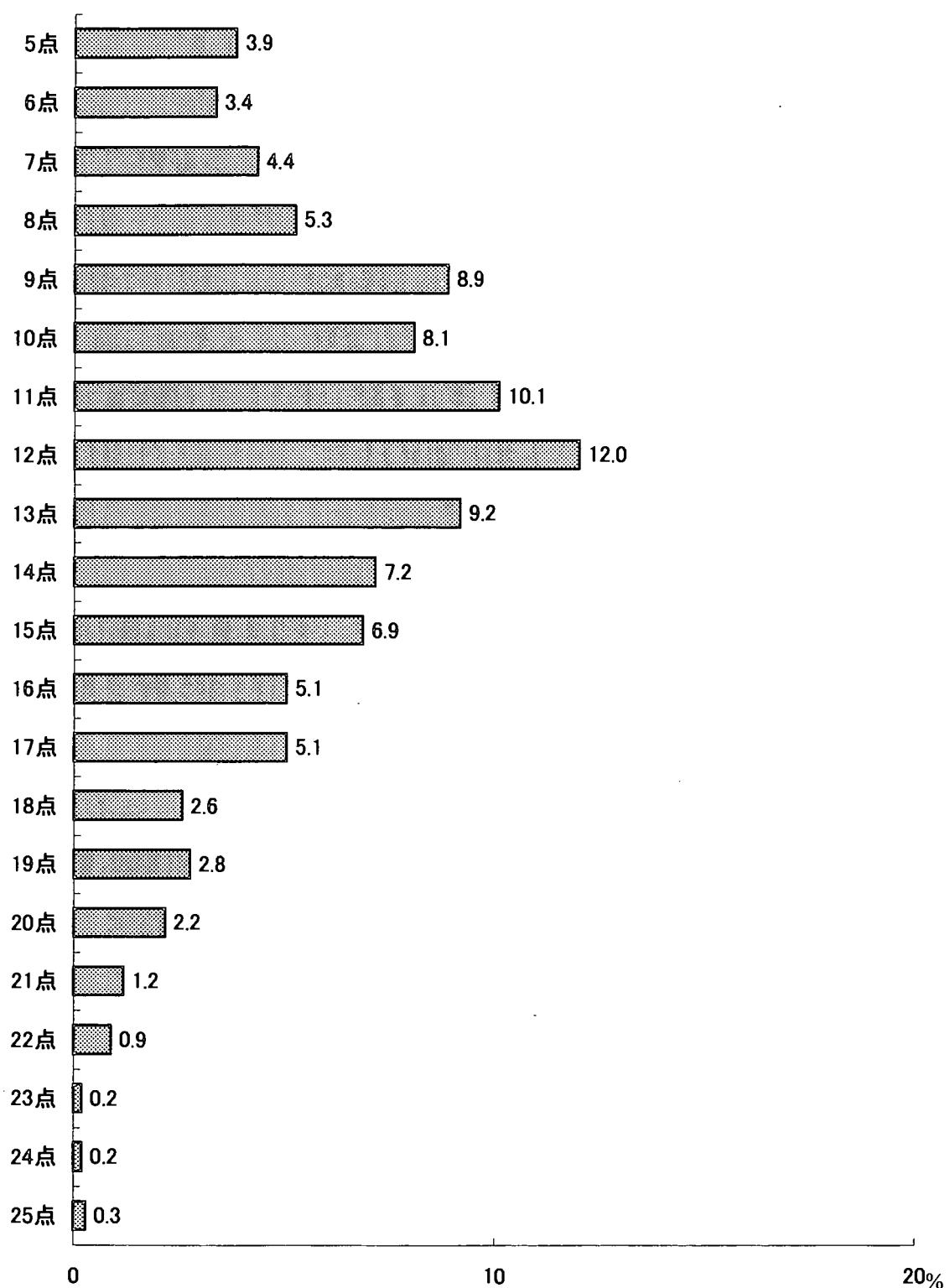


図 4-3-2-5 ミーイズム：将来無関心得点の分布 (N=640)

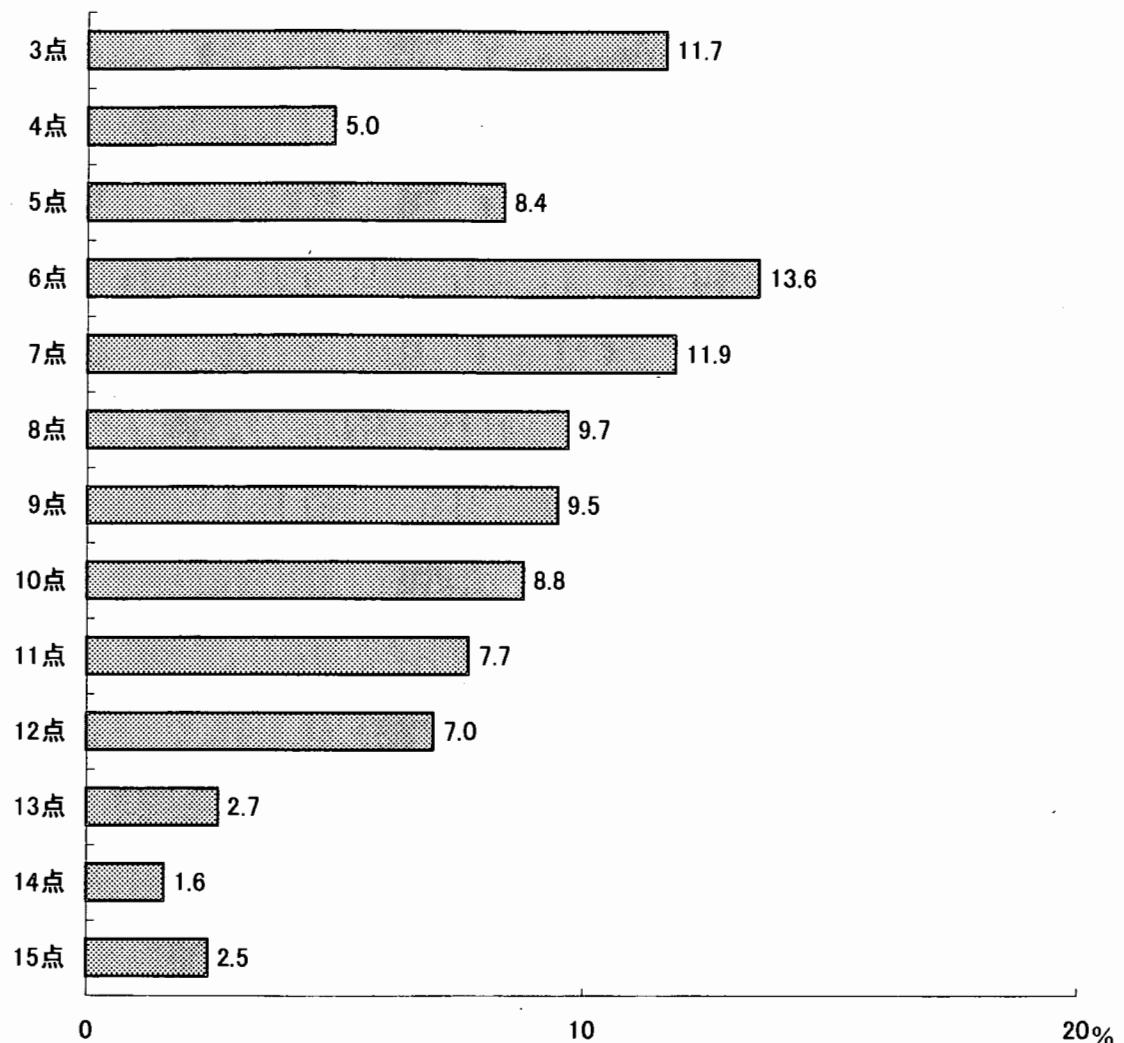
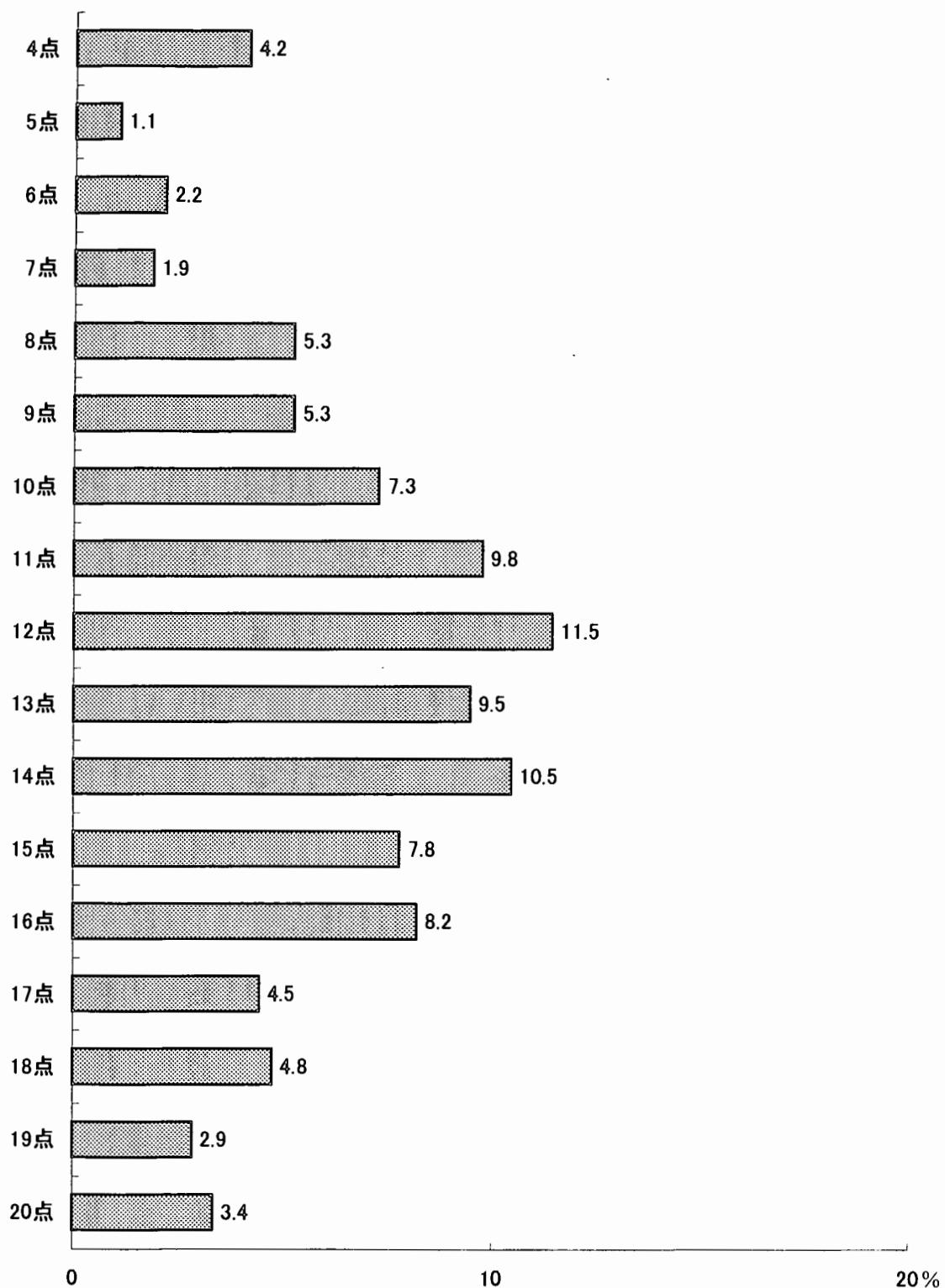


図 4·3·2·6 ミーイズム：享楽主義得点の分布 (N=645)



ここで下位尺度ごとに年齢層別にみてみよう。「関心の狭さ」の尺度得点は20代前半層において40代後半層以上に比して統計的に有意に高い得点を示した。たとえば、20代前半層の約3割は「社会全体のことを考えてもしようがない」と感じていた。20代前半層で、この項目に対する肯定派（「あてはまる」か「ややあてはまる」のいずれかを選択している人）は、なんと5割近くにもおよぶ。その他、「自分さえよければいいと思う」や「人に迷惑をかけなければ何をしてもよい」という項目も、20代前半層の約3割強が肯定派であった。すなわち、本調査において一番若い年齢層である20代前半層は、社会に対する効力感も無く、自分が良ければ良いという、自己中心的な関心の狭さを示していると言えるだろう。

下位尺度の一つ「将来無関心」に関しては年齢層間で有意な差がみられなかった。項目単位でみても、年齢層によって特に違ったパターンで選択されるという事も無く、上に述べた全体的傾向と同じような選択パターンであったと言えるだろう。

「享楽主義」に関しては「関心の狭さ」と同様に、20代前半層が40代後半層・50代前半層以上に比して有意に高い得点を示した。項目レベルで検討すると、「自分が楽しいかどうかが、生きていく上で一番大切なことだ」という項目に対して、20代前半層での肯定派は6割を超える値となった。「いつも楽しいことだけをしてみたい」という項目に対しても、20代前半層での肯定派は5割を超える数値となっている。20代前半層にみられるこうした享楽的な心性は福富ら（1998）に示された女子高校生とほぼ同じパターンと言うことができる。

一方、50代はより禁欲的な選択パターンが多い。たとえば「楽しくなければ生きているカイがない」という項目に対しては、4割以下しか肯定していない。また、「いつも楽しいことだけをしてみたい」という項目に対してはおおよそ2～3割程度しか肯定的ではなかった。

#### （5）『援助交際』に対する抵抗感・買春経験とミーアズム

性交を含む『援助交際』に対する抵抗感別や買春経験別に、ミーアズムとの関係を検討する。そのため、抵抗感の強弱や買春経験の有無別にミーアズムの各下位尺度得点の平均値を求めた。この結果を図4-3-2-7（次頁）、図4-3-2-8（次々頁）に示す。

ミーアズムの3側面（関心の狭さ・将来無関心・享楽主義）のすべてにおいて、『援助交際』に対する抵抗感弱群が高い得点を示した。すなわち、『援助交際』に対する抵抗感が弱い人は、強い人に比べてより関心が狭く、将来に対して無関心で、より享楽的であることが示された。自分さえよければそれでいい、今が楽しいければそれでいい、楽しいことが重要だ、といった自己中心的で享楽的な態度が『援助交際』に対する抵抗感の弱さに強く関連していることを示唆する結果である。

本調査の結果を福富ら（1998）による女子高校生を対象にしたデータと比較すると非常に類似した結果と言うことができる。女子高校生の場合でも、『援助交際』に対する抵抗感の弱い人は、将来無関心・享楽主義・関心の狭さというミーアズムの3側面全てで相対的に高い得点を示しており、本調査での結果と全く同じ傾向であると言える。これは『援助交際』を肯定する心理は、“先のことは考えず”“私が”“楽しく”過ごすことを優先させる姿勢と結びついているといえる」という福富ら（1998）のミーアズムと『援助交際』の関

係に関する考察を再確認したものと言えよう。

一方で買春経験に関しては、少し様相が異なっている。ミーイズムの下位側面の一つである享楽主義においてのみ、買春経験有群の得点が有意に高かった。しかし、それ以外の面では有意な差が見られていない。すなわち買春行動が、今を楽しむ手段の一つであると言う可能性が考えられるだろう。享楽主義得点が高いということは、「自分が楽しいかどうか」を行動の指針とし、「いつも楽しいこと」を追求し、「楽しくなければ生きているかいがない」とまでも思うのであろう。つまり、欲望が過剰に肥大化し、楽しみを追求する事の延長線上に買春行動があるのかもしれない。買春経験の有無によって関心の狭さや将来無関心得点に差がないことから、買春経験のある者が決して他者や社会に対する関心が無い訳でもないし、刹那的に楽しみを貪っている訳でもないだろう。しかし自分の楽しみを追求する行動に執着してしまうと、その行動が他者や社会にどのような影響を及ぼすのか、ということを類推する余裕も無くなってしまうのであろうか。

このように、『援助交際』を肯定する心理と買春経験では、ミーイズムの下位側面との関係がそれそれ異なっていることが示された。確かに、買春経験は『援助交際』の背景に潜む大きな要因となっているのだが、ミーイズムのような心理的側面から、買春経験と『援助交際』の両者の関係を考えてみると、そう単純に語ることは難しいようである。

図 4-3-2-7 『援助交際』に対する抵抗感とミーイズム

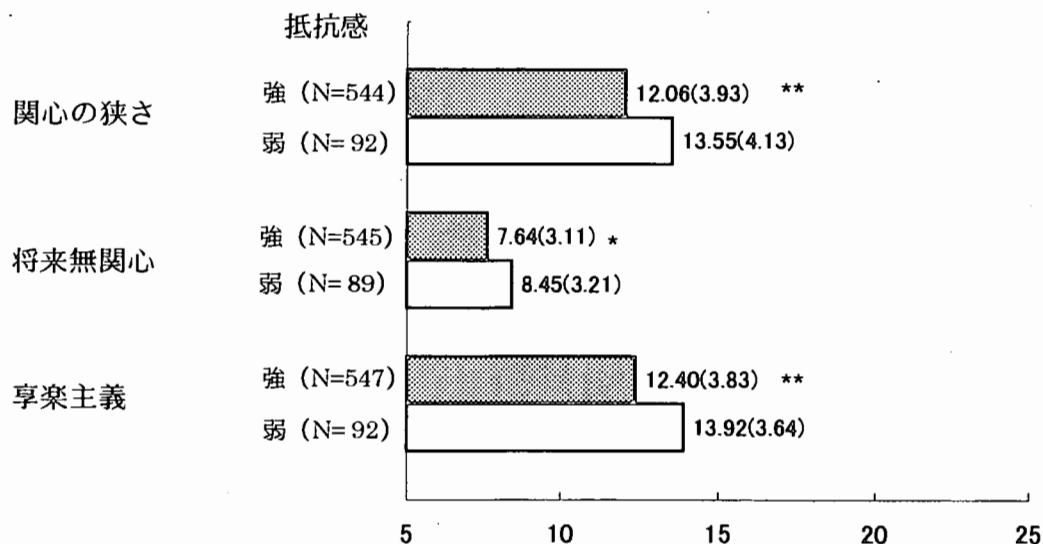
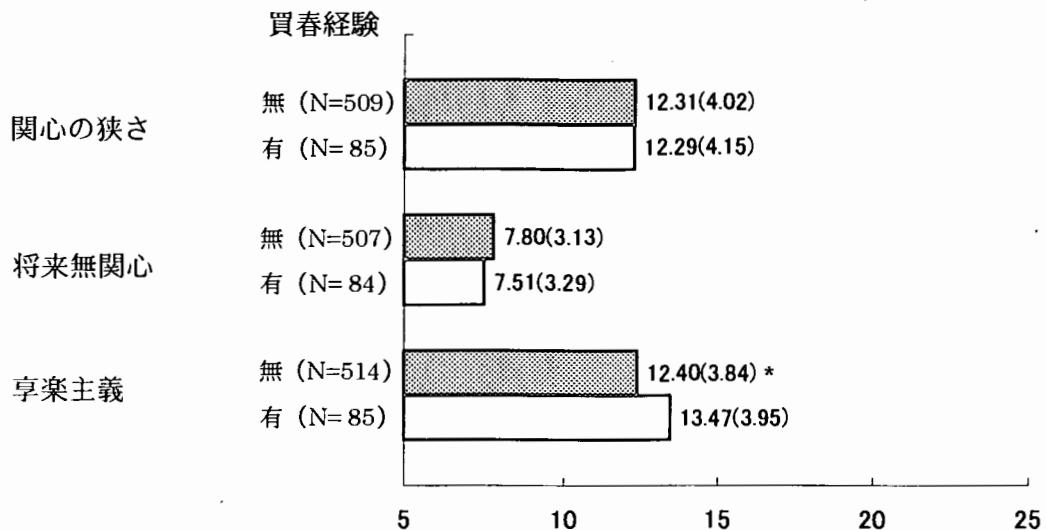


図 4・3・2・8 買春経験とミーイズム



#### (6)ミーイズムのまとめ

本調査では、表 4・3・2・1 に示した 12 項目、3 下位尺度で（関心の狭さ、将来無関心、享楽主義）を測定し、ミーイズムを測定した。各下位尺度とも十分な信頼性を示した。全体としては、各下位尺度ともにそれほど高い得点は示さず、女子高校生の値と大きくは変わらなかった。年齢層別に見ると、20 歳代がやはり女子高校生とほぼ同じ程度の値を示しており、40 歳代以上層との違いが見いだされた。

また『援助交際』に対する抵抗感とミーイズムの 3 側面（関心の狭さ・将来無関心・享楽主義）の関連では、『援助交際』に対する抵抗感が弱い人が、強い人に比べてより関心が狭く、将来に対して無関心で、より享楽的であることが示された。その一方で買春経験に関しては、買春経験のある人は享楽主義的であることが示されるのみであった。このように、『援助交際』を肯定する心理と買春経験では、ミーイズムの下位側面との関係がそれぞれ異なっていることが示された。

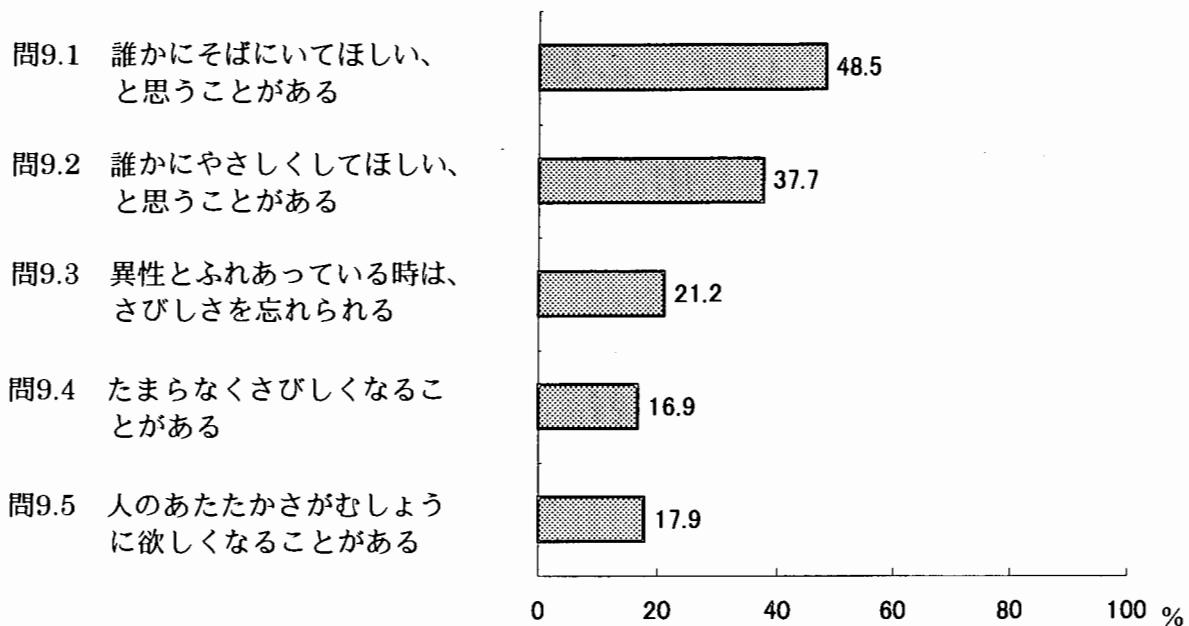
#### 3. ぬくもり希求

福富ら（1998）では、現代の女子高校生に、他者に優しくして欲しい・そばにいて欲しいという“ぬくもり”を求める傾向（ぬくもり希求）が強く、特に援助交際を経験したものに顕著であることを示している。これは家族を含めた人間関係の中でさびしさを感じる女子が、金銭を介して異性とかかわったり、金銭によって物質的に満たされようとするためと考察されている。このぬくもりを求める心理が、金銭を介して異性とかかわることにつながる過程は、成人男性の買春行為にも共通しているのだろうか。この疑問を明らかにするために、福富ら（1998）で用いた「ぬくもり希求」尺度項目を本調査でも使用し、援助交際および買春との関連分析を試みた。

### (1)ぬくもり希求の実態

「誰かにそばにいてほしい、と思うことがある」「人のあたたかさがむしように欲しくなることがある」など5項目について、あてはまるものに○をつけるよう求めた(図4・3・3・1)。

図4・3・3・1 ぬくもり希求 (N=664)



「誰かにそばにいてほしい、と思うことがある」は約半数、「誰かにやさしくしてほしいと思うことがある」は4割と、ぬくもりを求める気持ちが多くの回答者に抱かれていることがわかる。「たまらなくさびしくなることがある」「人のあたたかさがむしように欲しくなることがある」といった切実なさびしさを感じるものも、2割弱存在している。買春行為との関連性が想定される「異性とふれあっている時は、さびしさを忘れられる」も2割を超えていている。

福富ら(1998)の女子高校生調査では、この項目を5件法で尋ねているため、結果を直接的には比較できないが、女子高校生の回答について「あてはまる」「ややあてはまる」を併せた肯定率を、上述の回答と比較するためにあえて出してみると、「誰かにそばにいてほしい、と思うことがある」(65%)、「誰かにやさしくしてほしいと思うことがある」(61%)、「異性とふれあっている時は、さびしさを忘れられる」(29%)など、成人男性よりも2~3割も高くなっている。人とのふれあいを希求する傾向は彼女たちの方が大きいといえそうだ。

### (2)年齢層別にみたぬくもり希求

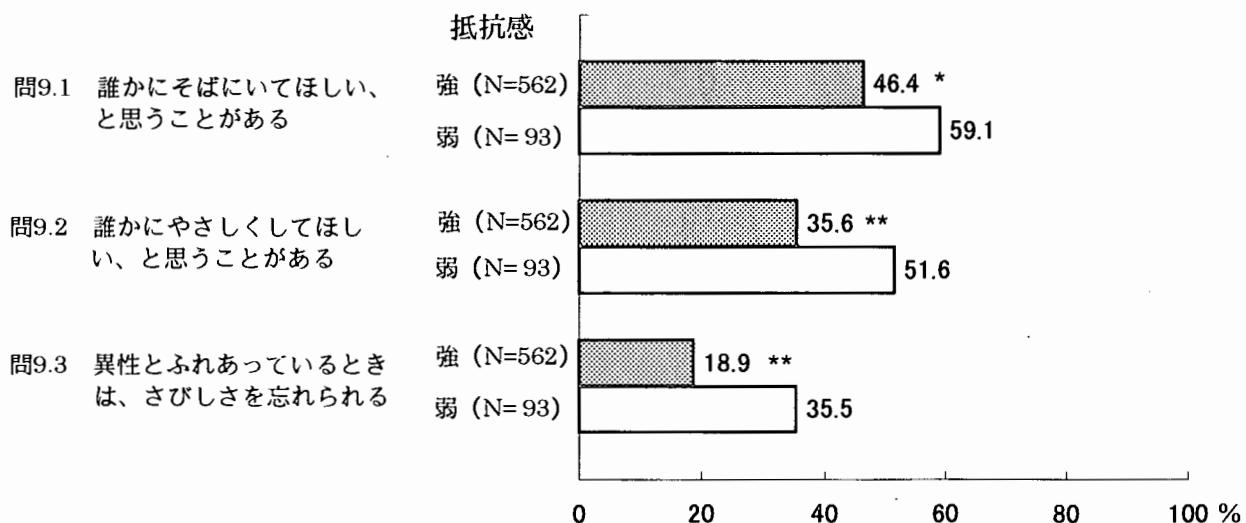
年齢層別にみると、「誰かにそばにいてほしいと思うことがある」「誰かにやさしくしてほしいと思うことがある」「たまらなくさびしくなることがある」「人のあたたかさがむしように欲しくなることがある」で有意差がみられる。いずれの項目も、20~30歳代の方が、

40歳代以降よりも高い選択率を示している。特に、「誰かにそばにいてほしいと思うことがある」は20代前半層においては、7割以上と値が高くなっている。この背景には、若年層では妻帯者が少ないことも関係していると推測される。

### (3)『援助交際』に対する抵抗感別にみたぬくもり希求

『援助交際』に対する抵抗感別に、ぬくもり希求項目の選択率に差がみられるかを検討したところ(図4-3-3-2)、5項目中3項目において抵抗感弱群の選択率が有意に高かった。差がみられたのは、「誰かにそばにいてほしい、と思うことがある」「誰かにやさしくしてほしいと思うことがある」「異性とふれあっている時は、さびしさを忘れられる」である。人とのふれあいを求める心理が女子高校生との接触を是認することに結びついている様子がうかがえる。

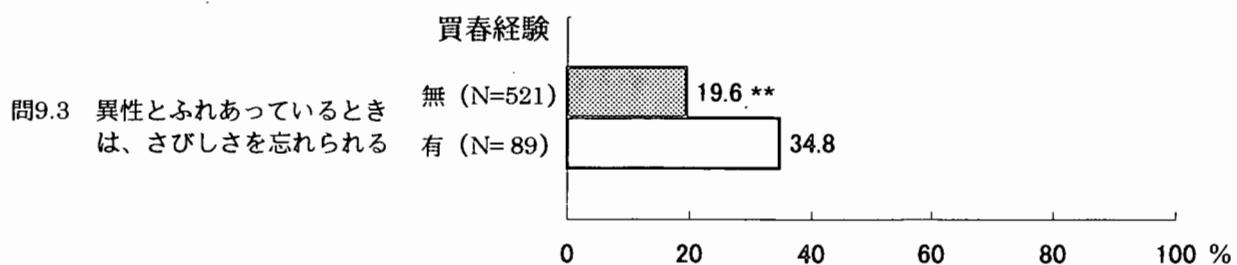
図4-3-3-2 『援助交際』に対する抵抗感別にみたぬくもり希求



### (4)買春経験別にみたぬくもり希求

買春経験別に回答をみると(図4-3-3-3；次頁)、「異性とふれあっている時は、さびしさを忘れられる」について、買春経験有群の方が有意に選択率が高かった。また「誰かにやさしくしてほしい」でも、買春経験者の方が選択率の高い傾向がみられた。ぬくもりを求め、それを異性とふれあいで埋めようとする心理が、買春の背景にあることが示唆される。

図 4・3・3・3 買春経験別にみたぬくもり希求



#### (5)ぬくもり希求尺度作成とその分析

続いてぬくもり希求に関する5項目について、○をつけた場合を2点、つけない場合を1点とし得点化を行なった。さらにこの5項目について主成分分析を行なった結果、表4・3・3・1のようになった。

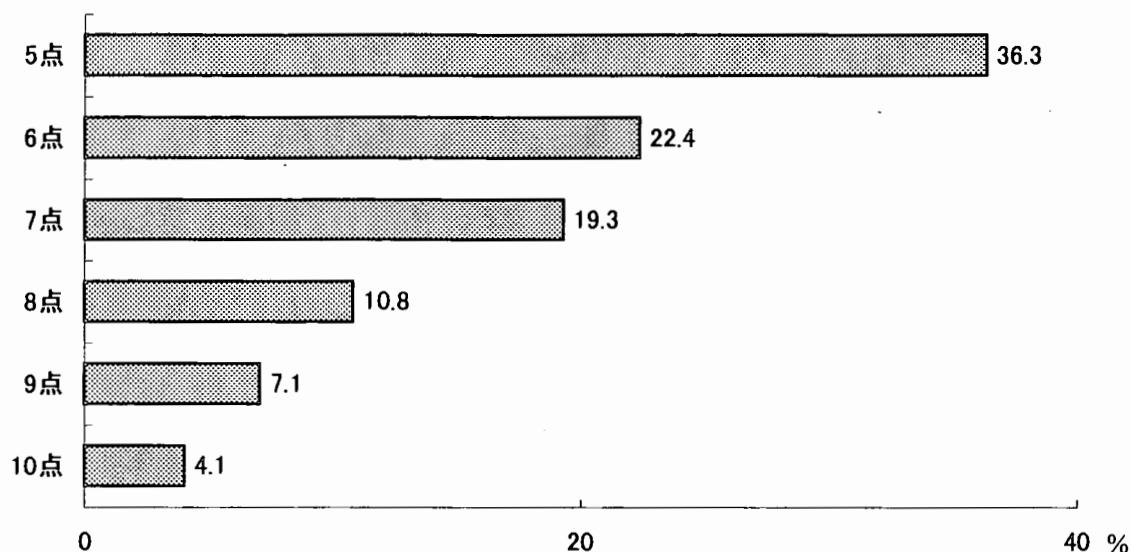
表 4・3・3・1 ぬくもり希求に関する主成分分析結果 (N=664)

項目内容	負荷量
問 9.1 誰かにそばにいてほしい、と思うことがある	.69
問 9.2 誰かにやさしくしてほしい、と思うことがある	.70
問 9.3 異性とふれあっている時は、さびしさを忘れられる	.60
問 9.4 たまらなくさびしくなることがある	.65
問 9.5 人のあたたかさがむしように欲しくなることがある	.71
固有値	2.25
寄与率 (%)	45.06

この5項目について $\alpha$ 係数を求めたところ、.69 であった。そこでこの5項目の回答を単純加算する形で「ぬくもり希求」尺度を作成した。ぬくもり希求尺度の得点分布は、図4・3・3・4(次頁)に示すとおりである。ぬくもり希求尺度の平均値は6.42、SDは1.45である。

このぬくもり希求尺度得点は、年齢層別に差がみられている。20代前半層が最も得点が高く、特に40歳代以降と差が開いている。

図 4-3-3-4 ぬくもり希求尺度得点の分布 (N=664)



続いて、ぬくもり希求尺度得点が、『援助交際』に対する抵抗感や、買春経験有無によって差がみられるか検討した(図4-3-3-5、図4-3-3-6)。その結果、抵抗感別にぬくもりの希求の差がみられている。抵抗感強群の方がぬくもり希求尺度得点が高い。また買春経験有無別にみると、経験有群の方がぬくもり希求が有意に高い。

以上の結果は、さびしさを感じ、人とのふれあいをもとうとする心理が、『援助交際』に対する抵抗感を弱めたり、買春行為に結びつく流れを示している。

図 4-3-3-5 『援助交際』に対する抵抗感とぬくもり希求尺度

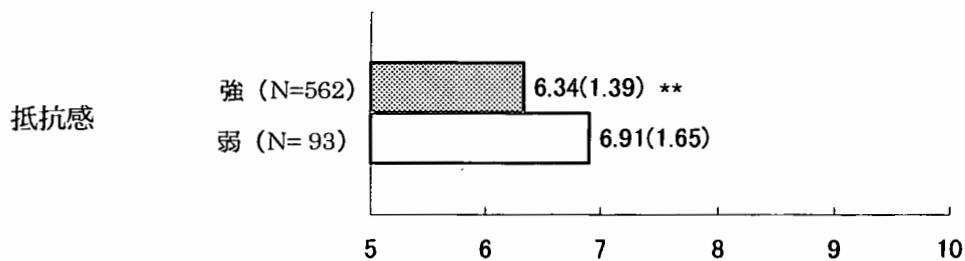
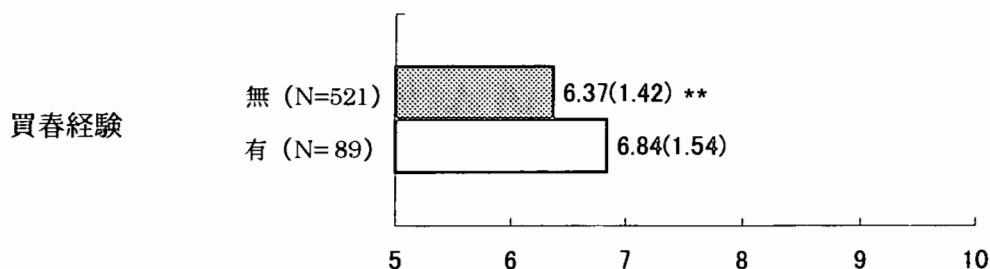


図 4・3・5 買春経験とぬくもり希求尺度



#### (6)ぬくもり希求のまとめ

本節では、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の背景要因としてぬくもり希求を取り上げ、実態や態度との関係を検討した。

「誰かにそばにいてほしい、と思うことがある」は約半数、「誰かにやさしくしてほしいと思うことがある」は4割と、ぬくもりを求める気持ちが多くの回答者に抱かれていることがわかる。

ぬくもり希求尺度得点は年齢層別に差がみられ、20代前半層が最も得点が高く、特に40歳代以降と差が開いている。

また、『援助交際』に対する抵抗感が弱いものや、買春経験者にぬくもり希求が有意に高い。

本調査に先立って行なわれた女子高校生に対する意識調査（福富ら, 1998）では、援助交際を経験している女子高校生は非経験者より、ぬくもり希求が高いことが明らかとなっている。買春経験者にぬくもり希求が高いという本調査結果は、成人男性においても女子高校生と同様の心的過程が存在していることを示している。人間関係に満たされないものが、売買春という形で異性とかかわろうとする構造が、両者に共通し、またお互いを結び付けていると言えそうだ。

#### 4. 対人的スキル

本調査では、成人男性の日常生活の中での対人的なつきあいのあり方を測定するために対人的スキル尺度を用いた。そもそも対人的スキルの定義は、研究者によって異なっており、一致を見いだすことは難しい。本調査では、対人的スキルをひとまず菊池（1988）の言う「対人関係を円滑にすすめる具体的行動」と考えた上で、具体的な下位行動目標ではなく、高度で複雑な行動を対象とした対人的スキルを測定しようと試みた。

対人的スキルについては、近年大きな注目を浴びており、社会心理学のみならず臨床心理学なども含め、多くの研究がなされてきている。それらの研究では対人的なスキルが、対人的行動や心理的状態に大きな影響を与え、その影響の大きさはある意味ではパーソナリティなどの心理的特性をも凌駕するとも言われている。

それほど対人的スキルへの行動への影響は大きいことが言われているにも関わらず、本調査で対象とする幅広い年齢層を含む成人男性全般に対して適用可能なスキル尺度は、わ

が国では未だ十分に開発されているとは言い難い。そこで、本調査ではわが国で対人的スキル尺度として最も一般的に利用されている菊池（1988）の KISS-18 や、堀毛（1994）の ENDE2 など既存のいくつかの尺度を参考に項目を精選し、新たに対人的スキル尺度を作成することとする。本調査では、先に述べた定義に基づき、項目を作成した上で内的一貫性などの信頼性を確認した上で、心理尺度として利用を試みたい。

### （1）尺度項目

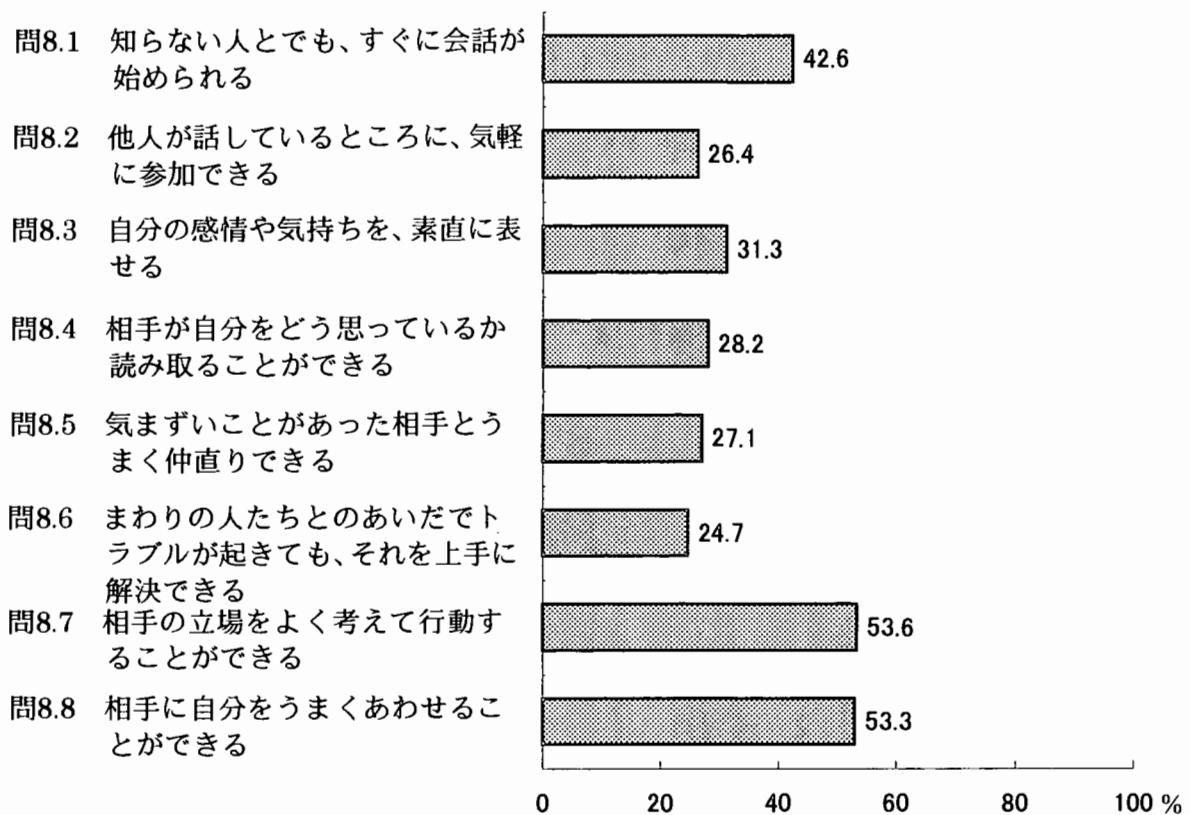
具体的な尺度項目は別記した質問紙の問 8 に示されている項目である。本調査では回答者の応答のしやすさを考慮し、回答方法に若干の修正を加え、多重回答形式を用いた。具体的には、回答者自身の人との接し方にあてはまるものを、いくつでも選択することを求めた。いずれの項目も、選択された（○がつけられた）場合を 2 点、選択されない（○がつけられていない）場合を 1 点として得点化した。

具体的項目を項目番号とともに表 4-3-4-1 に示す。またこれらの各項目に対する回答比率（選択率）を図 4-3-4-1 に図示するので併せて参照されたい。

表 4-3-4-1 対人的スキルの尺度項目

項目内容	
問 8.1	知らない人とでも、すぐに会話が始まられる
問 8.2	他人が話しているところに、気軽に参加できる
問 8.3	自分の感情や気持ちを、素直に表せる
問 8.4	相手が自分をどう思っているか読みとることができる
問 8.5	気まずいことがあった相手とうまく仲直りできる
問 8.6	まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に解決できる
問 8.7	相手の立場をよく考えて行動することができる
問 8.8	相手に自分をうまくあわせることができる

図 4-3-4-1 対人的スキル (N=664)



## (2)尺度の構成の確認

またわが国において、無作為抽出の成人男性を対象に尺度化可能性を改めて検討した研究例は極めて少ない。そのため、本調査の回答者においても原版同様に尺度得点を用いることが可能であるか否かを検討した。まず主成分分析を行った結果を表 4-3-4-2 に示す。各項目は、第一主成分に高い負荷量を示した。そこで各尺度を構成する項目は原版通りの項目を採用することとした。

表 4-3-4-2 対人的スキル尺度に関する主成分分析結果 (N=664)

項目内容	負荷量
問8.1 知らない人とでも、すぐに会話が始まられる	.65
問8.2 他人が話しているところに、気軽に参加できる	.63
問8.3 自分の感情や気持ちを、素直に表せる	.59
問8.4 相手が自分をどう思っているか読みとることができる	.44
問8.5 気まずいことがあった相手とうまく仲直りできる	.69
問8.6 まわりの人たちとのあいだで	

問 8.7	トラブルが起きたとき、それを上手に解決できる	.62
問 8.8	相手の立場をよく考えて行動することができる	.40
	相手に自分をうまくあわせることができる	.45
	固有値	2.59
	寄与率(%)	32.37

### (3)尺度の信頼性

対人的スキル尺度の信頼性を $\alpha$ 係数を用いて検討した。その結果、 $\alpha=.69$ という値を得た。ここで得られた $\alpha$ 係数の値は、尺度として利用する上で実用上それほど問題となるほどの値ではないだろう。このまま対人的スキル尺度の全項目を利用して対人的スキルを測定することとする。

### (4)尺度得点について

対人的スキル尺度は既述したように、得点が高いほど対人的スキルが高い、すなわち対人的相互作用をうまく行うことができると認知している傾向を示す尺度である。対人的スキル尺度の得点分布を図 4-3-4-2 に、回答者全員を対象とした対人的スキル尺度の基礎統計量を表 4-3-4-3 に示す。対人的スキル尺度は全 8 項目で構成されているため、可能な得点範囲の下限は 8 点で、上限は 16 点となる。

図 4-3-4-2 対人的スキル尺度得点の分布 (N=664)

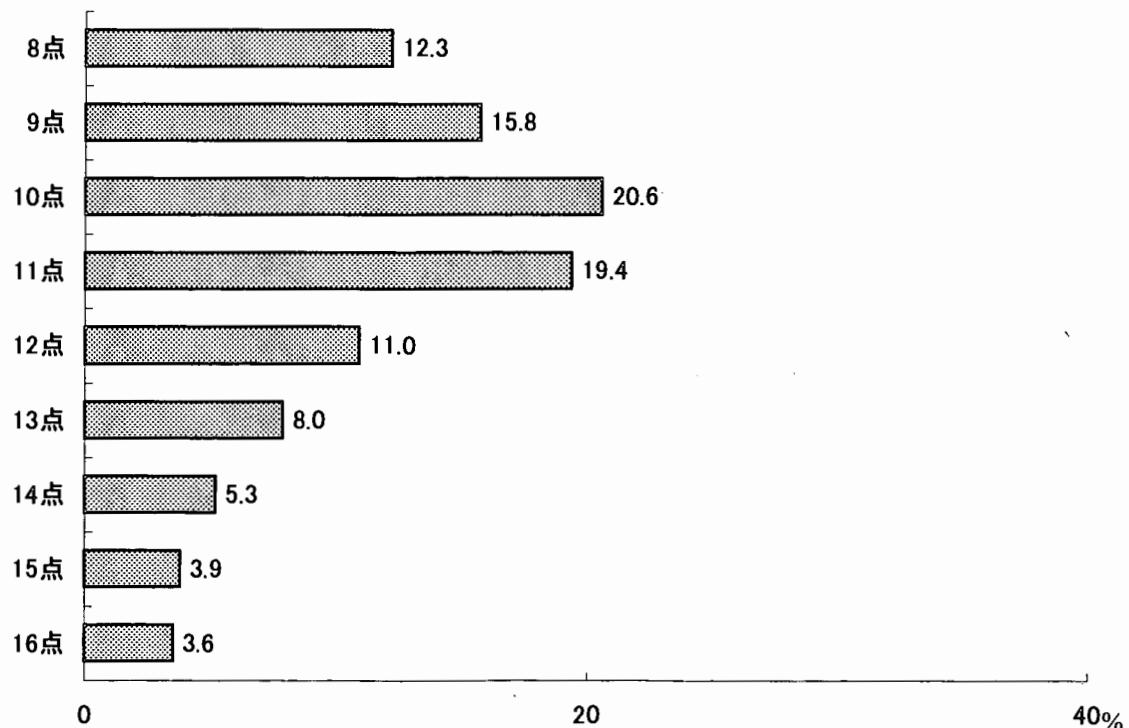


表 4・3・4・3 対人的スキル尺度の基礎統計量

	N	平均	S D
対人的スキル	664	10.87	2.09

本調査の結果から、平均的には1人の人が3～4個は対人的スキル項目を選択していることになる。項目レベルでみていくと、約4割の人が「知らない人とでも、すぐに会話が始められる」と自分のことを認知している。また、「相手の立場をよく考えて行動することができる」「相手に自分をうまくあわせることができる」と報告する人の割合は5割を超える。成人男性の多くはいわゆる社会人として他者との関わりの中で生きているだろう。そのためには、こうした対人的スキルが必要であると認識しており、自分はそれを持っていようと自認することによって適応を図ろうとしているのかもしれない。

次に対人的スキル尺度得点について、年齢層間の比較を行ってみた。その結果、対人的スキル尺度得点に年齢層間による差は認められなかった。これは年齢が20歳代であっても50歳代であっても、その年齢に関わらず、自分の認知する対人的スキルに関しては安定している、ということを示すものである。老若を問わず約50%の人が「相手の立場をよく考えて行動することができる」「相手に自分をうまくあわせることができる」などと考えているのである。ただし、そうした社会的場面において各個人が取る対人的スキルの具体的な内容は、もしかしたら年代によって異なっているのかもしれない。

#### (5)『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と対人的スキル

性交を含む『援助交際』に対する抵抗感別、買春経験別に対人的スキルとの関係を検討する。そのため、抵抗感の強弱や買春経験の有無別に対人的スキル尺度得点の平均値を求めた。この結果を図4・3・4・3および図4・3・4・4に示す。

図 4・3・4・3 『援助交際』に対する抵抗感と対人的スキル尺度

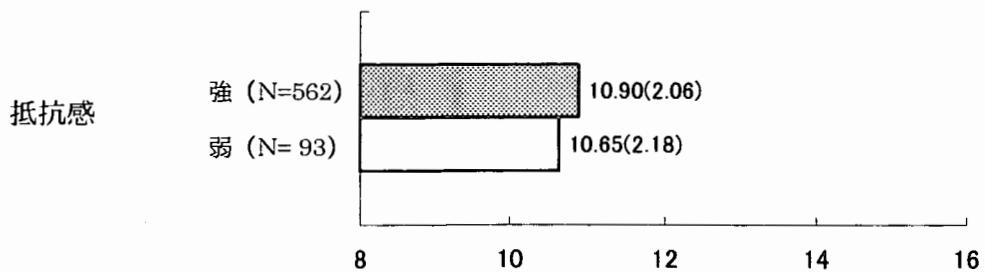
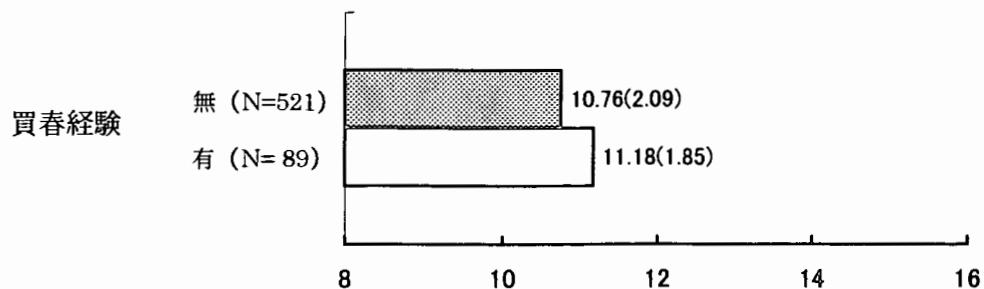


図 4・3・4・4 買春経験と対人的スキル尺度



『援助交際』に対する抵抗感の強弱では有意な差が見られなかったが、買春経験では傾向差が見られた。買春経験有群が対人的スキル得点において、高い得点を示した。この事は、買春経験のある者が相対的に社交的で対人的スキルに富むと、少なくとも自分では思っている事を意味している。すなわち他者、特に女性、との深く親密な対人的相互作用をうまく取ることが苦手であると考えるがゆえに、手っ取り早く金銭で解決可能な買春を行うというような直線的で単純な行動傾向を示す訳ではないことが伺える。

むしろ、洒脱でスマートに対人相互作用を進めると自認している者の方が、買春経験を持つことが考えられるのである。この事を説明する可能性の一つとしては、会社社会における人間関係などとの関わりで買春行動が起こり得ることが考えられる。対人的スキルに長けている人は、他者との関わりを大切にするだろう。その結果、仲間関係の和を崩さないためにも集団での買春ツアーワー的な行動からもあえて積極的には避けないのかもしれない。あるいはまた、対人的スキルに富む人物は種々様々な人間関係を好む結果として、買春行動にも関わってくるのかもしれない。いずれにせよ、この結果を解釈するためには、他の変数との関係を注意深く検討する必要があるだろう。

一方、『援助交際』に対する抵抗感の強弱は、対人的スキルと直接には関係していない事が示されている。すなわち、対人的スキルという観点からは、『援助交際』に対する抵抗感が買春経験とは異なるものであることを示唆するとも考えられよう。この買春経験と『援助交際』をつなぐあるいは峻別する鍵となる他の変数は何であろうか。この点を明らかにし、両者の関係を明確にすることが今後の研究においては必要となってくるだろう。

#### (6)対人的スキルのまとめ

本調査では、表 4・3・4・1 に示した 8 項目で対人的スキルを測定し、これは尺度として十分な信頼性を持つことが示された。表 4・3・4・1 の対人的スキルのうち、成人男性は平均的に 3 ~ 4 個程度を有し、その個数は年齢層間で変わらない事も示された。

この対人的スキル得点は、『援助交際』に対する抵抗感の強弱では有意な差が見られなかった。買春経験では、傾向差ではあるが、高い得点を示した。つまり買春経験者の方が対人的スキルに富むと自己評価している事になる。この事は、買春を行うのは、人付き合いが下手で対人的スキルが無いからだ、という訳ではない事を意味する。むしろ、対人的スキルを持つが故に、対人関係を円滑にすすめた結果として、買春行動に関わってくる可能

性を持つとも言えるだろう。同時に、『援助交際』に対する抵抗感は買春経験とは必ずしも同じものではないことを示唆した結果となった。

## 5. 精神的健康尺度

成人男性の精神的健康を測定するために精神健康調査票 (The General Health Questionnaire : 以下 GHQ と略称) を用いた。GHQ は Goldberg(1972)が作成した 60 項目からなる非器質性、非精神病性の精神障害のスクリーニングテストである。わが国も含め世界中で標準化が試みられており、精神的健康の指標としてあらゆる年齢層の人々を対象にして使用されている (中川・大坊, 1985)。

GHQ は 60 項目からなる原版以外にも、項目数が異なる (12, 20, 28, 30 項目など) 複数の短縮版が作成され、多くの研究で用いられている。本調査ではこれらの短縮版の中から、12 項目版を用いた (以下、GHQ-12)。GHQ-12 は精神的健康を構成する各要素それぞれの指標ではなく、精神的健康そのものの指標が必要であるという場合に有用である。また、GHQ-12 は項目数が少なく利用がより簡便である。実際、Goldberg et al.(1997)は、精神的不健康状態にあるケースを多数の中からスクリーニングするためには GHQ-12 で十分であることを示している。

わが国の研究に限って GHQ-12 を適用した研究をみると、存外に多くはない。筆者の知る限り、産業衛生に関する研究では比較的多用されている。それらの研究では成人を対象としているので、本調査の結果との直接の比較も容易であろう。

### (1) 尺度項目

具体的な尺度項目は別記した質問紙の問 25 に示されている項目である。12 項目版はわが国で標準化されている 60 項目版から Goldberg(1972)の 12 項目を選択した。ただし、本調査では回答者の応答のしやすさを考慮し、項目および回答方法に若干の修正を加えた。具体的項目を項目番号とともに表 4-3-5-1 に示す。またこれらの各項目に対する回答頻度を図 4-3-5-1 (次々頁) に図示するので併せて参照されたい。

表 4-3-5-1 精神的健康 (GHQ-12) の尺度項目

項目内容
問 25.a 何かをする時いつもより集中して
問 25.b 心配ごとがあって、よく眠れないようなことは
問 25.c いつもより自分のしていることに生きがいを感じることが
問 25.d いつもより容易に物ごとを決めることが
問 25.e いつもストレスを感じたことが
問 25.f 問題を解決できなくて困ったことが
問 25.g いつもより問題があった時に積極的に解決しようとすることが
問 25.h いつもより気が重くて、憂うつ(ゆううつ)になることは
問 25.i 自信を失ったことは

- 問 25.j 自分は役に立たない人間だと考えたことは  
問 25.k 一般的にみて、しあわせといつもより感じることは  
問 25.m いつもより日常生活を楽しく送ることが
- 

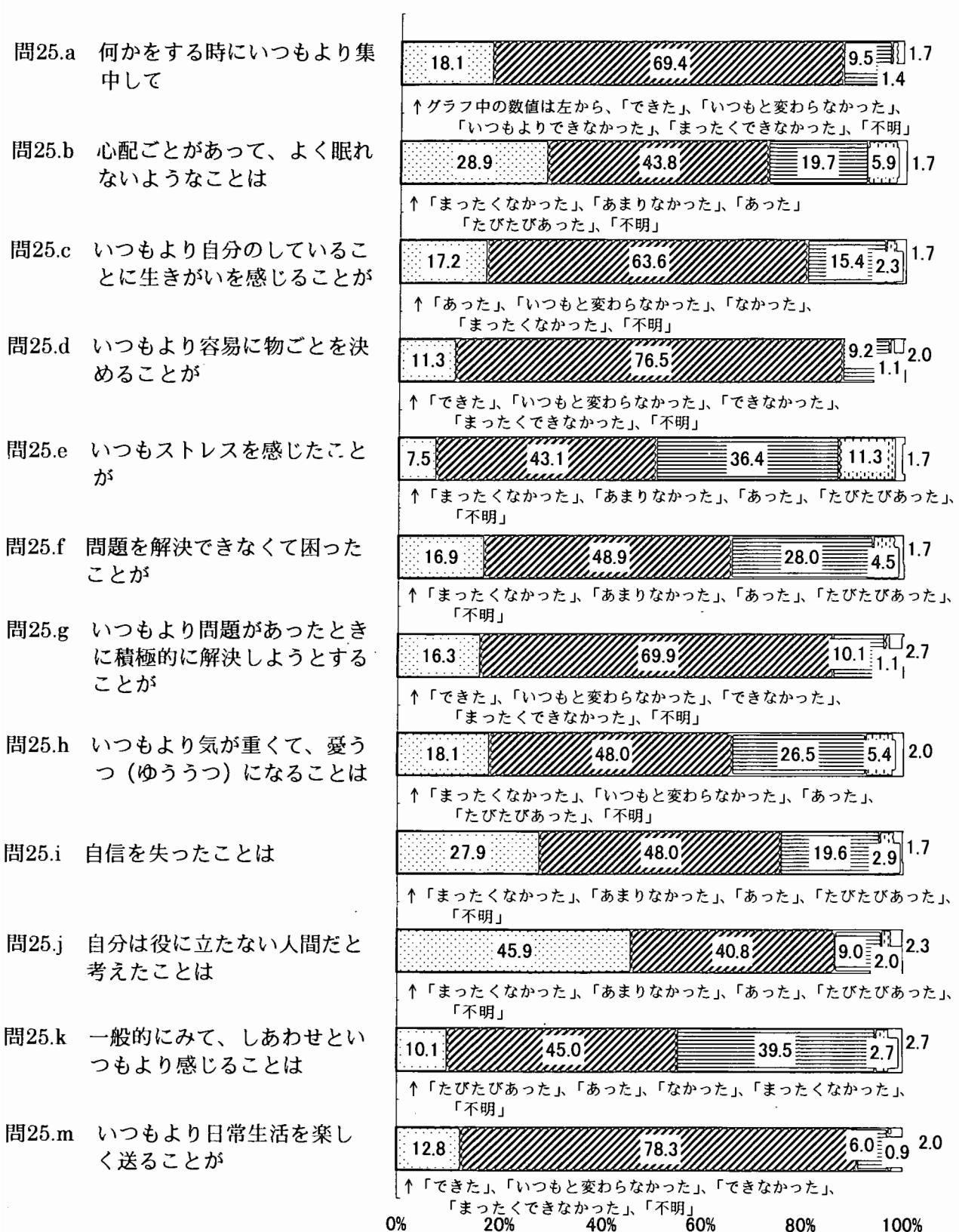
## (2)尺度の構成の確認

GHQ-12は標準化された尺度であるが、本調査では若干の修正を加えている。またわが国において、無作為抽出の成人男性を対象に尺度化可能性を改めて検討した研究例は極めて少ない。そのため、本調査の回答者においても原版同様に尺度得点を用いることが可能であるか否かを検討した。まず主成分分析を行った結果を表 4-3-5-2 に示す。各項目は、第一主成分に高い負荷量を示した。そこで各尺度を構成する項目は原版通りの項目を採用することとした。

表 4-3-5-2 精神的健康 (GHQ-12) に関する主成分分析結果 (N=639)

項目内容	負荷量
問 25.a 何かをする時いつもより集中して	.43
問 25.b 心配ごとがあって、よく眠れないようなことは	.51
問 25.c いつもより自分のしていることに生きがいを感じることが	.48
問 25.d いつもより容易に物ごとを決めることが	.57
問 25.e いつもストレスを感じたことが	.61
問 25.f 問題を解決できなくて困ったことが	.64
問 25.g いつもより問題があったときに 積極的に解決しようとすることが	.53
問 25.h いつもより気が重くて、憂うつ（ゆううつ）になることは	.72
問 25.i 自信を失ったことは	.68
問 25.j 自分は役に立たない人間だと考えたことは	.66
問 25.k 一般的にみて、しあわせといつもより感じることは	.39
問 25.m いつもより日常生活を楽しく送ることが	.55
固有値	3.95
寄与率(%)	32.88

図 4・3・5・1 精神的健康 (GHQ12) (N=664)



### (3)尺度の信頼性

GHQ-12 の信頼性を  $\alpha$  係数を用いて検討した。その結果、GHQ-12 全体では  $\alpha=.81$  という比較的高い値を得た。ここで得られた  $\alpha$  係数の値は、わが国の成人を対象とした場合をはじめ、諸外国における成人をサンプルとした場合とも極端に変わるものではない。むしろ若干ではあるが、高い値を示していた。したがって本調査においても、GHQ-12 の信頼性は十分であると言えるだろう。

### (4)尺度得点について

GHQ-12 は既述したように、得点が高いほど精神的健康が悪い、すなわち精神的に不健康であることを示す尺度である。この基礎統計量を求めた。

なお GHQ-12 の評定は 1 ~ 4 の 4 件法であったが、本調査では 1 ~ 4 の各評定に対して、0,0,1,1 の得点をそれぞれ与える GHQ 採点法を用いた。得点が高いほど、精神的に不健康であることを示す。Goldberg(1972)は信頼性、併存的妥当性、得点化の簡便さ、症例認定での優越性などから、この採点法の使用を推奨している。またわが国、諸外国を問わず多くの研究で GHQ 採点法が採用されている。

GHQ-12 の得点分布を図 4-3-5-2 に、回答者全員を対象とした GHQ-12 の基礎統計量を表 4-3-5-3 に示す。GHQ 採点法を用いると、GHQ-12 は全 12 項目で構成されているため、可能な得点範囲の下限は 0 点で、上限は 12 点となる。

図 4-3-5-2 精神的健康 (GHQ12) 尺度得点の分布 (N=639)

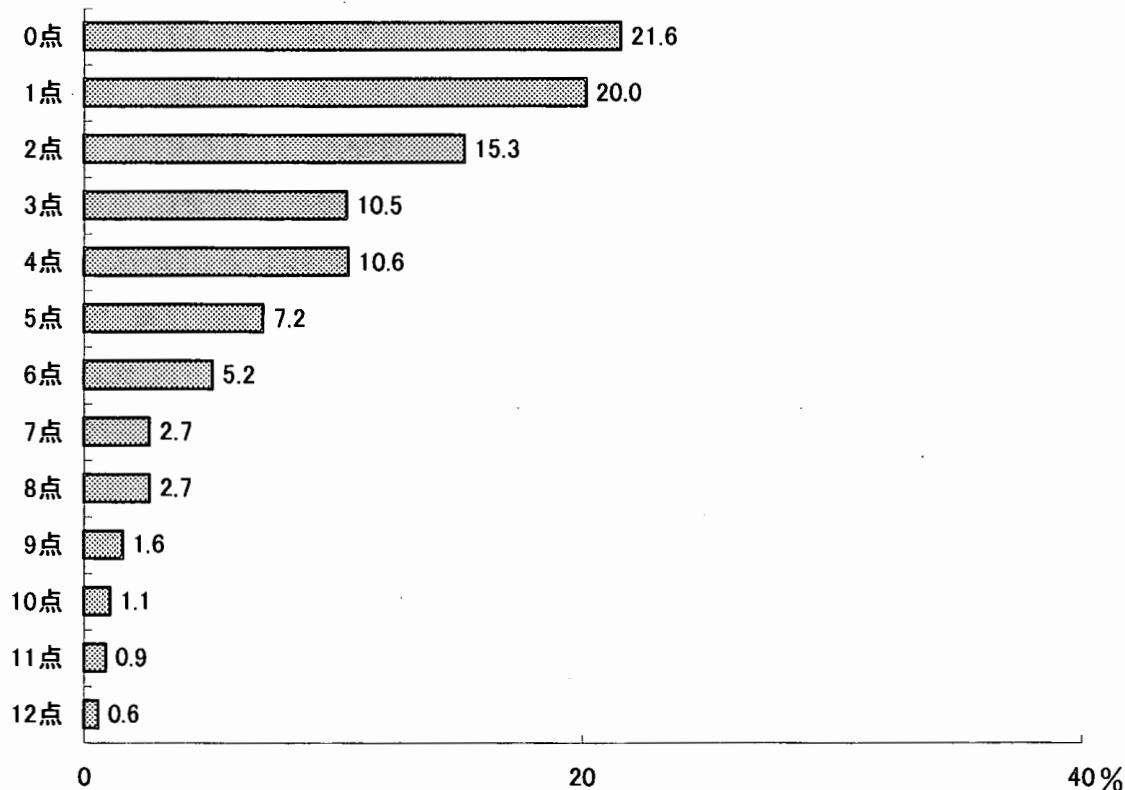


表 4・3・5・3 精神的健康尺度の基礎統計量

	N	平均	S D
精神的健康	639	2.75	2.65

得点をみると、全 12 の質問項目の内、精神的不健康な方向には 2 ~ 3 個程度しか評価されない事が示された。GHQ-12 の得点に関して、本調査のように 20 歳~59 歳の広範囲にわたる男性のサンプルを層化二段の無作為抽出法により得ているわが国のデータは、筆者らの知る限りない。そのため正確な比較はできないが、わが国の大学生や勤労者のデータと本調査の結果を比較してみると、男性の結果としては平均的であると考えられる。本調査での調査回答者は、それほど精神的健康状態が非常に悪い訳でも、また非常に良い訳でもないと言えるだろう。

次に精神的健康尺度得点について、年齢層間の比較を行った。結果として、精神的健康尺度得点には、年齢層間による差は認められなかった。これは年齢に関わらず精神的健康度は安定している、という結果を示すものである。精神的健康は年齢の関数として現れる訳ではないことが示されたと言えるだろう。

#### (5)『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と精神的健康

性交を含む『援助交際』に対する抵抗感別、買春経験別に精神的健康との関係を検討する。そのため、抵抗感の強弱や買春経験の有無別に精神的健康尺度得点の平均値を求めた。この結果を図 4・3・5・3、図 4・3・5・4 に示す。

図 4・3・5・3 『援助交際』に対する抵抗感と精神的健康 (GHQ12) 尺度

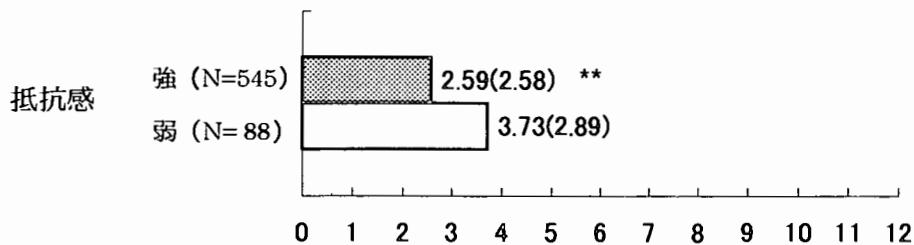
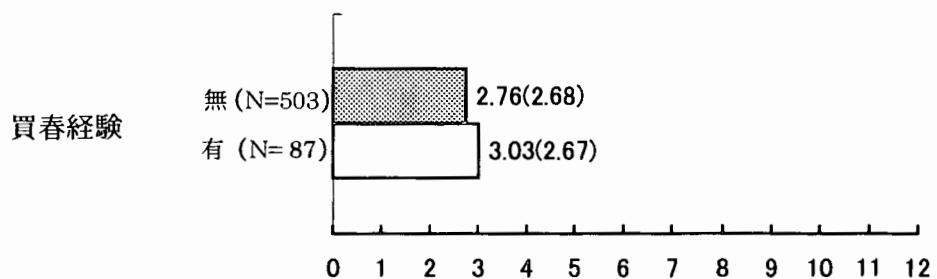


図 4-3-5-4 買春経験と精神的健康 (GHQ12) 尺度



抵抗感の強弱のみで有意な差が見られたが、買春経験では有意な差が見いだされなかつた。『援助交際』に対する抵抗感の弱い人の方が、精神的に不健康な状態にあった。福富ら（1998）の女子高校生を対象にしたデータでも、精神的健康に関する測度を利用しているが、全く同じ尺度を用いている訳ではないので、直接の比較は困難である。しかし、全体的にみると今回得られた成人男性の『援助交際』に対する抵抗感と精神的健康の関係に関する結果は、女子高校生で得られたそれと同じ傾向であると言うことができるだろう。すなわち、成人男性であっても、女子高校生であっても、基本的には『援助交際』に対する抵抗感が弱い者ほど精神的に不健康な状態にあると言える。

この事を因果的に精神的に不健康であることを基盤として考えてみると、一つの可能性としては、『援助交際』に対する抵抗感の弱さが、精神的な不健康状態の指標として捉えることも可能だろう。もちろん本調査は相関的研究であるので、その因果関係には直接言及することができない。今後、時系列的な変化を検討することや、他の変数との関係も同時に検討することなどにより、明らかにしていかねばならない問題の一つであろう。

同時に『援助交際』に対する抵抗感とは異なり、買春経験の有無では差が見られなかつたことも興味深い。精神的健康の側面から考えると、精神的に不健康である人が買春行動を行う、という訳ではないのである。すなわち、今回得られた結果は、『援助交際』に対する抵抗感が買春経験とは異なるものであることを示唆する考えることもできるだろう。つまり『援助交際』は単なる買春の延長線上にあるものではないと言えるのではないだろうか。今後、この買春経験と『援助交際』をつなぐ、あるいは峻別する鍵となる他の変数を見いだし、両者の関係を明確にすることが必要となってくるだろう。

#### (6)精神的健康尺度のまとめ

本調査では、表 4-3-5-1 に示した 12 項目で精神的健康を測定する GHQ-12(General Health Questionnaire-12)を用いた。尺度としての内的一貫性は十分であることが示された。表 4-3-5-1 の項目の内、成人男性は精神的に不健康な方向には、平均的に 2 ~ 3 個程度しか反応が見られず、しかも年齢層間で変わらない事も示された。

GHQ-12 の得点は、『援助交際』に対する抵抗感の強弱では有意な差が見られたが、買春経験では有意な差が見られなかつた。つまり『援助交際』に対する抵抗感が弱い人の方が精神的に不健康であった。こうした精神的不健康状態の現れとして、『援助交際』に対す

る抵抗感の弱さを捉えることも可能だろう。一方で買春経験には、精神的健康の程度は関わっていないことが示された。つまり、『援助交際』に対する抵抗感と買春経験とは、同じものではないことを示唆した結果となった。

#### 第4節 意識的側面

##### 1. 性をめぐる意識

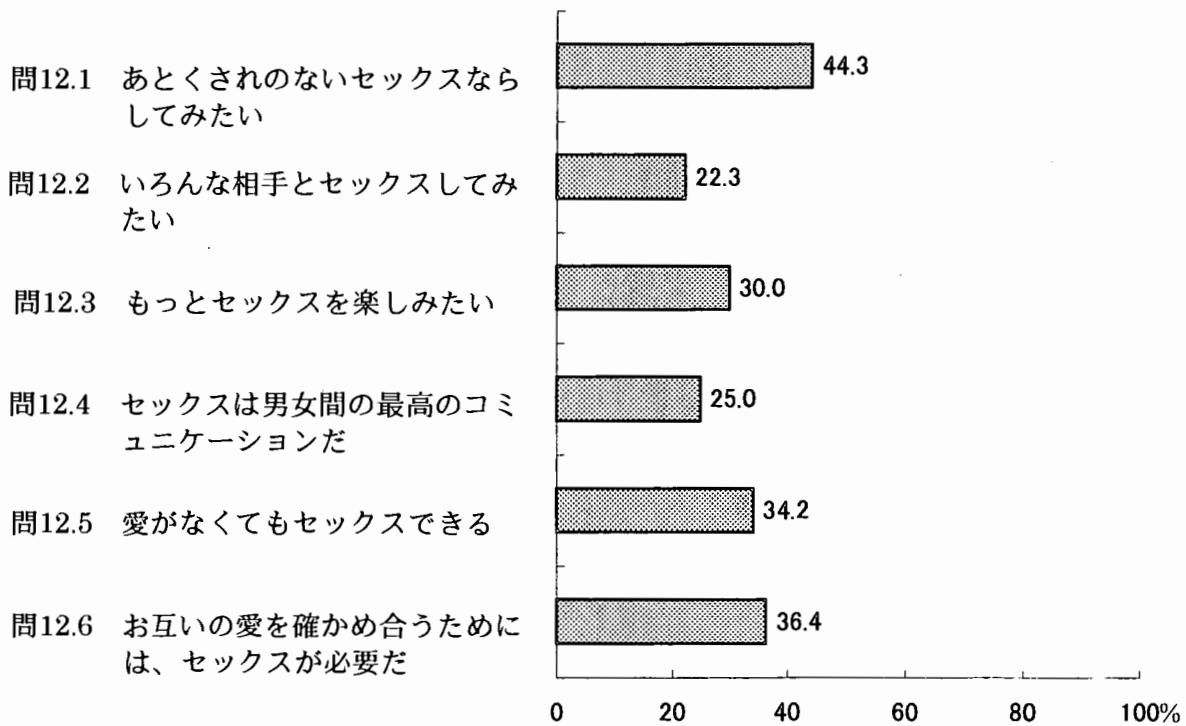
本調査では、『援助交際』や買春に対する態度に、回答者自身が性に対して抱く意識が影響を与えていていると考えている。例えば、フリーセックスを楽しみたいと考えるものや、性的な積極性を男らしさの象徴と考えるものは、買春行為に許容的なのではないか。また本人の性欲の強さそのものも、買春行動に結びつくとも推測される。これらの疑問をふまえ、本調査では性をめぐる様々な意識について多面的に測定する項目群を設定した。

###### (1)性に対する意識

###### ①性に対する意識の実態

まず始めに、性に対してどの程度興味・関心を持ち、積極的に楽しもうとしているかを尋ねた（図4-4-1-1）。「あとくされのないセックスならしてみたい」「愛がなくてもセックスできる」「いろんな相手とセックスしてみたい」といったフリーセックスを肯定し、性に対して関心と興味を示す意見は2～4割である。また「セックスは男女間の最高のコミュニケーションだ」「お互いの愛を確かめ合うには、セックスが必要だ」は3割前後である。

図4-4-1-1 性に対する意識 (N=664)



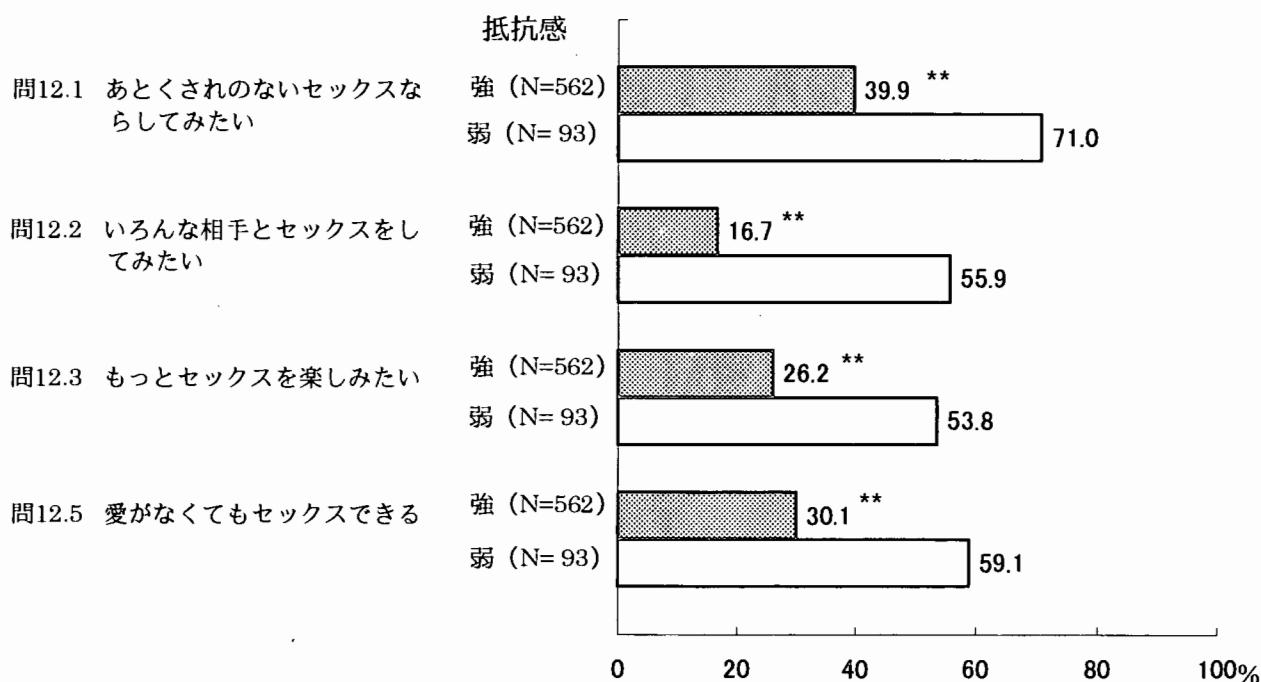
## ②年齢層別にみた性に対する意識

セックスに対する積極性項目において（「いろんな相手とセックスしてみたい」「もっとセックスを楽しみたい」）、年齢層別に有意な差がみられた。特に20代前半層で選択率が高い。選択率の順位は必ずしも年齢に応じていないが、全体としては若い層で選択率が高い傾向にある。また「お互いの愛を確かめあうにはセックスが必要」も年齢差が示されており、選択率は30代前半層が6割と特に高くなっている。

## ③『援助交際』に対する抵抗感別にみた性に対する意識

『援助交際』に対する抵抗感別に回答差があるか分析したところ（図4-4-1-2）、セックスへの積極性にかかる項目で、抵抗感強群の選択率が有意に高くなっていた。差がみられたのは、「あとくされのないセックスならしてみたい」「いろんな相手とセックスしてみたい」「もっとセックスを楽しみたい」「愛がなくてもセックスできる」であった。いずれの項目も3割前後差が開いており、セックスに対する積極性が、女子高校生と金銭を介して交際することをも認める態度に結びついていることが指摘できる。

図4-4-1-2 『援助交際』に対する抵抗感別にみた性に対する意識

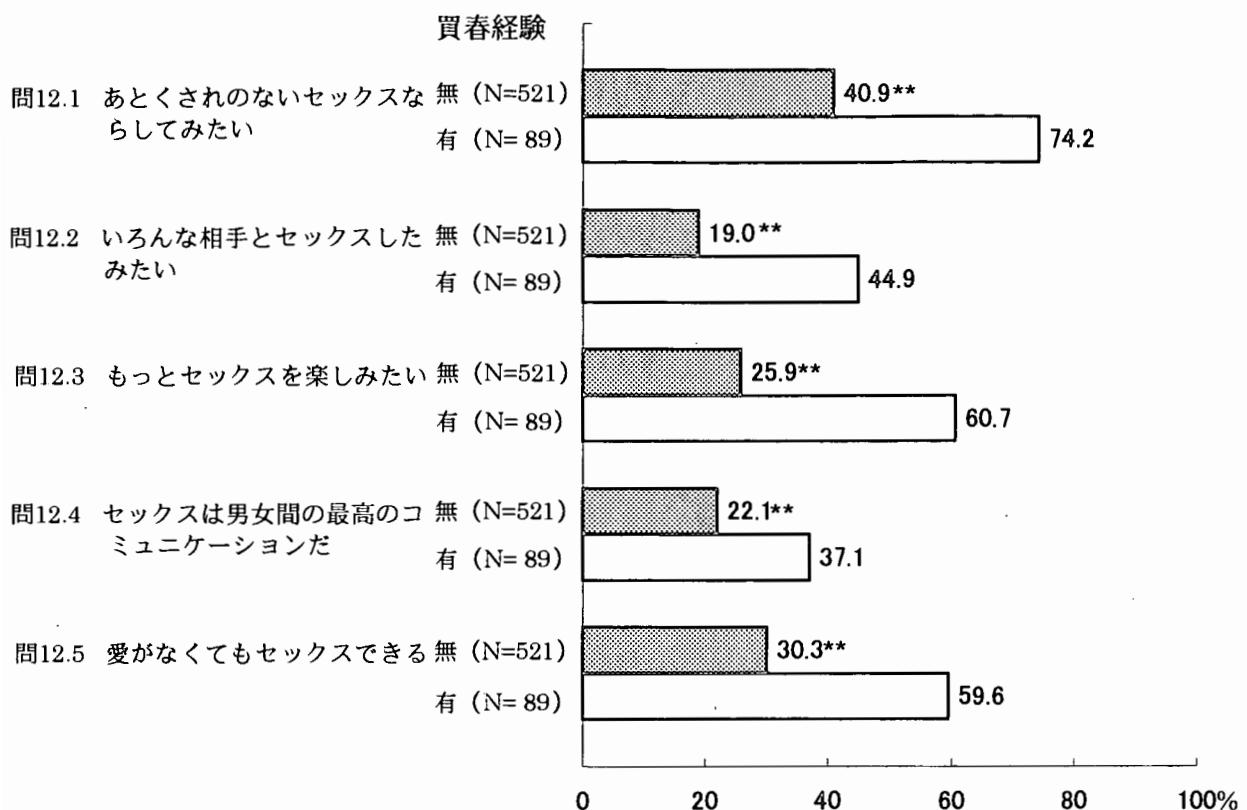


## ④買春経験別にみた性に対する意識

買春経験別にみると、抵抗感別で示された差が同様にみられている（図4-4-1-3）。セックスに対する積極性にかかる項目の全てにおいて、買春経験有群の選択率が有意に高くなっている。買春経験有群では、「あとくされのないセックスならしてみたい」を7割、「もっとセックスを楽しみたい」「愛がなくてもセックスできる」を6割選択しており、いず

れも経験無群を3～4割上回っている。買春をする者としない者との間には、セックスに対する考え方そのものが大きく異なるといえる。

図 4-4-1-3 買春経験別にみた性に対する意識



#### ⑤性への興味・関心尺度作成とその分析

上記の項目について○をつけた場合を2点、つれない場合を1点と得点化し、主成分分析を行ない、 $\alpha$ 係数を高める方向で項目の選定を行なった。その結果、以下の3項目について1次元性 ( $\alpha=.65$ ) が確認された。主成分分析の結果は表 4-4-1-1 に示すとおりである。

表 4-4-1-1 性への興味・関心に関する主成分分析結果 (N=664)

項目内容	負荷量
問 12.1 あとくされのないセックスならしてみたい	.75
問 12.2 いろんな相手とセックスしてみたい	.81
問 12.3 もっとセックスを楽しみたい	.75

---

固有値	1.77
寄与率 (%)	59.12

---

これらの項目はいずれも、セックスへの関心や積極性を示すものである。そこで、これら3項目の得点を単純加算した値を「性への興味・関心」尺度得点として算出した。しかし尺度得点の分布に偏りがみられたため、3点（○がひとつもつかなかった場合）を「性への興味・関心低群」（44% N=294）、4点～6点（○がひとつ以上ついた場合）を「性への興味・関心高群」（56% N=370）と2群に再カテゴリー化した。なお、この再カテゴリーの割合については、年齢層による差はみられない。

この性への興味・関心の高低が、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験によって異なるかを検討した結果、図4-4-1-4および図4-4-1-5に示すようになった。

性への興味・関心の高いものが、『援助交際』に対する抵抗感強群では5割、抵抗感弱群では8割で有意な差がみられている。買春経験別にみると、買春経験無群では性への興味・関心が高いものが5割なのに対し、買春経験有群では9割と大きく差が開いている。性への関心が高く積極的に楽しみたいと思うことが、『援助交際』を容認したり、買春行動そのものをおこすことに結びついていることがわかる。

図4-4-1-4 『援助交際』に対する抵抗感と性への興味・関心尺度

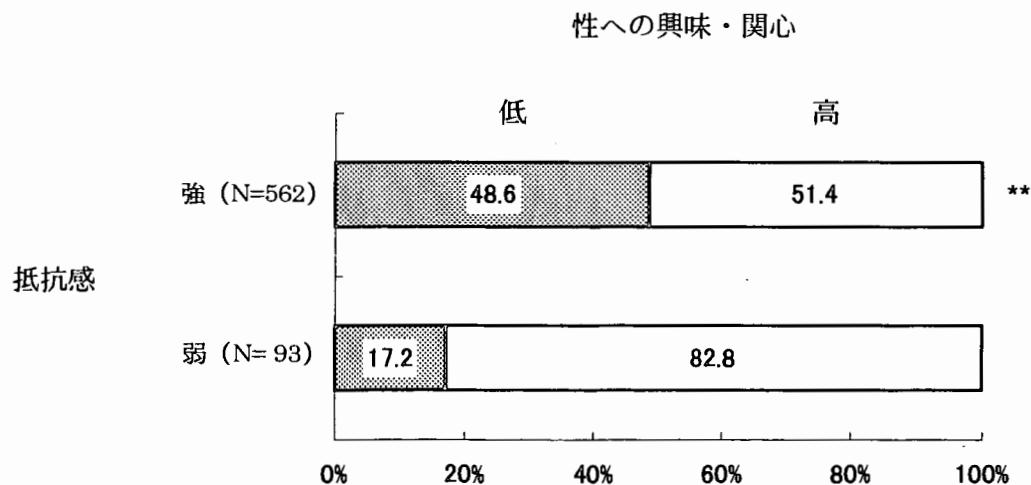
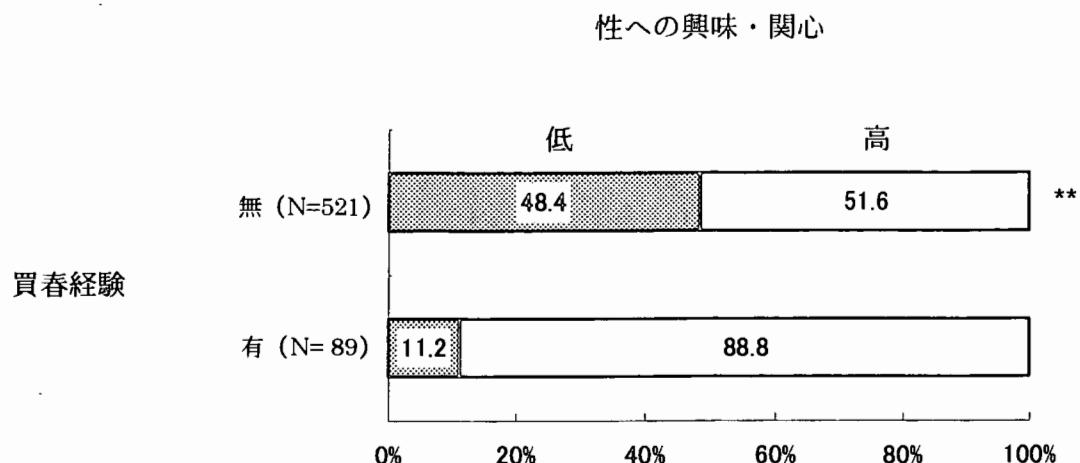


図 4·4·1·5 買春経験と性への興味・関心尺度



## (2)男性の性

男性の性については、「男にとって、下半身と人格は別ものである」「仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである」といった意見が語られることが多い。これらの意見は男性が買春することをよしとしたり、仕方ないこととして容認することへつながるものもある。本調査では、一般社会に多く語られる様々なステレオタイプを取り上げ、それがどの程度男性に賛同され、また『援助交際』や買春経験と結びついているのかを検討する。

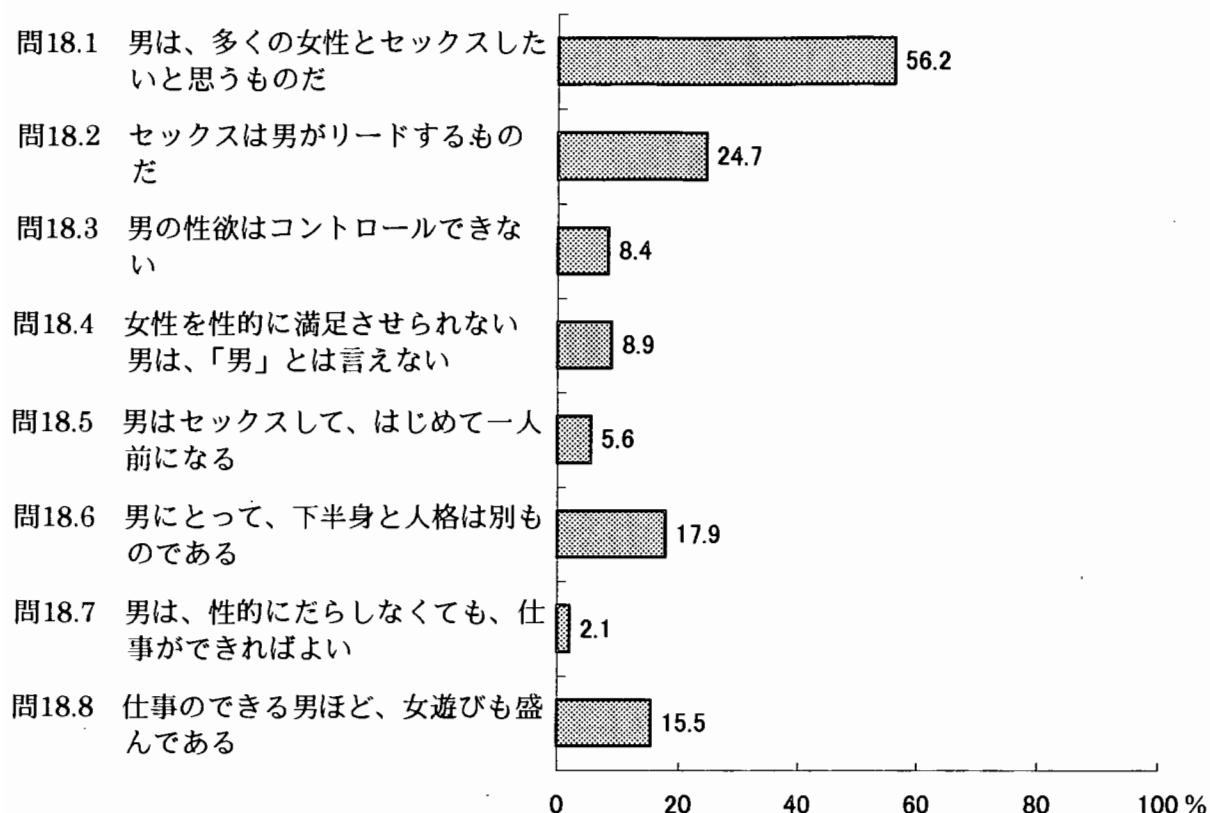
### ①男性の性に対する意識の実態

まず、「男は、多くの女性とセックスしたいと思うものだ」など8項目について、自分の意見に一致するか否か尋ねた。図4·4·1·6(次頁)は一致したものの割合を示したものである。

「男は、多くの女性とセックスしたいと思うものだ」は、半数以上が選択している。男性のセックスについては、多くの回答者が積極性を典型的なものとして位置付けていることがわかる。また、「男にとって、下半身と人格は別ものである」「仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである」「セックスは男がリードするものだ」など、性に対する積極性を男らしさと結びつける傾向も2割前後のものに選択されている。

ただし、「男の性欲はコントロールできない」「男は、性的にだらしなくても、仕事がでなければよい」「女性を性的に満足させられない男は、男とはいえない」など、極端な考えは敬遠されている。

図 4・4・1・6 男性の性に対する意識 (N=664)



## ②年齢層別にみた男性の性に対する意識

年齢層による差がみられたのは、「男の性欲はコントロールできない」「女性を性的に満足させられない男は、男とはいえない」「男はセックスしてはじめて一人前になる」「男にとって、下半身と人格は別ものである」「仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである」であった。

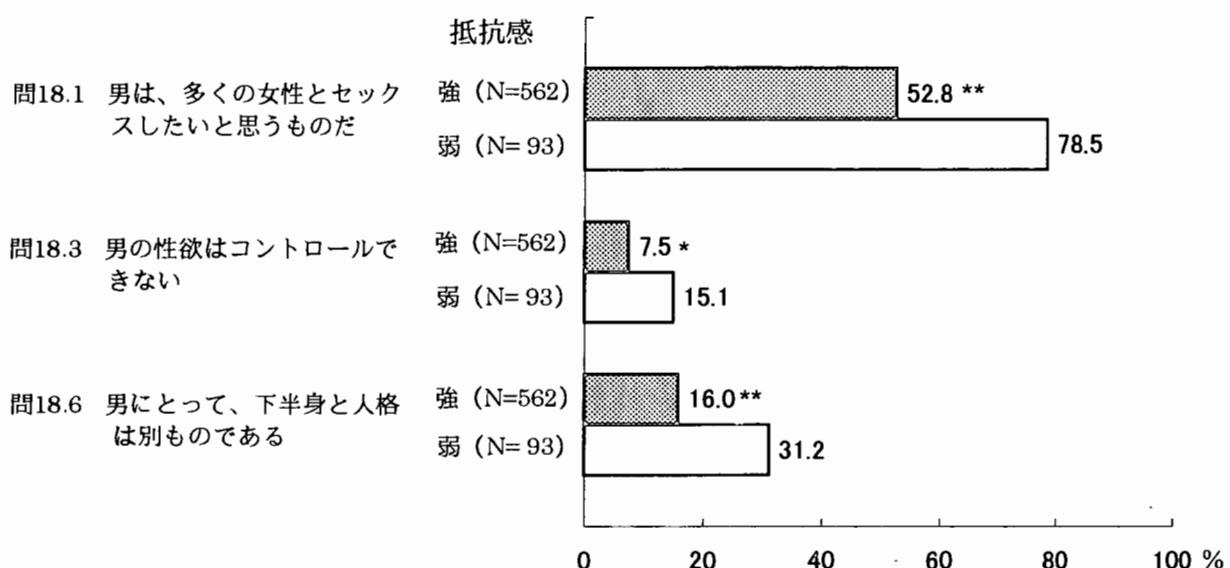
「男の性欲はコントロールできない」については、20 歳代の選択率が高く、30 歳代以降は低い。また「男にとって、下半身と人格は別ものである」は、20 代前半層のみで値が高い。一方、「女性を性的に満足させられない男は、男とはいえない」は 20 代前半層と 50 代後半層が類似して高く、「仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである」については 50 代後半層での選択率が高い。

## ③『援助交際』に対する抵抗感別にみた男性の性に対する意識

『援助交際』に対する抵抗感別に回答に差がみられるか検討した結果(図 4・4・1・7)、大きく差が開いていたのは「男は、多くの女性とセックスしたいと思うものだ」であった。援助交際に抵抗が少ない回答者たちの 8 割近くがこの項目を選択しており、抵抗感強群の 5 割と違いがみられている。その他有意差がみられたのは、「男の性欲はコントロールできない」「男にとって、下半身と人格は別ものである」であり、いずれも抵抗感弱群の選択率

が高い。この点から、セックスへの積極性を男性特有のものとして是認することが、『援助交際』を許容することつながっていると指摘できる。

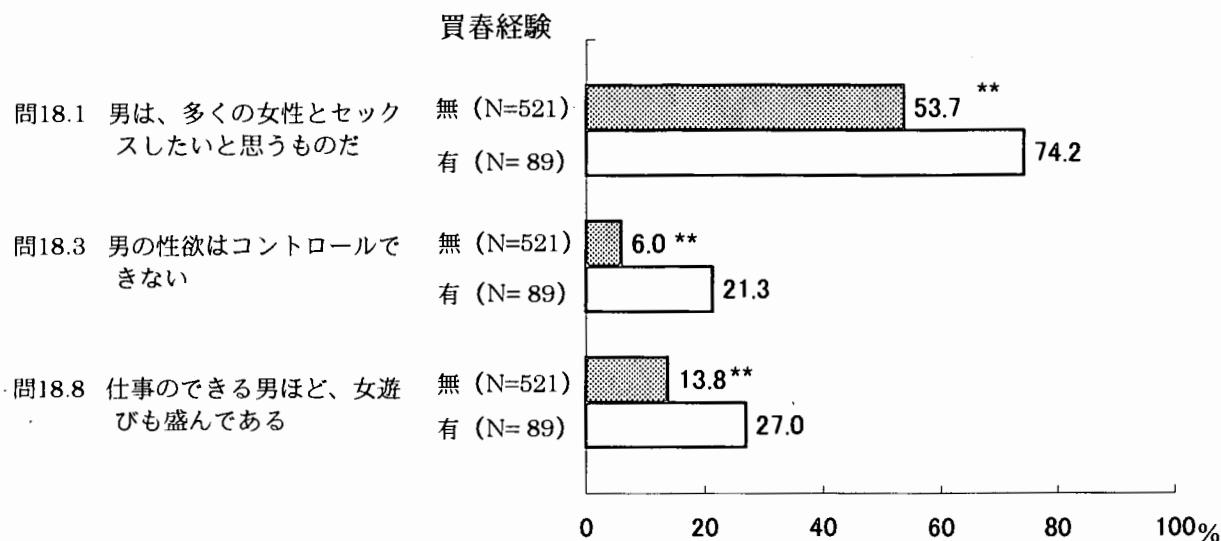
図 4·4·1·7 『援助交際』に対する抵抗感別にみた男性の性に対する意識



#### ④買春経験別にみた男性の性に対する意識

買春経験別に回答をみた結果、図 4·4·1·8 に示すようになった。有意差がみられたのは、「男は多くの女性とセックスしたいものだ」「男の性欲はコントロールできない」「男は性的にだらしなくても仕事ができればよい」「仕事のできる男ほど女遊びも盛んである」で、いずれも買春経験のある者の方が、これらの意見を肯定している。これらの意見は、買春を容認することにつながる一般的なステレオタイプである。社会に普及するこれらのステレオタイプが、買春経験者が自らの行為を正当化させるのに役立っているといえるだろう。

図 4-4-1-8 買春経験別にみた男性の性に対する意識



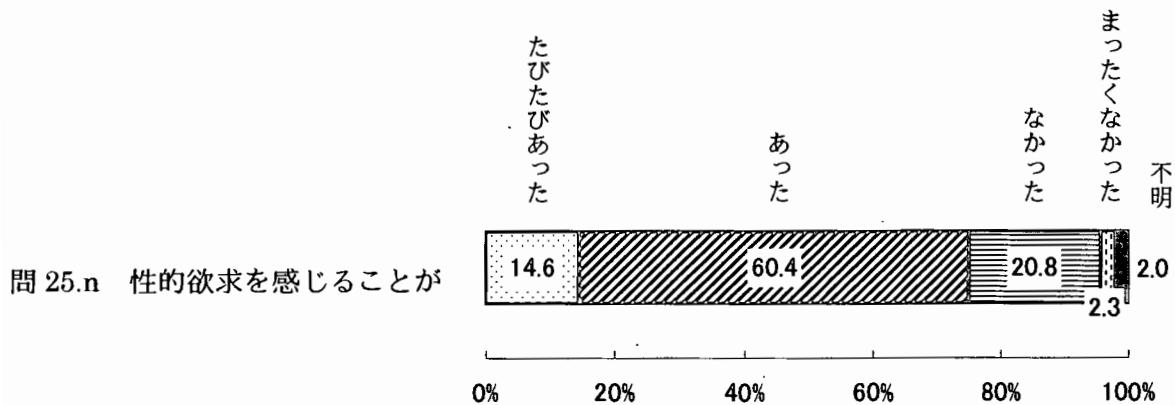
### (3)性欲の強さ

#### ①性欲を感じる程度の実態

ここまででは、性に対する意識を尋ねているが、本人が性欲そのものをどの程度感じているのか否かを直接尋ねることをここで試みた。(精神的)健康状態について尋ねた項目群の中に、「(この2~3週間に)性的欲求を感じることが…」を含め、「たびたびあった」「あった」「なかった」「まったくなかった」の4件法で回答を求めた(図4-4-1-9)。

その結果、「あった」が6割と大半を占め、「なかった」が2割、「たびたびあった」が1割強と続いている。「たびたびあった」「あった」と回答したものを併せて肯定層とすると8割近くとなり、多くのものが日常的に性欲を感じていることが示されている。

図 4-4-1-9 性欲の強さ (N=664)



## ②年齢層別にみた性欲の強さ

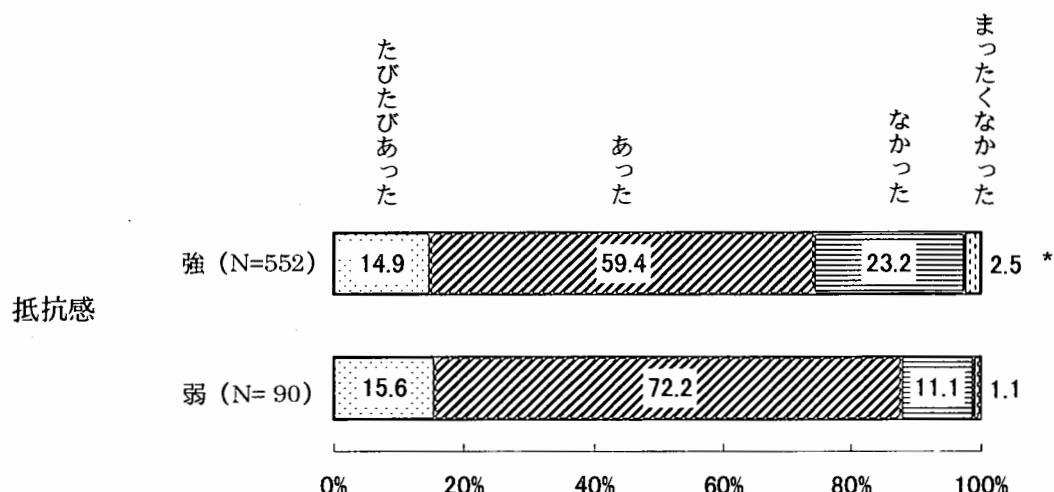
性欲は、年齢によって変化している。性欲を感じるとした肯定層は20代前半層で9割、20代後半層～40代前半層で8割、40代後半層～50代後半層で7割前後である。年齢とともに性欲が低下する傾向がみられるものの、50代後半においても多くの回答者が性欲を感じていることがわかる。パルモア（1995）は、性的欲求や性行動の低下をエイジズムにかかる否定的ステレオタイプのひとつとして指摘している。本調査の結果はこの指摘を確認するもので、多くの男性が中年期以降も性欲を感じていることは性的欲求や性行動の問題が若年層に限定されないことを示すものである。

## ③『援助交際』に対する抵抗感別にみた性欲の強さ

『援助交際』に対する抵抗感別に回答に差がみられるか検討した結果、有意な差がみられている（図4-4-1-10）。両群とも「あった」が最も高いが、その割合が抵抗感弱群では7割と高くなっている。

また、「たびたびあった」と「あった」を併せた肯定層は、抵抗感弱群の8割が肯定層で、抵抗感強群の7割と1割の差が開いている。

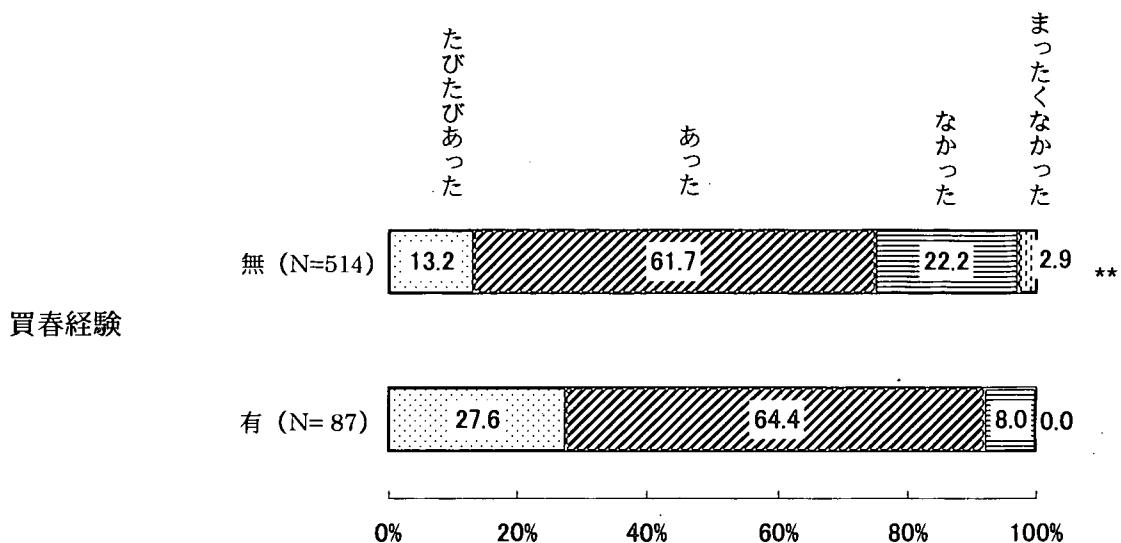
図4-4-1-10 『援助交際』に対する抵抗感別にみた性欲の強さ



## ④買春経験別にみた性欲の強さ

また買春経験別に見ても、性欲の強さには有意差がみられた（図4-4-1-11；次頁）。買春経験有群では「たびたびあった」が3割弱多いのに対し、買春経験無群では逆に「なかつた」が2割と多くなっている。また「たびたびあった」と「あった」を併せた肯定層は、買春経験有群で9割に達し、経験無群を2割近く上回っている。買春をする・しないを左右する背景には、価値観や意識だけでなく、当事者の性欲の強さも影響しているといえる。

図 4-4-1-11 買春経験別に見た性欲の強さ



#### (4)性をめぐる意識のまとめ

ここでは、性をめぐる意識として、性に対する意識（積極性）・男性の性に対する意識・性欲の強さの3点を検討した。

性に対する意識については、「あとくされのないセックスならしてみたい」「愛がなくてもセックスできる」「いろんな相手とセックスしてみたい」といったフリーセックスを肯定し、性に対して関心と興味を示す意見が4～2割選択された。これらの項目を使用して「性への興味・関心」尺度を作成したところ、『援助交際』に対する抵抗感が弱いものや買春経験者で、この「性への興味・関心」の高いものが多かった。

男性の性については、「男は、多くの女性とセックスしたいと思うものだ」が6割弱、「仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである」が2割弱の選択率を示すなど、性に対する積極性が男らしさと結びつけて考えられる傾向が示された。特に『援助交際』に対して抵抗感の弱いものや買春経験者はその傾向が強い。買春経験者は他に、「男の性欲はコントロールできない」「男は性的にだらしなくても仕事ができればよい」などの意見を選択しやすく、これらの意見は買春経験者が自らの行為を正当化させるのに役立っていると考えられる。

最後に性欲についてである。ここ2～3週間の間に性的欲求を感じたことがあるとしたものは、20代前半層で9割、20代後半層～40代前半層で8割、40代後半層～50代後半層で7割弱であった。年齢とともに性欲が低下する傾向がみられるものの、50代後半においても多くの回答者が性欲を感じている。また買春経験者はこの割合が高く、買春行動の生起には性欲が関連していることが確認された。また、『援助交際』に対して抵抗感の弱いものも性欲を感じる割合が高く、この欲求が女子高校生と金銭を介して性交することを許容することにもつながるようだ。

## 2. 女性に対するイメージ

『援助交際』や買春の問題点のひとつは、女性の性が商品として扱われることにある。女性をひとりの人間としてではなく、「女」というカテゴリーに含まれる大勢として均一化

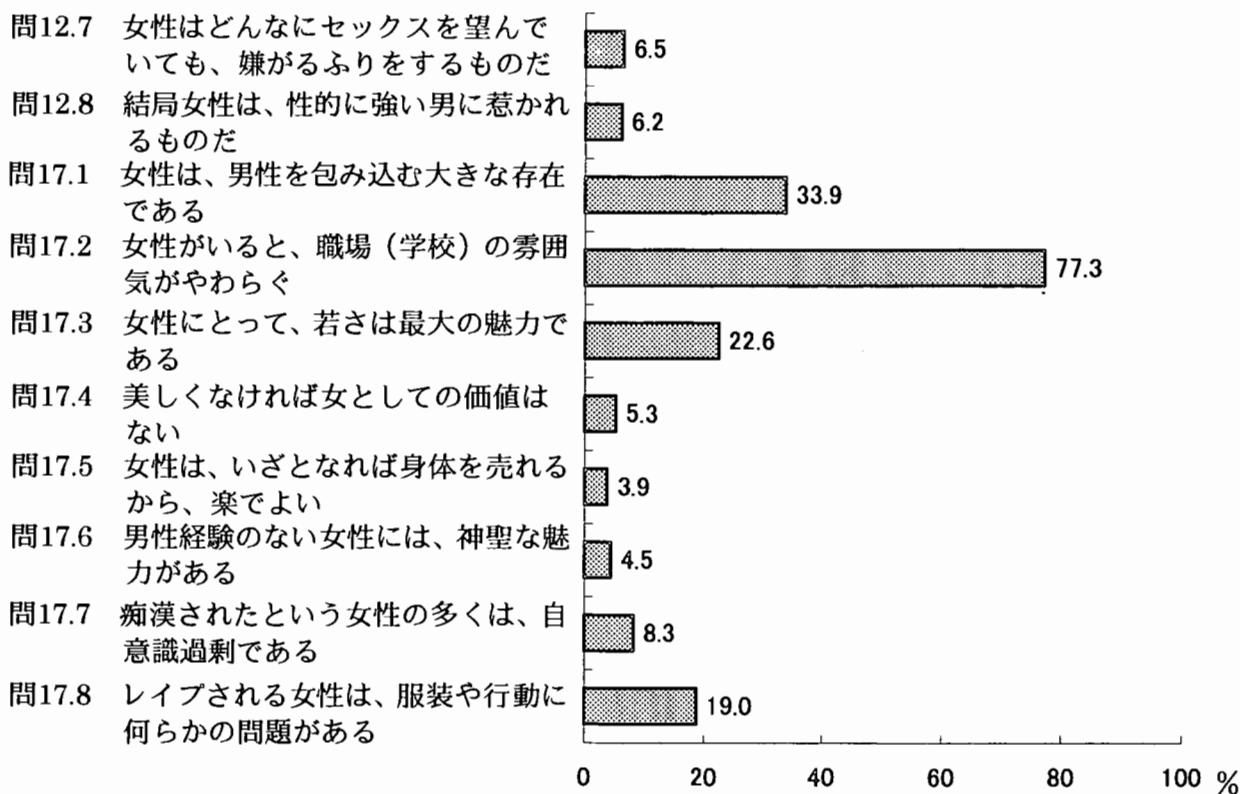
しステレオタイプ的に捉えることは、女性を非人格化し商品としてみなす視点につながっていく。そこで本調査では、女性に対する様々なステレオタイプについて男性がどのように考えているのか、またそれが買春や『援助交際』に対する抵抗感とどのように結びついているのかを検討する。

#### (1)女性に対するイメージの実態

女性に対する様々な意見を挙げ、あてはまるものに○をつけることを求めた(図 4-4-2-1)。ここでは、女性に対する肯定的な意識の他に、ステレオタイプ・偏見的な項目が含まれており、それらがどの程度肯定されるかを明らかにすることを目的としている。

女性に対する2つの肯定的意識項目についてみると、「女性がいると職場の雰囲気がやわらぐ」が8割、「女性は、男性を包み込む大きな存在である」も3割と、他項目に比べて選択率が高くなっている。その他の項目が女性に対するステレオタイプや偏見にかかわるものだが、この中では「女性にとって、若さは最大の魅力である」の選択率が2割と高い。痴漢・レイプにおいて女性の責任を指摘する項目を選択するものも1~2割程度みられる。しかし、女性の性傾向に対するステレオタイプに関連する、「女性はどんなにセックスを望んでいても、嫌がるふりをするものだ」「結局女性は、性的に強い男に惹かれるものだ」を肯定したものは、いずれも1割未満にとどまっている

図 4-4-2-1 女性に対するイメージ (N=664)



## (2) 年齢層別にみた女性に対するイメージ

年齢層別の回答差をみると、「女性にとって若さは最大の魅力である」「女性はいざとなれば身体を売れるから楽でよい」「男性経験のない女性には神聖な魅力がある」「痴漢されたという女性の多くは自意識過剰である」「レイプされる女性は服装や行動に問題がある」に有意差がみられている。

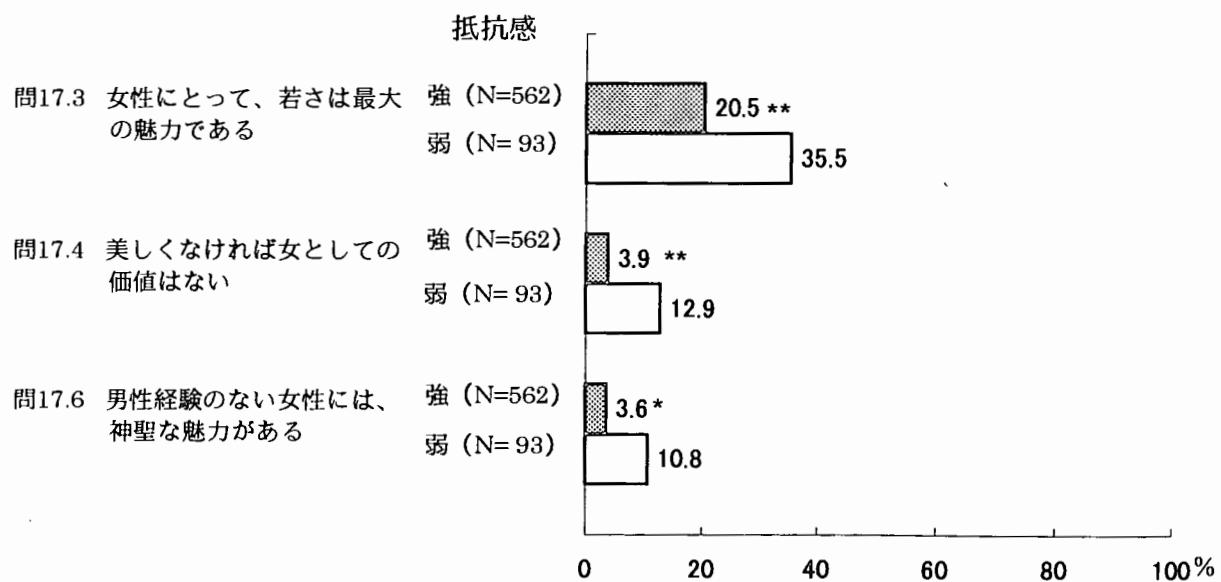
ただし、年齢による差の現れ方には項目によって違いがある。「女性はいざとなれば身体を売れるから楽でよい」「男性経験のない女性には神聖な魅力がある」については、20代前半層の選択率が2割で、他層よりも1割以上高くなっている。また「痴漢されたという女性の多くは自意識過剰」については、20歳代が他層よりも選択率が高い。

一方、「女性にとって若さは最大の魅力である」「レイプされる女性は服装や行動に問題がある」については、50代後半層の選択率が最も高い。

## (3)『援助交際』に対する抵抗感別にみた女性に対するイメージ

女性に対するイメージ項目の中で有意差がみられたのは、図4-4-2-2に示す3項目である。いずれも抵抗感弱群でステレオタイプや偏見にかかわる項目の選択率が高くなっている。特に、「女性にとって、若さは最大の魅力である」では、『援助交際』に対して抵抗感の弱いものは4割弱がこれを選択しており、抵抗感の強いものとの間の差が開いている。その他の2項目と併せ、これらは女性を商品として価値づけることに強く結びついた項目である。

図4-4-2-2 『援助交際』に対する抵抗感別にみた女性に対するイメージ

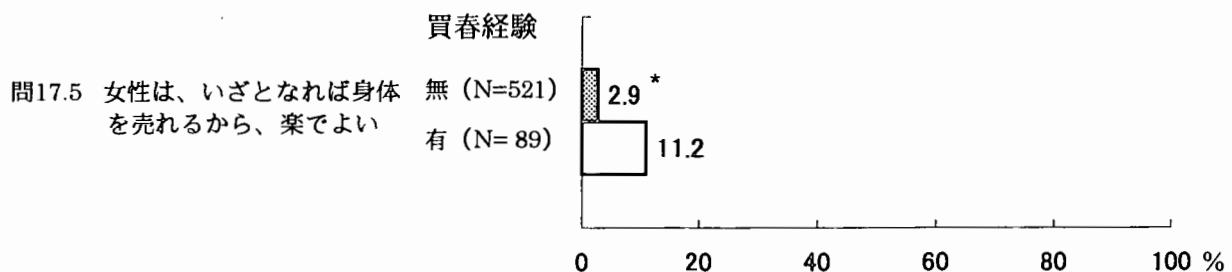


## (4)買春経験別にみた女性に対するイメージ

買春経験別の回答差はほとんどみられず(図4-4-2-3)、買春経験者において、女性に対

するステレオタイプが高いとは必ずしもいえない。唯一、「女性はいざとなれば身体を売れるから楽でよい」で買春経験のあるものがないものよりも多くなっている。買春相手との接触が、女性一般に対する態度となって現れているのだろうか。

図 4-4-2-3 買春経験別にみた女性に対するイメージ



#### (5)女性に対するイメージのまとめ

ここでは、女性に対する様々なステレオタイプが、どの程度肯定されているのかを検討した。

「女性がいると職場の雰囲気がやわらぐ」が8割と高い選択率を示している。他には、目立って高い項目はみられないが、「女性にとって、若さは最大の魅力である」「レイプされる女性は、服装や行動に何らかの問題がある」が2割前後みられる。

『援助交際』に対する抵抗感の弱いものでは、ステレオタイプや偏見にかかる項目の選択率が高くなっている。特に、「女性にとって、若さは最大の魅力である」が4割弱あり、抵抗感の強いものとの間の差が大きい。女性をステレオタイプ視したり、偏見に基づいて捉えるという態度が『援助交際』を認める心理的背景のひとつだと指摘できるだろう。一方、買春経験別にみると、「身体を売れるから楽でよい」で差が見られた。買春行動の合理化に作用していると考えられる。

### 3. 女子高校生に対する意識

福富ら（1998）が女子高校生におこなった調査では、「女子高校生というだけで特別の魅力がある」「女子高校生とつきあいたいと考えている男性はたくさんいる」と考えているものが2～3割みられた。福富らはこれを、“女子高校生ブランド意識”と名づけ、『援助交際』に対して抵抗感が弱かったり、実際に『援助交際』を経験した者に、この意識が高いことを明らかにしている。

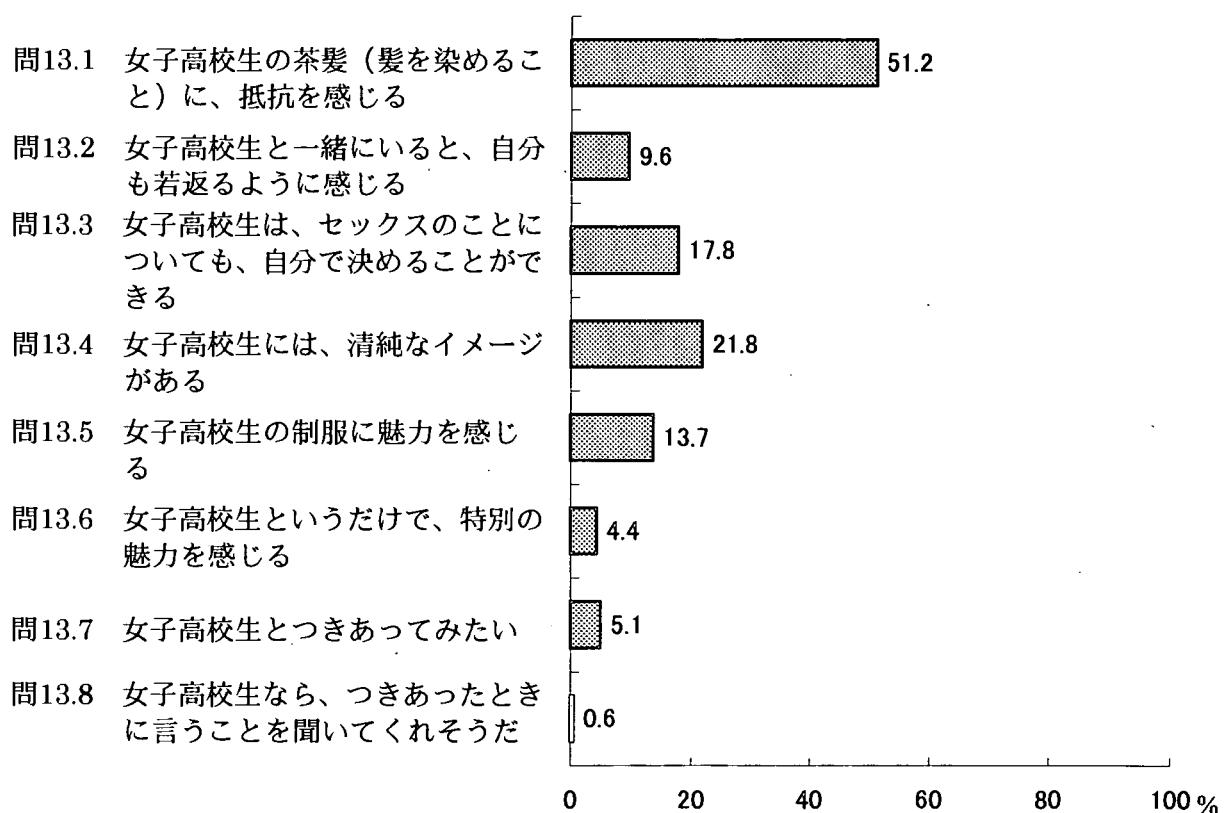
それでは逆に成年男性の中に、彼女たちが思うような“女子高校生ブランド意識”が存在しているのだろうか。本調査では、成人男性が女子高校生にどの程度特別な魅力を感じているのか、感じているとすれば、その意識が『援助交際』や買春と結びついているのかを検討した。

#### (1)女子高校生に対する意識の実態

女子高校生に対する様々な意見について、自分の考え方としてあてはまるものに○をつけ

てもらう形で回答を求めた(図4-4-3-1)。「女子高校生の茶髪に抵抗を感じる」は5割以上と他を抜いて高くなっている。その他では「女子高校生には、清純なイメージがある」「女子高校生は、セックスのことについても、自分で決めることができる」が2割前後で続いている。「女子高校生とつきあってみたい」といった、彼女たちを性の対象として捉える意識は全体としては少数である

図4-4-3-1 女子高校生に対する意識(N=664)



## (2)年齢層別にみた女子高校生に対する意識

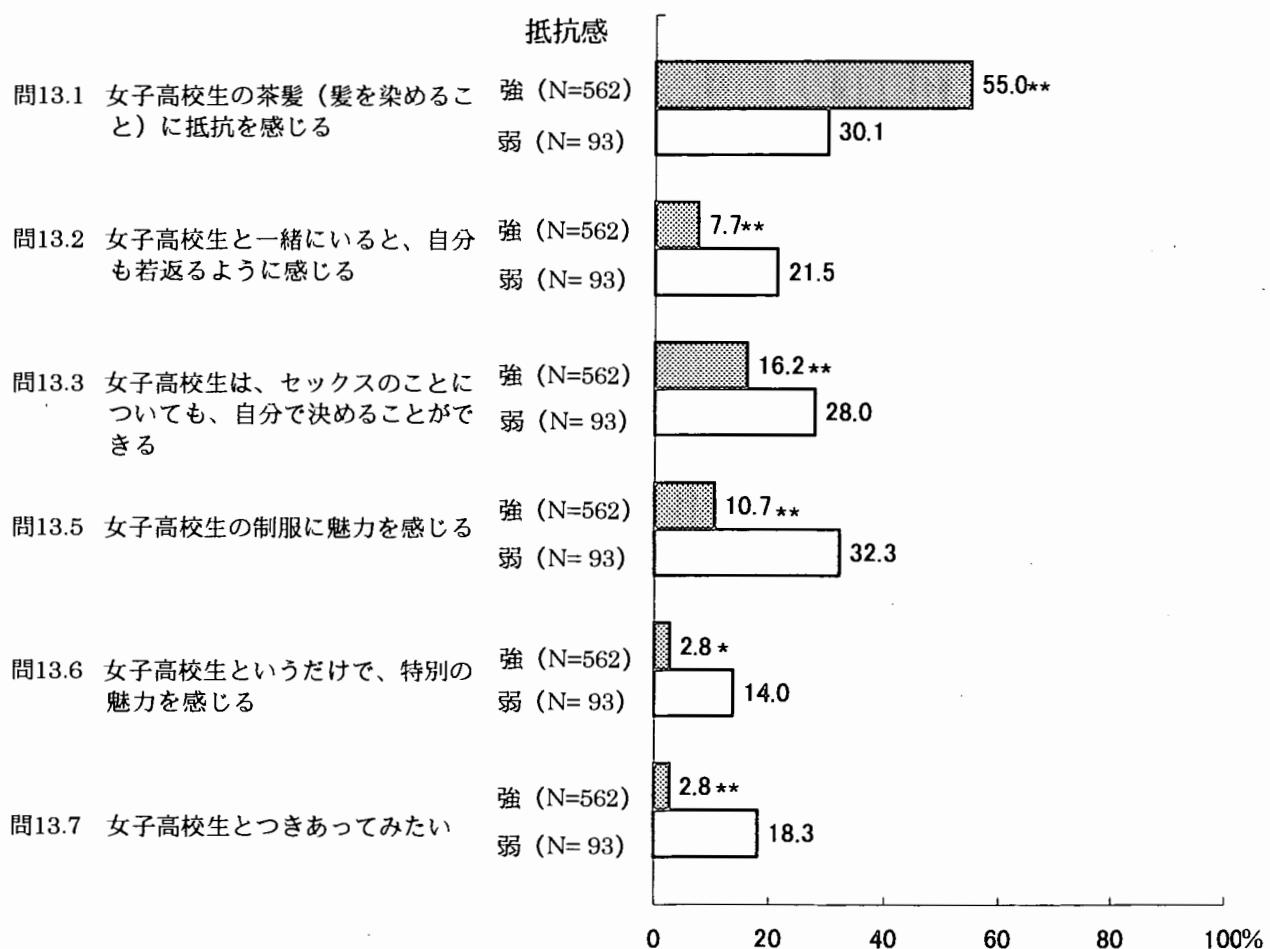
ほとんどの項目が選択率に有意な年齢層差を示している。最も顕著な差が示されているのは「茶髪に抵抗を感じる」で、20代前半層は1割未満と非常に少ないのでに対し、20代後半層になると4割と大きく上昇し、以下50代後半層の7割に至るまで漸次増加している。「清純なイメージ」についても、年齢とともに上昇していく傾向にある。一方、「制服に魅力」「特別な魅力」「つきあってみたい」は20代前半層のみで2~3割と高い。「セックスも自分で決められる」は、50歳代のみで選択率が1割以下と低く、それ以外の年代では2~3割程度の選択率を示している。20代前半層は、女子高校生に比較的年が近いため、彼女たちのファッショについて受容的であると同時に、交際相手として性的魅力を感じている様子がわかる。20代後半層になると女子高校生とは心理的距離が開いていき、性対

象としてみなすものは少数になっていく。

### (3)『援助交際』に対する抵抗感別にみた女子高校生に対する意識

『援助交際』に対する抵抗感別でみると、ほとんどの項目で抵抗感弱群の方が高い選択率を示している。有意差がみられたのは図4-4-3-2に示す項目であり、いずれも『援助交際』に対して抵抗感が弱いものの方が2割前後、選択率が高くなっている。これらの項目は女子高校生を性の対象として位置付けるとともに、その責任を彼女たち自身におこうとする態度を示すもので、このような価値観が『援助交際』を容認する態度に結びついているといえる。一方、抵抗感強群の方で選択率が有意に高かった項目は「茶髪に抵抗を感じる」であり、2割以上差が開いている。

図4-4-3-2 『援助交際』に対する抵抗感別にみた女子高校生に対する意識

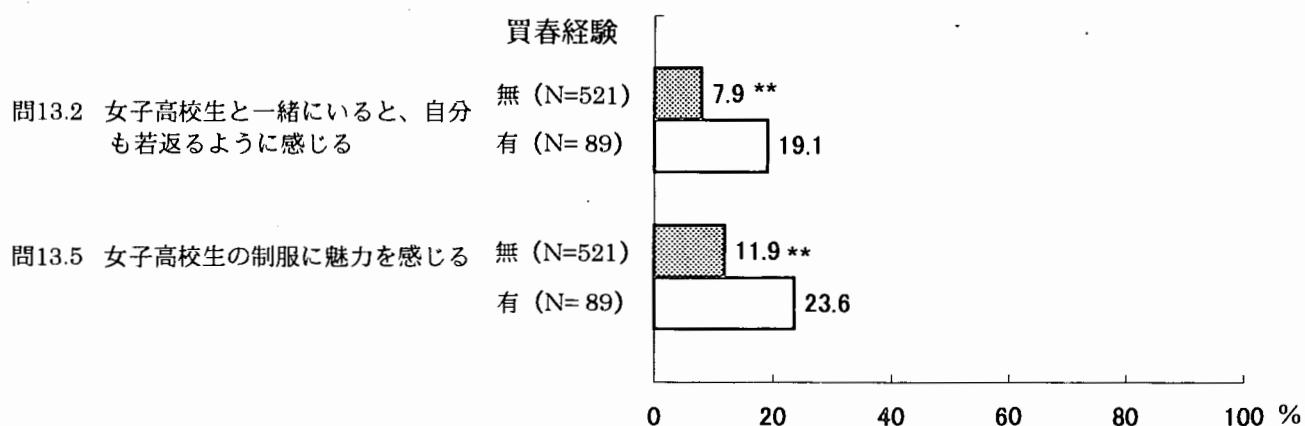


### (4)買春経験別にみた女子高校生に対する意識

買春経験別にみると、買春経験有群の方で、「一緒にいると自分も若返る」「制服に魅力

を感じる」が1割程度多い(図4-4-3-3)。

図4-4-3-3 買春経験別にみた女子高校生に対する意識



#### (5)女子高校生性的魅力尺度作成とその分析

女子高校生に関する8項目について、○をつけた場合を2点、つけない場合を1点として得点化した。そして主成分分析を繰り返しながら、 $\alpha$ 係数を高めるように項目の選定を行なったところ表4-4-3-1に示す項目が残された。5項目の $\alpha$ 係数は、.56である。

そこでこの5項目を、女子高校生を性的対象としてみなし魅力を感じる程度を測定する尺度項目とし、各項目の得点を単純加算する形で尺度得点を算出した。しかし得点分布に偏りがみられたため、得点が5点のものを「性的魅力低群」(78% N=515)、6点以上を「性的魅力高群」(22% N=149)と再カテゴリー化した。

年齢層別にこのカテゴリー群を比較すると、20代前半層では47%とほぼ半数が性的魅力高群に含まれて目立って高い。しかし20代後半層になると32%に低下し、30歳代以降は2~3割台にとどまっている。単項目について年齢層別に検討した結果と同様、女子高校生に性的魅力を感じる程度は20代前半層が特に高いことが確認できる。

表4-4-3-1 女子高校生性的魅力に関する主成分分析結果 (N=664)

項目内容	負荷量
問13.2 女子高校生と一緒にいると、自分も若返るように感じる	.51
問13.5 女子高校生の制服に魅力を感じる	.63
問13.6 女子高校生というだけで、特別の魅力を感じる	.72
問13.7 女子高校生とつきあってみたい	.75
問13.8 女子高校生なら、つきあったときに言うことを聞いてくれそうだ	.47

固有値	1.96
寄与率(%)	39.17

『援助交際』に対する抵抗感・買春経験によって、「女子高校生性的魅力」の高低に差がみられるかを調べた（図4·4·3·4、図4·4·3·5）。

『援助交際』に対して抵抗感の弱いものでは、性的魅力高群が半数以上ある。反対に、『援助交際』に対して抵抗感の強いものは性的魅力高群が2割弱と少ない。女子高校生に性的魅力を感じているからこそ、『援助交際』をすることそのものに抵抗がないのであろう。

また、買春経験無群で性的魅力高群は2割程度であるが、買春経験有群ではそれが4割と多くなっている。買春行動の背景には、若い女性を性的対象としてみなしやすい心理傾向が関連していることが指摘できる。

図4·4·3·4 『援助交際』に対する抵抗感と女子高校生性的魅力尺度

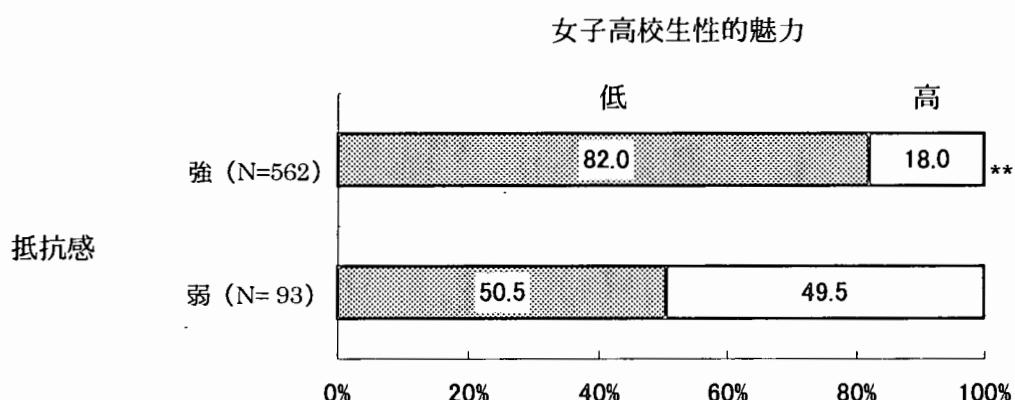
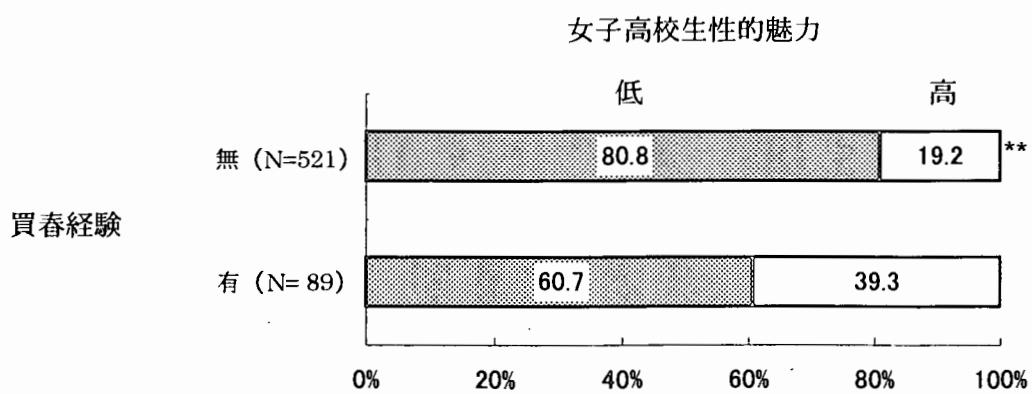


図4·4·3·5 買春経験と女子高校生性的魅力尺度



#### (6)女子高校生に対する意識のまとめ

福富ら（1998）では、女子高校生が「自分たちには特別の魅力がある」「女子高校生と付き合いたい男性がたくさんいる」など“女子高校生ブランド意識”を持っていることが指摘されている。このため、本調査では成人男性側が彼女たちにどの程度魅力を感じているのかを測定した。

その結果、「女子高校生とつきあってみたい」といった、彼女たちを性の対象として捉える意識は全体としては少数であることが明らかとなった。むしろ茶髪に抵抗を感じるものが、5割以上と多くなっている。

その中にあって『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、「制服に魅力を感じる」「セックスも自分で決められる」「一緒にいると自分も若返る」などほとんどの項目で、抵抗感の強いものより高い選択率を示しており、彼女たちを性的対象として見なしている様子が示されている。買春経験者も同様の項目で選択率が高いことから、若い女性に性的魅力を感じる傾向が買春行動にも結びついているといえる。『援助交際』をしたことのある女子高校生は、“女子高校生ブランド意識”が高かった（福富ら，1998）。全体としてみるとブランド意識を抱く男性は少ないわけであるが、買春や『援助交際』を望むものは確かにこの意識を持っている。ある意味で、彼女たちは買春する男性たちの考え方を正確にとらえているといえる。

なお女子高校生に魅力を感じる程度は20代前半層で高く、20代後半になるとそれが低下する。20代前半層は彼女たちのファッショ（茶髪）についても受容的で、比較的年が近いため身近な交際相手として性的魅力を感じやすいのだろう。

### 4. 男性性希求

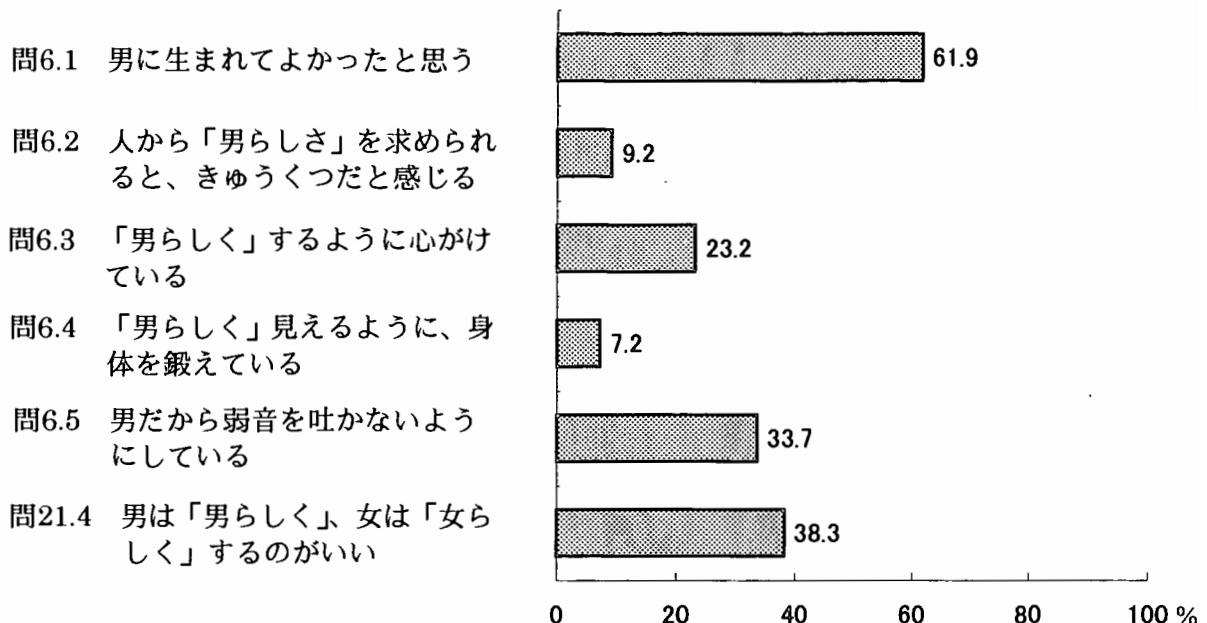
性的積極性が男らしさの象徴としてイメージされやすいことは前述したが、それでは男らしさへの強いこだわりを持つものは、『援助交際』や買春に積極的な姿勢を示すのだろうか。この点を確認するために、「男にうまれてよかったと思う」「『男らしく』するように心がけている」など、男らしさにこだわっているか否かを尋ねる項目を男性性希求項目として提示し、買春経験等と併せて分析を行なった。

#### (1) 男性性希求の実態

図4-4-4-1（次頁）は「『男らしく』するように心がけている」など、男性性希求項目の選択率である。

「男にうまれてよかったと思う」は6割で、半数以上が男性としての生き方を肯定している。また、「男は男らしく・女は女らしく」については4割が肯定している。しかし「男らしくするように心がけている」「男だから弱音をはかないようにしている」など、男らしさへのこだわりを強く意識するものは2～3割である。男性らしさは肯定されているが、男らしさに固辞するものは多數派ではない。

図 4-4-4-1 男性性希求 (N=664)



## (2)年齢層別にみた男性性希求

「男は男らしく・女は女らしく」の選択率は、年齢層によって差がみられている。20代前半層では3割弱、20代後半層～40代前半層および50代前半層で3割、40代後半層が5割弱、そして50代後半層が6割弱である。おおまかには、20代前半層で選択率が低く、50代後半層で高い形になっている。男らしさ・女らしさといった性役割的意識は、若年層ほど低くなっているといえる。

その他では、「男らしくみえるように身体を鍛えている」のみで有意差がみられた。これは、20代前半層が2割、20代後半層が1割であるのに対し、他層ではいずれも1割に満たないことによる。これは、身体を鍛えることそのものが歳を経るに従い少なくなる事が関連していると思われる。ただし、20代前半層でみられた、性役割意識が弱い一方で肉体的な男らしさにこだわるという回答傾向は、この層が示す思想と肉体のこだわり方に違いがある可能性を示唆する。ただしこの点は推測に過ぎないため、さらに検討が望まれる。

## (3)『援助交際』に対する抵抗感別・買春経験別にみた男性性希求

『援助交際』に対する抵抗感や買春経験別に、男性希求項目に有意な差はみられなかつた。

## (4)男性性希求のまとめ

本調査では、男らしさへのこだわり（男性性希求）が、『援助交際』や買春行為に結びつくとの流れを想定していた。

「男に生まれてよかったと思う」「男は男らしく・女は女らしく」の選択率の高さから、男らしさが肯定的に捉えられていることが示された。ただし「男らしくするように心がけ

ている」「男だから弱音をはかないよにしている」など、強い男性性希求を示すものは2～3割程度である。

これらの男性性希求を『援助交際』に対する抵抗感や、買春経験と併せて検討したが、有意な差はみられなかった。この結果からは、少なくとも直接的な形では男らしさが買春に影響を及ぼすわけではないことが示唆された。ただし、この男性性希求が性への関心など他の要因を介して実際の行為や意識に結びつく可能性があり、さらなる分析が必要と考えられる。

## 5. 人権意識・偏見

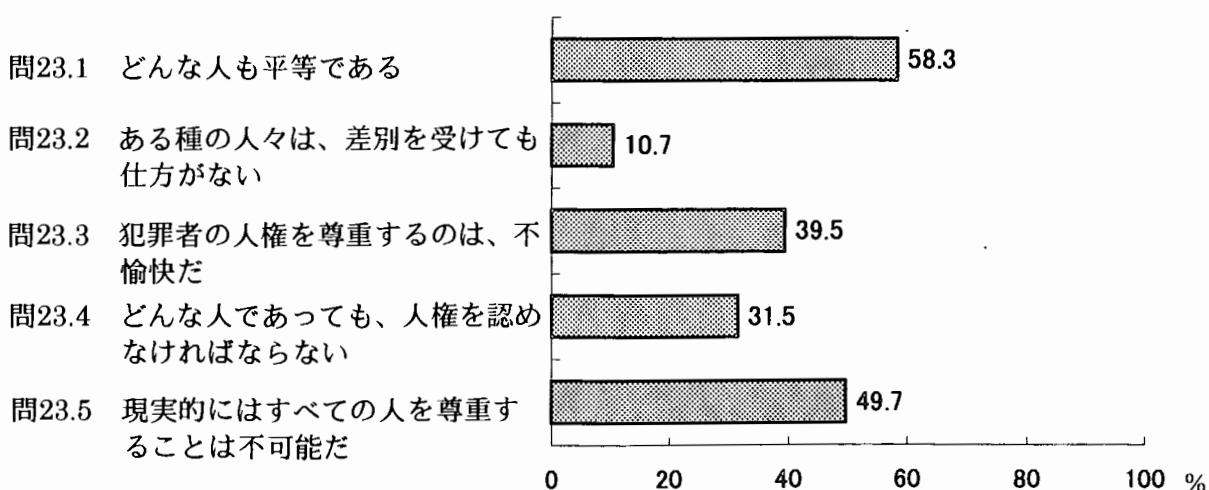
福富ら（1998）では、買春が女性の地位を低め人権を侵害しているとの認識が、『援助交際』を抑制する要因と成りうることを示唆している。そこでは女性という対象にのみ限定して人権が論考されているが、人権意識は女性に対するものだけが独立して成立しているとは考えにくい。むしろ、障害者や外国人など少数派である人々に対しても、差別意識をもたず平等に接することができる姿勢全体が、女性の人権を重視することにもつながるといえるだろう。言いかえれば、広く社会の人権を重視し、反差別的な態度をもつことが『援助交際』や買春を抑制することに結びつくと考えられる。そこで本調査では、人権意識や差別意識を尋ねる項目群を設定し、それらの回答傾向と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を分析する。

### (1) 人権意識

#### ① 人権意識の実態

まず人権意識に関する項目である。「どんな人も平等である」「ある種の人々は、差別を受けても仕方ない」など、人権に関する5つの意見に対して、あてはまるもの全てに○をつけるよう求めた。その結果、図4-4-5-1に示す形になった。

図4-4-5-1 人権意識 (N=664)



「どんな人も平等である」が6割近い一方、「ある種の人々は、差別を受けても仕方がない」が1割程度と、平等意識・人権重視は広く普及した社会的価値だと再認識できる。しかししながら、「犯罪者の人権を尊重するのは、不愉快だ」「どんな人であっても、人権を認めなければならない」など、無条件の人権保護には批判的態度を示すものも4～5割に達している。その結果が「現実的には全ての人を尊重することは不可能だ」が半数に達することにつながっているのだろう。多くの人々が認める人権は、条件つきのものといえそうだ。

## ②年齢層別にみた人権意識

年齢層別にみると、「現実的には全ての人を尊重することは不可能だ」で年齢による差がみられている。20代前半層が、7割と高い選択率を示しているが、その他の年代では5割前後にとどまっている。

## ③『援助交際』に対する抵抗感別・買春経験別にみた人権意識

『援助交際』に対する抵抗感別の有意差はみられなかった。ただし、「どんな人でも人権を認めなければならない」（抵抗感強群、33%；抵抗感弱群、24%）において、差のある傾向がみられた。援助交際で抵抗をもつ人の方が、人権を重視する傾向がやや強いと指摘できる。買春経験別の有意な差はみられなかった。

## ④人権意識尺度作成とその分析

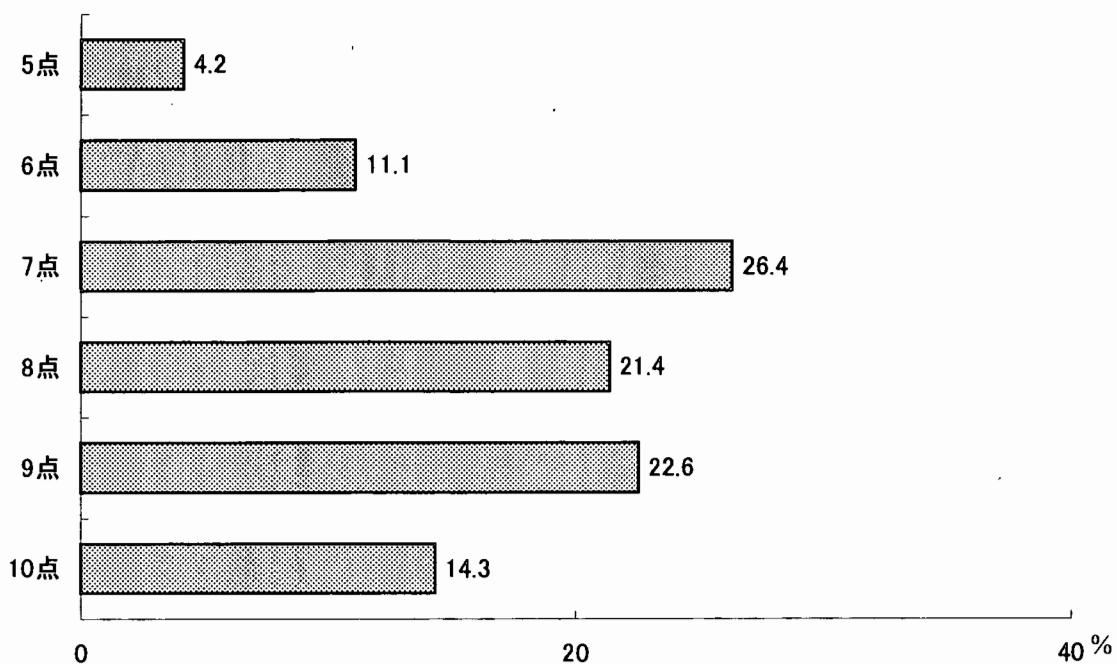
この5項目について、○をつけた場合を2点、つけない場合を1点として得点化し、主成分分析を行なった。その結果、表4-4-5-1に示す形となり、項目の1次元性が確認された。この際負荷量の方向が正と負の両方が含まれていたため、問23.2、問23.3、問23.5は逆転項目として○をつけない場合を2点と得点化し、単純加算した値を「人権意識」尺度得点とした。得点が高いほど、人権を守ろうとする意識が高いことを示している。この5項目の $\alpha$ 係数は、.56であった。

表4-4-5-1 人権意識目に関する主成分分析結果 (N=664)

項目内容	負荷量
問23.1 どんな人も平等である	.66
問23.2 ある種の人々は、差別をうけても仕方がない	.54
問23.3 犯罪者の人権を尊重するのは、不愉快だ	.59
問23.4 どんな人であっても、人権を認めなければならない	.63
問23.5 現実的にはすべての人を尊重するのは不可能だ	.59
固有値	1.81
寄与率(%)	36.27

人権意識尺度得点の分布を図 4-4-5-2 に示す。なお、人権意識尺度の平均値は 7.90、SD は 1.37 である。なおこの尺度得点に、年齢層別の有意差はみられなかった。

図 4-4-5-2 人権意識得点の分布 (N=664)



さらに、この尺度得点が、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験によって異なるかを検討した（図 4-4-5-3、図 4-4-5-4）。その結果、抵抗感強群の方が弱群よりも、人権意識得点が有意に高かった。一方、買春経験有無による人権意識の差はみられなかった。

図 4-4-5-3 『援助交際』に対する抵抗感と人権意識尺度

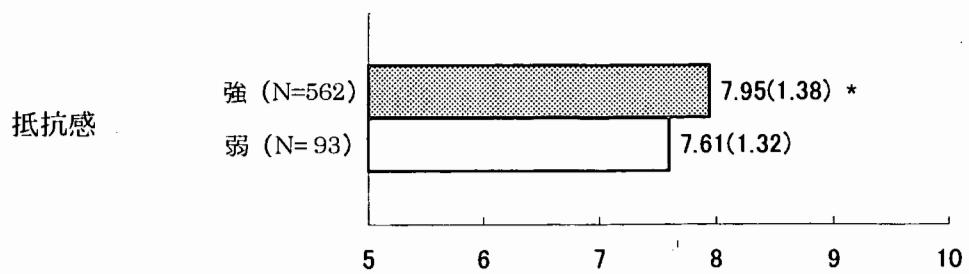
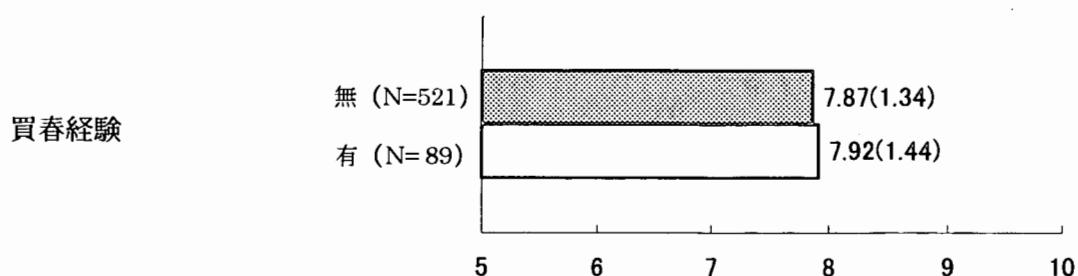


図 4・4・5・4 買春経験と人権意識尺度



## (2)偏見

本調査では偏見測定項目として、「人種によって、頭の善し悪しは違うと思う」や「障害があつても、設備さえ整えば、働くことに支障はない」(逆転項目)など9項目を設定した。このうち「人の性格は血液型によって異なると思う」は、我が国で普及している血液型性格判断が特定の血液型に否定的感情を抱かせやすいという偏見的側面を考慮して含めた。

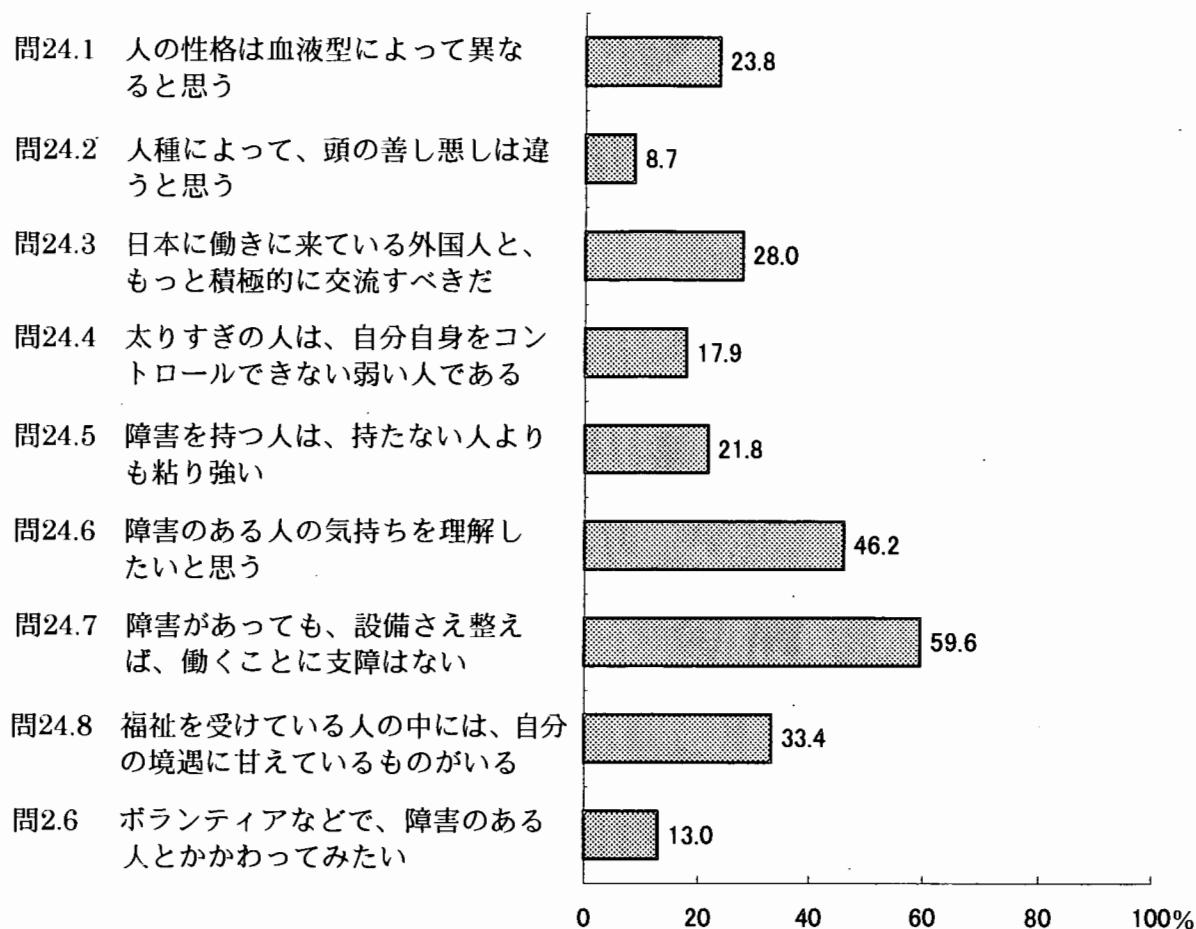
### ①偏見の実態

「人の性格は血液型によって異なると思う」「人種によって、頭の善し悪しは違うと思う」など9項目について、自分の意見としてあてはまる場合に○をつけることを求めた。その結果、各項目の選択率は図 4・4・5・5 (次頁) に示すようになった。

「障害があつても、設備さえ整えば、働くことに支障はない」が6割に達するのを始め、「障害のある人の気持ちを理解したいと思う」が5割弱など障害者に対して肯定的態度を示すものが多い。しかし、その一方で、「福祉を受けている人の中には、自分の境遇に甘えているものがいる」が3割以上と、弱者に対するアンビバレン特な感情が混在していることが見て取れる。このアンビバレンスは、偏見的態度の特徴でもある。また「ボランティアなどで、障害のある人とかかわってみたい」も1割程度にとどまっている。

その他、「人種によって、頭の善し悪しは違うと思う」は1割未満で、人種偏見を示すものは比較的少ないが、血液型・外国人・肥満というカテゴリーに基づいて固定的に人を見る見方を支持するものは1~2割である。

図 4·4·5·5 偏見 (N=664)



## ②年齢層別にみた偏見

年齢層別にみると、「人の性格は血液型によって異なると思う」「人種によって頭の善し悪しは違うと思う」「障害を持つ人は持たない人よりも粘り強い」については有意差がみられた。

このうち「人種」「障害をもつ人は粘り強い」については、20代前半層の選択率が高い。「血液型」についても20代前半層の選択率が高いものの、30代前半層でも選択する者は多く、30代後半層・50代前半層で低い選択率であることと差が開いている。20代前半層は、前述の人権意識についても「現実的には全ての人を尊重することは不可能だ」を選択しやすいなどの傾向がみられた。総じて20代前半層は、少数派に対して差別的な考えを持ちやすいようだ。

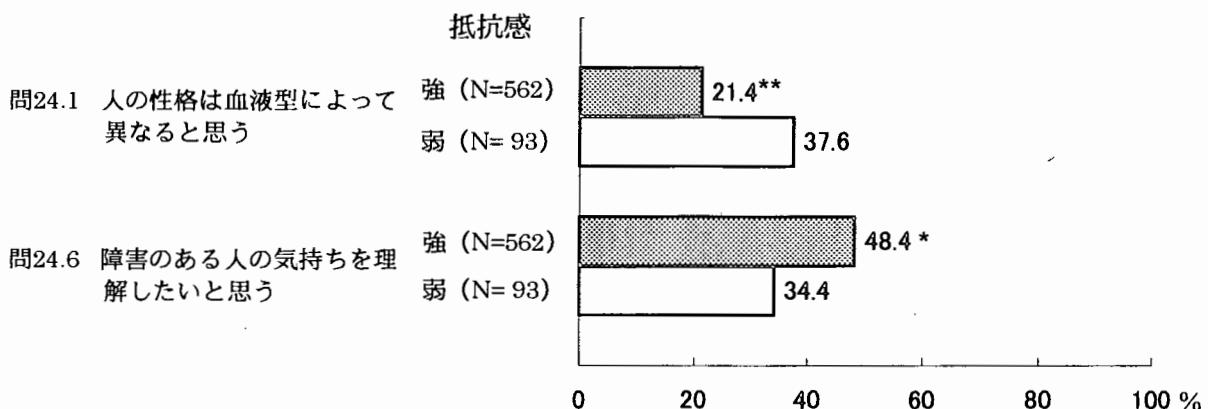
## ③『援助交際』に対する抵抗感別にみた偏見

『援助交際』に対する抵抗感別に回答をみると(図4·4·5·6)、有意差がみられた項目は

「人の性格は血液型によって異なる」「障害のある人の気持ちを理解したい」で、いずれの項目も2割程度差が開いている。

『援助交際』に対して抵抗感を感じないものは、血液型によって性格が異なると信じやすく、また障害者の気持ちを理解したいと思いにくい。この結果は、『援助交際』に抵抗を感じないものほど、他者に偏見を抱きやすいことを示しているといえるであろう。

図 4-4-5-6 『援助交際』に対する抵抗感別にみた偏見



#### ④買春経験別にみた偏見

買春経験別による回答差はほとんどみられないが、「太りすぎの人は自分をコントロールできない弱い人である」(経験有群, 26% ; 経験無群, 17%)については、経験有群の方が選択率の高い傾向がみられた。逆に、「障害のある人の気持ちを理解したいと思う」(経験有群, 54% ; 経験無群, 44%)については、買春経験者の方が偏見的でない傾向がみられた。

#### (3)人権意識・偏見のまとめ

ここでは人権や差別に対する意識を検討した。まず人権意識についてであるが、「どんな人も平等である」が6割近い一方、「ある種の人々は、差別をうけても仕方がない」が1割程度と、平等意識・人権重視は広く普及した社会的価値だと再認識できる。これらの項目を用いた人権意識尺度について『援助交際』に対する抵抗感別・買春経験別に得点を比較したところ、『援助交際』に対する抵抗感強群の方が弱群よりも得点が有意に高いことが示された。この結果は、援助交際を抑制する心理的要因として人権意識に注目した福富ら(1998)の論考を確認するものである。

続いて差別意識では、障害者に対する肯定的態度が示されており、血液型・外国人・肥満というカテゴリーに基づいて固定的に人を見る見方を支持するものも1~2割と低かった。また『援助交際』に対して抵抗感が弱いものほど、血液型というカテゴリーで人を見るなど、他者に偏見を抱きやすい傾向のあることが示唆された。

以上のように、この偏見・差別意識の回答からは、『援助交際』に対して抵抗感の弱いものが、様々な人々に対して偏った態度をとりやすいことが示された。本節（第4節）の1

～3で記したように、『援助交際』に対して抵抗感が弱いものは、男性・女性の性をステレオタイプ的に考える傾向がみられた。これまで行われた偏見やステレオタイプに関する社会心理学的研究から、特定の対象に偏見・差別意識を持つものは、その他の様々なものにも否定的態度を示しやすいことが知られているが、本調査の結果は、上記の偏見に関する既存研究を支持するものとなっている。すなわち、『援助交際』を社会現象として抵抗なく認めることは、社会一般に流布する偏見・ステレオタイプを抵抗無く取り入れることと同一の心理と位置付けられる。

また、偏見・ステレオタイプに関する既存研究からは、それらを持ちやすいものは、認知的に単純な情報処理をしがちであることが明らかとなっている。この知見を本調査結果にあてはめるなら、『援助交際』に対する抵抗感弱群は、様々な社会事象について深く考えずに、普及しているステレオタイプをそのまま受け入れやすい人々であると推察される。マスメディアでは一時『援助交際』が一般的な行為であるかのように頻繁に報道されていたが、現実にはそれらの行為に関わっている女子高校生はごく一部であった（福富ら、1998）。『援助交際』報道は現在下火になったものの、ステレオタイプを受け入れやすい人々は、これらの報道を無批判に取り入れ、『援助交際』を受容する価値観を形成してしまったとの可能性が考えられる。

一方、人権意識・差別意識いずれも、買春経験有無による回答差はみられなかった。これは抵抗感が意識的側面であるのに比べ、買春経験は行動であり、その発現には意識よりも家族構成や生活スタイルなど別の変数が大きく関わるためと推測される。人権を重視したり差別を避けようとする意識がどのような形で買春行動抑制因となり得るかについては、今後媒介変数を含めて検討していくことが必要であろう。

## 第5節 男女平等意識

筆者らは、成人男性を対象とした本調査に先立ち、女子高校生（福富、1997；福富ら、1998）、男女大学生を対象とした調査を行っている（菊島ら、1999）。その結果から、女子高校生では、男女平等を社会的な視点から捉えることが、『援助交際』（自分が金品と引き換えにセックスをする）に対する抵抗感に結びつくこと、また大学生においても、『援助交際』を男女平等の視点から捉えることにより、『援助交際』に対して非許容的な態度に結びつくことが示唆された。

成人男性においても男女平等の視点を持つことが、『援助交際』に対して非許容的な態度に結びつくのだろうか。女子高校生調査では、男女平等意識を測定する尺度として、以下の4つの尺度を作成した。第一は、性差別を受け、不満に感じたことがあるかを測定する「性差別不満」尺度、第二は、男女平等の問題を親や友人と話し合いを行うなど、男女平等に関心を持っているかを測定する「男女平等関心」尺度、第三は、男女のあり方についてどのように考えているかを測定する「男女平等規範」尺度、第四は、同一の行為に対して男女で異なる基準を当てはめるかを測定する「ダブルモラル」である。

本調査では、女子高校生調査の「性差別」「男女平等関心（本調査では、項目内容をより適切に表現していると思われる「女性の自立への関心」へと名称を変更した）」「男女平等規範」の3つ枠組みを男性に適用した。ただし、「性差別」については、「性差別に対する不満」に替え、現代社会に性差別が存在していると考えているか否かを測定する「性差

別認識」尺度を作成した。さらに、男女のあり方に対する一般的な考え方を問う「男女平等規範」を「社会生活における男女平等規範」とし、これに加えて、成人男性自身と彼の妻や子どもとの関係のあり方についてどのように考えているかを測定するために「個人生活における男女平等規範」尺度を加えた。また、意識レベルのみならず、日常生活の具体的な行動についても検討した（「日常生活の家事」）。

また、ベム（1993）は、様々な領域（知能、性行動、社会的地位など）における男女の差異を、女性の生物学的な特徴に帰属させて正当化する意識を生物学至上主義と名づけている。この生物学至上主義も男女平等に関わる意識と考え、調査項目に加えた。

これらの尺度と『援助交際』に対する抵抗感の強弱、および買春経験の有無との関連を検討した。

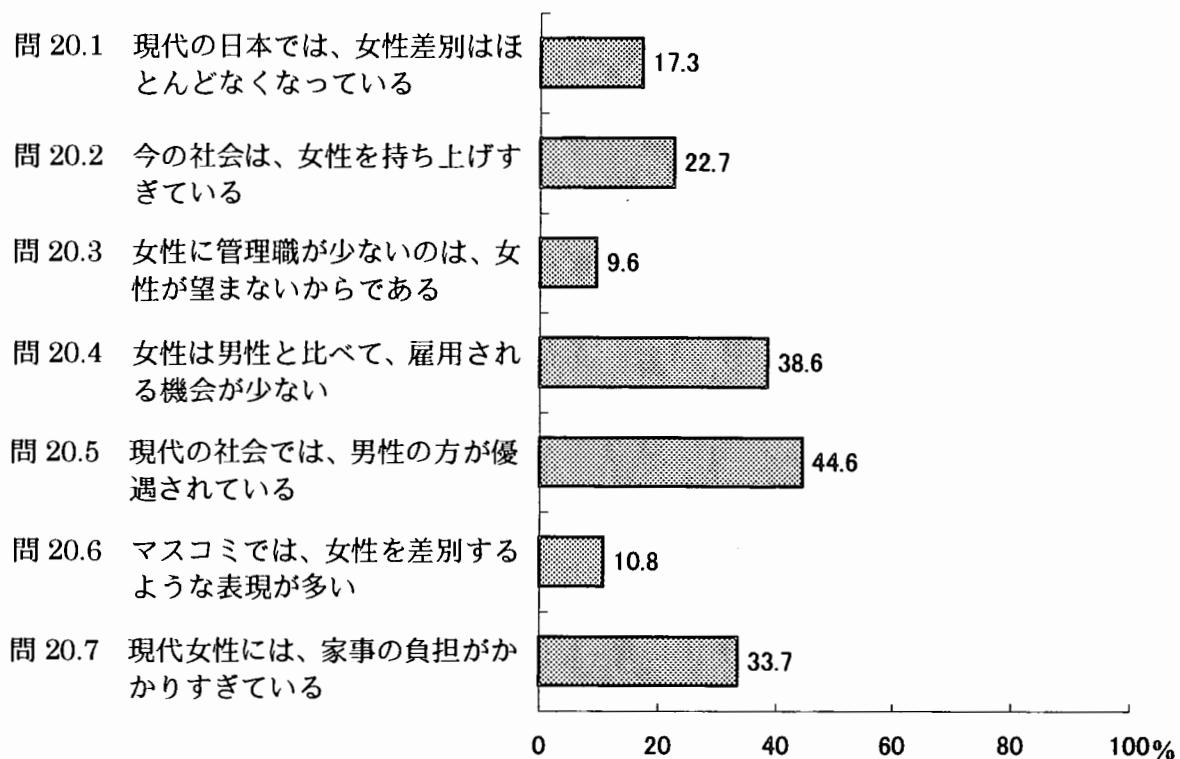
## 1. 性差別認識

### (1) 尺度項目について

現代は、女性の社会進出も増え、男女平等が進んできていると言われる。一方、女子学生の就職難など、現代社会が女性に不利であることも指摘されている。総理府（1995）の20歳以上の成人を対象とした調査では、家庭生活、職場、政治、法律や制度、社会通念・慣習・しきたりの5つの領域で、「男性の方が優遇されている」と回答した者が4～7割おり、「平等」と回答した者（1～4割）よりも多く、人々の意識の上でも、現代社会は、女性よりも男性に有利であると捉えられている。

このような引き続く性差別の存在を否定することは、現代的セクシズム（Swim, Akin, Hall, & Hunter, 1995）と呼ばれる。本調査では、現代社会に性差別が存在していると考えているか否かを測定するため、性差別の認識尺度を独自に作成した。項目内容および選択率を図4-5-1-1に示す。「現代社会では男性の方が優遇されている」や「女性は男性と比べて、雇用される機会が少ない」については約4割の回答者が肯定しており、総理府（1995）の調査で示された傾向と、ほぼ一致していた。一方、「女性に管理職が少ないので、女性が望まないからである」には約1割、「現代の日本では、女性差別はほとんどなくなっている」は約2割の選択率であった。全般的な傾向としては、現代社会は女性に不利であると認識されていると言える。

図 4・5・1・1 性差別認識 (N=664)



## (2)尺度の構成の確認

回答形式は、多重回答形式であった。選択された項目には2点、選択されなかつた項目には1点を与えて得点化した。ただし、問20.1～問20.3は逆転項目であるため、得点化の方向を逆にしてある。

7項目の内的一貫性を確認するため、主成分分析を行った。その結果を、表4・5・1・1に示す。表4・5・1・1より、負荷量の低い問20.3を除く6項目を尺度項目として採択し、これら6項目の単純加算値をもって尺度得点とした。尺度得点が高いほど、現代社会に性差別があると考えていることを示す。本尺度の信頼性係数は、 $\alpha=.52$ であった。

表 4・5・1・1 性差別の認識に関する主成分分析 (N=664)

項目内容	負荷量
問 20.1 現代の日本では、女性差別はほとんどなくなっている	.57
問 20.2 今の社会は、女性を持ち上げすぎている	.45
問 20.3 女性に管理職が少ないのは、女性が望まないからである	.19
問 20.4 女性は男性と比べて、雇用される機会が少ない	.63

問 20.5 現代の社会では、男性の方が優遇されている	.68
問 20.6 マスコミでは、女性を差別するような表現が多い	.35
問 20.7 現代女性には、家の負担がかりすぎている	.50
固有値	1.80
寄与率(%)	25.70

### (3)尺度得点について

尺度得点の分布を図 4・5・1・2 に示す。本尺度の平均は 8.88 (SD=1.41) であった。

図 4・5・1・2 性差別認識尺度得点の分布 (N=664)



### (4)『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と性差別認識

『援助交際』に対する抵抗感、買春経験別に、尺度得点の差を検討したが、いずれにおいても、有意差は見られなかった。

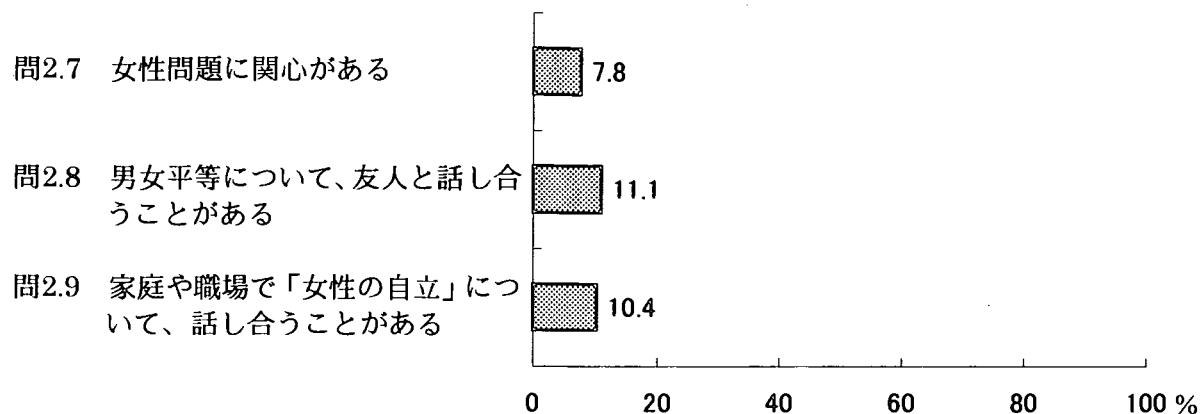
## 2. 女性の自立への関心

### (1) 尺度項目について

女子高校生調査で用いた男女平等関心尺度の項目のうち、図 4・5・2・1 に示す 3 項目を用いた。成人男性に合わせて、表現を若干修正した。いずれの項目も選択率が 1 割前後であり、成人男性は全般的に、男女平等問題に関心を持っていないと言える。年齢による選択

率の違いは見られなかった。

図 4・5・2・1 女性の自立への関心 (N=664)

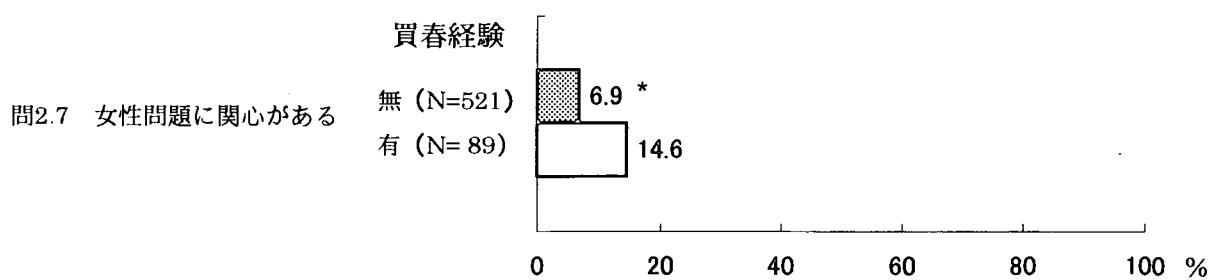


## (2) 『援助交際』に対する抵抗感・買春経験と女性の自立への関心

女性の自立への関心については尺度を作成していない。項目ごとに『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無との関連を検討した。これら 3 項目のうち、「女性問題に关心がある」については、買春経験のある群の方が、経験がない群よりも多く選択していた（図 4・5・2・2）。

本調査では、男女平等に关心を持っているか否かを測定する目的で本項目を設定した。しかし、買春経験のある群の方が、経験がない群よりも選択率が高いという結果から、回答者側に、本調査の意図するものとは異なった意味で捉えられた可能性も否定できない。例えば、政治家の女性問題といったように、マスコミをにぎわすスキャンダルといった意味で捉えられたかもしれない。

図 4・5・2・2 買春経験別にみた女性の自立への関心



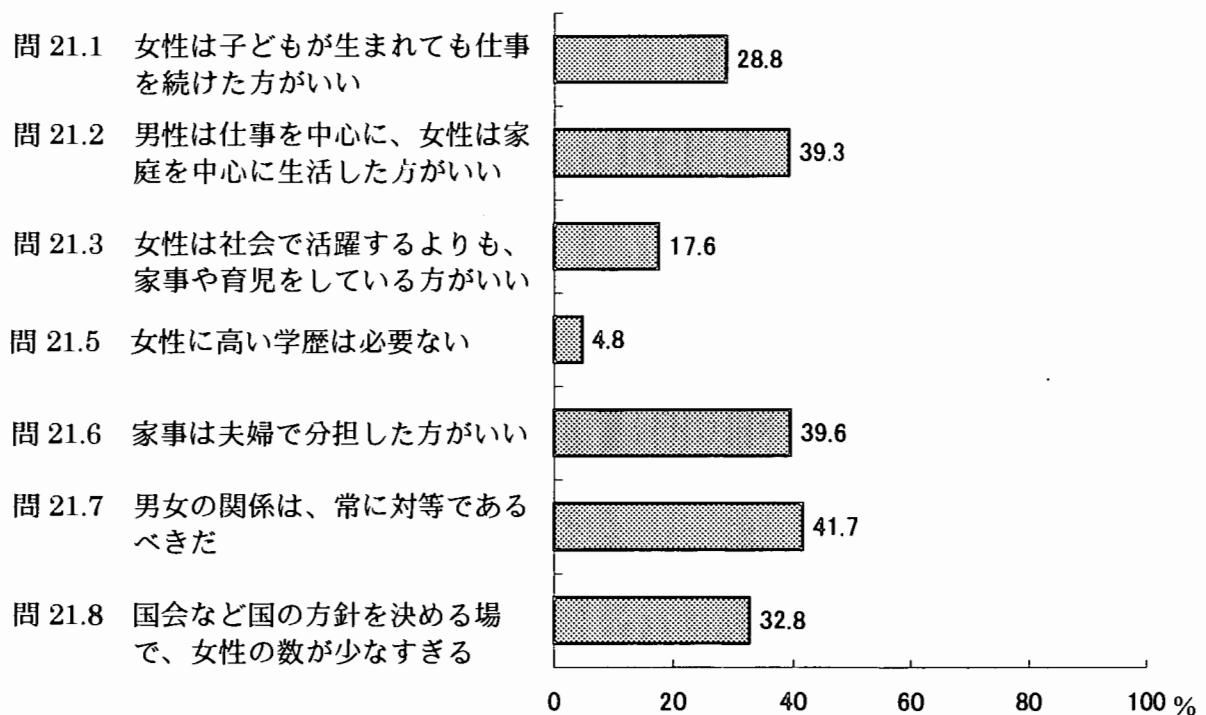
### 3. 社会生活における男女平等規範

#### (1) 尺度項目について

一般的にいって、男女のあり方をどう考えているかを捉えるために、女子高校生調査（福富ら、1998）で用いた尺度と同一ものを利用した。項目内容および選択率を図4-5-3-1に示す。「家事は夫婦で分担した方がいい」「男女の関係は常に対等であるべきだ」に約4割の者が肯定していた。一方、「男性は仕事を中心に、女性は家庭を中心に行きたい」とも約4割の者が肯定していた。成人男性には、非伝統的な性別役割分業意識と伝統的な性別役割分業意識を持つ者が混在していると考えられる。

年齢層別にみると、「家事は夫婦で分担した方がいい」について、20代後半層では、約6割の者が肯定しているのを最高点として、年齢が上がるにつれ選択率は減少し、50代前半層で選択する者は約3割となる。しかし、50代後半層になると、選択する者の割合が約4割に上昇していた。年齢層が上がるにつれ、非伝統的な性役割別分業に対して、否定的な態度が増加するという結果は、従来の調査と一致する傾向である。50代後半層で選択率が増加している理由は、本調査の結果だけでは分からぬ。

図4-5-3-1 社会生活における男女平等規範 (N=664)



次に、抵抗感別、買春経験別に検討した。その結果、抵抗感の強弱、買春経験の有無どちらにおいても、「女性に高い学歴は必要ない」において選択率に違いが見られた（図4-5-3-2、図4-5-3-3）。抵抗感が強い群よりも低い群の方が、また買春経験のない群よりも

経験がある群の方が、選択率が高かった。抵抗感が低い者と買春経験者は、それぞれ抵抗感が高い者と買春非経験者に比べ、女性の生き方を制限するという意味において、差別的な意識を持っているといえよう。

図 4・5・3・2 『援助交際』に対する抵抗感別にみた社会生活における男女平等規範

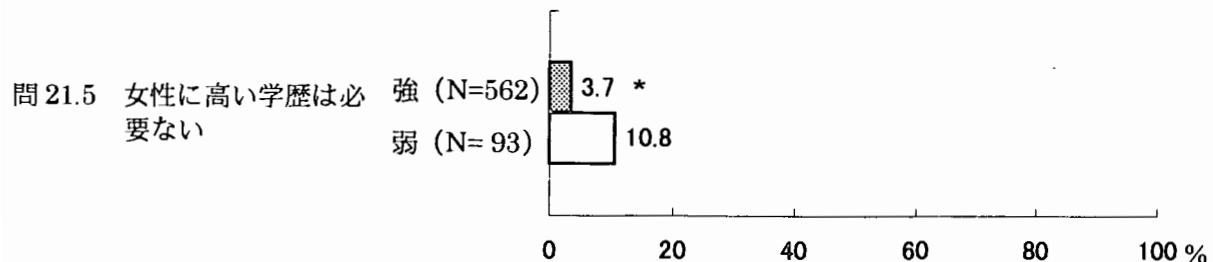
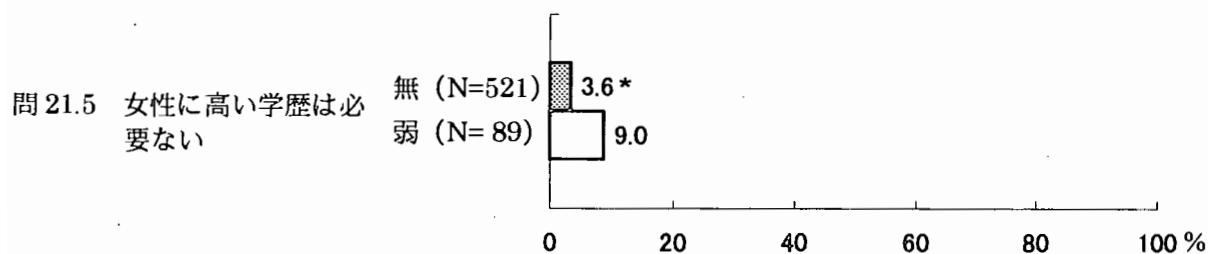


図 4・5・3・3 買春経験別にみた社会生活における男女平等規範



## (2)尺度の構成の確認

回答形式は、多重回答形式であった。選択された項目には2点、選択されなかつた項目には1点を与えて得点化した。ただし、問 21.2、3、5 は逆転項目であるため、得点化の方向を逆にしてある。

7項目の内的一貫性を確認するため、主成分分析を行った。その結果を、表 4・5・3・1 に示す。問 21.5 は、負荷量が .14 と低い。しかし、信頼性係数も  $\alpha=.61$  であったため、本尺度にそのまま含めた。

表 4・5・3・1 社会生活における男女平等規範に関する項目の主成分分析の結果 (N=664)

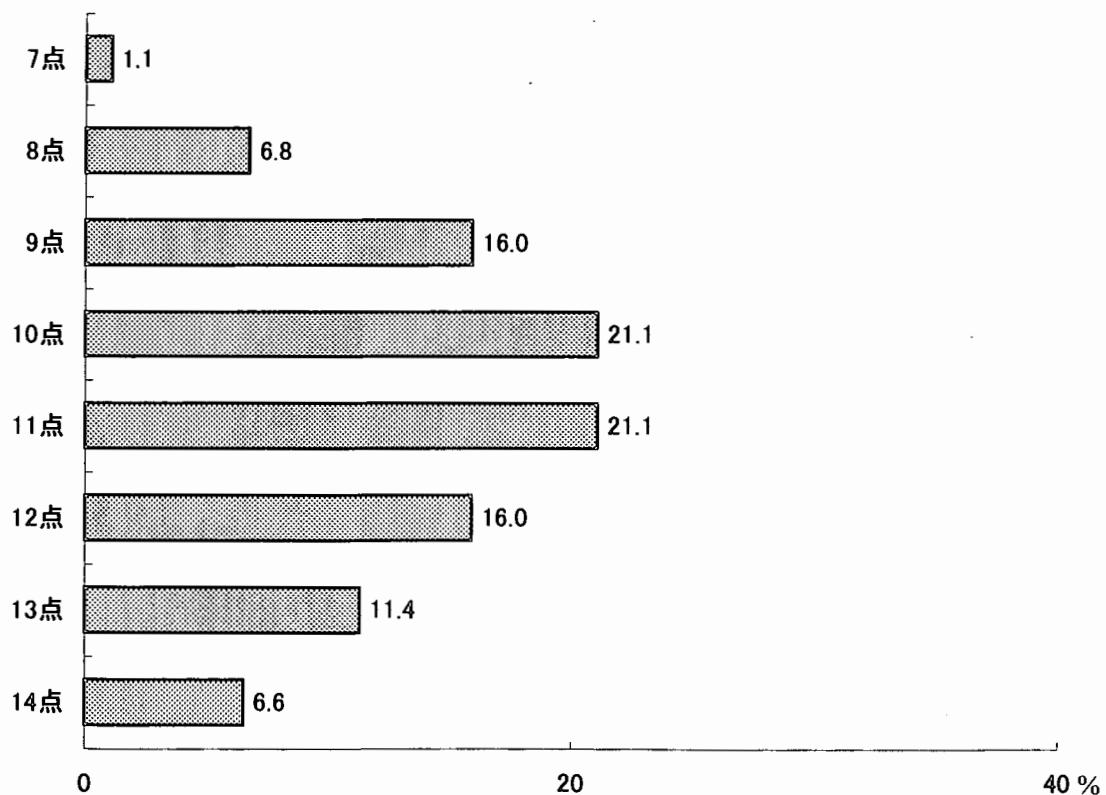
項目内容	負荷量
問 21.1 女性は子供が生まれても仕事を続けた方がいい	.62
問 21.2 男性は仕事を中心に、女性は家庭を中心生活した方がいい	.72

問 21.3 女性は社会で活躍するよりも、家事や育児をしている方がいい	.53
問 21.5 女性に高い学歴は必要ない	.14
問 21.6 家事は夫婦で分担した方がいい	.57
問 21.7 男女の関係は、常に対等であるべきだ	.51
問 21.8 国会など国の方針を決める場で、女性の数が少なすぎる	.56
固有値	2.12
寄与率(%)	30.32

### (3)尺度得点について

尺度得点の分布を、図 4-5-3-4 に示す。本尺度の平均は 10.81 ( $SD=1.68$ ) であった。抵抗感別、買春経験別に尺度得点の差を検討したが、有意な差は見られなかった

図 4-5-3-4 社会生活における男女平等規範尺度得点の分布 (N=664)



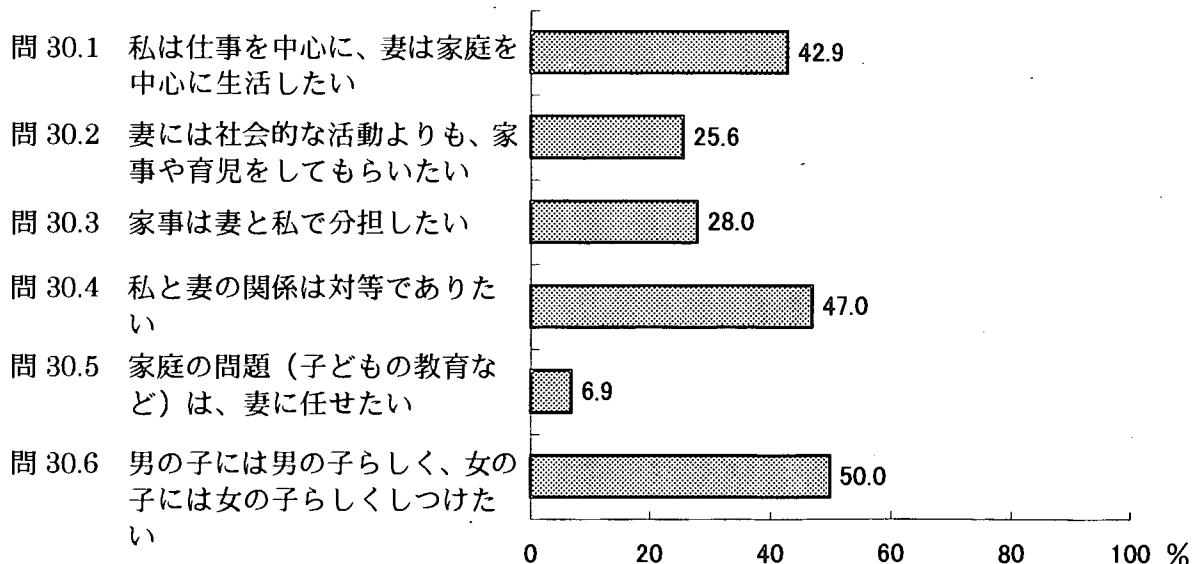
#### 4. 個人生活における男女平等規範

##### (1) 尺度項目について

前項の男女平等規範尺度は、男女のあり方について一般的にどのように考えているかを問うものであった。本尺度は、身近な女性である妻（既婚者ではない場合は、妻となる人を想定して）や自分の子どもを対象として、男女のあり方について、どのように考えているかを問うものである。尺度項目は、男女平等規範尺度の項目を一部修正したもの（問 30.1～問 30.4）と、独自に作成したものを用いた。項目内容および選択率を、図 4-5-4-1 に示す。

「男の子には男の子らしく、女の子には女の子らしくしつけたい」に 5割の者が、「私は仕事を中心に、妻は家庭を中心生活したい」に 4割が選択している。約半数の者が、性による役割の割り振りを肯定している。一方、「私と妻の関係は常に対等でありたい」についても約 5割が選択している。大和（1995）が成人女性の傾向として示したのと同じように、成人男性は、性別役割分業と男女間の平等は両立するという意識を持っていると言える。社会生活における男女平等規範と対応する項目を比較すると、問 30.1～問 30.3 の 3 項目において、個人生活における男女平等規範の方が、伝統的性役割を肯定する回答者が多くなっている。ただし、「私と妻の関係は常に対等でありたい」については、社会生活における男女平等規範より、選択率が約 6 ポイント上昇していた。

図 4-5-4-1 個人生活における男女平等規範 (N=664)



年齢層別にみると、「私は仕事を中心に、妻は家庭を中心生活したい」「妻には社会的な活動よりも、家事や育児をしてもらいたい」「家事は妻と私で分担したい」「私と妻の関係は常に対等でありたい」の 4 項目で有意な差がみられた。「私は仕事を中心に、妻は家庭を中心」では、20 代前半層、40 歳代、50 歳代が 4～5 割選択している。また、「妻には社会的な活動よりも、家事や育児をしてもらいたい」では、20 代前半層の選択率が 4 割

と最も選択率が高く、最も若い20歳代前半層に伝統的な性役割意識が高い。一方、「家事は妻と私で分担したい」「私と妻の関係は常に対等でありたい」でも、20歳代前半層が6割台と最も選択率が高かった。回答者全体でみられた性別役割分業と男女間の平等は両立するという傾向は、20歳代前半層で顕著なのかもしれない。

### (2)尺度の作成過程

回答形式は、多重回答形式であった。選択された項目には2点、選択されなかつた項目には1点を与えて得点化した。ただし、問30.1、2、5、6は逆転項目であるため、得点化の方向を逆にしてある。

7項目の内の一貫性を確認するため、主成分分析を行った。その結果を表4-5-4-1に示す。これら7項目のうち、.50以上で高く負荷する3項目を尺度項目として採択し、これら3項目の単純加算値をもって尺度得点とした。尺度得点が高いほど、身近な妻や子どもに対して、伝統的な性別役割分業に否定的であることを示す。本尺度の信頼性係数は、 $\alpha$ 係数は、.56であった。

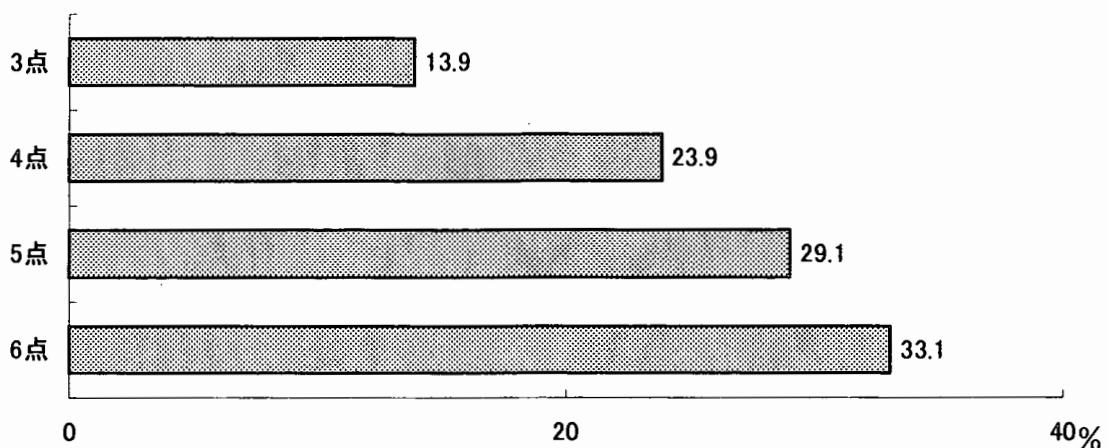
表4-5-4-1 個人生活における男女平等規範に関する主成分分析 (N=664)

項目内容	負荷量
問30.1 私は仕事を中心に、妻は家庭を中心生活したい	.75
問30.2 妻には社会的な活動よりも、家事や育児をしてもらいたい	.67
問30.3 家事は妻と私で分担したい	.38
問30.4 私と妻の関係は常に対等でありたい	.37
問30.5 家庭の問題（子どもの教育など）は、妻に任せたい	.38
問30.6 男の子には男の子らしく、女の子には女の子らしくしつけたい	.52
固有値	1.72
寄与率(%)	28.65

### (3)尺度得点について

尺度得点の分布を、図4-5-4-2に示す。本尺度の平均は6.53 (SD=1.05)であった。本尺度得点が、『援助交際』に対する抵抗感の強弱、買春経験の有無により異なるかを検討した。いずれにおいても、得点に差が見られなかった。

図 4・5・4・2 個人生活における男女平等規範尺度得点の分布 (N=664)

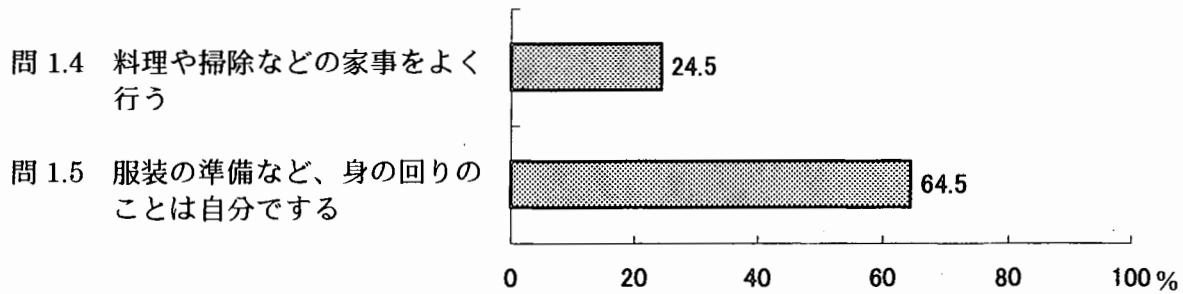


## 5. 日常生活における家事

前項までは、男女のあり方についての意識を探る項目であった。では、具体的な行動においてはどうだろうか。本調査では、図 4・5・5・1 に示す 2 項目を設定した。「服装の準備など、身の回りのことは自分でする」については約 6 割が選択している。一方、「料理や掃除などの家事をよく行う」については、約 2 割の選択率に留まっている。社会生活における男女平等規範では約 4 割の回答者が、個人生活における男女平等規範では約 3 割の回答者が「家事は夫婦で分担した方がいい」としているものの、実際に行なうことは難しいといえよう。

『援助交際』に対する抵抗感別、買春経験別に、これら 2 項目の選択率を比較したが、違いは見られなかった。

図 4・5・5・1 日常生活の家事 (N=664)



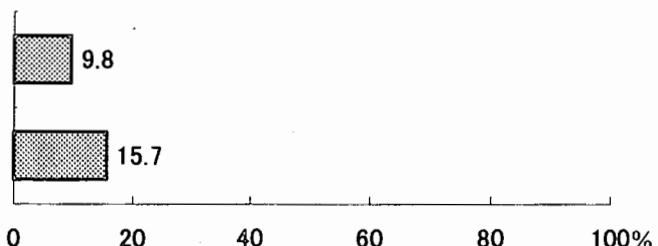
## 6. 生物学至上主義

### (1) 尺度項目について

先述したペム（1993）だけではなく、伊藤（1997）も、人々の差異を性に関連づけて捉える認知的な枠組みが存在すると考え、性差観スケールを作成している。本調査では、このスケールのうち、女性の就労に関わる2項目を使用した。項目内容および選択率を、図4-5-6-1に示す。どちらの項目も、1割前後しか選択しておらず、女性の生物学的特徴と就労を関連づけて捉えている者は少なかった。年齢による違いは、見られなかった。

図4-5-6-1 生物学至上主義 (N=664)

問22.10 女性は出産するので、男性と同じレベルの仕事はできない



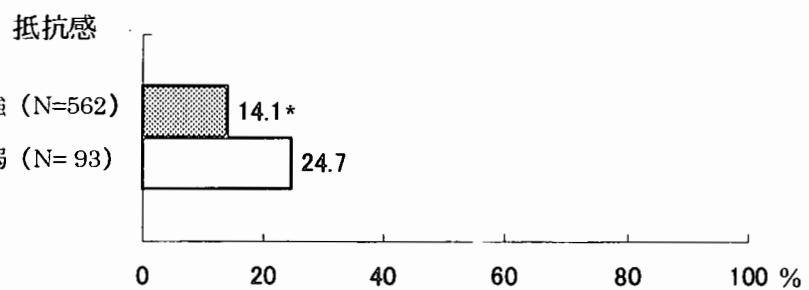
問22.11 生理中の女性は情緒的に不安定になるので、仕事にさしさわりやすい

### (2)『援助交際』に対する抵抗感の強弱・買春経験と生物学至上主義

『援助交際』に対する抵抗感別、買春経験別に、選択率の違いを検討したところ、「生理中の女性は情緒的に不安定になるので、仕事にさしさわりやすい」に違いが見られた（図4-5-6-2）。『援助交際』に対して抵抗感が弱い群の方が、抵抗感の強い群よりも選択率が高かった。男女の生物学的な違いを、男女の就労のレベルに結びつけることは、女性差別へと結びつき得ることを考えると、抵抗感が弱い群の方が、強い群よりも女性差別的な意識を持っていると言えるかもしれない。しかしながら、選択率の違いが見られた項目は、この1項目のみであり、断定することはできない。

図4-5-6-2 『援助交際』に対する抵抗感別にみた生物学至上主義

問22.11 生理中の女性は情緒的に不安定になるので、仕事にさしさわりやすい



## 7. 男女平等意識と買春経験を媒介するもの

前項までに示されたように、成人男性においては、男女平等に関わる意識と、『援助交際』に対する抵抗感および買春経験の有無との間に直接の関連が見られなかった。しかし、

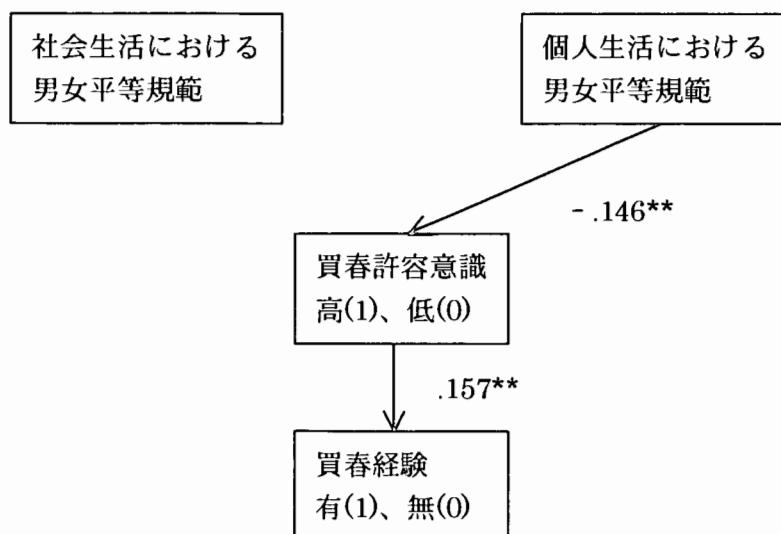
直接の関連は見られなくとも、成人男性の買春行為に、男女平等意識がまったく関わっていないといえるだろうか。

第3章第2節では、性犯罪を防ぐために、売買春が必要であるとする考え方や、女性とつきあえない男性が買春するのは当然であるといった考えを取り上げて検討したところ、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との間に結びつきがあることが示された。これらの意識は、性犯罪の加害者である男性側の責任は問わず、また買う側である男性をよしとし、売る側の女性の立場を考慮しない意識とも取ることもできよう。すなわち、次節でも述べるような、男女に異なる基準を当てはめるダブルスタンダードを伺うことができる。本項では、このようなダブルスタンダードを支える男性の意識として、男女不平等な意識があると考え、パス解析を行った。仮説として、社会生活・個人生活における男女平等意識が低いほど、買春許容意識が高くなり、その結果として買春行為という具体的な行動が現れるのではないかと考えた。結果を、図4-5-7-1に示す。

図4-5-7-1 上の矢印の横に書いてある数値は、一方の変数(A)から、もう一方の変数(B)への影響の強さを表し、-1~1の値をとる。この数値が正であれば、変数Aが高まるほど、変数Bが高まることを示し、逆に数値が負であれば、変数Aが高まるほど、変数Bは低くなる関係を示す。また、絶対値が大きいほど、その影響が強い。

図4-5-7-1より、個人生活における男女平等規範意識が高いほど、買春許容意識は低くなる。さらに次いで、買春許容意識が低いことが、買春行為を行わない、ということに関連してくるのである。社会生活における男女平等規範は、買春許容意識と関連が見られなかった。ここで興味深い点は、個人生活における男女平等規範は買春許容意識に影響するが、社会生活における男女平等規範は、影響を及ぼさなかったという点である。社会生活における男女平等規範は、男女のあり方における、いわば一般論を測定したものである。一般論としてではなく、男女平等を自分自身に引き付けて捉えられるかどうかが、買春を抑えることができるか否かの鍵となると考えられる。

図4-5-7-1 男女平等規範と買春経験に関するパス解析の結果



## 8. 男女平等意識のまとめ

本節では、男女平等に関する意識と、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を検討してきたが、直接の関連を見出すことはできなかった。しかし、パス解析の結果から、男女平等に関する意識の低さが、買春を許容する意識に影響し、買春行為を生じさせることが示された。

## 第6節 母性神話

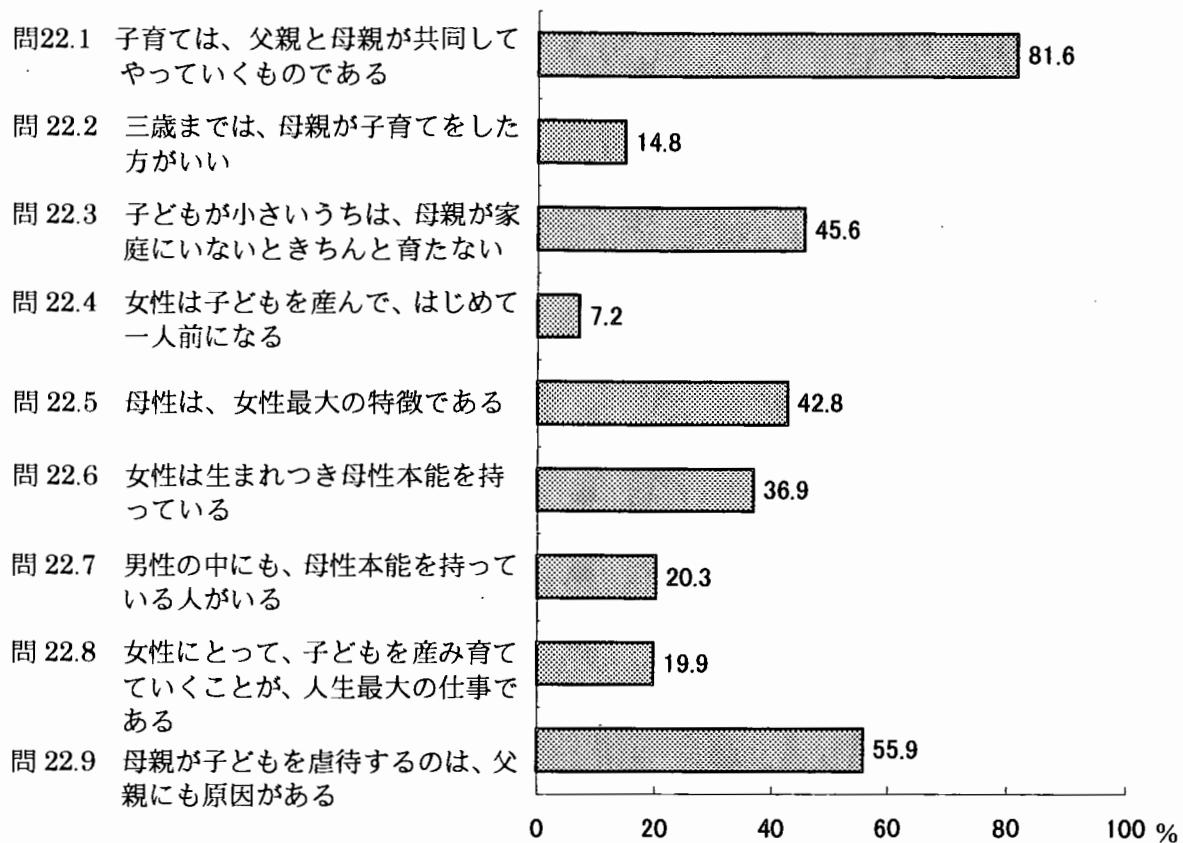
### 1. 尺度項目について

従来、男性と女性とでは、異なる性規範が適用されるダブルスタンダード（二重規範）が指摘されてきた（江原、1995など）。例えば、既婚男性が婚外交渉を持つことに対しては、比較的寛容なのに対し、既婚女性がそれを行うことには抵抗が示されやすい。このように、男性には比較的開放的な性が許容されるのに対し、女性には貞淑さが求められるというものである。本調査では、このダブルスタンダードの背後に、妻に母性を求め、性的なものと求めない意識が働くと考えた。

そこで、女性に「母なるもの」を求める意識を測定するため、「母性神話」尺度を独自に作成した。項目には、女性に母性を求める意識だけでなく、回答者である男性も育児に参加しようとしているかを測定するための項目を含めた。項目内容および肯定率を、図4-6-1-1（次頁）に示す。「子育ては父親と母親が共同してやっていくものである」に約8割の回答者が肯定しており、子育てに父親も関わろうとする意識が高い。一方、「子どもが小さいうちは、母親が家庭にいないときちゃんと育たない」「母性は、女性最大の特徴である」に約4割の者が肯定していた。子育ては男女ともに行っていこうとは思うが、母親が中心に行うべきという意識もあることが伺える。

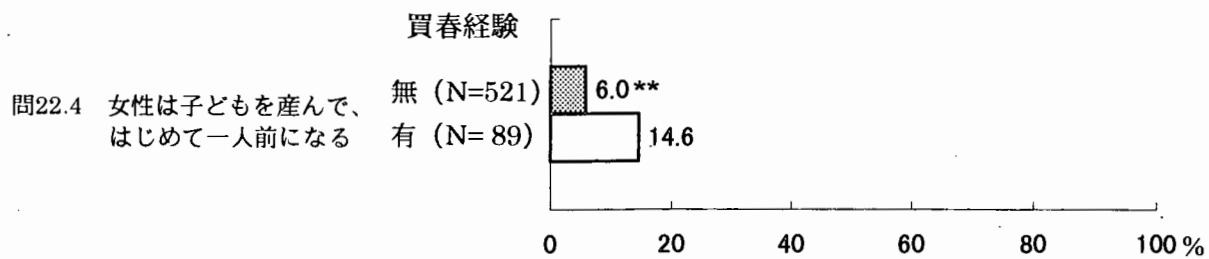
年齢差を見ると、以下の6項目で有意差が見られた。「子育ては、父親と母親が共同してやっていくものである」については、20代後半層、30代前半層で約9割と選択率が最も高く、50代後半で7割と最も低い。「三歳までは、母親が子育てをした方がいい」については、20代前半層で1割未満と最も低く、50代後半層で約3割と最も高い。「女性は生まれつき母性本能を持っている」については、40代後半層で約2割と最も低く、20代前半層で約6割と最も高い。「男性の中にも母性を持っている人がいる」については、50代後半層で約1割と最も低く、20代前半層で約3割と最も高い。「女性にとって、子ども生み育てていくことが、人生最大の仕事である」については、30代後半層で1割未満と最も低く、50代後半層で約3割と最も高い。「母親が子どもを虐待するのは、父親にも原因がある」については、50代後半層で約4割と最も低く、20代前半層で約7割と最も高い。これらの結果を見ると、正確に年齢に対応しているわけではないが、年齢層が高いほど、子育ては母親の仕事として捉える傾向が強い。一方、20代前半層に見られるように、低い年齢層では、女性には母性本能があると考えてはいるものの、父親の子育ての責任についても考えていると言える。

図 4・6・1・1 母性神話 (N=664)



買春経験別にみると、「女性は子どもを産んで、はじめて一人前になる」において、買春経験がある群の方が、経験がない群よりも、選択率が高かった。買春経験がある群は、女性の価値を出産のみに限定しているという意味において、差別的な意識を持っていると考えられる（図 4・6・1・2）。

図 4・6・1・2 買春経験別にみた母性神話



## 2. 尺度について

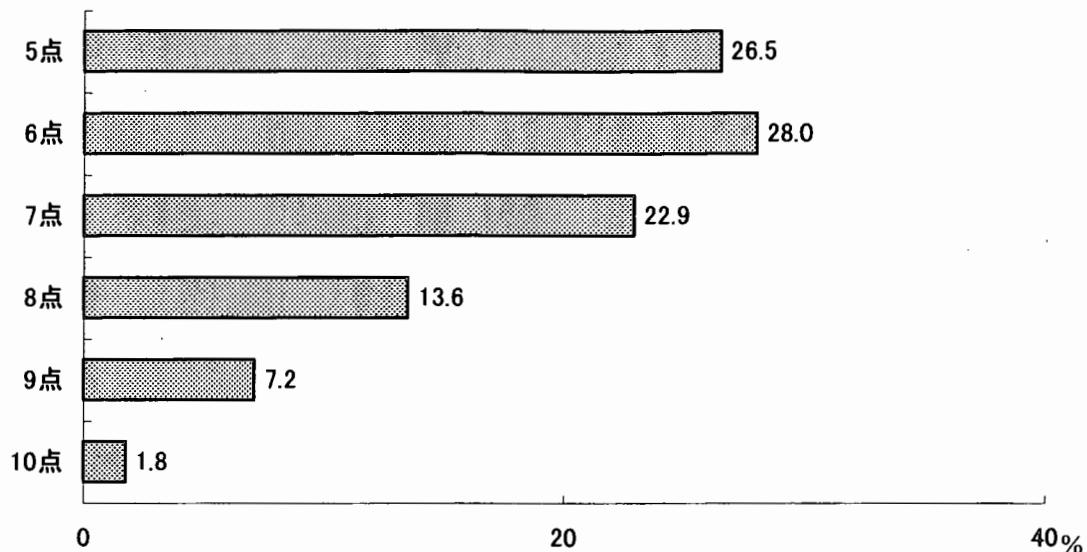
まず初めに、全項目を用いて、因子数を1～2に変化させながら、因子分析（主成分解、VARIMAX回転）を行った。しかし、「三歳までは、母親が子育てをした方がいい」の項目が、不規則な動きをするため、この項目を除いて再度分析し、2因子解を抽出した（表4-6-2-1）。第1因子には、「子育ては、父親と母親が共同してやっていくものである」「母親が子どもを虐待するのは、父親にも原因がある」が高く負荷することから、両親が共に子育てに関わるべきとする意識を表す因子と解釈された。第2因子には、「女性にとって、子どもを産み育てていくことが、人生最大の仕事である」「女性は子供を産んで、はじめて一人前になる」などが高く負荷していることから、母性神話を表す因子であると解釈された。そこで、本調査の目的に沿い、第2因子に.40以上で負荷している項目を、母性神話尺度項目として採択した。本尺度の $\alpha$ 係数は、.55であった。

表4-6-2-1 母性神話に関する因子分析の結果 (N=664)

項目内容	因子1	因子2
問22.1 子育ては、父親と母親が共同してやっていくものである	.57	-.16
問22.3 子どもが小さいうちは、 母親が家庭にいないときちゃんと育たない	.25	.52
問22.4 女性は子どもを産んで、はじめて一人前になる	-.11	.60
問22.5 母性は、女性最大の特徴である	.54	.44
問22.6 女性は生まれつき母性本能を持っている	.47	.43
問22.7 男性の中にも、母性本能を持っている人がいる	.64	-.11
問22.8 女性にとって、子供を産み育てていくことが、 人生最大の仕事である	-.04	.76
問22.9 母親が子どもを虐待するのは、父親にも原因がある	.69	.05
因子負荷量の2乗和		1.80
寄与率 (%)		22.48
		20.41

尺度得点の分布を、図4-6-2-1(次頁)に示す。本尺度の平均は、6.52 (SD=1.31) であった。『援助交際』の抵抗感の強弱、買春経験の有無により異なるかを検討したが、有意な差は見られなかった。

図 4・6・2・1 母性神話尺度の得点分布 (N=664)



### 3. 母性神話のまとめ

成人男性は、全般的に、育児は母親の仕事として、少なくとも母親が中心として行うものとして捉えていた。ただし、若い年齢層では、母親が中心であったとしても、父母ともに行う共同作業として捉えられていた。これら母性神話に関する意識は、『援助交際』に対する抵抗感や買春経験とは、概ね結びついていなかった。

## 第5章 総合的考察

本調査は、先に実施された「『援助交際』に対する女子高校生の意識と背景要因」(福富ら, 1997, 1998)に関する研究を受けて、成人男性が『援助交際』や買春に対してどのような意識を持っているか、『援助交際』に対する抵抗感の強弱や買春経験の有無に結びつく要因の解明を目的としてなされた。『援助交際』という問題行動の分析には、女子高校生だけを対象に分析してみても十分とはいはず、もう一方の当事者となる成人男性を対象に分析する必要性を感じたからである。

本調査に先駆けて福富(1999)は、首都圏に在住している30歳以上の成人男性33名を対象にして、『援助交際』に関連した内容について面接をおこなった。そこで得られた知見は、本調査の調査枠組みの設定に際して参考にした。

『援助交際』は、男女平等社会の実現に抗うものであり、男女の平等な関係作りに抵触するものである。この視点は、先の女子高校生を対象にした研究から一貫して貫かれている。本章では、この視点をふまえながら、『援助交際』に対する抵抗感の強弱および買春経験の有無を軸として、それぞれの違いがどのような要因と結びついているのかを総合的に分析してみよう。

### 第1節 『援助交際』に対する抵抗感と態度

成人男性の場合、『援助交際』に対する抵抗感は「お茶」や「セックス（性交）」という行為内容の種類によってほとんど違いがみられない。この点は、直線的ではあるが段階的な違いを示した女子高校生の場合と異なる。

『援助交際』についてどのような捉え方をしているかをみると、売春の一つであると捉えているが、女性の地位を低める、女性に対する侮辱であるとする考えは少なく、女子高校生のほんの一部であり、本人に問題があるとする考えが多い。問題を持つような女子高校生のほんの一部の問題であるとすることは、この問題の持つ本質的な問題性（たとえば、男女平等の視点からの問題性）を隠蔽しようとする態度にもつながりかねない。さらに、「成人女性に相手にされないような男性が、女子高校生と『援助交際』をするのだと思う」という項目を選択するものも2割弱みられた。これは、『援助交際』を行う男性は特殊な人であるとラベリングすることで、この問題を自分自身から切り離して社会問題として捉える視点を覆い隠してしまうことにも結びつく。

問題の所在に関して、「本人の問題」とするものが8割弱で多く、次いで「親や家庭」が5割強、「マスコミ」4割弱と続き、「金をだす男性の問題」とするものも5割強であった。『援助交際』という複雑な原因を内包させている現象を一つの原因に帰することによって、自分とは関係のない問題であるとしてしまうならば問題である。「金をだす男性の問題」を指摘するものが、果たして男性である自分の中に問題性を認識しているのだろうか。現代社会の病理として『援助交際』を捉えるならば、その社会に生きる成人男性としての自分も決して無縁ではないはずである。

年齢層別に検討してみると、相対的に選択率が低い項目で『援助交際』を容認する態度にも結びつきかねない態度は、年齢とともに選択が減少している。「人に迷惑かけなければ」

「他人がとやかく言えない」「成人女性に相手にされない男性が」といった項目で、不必要に他人に干渉しない代わりに他者からも干渉されたくないといった個人主義的（自己中心的）態度が、若い年齢層のこうした選択の背景にあるのかもしれない。

『援助交際』に対する態度項目と『援助交際』に対する抵抗感の項目の回答パターンを数量化理論第III類により分析した結果、いくつかの構造的関係が明らかにされた。

第一に、『援助交際』に対する抵抗感が弱いものは、『援助交際』に対する否定的な態度が弱く『援助交際』に対する許容的態度が強い。反対に『援助交際』に対する抵抗感の強いものは、これと逆の傾向がみられる。さらに、『援助交際』を社会問題、特に男女問題として捉える視点は、『援助交際』に対する抵抗感が強いものが多い。こうした特徴は、女子高校生の『援助交際』に対する抵抗感の強弱と『援助交際』態度との関係と同じような傾向を示している

次に、『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、テレクラ・Q2・伝言ダイヤル等の利用や成人向けインターネット利用の割合が高い。これらの各種メディアの利用が、実際の『援助交際』行動に結びついていく可能性を示唆している。

『援助交際』に対する抵抗感と『援助交際』態度との構造的関係をみると、『援助交際』に対する抵抗感の強弱を示す次元と『援助交際』の原因をどのように捉えるのかという次元が想定できる。「迷惑かけなければよい」に代表される態度が『援助交際』を許容する態度と結びつき、逆に「男性の問題である」と考えることが『援助交際』に対する抵抗感と結びつくことが示唆された。さらに、『援助交際』の原因について論じることは抵抗感と直接的に結びつかないことも示された。

## 第2節 売買春に関する意識と経験

買春行為にあたる「性風俗」「性行為を伴う『援助交際』」「海外で買春」の経験をみると12.5%、0.3%、2.3%であり、総じて買春行為の多くが性風俗店でなされていることを示している。しかし、この質問項目に関しては他の項目に比べて回答不明者が多く、特に『援助交際』に関して極端に多かった。さらに、郵送法による今回の調査では、期限までに回答を寄せられなかつたものに対して3回の督促をしている。このうち3回目の督促で回答されたものの買春経験をみると経験率が際立って高い。このことから、この項目の回答不明者や返送しなかつた対象者の中に買春経験者が多く含まれていることが推測される。従って、買春にかかるこれらの経験率は、その実数は特定できないが、本調査結果で示された値よりも高いと推測できる。買春経験の実態把握は、調査の方法を含めて、今後に残された検討課題である。

以上のこととふまえながら、「性風俗」「性行為を伴う『援助交際』」「海外で買春」のいずれか一つでも経験したものを買春経験有群、いずれも経験しないものを買春経験無群と群分けして分析をした。年齢層別に比較すると、買春経験有群が多かったのは20代後半層で、買春が若い世代を中心になされていることを示している。

「ほかの男性の妻とセックスした」をみると、買春経験無群の1.9%に対して買春経験者は14.5%と高い。「妻以外の女性とセックスした」も無群の1割弱に対して5割以上と高率を示しているが、これは買春の対象を含めた値と考えるならば当然の結果といえよう。さらに、『援助交際』に対する抵抗感について比較しても、『援助交際：お茶』では買春経

験無群と有群に差がみられず、『援助交際：性交』で差が示された。これらはいずれも、買春経験者のセックスに対する積極的態度を示すものと考えられる。

次に売買春に対する意識をみると、「買春すると性病をうつされてしまう危険がある」を6割が選択しており、性病に対するリスクの認識が高い。その一方で「売買春が無くなったら性犯罪が増える」も3割以上が選択している。売買春にはリスクがあるが、不可欠なものという意識が読み取れる。買春経験者や『援助交際』に対する抵抗感弱群の場合、「売買春が無くなったら性犯罪が増える」をいずれも約5割が選択し、「買春による性病の感染は気をつければ防げる」の選択率もともに2割が選択している。特に「売買春が無くなったら性犯罪が増える」といったステレオタイプ的捉え方に関して、『援助交際』に対する抵抗感弱群と強群の差は20ポイントも開いている。買春に対するステレオタイプ観が買春経験を正当化する心理的支えになっており、性病リスクに対しても「自分は大丈夫だ」といった利己的幻想を抱いている様子が伺える。これに対して「売買春は女性の人権を侵害している」の選択は全体的に15%と少なく、特に『援助交際』に対する抵抗感弱群は4%しかいない。女性の人権擁護という視点から売買春を捉えることの難しさを物語っている。

以上の傾向は、数量化理論第III類による分析の結果からも指摘される。買春意識項目について数量化理論第III類を用いて分析をしたところ、①買春経験の無いものを中心に買春の危険性を敏感に感じ「人権侵害」と考える群、②買春経験の有るものを中心に男性の本能に結びつけて買春を当然としたり、売買春がなくなると性犯罪が増えるといった別の危険性が上がるとして、行為の正当性を積極的に主張する群、③買春経験の有るものに近いが、買春を消極的な理由で肯定しようとする群、の三つの類型のまとまりが抽出された。女性に対する人権侵害意識が、買春を許容しない態度に結びつくといえよう。

さらに、「売買春がなくなったら、性犯罪が増える」「女性とつきあえない男性が、買春するのは当然」「買春するのは、男性の本能」「買春した女性とも、心のふれあいを感じることができる」「買春による性病の感染は、自分が気をつければ防げる」の5項目を用いて買春許容意識尺度を作成し、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無との関連を検討した。『援助交際』に対する抵抗感弱群と買春経験者は、予想通りに買春許容意識が高い。買春を許容する意識が『援助交際』を許容したり、実際の買春行動と結びつくと考えられる。年齢層別に比較すると、20代前半層と50代後半層に買春許容意識が高く、20代後半層～30代前半層が低い。

### 第3節 『援助交際』に対する抵抗感や買春経験の背景要因

#### 1. 環境的背景

『援助交際』に対する抵抗感の強弱で有意差がみられた項目から、抵抗感の弱い群の特徴をあげると次のようになる。子どもや配偶者がいないか、いても夫婦や家族との情緒的絆は弱く、家族と一緒に食事する機会が少ない。職場では「いつも損をしている」と感じている。

買春経験者の特徴は、配偶者のいない独身者（特に離死別で妻を失った独身者）が多く、家族状況では子どもがいない一人暮らしの層が多い。配偶者がいても、妻や家族との情緒的絆は薄く、休日も家族と一緒に過ごすことが少なく、家族と食事する機会も少ない。職

場では「イライラすること」が多い。

いずれの場合にも、妻や家族との情緒的絆の弱さがみられ、妻帯者の場合の買春行動は、妻を中心とする家族との交流の乏しさを埋め合わせる「逃げ場」となっている様子が伺える。女子高校生を『援助交際』に駆り立てる要因として、親との愛情や信頼関係の欠如が指摘されたが、成人男性を買春行動に駆り立てる要因も類似しているといえる。妻や家族との心の絆の喪失感が買春へと向かわせるのだろうか。

ただ、今回の結果で学歴や職種、階層帰属意識と買春経験とが関連していなかったことが注目される。このことは、買春が特定の社会階層や経済層に特有の行動ではないことを示唆している。それよりも、職場での不適応とも関連していることを合わせてみると、人間関係の歪みとして発生していると考えられる。

## 2. 行動的特徴

各種メディアの接触やギャンブル行動、些細な違法行為について、『援助交際』に対する抵抗感の有無と買春経験の有無で違いがあるかを検討した。『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、移動体通信（携帯電話・PHS）を多く持ち、性を扱った風俗的メディア（風俗情報誌・アダルトビデオ・ポルノ映画）や中間的メディア（スポーツ新聞・週刊誌・月刊誌・レンタルビデオ・映画）に接することが多い。買春経験者についても同様の傾向がみられる。こうした傾向は、『援助交際』に許容的な女子高校生の特徴としても指摘されていた。

今回の調査結果は、上述の各種メディアとの接触と『援助交際』に対する抵抗感や買春経験との関連を示すもので、その因果関係を示すものではない。これらのメディアへの接触が『援助交際』に許容的態度を作ったり買春行動に走らせるのか、それとも許容的な態度や買春経験者がそもそもこれらのメディアに接触し、買春のための情報を得ようとしているのかは、今回の結果からは特定できない。今後の検討課題として残された問題である。

しかし、風俗的メディアの中で巷に氾濫している性情報を考えれば、それらが性行動に対して何らかの影響を及ぼしていることは推察される。特に性に対する考え方や価値観が定まっていない青少年に対する影響は大きいだろう。これらの性に関する情報への接し方を含めた情報リテラシー教育の必要性が問われる。

さらに『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、公営ギャンブルの経験が多く、買春経験者の場合には電車のキセルを除いてパチンコ・公営ギャンブル・カケマ雀・喫茶店やレストランからの灰皿の持ち帰り等が多かった。これらを射幸心や些細な違法行為として捉えてみると、堅実な生活態度とのズレを示唆しており、その延長に『援助交際』や買春行為があるのだろうか。

## 3. 心理的背景

今回の調査でも、先に実施された女子高校生の調査と同様に、各種の心理尺度が用いられている。用いた尺度は、充実感尺度・自己存在感のなさ尺度・ミーアズム（関心の狭さ尺度・将来無関心尺度・享楽主義尺度）・ぬくもり希求尺度・対人的スキル尺度・精神的健康尺度である。これらについて、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無で比較検討した。

『援助交際』に対する抵抗感の弱いものは、充実感を感じることが少なく、自己存在感も乏しい。さらにミーイズムの下位尺度である、関心の狭さ、将来無関心、享楽主義の各尺度の得点が高く、ぬくもり希求も高い。精神的健康尺度では不健康な傾向が見られる。

買春経験者の場合は、充実感を感じることが少なく、自己存在感も乏しい点では共通であったが、ミーイズムに関して享楽主義尺度にのみ有意差を示し、より享楽主義的であった。ぬくもり希求も同様に高い。精神的健康尺度では有意な差を示さなかったが、対人的スキル尺度では、高い値を示す。

充実感について数量化理論第III類により分析してみると、充実感を感じる人と感じない人を分ける軸と、生産的活動（育児や子どもの世話、家事、家族の団らん、ボランティア活動、勉強や教養講座、貯蓄などに充実感を感じる）と消費的活動（ショッピング、おしゃれ、異性の友人とのつきあい、食べ歩きなどに充実感を感じる）をわける軸を抽出することができた。この2軸からなる空間に『援助交際』に対する抵抗感の強弱群と買春経験の有無群を位置づけてみると、買春経験の有無によって位置づけに有意な違いがみられ、充実感を感じる内容に違いがあることが示された。買春経験者は、日常生活全般にわたって充実感を感じることが少ないと推察される。さらに、抵抗感弱群や買春経験者は妻や家族との情緒的絆が弱いことを合わせて考えてみると、妻や家族との関係から充実感を得られず、日常生活の空虚感を埋めるために買春行動に向かうという図式も推察される。

ミーイズムの下位尺度に関して、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無で様相が異なる。抵抗感弱群は高群に比べて3つの下位尺度全てにおいて有意差を示し、いずれの得点も高かった。これに対して買春経験の有無で差を示したのは享楽主義だけである。抵抗感に関する結果は女子高校生の結果と同様であり、「先のことは考えず」「私が」「楽しく」過ごすことを優先させる姿勢が『援助交際』を肯定する心理という福富ら(1998)の考察を再確認するものであった。しかし買春経験に関しては、享楽主義にのみ有意な差を示したに過ぎない。欲望が過剰に肥大化し、楽しみを追求することの延長上に買春行動があると推測できるが、買春経験者は決して他者や社会に無関心でもないし、刹那的に楽しみを貪っているわけでもない。しかし、自分の楽しみを追求する行動に執着し過ぎると、その行動が他者や社会にどのような影響を及ぼすのかを考える余裕は見失されてしまいかねないだろう。

ぬくもり希求に関しては、『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者の得点が高い。この結果は女子高校生についての結果と一致しており、人間関係に満たされない気持ちが売買春という形で異性とのかかわりを求める行動に駆り立てるのかもしれない。対人的スキルに関して、『援助交際』に対する抵抗感の強弱で差が見られなかつたが、買春経験者の方が経験無群よりも傾向差であったが高い値を示した。少なくとも、買春経験者は相対的に対人スキルに富んでいると認識しているようだ。従って、他者、特に女性、との深く親密な対人的相互作用が苦手な故に手っとり早く金銭で解決可能な買春をするという図式は当てはまらない。むしろ、対人的スキルを持つが故に対人関係を円滑にすすめた結果が買春行動であるという可能性を示唆している。さらに抵抗感に関して差がみられなかつたことから、抵抗感の強弱と買春経験の有無の違いは、別の次元と考えることができる。

上述したことは、精神的健康尺度に関しても当てはまる。ここでは逆に『援助交際』に対する抵抗感の強弱に関してのみ差が示された。抵抗感の弱いものほど精神的に不健康な

状態にある。『援助交際』に対する抵抗感の弱さが精神的不健康の表れであり得ても、買春経験についてはいえない。

#### 4. 意識的側面

意識的側面として、性に対する意識（性に対する興味・関心尺度）、男性の性に対する意識、性欲の強さ、女性に対するイメージ、女子高校生に対する意識（女子高校生性的魅力尺度）、男性性希求、人権意識（人権意識尺度）、偏見意識を取り上げて分析した。

性に対する意識に関して、性に対する興味・関心尺度を作成し『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無で分析すると、抵抗感弱群と経験有群がいずれも興味・関心が高い。フリーセックスを肯定したり性に対する興味や関心が、『援助交際』や買春行動の背景にあることを示唆している。

男性の性に対する意識については、性に対する積極性と男らしさを結びつける傾向が示され、特に『援助交際』に対する抵抗感の弱いものや買春経験者にこうした傾向が顕著であった。さらに買春経験者は、「男の性欲はコントロールできない」「男は性的にだらしなくとも仕事ができればよい」といった項目を選択しやすく、買春経験を正当化させるのに役立っていることが推測できる。

性欲の強さに関して、年齢とともに減少傾向が示されたが40代後半～50代後半層でも7割弱が「感じたことがある」としている。特に買春経験者が性欲を感じる程度が強く、買春行動の生起に性欲が関連していることが伺える。『援助交際』に対する抵抗感の弱いものの割合も高く、性欲が女子高校生と金銭を媒介にした性交を許容する態度の形成に結びついていることを示している。

女性に対するイメージをみると、「若さ」「美しさ」「男性経験の無い」を強調する女性に対するステレオタイプ的イメージが伺え、この傾向は『援助交際』に対する抵抗感の弱いものほど強くみられる。特に「若さ」を強調する点で抵抗感の強弱に差が大きく、女子高校生という若者に向かわせる姿勢に対応しているといえよう。女性を商品化して捉えようとする価値観ともいえる。こうした価値観が『援助交際』を許容する心理的背景として作用しているようだ。

女子高校生に対する意識について女子高校生性的魅力尺度を作成して分析した結果、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無のいずれにおいても差がみられ、抵抗感弱群と買春経験者に高い値が示された。女子高校生を性的対象と見なす傾向であり、若い女性に性的魅力を感じることが、『援助交際』の許容的態度や買春行動に向かわせるといえよう。年齢層別に検討すると、若い世代の方が魅力を感じる程度が高い。比較的年齢が近いために身近な交際相手として性的魅力を感じやすいのであろう。

男性性希求に関して、全体的に男らしさを肯定的に捉える様子が伺えるが、「男らしくするよう心がけている」「男だから弱音をはかないようにしている」といった男性性希求を示すものはそれほど多くない。抵抗感の強弱や買春経験の有無による差はみられない。直接的な形で影響していないようだが、他の要因を介して結びつく可能性が残る。今後の検討課題であろう。

人権意識について人権意識尺度を作成し、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無を比較すると、抵抗感の強いものが人権意識も高いが、経験の有無による差は示さ

れない。偏見に関しても、抵抗感の弱いものが「血液型で人を見る」等他者に偏見を抱きやすい傾向が示されたが、経験の有無による差は示されない。一般に、特定の対象に偏見や差別意識を持つものは他の対象に対しても否定的態度を示しやすいとされている。『援助交際』を許容的に認めることと、社会一般に流布している偏見やステレオタイプを無抵抗に受け入れる姿勢とが同一の心理にあるといえよう。従って、『援助交際』についてのマスコミ報道に対しても無批判的に受け入れてしまい、『援助交際』を受容する価値観が形成されてしまう可能性がある。買春経験の有無に差がみられなかつたのは、抵抗感が意識的側面であるのに対して、具体的経験という行動的側面が生起するには、意識よりも家族状況や生活スタイルといった変数が関与しているからであろう。

### 5. 男女平等意識

性差別認識尺度、社会生活における男女平等規範尺度、個人生活における男女平等規範尺度、母性神話尺度を作成して、『援助交際』に対する抵抗感の強弱と買春経験の有無で比較した結果、いずれも有意な差を示さなかつた。しかし項目ごとに分析してみると、「女性に高い学力は必要ない」で抵抗感の弱いものや買春経験者の選択率が高い。さらに「生理中の女性は情緒的に不安定になるので、仕事にさしさわりやすい」も抵抗感の弱いものの選択率が高い。前者は女性に対する学歴不要論で、後者は女性の能力と男性の能力が違うことの合理化によく用いられる発想である。その意味で、何らかの男女平等意識と結びついていることが考えられる。

社会生活における男女平等規範意識、個人生活における男女平等規範意識、買春許容意識、買春経験を変数としてパス解析を試みたところ、「個人生活における男女平等規範意識が低いほど、買春許容意識は高くなる。次いで、買春許容意識の高さは、買春経験に結びつく」という道筋が弱いながらも有意に分析された。社会生活における男女平等規範意識は、道筋に関連性が示されない。

社会生活における男女平等規範意識は、男女のあり方や男女平等に関する一般論を示すものである。一般論としての男女平等意識ではなく、個人生活という自分自身の身近な問題の中で男女平等を考える態度が、買春を抑えるための鍵と言えよう。

### 第4節 まとめと今後の提言

『援助交際』は売買春の一つであるという捉え方がなされているが、『援助交際』の持つ問題性について、女性の地位を低めるといった男女平等の視点からの捉え方はなされていない。逆に、本人の問題であるとか一部の女子高校生の問題としてとらえる傾向が強い。『援助交際』の本質的問題性や自分自身から切り離して捉える姿勢とも言える。『援助交際』の原因について論じることと『援助交際』に対する否定的態度との関連も明確でなく、原因だけを論ずることが『援助交際』に対する抵抗感を生み出しえない。

売買春にはリスクがあるが、これを無くすと性犯罪が増えるといったステレオタイプ的発想も根強くみられる。こうした態度は、売買春を正当化する姿勢にもつながる。ここでもまた、『援助交際』の持つ本質的問題性を捉える姿勢を妨げている。

『援助交際』や買春を否定する態度の背景要因として、妻や家族との情緒的絆の薄さが浮かび上がつた。妻や家族との情緒的絆の喪失感が買春へと駆り立てる一つの要因になつ

ているようだ。職場での不適応感も無縁ではない。風俗的メディアとの接触も関連がみられる。

心理的背景要因として、充実感や自己存在感の低さが指摘される。家族との関係の中に充実感を得られないものが、日常生活の空虚感を埋めるために買春行動に走らせるのだろうか。ぬくもりを求める心理も作用している。人間関係でぬくもりを満たすことができない状況が『援助交際』を許容し買春に向かわせるのかもしれない。

性に対する積極性と男らしさを結びつける傾向があり、特に『援助交際』に対する抵抗感の低いものに顕著であった。買春行動を正当化するのに役立っている。女性の「若さ」を強調する姿勢と『援助交際』に許容的な態度は結びついている。ステレオタイプ的女性観でもあり、女子高校生を性的対象とする姿勢の背景に作用しているようだ。人権意識や偏見の受容と『援助交際』に対する抵抗感とが関連する。ステレオタイプ的女性観と考え合わせると、人間（女性）に対する人権に基づく視点の重要性が指摘できる。

男女平等に関しては、この問題を一般論として論ずるよりも、身近な日常生活の中で考えることの重要性が指摘された。

以上のような結果をふまえると、今後、われわれ大人がなすべき課題がいくつか浮かび上がってくる。まず、『援助交際』という社会現象が、男女平等社会の実現に向けての努力に抗うものであるという認識をいかに定着させていくのかが問われる。この課題を困難にしている一つの原因是、根強いステレオタイプ的な男女観や性に対する価値観である。ステレオタイプ的であるがために、ついあたりまえとして何の疑問もなく受け入れてしまいかねない。ステレオタイプ的視点を通して社会現象を捉えるのではなく、ステレオタイプ的視点そのものに内包される問題性を見据える努力が必要となる。当然、この問題性の中に男女差別的視点が含まれる。しかし多くの成人男性は、自らの視点の中に男女差別的視点が内包されていることを認識していない。従って、一般論として男女平等を論じてみても、自らの視点の中にある差別的視点に気づくことはできない。この大きな課題に立ち向かうためには、日常生活の中での物事の捉え方一つ一つについて、男女平等という視点からの吟味を積み重ねる努力しかないのかもしれない。今回の調査結果がこうした努力に対して何らかの貢献となりうるならば幸いである。

次に、成人男性として家庭生活をいかに安定化させ、その中での人間関係をいかに円滑にしていくのかが問われる。女子高校生の調査結果にしても今回の結果にしても、共通に家庭機能の重要性が浮かび上がっている。情報化が進み、生身の人間関係が希薄化している現代社会にあって、この課題の持つ意味は大きいが難しい。失われた家族との絆を回復させるために、一方的に家族成員にそれを要求してみてもなし得ないであろう。ここでもまた自らの姿勢が問られてくる。家族に期待する前に、自らが家族になしたことを吟味する努力が必要だろう。

いずれにしても『援助交際』という社会現象に対して、それを今日的現象として嘆き、その原因を自らの生き方と切り離して論じてみても生産的と思われない。特に青少年の問題について考える時、自分自身もまた成人男性として、彼らが生きている社会を構成している一員であるという認識が必要となる。この認識を欠いたままいくら論じてみても、青少年の問題行動の一掃は叶わない。成人男性として自らの姿勢を吟味することの重要性が強調されるゆえんである。

## 引 用 文 献

- ベム,S.L. 福富護(訳) 1999 ジェンダーのレンズ 川島書店
- (Bem,S.L. 1993 The lenses of gender: Transforming the debate on sexual inequality. Yale University Press)
- 男性と買春を考える会(編) 1998 『買春に対する男性意識調査』報告書 同会発行.
- 江原由美子 1995 「セクシュアル・ハラスメントの社会問題化」は何をしていることになるのか?—性規範との関連で— 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子 編 日本のフェミニズム6 セクシュアリティ Pp.105-128.
- 福富護 1997 いわゆる『援助交際』に対する女子高校生の意識及び背景要因の分析研究 女性のためのアジア平和国民基金
- 福富護 1999 『援助交際』に対する男性の意識の分析 女性のためのアジア平和国民基金
- 福富護・松井豊・成田健一・上瀬由美子・宇井美代子・菊島充子・櫻庭健一 1998 『援助交際』に対する女子高校生の意識と背景要因 女性のためのアジア平和国民基金
- Goldberg, D. P. 1972 The detection of psychiatric illness by questionnaire. *Maudsley Monographs*, 21. London: Oxford University Press.
- (中川泰彬 訳著編 1981 質問紙法による精神・神経症症状の把握の理論と臨床応用. 国立精神衛生研究所)
- Goldberg, D. P., Gater, R., Sartorius, N., Ustun, T. B., Piccinelli, M., Gureje O, & Rutter, C. 1997 The validity of two versions of the GHQ in the WHO study of mental illness in general health care. *Psychological Medicine*, 27, 191-197.
- 堀毛一也 1994 恋愛関係の発展・崩壊と社会的スキル 実験社会心理学研究, 34, 116-128.
- 伊藤裕子 1997 高校生における性差観の形成環境と性役割選択—性差観スケール(SGC) 作成の試み— 教育心理学研究, 45, 396-404.
- 菊島充子・松井豊・福富護 1999 『援助交際』に対する態度—雑誌や評論の分析と大学生の意識調査から— 東京学芸大学紀要第1部門教育科学, 50, 47-54.
- 菊池章夫 1988 思いやりを科学する—向社会的行動の心理とスキル 川島書店
- マンジョーニ、T.W. (著) 林英夫 (監訳) 1999 郵送調査法の実際—調査における品質管理のノウハウ 同友館
- 松井豊 1990 化粧の心理学 衣生活研究, 17(3), 31-35.
- 松井豊・堀洋道 1982 高校生の性が問いかけるもの 高校教育展望, 7(9), 140-150
- 松井豊・岩男寿美子・菅原健介 1985 化粧の心理的効用(V)—生きがい・充実感との関連から— 日本社会心理学会第26回大会発表論文集
- 宮崎寿子 1999 メディア・リテラシー 橋本良明 (編) 情報行動と社会心理 北樹出版 Pp.107-130.
- 中川泰彬・大坊郁夫 1985 日本版 GHQ 精神健康調査票手引 日本文化科学社
- パルモア, E.B. 1995 エイジズム (奥山正司ら訳) 法政大学出版会

- Rosnow,R. & Rosnow,R.L. 1974 *The Volunteer Subject*. Wiley-Inter Science.
- 白井利明 1997 時間的展望尺度の生涯発達心理学 風間書房
- 総理府広報室編 1995 男女共同参画 月間世論調査,27(12),42-100. 同局発行
- Swim,J.K., Akin,K.J., Hall,W.S., & Hunter,B.A. 1995 Sexism and racism:  
Old-fashioned and modern-fashioned prejudice. *Journal of Personality and Social  
Psychology*,65,199-214.
- 詫摩武俊・天羽幸子・松井豊 1999 現代青少年の「悪い行為」観 日本性格心理学会第  
8回大会発表論文集
- 大和礼子 1995 性別役割分業意識の二つの次元—「性による役割振り分け」と「愛によ  
る再生産役割」— ソシオロジ,40(1),109-126.

付 表

## 現代人の社会意識に関する調査

GT表  
N=664

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、下記のご記入上の注意をご一読の上、  
本アンケートにご回答下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

### <ご記入上の注意>

- ◎ 本アンケートには、20~59才の男性にあてはまる方（あなた様）ご自身が必ずご回答下さい。
- ◎ ご記入は、黒または青のボールペンか濃いエンピツ（B以上）でお願いいたします。
- ◎ ご回答は問1から順番に、本文の注意書き（○○の方だけお答え下さい）などに従って、  
前の方のページから記入もれのないようご記入下さい。
- ◎ ご回答のしかた、ご記入の方法は、下記の注意をご参照下さい。
  - (1) 質問にはあらかじめ回答選択肢が用意されていますので、あてはまる選択肢の番号を○で囲んで下さい。  
○の数は、質問文の最後や選択肢の最初にある注意書きに従って下さい。
    - ・「○はひとつだけ」 選択肢の中から、ひとつだけお選び下さい。
    - ・「○はいくつでも」 選択肢の中から、ひとつ以上いくつでもお選び下さい。
    - ・「a~tまで、○はひとつずつ」 それぞれの項目ごとに、  
あてはまる選択肢をひとつずつお選び下さい。
  - (2) 用意された選択肢の中に、あなたのお考えと一致するものがない場合は、「その他」の  
番号に○をつけ、( ) 内にその内容を具体的にご記入下さい。
- ◎ ご返送いただいたアンケート票は、すべて統計的に処理いたしますので、後でご迷惑をおかけするような  
ことは絶対にございません。ご安心下さい。

ご記入いただきましたアンケートは、三つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）にて、  
9月 16日（木）までにご投函下さるようお願いいたします。

調査票は無記名となっておりますので、ご記入いただきました調査票とは別に、同封いたしましたハガキ（調査票  
送付済通知）をご投函下さい。このハガキが弊社に到着したことで、あなた様が調査票を投函して下さったことの  
確認となります。ハガキが到着した方には、調査票の返送督促をいたしますことは今後一切ございません。

尚、ご不審な点やお問い合わせなどございましたら、下記担当者までお問い合わせ下さい。

### <調査主体>

現代社会意識研究会

代表 東京学芸大学 教育学部  
福富 譲 教授

No.9061 '99 9 MS

### <実施・お問い合わせ先>

株式会社 マーケッティング・サービス  
東京都中野区本町4丁目44番地13号

TEL 03-3382-2361 (代)  
実査担当 関藤佳範

あなたの毎日の生活や日頃お考えになっていることについておたずねします

問1) 次にあげる項目の中で、あなたの日常生活にあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 1.暇があれば、テレビをつけてしまうことが多い | (66.6%) |
| 2.本はほとんど読まない            | (21.8%) |
| 3.仕事以外でも、パソコンを使う        | (30.7%) |
| 4.料理や掃除などの家事をよく行う       | (24.5%) |
| 5.服装の準備など、身の回りのことは自分でする | (64.5%) |
| 6.休日は家族と過ごすことが多い        | (46.4%) |
| 7.学校や仕事が忙しく、帰りが遅い       | (38.3%) |
| 8.家族と一緒に食事をする機会は、ほとんどない | (17.8%) |
| 9.あてはまるものはない            | (1.4%)  |
| 不明                      | (1.1%)  |

問2) では、次にあげる項目は、あなたのふだんの生活や関心にあてはまりますか。

あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 1.自分の携帯電話・P H Sを持っている         | (62.8%) |
| 2.一人暮らしをしている                  | (10.7%) |
| 3.情報番組・雑誌をよく見る                | (47.6%) |
| 4.若者の流行などに関心がある               | (20.6%) |
| 5.おしゃれには、気をつかっている             | (26.5%) |
| 6.ボランティアなどで、障害のある人とかかわってみたい   | (13.0%) |
| 7.女性問題に関心がある                  | (7.8%)  |
| 8.男女平等について、友人と話し合うことがある       | (11.1%) |
| 9.家庭や職場で「女性の自立」について、話し合うことがある | (10.4%) |
| 10.あてはまるものはない                 | (9.3%)  |
| 不明                            | (1.8%)  |

問3) 以下の項目の中で、この2~3週間であなたが読んだり見たりしたものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                       |         |                  |         |
|-----------------------|---------|------------------|---------|
| 1.一般の新聞（読売・朝日など）      | (89.9%) | 6.レンタルビデオ・映画     | (30.4%) |
| 2.スポーツ新聞              | (51.4%) | 7.アダルトビデオ・ポルノ映画  | (9.9%)  |
| 3.夕刊紙（夕刊フジ・日刊ゲンダイなど）  | (18.7%) | 8.風俗情報誌（ナイタイなど）  | (2.7%)  |
| 4.週刊誌（ただしコミックを除く）・月刊誌 | (44.1%) | 9.読んだり見たりしたものはない | (0.6%)  |
| 5.コミック本・コミック雑誌        | (28.6%) | 不明               | (1.4%)  |

問4) 次の中から、現在あなたが充実感を感じることをすべてお選び下さい。

(選択肢・○はいくつでも)			
1.仕事（アルバイト・パートを含む）	(54.1%)	11.読書・手芸などの趣味	(23.6%)
2.家事	(3.8%)	12.おしゃれ	(5.4%)
3.家族の団らん	(39.3%)	13.映画やテレビを見る	(30.7%)
4.育児や子どもの教育・世話	(10.5%)	14.近所の人とのつきあい	(5.1%)
5.同性の友人とのつきあい	(28.9%)	15.貯蓄・利殖	(6.2%)
6.異性の友人とのつきあい	(13.0%)	16.勉強・研究・教養講座	(15.8%)
7.ショッピング（買い物）	(12.2%)	17.墓参り・信仰	(6.0%)
8.食べ歩き・おいしいものを食べる	(23.2%)	18.ボランティア活動	(3.9%)
9.旅行・ドライブ	(43.1%)	19.その他（具体的に）	(2.9%)
10.スポーツ	(34.6%)	20.充実感を感じることはない	(4.2%)
		不明	(1.1%)

問5) あなたの日頃のお気持ちについておたずねします。以下の項目の中で、あなたのお気持ちやあなた自身にあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)	
1.生きていて楽しいと感じる時がある	(61.0%)
2.自分が毎日していることに、大した意味がないと感じる	(10.5%)
3.毎日の生活が充実している	(25.3%)
4.今の生活に満足している	(35.5%)
5.毎日が同じことのくり返しで退屈だ	(13.6%)
6.毎日がなんとなく過ぎていく	(36.4%)
7.私はかけがえのない存在だ	(17.9%)
8.私の代わりは世の中にたくさんいる	(13.6%)
9.あてはまるものはない	(3.9%)
不明	(0.9%)

問6) 以下にあげる気持ちや意見の中に、あなたがふだん感じることや、心がけていることがありますか。  
あなた自身にあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)	
1.男に生まれてよかったです	(61.9%)
2.人から「男らしさ」を求められると、きゅうくつだと感じる	(9.2%)
3.「男らしく」するように心がけている	(23.2%)
4.「男らしく」見えるように、身体を鍛えている	(7.2%)
5.男だから弱音を吐かないようにしている	(33.7%)
6.あてはまるものはない	(18.5%)
不明	(1.2%)

問7) 次にあげた考え方は、あなたの考え方やあなた自身にどのくらいあてはまりますか。「1.あてはまる」から「5.あてはまらない」のうち、最も近いところひとつに○をつけて下さい。

(a~lまで、○はそれぞれひとつずつ)

	あ て は ま る	や や て は ま る	ど ち ら で も ない	あ ま り	あ て は ま ら い	あ て は ま ら い	不 明
--	-----------------------	----------------------------	-----------------------------	-------------	----------------------------	----------------------------	--------

- a. 自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない ..... (18.1%) (35.5%) (16.3%) (16.7%) (12.3%) (1.1%)
- b. 人のために時間やエネルギーを使いたくない ..... (4.2%) (10.4%) (28.6%) (31.9%) (23.3%) (1.5%)
- c. 社会全体のことを考えてもしようがない ..... (6.8%) (11.6%) (25.5%) (30.7%) (23.9%) (1.5%)
- d. 自分さえよければいいと思う ..... (2.7%) (9.0%) (17.9%) (26.2%) (41.9%) (2.3%)
- e. 人に迷惑をかけなければ何をしてもよい ..... (7.2%) (9.9%) (14.0%) (22.7%) (44.0%) (2.1%)
- f. 今が楽しければそれでよい ..... (6.0%) (16.6%) (18.7%) (27.1%) (29.7%) (2.0%)
- g. どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない ..... (9.9%) (17.9%) (15.8%) (28.8%) (25.6%) (2.0%)
- h. 将来のことをいちいち考えて、それにしばられるのは不自由だ .. (10.7%) (21.7%) (22.0%) (25.0%) (18.5%) (2.1%)
- i. 自分が楽しいかどうかが、生きていく上で一番大切なことだ .... (22.6%) (29.5%) (22.6%) (13.1%) (9.9%) (2.3%)
- j. いつも楽しいことだけをしてみたい ..... (14.2%) (18.5%) (28.9%) (21.4%) (15.2%) (1.8%)
- k. しなくてもいい苦労は、ぜったいに避けたい ..... (12.7%) (22.1%) (23.6%) (23.2%) (16.4%) (2.0%)
- l. 楽しくなければ生きているカイがない ..... (20.6%) (29.2%) (21.7%) (15.2%) (11.7%) (1.5%)

問8) 以下の項目の中で、あなた自身の人との接し方にあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも) —————

- |                                      |         |
|--------------------------------------|---------|
| 1.知らない人とも、すぐに会話が始められる                | (42.6%) |
| 2.他人が話しているところに、気軽に参加できる              | (26.4%) |
| 3.自分の感情や気持ちを、素直に表せる                  | (31.3%) |
| 4.相手が自分をどう思っているか読みとることができる           | (28.2%) |
| 5.気まずいことがあった相手とうまく仲直りできる             | (27.1%) |
| 6.まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に解決できる | (24.7%) |
| 7.相手の立場をよく考えて行動することができる              | (53.6%) |
| 8.相手に自分をうまくあわせることができる                | (53.3%) |
| 9.あてはまるものはない                         | (11.1%) |
| 不明                                   | (1.2%)  |

問9) 以下の項目の中で、あなたの人との接し方や気持ちにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| 1.誰かにそばにいてほしい、と思うことがある    | (48.5%) |
| 2.誰かにやさしくしてほしい、と思うことがある   | (37.7%) |
| 3.異性とふれあっている時は、さびしさを忘れられる | (21.2%) |
| 4.たまらなくさびしくなることがある        | (16.9%) |
| 5.人のあたたかさがむしように欲しくなることがある | (17.9%) |
| 6.私がいなくても、誰も困らない          | (6.5%)  |
| 7.私がどうなっても悲しむ人はいない        | (2.0%)  |
| 8.私のことを心から心配してくれる人はいない    | (1.7%)  |
| 9.誰も私を相手にしてくれないような気がする    | (1.4%)  |
| 10.あてはまるものはない             | (31.5%) |
| 不明                        | (2.4%)  |

問10) 以下の項目は職場（学校）でのあなたの様子やあなたの考えにどのくらいあてはまりますか。  
あなたにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                            |         |
|----------------------------|---------|
| 1.職場（学校）で、私の実力が評価されている     | (46.2%) |
| 2.職場（学校）では、いつも損をしていると思う    | (16.6%) |
| 3.職場（学校）では、イライラする          | (19.9%) |
| 4.職場（学校）の多くの人から好かれている      | (28.8%) |
| 5.職場（学校）では、誰も本当の私をわかってくれない | (7.2%)  |
| 6.職場（学校）には、自分を支えてくれる人がいる   | (42.9%) |
| 7.職場（学校）には、私の居場所がない        | (1.5%)  |
| 8.職場（学校）での未来に希望を持っている      | (23.2%) |
| 9.あてはまるものはない               | (15.7%) |
| 不明                         | (2.6%)  |

問11) あなたはこの4～5年の間に、以下の行動を経験したことがありますか。a～nそれぞれについて、経験した場合には「1.はい」に、経験していない場合には「2.いいえ」に○をつけて下さい。

(a～nまで、○はそれぞれひとつずつ)

1. はい 2. いいえ 不明

a. パチンコをした	(49.2%)	(47.4%)	(3.3%)
b. 公営ギャンブル（競馬・競輪・競艇など）をやった	(36.9%)	(57.4%)	(5.7%)
c. カケマ雀をした	(22.9%)	(69.9%)	(7.2%)
d. テレクラ・Q2・伝言ダイアルを利用した	(5.7%)	(85.5%)	(8.7%)
e. 成人向けインターネット（wwwなど）を見た	(18.8%)	(73.0%)	(8.1%)
f. 性風俗（ソープ、ファッショナブルス、デートクラブ、ホテルなど）を利用した	(12.5%)	(79.4%)	(8.1%)
g. 電車をキセル（無賃乗車）した	(17.9%)	(74.1%)	(8.0%)
h. 女子高校生を街でナンパした	(2.6%)	(88.7%)	(8.7%)
i. 女子高校生に金品を渡して、喫茶店に行ったりデートした	(0.2%)	(91.0%)	(8.9%)
j. 女子高校生に金品を渡して、セックス等の性的行為をした	(0.3%)	(90.7%)	(9.0%)
k. ほかの男性の妻（人妻）と、セックスをした	(3.5%)	(87.8%)	(8.7%)
l. 妻（未婚の方は恋人）以外の女性と、セックスをした	(12.8%)	(78.5%)	(8.7%)
m. 海外で売春婦を買った	(2.3%)	(88.9%)	(8.9%)
n. 喫茶店やレストランの灰皿などを持ち帰った	(6.2%)	(86.3%)	(7.5%)
援助交際(金品)経験あり (iかjどちらか①)	(0.3%・n=2)	あり (99.7%)	なし (①なし・不明含む)
援助交際(h.ナシ含む) 経験あり (hかiかjいずれか①)	(2.7%・n=18)	(97.3%)	

問12) 以下にセックスに関する様々な意見や気持ちがあげられています。これらの中で、あなた自身の気持ちや考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- 1.あとくされのないセックスならしてみたい (44.3%)
- 2.いろんな相手とセックスしてみたい (22.3%)
- 3.もっとセックスを楽しみたい (30.0%)
- 4.セックスは男女間の最高のコミュニケーションだ (25.0%)
- 5.愛がなくてもセックスできる (34.2%)
- 6.お互いの愛を確かめ合うには、セックスが必要だ (36.4%)
- 7.女性はどんなにセックスを望んでいても、嫌がるふりをするものだ (6.5%)
- 8.結局女性は、性的に強い男に惹かれるものだ (6.2%)
- 9.あてはまるものはない (19.9%)
- 不明 (2.7%)

ここからは、現代の女子高校生に対するあなたのお考えをうかがいます

問13) 以下に、女子高校生一般について、様々な意見があげられています。これらの中で、あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                                     |         |
|-------------------------------------|---------|
| 1. 女子高校生の茶髪（髪を染めること）に、抵抗を感じる        | (51.2%) |
| 2. 女子高校生と一緒にいると、自分も若返るように感じる        | (9.6%)  |
| 3. 女子高校生は、セックスのことについても、自分で決めることができる | (17.8%) |
| 4. 女子高校生には、清純なイメージがある               | (21.8%) |
| 5. 女子高校生の制服に魅力を感じる                  | (13.7%) |
| 6. 女子高校生というだけで、特別の魅力を感じる            | (4.4%)  |
| 7. 女子高校生とつきあってみたい                   | (5.1%)  |
| 8. 女子高校生なら、つきあったときに言うことを聞いてくれそうだ    | (0.6%)  |
| 9. あてはまるものはない                       | (25.8%) |
| 不明                                  | (1.2%)  |

問14) あなた自身が、【金品と引換えに女子高校生とお茶やデートすること】に、どのくらい抵抗を感じますか。「1. 抵抗を感じる」から「4.全く抵抗を感じない」のうち、最も近いところひとつに○をつけて下さい。(○はひとつ)

- [ 1.抵抗を感じる 2.少し抵抗を感じる 3.あまり抵抗を感じない 4.全く抵抗を感じない ] 不明  
(81.3%) (11.6%) (3.8%) (2.0%) (1.4%)

問15) では、あなた自身が、【金品と引換えに女子高校生とセックス（性交）すること】に、どのくらい抵抗を感じますか。「1.抵抗を感じる」から「4.全く抵抗を感じない」のうち、最も近いところひとつに○をつけて下さい。(○はひとつ)

- [ 1.抵抗を感じる 2.少し抵抗を感じる 3.あまり抵抗を感じない 4.全く抵抗を感じない ] 不明  
(84.6%) (9.5%) (3.0%) (1.5%) (1.4%)

問16) 以下に「女子高校生の援助交際」について様々な意見があげられています。これらの中で、あなたの考え方や思いに、多少ともあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |   |         |
|---|---------|
| 1. 援助交際をする女子高校生は、ほんの一部だと思う                | (73.9%) |
| 2. 援助交際は、金を出す男性の問題である                     | (54.7%) |
| 3. 援助交際をする女子高校生は、親（家庭）に問題がある              | (53.9%) |
| 4. 女子高校生が援助交際をするのは、学校に問題がある               | (11.4%) |
| 5. 援助交際をする女子高校生は、本人に問題がある                 | (78.3%) |
| 6. 女子高校生が援助交際をするのは、マスコミに問題がある             | (35.5%) |
| 7. 女子高校生が援助交際をすると、まともな生活が送れなくなると思う        | (39.3%) |
| 8. 人に迷惑をかけないのなら、女子高校生が援助交際をしてもよい          | (6.6%)  |
| 9. 援助交際は本人の問題であり、他人はとやかく言えない              | (18.8%) |
| 10. 援助交際のどこが問題なのかわからない                    | (1.4%)  |
| 11. 援助交際は売春のひとつである                        | (78.5%) |
| 12. 援助交際は女性の地位を低めると思う                     | (34.3%) |
| 13. 援助交際は女性に対する侮辱（ぶじょく）だと思う               | (16.3%) |
| 14. 成人女性に相手にされないような男性が、女子高校生と援助交際をするのだと思う | (17.6%) |
| 15. あてはまるものはない                            | (2.4%)  |
| 不明  | (0.8%)  |

ここからは、一般的の男性や女性に関する意見をうかがいます

問17) 以下に、女性に関する様々な意見があげられています。これらの中で、あなたの意見や考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 女性は、男性を包み込む大きな存在である       | (33.9%) |
| 2. 女性がいると、職場（学校）の雰囲気がやわらぐ    | (77.3%) |
| 3. 女性にとって、若さは最大の魅力である        | (22.6%) |
| 4. 美しくなければ女としての価値はない         | (5.3%)  |
| 5. 女性は、いざとなれば身体を売れるから、楽でよい   | (3.9%)  |
| 6. 男性経験のない女性には、神聖な魅力がある      | (4.5%)  |
| 7. 痴漢されたという女性の多くは、自意識過剰である   | (8.3%)  |
| 8. レイプされる女性は、服装や行動に何らかの問題がある | (19.0%) |
| 9. あてはまるものはない                | (12.8%) |
| 不明                           | (0.5%)  |

問18) 以下に、男性一般のセックスについて様々な意見があげられています。これらの中で、男性一般に関するあなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 1. 男は、多くの女性とセックスしたいと思うものだ     | (56.2%) |
| 2. セックスは男がリードするものだ            | (24.7%) |
| 3. 男の性欲はコントロールできない            | (8.4%)  |
| 4. 女性を性的に満足させられない男は、「男」とは言えない | (8.9%)  |
| 5. 男はセックスして、はじめて一人前になる        | (5.6%)  |
| 6. 男にとって、下半身と人格は別ものである        | (17.9%) |
| 7. 男は、性的にだらしなくても、仕事ができればよい    | (2.1%)  |
| 8. 仕事のできる男ほど、女遊びも盛んである        | (15.5%) |
| 9. あてはまるものはない                 | (24.8%) |
| 不明                            | (1.2%)  |

問19) あなたは、売買春についてどのようにお考えですか。  
これらの中で、あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                                 |         |
|---------------------------------|---------|
| 1. 売買春がなくなったら、性犯罪が増える           | (32.4%) |
| 2. 女性とつきあえない男性が、買春するのは当然だ       | (14.2%) |
| 3. 買春するのは、男性の本能だと思う             | (16.0%) |
| 4. 買春した女性とも、心のふれあいを感じることができる    | (11.1%) |
| 5. 売春している女性は、セックスが好きな特別な女性だ     | (3.3%)  |
| 6. 売買春は女性の人権を侵害している             | (14.8%) |
| 7. 買春すると、性病をうつされてしまう危険がある       | (58.1%) |
| 8. 買春すると、犯罪に巻き込まれやすい            | (22.1%) |
| 9. 買春しても警察に捕まらない自信がある           | (0.9%)  |
| 10. 買春による性病の感染は、自分が気をつければ防げると思う | (11.3%) |
| 11. あてはまるものはない                  | (19.9%) |
| 不明                              | (0.9%)  |

ここからは、女性や男性の問題についておたずねします

問20) 以下に、現代社会に関する意見があげられています。これらの中で、あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| 1. 現代の日本では、女性差別はほとんどなくなっている  | (17.3%) |
| 2. 今の社会は、女性を持ち上げすぎている        | (22.7%) |
| 3. 女性に管理職が少ないのは、女性が望まないからである | (9.6%)  |
| 4. 女性は男性と比べて、雇用される機会が少ない     | (38.6%) |
| 5. 現代の社会では、男性の方が優遇されている      | (44.6%) |
| 6. マスコミでは、女性を差別するような表現が多い    | (10.8%) |
| 7. 現代女性には、家事の負担がかかりすぎている     | (33.7%) |
| 8. あてはまるものはない                | (9.8%)  |
| 不明                           | (2.3%)  |

問21) では、次のような意見についてどのように思いますか。あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                                 |         |
|---------------------------------|---------|
| 1. 女性は子どもが生まれても仕事を続けた方がいい       | (28.8%) |
| 2. 男性は仕事を中心に、女性は家庭を中心に行きたい      | (39.3%) |
| 3. 女性は社会で活躍するよりも、家事や育児をしている方がいい | (17.6%) |
| 4. 男は「男らしく」、女は「女らしく」するのがいい      | (38.3%) |
| 5. 女性に高い学歴は必要ない                 | (4.8%)  |
| 6. 家事は夫婦で分担した方がいい               | (39.6%) |
| 7. 男女の関係は、常に対等であるべきだ            | (41.7%) |
| 8. 国会など国の方針を決める場で、女性の数が少なすぎる    | (32.8%) |
| 9. あてはまるものはない                   | (5.3%)  |
| 不明                              | (2.9%)  |

問22) 子育てや女性については、様々な意見があります。次にあげる意見の中で、あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                                      |         |
|--------------------------------------|---------|
| 1. 子育ては、父親と母親が共同してやっていくものである         | (81.6%) |
| 2. 三歳までは、母親が子育てをした方がいい               | (14.8%) |
| 3. 子どもが小さいうちは、母親が家庭にいないときちゃんと育たない    | (45.6%) |
| 4. 女性は子どもを産んで、はじめて一人前になる             | (7.2%)  |
| 5. 母性は、女性の最大の特徴である                   | (42.8%) |
| 6. 女性は生まれつき母性本能を持っている                | (36.9%) |
| 7. 男性の中にも、母性本能を持っている人がいる             | (20.3%) |
| 8. 女性にとって、子どもを産み育てていくことが、人生の最大の仕事である | (19.9%) |
| 9. 母親が子どもを虐待するのは、父親にも原因がある           | (55.9%) |
| 10. 女性は出産するので、男性と同じレベルの仕事はできない       | (9.8%)  |
| 11. 生理中の女性は情緒的に不安定になるので、仕事にさしさわりやすい  | (15.7%) |
| 12. あてはまるものはない                       | (2.4%)  |
| 不明                                   | (2.4%)  |

問23) 以下に社会のあり方に関する様々な意見があげられています。これらの意見の中で、あなたのお考えや気持ちにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                            |         |
|----------------------------|---------|
| 1. どんな人も平等である              | (58.3%) |
| 2. ある種の人々は、差別を受けても仕方がない    | (10.7%) |
| 3. 犯罪者的人権を尊重するのは、不愉快だ      | (39.5%) |
| 4. どんな人であっても、人権を認めなければならない | (31.5%) |
| 5. 現実的にはすべての人を尊重することは不可能だ  | (49.7%) |
| 6. あてはまるものはない              | (2.9%)  |
| 不明                         | (2.3%)  |

問24) 以下に社会のものごとに関するいろいろな意見があげられています。これらの中で、あなたのお考えにあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| 1. 人の性格は血液型によって異なると思う             | (23.8%) |
| 2. 人種によって、頭の善し悪しは違うと思う            | (8.7%)  |
| 3. 日本に働きに来ている外国人と、もっと積極的に交流すべきだ   | (28.0%) |
| 4. 太りすぎの人は、自分自身をコントロールできない弱い人である  | (17.9%) |
| 5. 障害を持つ人は、持たない人よりも粘り強い           | (21.8%) |
| 6. 障害のある人の気持ちを理解したいと思う            | (46.2%) |
| 7. 障害があっても、設備さえ整えば、働くことに支障はない     | (59.6%) |
| 8. 福祉を受けている人の中には、自分の境遇に甘えているものがいる | (33.4%) |
| 9. あてはまるものはない                     | (7.8%)  |
| 不明                                | (2.3%)  |

あなたの健康状態についておたずねします。この2～3週間のこと思い出してお答え下さい。

問25) 次のそれぞれの項目について、この2～3週間のあなたの状態をふりかえって、一番近いと思われるものをお選び下さい。(a～nまで、それぞれ〇はひとつづつ)

a.何かをする時にいつもより集中して………

- |         |               |               |                |        |
|---------|---------------|---------------|----------------|--------|
| [ 1.できた | 2.いつもと変わらなかった | 3.いつもよりできなかつた | 4.まったくできなかつた ] | 不明     |
| (18.1%) | (69.4%)       | (9.5%)        | (1.4%)         | (1.7%) |

b.心配ごとがあつて、よく眠れないようなことは………

- |              |           |         |             |        |
|--------------|-----------|---------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.あまりなかつた | 3.あつた   | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (28.9%)      | (43.8%)   | (19.7%) | (5.9%)      | (1.7%) |

c.いつもより自分のしていることに生きがいを感じることが………

- |         |               |         |              |        |
|---------|---------------|---------|--------------|--------|
| [ 1.あつた | 2.いつもと変わらなかつた | 3.なかつた  | 4.まったくなかつた ] | 不明     |
| (17.2%) | (63.6%)       | (15.4%) | (2.3%)       | (1.7%) |

d.いつもより容易に物ごとを決めることが………

- |         |               |          |                |        |
|---------|---------------|----------|----------------|--------|
| [ 1.できた | 2.いつもと変わらなかつた | 3.できなかつた | 4.まったくできなかつた ] | 不明     |
| (11.3%) | (76.5%)       | (9.2%)   | (1.1%)         | (2.0%) |

e.いつもストレスを感じたことが………

- |              |           |         |             |        |
|--------------|-----------|---------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.あまりなかつた | 3.あつた   | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (7.5%)       | (43.1%)   | (36.4%) | (11.3%)     | (1.7%) |

f.問題を解決できなくて困ったことが………

- |              |           |         |             |        |
|--------------|-----------|---------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.あまりなかつた | 3.あつた   | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (16.9%)      | (48.9%)   | (28.0%) | (4.5%)      | (1.7%) |

g.いつもより問題があつたときに積極的に解決しようとすることが………

- |         |               |          |                |        |
|---------|---------------|----------|----------------|--------|
| [ 1.できた | 2.いつもと変わらなかつた | 3.できなかつた | 4.まったくできなかつた ] | 不明     |
| (16.3%) | (69.9%)       | (10.1%)  | (1.1%)         | (2.7%) |

h.いつもより気が重くて、憂うつ(ゆううつ)になることは………

- |              |               |         |             |        |
|--------------|---------------|---------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.いつもと変わらなかつた | 3.あつた   | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (18.1%)      | (48.0%)       | (26.5%) | (5.4%)      | (2.0%) |

i.自信を失ったことは………

- |              |           |         |             |        |
|--------------|-----------|---------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.あまりなかつた | 3.あつた   | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (27.9%)      | (48.0%)   | (19.6%) | (2.9%)      | (1.7%) |

j.自分は役に立たない人間だと考えたことは………

- |              |           |        |             |        |
|--------------|-----------|--------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.あまりなかつた | 3.あつた  | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (45.9%)      | (40.8%)   | (9.0%) | (2.0%)      | (2.3%) |

k.一般的みて、しあわせといつもより感じることは………

- |             |         |         |              |        |
|-------------|---------|---------|--------------|--------|
| [ 1.たびたびあつた | 2.あつた   | 3.なかつた  | 4.まったくなかつた ] | 不明     |
| (10.1%)     | (45.0%) | (39.5%) | (2.7%)       | (2.7%) |

l.ノイローゼ気味で何もすることができないと考えたことは………

- |              |           |        |             |        |
|--------------|-----------|--------|-------------|--------|
| [ 1.まったくなかつた | 2.あまりなかつた | 3.あつた  | 4.たびたびあつた ] | 不明     |
| (70.2%)      | (22.3%)   | (4.4%) | (0.8%)      | (2.4%) |

m.いつもより日常生活を楽しく送ることが………

- |         |               |          |                |        |
|---------|---------------|----------|----------------|--------|
| [ 1.できた | 2.いつもと変わらなかつた | 3.できなかつた | 4.まったくできなかつた ] | 不明     |
| (12.8%) | (78.3%)       | (6.0%)   | (0.9%)         | (2.0%) |

n.性的欲求を感じることが………

- |             |         |         |              |        |
|-------------|---------|---------|--------------|--------|
| [ 1.たびたびあつた | 2.あつた   | 3.なかつた  | 4.まったくなかつた ] | 不明     |
| (14.6%)     | (60.4%) | (20.8%) | (2.3%)       | (2.0%) |

最後に、あなたのご家族についておたずねします

問26) あなたには現在、奥さん（配偶者）がいらっしゃいますか。（○はひとつだけ）

[ 1.配偶者はいない (28.8%)    2.配偶者がいる ] (69.9%)    不明 (1.4%)



N=191

付問1) 配偶者の「いない」方だけお答え下さい。

恋人はいらっしゃいますか。（○はひとつだけ）

[ 1.恋人がいる (26.7%)    2.恋人はいない (72.8%)  
不明 (0.5%)

N=464

付問2) 配偶者の「いる」方だけお答え下さい。

奥様とは一緒に住まいですか。（○はひとつだけ）

[ 1.同居している (97.6%)    2.別居している (1.9%)    不明 (0.4%)

付問3) 以下のうち奥様との関係にあてはまるものに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1.妻は私に対して暖かい        | (60.6%) |
| 2.妻は私の気持ちを分かろうとしている | (54.7%) |
| 3.妻から十分に愛されていると思う   | (47.2%) |
| 4.妻は頼りになる           | (65.5%) |
| 5.妻は私を尊敬している        | (31.0%) |
| 6.私たち夫婦の仲は、よそに比べてよい | (53.0%) |
| 7.あてはまるものはない        | (9.1%)  |
| 不明                  | (1.1%)  |

付問4) 奥様の勤め方は、以下のどれにあてはまりますか。（○はひとつだけ）

- |                  |         |
|------------------|---------|
| 1.家で店や会社をやっている   | (7.8%)  |
| 2.家の仕事の手伝いをしている  | (3.9%)  |
| 3.フルタイムで勤めに出ている  | (13.6%) |
| 4.パートタイムで勤めに出ている | (26.3%) |
| 5.内職をしている        | (2.6%)  |
| 6.専業主婦           | (43.8%) |
| 7.その他（具体的に）      | (0.0%)  |
| 不明               | (2.2%)  |

N=664

問27) 離婚や奥様と死別された経験はありますか。あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                  |                  |                     |            |
|------------------|------------------|---------------------|------------|
| 1.離婚経験がある (5.4%) | 2.死別経験がある (1.2%) | 3.離死別の経験はない (78.0%) | 不明 (15.4%) |
|------------------|------------------|---------------------|------------|

問28) お子さまはいますか。（同別居を問わず、お答え下さい。お子さまが結婚されている場合にも「いる」とお答え下さい。）（○はひとつだけ）

[ 1.息子と娘がいる (27.3%)    2.息子がいる (17.5%)    3.娘がいる (17.9%)    4.子どもはいない ]    不明 (29.2%)    (8.1%)

問29) ご家族との関係についてうかがいます。以下のなかでご家族との関係にあてはまるものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                     |         |                     |         |
|---------------------|---------|---------------------|---------|
| 1.私の家族は暖かい          | (56.9%) | 6.家族は私を必要としている      | (59.2%) |
| 2.家族は互いの気持ちを思いやっている | (46.2%) | 7.私たち家族は、仲がよいと思う    | (58.3%) |
| 3.家族の絆は強い方だ         | (45.6%) | 8.家族から十分に愛されていると思う  | (41.1%) |
| 4.家族とはよく話をしている      | (55.9%) | 9.家族にあてはまるものは上記にはない | (7.5%)  |
| 5.家族は私を頼りにしている      | (47.6%) | 10.家族はいない           | (1.8%)  |
|                     |         | 不明                  | (1.8%)  |

問30) あなたは次のような意見についてどのように思いますか。あなたの妻、もしくは将来妻となる人を想定して、あなたの考えに合うものすべてに○をつけて下さい。

(選択肢・○はいくつでも)

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 1.私は仕事を中心に、妻は家庭を中心生活したい        | (42.9%) |
| 2.妻には社会的な活動よりも、家事や育児をしてもらいたい   | (25.6%) |
| 3.家事は妻と私が分担したい                 | (28.0%) |
| 4.私と妻の関係は常に対等でありたい             | (47.0%) |
| 5.家庭の問題（子どもの教育など）は、妻に任せたい      | (6.9%)  |
| 6.男の子には男の子らしく、女の子には女の子らしくしつけたい | (50.0%) |
| 7.あてはまるものはない                   | (9.8%)  |
| 不明                             | (2.1%)  |

問31) あなたの職業の職種は以下のどれにあたりますか。（○はひとつだけ）

- |  |         |
|--|---------|
| 1.商工自営業（自営職人を含む、自営業及び家族従業員）                | (14.5%) |
| 2.管理職（公共機関、企業・団体で管理的機能を有する者）               | (18.2%) |
| 3.専門技術職（芸能・編集関係を含む専門的な技能を持つ者、及び公的資格保有者）    | (14.6%) |
| 4.事務・営業職（公共機関、企業・団体で事務的な仕事に従事する者、管理職を除く）   | (13.7%) |
| 5.現業職（製造、建設・土木、運輸、保安などの職業に従事する者、及び勤めている職人） | (20.8%) |
| 6.サービス関連従事者（小売り・卸売店従業員、その他サービス業に従事する者）     | (9.6%)  |
| 7.学生                                       | (2.7%)  |
| 8.その他（具体的に：）                               | (1.5%)  |
| 9.無職                                       | (3.0%)  |
| 不明   | (1.4%)  |
| 10.※有職者 計                                  | (92.9%) |
| 11.※学生・無職 計                                | (5.7%)  |

問32) あなたの年齢をご記入下さい。(数字で具体的に)

\_\_\_\_\_歳

20～24才	(7.7%)
25～29才	(11.0%)
30～34才	(11.0%)
35～39才	(12.3%)
40～44才	(11.7%)
45～49才	(13.3%)
50～54才	(17.3%)
55～59才	(14.5%)
不明	(1.2%)
平均年齢	41.65 才

問33) あなたが最後に卒業(中退を含む)された、あるいは現在在学されている学校はどれですか。(○はひとつだけ)

1. 小学校・中学校 (6.2%)
2. 高等学校 (31.6%)
3. 各種学校・専修(専門)学校 (10.7%)
4. (工業)高等専門学校・短期大学 (5.1%)
5. 大学・大学院 (44.7%)
6. その他(具体的に: ) (0.0%)
- 不明 (1.7%)

問34) あなたの現在の衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準は、世間一般と比べてみて、次のどれにあたると思われますか。あなたの実感でお答え下さい。(○はひとつだけ)

- |               |                |               |
|---------------|----------------|---------------|
| 1. 上の上 (0.9%) | 4. 中の上 (27.1%) | 7. 下の上 (8.4%) |
| 2. 上の中 (4.1%) | 5. 中の中 (29.8%) | 8. 下の中 (4.1%) |
| 3. 上の下 (4.5%) | 6. 中の下 (18.2%) | 9. 下の下 (1.5%) |
|               |                | 不明 (1.4%)     |

以上で質問は終了です。長い間ご協力いただきましてまことにありがとうございました。

リスト情報

年齢 ('99 9月1日現在)	20~24才	(8.0%)
	25~29才	(11.0%)
	30~34才	(11.1%)
	35~39才	(12.0%)
	40~44才	(11.9%)
	45~49才	(13.7%)
	50~54才	(16.9%)
	55~59才	(14.5%)
	シーケンス不明	(0.9%)

平均年齢 41.58 才

リスト 年令	TOTAL	Q32 年令										TOTAL	平均 年 令
		20	25	30	35	40	45	50	55	無 回 答			
		%	%	%	%	%	%	%	%	%			
	TOTAL	100.0 664	7.7 51	11.0 73	11.0 82	12.3 88	11.7 78	13.3 88	17.3 115	14.5 96	1.2 8	100.0 656	41.65
リスト 年令	20 ~ 24 才	100.0 53	96.2 51	3.8 2	-	-	-	-	-	-	-	8.1 53	22.28
	25 ~ 29 才	100.0 73	-	97.3 71	1.4 1	-	-	-	-	-	-	11.0 72	27.29
	30 ~ 34 才	100.0 74	-	-	97.3 72	1.4 1	-	-	-	-	-	11.1 73	31.75
	35 ~ 39 才	100.0 80	-	-	-	97.5 78	2.5 2	-	-	-	-	12.2 80	37.13
	40 ~ 44 才	100.0 79	-	-	-	1.3 1	96.2 76	2.5 2	-	-	-	12.0 79	41.95
	45 ~ 49 才	100.0 91	-	-	-	-	-	94.5 86	2.2 2	-	-	13.4 88	47.48
	50 ~ 54 才	100.0 112	-	-	-	-	-	-	97.3 109	1.8 2	0.9 1	16.9 111	51.83
	55 ~ 59 才	100.0 96	-	-	-	-	-	-	-	1.0 1	96.9 93	14.3 94	56.98
	シーケンス 不明	100.0 6	-	-	-	13.3 2	-	-	50.0 3	16.7 1	-	0.9 6	48.33

- 年齢マッチング
- 回答一致 (87.2%)
  - 差±1才 (9.5%)
  - 差±2才 (0.8%)
  - 差±3~5才 (0.5%)
  - どちらか不明 (2.1%)
  - \*回答不一致計 (12.8%)

未既婚 配偶者あり (27.6%)  
 配偶者なし (69.4%)  
 シーケンス不明 (3.0%)

	T O T A L	問26 配偶者の有無		
		配偶者は い な い	配偶者 が い る	無 回 答
T O T A L	100.0 664	28.8 191	69.9 464	1.4 9
リポ ス者 の 有 無	配偶者は いらない 183	100.0 183	92.3 169	6.0 11
	配偶者が い る 461	100.0 461	3.0 14	95.9 442
				1.1 5

- 回収日 1. 督促なし (61.0% · n=405)  
 2. 督促1回目(ハガキ) (19.3% · n=128)  
 3. 督促2回目(調査票再送) (17.3% · n=115)  
 4. 督促3回目(ハガキ) (2.4% · n= 16)

その他書き一覧

Q 4 充実感を感じる事柄	19票
・歌、バンド	2
・カラオケ	1
・パソコン、インターネット	2
・釣り	2
・散歩	1
・サイクリング	1
・競馬	1
・競輪	1
・パチンコ	1
・ギャンブルに勝ったとき	1
・家庭菜園	1
・農作業	1
・洗車	1
・自作ビデオ	1
・仕事仲間とのつきあい	1
・寝ること、体を休めること	1
・インテリアの造形やプランニング	1
・具体的なことではなくちょっとしたはずみや気分的に	1

Q 3 1 職業	10票
・農業	2
・公務員	2
・地方公務員	2
・郵政職員	1
・自衛官	1
・消防士	1
・アルバイト	1

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

-222-

		TOTAL	問1 日常生活の行動（知性派・バリバリ派）												問2 普段の生活や関心事（流行敏感・自立関心）											
問2 年代	問3 援助交際態度		暇があつかけられればこそとんどん眺まない	本はほとんど読まない	仕事以外でもパソコンを使う	料理家事をする	服身の回りの準備などを行う	休日は家族と一緒に過ごすことが多い	学年や仕事が遅い	忙しく帰宅する機会がない	あてはまるものはない	あてはまるものはない	不明	自分PHS持つている	一人暮らしをしている	情報番組・雑誌を見る	若者の流行心などにある	おしゃれには気をつけている	ボランティアなどに参加する	女性問題に興味がある	男女平等等に話し合っている	家庭や職場について話すことがある	ついて話す立場について話す立場	あてはまるものはない	不明	
	TOTAL	100.0 664	66.6 442	21.8 145	30.7 204	24.5 163	64.5 428	46.4 308	38.3 254	17.8 118	1.4 9	1.1 7	62.8 417	10.7 71	47.6 316	20.6 137	26.5 176	13.0 86	7.8 52	11.1 74	10.4 69	9.3 62	1.8 12			
	20～24才	100.0 51	70.6 36	29.4 15	27.5 14	19.6 10	62.7 32	25.5 13	45.1 23	25.5 13	5.9 3	-	86.3 44	9.8 5	49.0 25	39.2 20	37.3 19	13.7 7	11.8 6	13.7 7	3.9 2	3.9 2	-			
	25～29才	100.0 73	68.5 50	17.8 13	34.2 25	19.2 14	74.0 54	34.2 25	35.6 26	19.2 14	1.4 1	1.4 1	78.1 57	24.7 18	46.6 34	27.4 20	24.7 18	12.3 9	8.2 6	8.2 6	8.2 6	8.2 6	2.7 2			
	30～34才	100.0 73	68.5 50	23.3 17	32.9 24	27.4 20	72.6 53	54.8 40	58.9 43	26.0 19	-	-	65.8 48	21.9 16	49.3 36	30.1 22	28.8 21	11.0 8	11.0 8	6.8 5	8.2 6	9.6 7	-			
	35～39才	100.0 82	67.1 55	25.6 21	37.8 31	24.4 20	69.5 57	58.5 48	42.7 35	26.8 22	-	1.2 1	72.0 59	12.2 10	47.6 39	13.4 11	22.0 18	9.8 8	8.5 7	11.0 9	8.5 7	6.1 5	2.4 2			
	40～44才	100.0 78	62.8 49	25.6 20	39.7 31	19.2 15	56.4 44	52.6 41	39.7 31	16.7 13	-	1.3 1	60.3 47	7.7 6	50.0 39	14.1 11	19.2 15	11.5 9	5.1 4	14.1 11	6.4 5	7.7 6	2.6 2			
	45～49才	100.0 88	67.0 59	15.9 14	30.7 27	28.4 25	64.8 57	47.7 42	40.9 36	13.6 12	1.1 1	1.1 1	60.2 53	10.2 9	43.2 38	17.0 15	28.4 25	9.1 8	2.3 2	14.8 13	14.8 13	14.8 13	1.1 1			
	50～54才	100.0 115	65.2 75	20.9 24	24.3 28	27.0 31	59.1 68	44.3 51	32.2 37	13.9 16	0.9 1	1.7 2	55.7 64	2.6 3	47.0 54	19.1 22	27.0 31	18.3 21	10.4 12	12.2 14	17.4 20	7.8 9	2.6 3			
	55～59才	100.0 96	66.7 64	19.8 19	21.9 21	27.1 26	61.5 59	45.8 44	21.9 21	9.4 9	2.1 2	1.0 1	40.6 39	4.2 4	47.9 46	14.6 14	28.1 27	14.6 14	6.3 6	7.3 7	8.3 8	14.6 14	2.1 2			
	不 明	100.0 8	50.0 4	25.0 2	37.5 3	25.0 2	50.0 4	50.0 4	25.0 2	-	12.5 1	-	75.0 6	-	62.5 5	25.0 2	25.0 2	12.5 1	25.0 2	25.0 2	-	-	-			
買春経験	抵抗感あり	抵抗感 あり	100.0 562	66.2 372	21.0 118	30.4 137	24.4 358	63.7 267	47.5 224	39.9 92	16.4 11	1.2 1	1.1 1	61.2 344	9.8 55	47.5 267	19.9 112	26.9 151	12.6 71	7.3 41	11.0 62	10.5 59	10.0 56	1.8 10		
		抵抗感 なし	100.0 93	69.9 65	26.9 25	34.4 32	24.7 23	68.8 64	41.9 39	29.0 27	26.9 25	1.1 1	-	73.1 68	16.1 15	48.4 45	24.7 23	24.7 23	12.9 12	9.7 9	9.7 9	7.5 7	6.5 6	1.1 1		
		不 明	100.0 9	55.6 5	22.2 2	11.1 1	33.3 3	66.7 6	22.2 2	33.3 3	11.1 1	11.1 1	11.1 1	55.6 5	11.1 1	44.4 4	22.2 2	22.2 3	33.3 2	22.2 3	33.3 3	33.3 3	-	11.1 1		
買春経験	買春経験あり	買春経験 あり	100.0 89	66.3 59	24.7 22	33.7 30	23.6 21	69.7 62	29.2 26	41.6 37	29.2 26	-	1.1 1	70.8 63	25.6 23	46.1 41	28.1 25	29.2 26	12.4 11	14.6 13	10.1 9	6.7 6	6.7 6	2.2 2		
		買春経験 なし	100.0 521	67.6 352	22.3 116	30.3 158	24.2 126	65.1 339	48.8 254	37.8 197	16.3 85	1.5 8	0.8 4	61.6 321	8.4 44	48.6 253	19.0 134	25.7 66	12.7 66	6.9 36	10.0 52	10.9 57	10.2 53	1.5 8		
		不 明	100.0 54	57.4 31	13.0 7	29.6 16	29.6 16	50.0 27	51.9 28	37.0 20	13.0 7	1.9 1	3.7 2	61.1 33	7.4 4	40.7 22	24.1 13	29.6 16	16.7 9	5.6 3	24.1 13	11.1 6	5.6 3	3.7 2		

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問3 接触媒体(風俗情報への接触)									
			一般の新聞	スポーツ新聞	夕刊紙	週刊誌・月刊誌	コミック本・雑誌	レンタルビデオ・映画	アダルトビデオ・映画	風俗情報誌	読んだり見たりしない	不明
	TOTAL	100.0 664	89.9 597	51.4 341	18.7 124	44.1 293	28.6 190	30.4 202	9.9 66	2.7 18	0.6 4	1.4 4
問32 年代	20～24才	100.0 51	78.4 40	45.1 23	5.9 3	49.0 25	74.5 38	58.8 30	31.4 16	7.8 4	-	-
	25～29才	100.0 73	79.5 58	49.3 36	13.7 10	56.2 41	54.8 40	39.7 29	20.5 15	4.1 3	-	4.1 3
	30～34才	100.0 73	86.3 63	53.4 39	16.4 12	41.1 30	32.9 24	35.6 26	13.7 10	4.1 3	2.7 2	-
	35～39才	100.0 82	89.0 73	48.8 40	14.6 12	47.6 39	29.3 24	39.0 32	11.0 9	3.7 3	1.2 1	1.2 1
	40～44才	100.0 78	92.3 72	59.0 46	14.1 11	43.6 34	28.2 22	33.3 26	6.4 5	2.6 2	-	1.3 1
	45～49才	100.0 88	94.3 83	51.1 45	22.7 20	45.5 40	25.0 22	27.3 24	4.5 4	2.3 2	-	1.1 1
	50～54才	100.0 115	94.8 109	51.3 59	22.6 26	41.7 48	13.9 16	19.1 22	6.1 7	0.9 1	0.9 1	1.7 2
	55～59才	100.0 96	95.8 92	53.1 51	28.1 27	34.4 33	2.1 2	12.5 12	-	-	-	1.0 1
	不明	100.0 8	87.5 7	25.0 2	37.5 3	37.5 3	25.0 2	12.5 1	-	-	-	-
援助交際態度	抵抗感あり	100.0 562	90.7 510	49.8 280	18.9 106	42.9 241	27.0 152	28.8 162	7.7 43	2.1 12	0.4 2	1.4 8
	抵抗感なし	100.0 93	87.1 81	61.3 57	18.3 17	54.8 51	39.8 37	41.9 39	24.7 23	6.5 6	2.2 2	-
	不明	100.0 9	66.7 6	44.4 4	11.1 1	11.1 1	11.1 1	11.1 1	-	-	-	11.1 1
買春経験	買春経験あり	100.0 89	82.0 73	62.9 56	21.3 19	53.9 48	43.8 39	37.1 33	28.1 25	7.9 7	-	2.2 2
	買春経験なし	100.0 521	91.4 476	49.7 259	18.2 95	43.6 227	26.1 136	29.8 155	7.5 39	2.1 11	0.8 4	1.0 4
	不明	100.0 54	88.9 48	48.1 26	18.5 10	33.3 18	27.8 15	25.9 14	3.7 2	-	-	3.7 2

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		問4 充実感を感じる事柄(趣味・関心事)																					
		TOTAL	仕事・パート(アルバイトを含む)事	家事・育児や子供の世話を手がける	家族の団らん	お出で歩き・つきあい	異性の友人ととのつきあい	同性の友人ととのつきあい	旅行・ユーライフ	スポーツ	読書・手芸など趣味の時間	おしゃれ	映画やテレビを見ること	近所の人とのつきあい	貯蓄・利殖	勉強・研究・教養講座	団参り・信仰	ボランティア活動	その他の	充実感を感じる していない	不明		
TOTAL		100.0 664	54.1 359	3.8 25	39.3 261	10.5 70	28.9 192	13.0 86	12.2 81	23.2 154	43.1 286	34.6 230	23.6 157	5.4 36	30.7 204	5.1 34	6.2 41	15.8 105	6.0 40	3.9 26	2.9 19	4.2 28	1.1 7
問4 年代	20～24才	100.0 51	39.2 20	2.0 1	17.6 9	3.9 2	51.0 26	33.3 17	29.4 15	17.6 9	37.3 19	43.1 22	21.6 11	11.8 22	43.1 11	3.9 2	- -	9.8 5	3.9 2	2.0 1	9.8 5	- -	
	25～29才	100.0 73	49.3 36	1.4 1	26.0 19	11.0 8	38.4 28	31.5 23	17.8 13	20.5 15	35.6 26	46.6 34	24.7 18	2.7 2	20.5 15	1.4 1	6.8 5	16.4 12	1.4 1	2.7 2	- -	4.1 3	
	30～34才	100.0 73	52.1 38	8.2 6	38.4 28	21.9 16	32.9 24	17.8 13	12.3 9	27.4 20	42.5 31	26.0 19	24.7 18	4.1 3	28.8 21	2.7 2	6.8 5	11.0 8	5.5 4	- -	4.1 3	- -	
	35～39才	100.0 82	57.3 47	7.3 6	48.8 40	22.0 18	24.4 20	12.2 10	15.9 13	20.7 17	50.0 41	32.9 27	26.8 22	2.4 2	34.1 28	4.9 4	7.3 6	13.4 11	4.9 4	1.2 1	6.1 5	3.7 3	
	40～44才	100.0 78	59.0 46	2.6 2	50.0 39	12.8 10	20.5 16	7.7 6	9.0 7	17.9 14	39.7 31	39.7 31	25.6 20	5.1 4	32.1 25	5.1 4	5.1 4	20.5 16	5.1 4	3.8 3	2.6 2	2.6 2	
	45～49才	100.0 88	62.5 55	1.1 1	47.7 42	8.0 7	18.2 16	3.4 3	9.1 8	21.6 19	42.0 37	30.7 27	21.6 19	4.5 4	28.4 25	3.4 3	3.4 3	17.0 15	8.0 7	2.3 2	2.3 2	6.8 6	
	50～54才	100.0 115	47.8 55	3.5 4	33.9 39	5.2 6	27.0 31	7.0 8	6.1 7	29.6 34	41.7 48	31.3 36	22.6 26	3.5 4	31.3 36	5.2 6	7.8 9	20.0 23	6.1 7	7.8 9	1.7 2	2.6 3	0.9 1
	55～59才	100.0 96	61.5 59	3.1 3	42.7 41	2.1 2	29.2 28	6.3 6	8.3 8	24.0 23	51.0 49	32.3 31	22.9 22	10.4 10	31.3 30	10.4 10	8.3 8	14.6 14	10.4 10	7.3 7	4.2 4	3.1 3	1.0 1
	不 明	100.0 8	37.5 3	12.5 1	50.0 4	12.5 1	37.5 3	- 1	12.5 3	37.5 4	50.0 3	37.5 1	12.5 1	25.0 2	25.0 2	12.5 1	12.5 1	12.5 1	12.5 1	- -	- -	- -	
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	55.5 312	3.2 18	40.2 226	11.0 62	27.4 154	12.8 72	11.4 64	23.3 131	43.6 245	33.1 186	24.4 137	5.3 30	30.6 172	5.2 29	5.9 33	16.2 91	5.3 30	3.7 21	2.7 15	3.2 18	0.7 4
	抵抗感 なし	100.0 93	46.2 43	5.4 5	32.3 30	7.5 7	36.6 34	15.1 14	16.1 15	21.5 20	38.7 36	43.0 40	21.5 20	5.4 5	32.3 30	4.3 4	7.5 7	15.1 14	8.6 8	4.3 4	4.3 4	10.8 10	2.2 2
	不 明	100.0 9	44.4 4	22.2 2	55.6 5	11.1 1	44.4 4	- -	22.2 2	33.3 3	55.6 5	44.4 4	- -	11.1 1	22.2 2	11.1 1	- -	22.2 2	11.1 1	- -	- -	11.1 1	
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	49.4 44	2.2 2	21.3 19	3.4 3	39.3 35	30.3 27	19.1 17	27.0 24	46.1 41	37.1 33	22.5 20	7.9 7	31.5 28	5.6 5	4.5 4	14.6 13	6.7 6	5.6 5	3.4 3	4.5 4	2.2 2
	買春経験 なし	100.0 521	54.9 286	4.0 21	42.2 220	11.7 61	26.5 138	9.8 51	11.1 58	22.6 118	42.6 222	34.0 177	23.0 120	4.8 25	29.2 152	5.0 26	6.7 35	15.7 82	5.4 28	3.8 20	2.9 15	4.6 24	0.6 3
	不 明	100.0 54	53.7 29	3.7 2	40.7 22	11.1 6	35.2 19	14.8 8	11.1 6	22.2 12	42.6 23	37.0 20	31.5 17	7.4 4	44.4 24	5.6 3	3.7 2	18.5 12	11.1 10	1.9 1	1.9 1	- -	3.7 2

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

—225—

		TOTAL	問5 充実感実感内容										問6 男性性希求度						
			生き楽しい時がある	自分が毎日していいる	自分は毎日充実している	毎日の生活満足している	毎日が同じことのくり返しで退屈だ	毎日が同じことをなんとなく過ごす	私はかげない存在だ	私の代わりはいません	たゞやまにいる	あてはあるものはない	男に生まれたと思つ	男から男らしさを感じる	男らしく見える	男に心がけていいる	男だから弱音を吐かない	あてはあるものはない	不
問32 年 代	TOTAL	100.0 664	61.0 405	10.5 70	25.3 168	35.5 236	13.6 90	36.4 242	17.9 119	13.6 90	3.9 26	0.9 6	61.9 411	9.2 61	23.2 154	7.2 48	33.7 224	18.5 123	1.2 8
	20～24才	100.0 51	52.9 27	21.6 11	15.7 8	23.5 12	56.9 29	15.7 8	11.8 6	5.9 3	-	-	60.8 31	13.7 7	27.5 14	21.6 11	21.6 11	23.5 12	-
	25～29才	100.0 73	52.1 38	9.6 7	20.5 15	21.9 16	8.2 6	46.6 34	16.4 12	12.3 9	8.2 6	2.7 2	58.9 43	8.2 6	20.5 15	12.3 9	35.6 26	13.7 10	2.7 2
	30～34才	100.0 73	60.3 44	17.8 13	24.7 18	20.5 15	26.0 19	41.1 30	17.8 13	13.7 10	6.8 5	-	64.4 47	9.6 7	30.1 27	9.6 7	27.4 20	19.2 14	-
	35～39才	100.0 82	69.5 57	9.8 8	22.0 18	34.1 28	13.4 11	32.9 27	18.3 15	17.1 14	-	-	57.3 47	8.5 7	24.4 20	7.3 6	36.6 30	19.5 16	-
	40～44才	100.0 78	64.1 50	11.5 9	16.7 13	32.1 25	14.1 11	34.6 27	15.4 12	9.0 7	5.1 4	2.6 2	59.0 46	9.0 7	16.7 13	1.3 1	39.7 31	17.9 14	2.6 2
	45～49才	100.0 88	61.4 54	9.1 8	27.3 24	45.5 40	8.0 7	37.5 33	19.3 17	12.5 11	3.4 3	-	59.1 52	8.0 7	19.3 17	3.4 3	28.4 25	22.7 20	1.1 1
	50～54才	100.0 115	60.0 69	7.8 9	23.5 27	40.9 47	12.2 14	33.0 38	18.3 21	16.5 19	3.5 4	0.9 1	67.0 77	11.3 13	20.0 23	3.5 4	31.3 36	18.3 21	0.9 1
	55～59才	100.0 96	63.5 61	4.2 4	39.6 38	56.3 54	9.4 9	24.0 23	20.8 20	11.5 11	-	1.0 1	64.6 62	6.3 6	28.1 27	7.3 7	42.7 41	15.6 15	2.1 2
	不明	100.0 8	62.5 5	12.5 1	50.0 4	37.5 3	12.5 1	12.5 1	37.5 1	12.5 3	12.5 1	-	75.0 6	12.5 1	37.5 3	-	50.0 4	12.5 1	-
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	62.3 350	8.9 50	26.7 150	37.4 210	11.4 64	34.3 193	19.2 108	13.3 75	3.9 22	0.7 4	63.0 354	8.5 48	23.3 131	6.9 39	35.2 198	18.0 101	0.9 5
	抵抗感 なし	100.0 93	52.7 49	21.5 20	14.0 13	22.6 21	25.8 24	50.5 47	11.8 11	15.1 14	4.3 4	1.1 1	54.8 51	14.0 13	21.5 20	9.7 9	25.8 24	22.6 21	1.1 1
	不明	100.0 9	66.7 6	-	55.6 5	55.6 5	22.2 2	22.2 2	-	11.1 1	-	11.1 1	66.7 6	-	33.3 3	-	22.2 2	11.1 1	22.2 2
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	58.4 52	15.7 14	19.1 17	19.1 17	14.6 13	47.2 42	16.9 15	19.1 17	4.5 4	2.2 2	60.7 54	9.0 8	22.5 20	12.4 11	40.4 36	18.0 16	2.2 2
	買春経験 なし	100.0 521	60.5 315	9.8 51	25.7 134	37.6 196	13.2 69	35.9 187	18.0 94	12.5 65	4.0 21	0.4 2	61.8 322	9.8 51	23.0 120	6.3 33	32.4 169	19.4 101	0.8 4
	不明	100.0 54	70.4 38	9.3 5	31.5 17	42.6 23	14.8 8	24.1 13	18.5 10	14.8 8	1.9 1	3.7 2	64.8 35	3.7 2	25.9 14	7.4 4	35.2 19	11.1 6	3.7 2

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問7 ミーイズム

		TOTAL	a. 自分が満足なら人が何を育むうと気にならない							b. 他人のために時間やエネルギーを使いたくない							c. 社会全体のことを考えてもしようがない						
問32 年代	援助交際態度		あてはまる	やあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	あてはまる	やあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	あてはまる	やあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	明	明	明
	TOTAL	100.0 664	18.1 120	35.5 236	16.3 108	16.7 111	12.3 82	1.1 7	4.2 28	10.4 69	28.6 190	31.9 212	23.3 155	1.5 10	6.8 45	11.6 77	25.5 169	30.7 204	23.9 159	1.5 10			
	20 ~ 24 才	100.0 51	13.7 7	45.1 23	17.6 9	9.8 5	13.7 7	-	2.0 1	21.6 11	29.4 15	31.4 16	15.7 8	-	27.5 14	13.7 7	21.6 11	21.6 11	13.7 7	2.0 1			
	25 ~ 29 才	100.0 73	15.1 11	38.4 28	12.3 9	21.9 16	9.6 7	2.7 2	2.7 2	6.8 5	30.1 22	35.6 26	21.9 16	2.7 2	9.6 7	16.4 12	31.5 23	20.5 15	19.2 14	2.7 2			
	30 ~ 34 才	100.0 73	17.8 13	42.5 31	11.0 8	15.1 11	13.7 10	-	4.1 3	11.0 8	27.4 20	31.5 23	26.0 19	-	4.1 3	13.7 10	23.3 17	34.2 25	24.7 18	-			
	35 ~ 39 才	100.0 82	23.2 19	39.0 32	13.4 11	18.3 15	6.1 5	-	6.1 5	14.6 12	23.2 19	35.4 29	20.7 17	-	1.2 1	12.2 10	29.3 24	34.1 28	23.2 19	-			
	40 ~ 44 才	100.0 78	17.9 14	46.2 36	10.3 8	12.8 10	10.3 8	2.6 2	3.8 3	14.1 11	30.8 24	25.6 20	23.1 18	2.6 2	1.3 1	16.7 13	26.9 21	30.8 24	21.8 17	2.6 2			
	45 ~ 49 才	100.0 88	11.4 10	29.5 26	26.1 23	19.3 17	13.6 12	-	5.7 5	10.2 9	22.7 20	37.5 33	23.9 21	-	2.3 2	12.5 11	19.3 17	40.9 36	25.0 22	-			
	50 ~ 54 才	100.0 115	20.9 24	29.6 34	14.8 17	14.8 17	19.1 22	0.9 1	2.6 3	7.0 8	31.3 36	30.4 35	27.0 31	1.7 2	7.8 9	6.1 7	22.6 26	31.3 36	30.4 35	1.7 2			
	55 ~ 59 才	100.0 96	19.8 19	24.0 23	22.9 22	19.8 19	11.5 11	2.1 2	6.3 6	5.2 5	33.3 32	27.1 26	25.0 24	3.1 3	6.3 6	6.3 6	29.2 28	30.2 29	26.0 25	2.1 2			
	不 明	100.0 8	37.5 3	37.5 3	12.5 1	12.5 1	-	-	-	-	25.0 2	50.0 4	12.5 1	12.5 1	25.0 2	12.5 1	25.0 2	25.0 2	12.5 1	-			
援助交際態度	買春経験	抵抗感 あり	100.0 562	17.6 99	35.6 200	16.5 93	16.5 93	12.8 72	0.9 5	3.7 21	9.4 53	27.6 155	33.5 188	24.6 138	1.2 7	6.4 36	10.7 60	24.7 139	31.1 175	25.8 145	1.2 7		
		抵抗感 なし	100.0 93	21.5 20	35.5 33	12.9 12	19.4 18	9.7 9	1.1 1	6.5 6	15.1 14	35.5 33	24.7 23	17.2 16	1.1 1	9.7 9	16.1 15	30.1 28	30.1 28	12.9 12	1.1 1		
		不 明	100.0 9	11.1 1	33.3 3	33.3 3	-	11.1 1	11.1 1	11.1 1	22.2 2	22.2 2	11.1 1	11.1 1	22.2 2	-	22.2 2	22.2 2	11.1 1	22.2 2	22.2 2		
買春経験	買春経験	買春経験 あり	100.0 89	21.3 19	32.6 29	10.1 9	16.9 15	16.9 15	2.2 2	5.6 5	5.6 5	24.7 22	32.6 29	28.1 25	3.4 3	6.7 6	14.6 13	21.3 19	33.7 30	20.2 18	3.4 3		
		買春経験 なし	100.0 521	17.9 93	36.5 190	15.9 83	17.1 89	12.1 63	0.6 3	4.2 22	11.5 60	29.2 152	31.1 162	23.4 122	0.6 3	6.9 36	11.5 60	25.7 134	30.5 159	24.8 129	0.6 3		
		不 明	100.0 54	14.8 8	31.5 17	29.6 16	13.0 7	7.4 4	3.7 2	1.9 1	7.4 4	29.6 16	38.9 21	14.8 8	7.4 4	5.6 3	7.4 4	29.6 16	27.8 15	22.2 12	7.4 4		

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問7 ミーイズム

		TOTAL	d. 自分さえよければいいと思う							e. 人に迷惑をかけなければ何をしててもよい							f. 今が樂しければそれでよい						
			あてはまる	ややあてはまる	どちらともない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	明	あてはまる	ややあてはまる	どちらともない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	明	あてはまる	ややあてはまる	どちらともない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	明
問32 年代	TOTAL	100.0 664	2.7 18	9.0 60	17.9 119	26.2 174	41.9 278	2.3 15	明	7.2 48	9.9 66	14.0 93	22.7 151	44.0 292	2.1 14	明	6.0 40	16.6 110	18.7 124	27.1 180	29.7 197	2.0 13	明
	20～24才	100.0 51	7.8 4	19.6 10	23.5 12	15.7 8	31.4 16	2.0 1	明	17.6 9	15.7 8	19.6 10	17.6 9	29.4 15	-	-	7.8 4	27.5 14	21.6 11	25.5 13	17.6 9	-	明
	25～29才	100.0 73	1.4 1	9.6 7	24.7 18	27.4 20	34.2 25	2.7 2	明	8.2 6	11.0 8	15.1 11	23.3 17	38.4 28	4.1 3	明	6.8 5	20.5 15	19.2 14	23.3 17	27.4 20	2.7 2	明
	30～34才	100.0 73	4.1 3	13.7 10	20.5 15	24.7 18	37.0 27	-	明	12.3 9	13.7 10	16.4 12	23.3 17	34.2 25	-	明	4.1 3	17.8 13	20.5 15	20.5 15	35.6 26	1.4 1	明
	35～39才	100.0 82	6.1 5	11.0 9	20.7 17	19.5 16	42.7 35	-	明	7.3 6	8.5 7	8.5 7	26.8 22	48.8 40	-	明	4.9 4	17.1 14	15.9 13	29.3 24	32.9 27	-	明
	40～44才	100.0 78	-	10.3 8	23.1 18	24.4 19	39.7 31	2.6 2	明	5.1 4	12.8 10	19.2 15	21.8 17	37.2 29	3.8 3	明	7.7 6	20.5 16	17.9 14	32.1 25	19.2 15	2.6 2	明
	45～49才	100.0 88	-	4.5 4	4.5 4	47.7 42	42.0 37	1.1 1	明	3.4 3	11.4 10	5.7 5	27.3 24	52.3 46	-	明	4.5 4	13.6 12	15.9 14	30.7 27	35.2 31	-	明
	50～54才	100.0 115	1.7 2	6.1 7	13.0 15	30.4 35	47.0 54	1.7 2	明	6.1 7	5.2 6	13.9 16	21.7 25	49.6 57	3.5 4	明	5.2 6	12.2 14	22.6 26	25.2 29	32.2 37	2.6 3	明
	55～59才	100.0 96	2.1 2	5.2 5	18.8 18	15.6 15	52.1 50	6.3 6	明	3.1 3	6.3 6	16.7 16	20.8 20	50.0 48	3.1 3	明	7.3 7	12.5 12	15.6 15	29.2 28	31.3 30	4.2 4	明
	不明	100.0 8	12.5 1	-	25.0 2	12.5 1	37.5 3	12.5 1	明	12.5 1	12.5 1	12.5 1	-	50.0 4	12.5 1	明	12.5 1	-	25.0 2	25.0 2	25.0 2	12.5 1	明
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	2.3 13	8.4 47	17.4 98	27.6 155	42.2 237	2.1 12	明	6.6 37	8.5 48	14.9 84	22.6 127	45.4 255	2.0 11	明	5.7 32	15.8 89	18.5 104	27.0 152	31.3 176	1.6 9	明
	抵抗感 なし	100.0 93	4.3 4	14.0 13	20.4 19	19.4 18	40.9 38	1.1 1	明	11.8 11	18.3 17	9.7 9	23.7 22	35.5 33	1.1 1	明	8.6 8	21.5 20	20.4 19	26.9 25	20.4 19	2.2 2	明
	不明	100.0 9	11.1 1	-	22.2 2	11.1 1	33.3 3	22.2 2	明	-	11.1 1	-	22.2 2	44.4 4	22.2 2	明	-	11.1 1	11.1 1	33.3 3	22.2 2	22.2 2	明
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	2.2 2	10.1 9	19.1 17	22.5 20	41.6 37	4.5 4	明	10.1 9	10.1 9	11.2 10	24.7 22	40.4 36	3.4 3	明	7.9 7	18.0 16	13.5 12	27.0 24	30.3 27	3.4 3	明
	買春経験 なし	100.0 521	2.9 15	9.0 47	17.9 93	27.1 141	41.8 218	1.3 7	明	7.1 37	10.2 53	15.0 78	21.9 114	44.7 233	1.2 6	明	5.8 30	16.5 86	19.8 103	27.3 142	29.6 154	1.2 6	明
	不明	100.0 54	1.9 1	7.4 4	16.7 9	24.1 13	42.6 23	7.4 4	明	3.7 2	7.4 4	9.3 5	27.8 15	42.6 23	9.3 5	明	5.6 3	14.8 8	16.7 9	25.9 14	29.6 16	7.4 4	明

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問7 ミーアズム

		TOTAL	g. 先のことを考えても仕方がない							h. 将来のことを考えてそれに縛られるのは不自由だ							i. 楽しいかどうか生きていって上で一番大切な事だ									
			あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	明	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	明	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	明	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	明
		TOTAL	100.0 664	9.9 66	17.9 119	15.8 105	28.8 191	25.6 170	2.0 13	10.7 71	21.7 144	22.0 146	25.0 166	18.5 123	2.1 14	22.6 150	29.5 196	22.6 150	13.1 87	9.9 66	2.3 15					
問7 年代	20 ~ 24 才	100.0 51	11.8 6	19.6 10	23.5 12	21.6 11	23.5 12	-	-	15.7 8	33.3 17	19.6 10	17.6 9	13.7 7	-	29.4 15	33.3 17	15.7 8	13.7 7	7.6 4	-					
	25 ~ 29 才	100.0 73	5.5 4	17.8 13	15.1 11	28.8 21	28.8 21	4.1 3	-	9.6 7	20.5 15	21.9 16	26.0 19	19.2 14	2.7 2	35.6 26	31.5 23	19.2 14	6.8 5	4.1 3	2.7 2					
	30 ~ 34 才	100.0 73	5.5 4	19.2 14	19.2 14	19.2 14	35.6 26	1.4 1	-	8.2 6	17.8 13	19.2 14	28.8 21	24.7 18	1.4 1	27.4 20	21.9 16	27.4 20	13.7 10	9.6 7	-					
	35 ~ 39 才	100.0 82	8.5 7	15.9 13	8.5 7	32.9 27	34.1 28	-	-	7.3 6	23.2 19	24.4 20	22.0 18	23.2 19	-	23.2 19	25.6 21	24.4 20	19.5 16	7.3 6	-					
	40 ~ 44 才	100.0 78	9.0 7	20.5 16	20.5 16	28.2 22	19.2 15	2.6 2	-	7.7 6	21.8 17	29.5 23	24.4 19	12.8 10	3.8 3	16.7 13	43.6 34	23.1 18	10.3 8	3.8 3	2.6 2					
	45 ~ 49 才	100.0 88	11.4 10	23.9 21	11.4 10	35.2 31	18.2 16	-	-	12.5 11	19.3 17	25.0 22	25.0 22	18.2 16	-	14.8 13	29.5 26	28.4 25	14.8 13	12.5 11	-					
	50 ~ 54 才	100.0 115	11.3 13	16.5 19	15.7 18	30.4 35	21.7 25	4.3 5	-	10.4 12	24.3 28	20.0 23	25.2 29	17.4 20	2.6 3	16.5 19	26.1 30	23.5 27	12.2 14	16.5 19	5.2 6					
	55 ~ 59 才	100.0 96	13.5 13	13.5 13	14.6 14	31.3 30	26.0 25	1.0 1	-	14.6 14	14.6 14	18.8 18	30.2 29	17.7 17	4.2 4	24.0 23	28.1 27	17.7 17	13.5 13	11.5 11	5.2 5					
	不 明	100.0 8	25.0 2	-	37.5 3	-	25.0 2	12.5 1	-	12.5 1	50.0 4	-	-	25.0 2	12.5 1	25.0 2	25.0 2	12.5 1	12.5 1	25.0 2	-					
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	9.6 54	17.4 98	15.5 87	29.9 168	26.0 146	1.6 9	-	10.1 57	21.5 121	22.1 124	25.1 141	19.6 110	1.6 9	20.8 117	29.2 164	23.1 130	13.9 78	10.9 61	2.1 12					
	抵抗感 なし	100.0 93	11.8 11	20.4 19	17.2 16	23.7 22	24.7 23	2.2 2	-	15.1 14	22.6 21	22.6 21	25.8 24	11.8 11	2.2 2	33.3 31	31.2 29	21.5 20	9.7 9	3.2 3	1.1 1					
	不 明	100.0 9	11.1 1	22.2 2	22.2 2	11.1 1	11.1 1	22.2 2	-	-	22.2 2	11.1 1	11.1 1	22.2 2	33.3 3	-	-	-	22.2 2	22.2 2	-					
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	9.0 8	15.7 14	13.5 12	27.0 24	30.3 27	4.5 4	-	12.4 11	20.2 18	14.6 13	23.6 21	24.7 22	4.5 4	34.8 31	21.3 19	21.3 19	11.2 10	6.7 6	4.5 4					
	買春経験 なし	100.0 521	9.6 50	19.6 102	15.5 81	29.2 152	25.0 130	1.2 6	-	10.4 54	22.5 117	22.5 117	25.5 133	18.0 94	1.2 6	19.6 102	30.3 158	23.4 122	14.4 75	11.1 58	1.2 6					
	不 明	100.0 54	14.8 8	5.6 3	22.2 12	27.8 15	24.1 13	5.6 3	-	11.1 6	16.7 9	29.6 16	22.2 12	13.0 7	7.4 4	31.5 17	35.2 19	16.7 9	3.7 2	3.7 2	9.3 5					

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問7 ミーイズム

		TOTAL	j. いつも楽しいことだけをしてみたい						k. しなくともいい苦労はぜつたいに避けたい						l. 楽しくなければ生きているカイがない					
			あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	不
	TOTAL	100.0 664	14.2 94	18.5 123	28.9 192	21.4 142	15.2 101	1.8 12	12.7 84	22.1 147	23.6 157	23.2 154	16.4 109	2.0 13	20.6 137	29.2 194	21.7 144	15.2 101	11.7 78	1.5 10
問32 年 代	20 ~ 24才	100.0 51	31.4 16	23.5 12	23.5 12	17.6 9	3.9 2	-	23.5 12	19.6 10	31.4 16	13.7 7	11.8 6	-	37.3 19	17.6 9	31.4 16	11.8 6	2.0 1	-
	25 ~ 29才	100.0 73	16.4 12	13.7 10	41.1 30	15.1 11	11.0 8	2.7 2	13.7 10	17.8 13	26.0 19	23.3 17	16.4 12	2.7 2	21.9 16	24.7 18	24.7 18	19.2 14	6.8 5	2.7 2
	30 ~ 34才	100.0 73	15.1 11	23.3 17	32.9 24	16.4 12	12.3 9	-	16.4 12	27.4 20	24.7 18	19.2 14	12.3 9	-	23.3 17	37.0 27	20.5 15	12.3 9	6.8 5	-
	35 ~ 39才	100.0 82	20.7 17	15.9 13	28.0 23	22.0 18	13.4 11	-	14.6 12	25.6 21	22.0 18	22.0 18	15.9 13	-	26.8 22	36.6 30	17.1 14	12.2 10	7.3 6	-
	40 ~ 44才	100.0 78	11.5 9	29.5 23	24.4 19	19.2 15	11.5 9	3.8 3	12.8 10	24.4 19	26.9 21	24.4 19	7.7 6	3.8 3	24.4 19	30.8 24	19.2 15	15.4 12	6.4 5	3.8 3
	45 ~ 49才	100.0 88	6.8 6	21.6 19	25.0 22	27.3 24	19.3 17	-	8.0 7	21.6 19	21.6 19	30.7 27	17.0 15	1.1 1	14.8 13	29.5 26	22.7 20	15.9 14	17.0 15	-
	50 ~ 54才	100.0 115	12.2 14	13.9 16	24.3 28	24.3 28	23.5 27	1.7 2	7.8 9	22.6 26	18.3 21	23.5 27	25.2 29	2.6 3	15.7 18	30.4 35	16.5 19	15.7 18	19.1 22	2.6 3
	55 ~ 59才	100.0 96	8.3 8	13.5 13	32.3 31	25.0 24	16.7 16	4.2 4	11.5 11	19.8 19	24.0 23	24.0 23	17.7 17	3.1 3	11.5 11	25.0 24	25.0 24	17.7 17	18.8 18	2.1 2
	不明	100.0 8	12.5 1	-	37.5 3	12.5 1	25.0 2	12.5 1	12.5 1	-	25.0 2	25.0 2	25.0 2	12.5 1	25.0 2	12.5 1	37.5 3	12.5 1	12.5 1	-
援助 交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	12.6 71	18.9 106	27.9 157	23.3 131	15.7 88	1.6 9	11.2 63	21.9 123	23.7 133	24.6 138	16.9 95	1.8 10	20.1 113	30.2 170	20.3 114	15.1 85	12.8 72	1.4 8
	抵抗感 なし	100.0 93	23.7 22	17.2 16	35.5 33	10.8 10	11.8 11	1.1 1	21.5 20	25.8 24	23.7 22	15.1 14	12.9 12	1.1 1	25.8 24	22.6 21	31.2 29	15.1 14	4.3 4	1.1 1
	不明	100.0 9	11.1 1	11.1 1	22.2 2	11.1 1	22.2 2	22.2 2	11.1 1	-	22.2 2	22.2 2	22.2 2	22.2 2	-	33.3 -3	11.1 1	22.2 2	22.2 2	11.1 1
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	27.0 24	10.1 9	33.7 30	13.5 12	12.4 11	3.4 3	19.1 17	16.9 15	20.2 18	21.3 19	18.0 16	4.5 4	30.3 27	22.5 20	20.2 18	14.6 13	7.9 7	4.5 4
	買春経験 なし	100.0 521	11.7 61	20.2 105	28.4 148	22.6 118	16.5 86	0.6 3	11.5 60	23.0 120	24.2 126	24.0 125	16.7 87	0.6 3	18.8 98	31.3 163	22.5 117	14.2 74	12.7 66	0.6 3
	不明	100.0 54	16.7 9	16.7 9	25.9 14	22.2 12	7.4 4	11.1 6	13.0 7	22.2 12	24.1 13	18.5 10	11.1 6	11.1 6	22.2 12	20.4 11	16.7 9	25.9 14	9.3 5	5.6 3

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問8 対人スキル										問9 人との接し方(ぬくもり希求・自己存在感)											
			知らない人が話して始める会話をされてもいるに見える	他と自分の気持ちを察して、自分の感情や表せられる	自分の感情や表せられる	相思つていて、自分ができる	と仲直りできる	上手に解決できる	相手の立場をよくわかる	相手に自分でできる	あてはまるものはない	あてはまるものはない	不	誰かにやさしく思っている	異性とふれあいつてほしいことがある	たまらなく思われる時がある	くなることがある	私が悲しみを心かられない	私も悲しみを心かられない	私のことを相手にしない	誰も私のことを相手にしない	あてはまるものはない	あてはまるものはない	不
問9 年代	TOTAL	100.0 664	42.6 283	26.4 175	31.3 208	28.2 187	27.1 180	24.7 164	53.6 356	53.3 354	11.1 74	1.2 8	48.5 322	37.7 250	21.2 141	16.9 112	6.5 43	2.0 13	1.7 11	1.4 9	31.5 209	2.4 16		
	20 ~ 24 才	100.0 51	41.2 21	23.5 12	39.2 20	27.5 14	35.3 18	25.5 13	47.1 24	47.1 24	13.7 7	-	74.5 38	49.0 25	33.3 17	33.3 17	39.2 20	7.8 4	3.9 2	-	2.0 1	13.7 7	-	
	25 ~ 29 才	100.0 73	38.4 28	24.7 18	34.2 25	27.4 20	31.5 23	21.9 16	54.8 40	56.2 41	11.0 8	2.7 2	52.1 38	46.6 34	26.0 19	17.8 13	12.3 9	6.8 5	2.7 2	2.7 2	-	23.3 17	-	
	30 ~ 34 才	100.0 73	46.6 34	28.8 21	26.0 19	32.9 24	30.1 22	24.7 18	39.7 29	54.8 40	13.7 10	-	60.3 44	54.8 40	28.8 21	21.9 16	11.0 8	2.7 2	2.7 2	5.5 4	23.3 17	1.4 1		
	35 ~ 39 才	100.0 82	42.7 35	26.8 22	20.7 17	37.8 31	24.4 20	20.7 17	56.1 46	54.9 45	7.3 6	1.2 1	54.9 45	45.1 37	18.3 15	19.5 16	23.2 19	7.3 6	2.4 2	-	1.2 1	31.7 26	2.4 2	
	40 ~ 44 才	100.0 78	38.5 30	23.1 18	28.2 22	25.6 20	23.1 18	21.8 17	47.4 37	51.3 40	16.7 13	2.6 2	43.6 34	41.0 32	16.7 13	9.0 7	15.4 12	3.8 3	1.3 1	2.6 2	-	34.6 27	3.8 3	
	45 ~ 49 才	100.0 88	39.8 35	22.7 20	28.4 25	23.9 21	18.2 16	21.6 19	54.5 48	53.4 47	15.9 14	-	43.2 38	26.1 23	22.7 20	13.6 12	11.4 10	4.5 4	2.3 2	2.3 2	1.1 1	42.0 37	1.1 1	
	50 ~ 54 才	100.0 115	50.4 58	31.3 36	35.7 41	23.5 27	24.3 28	29.6 34	57.4 66	49.6 57	7.0 8	1.7 2	36.5 42	30.4 35	17.4 20	15.7 18	13.0 15	5.2 6	1.7 2	2.6 3	0.9 1	34.8 40	5.2 6	
	55 ~ 59 才	100.0 96	39.6 38	27.1 26	37.5 36	27.1 26	33.3 32	29.2 28	64.6 62	58.3 56	8.3 8	1.0 1	40.6 39	21.9 21	14.6 14	12.5 12	16.7 16	7.3 7	-	-	1.0 1	36.5 35	3.1 3	
	不 明	100.0 8	50.0 4	25.0 2	37.5 3	50.0 4	37.5 3	25.0 2	50.0 4	50.0 4	-	-	50.0 4	37.5 3	25.0 2	12.5 1	25.0 2	-	-	-	-	37.5 3	-	
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	43.1 242	27.0 152	31.1 175	28.1 158	27.8 156	24.9 140	54.1 304	54.1 304	9.8 55	0.9 5	46.4 261	35.6 200	18.9 106	15.8 89	16.9 95	5.9 33	1.6 9	1.2 7	1.1 6	32.7 184	2.3 13	
	抵抗感 なし	100.0 93	38.7 36	21.5 20	32.3 30	28.0 26	21.5 20	22.6 21	50.5 47	49.5 46	18.3 17	2.2 2	59.1 55	51.6 48	35.5 33	22.6 21	22.6 21	10.8 10	4.3 4	3.2 3	2.2 2	24.7 23	2.2 2	
	不 明	100.0 9	55.6 5	33.3 3	33.3 3	33.3 3	44.4 4	33.3 3	55.6 5	44.4 4	22.2 2	11.1 1	66.7 6	22.2 2	22.2 2	33.3 3	-	-	11.1 1	11.1 1	22.2 2	11.1 1		
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	51.7 46	37.1 33	40.4 36	29.2 26	37.1 33	21.3 19	49.4 44	51.7 46	6.7 6	2.2 2	53.9 48	47.2 42	34.8 31	23.6 21	24.7 22	10.1 9	4.5 4	4.5 4	1.1 1	22.5 20	-	
	買春経験 なし	100.0 521	41.1 214	24.2 126	29.0 151	27.6 144	23.8 124	24.6 128	53.0 276	53.0 276	12.5 65	0.8 4	47.0 245	37.0 193	19.6 102	16.3 85	16.9 88	6.0 31	1.7 9	1.2 6	1.5 8	34.2 178	1.2 6	
	不 明	100.0 54	42.6 23	29.6 16	38.9 21	31.5 17	42.6 23	31.5 17	66.7 36	59.3 32	5.6 3	3.7 2	53.7 29	27.8 15	14.8 8	11.1 6	16.7 9	5.6 3	-	1.9 1	-	20.4 11	18.5 10	

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問10 職場・学校での不適応											
			職場 私の 学力が され がて で評 る	職場 いし ても 損を する	職場 (学 校)	職場 多く の人に かれて のら いる	職場 誰も かくれ ない	職場 わかつ てくれる 人が いる	職場 自分を 支えて いる	職場 未来 に希望 をもつ ている	職場 私 の居 場所 (学 校)が ない	あ ては ま る	も の は な い	不 明
TOTAL		100.0 664	46.2 307	16.6 110	19.9 132	28.8 191	7.2 48	42.9 285	1.5 10	23.2 154	15.7 104	2.6 11		
問32 年 代	20 ~ 24 才	100.0 51	31.4 16	23.5 12	21.6 11	29.4 15	9.8 5	35.3 18	3.9 2	21.6 11	21.6 11	-		
	25 ~ 29 才	100.0 73	37.0 27	15.1 11	23.3 17	35.6 26	9.6 7	43.8 32	1.4 1	19.2 14	13.7 10	1.4 1		
	30 ~ 34 才	100.0 73	54.8 40	23.3 17	30.1 22	26.0 19	11.0 8	47.9 35	1.4 1	17.8 13	13.7 10	1.4 1		
	35 ~ 39 才	100.0 82	41.5 34	12.2 10	19.5 16	32.9 27	4.9 4	39.0 32	1.2 1	18.3 15	17.1 14	1.2 1		
	40 ~ 44 才	100.0 78	50.0 39	16.7 13	20.5 16	17.9 14	5.1 4	35.9 28	-	24.4 -	16.7 19	3.8 13		
	45 ~ 49 才	100.0 88	51.1 45	17.0 15	18.2 16	26.1 23	5.7 5	38.6 34	-	22.7 20	18.2 16	-		
	50 ~ 54 才	100.0 115	50.4 58	12.2 14	13.0 15	33.0 38	7.0 8	50.4 58	2.6 3	23.5 27	12.2 14	4.3 5		
	55 ~ 59 才	100.0 96	43.8 42	18.8 18	16.7 16	26.0 25	7.3 7	46.9 45	2.1 2	35.4 34	16.7 16	6.3 6		
	不 明	100.0 8	75.0 6	-	37.5 3	50.0 4	-	37.5 -	-	12.5 1	-	-		
援助 交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	47.3 266	15.3 86	18.9 106	29.5 166	6.9 39	41.8 235	1.4 8	24.0 135	15.1 85	2.7 15		
	抵抗感 なし	100.0 93	38.7 36	25.8 24	24.7 23	24.7 23	8.6 8	46.2 43	2.2 2	18.3 17	19.4 18	1.1 1		
	不 明	100.0 9	55.6 5	-	33.3 3	22.2 2	11.1 1	77.8 7	-	22.2 2	11.1 1	11.1 1		
買春 経験	買春経験 あり	100.0 89	41.6 37	20.2 18	29.2 26	30.3 27	9.0 8	49.4 44	2.2 2	20.2 18	13.5 12	1.1 1		
	買春経験 なし	100.0 521	47.4 247	16.5 86	18.6 97	28.6 149	7.1 37	41.5 216	1.5 8	24.8 129	16.9 88	1.2 6		
	不 明	100.0 54	42.6 23	11.1 6	16.7 9	27.8 15	5.6 3	46.3 25	-	13.0 7	7.4 4	18.5 10		

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問11 反規範的行動（援交・買春）経験

		TOTAL	a. パチンコ			b. 公営ギャンブル			c. カケ麻雀			d. テレク ラ・C2・伝 言ダイアル			e. 成人向 けインターネッ ト			f. 性風俗利用			g. 電車をキセル									
			は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不				
			い	え	明		い	え	明		い	え	明		い	え	明		い	え	明		い	え	明		い	え	明	
		TOTAL	100.0	49.2	47.4	3.3	315	22	36.9	57.4	5.7	22.9	69.9	7.2	5.7	85.5	8.7	18.8	73.0	8.1	12.5	79.4	8.1	17.9	74.1	8.0	119	492	53	
問32 年代	20～24才	100.0	72.5	27.5	-	51	37	14	49.0	47.1	3.9	25.5	68.6	5.9	5.7	85.5	8.7	12.5	79.4	8.1	15.7	78.4	5.9	17.8	72.6	9.6	13	53	30	
	25～29才	100.0	58.9	38.4	2.7	73	43	28	45.2	46.6	8.2	37.0	54.8	8.2	9.6	79.5	11.0	21.9	68.5	9.6	21.9	69.9	8.2	17.8	72.6	9.6	13	53	32	
	30～34才	100.0	53.4	45.2	1.4	73	39	33	39.7	56.2	4.1	15.1	80.8	4.1	8.2	87.7	4.1	32.9	63.0	4.1	17.8	78.1	4.1	12.3	83.6	4.1	9	61	3	
	35～39才	100.0	47.6	50.0	2.4	82	39	41	40.2	57.3	2.4	19.5	76.8	3.7	3.7	92.7	3.7	29.3	68.3	2.4	19.5	76.8	3.7	20.7	75.6	3.7	17	62	3	
	40～44才	100.0	50.0	41.0	9.0	78	39	32	23.1	66.7	10.3	20.5	66.7	12.8	5.1	79.5	15.4	21.8	67.9	10.3	11.5	74.4	14.1	15.4	73.1	11.5	12	57	9	
	45～49才	100.0	46.6	53.4	-	88	41	47	26.1	71.6	2.3	19.3	77.3	3.4	1.1	95.5	3.4	9.1	88.6	2.3	9.1	88.6	2.3	12.5	84.1	3.4	11	74	3	
	50～54才	100.0	48.7	47.8	3.5	115	56	55	38.3	55.7	6.1	23.5	66.1	10.4	1.7	87.8	10.4	10.4	77.4	12.2	7.8	82.6	9.6	16.5	72.2	11.3	19	83	13	
	55～59才	100.0	28.1	65.6	6.3	96	27	63	38.5	54.2	7.3	21.9	70.8	7.3	2.1	85.4	12.5	10.4	77.1	12.5	4.2	82.3	13.5	17.7	70.8	11.5	17	68	11	
	不明	100.0	75.0	25.0	-	8	6	2	37.5	50.0	12.5	12.5	62.5	25.0	-	75.0	25.0	-	75.0	25.0	-	75.0	25.0	-	25.0	50.0	25.0	2	4	2
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0	47.9	48.8	3.4	562	269	274	35.1	59.3	5.7	22.1	70.8	7.1	4.8	86.8	8.4	17.1	74.7	8.2	11.0	81.3	7.7	17.8	74.2	8.0	100	417	45	
	抵抗感 なし	100.0	54.8	41.9	3.2	93	51	39	47.3	48.4	4.3	29.0	65.6	5.4	11.8	80.6	7.5	31.2	64.5	4.3	22.6	69.9	7.5	19.4	76.3	4.3	18	71	4	
	不明	100.0	77.8	22.2	-	9	7	2	44.4	33.3	22.2	11.1	55.6	33.3	-	55.6	44.4	-	55.6	44.4	-	55.6	44.4	-	11.1	44.4	44.4	1	4	4
買春経験	買春経験 あり	100.0	58.4	40.4	1.1	89	52	36	47.2	48.3	4.5	32.6	60.7	6.7	15.7	77.5	6.7	37.1	57.3	5.6	93.3	5.6	1.1	22.5	71.9	5.6	20	64	5	
	買春経験 なし	100.0	46.8	53.2	-	521	244	277	35.3	64.5	0.2	21.3	78.5	0.2	4.4	95.6	-	16.7	83.1	0.2	-	100.0	-	-	17.7	82.1	0.2	92	428	1
	不明	100.0	57.4	3.7	38.9	54	31	21	35.2	3.7	61.1	22.2	1.9	75.9	1.9	1.9	96.3	52	9.3	1.9	88.9	-	-	1.9	98.1	-	13.0	-	87.0	7

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問11 反規範的行動（援交・買春）経験

	TOTAL	h. 女子 高校生を ナンパ			i. 女子 高校生と デート			j. 女子 高校生と セックス			k. 人妻とセックス			l. 妻・恋人 以外の女性 とセックス			m. 海外 で売春婦 を買った			n. 喫茶店やレ ストランの灰皿 を持ち帰った			
		は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	は	い	不	
TOTAL	100.0 664	2.6 17	88.7 589	8.7 58	0.2 1	91.0 604	8.9 59	0.3 2	90.7 602	9.0 60	3.5 23	87.8 583	8.7 58	12.8 85	78.5 521	8.7 58	2.3 15	88.9 590	8.9 59	6.2 41	86.3 573	7.5 50	
問32 年代	20～24才	100.0 51	17.6 9	74.5 38	7.8 4	-	92.2 47	7.8 4	-	92.2 47	7.8 4	2.0 1	90.2 46	7.8 4	21.6 11	72.5 37	5.9 3	2.0 1	90.2 45	7.8 4	21.6 11	74.5 38	3.9 2
	25～29才	100.0 73	4.1 3	84.9 62	11.0 8	-	89.0 65	11.0 8	1.4 1	87.7 64	11.0 8	2.7 2	86.3 63	11.0 8	17.8 13	72.6 53	9.6 7	2.7 2	86.3 63	11.0 8	13.7 10	79.5 58	6.8 5
	30～34才	100.0 73	1.4 1	94.5 69	4.1 3	-	95.9 70	4.1 3	-	95.9 70	4.1 3	2.7 2	93.2 68	4.1 3	11.0 8	84.9 62	4.1 3	-	95.9 70	4.1 3	4.1 3	91.8 67	4.1 3
	35～39才	100.0 82	1.2 1	95.1 78	3.7 3	1.2 1	95.1 78	3.7 3	1.2 1	93.9 77	4.9 4	6.1 5	90.2 74	3.7 3	18.3 15	78.0 64	3.7 3	2.4 2	93.9 77	3.7 3	3.7 3	92.7 76	3.7 3
	40～44才	100.0 78	1.3 1	83.3 65	15.4 12	-	84.6 66	15.4 12	-	84.6 66	15.4 12	1.3 1	83.3 65	15.4 12	7.7 6	78.2 61	14.1 11	1.3 1	83.3 65	15.4 12	5.1 4	82.1 64	12.8 10
	45～49才	100.0 88	-	96.6 85	3.4 3	-	96.6 85	3.4 3	-	96.6 85	3.4 3	3.4 3	93.2 82	3.4 3	13.6 12	81.8 72	4.5 4	4.5 4	92.0 81	3.4 3	2.3 2	94.3 83	3.4 3
	50～54才	100.0 115	0.9 1	88.7 102	10.4 12	-	89.6 103	10.4 12	-	89.6 103	10.4 12	2.6 3	87.0 100	10.4 12	8.7 10	80.9 93	10.4 12	0.9 1	88.7 102	10.4 12	2.6 3	87.0 100	10.4 12
	55～59才	100.0 96	1.0 1	87.5 84	11.5 11	-	87.5 84	12.5 12	-	87.5 84	12.5 12	6.3 6	82.3 79	11.5 11	9.4 9	77.1 74	13.5 13	4.2 4	83.3 80	12.5 12	5.2 5	84.4 81	10.4 10
	不明	100.0 8	-	75.0 6	25.0 2	-	75.0 6	25.0 2	-	75.0 6	25.0 2	-	75.0 6	25.0 2	12.5 1	62.5 5	25.0 2	-	75.0 6	25.0 2	-	75.0 6	25.0 2
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	2.1 12	89.3 502	8.5 48	-	91.5 514	8.5 48	-	91.5 514	8.5 48	3.4 19	88.3 496	8.4 47	11.4 64	80.2 451	8.4 47	2.0 11	89.5 503	8.5 48	5.7 32	86.7 487	7.7 43
	抵抗感 なし	100.0 93	4.3 4	88.2 82	7.5 7	1.1 1	91.4 85	7.5 7	2.2 2	89.2 83	8.6 8	4.3 4	88.2 82	7.5 7	21.5 20	69.9 65	8.6 8	4.3 4	88.2 82	7.5 7	8.6 8	87.1 81	4.3 4
	不明	100.0 9	11.1 1	55.6 5	33.3 3	-	55.6 5	44.4 4	-	55.6 5	44.4 4	-	55.6 5	44.4 4	11.1 1	55.6 5	33.3 3	-	55.6 5	44.4 4	11.1 1	55.6 5	33.3 3
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	10.1 9	83.1 74	6.7 6	1.1 1	92.1 82	6.7 6	2.2 2	91.0 81	6.7 6	13.5 12	79.8 71	6.7 6	50.6 45	43.8 39	5.6 5	16.9 15	76.4 68	6.7 6	13.5 12	80.9 72	5.6 5
	買春経験 なし	100.0 521	1.3 7	98.7 514	-	-	100.0 521	-	-	100.0 521	-	1.9 10	98.1 511	-	7.3 38	92.3 481	0.4 2	-	100.0 521	-	4.0 21	96.0 500	-
	不明	100.0 54	1.9 1	1.9 1	96.3 52	-	1.9 1	98.1 53	-	-	-	1.9 1	96.3 52	-	3.7 2	1.9 1	94.4 51	-	1.9 1	98.1 53	14.8 8	1.9 1	83.3 45

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		問12 セックスに対する意識											
		TOTAL	あてはまる	ものはない	不明	不	あてはまる	ものはない	不明	不	あてはまる	ものはない	不明
	T O T A L	100.0 664	44.3 294	22.3 148	30.0 199	25.0 166	34.2 227	36.4 242	6.5 43	6.2 41	19.9 132	2.7 18	-
問12 年代	20～24才	100.0 51	54.9 28	45.1 23	47.1 24	27.5 14	41.2 21	45.1 23	13.7 7	13.7 7	17.6 9	-	-
	25～29才	100.0 73	49.3 36	39.7 29	43.8 32	21.9 16	39.7 29	35.6 26	2.7 2	2.7 2	13.7 10	1.4 1	-
	30～34才	100.0 73	41.1 30	23.3 17	39.7 29	37.0 27	39.7 29	56.2 41	5.5 4	5.5 4	16.4 12	2.7 2	-
	35～39才	100.0 82	46.3 38	25.6 21	29.3 24	18.3 15	41.5 34	26.8 22	4.9 4	4.9 4	17.1 14	1.2 1	-
	40～44才	100.0 78	46.2 36	21.8 17	33.3 26	28.2 22	35.9 28	34.6 27	6.4 5	6.4 5	23.1 18	5.1 4	-
	45～49才	100.0 88	39.8 35	13.6 12	22.7 20	22.7 20	33.0 29	27.3 24	5.7 5	6.8 6	26.1 23	2.3 2	-
	50～54才	100.0 115	43.5 50	13.9 16	20.0 23	22.6 26	26.1 30	33.0 38	7.0 8	8.7 10	22.6 26	3.5 4	-
	55～59才	100.0 96	37.5 36	12.5 12	20.8 20	25.0 24	24.0 23	39.6 38	8.3 8	3.1 3	19.8 19	4.2 4	-
	不 明	100.0 8	62.5 5	12.5 1	12.5 1	25.0 2	50.0 4	37.5 3	-	-	12.5 1	-	-
	抵抗感 あり	100.0 562	39.9 224	16.7 94	26.2 147	23.7 133	30.1 169	36.7 206	6.4 36	5.5 31	22.4 126	2.8 16	-
買春経験	抵抗感 なし	100.0 93	71.0 66	55.9 52	53.8 50	31.2 29	59.1 55	35.5 33	7.5 7	10.8 10	5.4 5	1.1 1	-
	不 明	100.0 9	44.4 4	22.2 2	22.2 2	44.4 4	33.3 3	33.3 3	-	-	11.1 1	11.1 1	-
	買春経験 あり	100.0 89	74.2 66	44.9 40	60.7 54	37.1 33	59.6 53	41.6 37	10.1 9	6.7 6	5.6 5	-	-
	買春経験 なし	100.0 521	40.9 213	19.0 99	25.9 135	22.1 115	30.3 158	35.9 187	6.0 31	6.0 31	22.8 119	1.5 0.8	-
	不 明	100.0 54	27.8 15	16.7 9	18.5 10	33.3 18	29.6 16	33.3 18	5.6 3	7.4 4	14.8 8	18.5 10	-

# \* \* \* 現代人の社会意識に関する調査 \* \* \*

# \* \* \* 現代人の社会意識に関する調査 \* \* \*

### 問16 援助交際觀

\* \* \* 現代人の社会意識に関する調査 \* \* \*

		TOTAL	問17 女性ステレオタイプ										問18 男性ステレオタイプ									
			女性がいる職場の雰囲気	女性若さは魅力である	美しいと価値はない	女性の個性を表現する	男性女性の経験のない女性	痩せた女性	レイプされる女性	問題行動がある女性	あてはあるものはない	不明	男は多くの女性を好きである	セックスは男がしたい	男のコンドームを販売する	女性を口に満足していない	男はセックスして下半身	男と人格で別れる	男はなくして仕事がない	仕事ほど盛んに遊びもある	あてはあるものはない	不明
問32 年代	TOTAL	100.0 664	33.9 225	77.3 513	22.6 150	5.3 35	3.9 26	4.5 30	8.3 55	19.0 126	12.8 85	0.5 3	56.2 373	24.7 164	8.4 56	8.9 59	5.6 37	17.9 119	2.1 14	15.5 103	24.8 165	1.2 8
	20～24才	100.0 51	49.0 25	82.4 42	23.5 12	7.8 4	19.6 10	21.6 11	19.6 10	25.5 13	7.8 4	-	60.8 31	25.5 13	29.4 15	15.7 8	15.7 8	35.3 18	3.9 2	19.6 10	23.5 12	-
	25～29才	100.0 73	38.4 28	76.7 56	16.4 12	8.2 6	6.8 5	1.4 1	16.4 12	13.7 10	9.6 7	-	56.2 41	20.5 15	15.1 11	4.1 3	2.7 2	15.1 11	4.1 3	11.0 8	24.7 18	-
	30～34才	100.0 73	42.5 31	63.0 46	15.1 11	5.5 4	2.7 2	2.7 2	6.8 5	13.7 10	21.9 16	1.4 1	58.9 43	28.8 21	9.6 7	8.2 6	5.5 4	11.0 8	-	11.0 8	21.9 16	2.7 2
	35～39才	100.0 82	31.7 26	80.5 66	22.0 18	6.1 5	1.2 1	8.5 7	3.7 3	6.1 5	12.2 10	-	56.1 46	24.4 20	2.4 2	3.7 3	3.7 3	14.6 12	3.7 3	11.0 9	26.8 22	1.2 1
	40～44才	100.0 78	35.9 28	78.2 61	28.2 22	7.7 6	3.8 3	1.3 1	5.1 4	21.8 17	15.4 12	-	55.1 43	26.9 21	7.7 6	11.5 9	10.3 8	15.4 12	3.8 3	20.5 16	29.5 23	-
	45～49才	100.0 88	27.3 24	77.3 68	14.8 13	1.1 1	3.4 3	3.4 3	5.7 5	18.2 16	15.9 14	1.1 1	56.8 50	13.6 12	3.4 3	5.7 5	3.4 3	21.6 19	-	14.8 13	28.4 25	1.1 1
	50～54才	100.0 115	29.6 34	77.4 89	25.2 29	3.5 4	1.7 2	0.9 1	7.0 8	17.4 20	10.4 12	-	53.9 62	31.3 36	3.5 4	8.7 10	2.6 3	19.1 22	0.9 1	12.2 14	27.0 31	-
	55～59才	100.0 96	29.2 28	81.3 78	32.3 31	5.2 5	-	4.2 4	8.3 8	36.5 35	9.4 9	1.0 1	56.3 54	26.0 25	6.3 6	15.6 15	6.3 6	16.7 16	1.0 1	26.0 25	15.6 15	2.1 2
	不 明	100.0 8	12.5 1	87.5 7	25.0 2	-	-	-	-	-	12.5 1	-	37.5 3	12.5 1	25.0 2	-	-	12.5 1	12.5 1	-	37.5 3	25.0 2
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	34.7 195	77.0 433	20.5 115	3.9 22	3.6 20	3.6 20	7.7 43	18.7 105	13.0 73	0.2 1	52.8 297	26.2 147	7.5 42	8.4 47	5.3 30	16.0 90	1.6 9	14.6 82	27.0 152	0.7 4
	抵抗感 なし	100.0 93	31.2 29	79.6 74	35.5 33	12.9 12	6.5 6	10.8 10	12.9 12	22.6 21	11.8 11	-	78.5 73	18.3 17	15.1 14	12.9 12	6.5 6	31.2 29	5.4 5	21.5 20	12.9 12	-
	不 明	100.0 9	11.1 1	66.7 6	22.2 2	11.1 1	-	-	-	-	11.1 1	22.2 1	33.3 3	-	-	-	11.1 1	-	-	11.1 1	11.1 1	44.4 4
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	40.4 36	77.5 69	24.7 22	5.6 5	11.2 10	3.4 3	7.9 7	19.1 17	15.7 14	-	74.2 66	32.6 29	21.3 19	12.4 11	6.7 6	22.5 20	5.6 5	27.0 24	10.1 9	-
	買春経験 なし	100.0 521	33.4 174	76.4 398	21.3 111	5.2 27	2.9 15	4.8 25	7.9 41	18.4 96	13.1 68	0.6 3	53.7 280	23.6 123	6.0 31	8.4 44	5.2 27	17.7 92	1.5 8	13.8 72	27.1 141	1.0 5
	不 明	100.0 54	27.8 15	85.2 46	31.5 17	5.6 3	1.9 1	3.7 2	13.0 7	24.1 13	5.6 3	-	50.0 27	22.2 12	11.1 6	7.4 4	7.4 7	13.0 1	1.9 1	13.0 7	27.8 15	5.6 3

## \* \* \* 現代人の社会意識に関する調査 \* \* \*

		TOTAL	問19 充貢春意識(正当化・リスク軽視)																
			売買な女性	性交する男の子	買春する男の子	心の本能	売春する男の子	はセック	買春は女性の	うつされ	買春は危険	買春は危険	買春は危険	買春による	つけられ	感染による	あてはまる	ものはない	不明
問32 年代	TOTAL	100.0 664	32.4 215	14.2 94	16.0 106	11.1 74	3.3 22	14.8 98	58.1 386	22.1 147	0.9 6	11.3 75	19.9 132	0.9 6					
	20～24才	100.0 51	45.1 23	25.5 13	15.7 8	15.7 8	11.8 6	5.9 3	74.5 38	35.3 18	2.0 1	11.8 6	21.6 11						
	25～29才	100.0 73	16.4 12	13.7 10	5.5 4	4.1 3	2.7 2	8.2 6	61.6 45	27.4 20	1.4 1	13.7 10	27.4 20						
	30～34才	100.0 73	24.7 18	16.4 12	11.0 8	6.8 5	1.4 1	9.6 7	64.4 47	24.7 18	-	6.8 5	17.8 13	2.7 2					
	35～39才	100.0 82	39.0 32	12.2 10	15.9 13	12.2 10	1.2 1	13.4 11	64.6 53	25.6 21	3.7 3	9.8 8	14.6 12						
	40～44才	100.0 78	37.2 29	14.1 11	15.4 12	14.1 11	2.6 2	11.5 9	57.7 45	11.5 9	1.3 1	7.7 6	16.7 13						
	45～49才	100.0 88	33.0 29	11.4 10	14.8 13	9.1 8	1.1 1	15.9 14	47.7 42	14.8 13	-	8.0 7	28.4 25	1.1 1					
	50～54才	100.0 115	28.7 33	9.6 11	20.0 23	13.0 15	3.5 4	24.3 28	54.8 63	20.0 23	-	13.9 16	18.3 21	0.9 1					
	55～59才	100.0 96	39.6 38	16.7 16	22.9 22	12.5 12	5.2 5	19.8 19	51.0 49	24.0 23	-	14.6 14	17.7 17						
	不 明	100.0 8	12.5 1	12.5 1	37.5 3	25.0 2	-	12.5 1	50.0 4	25.0 2	-	37.5 3	-	25.0 2					
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	29.5 166	12.8 72	15.3 86	10.1 57	3.4 19	16.5 93	56.9 320	23.0 129	0.7 4	10.1 57	21.2 119	0.4 2					
	抵抗感 なし	100.0 93	50.5 47	23.7 22	21.5 20	17.2 16	3.2 3	4.3 4	68.8 64	17.2 16	1.1 1	18.3 17	12.9 12						
	不 明	100.0 9	22.2 2	-	-	11.1 1	-	11.1 1	22.2 2	22.2 2	11.1 1	11.1 1	11.1 1	44.4 44					
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	49.4 44	24.7 22	27.0 24	27.0 24	2.2 2	9.0 8	62.9 56	21.3 19	1.1 1	18.0 16	7.9 7	1.1 1					
	買春経験 なし	100.0 521	29.4 153	12.1 63	13.8 72	8.4 44	3.5 18	15.4 80	57.8 301	23.0 120	0.8 4	10.0 52	21.9 114	0.6 3					
	不 明	100.0 54	33.3 18	16.7 9	18.5 10	11.1 6	3.7 2	18.5 10	53.7 29	14.8 8	1.9 1	13.0 7	20.4 11	3.7 2					

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

-239-

		TOTAL	問20 性差別認識										問21 男女平等規範									
			現女性差別は日本ではほとんどない	今の社会は持続性がある	女性管理職は女性である	女性は男性よりも少ない	現代男性の会社で働く機会が少ないとされる	現代女性の会社で働く機会が多いとされる	マスクを差しながら現れることが多い	現代女性の負担が大きい	あてはまるものはない	あてはまるものがある	不明	女性は高い必要性はない	女性は高い必要性がある	家事は夫婦で分担する方がいい	家事は夫婦で分担しない方がいい	男女平等の関係は常に大切であるべき	男女平等の関係は常に決める場が少ない	国会など他の国の方針性	あてはまるものはない	不明
問32 年代	TOTAL	100.0 664	17.3 115	22.7 151	9.6 64	38.6 256	44.6 296	10.8 72	33.7 224	9.6 65	2.3 15	28.8 191	39.3 261	17.6 117	38.3 254	4.8 32	39.6 263	41.7 277	32.8 218	5.3 35	2.9 19	
	20～24才	100.0 51	11.8 6	23.5 12	13.7 7	51.0 26	39.2 20	21.6 11	37.3 19	19.6 10	2.0 1	29.4 15	41.2 21	31.4 16	25.5 13	9.8 5	56.9 29	43.1 22	47.1 24	3.9 2	3.9 2	
	25～29才	100.0 73	12.3 9	27.4 20	8.2 6	46.6 34	39.7 29	8.2 6	28.8 21	11.0 8	2.7 2	28.8 21	30.1 22	19.2 14	38.4 28	6.8 5	60.3 44	42.5 31	35.6 26	8.2 6	2.7 2	
	30～34才	100.0 73	12.3 9	23.3 17	8.2 6	46.6 34	45.2 33	11.0 8	42.5 31	9.6 7	-	31.5 23	34.2 25	19.2 14	34.2 25	8.2 6	52.1 38	52.1 38	35.6 26	5.5 4	2.7 2	
	35～39才	100.0 82	9.8 8	20.7 17	7.3 6	41.5 34	51.2 42	9.8 8	36.6 30	7.3 6	2.4 2	25.6 21	30.5 25	15.9 13	36.6 30	3.7 3	36.6 30	50.0 41	32.9 27	8.5 7	2.4 2	
	40～44才	100.0 78	20.5 16	23.1 18	14.1 11	35.9 28	34.6 27	10.3 8	28.2 22	11.5 9	1.3 1	25.6 20	39.7 31	16.7 13	33.3 26	3.8 3	30.8 24	41.0 32	30.8 24	5.1 4	1.3 1	
	45～49才	100.0 88	21.6 19	26.1 23	9.1 8	30.7 27	40.9 36	12.5 11	27.3 24	12.5 11	-	20.5 18	47.7 42	15.9 14	46.6 41	5.7 5	27.3 24	38.6 34	28.4 25	5.7 5	-	
	50～54才	100.0 115	20.0 23	18.3 21	13.0 15	30.4 35	46.1 53	5.2 6	33.0 38	8.7 10	6.1 7	33.0 38	40.0 46	13.0 15	32.2 37	2.6 3	27.0 31	35.7 41	25.2 29	5.2 6	6.1 7	
	55～59才	100.0 96	25.0 24	22.9 22	4.2 4	37.5 36	53.1 51	13.5 13	35.4 34	4.2 4	2.1 2	34.4 33	49.0 47	17.7 17	55.2 53	2.1 2	40.6 39	36.5 35	35.4 34	1.0 1	2.1 2	
	不明	100.0 8	12.5 1	12.5 1	12.5 1	25.0 2	62.5 5	12.5 1	62.5 5	-	-	25.0 2	25.0 2	12.5 1	12.5 1	-	50.0 4	37.5 3	37.5 3	-	12.5 1	
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	16.2 91	22.6 127	9.8 55	38.8 218	44.1 248	9.6 54	34.7 195	9.8 55	2.7 15	28.6 161	40.2 226	17.8 100	39.3 221	3.7 21	40.0 225	42.2 237	32.4 182	5.0 28	3.2 18	
	抵抗感 なし	100.0 93	18.3 17	24.7 23	9.7 9	36.6 34	48.4 45	16.1 15	29.0 27	10.8 10	-	30.1 28	34.4 32	18.3 17	30.1 28	10.8 10	37.6 35	43.0 40	36.6 34	7.5 7	-	
	不明	100.0 9	77.8 7	11.1 1	-	44.4 4	33.3 3	33.3 3	22.2 2	-	-	22.2 2	33.3 3	-	55.6 5	11.1 1	33.3 3	-	22.2 2	-	11.1 1	
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	20.2 18	29.2 26	10.1 9	33.7 30	46.1 41	13.5 12	30.3 27	12.4 11	1.1 1	23.6 21	42.7 38	22.5 20	42.7 38	9.0 8	40.4 36	42.7 38	37.1 33	7.9 7	2.2 2	
	買春経験 なし	100.0 521	15.5 81	21.9 114	9.6 50	40.7 212	45.1 235	10.0 52	35.1 183	9.6 50	1.9 10	28.4 148	39.3 205	17.5 91	37.2 194	3.6 19	40.1 209	41.3 215	31.1 162	5.0 26	2.1 11	
	不明	100.0 54	29.6 16	20.4 11	9.3 5	25.9 14	37.0 20	14.8 8	25.9 14	7.4 4	7.4 4	40.7 22	33.3 18	11.1 6	40.7 22	9.3 5	33.3 18	44.4 24	42.6 23	3.7 2	11.1 6	

# \* \* \* 現代人の社会意識に関する調査 \* \* \*

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問24 偏見有無 (人種・障害者等)											
			人種の差異によるところ	頭の善し悪しと思うところ	日本と他の国との交流をもつべきところ	自ら働き自分で働きたいところ	障害を持たない人よりも弱い人	障害を持たない人よりも強い人	障害の特徴を理解する人	障害者に対する支障はないと感じる人	福祉を受けている者	甘えて甘えている人	あてはまる	不
TOTAL		100.0 664	23.8 158	8.7 58	28.0 186	17.9 119	21.8 145	46.2 307	59.6 396	33.4 222	7.8 52	2.3 15		
問32 年代	20～24才	100.0 51	37.3 19	21.6 11	37.3 19	17.6 9	41.2 21	52.9 27	52.9 27	31.4 16	11.8 6	2.0 1		
	25～29才	100.0 73	24.7 18	11.0 8	27.4 20	24.7 18	24.7 18	50.7 37	53.4 39	27.4 20	9.6 7	1.4 1		
	30～34才	100.0 73	35.6 26	2.7 2	28.8 21	24.7 18	24.7 18	42.5 31	57.5 42	26.0 19	9.6 7	-		
	35～39才	100.0 82	15.9 13	6.1 5	26.8 22	9.8 8	13.4 11	42.7 35	67.1 55	36.6 30	11.0 9	2.4 2		
	40～44才	100.0 78	26.9 21	7.7 6	33.3 26	19.2 15	25.6 20	43.6 34	61.5 48	32.1 25	1.3 1	1.3 1		
	45～49才	100.0 88	21.6 19	10.2 9	17.0 15	11.4 10	25.0 22	46.6 41	60.2 53	30.7 27	10.2 9	-		
	50～54才	100.0 115	14.8 17	7.0 8	28.7 33	16.5 19	14.8 17	46.1 53	60.0 69	37.4 43	7.0 8	6.1 7		
	55～59才	100.0 96	24.0 23	9.4 9	29.2 28	21.9 21	16.7 16	47.9 46	61.5 59	39.6 38	5.2 5	3.1 3		
	不明	100.0 8	25.0 2	-	25.0 2	12.5 1	25.0 2	37.5 3	50.0 4	50.0 4	-	-		
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	21.4 120	8.0 45	26.9 151	17.4 98	22.1 124	48.4 272	60.0 337	34.2 192	7.8 44	2.7 15		
	抵抗感 なし	100.0 93	37.6 35	14.0 13	34.4 32	20.4 19	19.4 18	34.4 32	60.2 56	30.1 28	8.6 8	-		
	不明	100.0 9	33.3 3	-	33.3 3	22.2 2	33.3 3	33.3 3	33.3 3	22.2 2	-	-		
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	22.5 20	10.1 9	27.0 24	25.8 23	20.2 18	53.9 48	52.8 47	36.0 32	9.0 8	1.1 1		
	買春経験 なし	100.0 521	24.0 125	9.2 48	26.1 136	16.9 88	22.6 118	43.8 228	61.2 319	34.0 177	8.4 44	1.7 9		
	不明	100.0 54	24.1 13	1.9 1	48.1 26	14.8 8	16.7 9	57.4 31	55.6 30	24.1 13	-	9.3 13		

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問25 精神的健康

		TOTAL	a. 何かをする時にいつもより集中					b. 心配ごとがあってよく眠れない					c. 自分のしてる事に生きがい感じる					d. 容易に物ごとを決めること				
			で き た た	い つ も と な か つ た	い つ も よ り な か つ た	ま つ た く な か つ た	不 明	ま う た く な か つ た	あ ま り な か つ た	あ っ た	た ひ た び あ つ た	不 明	あ っ た	い つ も と な か つ た	な か つ た	ま つ た く な か つ た	不 明	で き な か つ た	い つ も と な か つ た	で き な か つ た	ま つ た く な か つ た	不 明
問25 年代	TOTAL	100.0 664	18.1 120	69.4 461	9.5 63	1.4 9	1.7 11	28.9 192	43.8 291	19.7 131	5.9 39	1.7 11	17.2 114	63.6 422	15.4 102	2.3 15	1.7 11	11.3 75	76.5 508	9.2 61	1.1 7	2.0 13
	20～24才	100.0 51	21.6 11	70.6 36	7.8 4	-	-	37.3 19	37.3 19	15.7 8	9.8 5	-	17.6 9	56.9 29	15.7 8	9.8 5	-	17.6 9	74.5 38	5.9 3	2.0 1	-
	25～29才	100.0 73	21.9 16	68.5 50	9.6 7	-	-	32.9 24	41.1 30	19.2 14	6.6 5	-	23.3 17	58.9 43	13.7 10	4.1 3	-	17.8 13	72.6 53	9.6 7	-	-
	30～34才	100.0 73	21.9 16	68.5 50	6.8 5	2.7 2	-	39.7 29	39.7 29	15.1 11	5.5 4	-	20.5 15	58.9 43	17.8 13	2.7 2	-	11.0 8	79.5 58	6.8 5	2.7 2	-
	35～39才	100.0 82	9.8 8	76.8 63	9.8 8	2.4 2	1.2 1	25.6 21	48.8 40	20.7 17	3.7 3	1.2 1	14.6 12	64.6 53	19.5 16	-	1.2 1	11.0 9	79.3 65	8.5 7	-	1.2 1
	40～44才	100.0 78	20.5 16	61.5 48	12.8 10	1.3 1	3.8 3	29.5 23	41.0 32	20.5 16	5.1 4	3.8 3	16.7 13	65.4 51	11.5 9	1.3 1	5.1 4	7.7 6	78.2 61	9.0 7	1.3 1	3.8 3
	45～49才	100.0 88	17.0 15	72.7 64	4.5 4	-	5.7 5	17.0 15	47.7 42	22.7 20	5.7 5	6.6 6	15.9 14	63.6 56	13.6 12	1.1 1	5.7 5	8.0 7	76.1 67	9.1 8	-	6.8 6
	50～54才	100.0 115	13.0 15	70.4 81	13.9 16	2.6 3	-	29.6 34	47.0 54	19.1 22	4.3 5	-	12.2 14	73.0 84	13.9 16	0.9 1	-	5.2 6	85.2 98	7.8 9	1.7 2	-
	55～59才	100.0 96	20.8 20	67.7 65	8.3 8	1.0 1	2.1 2	26.0 25	43.8 42	20.8 20	8.3 8	1.0 1	18.8 18	61.5 59	16.7 16	2.1 2	1.0 1	16.7 16	64.6 62	14.6 14	1.0 1	3.1 3
	不明	100.0 8	37.5 3	50.0 4	12.5 1	-	-	25.0 2	37.5 3	37.5 3	-	-	25.0 2	50.0 4	25.0 2	-	-	12.5 1	75.0 6	12.5 1	-	-
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	19.0 107	69.4 390	9.1 51	1.1 6	1.4 8	30.1 169	44.3 249	18.1 102	6.0 34	1.4 8	18.3 103	65.1 366	13.2 74	2.0 11	1.4 8	12.1 68	76.9 432	8.2 46	1.1 6	1.8 10
	抵抗感 なし	100.0 93	10.8 10	69.9 65	12.9 12	3.2 3	3.2 3	22.6 21	40.9 38	29.0 27	4.3 4	3.2 3	9.7 9	53.8 50	29.0 27	4.3 4	3.2 3	6.5 6	74.2 69	15.1 14	1.1 1	3.2 3
	不明	100.0 9	33.3 3	66.7 6	-	-	-	22.2 2	44.4 4	22.2 2	11.1 1	-	22.2 2	66.7 6	11.1 1	-	-	11.1 1	77.8 7	11.1 1	-	-
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	21.3 19	66.3 59	9.0 8	1.1 1	2.2 2	25.8 23	47.2 42	15.7 14	9.0 8	2.2 2	23.6 21	49.4 44	19.1 17	5.6 5	2.2 2	10.1 9	78.7 70	7.9 7	1.1 1	2.2 2
	買春経験 なし	100.0 521	17.3 90	69.7 363	10.4 54	1.5 8	1.2 6	29.8 155	42.4 221	21.1 110	5.6 29	1.2 6	15.4 80	67.2 350	14.6 76	1.7 9	1.2 6	11.1 58	77.0 401	9.4 49	1.2 6	1.3 7
	不明	100.0 54	20.4 11	72.2 39	1.9 1	-	5.6 3	25.9 14	51.9 28	13.0 7	3.7 2	5.6 3	24.1 13	51.9 28	16.7 9	1.9 1	5.6 3	14.8 8	68.5 37	9.3 5	-	7.4 4

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問25 精神的健康

		TOTAL	e. ストレスを感じたこと					f. 問題を解決できなくて困ったこと					g. 問題があつたとき積極的に解決しようとする					h. 気が重くて憂鬱になること				
			まつたくなかつた	あまりなかつた	あつた	たびたびあつた	不明	まつたくなかつた	あまりなかつた	あつた	たびたびあつた	不明	できた	いつ変わらなかつた	できなかつた	まつたくなかつた	できなかつた	不	まつたくなかつた	いつ変わらなかつた	あつた	たびたびあつた
問32 年代	TOTAL	100.0 664	7.5 50	43.1 286	36.4 242	11.3 75	1.7 11	16.9 112	48.9 325	28.0 186	4.5 30	1.7 11	16.3 108	69.9 464	10.1 67	1.1 7	2.7 18	18.1 120	48.0 319	26.5 176	5.4 36	2.0 13
	20～24才	100.0 51	7.8 4	49.0 25	29.4 15	13.7 7	-	21.6 11	49.0 25	17.6 9	11.8 6	-	19.6 10	70.6 36	5.9 3	3.9 2	-	11.8 6	47.1 24	33.3 17	7.8 4	-
	25～29才	100.0 73	11.0 8	32.9 24	39.7 29	16.4 12	-	15.1 11	47.9 35	31.5 23	5.5 4	-	17.8 13	71.2 52	9.6 7	-	1.4 1	20.5 15	45.2 33	26.0 19	8.2 6	-
	30～34才	100.0 73	4.1 3	39.7 29	37.0 27	19.2 14	-	17.8 13	42.5 31	32.9 24	6.8 5	-	13.7 10	75.3 55	5.5 4	2.7 2	2.7 2	12.3 9	50.7 37	30.1 22	6.8 5	-
	35～39才	100.0 82	2.4 2	45.1 37	40.2 33	11.0 9	1.2 1	14.6 12	48.8 40	28.0 23	7.3 6	1.2 1	8.5 7	76.8 63	13.4 11	-	1.2 1	14.6 12	51.2 42	24.4 20	8.5 7	1.2 1
	40～44才	100.0 78	1.3 1	42.3 33	44.9 35	7.7 6	3.8 3	7.7 6	46.2 36	38.5 30	3.8 3	3.8 3	20.5 16	60.3 47	14.1 11	-	5.1 4	9.0 7	55.1 43	29.5 23	2.6 2	3.8 3
	45～49才	100.0 88	6.8 6	40.9 36	36.4 32	10.2 9	5.7 5	13.6 12	51.1 45	27.3 24	2.3 2	5.7 5	15.9 14	69.3 61	9.1 8	-	5.7 5	15.9 14	46.6 41	27.3 24	3.4 3	6.8 6
	50～54才	100.0 115	8.7 10	48.7 56	37.4 43	5.2 6	-	20.0 23	52.2 60	27.0 31	0.9 1	-	17.4 20	72.2 83	8.7 10	1.7 2	-	21.7 25	47.0 54	26.1 30	5.2 6	-
	55～59才	100.0 96	15.6 15	43.8 42	27.1 26	11.5 11	2.1 2	21.9 21	51.0 49	22.9 22	2.1 2	2.1 2	17.7 17	63.5 61	13.5 13	1.0 1	4.2 4	32.3 31	42.7 41	19.8 19	3.1 3	2.1 2
	不明	100.0 8	12.5 1	50.0 4	25.0 2	12.5 1	-	37.5 3	50.0 4	-	12.5 1	-	12.5 1	75.0 6	-	-	12.5 1	12.5 1	50.0 4	25.0 2	-	12.5 1
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	8.0 45	44.3 249	34.7 195	11.6 65	1.4 8	17.3 97	50.2 282	26.3 148	4.8 27	1.4 8	17.1 96	70.8 398	9.3 52	0.9 5	2.0 11	20.1 113	47.9 269	25.4 143	5.0 28	1.6 9
	抵抗感 なし	100.0 93	4.3 4	35.5 33	46.2 43	10.8 10	3.2 3	14.0 13	39.8 37	39.8 37	3.2 3	3.2 3	12.9 12	65.6 61	15.1 14	2.2 2	4.3 4	6.5 6	48.4 45	33.3 31	8.6 8	3.2 3
	不明	100.0 9	11.1 1	44.4 4	44.4 4	-	-	22.2 2	66.7 6	11.1 1	-	-	-	55.6 5	11.1 1	-	33.3 3	11.1 1	55.6 5	22.2 2	-	11.1 1
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	6.7 6	40.4 36	38.2 34	12.4 11	2.2 2	14.6 13	43.8 39	37.1 33	2.2 2	2.2 2	16.9 15	68.5 61	11.2 10	1.1 1	2.2 2	10.1 9	51.7 46	28.1 25	7.9 7	2.2 2
	買春経験 なし	100.0 521	8.1 42	42.2 220	37.2 194	11.5 60	1.0 5	16.7 87	49.7 259	27.4 143	5.2 27	1.0 5	16.1 84	70.2 366	10.4 54	1.2 6	2.1 11	19.4 101	47.6 248	26.5 138	5.4 28	1.2 6
	不明	100.0 54	3.7 2	55.6 30	25.9 14	7.4 4	7.4 4	22.2 12	50.0 27	18.5 10	1.9 1	7.4 4	16.7 9	68.5 37	5.6 3	-	9.3 5	18.5 10	46.3 25	24.1 13	1.9 1	9.3 5

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

問25 精神的健康

		TOTAL	i. 自信を失ったこと					j. 自分は役に立たない人間だと考えたこと					k. 一般的にみて幸せと感じること					l. /何んて気味で何もすることできないと考えた						
			まつたくなかつた	あまりなかつた	あつた	たびたびあつた	不明	まつたくなかつた	あまりなかつた	あつた	たびたびあつた	不明	たびたびあつた	あつた	なかつた	まつたくなかつた	あつた	たびたびあつた	不明	まつたくなかつた	あまりなかつた	あつた	たびたびあつた	不明
問25 年代	TOTAL	100.0 664	27.9 185	48.0 319	19.6 130	2.9 19	1.7 11	45.9 305	40.8 271	9.0 60	2.0 13	2.3 15	10.1 67	45.0 299	39.5 262	2.7 18	2.7 18	70.2 466	22.3 148	4.4 29	0.8 5	2.4 16		
	20～24才	100.0 51	23.5 12	43.1 22	27.5 14	5.9 3	-	39.2 20	41.2 21	15.7 8	3.9 2	-	13.7 7	37.3 19	43.1 22	5.9 3	-	64.7 33	27.5 14	5.9 3	2.0 1	-		
	25～29才	100.0 73	30.1 22	50.7 37	16.4 12	2.7 2	-	53.4 39	32.9 24	9.6 7	2.7 2	1.4 1	17.8 13	43.8 32	32.9 24	2.7 2	2.7 2	76.7 56	16.4 12	2.7 2	2.7 2	1.4 1		
	30～34才	100.0 73	24.7 18	47.9 35	21.9 16	5.5 4	-	47.9 35	38.4 28	13.7 10	-	-	15.1 11	38.4 28	45.2 33	1.4 1	-	61.6 45	31.5 23	5.5 4	-	1.4 1		
	35～39才	100.0 82	31.7 26	46.3 38	17.1 14	3.7 3	1.2 1	43.9 36	46.3 38	6.1 5	2.4 2	1.2 1	11.0 9	51.2 42	32.9 27	3.7 3	1.2 1	74.4 61	19.5 16	4.9 4	-	1.2 1		
	40～44才	100.0 78	15.4 12	51.3 40	29.5 23	-	3.8 3	38.5 30	44.9 35	10.3 8	1.3 1	5.1 4	6.4 5	50.0 39	38.5 30	-	5.1 4	67.9 53	24.4 19	2.6 2	-	5.1 4		
	45～49才	100.0 88	30.7 27	45.5 40	17.0 15	1.1 1	5.7 5	43.2 38	39.8 35	9.1 8	1.1 1	6.8 6	4.5 4	47.7 42	38.6 34	1.1 1	8.0 7	68.2 60	20.5 18	3.4 3	1.1 1	6.8 6		
	50～54才	100.0 115	28.7 33	51.3 59	17.4 20	2.6 3	-	47.8 55	40.9 47	7.8 9	3.5 4	-	7.0 8	40.0 46	50.4 58	2.6 3	-	70.4 81	22.6 26	6.1 7	0.9 1	-		
	55～59才	100.0 96	33.3 32	45.8 44	16.7 16	2.1 2	2.1 2	50.0 48	40.6 39	5.2 5	1.0 1	3.1 3	9.4 9	49.0 47	32.3 31	5.2 5	4.2 4	75.0 72	17.7 17	4.2 4	-	3.1 3		
	不 明	100.0 8	37.5 3	50.0 4	-	12.5 1	-	50.0 4	50.0 4	-	-	-	12.5 1	50.0 4	37.5 3	-	-	62.5 5	37.5 3	-	-	-		
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	29.2 164	47.0 264	20.1 113	2.3 13	1.4 8	48.6 273	38.6 217	8.9 50	1.8 10	2.1 12	10.9 61	45.7 257	39.0 219	2.3 13	2.1 12	71.2 400	21.9 123	4.3 24	0.7 4	2.0 11		
	抵抗感 なし	100.0 93	20.4 19	52.7 49	17.2 16	6.5 6	3.2 3	31.2 29	51.6 48	10.8 10	3.2 3	3.2 3	6.5 6	39.8 37	43.0 40	5.4 5	5.4 5	65.6 61	23.7 22	5.4 5	1.1 1	4.3 4		
	不 明	100.0 9	22.2 2	66.7 6	11.1 1	-	-	33.3 3	66.7 6	-	-	-	-	55.6 5	33.3 3	-	11.1 1	55.6 5	33.3 3	-	-	11.1 1		
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	20.2 18	51.7 46	19.1 17	6.7 6	2.2 2	47.2 42	40.4 36	4.5 4	5.6 5	2.2 2	15.7 14	38.2 34	37.1 33	6.7 6	2.2 2	68.5 61	22.5 20	4.5 4	2.2 2	2.2 2		
	買春経験 なし	100.0 521	29.4 153	46.8 244	20.3 106	2.5 13	1.0 5	45.1 235	41.5 216	10.2 53	1.5 8	1.7 9	9.2 48	46.1 240	40.1 209	2.3 12	2.3 12	70.6 368	22.1 115	4.8 25	0.6 3	1.9 10		
	不 明	100.0 54	25.9 14	53.7 29	13.0 7	-	7.4 4	51.9 28	35.2 19	5.6 3	-	7.4 4	9.3 5	46.3 25	37.0 20	-	7.4 4	68.5 37	24.1 13	-	-	7.4 4		

\* \* \* 現代人の社会意識に関する調査 \* \* \*

問 25 精神的健康

		TOTAL	m. 日常生活を楽しく送ること					n. 性的欲求を感じること				
			で き た	い つ も わ ら な か つ た	で き な か つ た	ま つ た く な か つ た	不 明	た ひ た び あ う た た	あ つ た	な か つ た	ま つ た く な か つ た	不 明
TOTAL		100.0 664	12.8 85	78.3 520	6.0 40	0.9 6	2.0 13	14.6 97	60.4 401	20.6 138	2.3 15	2.0 13
問 32 年 代	20 ~ 24 才	100.0 51	15.7 8	72.5 37	9.8 5	2.0 1	-	39.2 20	52.9 27	7.8 4	-	-
	25 ~ 29 才	100.0 73	15.1 11	76.7 56	6.8 5	1.4 1	-	26.0 19	56.2 41	15.1 11	1.4 1	1.4 1
	30 ~ 34 才	100.0 73	21.9 16	71.2 52	5.5 4	1.4 1	-	15.1 11	63.0 46	20.5 15	1.4 1	-
	35 ~ 39 才	100.0 82	12.2 10	79.3 65	6.1 5	1.2 1	1.2 1	12.2 10	67.1 55	18.3 15	1.2 1	1.2 1
	40 ~ 44 才	100.0 78	12.8 10	73.1 57	9.0 7	-	5.1 4	12.8 10	67.9 53	11.5 9	2.6 2	5.1 4
	45 ~ 49 才	100.0 88	9.1 8	81.8 72	2.3 2	-	6.8 6	10.2 9	56.8 50	23.9 21	3.4 3	5.7 5
	50 ~ 54 才	100.0 115	5.2 6	86.1 99	7.8 9	0.9 1	-	8.7 10	60.0 69	27.8 32	3.5 4	-
	55 ~ 59 才	100.0 96	16.7 16	77.1 74	3.1 3	1.0 1	2.1 2	8.3 8	56.3 54	30.2 29	3.1 3	2.1 2
	不 明	100.0 8	-	100.0 8	-	-	-	-	75.0 6	25.0 2	-	-
	抵 抗 感 あ り	100.0 562	13.7 77	78.6 442	5.2 29	0.7 4	1.8 10	14.6 82	58.4 328	22.8 128	2.5 14	1.8 10
援 助 交 際 態 度	抵 抗 感 な し	100.0 93	8.6 8	74.2 69	11.8 11	2.2 2	3.2 3	15.1 14	69.9 65	10.8 10	1.1 1	3.2 3
	不 明	100.0 9	-	100.0 9	-	-	-	11.1 11	88.9 8	-	-	-
	買 春 経 験	100.0 89	11.2 10	76.4 68	7.9 7	2.2 2	2.2 2	27.0 24	62.9 56	7.9 7	-	2.2 2
買 春 経 験	買 春 経 験 あ り	100.0 521	12.7 66	79.3 413	6.0 31	0.8 4	1.3 7	13.1 68	60.8 317	21.9 114	2.9 15	1.3 7
	買 春 経 験 な し	100.0 54	16.7 9	72.2 39	3.7 2	-	7.4 4	9.3 5	51.9 28	31.5 17	-	7.4 4
	不 明	100.0 54	-	100.0 8	-	-	-	-	-	-	-	-

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		問26 配偶者の有無			問26付問1 恋人の有無			問26付問2 妻との同居有無			問26付問3 妻との情緒的交流											
		TOTAL	配偶者はいない	配偶者がいる	不明	TOTAL	恋人がいる	恋人はない	不明	TOTAL	同居している	別居している	不明	TOTAL	妻から愛されている	妻は頼りになる	妻は私の気持ちを理解している	仲はよそに	あてはない	不		
問32 年代	TOTAL	100.0 664	28.8 191	69.9 464	1.4 9	100.0 191	26.7 51	72.8 139	0.5 1	100.0 464	97.6 453	1.9 9	0.4 2	100.0 464	60.6 281	54.7 254	47.2 219	65.5 304	31.0 144	53.0 246	9.1 42	1.1 5
	20～24才	100.0 51	90.2 46	9.8 5	-	100.0 46	26.1 12	73.9 34	-	100.0 5	100.0 5	-	-	100.0 26	76.9 20	65.4 17	65.4 17	61.5 16	46.2 12	69.2 18	3.8 1	-
	25～29才	100.0 73	64.4 47	35.6 26	-	100.0 47	31.9 15	66.0 31	2.1 1	100.0 42	97.6 41	2.4 1	-	100.0 42	66.7 28	64.3 28	66.7 30	71.4 16	38.1 16	57.1 24	7.1 3	-
	30～34才	100.0 73	41.1 30	57.5 42	1.4 1	100.0 30	36.7 11	63.3 19	-	100.0 56	96.4 54	3.6 2	-	100.0 56	60.7 34	57.1 32	55.4 31	67.9 38	25.0 14	57.1 32	7.1 4	3.6 2
	35～39才	100.0 82	30.5 25	68.3 56	1.2 1	100.0 25	36.0 9	64.0 16	-	100.0 58	100.0 58	-	-	100.0 58	62.1 36	58.6 34	51.7 30	69.0 40	32.8 19	44.8 26	13.8 8	-
	40～44才	100.0 78	21.8 17	74.4 58	3.8 3	100.0 17	-	100.0 17	-	100.0 76	90.8 69	6.6 5	2.6 2	100.0 76	51.3 39	47.4 36	38.2 29	63.2 48	32.9 25	47.4 36	13.2 10	1.3 1
	45～49才	100.0 88	10.2 9	86.4 76	3.4 3	100.0 9	11.1 1	88.9 8	-	100.0 104	100.0 104	-	-	100.0 104	52.9 55	46.2 48	33.7 35	53.8 56	19.2 20	46.2 48	10.6 11	1.9 2
	50～54才	100.0 115	9.6 11	90.4 104	-	100.0 11	27.3 3	72.7 9	-	100.0 90	98.9 89	1.1 1	-	100.0 90	70.0 63	58.9 53	45.6 41	73.3 66	35.6 32	61.1 55	5.6 5	-
	55～59才	100.0 96	5.2 5	93.8 90	1.0 1	100.0 5	-	100.0 5	-	100.0 7	100.0 7	-	-	100.0 7	42.9 3	57.1 4	71.4 5	71.4 4	-	-	-	-
	不 明	100.0 8	12.5 1	87.5 7	-	100.0 1	-	100.0 1	-	100.0 403	98.0 395	1.7 7	0.2 1	100.0 403	61.8 249	56.1 226	47.6 192	65.5 264	31.0 125	55.1 222	8.9 36	0.7 3
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	27.0 152	71.7 403	1.2 7	100.0 152	28.9 44	70.4 107	0.7 1	100.0 55	94.5 52	3.6 2	1.8 1	100.0 6	66.7 4	66.7 4	66.7 4	83.3 5	66.7 4	66.7 4	-	-
	抵抗感 なし	100.0 93	38.7 36	59.1 55	2.2 2	100.0 36	16.7 6	83.3 30	-	100.0 55	100.0 6	-	-	100.0 6	66.7 4	66.7 4	66.7 4	83.3 5	66.7 4	66.7 4	-	-
	不 明	100.0 9	33.3 3	66.7 6	-	100.0 3	33.3 1	66.7 2	-	100.0 38	100.0 34	-	-	100.0 38	52.9 18	38.2 13	29.4 10	70.6 24	5.9 2	41.2 14	23.5 8	-
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	58.4 52	38.2 34	3.4 3	100.0 52	34.6 18	65.4 34	-	100.0 392	100.0 381	-	-	100.0 392	60.7 238	55.6 218	48.2 189	64.8 254	32.1 126	53.8 211	8.2 32	1.3 5
	買春経験 なし	100.0 521	24.2 126	75.2 392	0.6 3	100.0 126	23.8 30	75.4 95	0.8 1	100.0 38	97.2 100.0	2.3 -	0.5 2	100.0 38	65.8 25	60.5 23	52.6 20	68.4 26	42.1 16	55.3 21	5.3 2	-
	不 明	100.0 54	24.1 13	70.4 38	5.6 3	100.0 13	23.1 3	76.9 10	-	100.0 38	100.0 38	-	-	100.0 38	-	-	-	-	-	-	-	-

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問26付問4 妻の職業									
			勤め フルタイムで いる	勤め パートタイムで いる	内職を している	専業 主婦	そ の 他	* 有 職	不 明	計		
TOTAL		100.0 464	7.8 36	3.9 18	13.6 63	26.3 122	2.6 12	43.8 203	-	54.1 251	2.2 10	
問32 年 代	20 ~ 24 才	100.0 5	-	-	40.0 2	-	-	60.0 3	-	40.0 2	-	
	25 ~ 29 才	100.0 26	3.8 1	-	19.2 5	15.4 4	3.8 1	53.8 14	-	42.3 11	3.8 1	
	30 ~ 34 才	100.0 42	7.1 3	2.4 1	21.4 9	11.9 5	-	57.1 24	-	42.9 18	-	
	35 ~ 39 才	100.0 56	3.6 2	-	14.3 8	17.9 10	1.8 1	60.7 34	-	37.5 21	1.8 1	
	40 ~ 44 才	100.0 58	6.9 4	1.7 1	6.9 4	37.9 22	3.4 2	41.4 24	-	56.9 33	1.7 1	
	45 ~ 49 才	100.0 76	1.3 1	3.9 3	14.5 11	30.3 23	3.9 3	44.7 34	-	53.9 41	1.3 1	
	50 ~ 54 才	100.0 104	12.5 13	5.8 6	14.4 15	27.9 29	1.0 1	35.6 37	-	61.5 64	2.9 3	
	55 ~ 59 才	100.0 90	11.1 10	7.8 7	8.9 8	30.0 27	4.4 4	34.4 31	-	62.2 56	3.3 3	
	不 明	100.0 7	28.6 2	-	14.3 1	28.6 2	-	28.6 2	-	71.4 5	-	
	抵抗感 あり	100.0 403	7.9 32	4.2 17	12.2 49	26.6 107	2.5 10	44.4 179	-	53.3 215	2.2 9	
援助 交際態度	抵抗感 なし	100.0 55	5.5 3	-	23.6 13	25.5 14	3.6 2	40.0 22	-	58.2 32	1.8 1	
	不 明	100.0 6	16.7 1	16.7 1	16.7 1	16.7 1	-	33.3 2	-	66.7 4	-	
	買春経験 あり	100.0 34	14.7 5	-	5.9 2	26.5 9	-	47.1 16	-	47.1 16	5.9 2	
買春経験	買春経験 なし	100.0 392	6.6 25	4.1 16	13.8 54	27.0 105	3.1 12	43.4 170	-	54.6 214	2.0 0	
	不 明	100.0 38	13.2 5	5.3 2	18.4 7	18.4 7	-	44.7 17	-	55.3 21	-	

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

-248-

		TOTAL	問27 離死別経験の有無					問28 子供の有無							
			離婚経験がある	死別経験がある	離死別の経験はない	*離死別経験あり	計	不	息子と娘がいる	皇子がいる	娘がいる	子どもはない	*息子がいる	*娘がいる	不
問32 年代	TOTAL	100.0 664	5.4 36	1.2 8	78.0 518	6.6 44	15.4 102	明	27.3 181	17.5 116	17.9 119	29.2 194	44.7 297	45.2 300	8.1 54
	20～24才	100.0 51	- -	- -	72.5 37	- -	27.5 14	明	- -	9.8 5	2.0 1	62.7 32	9.8 5	2.0 1	25.5 13
	25～29才	100.0 73	1.4 1	- -	75.3 55	1.4 1	23.3 17	明	6.8 5	6.8 5	5.5 4	61.6 45	13.7 10	12.3 9	19.2 14
	30～34才	100.0 73	5.5 4	- -	79.5 58	5.5 4	15.1 11	明	9.6 7	11.0 8	24.7 18	47.9 35	20.5 15	34.2 25	6.8 5
	35～39才	100.0 82	6.1 5	- -	79.3 65	6.1 5	14.6 12	明	18.3 15	22.0 18	15.9 13	32.9 27	40.2 33	34.1 28	11.0 9
	40～44才	100.0 78	6.4 5	2.6 2	78.2 61	9.0 7	12.8 10	明	33.3 26	21.8 17	14.1 11	24.4 19	55.1 43	47.4 37	6.4 5
	45～49才	100.0 88	8.0 7	- -	83.0 73	8.0 7	9.1 8	明	31.8 28	22.7 20	17.0 15	22.7 20	54.5 48	48.9 43	5.7 5
	50～54才	100.0 115	6.1 7	2.6 3	80.0 92	8.7 10	11.3 13	明	41.7 48	21.7 25	28.7 33	7.0 8	63.5 73	70.4 81	0.9 1
	55～59才	100.0 96	6.3 6	3.1 3	77.1 74	9.4 9	13.5 13	明	51.0 49	17.7 17	24.0 23	6.3 6	68.8 66	75.0 72	1.0 1
	不明	100.0 8	12.5 1	- -	37.5 3	12.5 1	50.0 4	明	37.5 3	12.5 1	12.5 1	25.0 2	50.0 4	50.0 4	12.5 1
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	5.0 28	0.7 4	79.0 444	5.7 32	15.3 86	明	28.8 162	17.6 99	18.0 101	27.9 157	46.4 261	46.8 263	7.7 43
	抵抗感 なし	100.0 93	6.5 6	3.2 3	76.3 71	9.7 9	14.0 13	明	15.1 14	17.2 16	17.2 16	38.7 36	32.3 30	32.3 30	11.8 11
	不明	100.0 9	22.2 2	11.1 1	33.3 3	33.3 3	33.3 3	明	55.6 5	11.1 1	22.2 2	11.1 1	66.7 6	77.8 7	-
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	7.9 7	4.5 4	64.0 57	12.4 11	23.6 21	明	10.1 9	14.6 13	13.5 12	42.7 38	24.7 22	23.6 21	19.1 17
	買春経験 なし	100.0 521	5.2 27	0.8 4	81.2 423	6.0 31	12.9 67	明	29.8 155	18.4 96	18.6 97	27.6 144	48.2 251	48.4 252	5.6 29
	不明	100.0 54	3.7 2	- -	70.4 38	3.7 2	25.9 14	明	31.5 17	13.0 7	18.5 10	22.2 12	44.4 24	50.0 27	14.8 8

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

—249—

		TOTAL	問29 家族との情緒的交流										問30 男女平等規範 (パーソナル版)										
			私の家族は暖かい	家族気持ちは互いにやつていいいる	家族の絆は強い方だ	家族話をしていくる	家族は私をしていくる	家族必要としている	私は私をしていくる	私たち家族は愛されたいと思う	家族には上記にはない	家族はない	不明	私は妻と夫の関係は	妻と夫の関係は	私は妻と夫の関係は	妻と夫の関係は	家庭の問題	男の子の子らしく	女の子の子らしく	しつけたい	あてはまる	ものはない
問32 年代	TOTAL	100.0 664	56.9 378	46.2 307	45.6 303	55.9 371	47.6 316	59.2 393	58.3 387	41.1 273	7.5 50	1.8 12	1.8 12	42.9 285	25.6 170	28.0 186	47.0 312	6.9 46	50.0 332	9.8 65	2.1 14		
	20 ~ 24才	100.0 51	47.1 24	37.3 19	51.0 26	64.7 33	23.5 12	45.1 23	56.9 29	45.1 23	5.9 3	-	-	41.2 21	43.1 22	68.6 35	62.7 32	5.9 3	54.9 28	3.9 2	2.0 1		
	25 ~ 29才	100.0 73	61.6 45	47.9 35	46.6 34	60.3 44	37.0 27	50.7 37	64.4 47	52.1 38	15.1 11	-	1.4 1	27.4 20	19.2 14	45.2 33	61.6 45	-	56.2 41	8.2 6	2.7 2		
	30 ~ 34才	100.0 73	65.8 48	49.3 36	45.2 33	54.8 40	50.7 37	56.2 41	54.8 40	53.4 39	12.3 9	4.1 3	-	38.4 28	30.1 22	37.0 27	53.4 39	6.8 5	57.5 42	12.3 9	-		
	35 ~ 39才	100.0 82	67.1 55	47.6 39	45.1 37	52.4 43	42.7 35	56.1 46	58.5 48	47.6 39	4.9 4	1.2 1	1.2 1	36.6 30	24.4 20	26.8 22	54.9 45	6.1 5	54.9 45	11.0 9	-		
	40 ~ 44才	100.0 78	57.7 45	43.6 34	39.7 31	56.4 44	47.4 37	56.4 44	53.8 42	39.7 31	11.5 9	2.6 2	3.8 3	46.2 36	35.9 28	23.1 18	39.7 31	5.1 4	56.4 44	6.4 5	3.6 3		
	45 ~ 49才	100.0 88	53.4 47	51.1 45	51.1 45	63.6 56	54.5 48	67.0 59	61.4 54	37.5 33	5.7 5	1.1 1	-	54.5 48	22.7 20	15.9 14	33.0 29	5.7 5	42.0 37	13.6 12	1.1 1		
	50 ~ 54才	100.0 115	47.0 54	41.7 48	39.1 45	47.8 55	55.7 64	66.1 76	57.4 66	29.6 34	6.1 7	0.9 1	0.9 1	42.6 49	18.3 21	16.5 19	41.7 48	11.3 13	41.7 48	11.3 13	0.9 1		
	55 ~ 59才	100.0 96	60.4 58	52.1 50	53.1 51	55.2 53	55.2 53	66.7 64	62.5 60	36.5 35	2.1 2	4.2 4	1.0 1	54.2 52	22.9 22	18.8 18	43.8 42	11.5 11	47.9 46	8.3 8	1.0 1		
	不 明	100.0 8	25.0 2	12.5 1	12.5 1	37.5 3	37.5 3	37.5 3	12.5 1	12.5 1	-	-	62.5 1	12.5 1	-	12.5 1	-	12.5 1	12.5 1	62.5 5	-		
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	57.8 325	47.7 268	47.5 321	57.1 275	48.9 340	60.5 333	59.3 232	41.3 34	6.0 9	1.6 10	1.8 10	43.4 244	24.6 138	28.5 160	47.3 266	6.2 35	51.6 290	9.1 51	1.8 10		
	抵抗感 なし	100.0 93	52.7 49	37.6 35	35.5 33	49.5 46	39.8 37	51.6 48	54.8 51	39.8 37	17.2 16	2.2 2	1.1 1	38.7 36	33.3 31	25.8 24	47.3 44	9.7 9	43.0 40	14.0 13	2.2 2		
	不 明	100.0 9	44.4 4	44.4 4	33.3 3	44.4 4	44.4 4	55.6 5	33.3 3	44.4 4	-	11.1 1	11.1 1	55.6 5	11.1 1	22.2 2	22.2 2	22.2 2	22.2 2	11.1 1	22.2 2		
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	47.2 42	38.2 34	37.1 33	38.2 34	31.5 28	48.3 43	48.3 43	36.0 32	16.9 15	3.4 3	-	41.6 37	28.1 25	29.2 26	50.6 45	9.0 8	52.8 47	7.9 7	1.1 1		
	買春経験 なし	100.0 521	57.4 299	46.4 242	45.7 238	58.2 303	49.9 260	60.8 317	59.1 308	40.5 211	6.1 32	1.7 9	1.5 8	44.1 230	26.1 136	28.6 149	46.3 241	6.9 36	48.9 255	10.2 53	2.1 11		
	不 明	100.0 54	68.5 37	57.4 31	59.3 32	63.0 34	51.9 28	61.1 33	66.7 36	55.6 30	5.6 3	-	7.4 4	33.3 18	16.7 9	20.4 11	48.1 26	3.7 2	55.6 30	9.3 5	3.7 2		

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問31 職業											問32 年令											平均年令			
			商工 自営 業	管 理 職	専門 技術	事務・營業 職	現 業	サー ビス 従事者	そ の 他	* 有 職 計	学 生 計	無 職 計	* 学生 ・ 無職 計	不 明	20 才	25 才	30 才	35 才	40 才	45 才	50 才	55 才	不 明					
	TOTAL	100.0 664	14.5 96	18.2 121	14.6 97	13.7 91	20.8 138	9.6 64	1.5 10	92.9 617	2.7 18	3.0 20	5.7 38	1.4 9	7.7 51	11.0 73	11.0 73	12.3 82	11.7 78	13.3 88	17.3 115	14.5 96	1.2 8	41.65				
問32 年代	20 ~ 24 才	100.0 51	5.9 3	2.0 1	9.8 5	9.8 10	19.6 4	7.8 2	3.9 30	58.8 30	33.3 17	7.8 4	41.2 21	-	100.0 51	-	-	-	-	-	-	-	-	22.16				
	25 ~ 29 才	100.0 73	9.6 7	1.4 1	19.2 14	23.3 17	26.0 19	19.2 14	-	98.6 72	1.4 1	-	1.4 1	-	-	100.0 73	-	-	-	-	-	-	-	27.21				
	30 ~ 34 才	100.0 73	9.6 7	1.4 1	26.0 19	20.5 15	26.0 19	15.1 11	-	98.6 72	-	1.4 1	1.4 1	-	-	-	100.0 73	-	-	-	-	-	-	-	31.68			
	35 ~ 39 才	100.0 82	13.4 11	11.0 9	20.7 17	20.7 17	8.5 7	1.2 1	96.3 79	-	3.7 3	3.7 3	-	-	-	-	-	100.0 82	-	-	-	-	-	-	-	37.07		
	40 ~ 44 才	100.0 78	15.4 12	20.5 16	11.5 9	14.1 11	20.5 16	5.1 4	3.8 3	91.0 71	-	6.4 5	6.4 5	2.6 2	-	-	-	-	100.0 78	-	-	-	-	-	-	-	41.86	
	45 ~ 49 才	100.0 88	15.9 14	28.4 25	15.9 14	13.6 12	15.9 14	4.5 4	2.3 2	96.6 85	-	2.3 2	2.3 2	1.1 1	-	-	-	-	-	100.0 88	-	-	-	-	-	-	-	47.34
	50 ~ 54 才	100.0 115	20.0 23	29.6 34	7.8 9	7.8 9	20.9 24	11.3 13	0.9 1	98.3 113	-	0.9 1	0.9 1	0.9 1	-	-	-	-	-	-	-	100.0 115	-	-	51.76			
	55 ~ 59 才	100.0 96	18.8 18	34.4 33	9.4 9	5.2 5	19.8 19	7.3 7	1.0 1	95.8 92	-	4.2 4	4.2 4	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 96	-	-	57.01			
	不 明	100.0 8	12.5 1	12.5 1	12.5 1	-	-	-	-	37.5 3	-	-	-	62.5 5	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 8	-	-	-		
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	14.6 82	18.9 106	14.4 81	13.0 73	20.5 115	10.1 57	1.4 8	92.9 522	3.2 18	2.7 15	5.9 33	1.2 7	7.5 42	10.3 58	10.9 61	11.0 62	11.0 75	13.3 110	19.6 88	15.7 88	0.7 4	42.33				
	抵抗感 なし	100.0 93	11.8 11	14.0 13	17.2 16	19.4 18	22.6 21	7.5 7	2.2 2	94.6 88	-	4.3 4	4.3 4	1.1 1	-	9.7 9	16.1 15	11.8 11	21.5 20	15.1 14	12.9 12	5.4 5	5.4 5	2.2 2	37.04			
	不 明	100.0 9	33.3 3	22.2 2	-	-	22.2 2	-	-	77.8 7	-	11.1 1	11.1 1	11.1 1	-	-	-	11.1 1	-	22.2 2	11.1 1	-	33.3 3	22.2 2	47.86			
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	16.9 15	13.5 12	16.9 15	19.1 17	14.6 13	11.2 10	2.2 2	94.4 84	2.2 2	3.4 3	5.6 5	-	9.0 8	18.0 16	14.6 13	18.0 16	10.1 9	11.2 10	11.2 10	7.9 7	-	38.00				
	買春経験 なし	100.0 521	14.2 74	19.4 101	14.4 75	13.6 71	20.7 108	9.0 47	1.3 7	92.7 483	2.9 15	3.1 16	6.0 31	1.3 7	-	7.7 40	9.8 51	10.9 57	11.9 62	11.1 58	14.6 76	18.0 94	14.8 77	1.2 6	42.03			
	不 明	100.0 54	13.0 7	14.8 8	13.0 7	5.6 3	31.5 17	13.0 7	1.9 1	92.6 50	1.9 1	1.9 1	3.7 2	3.7 2	-	5.6 3	11.1 6	5.6 3	7.4 4	20.4 11	3.7 2	20.4 11	22.2 12	3.7 2	44.17			

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		TOTAL	問33 学歴									問34 階層帰属意識										
			小学校	中学校	高等学校	各種学校	専修学校	(高等専門学校)	短期大学	大学	大学院	その他	不明	上	上	上	中	中	中	下	下	
問32 年代	TOTAL	100.0 664	6.2 41	31.6 210	10.7 71	5.1 34	44.7 297	-	-	-	1.7 11	-	0.9 6	4.1 27	4.5 30	27.1 180	29.8 198	18.2 121	8.4 56	4.1 27	1.5 10	1.4 9
	20～24才	100.0 51	-	33.3 17	23.5 12	2.0 1	41.2 21	-	-	-	-	-	2.0 1	5.9 3	2.0 1	29.4 15	31.4 16	13.7 7	13.7 7	2.0 1	-	-
	25～29才	100.0 73	-	42.5 31	19.2 14	5.5 4	32.9 24	-	-	-	-	-	-	1.4 1	4.1 3	30.1 22	32.9 24	15.1 11	5.5 4	9.6 7	1.4 1	-
	30～34才	100.0 73	5.5 4	28.8 21	20.5 15	8.2 6	37.0 27	-	-	-	-	-	-	1.4 1	1.4 1	31.5 23	23.3 17	23.3 17	9.6 7	6.8 5	1.4 1	1.4 1
	35～39才	100.0 82	4.9 4	23.2 19	11.0 9	3.7 3	56.1 46	-	-	-	1.2 1	-	-	7.3 6	2.4 2	18.3 15	24.4 20	24.4 20	15.9 13	6.1 5	1.2 1	-
	40～44才	100.0 78	3.8 3	24.4 19	11.5 9	3.8 3	52.6 41	-	-	-	3.8 3	-	2.6 2	2.6 2	5.1 4	25.6 20	26.9 21	21.8 17	6.4 5	2.6 2	3.8 3	2.6 2
	45～49才	100.0 88	4.5 4	30.7 27	5.7 5	6.8 6	51.1 45	-	-	-	1.1 1	-	-	2.3 2	8.0 7	34.1 30	28.4 25	18.2 16	6.8 6	-	2.3 2	-
	50～54才	100.0 115	8.7 10	32.2 37	2.6 3	3.5 4	52.2 60	-	-	-	0.9 1	-	1.7 2	6.1 7	0.9 1	24.3 28	36.5 42	17.4 20	7.8 9	2.6 3	1.7 2	0.9 1
	55～59才	100.0 96	16.7 16	39.6 38	4.2 4	7.3 7	32.3 31	-	-	-	-	-	-	5.2 5	11.5 11	27.1 26	33.3 32	13.5 13	5.2 5	4.2 4	-	-
	不 明	100.0 8	-	12.5 1	-	-	25.0 2	-	-	-	62.5 5	-	12.5 1	-	12.5 1	12.5 1	-	-	-	-	-	62.5 5
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	6.4 36	31.7 178	11.0 62	5.5 31	44.0 247	-	-	-	1.4 8	-	0.7 4	4.4 25	4.6 26	29.0 163	29.5 166	18.0 101	7.5 42	4.1 23	1.1 6	1.1 6
	抵抗感 なし	100.0 93	4.3 4	31.2 29	9.7 9	3.2 3	50.5 47	-	-	-	1.1 1	-	2.2 2	1.1 1	4.3 4	18.3 17	30.1 28	21.5 20	12.9 12	4.3 4	3.2 3	2.2 2
	不 明	100.0 9	11.1 1	33.3 3	-	-	33.3 3	-	-	-	22.2 2	-	-	11.1 1	-	44.4 4	-	22.2 2	-	11.1 1	11.1 1	-
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	4.5 4	40.4 36	12.4 11	6.7 6	36.0 32	-	-	-	-	-	2.2 2	5.6 5	2.2 2	20.2 18	31.5 28	18.0 16	10.1 9	5.6 5	4.5 4	-
	買春経験 なし	100.0 521	6.1 32	30.1 157	10.9 57	4.8 25	46.6 243	-	-	-	1.3 7	-	0.8 4	3.3 17	5.0 26	29.2 152	30.1 157	17.9 93	7.9 41	3.8 20	0.8 4	1.3 7
	不 明	100.0 54	9.3 5	31.5 17	5.6 3	5.6 3	40.7 22	-	-	-	7.4 4	-	-	9.3 5	3.7 2	18.5 10	24.1 13	22.2 12	11.1 6	3.7 2	3.7 2	3.7 2

\*\*\* 現代人の社会意識に関する調査 \*\*\*

		回収日					
		督 促	（調査員用書込）	督 促 1 回 目 （ハガキ）	督 促 2 回 目 （ハガキ）	督 促 3 回 目 （ハガキ）	
		な し					
TOTAL		100.0 664	61.0 405	19.3 128	17.3 115	2.4 16	
問32 年 齢	20 ~ 24 才	100.0 51	52.9 27	23.5 12	21.6 11	2.0 1	
	25 ~ 29 才	100.0 73	56.2 41	21.9 16	19.2 14	2.7 2	
	30 ~ 34 才	100.0 73	57.5 42	20.5 15	13.7 10	8.2 6	
	35 ~ 39 才	100.0 82	65.9 54	22.0 18	11.0 9	1.2 1	
	40 ~ 44 才	100.0 78	60.3 47	19.2 15	19.2 15	1.3 1	
	45 ~ 49 才	100.0 88	60.2 53	20.5 18	17.0 15	2.3 2	
	50 ~ 54 才	100.0 115	66.1 76	14.8 17	19.1 22	1.1 1	
	55 ~ 59 才	100.0 96	61.5 59	17.7 17	17.7 17	3.1 3	
	不 明	100.0 8	75.0 6	-	25.0 2	1.1 1	
援助交際態度	抵抗感 あり	100.0 562	59.6 335	19.4 109	18.3 103	2.7 15	
	抵抗感 なし	100.0 93	68.8 64	19.4 18	10.8 10	1.1 1	
	不 明	100.0 9	66.7 6	11.1 1	22.2 2	1.1 1	
買春経験	買春経験 あり	100.0 89	57.3 51	23.6 21	13.5 12	5.6 5	
	買春経験 なし	100.0 521	61.4 320	18.2 95	18.6 97	1.7 1	
	不 明	100.0 54	63.0 34	22.2 12	11.1 6	3.7 2	

## 財団法人 女性のためのアジア平和国民基金 (アジア女性基金)

アジア女性基金は、元「慰安婦」の方々への国民の償いを行うこと、女性の名誉と尊厳に関わる今日的な問題の解決に取り組むことを目的として、1995年7月発足いたしました。以来政府と国民の協力によって、具体的な事業を実施してまいりました。

そのひとつは、元「慰安婦」の方々への国民的な償い事業です。それは、1) 元「慰安婦」の方々の苦悩を受け止め心からの償いを示す事業、2) 国としての率直なお詫びと反省の表明3) 政府の資金による医療・福祉支援事業です。この償い事業については、一刻も早く日本の道義的責任を具体的に表したいという気持ちで進めています。

同時に、ドメスティック・バイオレンス（夫や恋人からの暴力）や人身売買など、女性に対する暴力や人権侵害によって苦しむ女性が、まだまだたくさんいます。アジア女性基金では、女性に対する暴力のない社会を目指して、今日的な女性問題の解決のために、以下のようなさまざまな事業に取り組んでいます。

- 女性に対する暴力のない社会を目指す啓発活動
- 女性が今日直面している問題についての国際会議の開催
- 女性の人権問題に様々な角度から取り組んでいる女性の団体への支援活動
- 女性に対する暴力、あるいは、女性に対する人権侵害についての原因と防止に関する 調査・研究
- 暴力や人権侵害の被害女性に対するメンタルケアの開発など

基金の事業や活動についてのお問い合わせ、出版物のリストなどを希望の方は、下記の住所にご連絡ください。なお、インターネットでも基金の活動はご覧になれます。

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-42 赤坂アネックスビル

TEL: 03-3583-9322/9346 FAX: 03-3583-9321/9347

Home Page: <http://www.awf.or.jp> e-mail: [dignity@awf.or.jp](mailto:dignity@awf.or.jp)